

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告 第100集

上越新幹線関係
埋蔵文化財発掘調査報告

第14集

熊野堂遺跡(2)

遺物編 1

1990

群馬県教育委員会

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

東日本旅客鉄道株式会社

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告 第100集

上越新幹線関係
埋蔵文化財発掘調査報告

第14集

熊野堂遺跡(2)

遺物編 1

1990

群馬県教育委員会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
東日本旅客鉄道株式会社



裝飾金具



和同開珎 (表)



和同開珎 (裏)



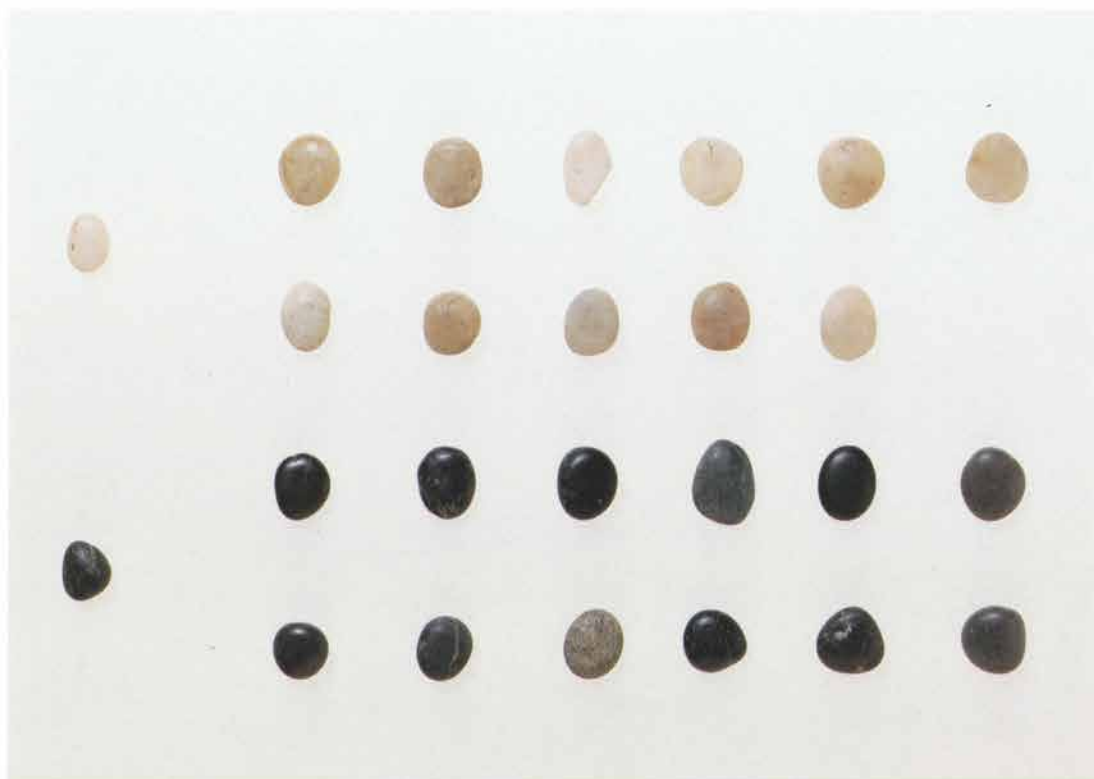
緑 釉 (表)



緑 釉 (裏)



三 彩



碁 石



蓋付土器



蓋付土器

例 言

- 1 本書は上越新幹線建設に伴い事前調査された群馬県高崎市大八木町、群馬県群馬町大字井出に所在する「熊野堂（くまのどう）遺跡」第II地区の発掘調査報告書である。体裁は、遺構編2冊、遺物編1冊の4冊からなり、本書はその第3分冊「遺物編」である。
- 2 第3分冊 遺物編は出土遺物について掲載した。
- 3 出土遺物の観察は、各調査担当の資料を元に飯塚卓二、女屋和志雄、三浦京子、関根慎二が担当した。
- 4 本書の編集は女屋和志雄、関根慎二が担当した。
- 5 遺物の保存処理は関 邦一、北爪健二、小林浩一が担当した。
- 6 写真撮影は遺構については各発掘担当者が、遺物については佐藤元彦による。

凡 例

- 1 本書での遺物番号は調査時の取り上げ番号とは一致せず、図版用に新たに付け直した。
- 2 出土遺物は、遺構ごとに掲載したが、埋没時の混入等もありその遺構に伴わないものもある。
- 3 遺物の縮尺は図版中にスケールを記載したが、その主なものは次のとおりである。
1/3 羽釜・甕・瓦等大形のもの 1/3 杯・椀・皿・石器・土器破片拓本等
1/2 鉄製品・手づくね土器・ミニチュア土器・石鏃等の小形の石器・玉製品
- 4 遺物観察表中の出土位置については発掘調査時の取り上げ番号であるが、遺構編の遺構図中には「・」のドットのみで番号を記載していない。
- 5 観察表中の「色調」は「標準土色調」農林省水産技術協議会事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修を使用した。
- 6 遺物実測図中に使用したスクリーントーンは下記の通りである。



すり面



赤色



内黒・黒色土器
石器の煤



緑釉



羽口・赤



灰釉



磁器・絵柄



羽口・黒

目 次

例 言

凡 例

目 次

第1章 調査に至る経過と遺跡の概要

第2章 検出された遺構

(以上遺構編)

第3章 出土した遺物

第1節 出土遺物の概要	1
第2節 竪穴住居址出土遺物	2
第3節 井戸出土遺物	263
第4節 溝出土遺物	266
第5節 土坑出土遺物	275
第6節 1号方形周溝墓出土遺物	284
第7節 水田出土遺物	292
第8節 竪穴状遺構出土遺物	294
第9節 遺構外出土遺物	296

插图目次

第 1 图	1 号、2 号、4 号住居址出土遗物	3
第 2 图	3 号住居址出土遗物	5
第 3 图	5 号、6 号、7 号住居址出土遗物	7
第 4 图	8 号、9 号住居址出土遗物	9
第 5 图	10 号住居址出土遗物	11
第 6 图	11 号、13 号、14 号、15 号住居址出土遗物	14
第 7 图	16 号、17 号、19 号、20 号住居址出土遗物	16
第 8 图	21 号、22 号、23 号住居址出土遗物	18
第 9 图	25 号、26 号、27 号住居址出土遗物	21
第 10 图	29 号、30 号、31 号、34 号住居址出土遗物	23
第 11 图	35 号、37 号、40 号、41 号住居址出土遗物	25
第 12 图	42 号住居址出土遗物	26
第 13 图	42 号住居址出土遗物	27
第 14 图	44 号、45 号、46 号、47 号、48 号住居址出土遗物	29
第 15 图	49 号住居址出土遗物	31
第 16 图	49 号住居址出土遗物	32
第 17 图	50 号、51 号、52 号、55 号、56 号住居址出土遗物	34
第 18 图	57 号住居址出土遗物	36
第 19 图	58 号、59 号、60 号、61 号住居址出土遗物	38
第 20 图	64 号住居址出土遗物	40
第 21 图	66 号、67 号、68 号住居址出土遗物	43
第 22 图	69 号、71 号住居址出土遗物	45
第 23 图	70 号住居址出土遗物	47
第 24 图	72 号、73 号住居址出土遗物	49
第 25 图	73 号住居址出土遗物	50
第 26 图	74 号、75 号、76 号住居址出土遗物	52
第 27 图	77 号、78 号、79 号住居址出土遗物	55
第 28 图	80 号、82 号住居址出土遗物	57
第 29 图	81 号、83 号住居址出土遗物	59
第 30 图	84 号住居址出土遗物	62
第 31 图	84 号、85 号、86 号住居址出土遗物	63
第 32 图	87 号、88 号、89 号、90 号住居址出土遗物	66
第 33 图	91 号、93 号、95 号、96 号住居址出土遗物	68
第 34 图	96 号、97 号、98 号住居址出土遗物	70
第 35 图	99 号、100 号、103 号住居址出土遗物	72
第 36 图	104 号、105 号、107 号、108 号住居址出土遗物	74
第 37 图	109 号住居址出土遗物	76
第 38 图	110 号、112 号住居址出土遗物	78
第 39 图	114 号住居址出土遗物	79
第 40 图	115 号、116 号住居址出土遗物	81
第 41 图	117 号、119 号住居址出土遗物	83
第 42 图	120 号、121 号、122 号、123 号、127 号、129 号住居址出土遗物	86
第 43 图	132 号、133 号、134 号住居址出土遗物	88
第 44 图	135 号、136 号、137 号住居址出土遗物	90
第 45 图	138 号住居址出土遗物	93
第 46 图	141 号、142 号、143 号住居址出土遗物	94
第 47 图	144 号住居址出土遗物	96
第 48 图	145 号住居址出土遗物	99
第 49 图	145 号、149 号住居址出土遗物	101
第 50 图	150 号、151 号、152 号住居址出土遗物	103
第 51 图	153 号住居址出土遗物	106
第 52 图	155 号住居址出土遗物	108
第 53 图	155 号、156 号、158 号住居址出土遗物	109
第 54 图	159 号住居址出土遗物	111
第 55 图	160 号、162 号、163 号住居址出土遗物	114
第 56 图	164 号住居址出土遗物	117

第 57 图	164号、166号住居址出土遗物	119
第 58 图	167号住居址出土遗物	120
第 59 图	168号、169号住居址出土遗物	122
第 60 图	170号住居址出土遗物	125
第 61 图	171号、172号住居址出土遗物	127
第 62 图	173号、174号、175号、176号、178号住居址出土遗物	129
第 63 图	181号住居址出土遗物	132
第 64 图	181号、182号、183号住居址出土遗物	134
第 65 图	184号住居址出土遗物	135
第 66 图	185号住居址出土遗物	137
第 67 图	185号住居址出土遗物	139
第 68 图	186号、188号住居址出土遗物	141
第 69 图	189号、192号、193号住居址出土遗物	142
第 70 图	194号住居址出土遗物	145
第 71 图	195号、197号、198号、200号、201号、202号、208号住居址出土遗物	147
第 72 图	209号、210号住居址出土遗物	150
第 73 图	213号、214号住居址出土遗物	151
第 74 图	215号、216号、218号住居址出土遗物	153
第 75 图	219号、220号住居址出土遗物	155
第 76 图	221号、222号、223号住居址出土遗物	157
第 77 图	224号、225号、228号住居址出土遗物	160
第 78 图	229号住居址出土遗物	162
第 79 图	229号住居址出土遗物	164
第 80 图	230号住居址出土遗物	166
第 81 图	231号住居址出土遗物	168
第 82 图	232号、234号住居址出土遗物	170
第 83 图	235号、237号住居址出土遗物	171
第 84 图	238号住居址出土遗物	173
第 85 图	238号、239号住居址出土遗物	174
第 86 图	240号住居址出土遗物	177
第 87 图	240号住居址出土遗物	178
第 88 图	241号住居址出土遗物	180
第 89 图	241号、242号住居址出土遗物	182
第 90 图	243号、245号住居址出土遗物	183
第 91 图	246号住居址出土遗物	185
第 92 图	246号、247号住居址出土遗物	186
第 93 图	248号住居址出土遗物	188
第 94 图	248号住居址出土遗物	189
第 95 图	248号住居址出土遗物	190
第 96 图	250号住居址出土遗物	192
第 97 图	251号、253号住居址出土遗物	194
第 98 图	254号住居址出土遗物	195
第 99 图	256号、257号住居址出土遗物	197
第100 图	258号、259号、261号住居址出土遗物	199
第101 图	3区1号住居址出土遗物	201
第102 图	3区2号住居址出土遗物	203
第103 图	3区3号、4号住居址出土遗物	204
第104 图	3区5号住居址出土遗物	206
第105 图	3区6号、7号、8号住居址出土遗物	208
第106 图	3区9号住居址出土遗物	209
第107 图	3区10号住居址出土遗物	211
第108 图	3区12号住居址出土遗物	213
第109 图	3区12号、15号住居址出土遗物	214
第110 图	4区2号、3号住居址出土遗物	216
第111 图	4区4号、5号住居址出土遗物	218
第112 图	4区6号、7号住居址出土遗物	220
第113 图	4区9号住居址出土遗物	222
第114 图	4区9号、10号住居址出土遗物	224
第115 图	4区11号住居址出土遗物	226

第116图	4区12号住居址出土遺物	228
第117图	4区13号、15号住居址出土遺物	230
第118图	4区14号住居址出土遺物	232
第119图	4区14号住居址出土遺物	235
第120图	4区14号住居址出土遺物	237
第121图	4区14号、16号、17号住居址出土遺物	239
第122图	4区18号住居址出土遺物	241
第123图	4区18号住居址出土遺物	242
第124图	4区19号住居址出土遺物	245
第125图	4区21号、22号住居址出土遺物	247
第126图	4区23号住居址出土遺物	249
第127图	4区24号、25号住居址出土遺物	250
第128图	4区26号住居址出土遺物	252
第129图	4区26号、27号住居址出土遺物	254
第130图	4区28号住居址出土遺物	256
第131图	4区31号、KT-1号住居址出土遺物	258
第132图	KT-2号、3号住居址出土遺物	260
第133图	KT-4号住居址出土遺物	262
第134图	3区1井戸出土遺物	263
第135图	4区2井戸出土遺物	265
第136图	2~6溝出土遺物	268
第137图	8号、16号、20号、28号、31号、33号、37号、40号溝出土遺物	271
第138图	3区2号、3号溝出土遺物	273
第139图	3区4号、28号、KT-2号、3号溝出土遺物	274
第140图	7号、13号、29号、36号、37号、70号土坑出土遺物	277
第141图	77号、79号、123号、149号、172号、175号、189号、199号、200号、201号、205号土坑出土遺物	280
第142图	206号、3区2号、4区7号、9号、KT-2号、4号、Pit1号土坑出土遺物	283
第143图	4区1号方形周溝墓出土遺物	285
第144图	4区1号方形周溝墓出土遺物	287
第145图	4区1号方形周溝墓出土遺物	289
第146图	4区1号方形周溝墓出土遺物	291
第147图	C水田、FA水田出土遺物	293
第148图	2号、3号、6号竖穴、J778周辺出土遺物	295
第149图	遺構外出土遺物	297
第150图	遺構外出土遺物	299
第151图	遺構外出土遺物	301
第152图	遺構外出土遺物	302
第153图	遺構外出土遺物	303
第154图	遺構外出土遺物	305
第155图	遺構外出土遺物	306
第156图	遺構外出土遺物	308
第157图	遺構外出土遺物	309

図 版 目 次

- 図版 1 3・4・6・8・9・10・11号住居址出土遺物
図版 2 11・16・21・23・25・26・27・29・34・35・37・41・42号住居址出土遺物
図版 3 42・44・45・46・48・49・51・52・55・56・57号住居址出土遺物
図版 4 57・58・64・66・67・69号住居址出土遺物
図版 5 69・70・71・72・73・75・76・78・79号住居址出土遺物
図版 6 79・80・81・82・84・85・87号住居址出土遺物
図版 7 90・93・95・97・98・100・103・105・107・110号住居址出土遺物
図版 8 110・112・115・116・129・132・134・135・138・142・145号住居址出土遺物
図版 9 145・149・153号住居址出土遺物
図版10 153・155・156・158・159・163・167号住居址出土遺物
図版11 166・167・168・170・173・174・181号住居址出土遺物
図版12 181・182・185・186・194・218・219号住居址出土遺物
図版13 219・222・225・229・230・238号住居址出土遺物
図版14 238・239・240・241・242号住居址出土遺物
図版15 242・243・246・248・250号住居址出土遺物
図版16 250・253・256・257・3区1・2・4区3号住居址出土遺物
図版17 3区5・6・10・4区2号住居址出土遺物
図版18 4区3・4・9号住居址出土遺物
図版19 4区10・11・13・14号住居址出土遺物
図版20 4区14号住居址出土遺物
図版21 4区14・15・16・18・19号住居址出土遺物
図版22 4区18・19・22・24・25・26号住居址出土遺物
図版23 4区26・27・28・31・KT-1・KT-2号住居址・2井戸出土遺物
図版24 2井戸・2溝・3溝・28溝・3区2・3・4溝・KT-2溝・7土坑・36土坑・70土坑・205土坑
KT-4土坑・4区1号方形周溝墓出土遺物
図版25 4区1号方形周溝墓・6竪穴・J778周辺出土遺物
図版26 4区1号方形周溝墓・C水田・遺構外・2・11・20・42・47・57・69・80・134号住居址出土遺物
図版27 96・114・117・144・164号住居址出土遺物
図版28 84・115・117・133・145・153・184・185・188・189号住居址出土遺物
図版29 137・151・155・171・186・194・229・232・238号住居址出土遺物
図版30 6・15・70・73・84・97・99・105・123・133・138・144・149・152・155・164・213・216・241号住居址出土遺物
図版31 149・155・163号住居址出土遺物
図版32 160・162・171・172・175号住居址出土遺物
図版33 47・81・89・117・145・164・168号住居址出土遺物
図版34 164・178・185・197・208・215・240・3区5・6・12・4区2・18・19・27号住居址・33溝
3区3溝・4区1号方形周溝墓・遺構外出土遺物
図版35 186・192・193・210号住居址出土遺物
図版36 194・218・220・224・228号住居址出土遺物
図版37 225・229号住居址出土遺物
図版38 171・232・238号住居址出土遺物
図版39 181・185・188・200・214・219・231・234・240・259・3区8号住居址・遺構外出土遺物
図版40 195・241・259・4区2・10・11・14・26・28号住居址・4区1号方形周溝墓・70・149・205土坑・遺構外出土遺物
図版41 240・3区1・2・3・5・7・9・10号住居址出土遺物
図版42 240・3区12・4区12・18号住居址出土遺物
図版43 3区12・4区6・23号住居址出土遺物
図版44 4区9・12・14号住居址出土遺物
図版45 4区11・15・16・19・22・23・25・26・27・28号住居址出土遺物
図版46 115・172・218・3区5・4区5・19・25号住居址・4区1号方形周溝墓・13・79土坑3・5・16・20・31
3区2・3溝出土遺物
図版47 KT-3・4・201・213・238・250・3区5・9・4区7・10・19号住居址・3溝・KT-3溝出土遺物
図版48 214・215・222・230・241・245・246・254号住居址・遺構外出土遺物
図版49 遺構外出土遺物
図版50 遺構外出土遺物

3章 出土した遺物

第1節 出土遺物の概要

熊野堂遺跡からの出土遺物は、古くは、縄文時代草創期から始まり、後期にかけて断続的に土器や石器が出土している。弥生・古墳・奈良・平安時代には、その集落の変遷に伴い該期の遺物が遺構から多量に出土している。また中近世に至っては、確かな遺構が少ないためか、僅かの量の陶磁器がもたらされその残片が出土しているにとどまる。

1区や3区の遺構重複が著しい範囲では、遺構自身の遺存状態が悪いのと同時に、遺物が最も少ないか、混在した状態にあった。従って、僅少な特殊遺物を除いて、遺構伴出遺物の混乱を避けるため、各遺構に帰属させることはせず遺構出土遺物の報告対象からも除外し、遺構外遺物とした。遺構編本文の中で、報告遺物なしとしたものが、これに相当する。

各時代の出土遺物

本遺跡で最古の遺物は、県内でも出土例の少ない縄文時代草創期の多縄文文系土器である。早期では燃糸文・条痕文系土器が出土している。その他、前期諸磯式土器、中期加曾利E式土器、後期加曾利B式土器が出土している。縄文時代の石器はこれらに伴うものである。

弥生時代では、竜見町式土器、樽式土器が住居などの遺構に伴い出土している。石器では、磨製石鏃が出土している。磨製石鏃の製作工程がある程度復元できる未製品などが遺構に伴い出土し、磨製石鏃の製作が行われていたことが予想される。

古墳時代は、短い期間の断絶は考えられるが、ほぼ全期間を通して集落が存続していたため出土している土器には型式の連続性が認められる。この時期で特徴的なものは、古墳時代前期の口縁がS字状になる石田川式土器とは別に、古墳時代初頭には、石田川式土器を含まず東海系・南関東系の壺形土器や単口縁の甕形土器が遺構から出土している。器形の変った土器として蓋付きの小型土器があげられる。また、方形周溝墓からは高杯の出土が多くみられた。土器以外では、琴柱状石製品や石製模造品などがみられるほか土製模造品が遺構に伴って出土している。

奈良時代では、完形品ではないが奈良三彩が出土している。また和同開宝も出土しており、その伝播経路等考察することは多い。またこの時期から鉄製品の出土が多くなっている。

平安時代では、緑釉陶器、灰釉陶器が在地の土器と共伴して出土する。緑釉陶器は焼成、胎土、釉の違いなどから複数の産地が考えられる。銅製飾り金具が住居から出土しているが、これは仏具などの装飾に使われたもので、瓦の出土もあることから近くに寺院・官衙等の存在も考えられる。それ以外には鉄製品（鎌、刀子、鏃、鋤先など）が出土している。

中世・近世では、中国産の白磁、染め付け等の陶磁器が出土しているが、その出土量は少なく遺跡の性格をとらえるにいったていない。

第2節 竪穴住居址出土遺物

1号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁部 $\frac{3}{4}$	1	(21.8) (7.0)	多量の白～黒色、角閃石の細粗砂粒を含む。灰黄褐色。	鏝は小さく、上面は下向きに貼付される。ロクロ整形。	P5・32・39・40・16・床落
緑釉皿	極小破片	2	—	木目細かい土。	貫入が認められる。	P43

2号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石鉄	1	11.4	6.1	4.0	619	粗粒安山岩	長方体。両端に敲打痕。錆化が激しい。左右対象形になる。	S1 写図26 9
	2	(8.7)	3.1	0.6	13.9	鉄		

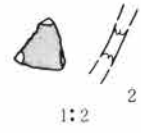
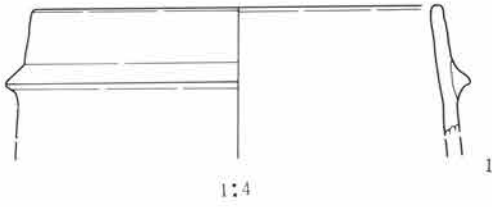
4号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
皿	完形	1	9.2 1.8 5.1	多量の白～黒色の細、粗砂粒褐色の軟質な粗砂粒、細礫を含む。酸化焰。橙色。	器内の厚さは底～口唇部まで均一。底部は右回転糸切り未調整。	P15 写図1
椀 須恵器	口縁部 $\frac{3}{4}$ と高台部 $\frac{1}{4}$ 欠損	2	(10.5) 4.7 5.9	黒色の軟質な粗砂粒、細礫が多く、白色細、粗砂粒を含む還元焰。軟質。灰黄色。	体部下位はやや丸みをもち、口縁部は直線的、底部は右回転糸切り後、周辺部は高台貼付時のナデ、高台は丁寧に付けられている。	P4 写図1
円筒埴輪	基部破片	3	— — 18.4	砂粒、 ϕ 1～10mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良。橙色	タガは比較的高くしっかりしている。貼り付け後ナデる。外面はハケ整形。内面は縦位の指頭による整形。	P18・19・カマド掘方

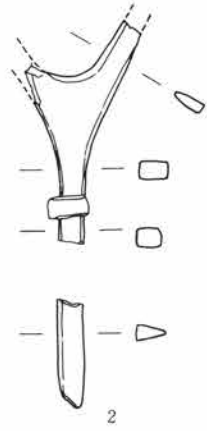
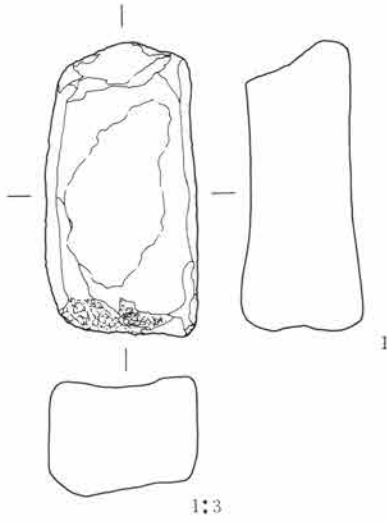
3号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	完形	1	12.8 4.7 7.2	白～灰色の細、粗砂粒、細礫を含む。焼成普通。にぶい褐色。	平底、体部は直線的に開くが口縁部はやや内湾気味。口縁部内外面横ナデ、内面底部はヘラの当たった痕跡がある。外面底部は不定方向、体部は左横方向へのヘラケズリ。体部上位は無調整の部分がある。	P61 写図1
杯 須恵器	完形	2	14.2 3.5 6.2	白～灰色の細、粗砂粒、細礫少量の3～5mm程度の礫を含む。還元焰。灰白色。	体部立ち上りはやや丸みをもち、体部は直線的に大きく開き、外面は螺旋状にロクロ目がある。底部は右回転糸切り未調整。	写図1

1住

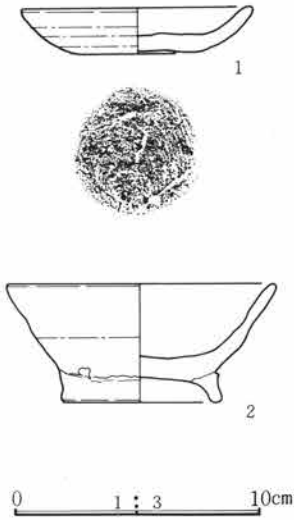


2住

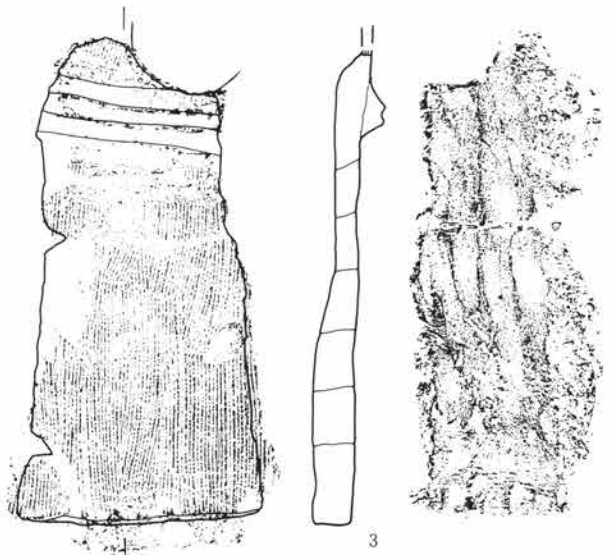


0 1:2 5cm

4住



0 1:3 10cm

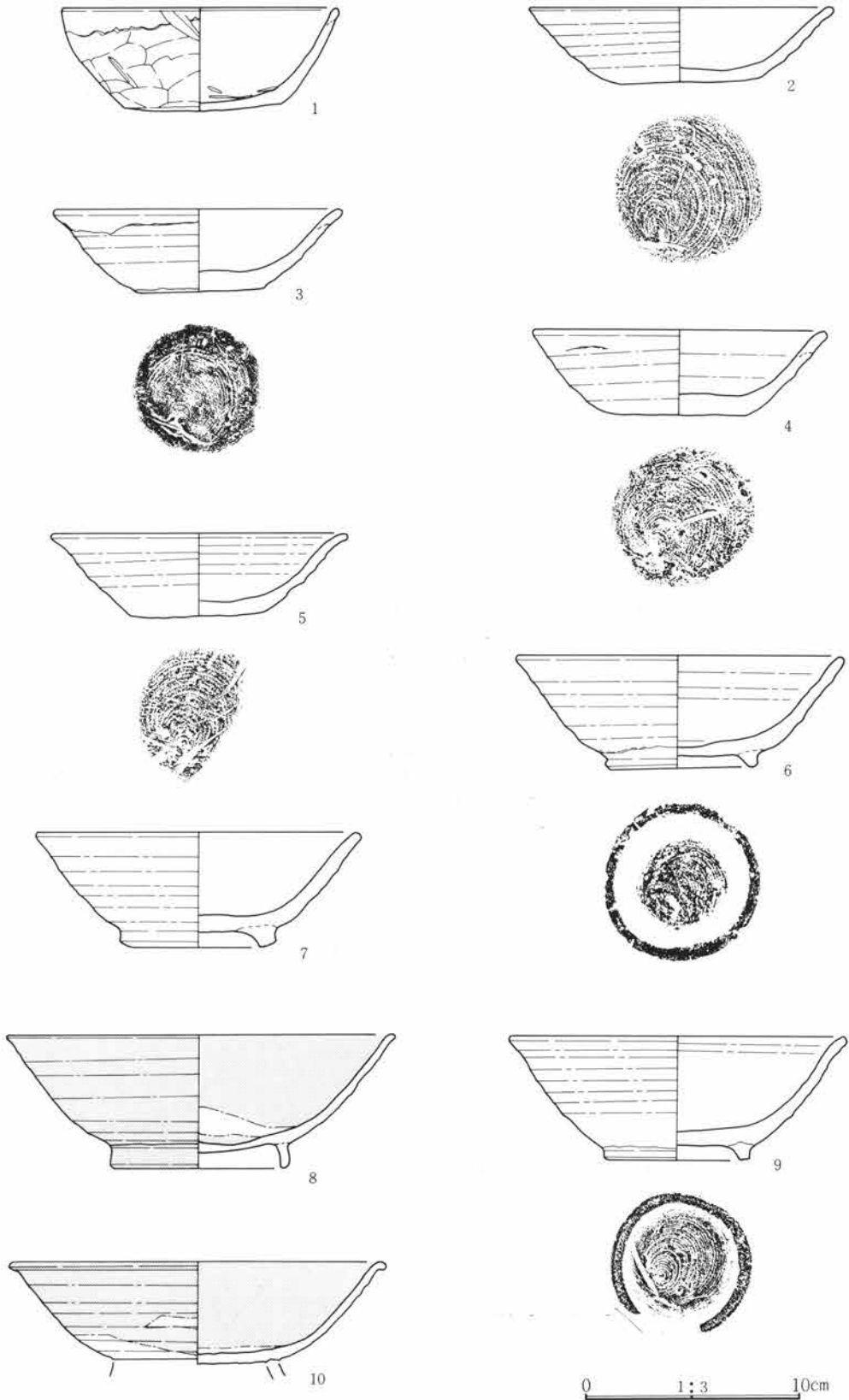


0 1:4 10cm

第1図 1号、2号、4号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考(出土位置)
杯 須恵器	口縁部～ 底部 $\frac{1}{2}$	3	13.3 3.8 5.9	白色細、粗砂粒、僅かな赤褐色細砂粒を含む。還元焰(やや酸化気味)。口縁部一灰色、底～体部一明黄褐色。	体部は僅かに丸みをもって大きく開き、口縁部はやや外反する。底部は右回転糸切り未調整。	P58・91・93・98・92
杯 須恵器	口縁部～ 体部 $\frac{1}{3}$ 欠損	4	13.7 3.9 5.8	白色細砂粒、少量の黒色鉱物粒を含む。還元焰。明褐灰色。	体部の立ち上りはやや丸みをもち、体部は直線的に開く。底部は右回転糸切り未調整。	P65・86 写真1
杯 須恵器	口縁部～ 底部 $\frac{1}{2}$	5	13.6 3.8 6.0	白色細、粗砂粒、細礫を含む還元焰。灰色	体部はほぼ直線的に開き、上位にロクロ目が強く残る。口縁部はやや外反する。底部は右回転糸切り未調整。	P56・60 写真1
碗 須恵器	口縁部一 部欠損	6	15.0 5.2 6.5	白色細、粗砂粒、細礫。還元焰。黄灰色。	体部は立ち上りに丸みをもち直線的に開くが、体部のロクロ目が強い。底部は右回転糸切り後、周辺部は高台貼付時のナデ。	P66 写真1
碗 須恵器	口縁部～ 高台 $\frac{1}{2}$	7	(14.8) 5.3 7.4	白色細、粗砂粒、2～5mmの凝灰岩の岩片のような白色礫を含む。還元焰。やや軟質。浅黄色。	体部は僅かにふくらみをもち外面体部は重ね焼痕あり。底部は右回転糸切り後、周辺部は高台貼付時のナデ。	P52・63・71・72・103
碗 灰釉陶器	口縁部～ 体部 $\frac{1}{2}$ 欠損	8	(17.8) 6.2 7.8	微量の黒色粒を含む。還元焰堅緻。灰白色。釉の発色は灰オリーブ色でつやがある。	口唇部はやや外反、高台外面の稜は弱く丸みをもつ。体部内外面とも丁寧にナデられている。底部は回転ナデ。釉は内外面体部全面、内面底部中央、刷毛塗りにより厚く施される。	P62 写真1
碗 須恵器	口縁部～ 高台部 $\frac{1}{2}$	9	15.5 5.7 6.8	白色細砂粒、僅かな灰～黒色の細礫。還元焰。灰白色。	体部はやや丸みをもって開き口縁部は外反する。底部は右回転糸切り後、周辺部は高台貼付時のナデ。高台は低く、角高台、比較的形は整い、丁寧に付けられている。	P82・94
碗 灰釉陶器	口縁部～ 底部 $\frac{1}{2}$ 高台部欠損	10	17.2 (4.7) —	微量の黒色粒を含む。還元焰堅緻。胎土は緻密。釉の発色は白色～灰オリーブ色で、あまりつやがない。灰白色。	口唇部は引き出されるように外反する。体部外面は丁寧にヘラケズリ。内面のナデは中心部まで丁寧に及ぶ。底部回転ナデ。釉は外面体部は下位まで、内面体部は全面に刷毛塗り。	P25・81



第2図 3号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

5号住居址遺物観察表

器 種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備 考 (出土位置)
杯	¼残存	1	(11.7) 4.1 (6.5)	細かい砂粒を含む。胎土やや緻密。還元焰焼成。内面にスス付着。灰黄色。	体部は若干内湾しながら開くロクロ整形。ロクロ目弱い。底部右回転糸切り。	墨書読めず。 P37

6号住居址遺物観察表

器 種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備 考 (出土位置)
甕 須恵器	口縁部～ 底部際まで½	1	(18.6) (32.1) —	白～黒色細砂粒を含む。還元灰白色。	口縁部は中央に弱い沈線が巡り、上下に波状文が施される外面胴部は、細かい並行叩き内面胴部は、青海波の当て目が残る。	P29・34・35・40 41・42・43・45
甕 土師器	口縁部小片	2	(21.0) — —	白～灰色細、粗砂粒、細礫、雲母を多く含む。焼成普通。にぶい橙色。	胴部は直線的で、くびれずに口縁部が外反する。口縁部横ナデ、外面胴部は横方向へのヘラケズリ。内面は横方向ヘラナデ。	P33
杯 土師器	口縁部～ 底部¾	3	12.4 4.2 ●	白～黒色の細、粗砂粒、少量の雲母を含む。焼成普通。橙色。	丸底、稜は部分的に大きいが全体的には弱い。外面底部は中央は一方、周辺部は右方向へのヘラケズリ。	P46・47 写図1
杯 土師器	口縁部～ 底部¾	4	11.0 3.8 ●	白～黒色、赤褐色細、粗砂粒雲母を少量含む、素地が密である。焼成普通。橙色。	丸底、稜は強く、シャープである。口縁部横ナデ、外面底部は右方向へのヘラケズリ。	P36 写図1

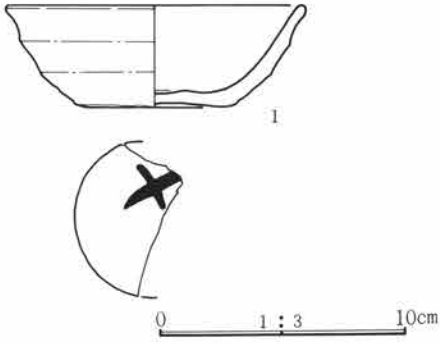
6号住居址遺物観察表

器 種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材 質	特 徴	出土位置・写真図
砥 石	5	6.7	3.5	2.5	99	砥沢石	五面を研ぎ面としている。紐穴が貫通する。	P44 写図30

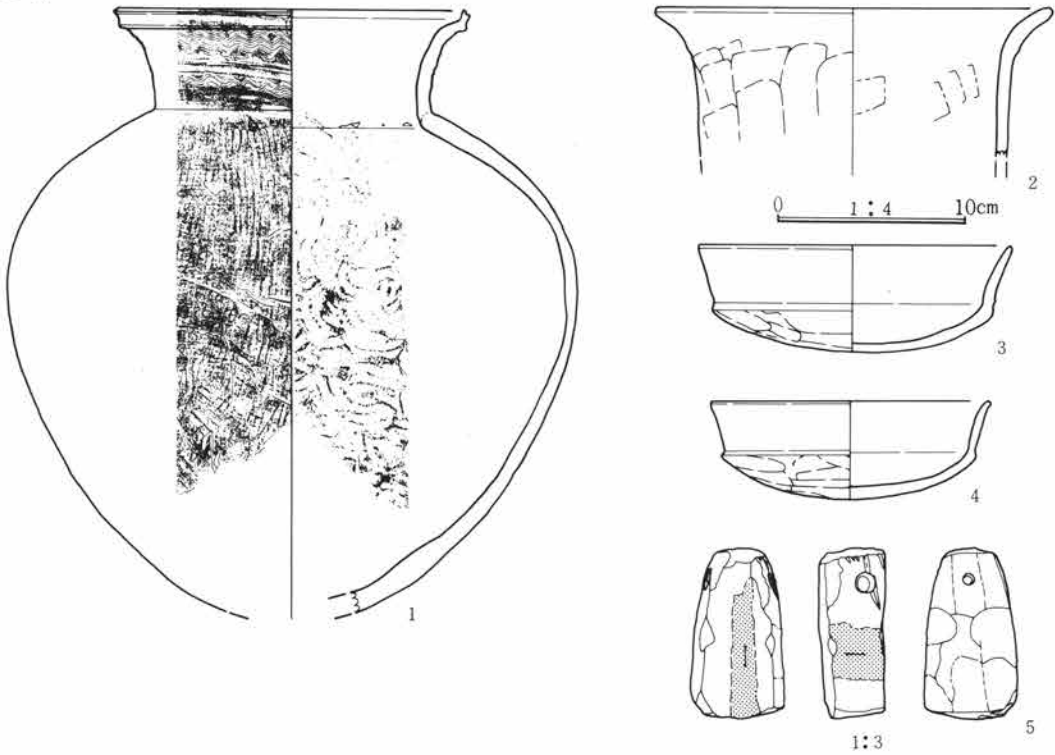
7号住居址遺物観察表

器 種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備 考 (出土位置)
羽 釜	口縁部～ 胴部下位 ¾	1	(24.5) (13.9) —	多量の白～黒色、赤褐色の細、粗砂粒を含む。酸化焰。明赤褐色。	胴部は丸みを持ち、短柄の羽釜、髷は上面は稜をなすが、下は丸みをもつ。口縁部外面横ナデ、外面胴部不明瞭なナデ、内面は横方向ナデ。	P1・2

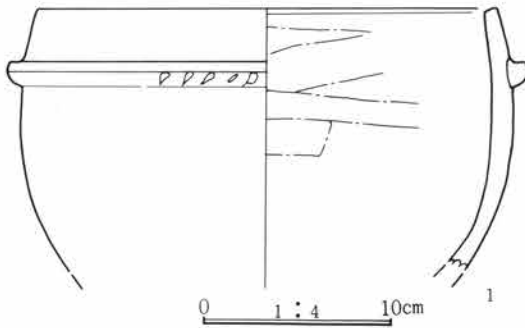
5住



6住



7住



第3図 5号、6号、7号住居址出土遺物

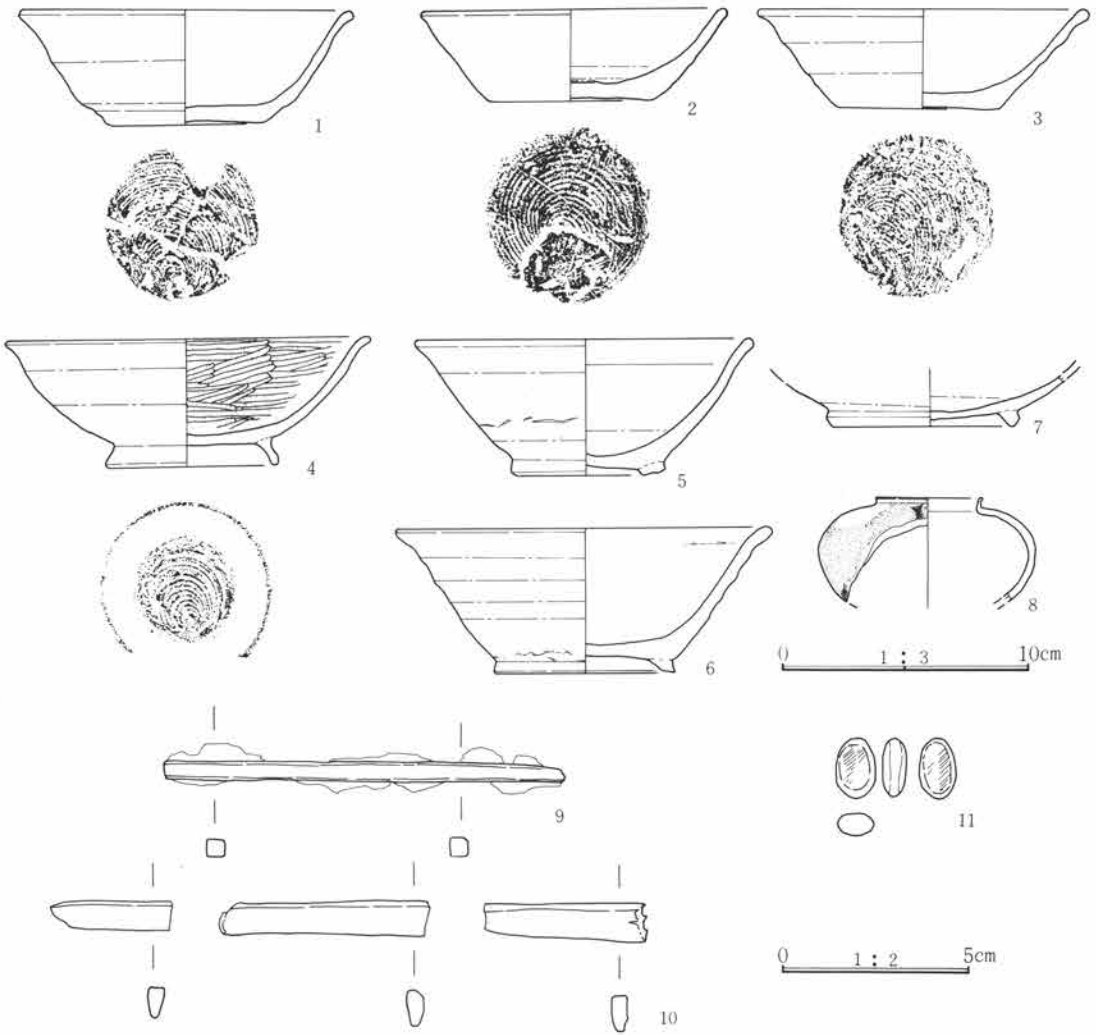
第3章 出土した遺物

8・9号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 須恵器	口縁部～ 底部 $\frac{1}{2}$	1	13.0 4.5 6.2	白色細砂粒、褐色粗砂粒。還元焰。酸化気味。にぶい褐色	口縁部は外反する。底部は右回転糸切り未調整。	P84・99
杯 須恵器	口縁部～ 体部 $\frac{1}{2}$ 欠損	2	(12.2) 3.6 6.7	白色細砂粒、黒色鈹物粒。還元。褐灰色。	体部～口縁部まで直線的に開き、器内は厚手。底部は右回転糸切り未調整、内面底部は中心から右回転による螺旋状のナデ。	P103 写図1
杯 須恵器	口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損	3	12.9 3.9 6.4	白～灰色細、粗砂粒。還元。灰色。	体部は直線的に開くが、外面はロクロ目が強い。器内は比較的薄手。口縁部は外反する。底部は右回転糸切り未調整。内面底部は平坦で、調整痕は不明瞭。	P33・63・カマド 床直
椀 黒色土器	口縁部～ 体部 $\frac{1}{2}$ 欠損	4	14.4 5.0 6.6	白～灰色細砂粒を多く含む。酸化焰。浅黄橙色。	体部は丸みをもって開き、口縁部は外反する。底部は右回転糸切り、周辺部は高台貼付時の回転ナデ。内面体部は横方向へラミガキ、内面黒色処理。	P9・35・81・235・252
椀 須恵器	口縁部一 部欠損	5	13.4 5.4 6.1	白～灰色、雲母細砂粒を含む還元焰。やや軟質。明褐灰色	体部はやや丸みをもち、口縁部は若干外反する。底部は右回転糸切り。高台は太く断面角形。内底面は螺旋状のナデ	P46・47・48・49・70・ 72・302 写図1
椀 須恵器	口縁部～ 高台部 $\frac{1}{2}$	6	(14.7) 5.7 7.2	白～灰色細、粗砂粒を含む。燻し焼成。黒色、黄灰色。	体部はほぼ直線的、口縁部は僅かに外反する。底部は右回転糸切り、高台のつけ方は雑。外面体部はロクロ目が残る。	P349
皿 灰釉陶器	口縁部～ 体部大半 を欠損	7	— (2.0) 7.0	少量の白色細砂粒を含む。還元。灰白色。釉は白色、所々オリーブ灰色の発色。灰黄色。	高台は外面の稜は強いが、低く、厚手。外面底部は回転ナデ、内面底部は回転ナデのあと中心からナデ。	P276 写図1
小壺 奈良三彩	口縁～胴 部 $\frac{1}{2}$ 残存	8	(4.2) (3.6) —	混入物なく非常に胎土は緻密である。釉は一部欠落している。	ロクロ整形。	掘方

8・9号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
釘	9	10.7	5.5	5.0	15.2	鉄	両端を欠損。断面四角形になる。	掘方10
刀子	10	(13.2)	0.9	0.5	19.1	鉄	錆化が激しい。刃部は消耗が多い。	掘方10
碁石	11	1.6	1.1	0.6	1.6	石英	白石。やや楕円。	106



第4図 8号、9号住居址出土遺物



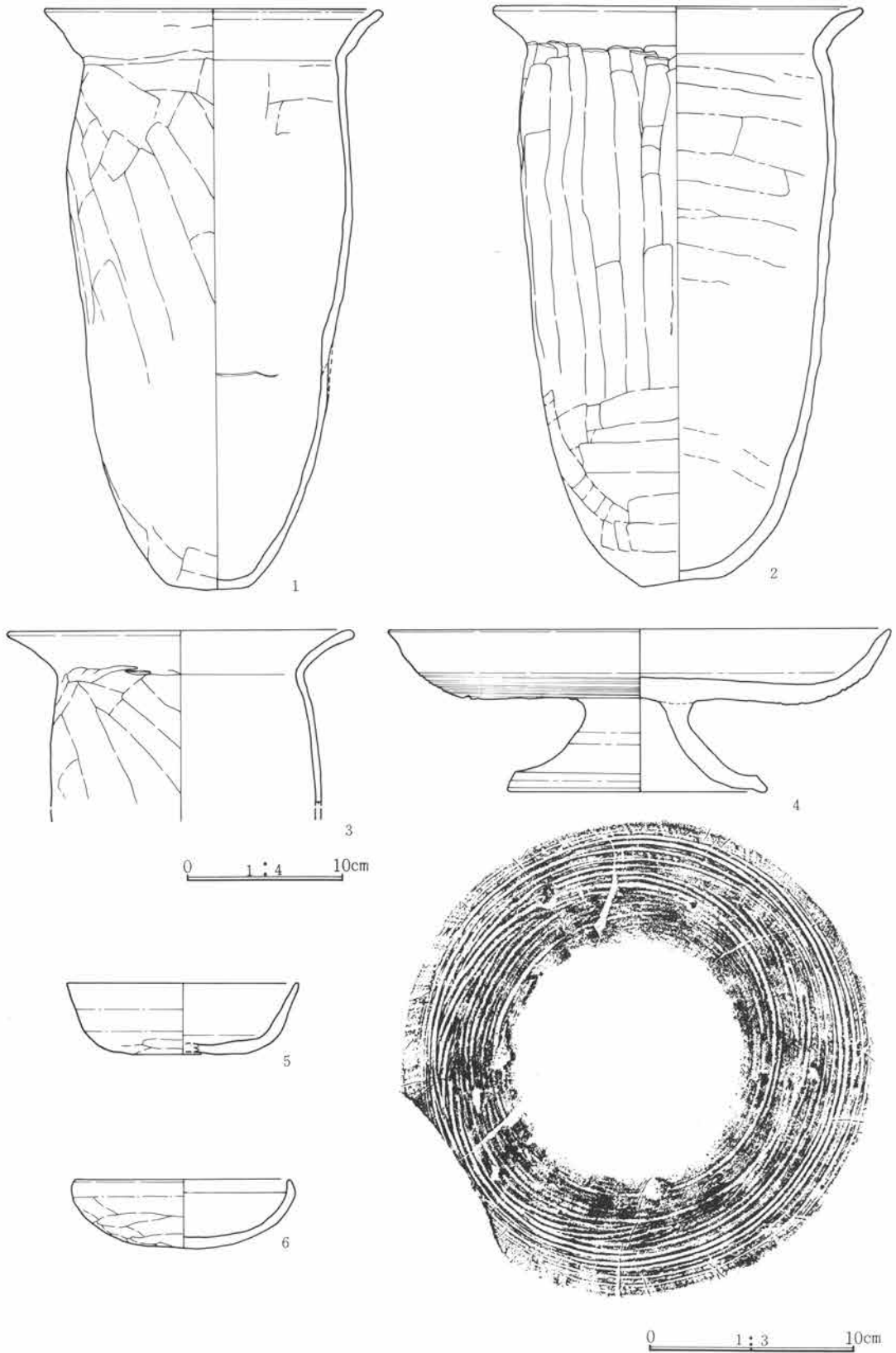
第3章 出土した遺物

10号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	ほぼ完形	1	21.6 37.3 5.3	φ0.5mm以下の白色、黒色砂粒を含む。橙色。	胴はほぼ直線的に立ち上る。口縁は大きく外反する。底部は小さく、直立しない。口縁部に横ナデ、胴部には斜位のヘラケズリが外面に施される。内面はヘラによるナデ、輪積痕がのこる。	P33・35・36・38 写真1
甕 土師器	ほぼ完形	2	23.5 37.0 5.2	φ1～3mmの石英、小礫を多く含む。赤褐色。	胴はほぼ直線的に立ち上る。口縁は大きく外反する。底部はやや斜に作られているが自立する。外面は、口縁部横ナデ、胴部上半で縦、下半で横方向にヘラケズリが施される。内面は、ヘラによるナデが横位に施される。	P44 写真1
甕 土師器	胴部上半 口縁部% 残存	3	22.4 (11.2) —	細かい砂粒を少量含み緻密である。にぶい橙色。	胴はほぼ直線的に立ち上り、口縁は大きく外反する。外面は口縁部横ナデ、胴部斜位のヘラケズリ、内面は口縁横ナデ、胴部ミガキが施される。	P39・43
脚付盤 須恵器	口縁部脚 部とも% 欠損	4	24.1 7.7 (12.3)	φ1～2mmの石英、小礫を含む。還元焰。灰白色。	体部は丸みをもって開く。口唇部はやや外側を向く。脚部は短く急角度で外側に開く。脚端部は段を持つ。右回転によるヘラケズリが螺旋上に施され、カキメ痕がのこる。	P37・38・87 写真1
杯 須恵器	口縁部% 底部% 残存	5	(11.2) 3.4 ●	φ1mmの白、黒色の細砂粒を含む。還元焰。自然釉が内面外面上部にかかる。うすい緑色をする。オリープ灰色。	体部の立ち上りはあまり開かない。内外面とも螺旋状にロクロ目がある。底部は切り離した後、ヘラケズリ調整をする。	P28・フク土
杯 土師器	完形	6	10.2 3.25 ●	白、黒色の細砂粒を含む。明赤褐色。	体部は内湾しながら立ち上る。口唇部に稜を持つ。内面は横ナデ、指頭痕を残す。外面ヘラケズリ調整。	P41・42・掘方 写真1

11号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	完形	1	13.8 3.6 ●	角閃石、白色細・粗砂粒を含む。焼成普通。橙色。	丸底、体部立ち上りは丸みをもち、口縁部は僅かに開き気味。口縁部内外面、内面体部は横ナデ、底部ナデ。外面底部中央不定方向、周辺部横方向のヘラケズリ。口縁部下に1cm程の無調整帯をもつ。	外面底部周辺部に墨書あり、「奉」。P55・60・74・11 写真1



第5図 10号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	口縁部一部欠損	2	13.8 3.4 ●	角閃石、白色細・粗砂粒を含む。焼成普通。橙色。	丸底、体部立ち上りは丸みをもち、口縁部上位は直立気味。口縁部内外面、内面体部は横ナデ、底部はナデ。外面底～体部左回りのヘラケズリ。口縁部下に1cm程の無調整帯を残す。	P44・45・48 写図2
杯 土師器	口縁部～底部迄	3	14.7 (4.0) ●	角閃石、白～灰色細・粗砂粒を含む。焼成普通。橙色。	丸底、体部立ち上りは丸みをもち、口縁部は直立気味。口縁部内外面、内面体部は横ナデ、底部ナデ。外面底部一方向、体部横方向ヘラケズリ。	P56・60・61・64 写図2
杯 須恵器	口縁部一部欠損	4	12.5 3.6 ●	白色細・粗砂粒を含み、素地はやや粗い。還元。灰白色。内面灰色。	底、体部の器肉はやや厚手で口唇部に向かって尖るように薄くなる。底部中央部はナデ、周辺部～体部立ち上りは回転ヘラケズリ。内面体部変換点にはヘラの当たった条痕が巡る。	P57・59・63・65・71 写図2
杯 須恵器	口縁一部欠損	5	14.2 3.4 9.4	砂粒、黒色粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。灰白色。	体部は直線的に開く。ロクロ整形でロクロ目は弱い。底部は回転ヘラ切り。	P12・21・46 写図2

11号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磨石	6	10.6	7.7	4.9	800	粗粒安山岩	両端欠損。表面敲打痕。	1 写図26

13号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
皿? 緑釉陶器	底部破片	1	— —	混入物なく胎土は緻密である。焼成良。釉は濃緑色。	ロクロ整形。	P74

14号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
土 釜	口縁部～胴部下位迄	1	(18.6) (19.2) —	多量の白～黒色細・粗砂粒、少量の赤褐色細礫を含む。酸化焙。橙色。	頸部はあまりしまらず、口縁部は直線的にやや開く。頸部は指押えの痕跡で凸凹している。口唇部はやや丸みはあるが平坦面をもつ。口縁部内外面、内面胴部横方向のナデ。外面胴部下方向へのヘラケズリ、ヘラナデ。	P22

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
土釜	口縁部～ 胴部上位 迄	2	(21.7) (10.2) —	多量の灰～黒色の細砂粒、少量の赤褐色粗砂粒を含む。酸化焰。明黄褐色。	頸部はあまりしまらずに、口縁部は直立し、口唇部は外反し、端部は丸い。胴部はゆがみがある。口縁部内外面横ナデ、外面胴部は下方向へのヘラケズリ、ヘラナデ。内面胴部横方向ヘラナデ。	P16・18・23

15号住居址遺物観察表

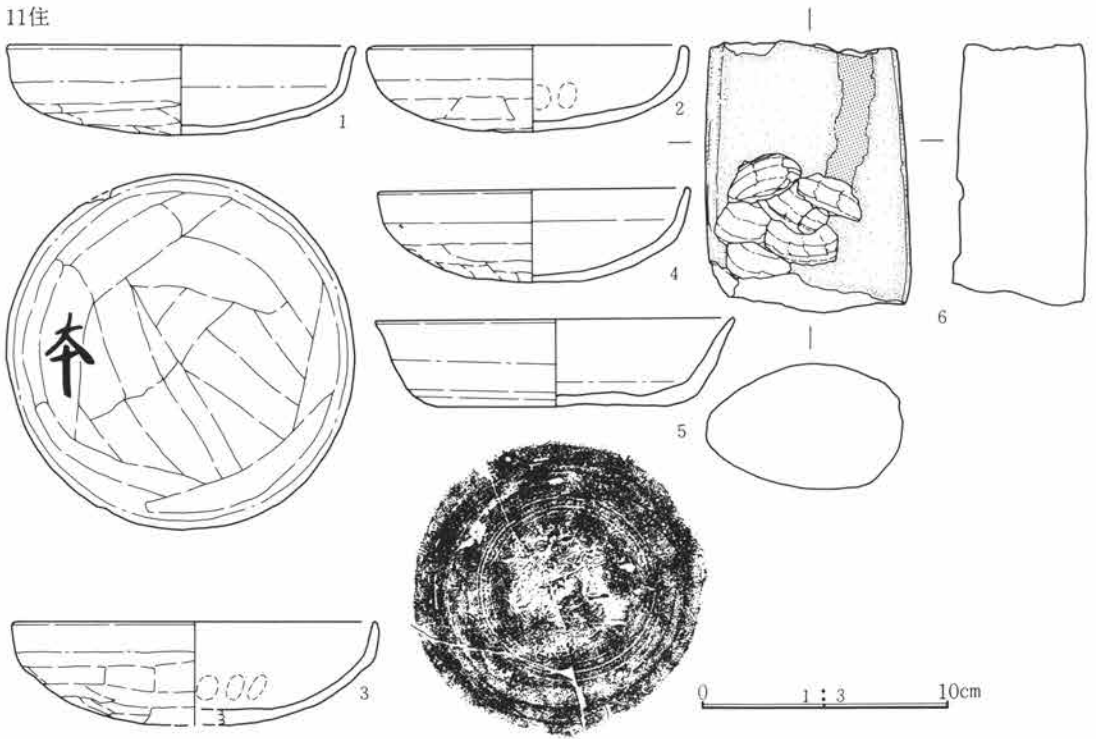
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁部～ 胴部上位	1	(25.0) (10.7) —	多量の白～灰色、石英の細、粗砂粒。灰黄色。	口縁部は直立し、上位で外側に肥厚して開く。口唇部は水平な平坦面を持つ。鐙は細めの断面三角形。ロクロ整形。	P81

15号住居址遺物観察表

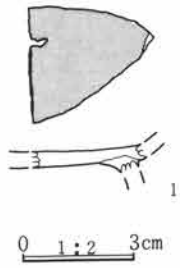
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	2	9.0	2.0	1.4	40	砥沢石	四面を研ぎ面としている。先端欠損。紐穴。	30 写図30



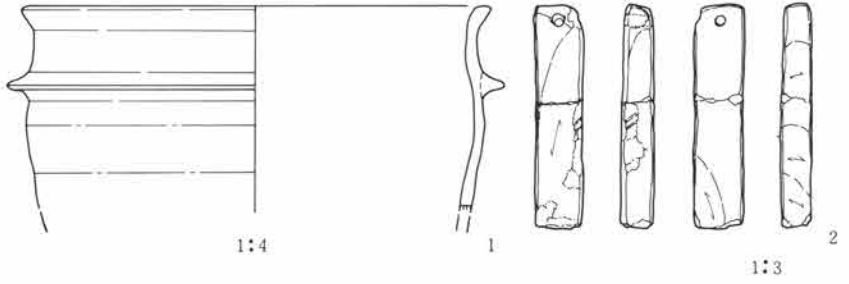
11住



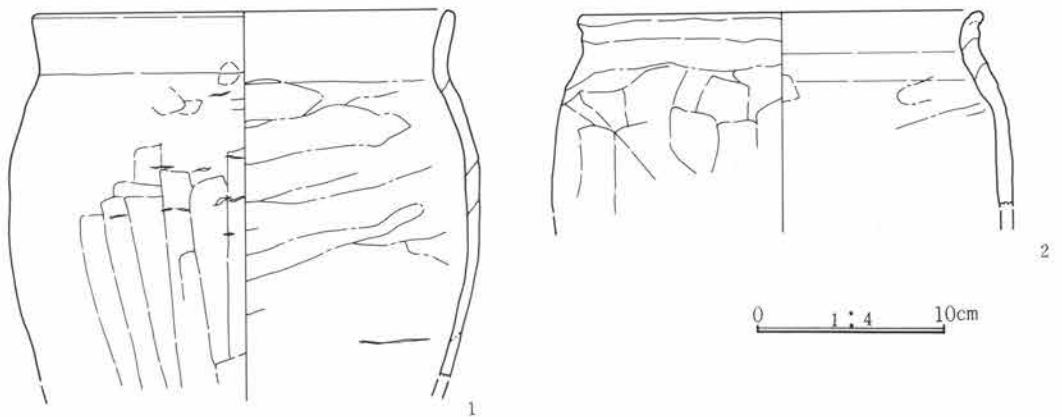
13住



15住



14住



第6図 11号、13号、14号、15号住居址出土遺物

16号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部～ 胴部上位 迄	1	(19.4) (8.5) —	少量の白色細砂粒、僅かな角閃石、石英、長石細砂粒を含む。焼成普通。にぶい橙色。	口縁部は内傾してゆるやかにくびれ、外反する。「コ」の字の崩れた状態、器内は比較的薄手。口縁部内外面横ナデ、内面胴部はヘラナデ。外面胴部上位左横方向のヘラケズリ。	P73・99・129・ 17住3
杯 須恵器	完形	2	12.7 3.9 5.7	石英、長石、白～灰色細、粗砂粒。還元。やや軟質。淡黄色。	底部はやや上げ底、体部は丸みをもって大きく開き、口縁部は外反する。底部は右回転糸切り未調整。	P94 写図2
杯 須恵器	口縁部～ 底部迄	3	(13.1) 3.6 6.1	白～灰色細、粗砂粒を含む。還元。灰白色。	体部はやや丸みをもち、口縁部は外反する。口唇部はやや肥厚し丸みをもつ。内面体部の立ち上りはゆるやか。底部は右回転糸切り未調整。	P64
杯 須恵器	口縁部迄 欠損	4	(13.5) 3.6 6.6	白～灰色細、粗砂粒、細礫。還元。灰オリーブ色。	体部は直線的に開き、口縁部は外反する。外面体部はクロ目強い。底部は右回転糸切り未調整。	P119
碗 須恵器	口縁部～ 底部迄 高台部欠	5	(13.7) 4.1 —	白～灰色細、粗砂粒を含む。還元。灰白色。	体部は僅かに丸みをもって開き、口唇部は外反する。底部は右回転糸切り後雑なナデ。	P59・60・61

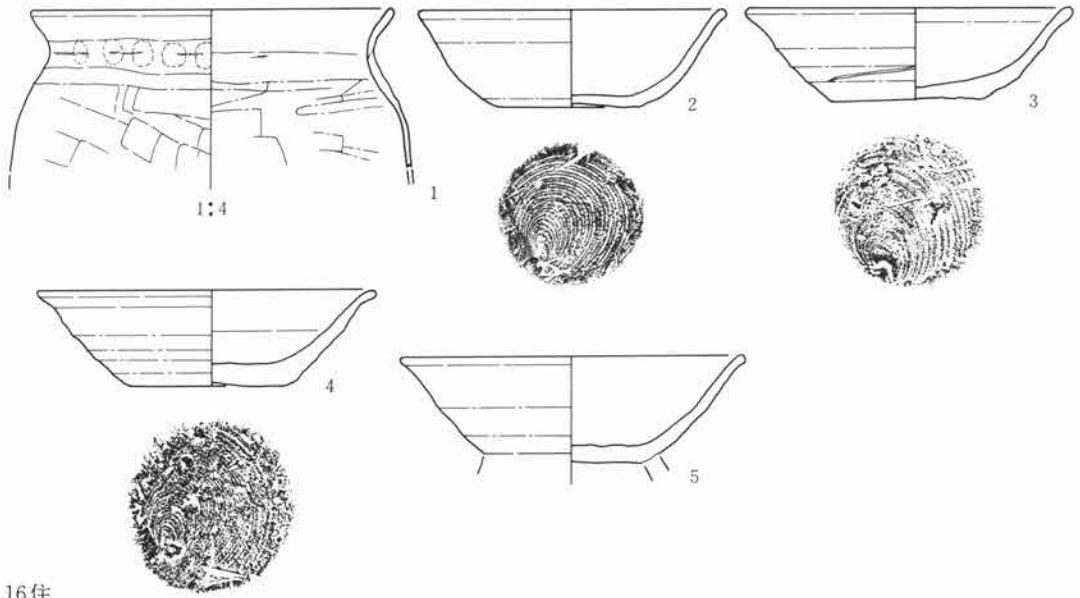
17号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 須恵器	口縁部～ 底部迄	1	(12.6) 4.3 5.8	角閃石・白～黒色細、粗砂粒を含む。酸化焙気味。淡黄色	体部立ち上りはやや丸みをもち、口縁部は外反する。器内は厚手。底部は右回転糸切り未調整。	外面体部正位で墨書あり。「㊦」 P28・30・31
杯 須恵器	口縁部～ 底部迄	2	(12.7) 3.8 4.0	白～灰色細、粗砂粒を含む。還元。灰色。	体部はやや丸みをもち、口縁部は外反する。底部は右回転糸切り未調整。	P23
杯 須恵器	口縁部～ 底部迄	3	(14.0) 3.9 (7.0)	僅かな白色細砂粒、夾雑物は少ない。還元。灰白色。	体部は直線的に大きく開き、口縁部はやや外反する。底部は回転糸切り未調整。	外面体部墨書あり。 掘方

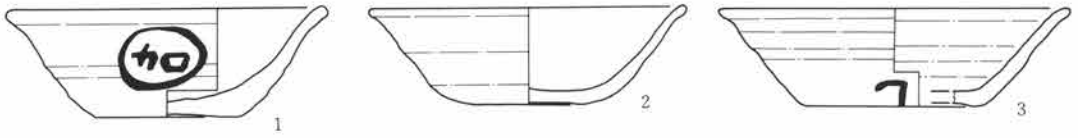
19号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
釘	1	6.1	0.7	0.7	13.5	鉄	先端が欠損。断面は四角形を呈する。	22

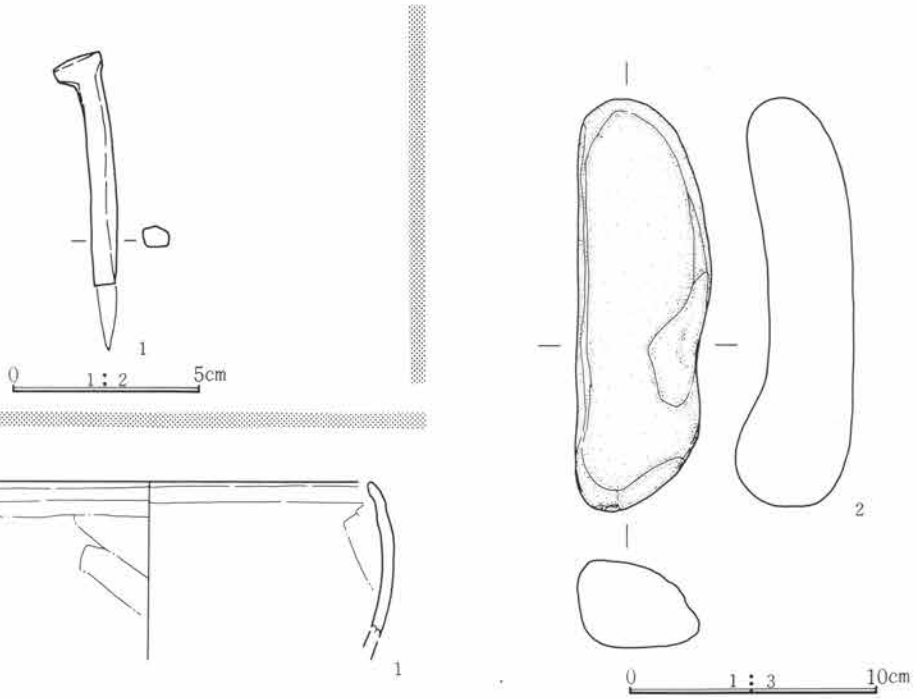
第3章 出土した遺物



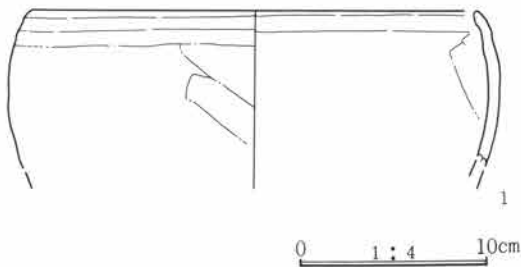
17住



19住



20住



第7図 16号、17号、19号、20号住居址出土遺物

20号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
鉢	口縁部～ 体部小片	1	(24.0) (8.3) —	白～灰色粗砂粒、細礫、石英 細砂粒。燻し気味の焼成。 黒褐色。	体部から口唇部まで内湾す る。口縁部横ナデ、体部内外 面とも不明瞭なナデ。器壁は 若干凸凹している。	P 48

20号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	2	16.1	4.9	3.3	604	閃緑岩	長楕円礫。両端に敲打痕。こも編石か？。	S 1 写図26

21号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀 灰釉陶器	口縁部～ 高台残	1	(15.7) 5.2 8.6	微量の黒色、白色細砂粒を含 み、素地は密。還元。灰白色 釉は白色でツヤがない。	器肉は厚手、底部は右回転糸 切り未調整。内面底部は中心 までナデられる。漬け掛けに よる施釉。	14住 P 21・21住 P 15・ 16
皿	口縁部～ 底部残	2	(8.5) 2.0 (4.0)	少量の赤褐色粒と雲母を含む 酸化焰。にぶい黄橙色。	外面体部に弱い稜をもつ。体 部にはぬた痕が残る。底部は 回転糸切り未調整。	P 37・カマド 写図 2

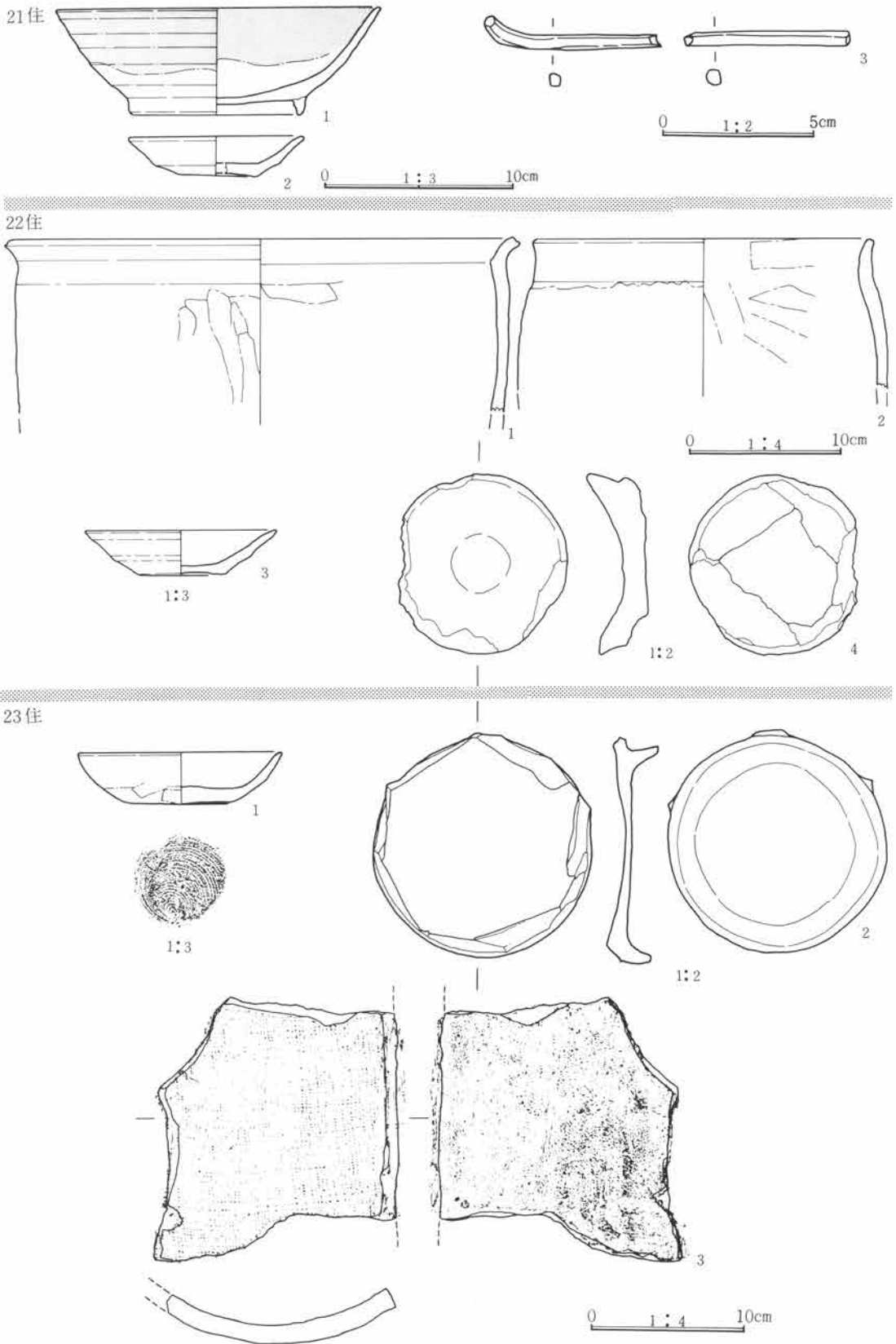
21号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
不明	3	(11.1)	0.5	0.5	9.7	鉄	錆化が激しい。先端が曲がる。	10

22号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
土 釜	口縁部～ 体部上位 小片	1	(32.7) (11.2) —	白～灰色、赤褐色の細、粗砂 粒、細礫を多量に含む。酸化 焰。やや燻し気味。黒褐色。	胴部は直線的、口縁部は短く 外傾する。口唇部は平坦面を もち、一条の沈線が巡る。口 縁部横ナデ。外面胴部は不明 瞭な縦方向のナデ。内面胴部 は横方向のヘラナデ。	P 3・23・15住 P 44・ 22住
土 釜	口縁部～ 胴部上位 小片	2	(21.9) (9.8) —	白～灰色、角閃石、石英の細 粗砂粒を多量に含む。酸化焰。 にぶい黄褐色。	胴部はややふくらみをもち、 頸部はあまりしまらず、口縁 部は直立、上位が若干外反す る。口唇部は平坦面をもつ。 外面口縁部、胴部とも不明瞭 な縦方向のナデ、内面不定方 向ヘラナデ。	P 37
皿	口縁部～ 底部残	3	(9.2) 2.2 4.4	白～灰色、雲母の細、粗砂粒、 少量の赤褐色粒を含む。酸化 焰。橙色。	口唇部に向って器肉は薄手と なる。底部は右回転糸切り未 調整。	P 8

第3章 出土した遺物



第8図 21号、22号、23号住居址出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
蓋 須恵器	鈎のみ	4	— — 鈎径 5.9	白～黒色、石英細、粗砂粒を含む。還元焰。浅黄色。	ロクロ整形。周縁を打ち欠き土製円盤に転用している。蓋の宝珠部分。	P40 転用

23号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
皿	口縁部～ 底部迄	1	(9.9) 2.5 5.2	白～黒色細、粗砂粒、少量の赤褐色粒、角閃石を含む。酸化焰。浅黄橙色。	体部は丸みをもって開く。底部は右回転糸切り未調整。外面体部はぬた痕が残る。	P7 写図2
椀 灰釉陶器	底部～高 台部のみ	2	— — 7.2	微量の白色、黒色粒を含む。還元焰。灰白色、釉は白色。	底部中心部の器肉は非常に薄手、内面底部中央一回しナデ外面底部は雑なナデでぬた痕があり、右回転糸切り痕がみえる。	P1 転用
平瓦	破片	3	17.0 16.0 13.5	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。内外面スス付着。明褐色。	上面は布目を残す。下面はヘラによる整形。側面もていねいに面取りをする。	P16・14・18 写図2

25号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
皿 緑釉陶器	体部～高 台小片	1	— (2.2) (7.0)	微量の白色粒を含む。還元焰 堅緻。灰白色。釉は淡緑色	付高台、器面はヘラミガキされる。内面底部、口縁部に劃花文あり。	フク土
段皿 緑釉陶器	口縁部小 片	2	(14.0) (1.7) —	微量の白色粒を含む。還元焰 堅緻。灰色。釉は濃緑色。	器面はヘラミガキされる。段は明瞭だが、あまりシャープではない。	P31
平瓦	破片	5	13.7 11.5 2.5	砂粒、φ1～8mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。暗オリーブ色。	上面は布目を残す。下面はヘラによる整形。側面もていねいに面取りをする。	P24 写図2

25号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
鉄 鉄釘	3	5.8	1.3	0.2	11.5	鉄	柳葉形。錆化が激しい。基部欠損。	17
	4	5.3	1.1	0.6	17.5	鉄	頭部欠損。先端部が曲がる。断面四角形。	2

第3章 出土した遺物

26号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
小形甕	口縁部～ 底部 $\frac{1}{2}$	1	10.5 8.1 6.7	白～灰色、赤褐色細、粗砂粒 石英を含む。酸化焰。灰褐色	胴部は丸みをもち、口縁部は 短く屈曲する。ロクロ整形、 底部は右回転糸切り未調整。	P14・23・フク土・27 住フク土、28住フク土 写図2
椀 灰釉陶器	口縁部～ 高台 $\frac{1}{2}$	2	(16.8) 6.8 (8.8)	微量の白色細砂粒を含む。還元 焰。堅緻。灰白色。	腰部が大きく張る。口縁部の 内面に一条の沈線が巡る。釉 は漬け掛けによる施釉。口縁 部の一部が欠けており、スス が付着している。	P26
皿 緑釉陶器	底部 $\frac{1}{2}$ 残 存	3	— 0.9	混入物なく胎土は緻密。焼成 良。釉は濃緑色。	ロクロ整形。高台貼り付け後 ていねいな整形。	P4
皿 緑釉陶器	口縁部破 片	4	— —	混入物なく胎土は緻密。焼成 良。釉は濃緑色。	ロクロ整形。小破片のためそ 他不明。	P35

26号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
鎌	5	15.8	4.5	0.4	62.9	鉄	基部の折り返しが認められる。	1

27号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
皿	口縁部～ 体部 $\frac{1}{2}$ 欠 損	1	(8.9) 2.8 4.8	白～黒色細、粗砂粒、少量の 赤褐色粒を含む。酸化焰気味 淡黄色。	ロクロ整形、内面底部は螺旋 状のナデ、底部は右回転糸切 り未調整。	掘方P1・フク土 写図2

27号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
釘	2	7.5	0.7	0.5	9.2	鉄	完形。丸く湾曲する。	2

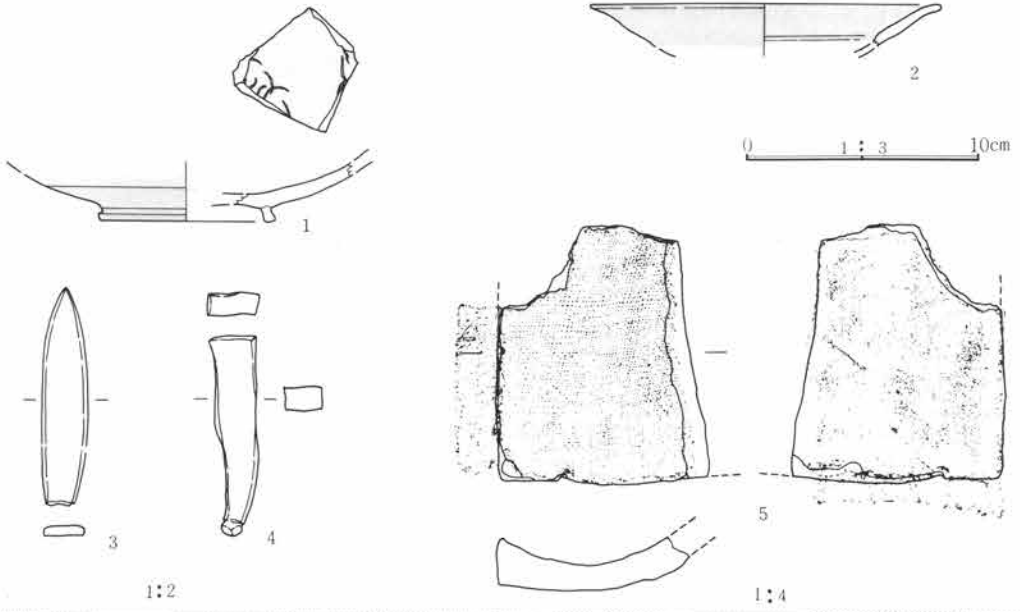
29号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀 須恵器	口縁部～ 高台 $\frac{1}{2}$	1	(15.4) 5.4 (7.8)	白色細砂粒を含む。燻し焼成 黒色、内側は灰色。	体部は直線的に開く。高台の 貼付は丁寧。底部は右回転糸 切り未調整。	29住P10・15・16 18・35住P14・15・ 29・フク土 写図2

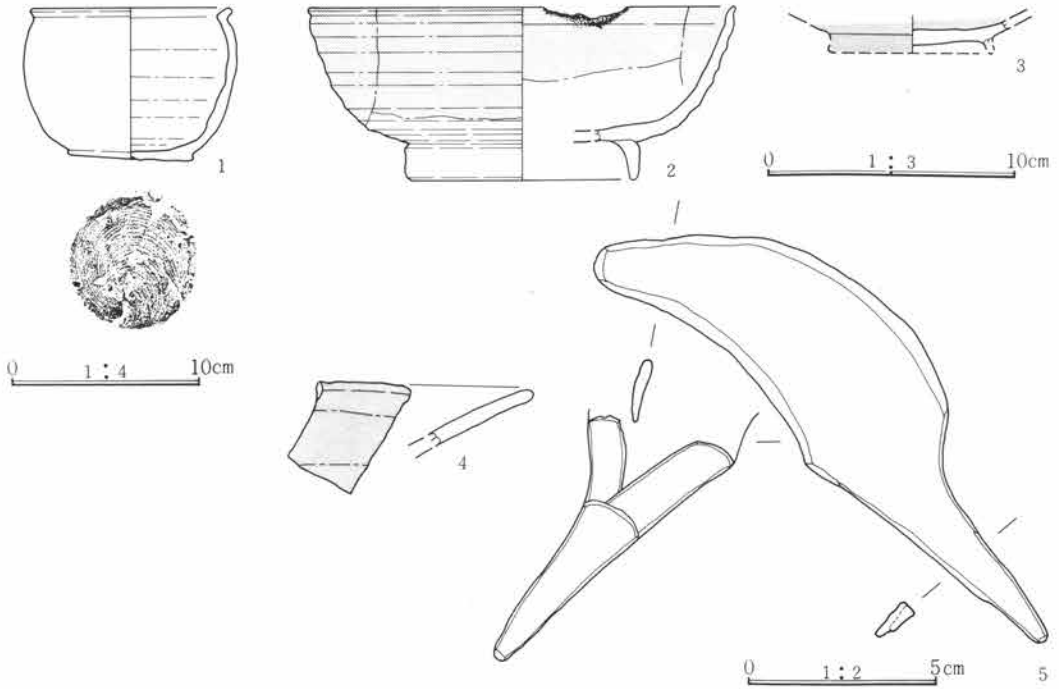
29号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
刀子	2	9.5	1.3	0.4	11.6	鉄	鋒部と茎部の一部を欠損。刃部は消耗少ない。	29

25住



26住



27住



第9図 25号、26号、27号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

30号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
皿 灰釉陶器	体部～高台小片	1	— (1.2) (7.2)	微量の白色細砂粒を含み、素地は密。還元焰。堅緻。灰白色、釉は透明。	高台は低く、丸みをもつ。内面底部は磨られ、朱・墨が付着している。高台端部も磨耗している。	転用硯 P 8

31号住居址遺物観察表

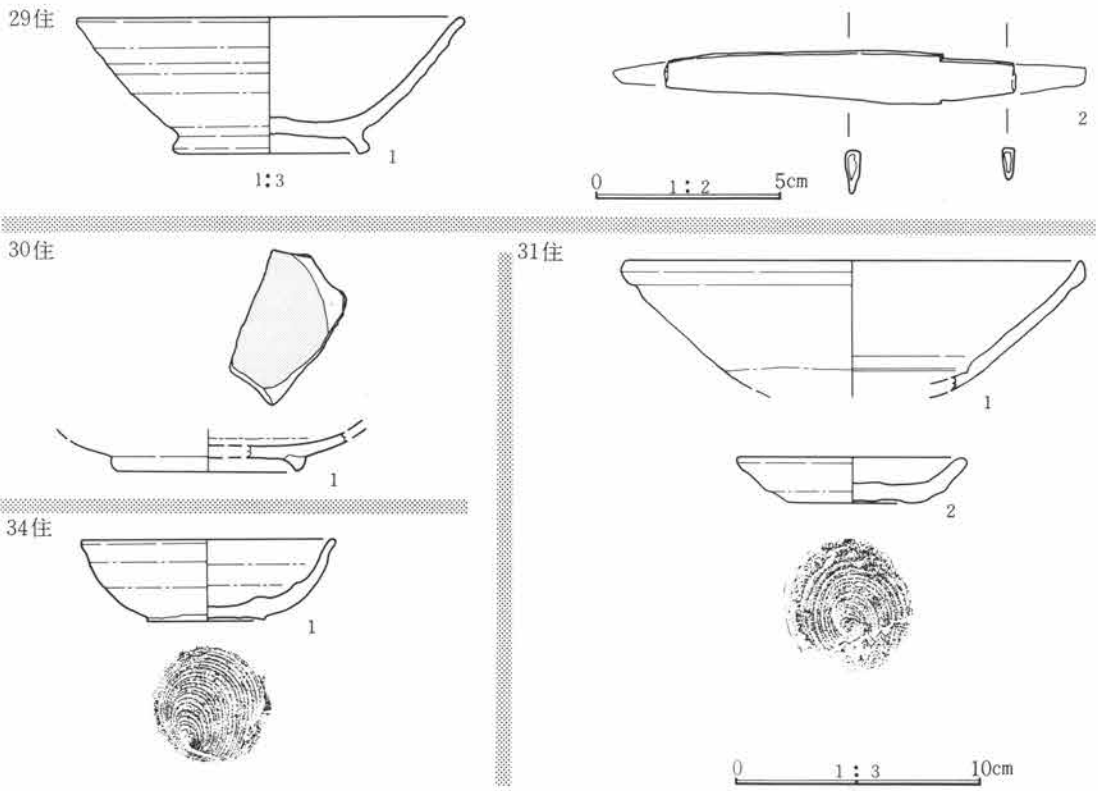
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
碗 白磁	口縁部～体部小片	1	18.2 (5.2) —	微量の黒色細砂粒を含む。釉は厚く掛けられ透明。灰白色	玉縁口縁、内面見込みは段はもち、沈線が一条に巡る。外面体部下位は施釉されていない。	森田・横田分類IV フク土
皿	口縁部～底部%	2	(9.0) 1.9 5.5	白～灰色、赤褐色細、粗砂粒雲母(金色)を含む。酸化焰にぶい橙色。	体部は浅く、糸切り径に比べ内底径が大きい。底部は右回転糸切り未調整。	フク土

34号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯	口縁部% 欠損	1	(10.1) 3.2 4.7	白～灰色細砂粒、僅かに赤褐色粒を含む。酸化焰。にぶい黄橙色。	底径が小さく、体部が大きく張る。底部は右回転糸切り未調整。	フク土 写図2

35号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
碗 黒色土器	口縁部～底部% 高台部欠損	1	(17.5) (6.0) —	白～灰色の細、粗砂粒を含む酸化焰気味。内面黒色処理。にぶい黄橙色。	体部は立ち上りに丸みをもち口縁部まで直線的に開く。底部は右回転糸切り後、周辺部は高台貼付時のナデ。内面底部は放射状、体部は横方向のヘラミガキ。	35住P 1・2・57住P 57・65
碗 須恵器	口縁部～体部% 欠損	2	(14.2) 6.0 6.8	白～黒色細、粗砂粒と3～6mmの礫を含む。還元焰。軟質明褐色。	体部は上位にややふくらみをもち、口縁部が若干外反する。底部は右回転糸切り後、周辺部は高台貼付時のナデ。	31住P12・35住P12・ 22
碗 須恵器	口縁部～体部% 欠損	3	(15.4) 5.75 6.6	白～黒色細、粗砂粒を含む。還元焰。軟質。にぶい黄橙色。	体部はややふくらみをもって開き、口縁部は若干外反する。底部は右回転糸切り後、周辺部は高台貼付時のナデ。	P25・27・32
杯 須恵器	完形	4	13.0 3.7 6.4	白～灰色の細、粗砂粒、少量の細礫を含む。還元焰。灰白色。	体部は直線的に開き、器肉は厚手。底部は右回転糸切り未調整。	P16 写図2



第10図 29号、30号、31号、34号住居址出土遺物



第3章 出土した遺物

37号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
碗 須恵器	口縁部～ 体部 $\frac{1}{2}$	1	14.8 (3.6) —	白～黒色細、粗砂粒を含む。 還元焰。やや酸化焰気味。褐 灰色。	口縁部はやや外反する。	P15・16・17
杯 土師器	口縁部～ 体部 $\frac{3}{4}$ 欠 損	2	(12.4) 4.1 (8.0)	白色、赤褐色、角閃石の粗砂 粒。焼成普通。明赤褐色。	平底、体部は直線的に開き、 口縁部がやや立ち上り気味と なる。口縁部横ナデ。体部は 横方向、底部は一方方向のヘラ ケズリ。	P11
杯 須恵器	口縁部～ 体部 $\frac{1}{2}$ 欠 損	3	13.2 3.9 6.3	白～黒色細、粗砂粒を含む。 還元焰。やや軟質。灰白色。	体部は直線的に開き、口縁部 はやや外反する。底部は右回 転糸切り未調整。	P8 写図2

40号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
平瓦	破片	1	14.5 11.3 1.9	砂粒、 ϕ 1～10mmの小石を含 む。胎土やや粗密。暗赤褐色	上面は布目を残す。下面はヘ ラによる整形。側面もていね いに面取りをする。	P2

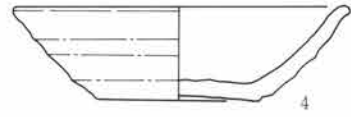
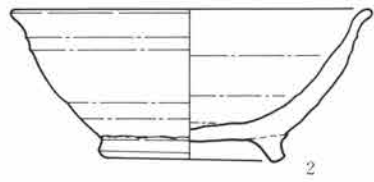
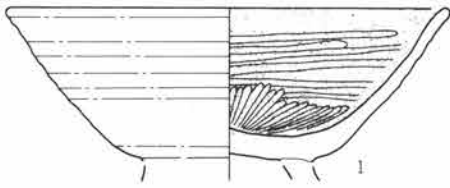
41号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁部～ 胴部上位 $\frac{1}{4}$	1	(23.5) (9.1) —	白～灰色細砂粒を多く含む。 還元焰。軟質。にぶい黄褐色 内面は灰黄褐色。	器肉は口唇部に向って厚手、 口唇部端部は水平面をもつ。 ロクロ整形。	P27・カマド
段皿 灰釉陶器	口縁部～ 体部 $\frac{1}{2}$ 欠 損	2	14.0 1.7 7.9	白色細砂粒を少量含む。還元 堅緻。灰黄色。釉は灰オリー ブ色。内面底部に赤色が若干 付着している。若干磨耗して いる。	体部は水平に近く開く。底部 の器肉は厚く、体部はやや薄 手。高台は低く、端部は丸み をもつ。底部は回転ナデ、内 面底部は中心までナデられる つけ掛けによる施釉。	P26 写図2

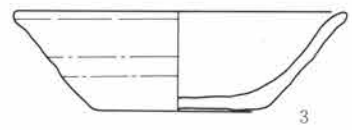
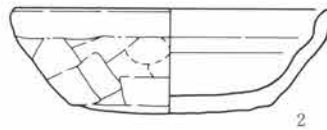
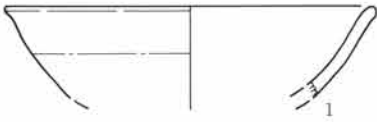
42号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部～ 胴部下位	1	22.3 (21.4) —	白～灰色、赤褐色の細、粗砂 粒を含む。焼成普通。橙色。	胴部は丸みをもち、頸部は 「く」の字状に屈曲する。口 縁部横ナデ、外面胴部上位左 横方向、中位斜め左上方向、 下位は右下方向へのヘラケズ リ内面は横方向のヘラナデ。	煙道・煙道2 写図2

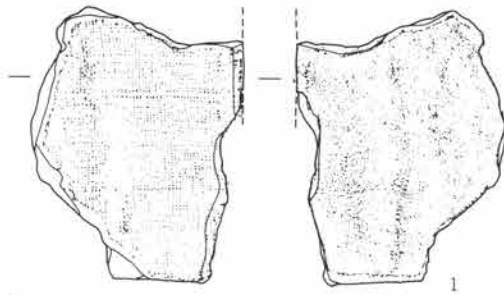
35住



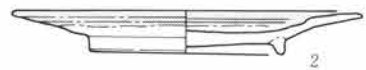
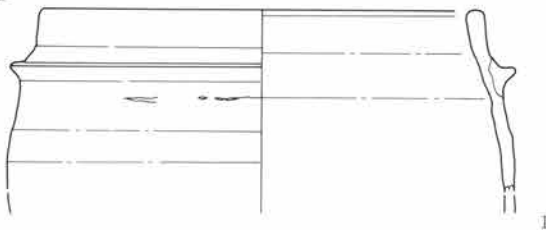
37住



40住



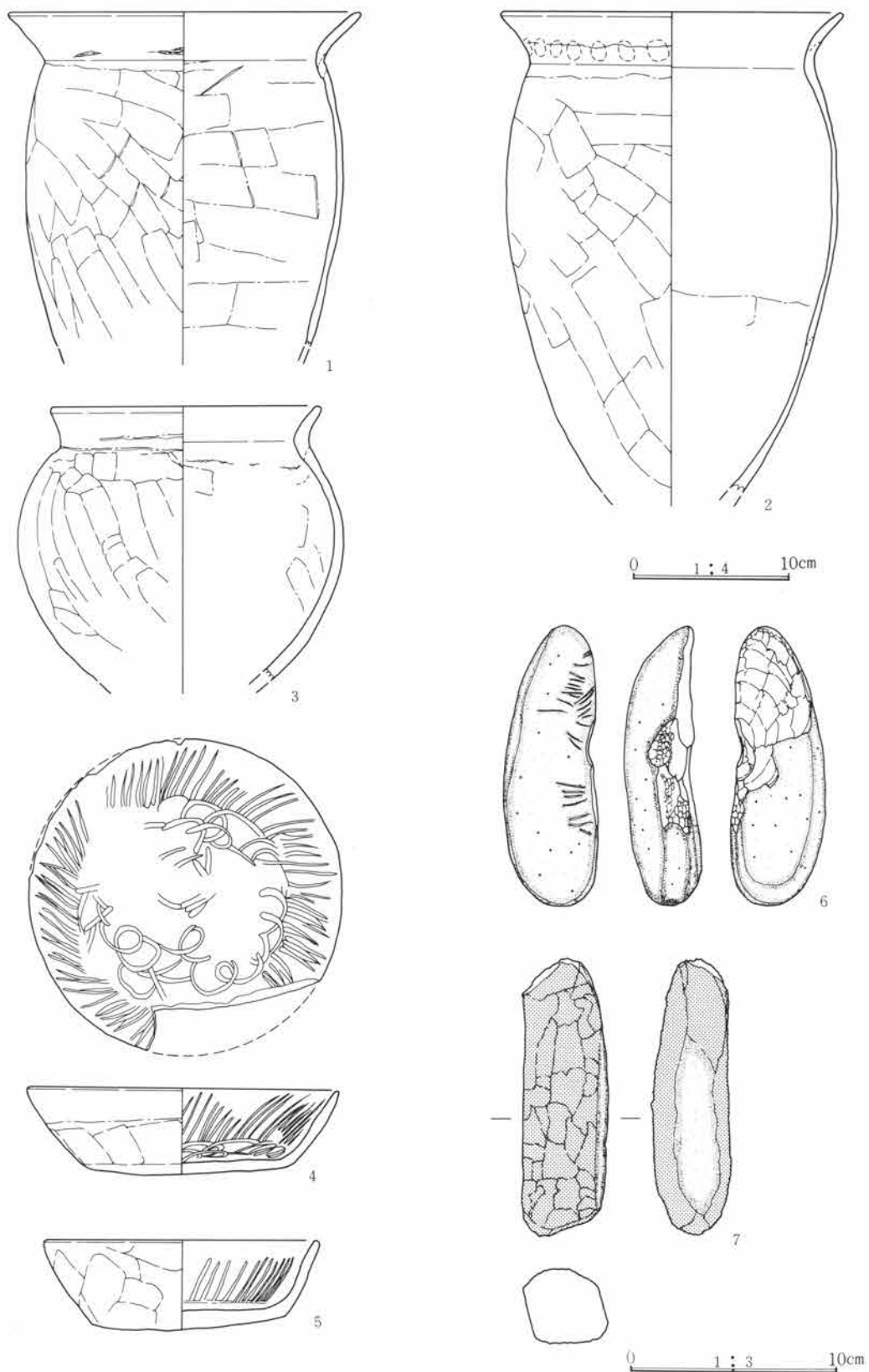
41住



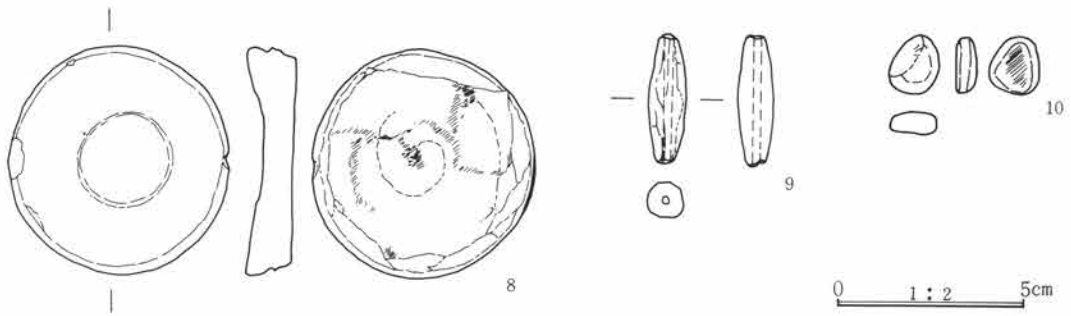
0 1:4 10cm

0 1:3 10cm

第11図 35号、37号、40号、41号住居址出土遺物



第12図 42号住居址出土遺物



第13図 42号住居址出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部～ 底部際	2	21.4 (30.3) —	白～黒色の細砂粒を多く含む 焼成普通。橙色。	胴部は丸みをもち、頸部は緩やかに括れ、口縁部は外反。まだ比較的胴部は長く、口縁部の器肉は厚い。口縁部横ナデ、外面胴部上位左横方向、中位斜め左上方向、下位は斜め右下方向へのヘラケズリ。	煙道・煙道1・煙道2 写図3
甕 土師器	口縁部～ 胴部迄	3	17.3 (17.2) —	白～灰色細、粗砂粒と雲母を多く含む。焼成普通。にぶい 橙色。	胴部は中位に丸みをもち、口縁部は短く開く。口縁部横ナデ。外面胴部上位は左横方向一段のヘラケズリ。中位は斜め左上方向、下位は斜め右下方向へのヘラケズリ。内面横方向のヘラナデ。	1・2の甕と同様の整形である。煙道・煙道3
杯 土師器	口縁部～ 底部迄	4	14.7 4.0 9.4	白～灰色、赤褐色の細、粗砂粒、雲母を含む。焼成普通。にぶい赤褐色。	平底、体部は僅かにふくらみをもち開く。内面体部に放射状暗文、底部に螺旋状暗文が施される。底部は一方向、体部は横方向ヘラケズリ。	内面にうろし様のものが僅かに付着する。 P15・16・一括・18カマド内 写図2
杯 土師器	口縁部～ 体部一部 欠損	5	(13.1) 4.2 5.0	白～灰色細、粗砂粒、赤褐色粒を含む。焼成普通。淡橙色	底部はやや丸底気味の平底。体部は直線的に開く。内面体部に放射状暗文あり。外面底部は不定方向のヘラケズリ。体部はヘラケズリの後、ナデているのか不明瞭。	4・5とも素地は緻密な感じだが、4の方が砂っぽく硬質で胎土が異なる。P17 写図3

42号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	6	13.0	4.2	3.1	320	頁岩	両端に敲打痕。中央部に抉り剥離面。	P55 写図26
磨石	7	12.7	4.1	3.6	320	砂岩	全体に敲打痕。点描部磨面。	P54 写図26
須恵器蓋	8	6.1	5.8	1.2	40.1	須恵器	両面に磨痕がある。転用硯か。	P21
土錘	9	3.5	1.0	1.0	3.5	土製	表面磨かれる。	
基石	10	1.6	1.3	0.6	2.2	細粒安山岩	黒石。三角に近い楕円。	

第3章 出土した遺物

44号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
平瓦	破片	1	13.4 11.8 2.0	砂粒、φ1~10mmの小石を含む。胎土やや粗密。暗灰色。	上面は布目を残す。下面はへらによる整形。側面もていねいに面取りをする。	P10 写真3

45号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部~ 胴部上位 1/2	1	(19.4) (8.9) —	白~灰色細、粗砂粒と、角閃石を少量含む。焼成普通。に ぶい赤褐色。	口縁部は「コ」の字状口縁の やや崩れた感じ。指頭痕あり 外面胴部は左横方向のへらケ ズリ。内面胴部はへらナデ。	P31・41
杯 須恵器	完形	2	13.9 4.1 5.9	白~灰色の細、粗砂粒と3 ~5mmの礫を含む。還元焰。 軟質。灰白色。	内底径が比較的広い。底部は 右回転糸切り未調整。口縁部 の一部にススが付着している	P27 写真3
杯 土師器	口縁部~ 底部1/2	3	12.0 3.1 7.8	白~黒色細、粗砂粒を含む。 焼成普通。にぶい赤褐色。	平底、体部立ち上りは丸みをも ち、口縁部は一担外反し、 上位で内湾気味になる。口縁 部横ナデ、外面体部指頭によ る調整、底部はへらケズリ。	P30・34・35 写真3

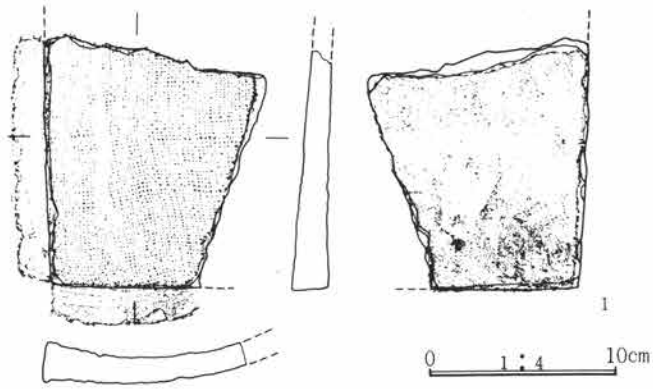
46号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	口縁部一 部欠損	1	11.8 3.6 6.6	白~灰色、赤褐色、角閃石の 細、粗砂粒を含む。焼成普通 橙色。	平底、体部は直線的に開き、 口縁部がやや立ち上り気味に なる。口縁部内外面、内面体 部は横ナデ。外面体部は右方 向への、底部は一方方向のへ らケズリ。	P1 写真3

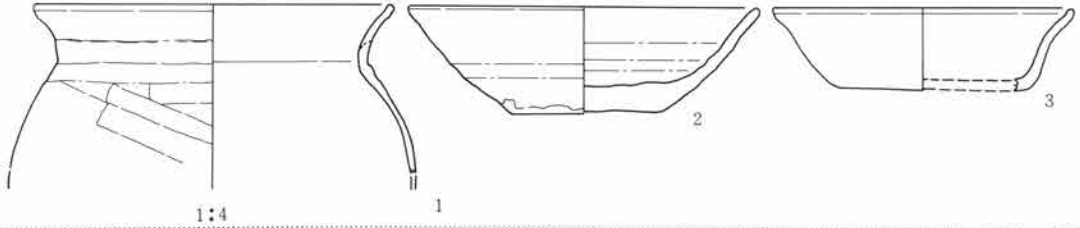
47号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
碗 須恵器	口縁部~ 体部1/2欠 損	1	(12.2) 5.0 7.8	白~灰色細砂粒を含む。還元 灰白色。	体部は直線的に開き、内底径 は大きく、立ち上りは明瞭で ある。底部は右回転糸切り後 周辺部は高台貼付時にナデ。	P5
皿 須恵器	口縁部~ 体部1/2欠 損	2	13.5 2.6 6.6	白色細砂粒を少量含む。還元 灰白色。	体部は直線に開く。高台は断 面角形で、端部に一条の沈線 が巡る。底部は右回転糸切り 後、周辺部は高台貼付時ナデ。	P12・フク土

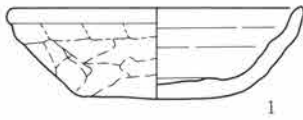
44住



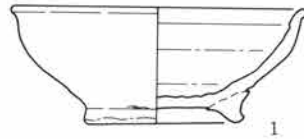
45住



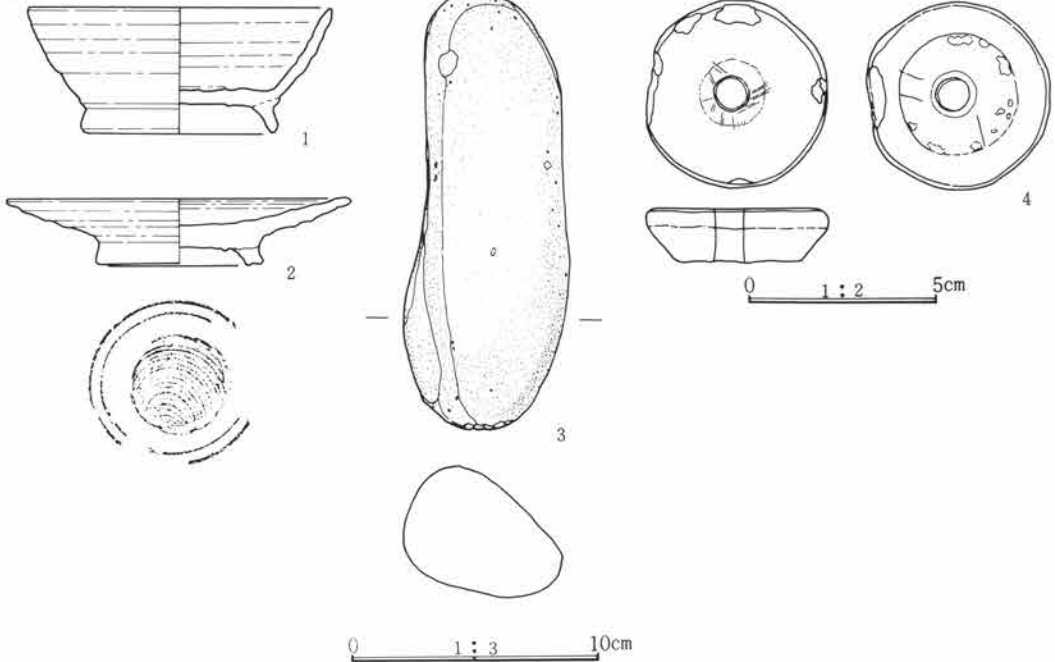
46住



48住



47住



第14図 44号、45号、46号、47号、48号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

47号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	3	17.3	6.6	5.1	763	粗粒安山岩	長楕円礫。両端に敲打痕。 上縁の一部が欠損する。側縁に線状痕。	S 4 写真図26 P 45 写真図33
紡錘車	4	5.0	5.0	1.3	51.2	蛇紋岩		

48号住居址遺物観察表

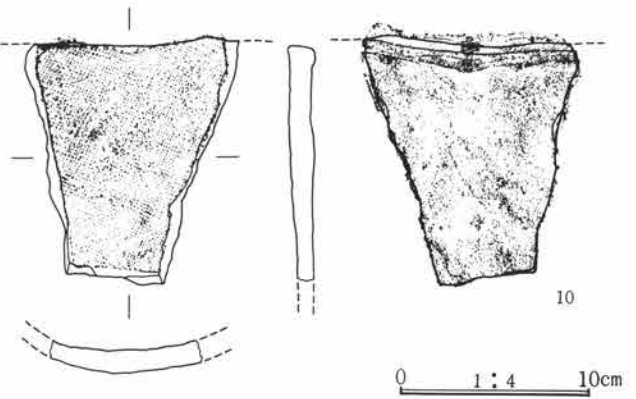
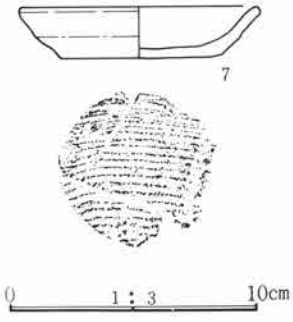
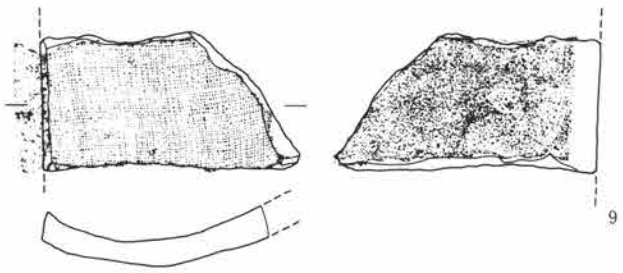
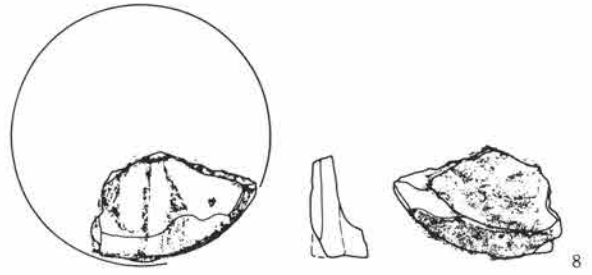
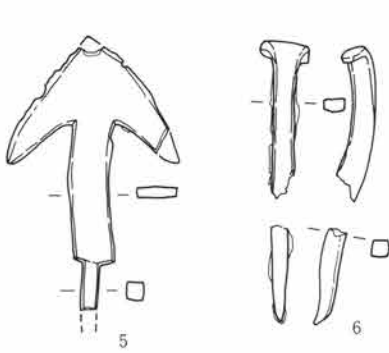
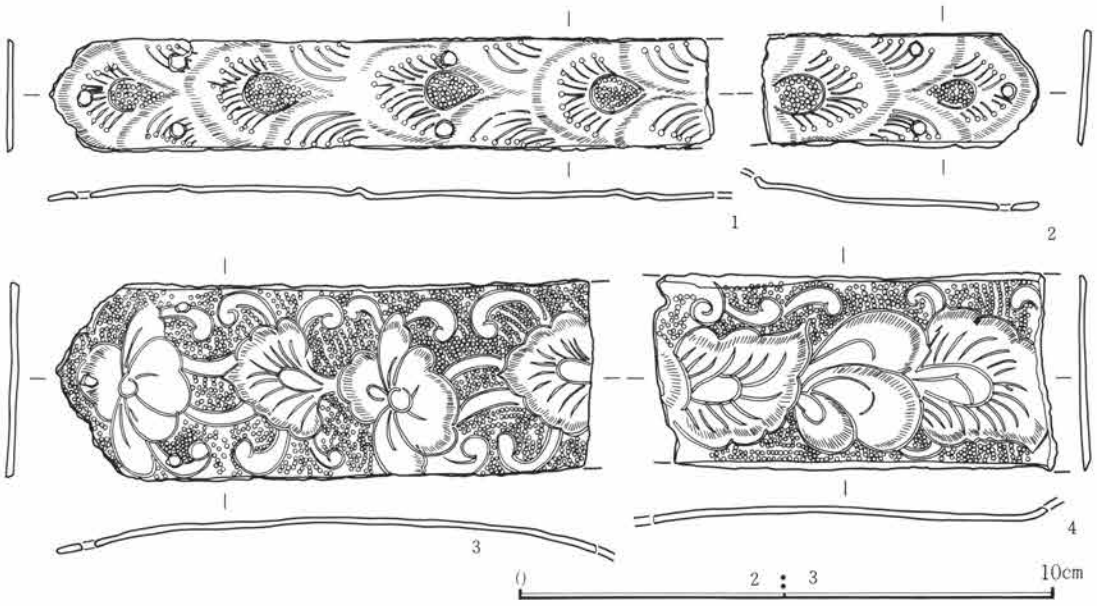
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀	口縁部一部僅かに欠損	1	11.7 4.6 6.4	白色、石英細砂粒を含む。還元焰。燻し焼成。灰色。	体部下半はすぼまる感じで、上位が張り、口唇部が若干反する。底部は右回転糸切り内面底部は螺旋状のナデ。	P 18 写真図 3

49号住居址遺物観察表

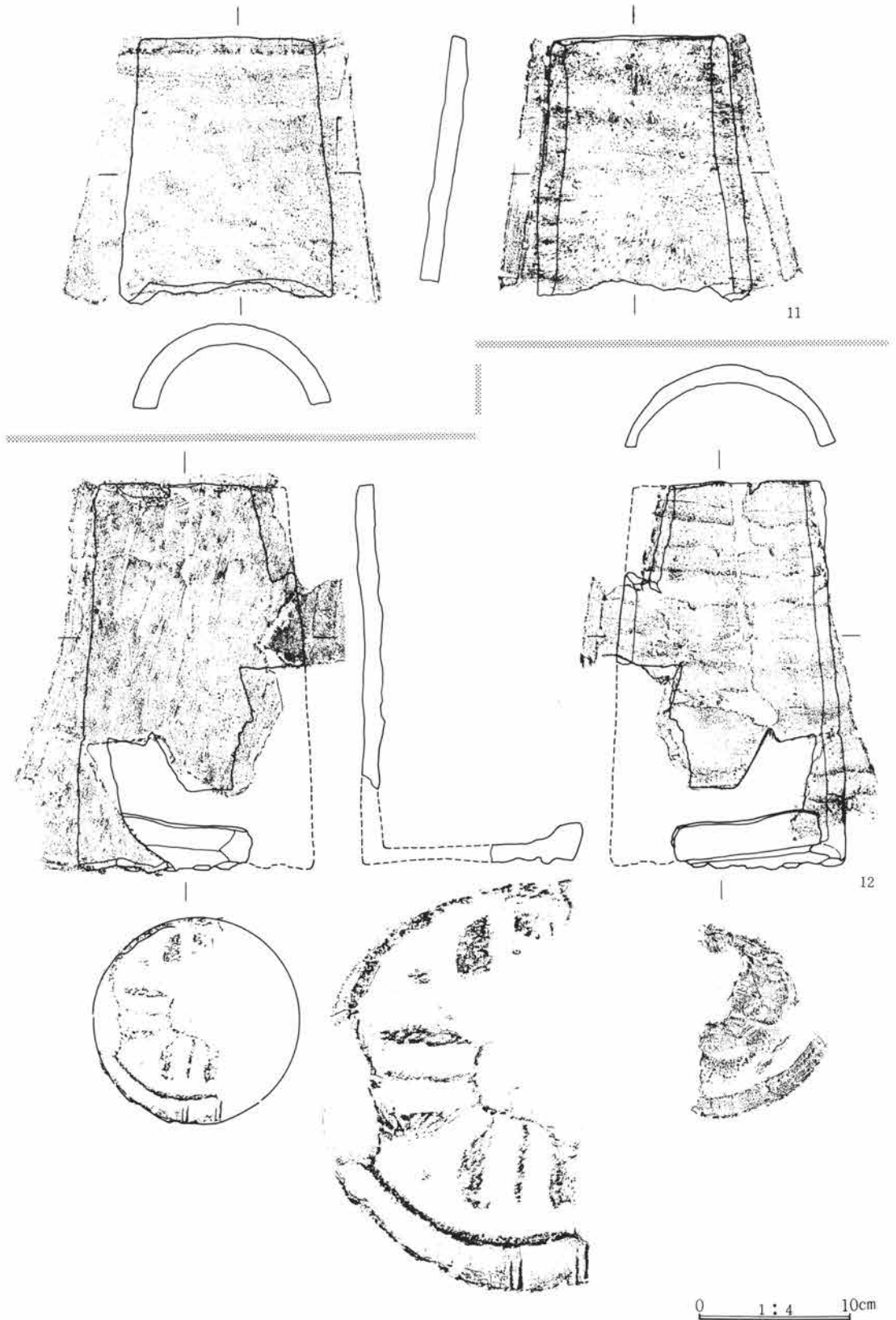
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
装飾金具	1	12.6	2.1	0.15	14.4	銅	銅板製、鍍金。宝相華唐草文の蹴彫り。地は魚々子打ち。 完形。左右対象。茎の断面は四角形。錆化が激しい。中程部分が欠損。尖端曲る。	1 1 7 16
装飾金具	2	5.3	2.2	0.15	6.9	銅		
装飾金具	3	10.1	3.7	0.15	22.9	銅		
装飾金具	4	7.7	3.7	0.15	25.3	銅		
鉄 鏝	5	7.0	4.3	0.5	14.4	鉄		
釘	6	6.8	0.6	0.4	7.5	鉄		

49号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
皿	口縁部一部欠損	7	9.6 2.0 6.2	白～黒色細、粗砂粒を多量に含む。還元焰。軟質。灰白色	体部は直線的に開く。底部は静止糸切り未調整。	P 82・84・85 写真図 3
軒丸瓦	破片	8	5.8 8.9 2.6	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。灰オリーブ色。	単弁4葉か?	P 33
平瓦	破片	9	7.2 14.0 1.7	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。褐色。	上面は布目を残す。下面はヘラによる整形。側面もていねいに面取りする。	P 109
平瓦	破片	10	13.2 11.4 1.5	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。にぶい赤褐色。	上面は布目を残す。下面はヘラによる整形。側面もていねいに面取りする。	P 3
丸瓦	破片	11	17.5 14.0 1.3	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。内面スス付着。赤褐色。	粘土紐痕残る。内面横位のナデ整形。外面ヘラによる横位の整形。側面もていねいに面取りする。	P 109
軒丸瓦	一部欠損	12	25.5 15.0 1.2	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。内面スス付着。にぶい褐色。	粘土紐痕残る。内面横位のナデ整形。外面縦位のヘラによる整形。側面もていねいに面取りする。	P 33・40・45・52 93・43住 P 22・23 53



第15図 49号住居址出土遺物



第16図 49号住居址出土遺物

50号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀 須恵器	口縁部～ 高台 $\frac{1}{2}$	1	(16.2) 6.8 (8.2)	黒色細砂粒を多く含む。還元 灰白色。	体部立ち上りは丸みをもち、 口縁部は若干外反し、器肉は 薄手、外面体部はロクロ目が 残る。底部は右回転糸切り、 高台は端部欠損。	P21

51号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 須恵器	完形	1	12.8 3.7 6.0	白色細砂粒、黒色細礫を含む。 還元焰。堅緻。褐灰色。	体部はやや丸みをもつ。器肉 はやや厚手。底部は右回転糸 切り未調整。	P13 写図3
杯 須恵器	口縁部～ 体部 $\frac{2}{3}$ 欠 損	2	(13.0) 3.3 7.0	白～灰色細砂粒、黒色鉱物粒 を含む。還元焰。灰オリーブ 色。	体部は直線的に開くが、外面 にはロクロ目が残る。内面底 部は同心円状のナデ調整。外 面底部は右回転糸切り未調整	P15 写図3
皿 須恵器	口縁部～ 高台部 $\frac{1}{2}$	3	(14.0) 3.5 (9.3)	少量の白色細砂粒を含む。還 元焰。灰白色。	体部は直線的に開き、高台は 比較的高く、外反気味。底部 は右回転糸切り未調整。	P16 写図3

51号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
刀 子	4	8.4	1.5	0.4	10.7	鉄	錆化が激しい。刃部の消耗少ない。鋒部欠損。	No 6

52号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
平 瓦	破片	1	7.7 10.1 1.8	砂粒、 ϕ 1～5 mmの小石を含 む。胎土やや緻密。焼成良。 赤褐色。	上面は布目を残す。下面はへ らによる整形。側面もていね いな面取りをする。	P13 写図3

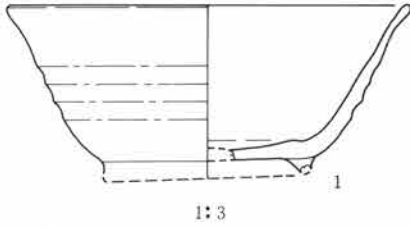
55号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀 須恵器	口縁部～ 高台 $\frac{1}{2}$	1	(13.0) 5.5 (7.4)	白色細砂粒と少量の細礫、僅 かな黒色粗砂粒。還元焰。灰 色。	体部はやや丸みをもち、口縁 部は外反する。高台の付け方 は雑。	P 8
杯 須恵器	$\frac{1}{2}$ 欠損	2	(13.2) 3.6 (5.7)	細かい砂粒を含む。胎土はや や緻密。焼成良。にぶい黄色。	体部は直線的に開き、口縁で 若干外反する。底部は右回転 糸切り。	P 6・7・10・11・12・ 13・15 写図3

55号住居址遺物観察表

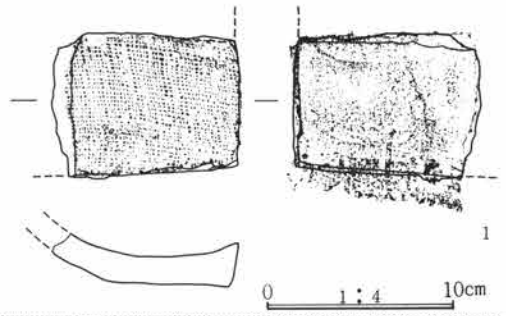
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
釘	3	7.3	0.5	0.8	8.7	鉄	先端欠損。断面四角形。屈曲する。	23

50住

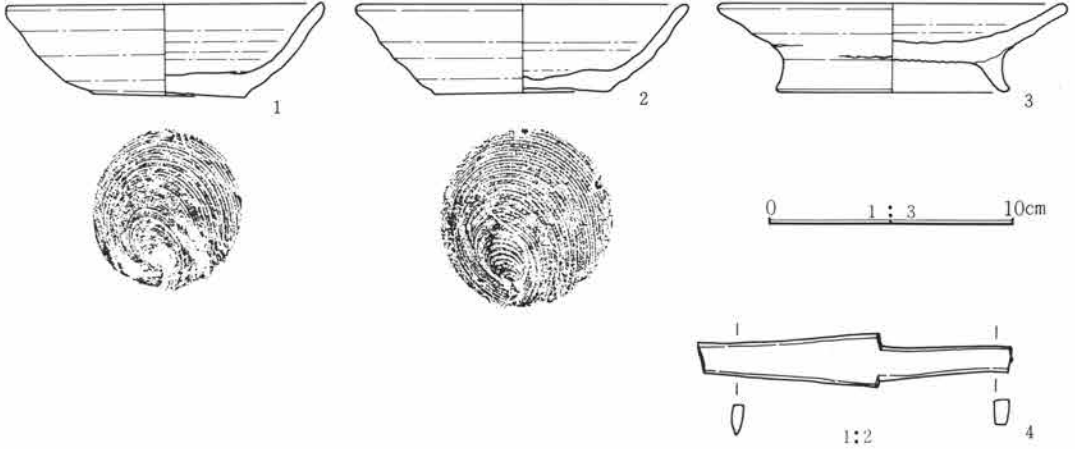


1:3

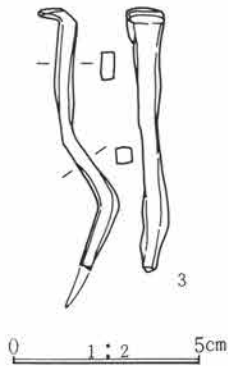
52住



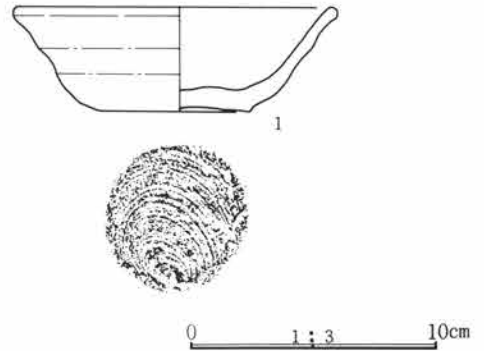
51住



55住



56住



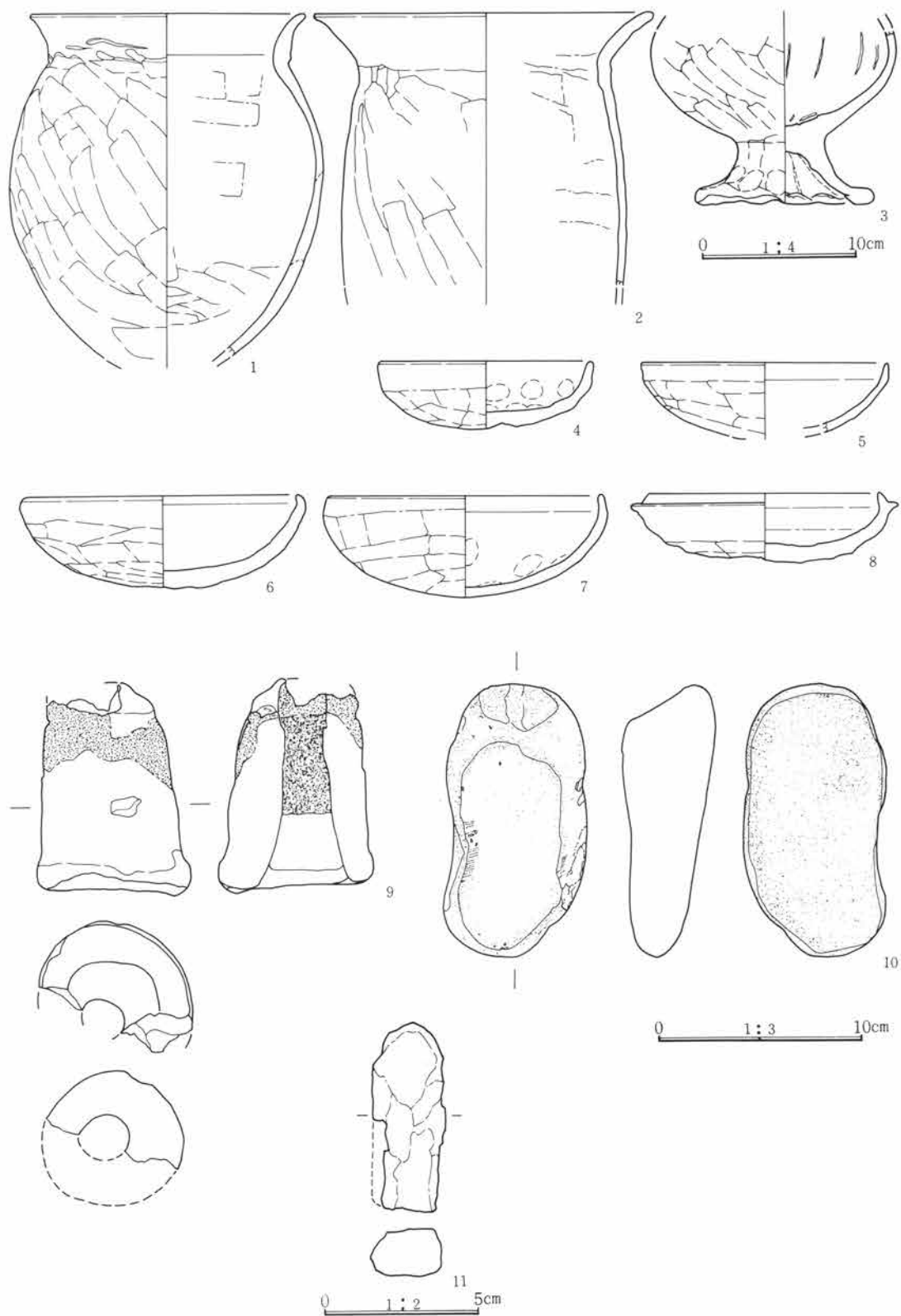
第17図 50号、51号、52号、55号、56号住居址出土遺物

56号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 須恵器	口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損	1	(12.4) 4.1 5.9	白～黒色、石英細、粗砂粒を含む。還元焰。軟質。黒褐色黄灰色。	体部立ち上りに丸みをもち、直線的に開く。底部は右回転糸切り未調整。	P22 写真3

57号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部～ 胴部下位 %	1	17.7 (21.9) —	白～灰色、赤褐色、角閃石の細、粗砂粒を含む。焼成普通にぶい橙色。	口縁部横ナデ、胴部は右斜め下方向へのヘラケズリ。内面胴部は横方向へのヘラナデ。	P70・フク土 写真3
甕 土師器	口縁部～ 胴部中位	2	22.1 (17.4) —	白～黒色、赤褐色細、粗砂粒を含む。焼成普通。にぶい橙色。	口縁部の器内は厚く、大きく開く。口縁部横ナデ。外面胴部右下方向へのヘラケズリ。内面胴部は横方向へのヘラナデ。	P8 写真3
台付甕 土師器	胴部中位 ～胴部 $\frac{1}{2}$	3	— (11.0) 11.5	白～黒色細、粗砂粒、細礫を多量に含む。焼成普通。暗褐色。	胴部は大きく張り、脚部は端部が水平に開く。外面胴部中程は左横方向、下位は右斜め下方向のヘラケズリ。脚部内面は縦方向の指ナデによる稜が明瞭、端部は内側にナデつけられている。全体的に凸凹している。	P24・32・79 写真4
杯 土師器	完形	4	10.2 3.2 ●	白～灰色、角閃石の細、粗砂粒を含む。焼成普通。橙色。	丸底、体部は弱い稜をもち、口縁部は短く、やや開く。口縁部横ナデ。底、体部は口縁部際までヘラケズリ。内面体部は指頭痕が明瞭。	P27 写真4
杯 土師器	口縁部～ 底部 $\frac{1}{4}$	5	12.0 3.0 —	白～灰色細砂粒を含む。焼成普通。橙色。	丸底、口縁部は短く直立する。底、体部は口縁部際までヘラケズリ。ヘラケズリの上を軽くナデているのか、不明瞭。	P60・63・64 写真4
杯 土師器	口縁一部 欠損	6	13.3 4.4 ●	白～灰色細、粗砂粒。焼成普通。橙色。	丸底、口唇部は強く内湾する外面は口唇部際までヘラケズリされる。	P76 写真4
杯 土師器	口縁部～ 底部	7	(13.2) 4.9 ●	白～灰色細砂粒、少量の角閃石を含む。焼成普通。橙色。	口縁部は内傾気味。全体に歪みがある。口縁部横ナデ、底体部口縁際までヘラケズリ。	P6・23・25・28 フク土 写真4
杯 須恵器	口縁部僅 かに欠損	8	11.2 3.3 ●	白～黒色細、粗砂粒を含む。還元。灰色。	体部は浅く、底面が比較的広い。底部は左回転ヘラ切り後左回転ヘラケズリ。	P62 写真4
羽口 土製品	片残存	9	長さ 10.0 最大径 7.5	白～灰色、黒色・赤褐色の細粗砂粒を含む。にぶい黄橙色	形態は先端が若干細くなる。先端部には鉄分が融着している。孔は円形。	P5 写真4



第18図 57号住居址出土遺物

57号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磨石 鉄塊	10 11	13.0 6.1	6.4 2.3	3.4 1.5	581 53.3	粗粒安山岩 鉄	楕円礫。表裏に磨面。トーン部変色している。 錆化が激しい。用途不明。	P1 写真図26 フク土

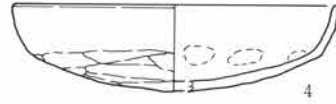
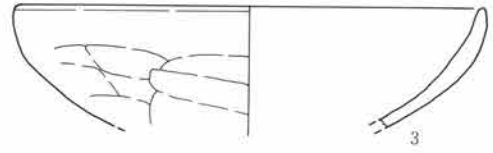
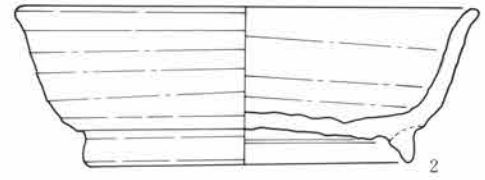
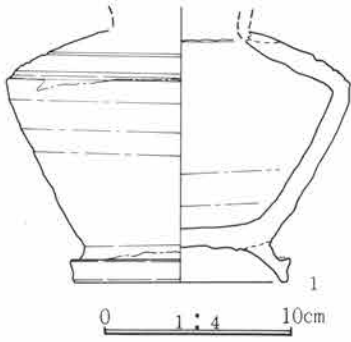
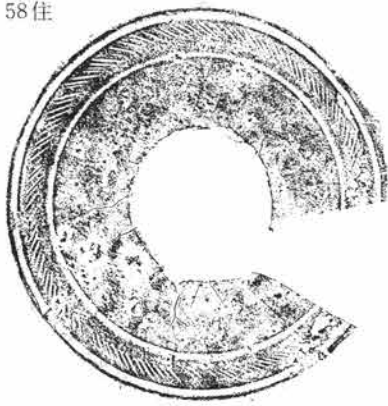
58号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
長頸瓶 須恵器	口縁部欠損	1	— (13.2) 11.4	白色細砂粒、黒色鉍物粒を含む。還元。堅緻。灰色。	肩部は強く張り、上面には2本の沈線が巡り、刺突文が施される。底部は回転ナデ。高台には甕の口縁部小片が付着しており、高台端部は剥がれた痕跡がある。焼き台として甕を使用したものか。	P38 写真図4
椀 須恵器	口縁部～ 体部一部 欠損	2	18.2 6.2 13.0	白色細砂粒、黒色鉍物粒を含む。還元。灰色。	体部立ち上りにやや丸みを持ち、口縁部が若干外反する。底部は回転ヘラ切り後、回転ナデ。	P39 写真図4
杯 土師器	口縁部～ 体部欠	3	(18.6) (4.7) —	白～灰色細砂粒、角閃石を含む。焼成普通。にぶい褐色。	口縁部はやや内湾する。外面体部はヘラケズリ後、軽いナデか不明瞭。	P27
杯 土師器	口縁部～ 底部欠	4	(13.0) 3.4 ●	白～灰色、角閃石細、粗砂粒を含む。焼成普通。にぶい褐色。	丸底、器肉が薄く、体部は内湾する。口縁部横ナデ、底、体部はヘラケズリ、体部上位は無調整。	P26

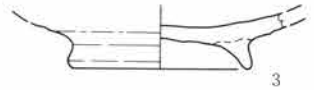
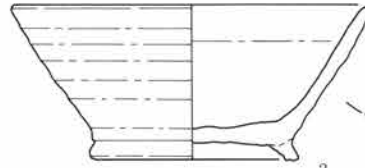
59号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁部～ 胴上位欠	1	(20.0) (9.5) —	白～灰色細砂粒、白色細礫を少量含む。酸化焰。灰褐色。	口唇部は内傾する平坦面を持つが、外側端部はめくれるように外反する。胴部はヘラ等による回転のナデで凸凹。	P10カマド・P19カマド・フク土
椀 須恵器	口縁部～ 体部欠損	2	(14.3) 6.1 8.2	少量の白～灰色細砂粒、黒色鉍物粒を含む。還元焰。灰色	体部は直線的に開く。底部は右回転糸切り後、周辺は高台貼付時のナデ。	P1・7
皿 須恵器	口縁部欠損	3	(2.25) (7.0)	少量の白色細砂粒、黒色鉍物粒を含む。還元焰。灰色。	高台の貼け方は丁寧。底部は糸切り後、高台貼付時ナデ。	P15カマド・61住P4

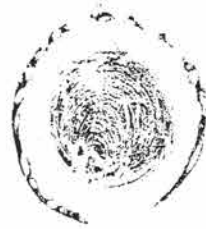
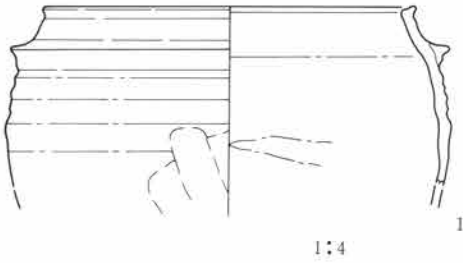
58住



0 1:3 10cm

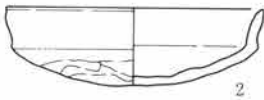
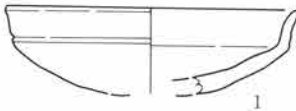


59住



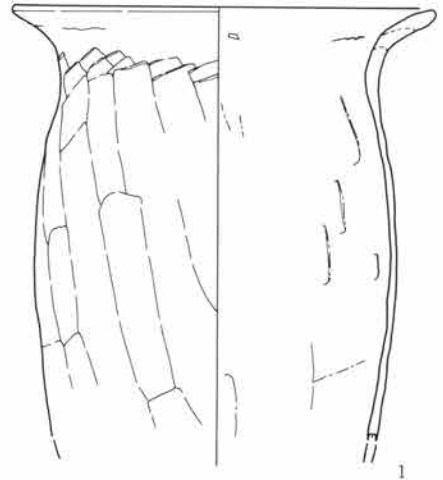
1:3

60住



0 1:3 10cm

61住



0 1:4 10cm

第19図 58号、59号、60号、61号住居址出土遺物

60号住居址遺物観察表

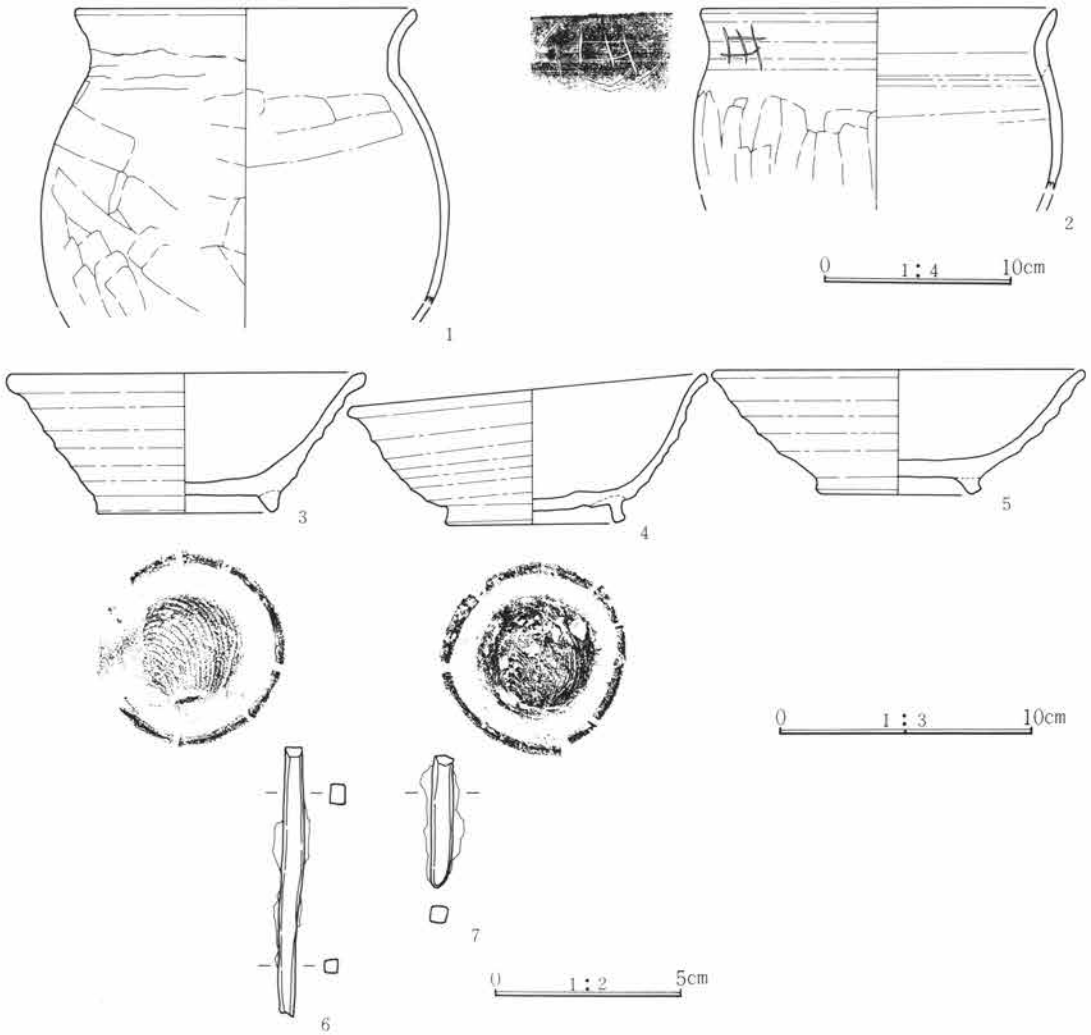
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	口縁部～ 底部%	1	(11.6) (3.4) —	少量の白色粗砂粒、僅かな角閃石を含む。焼成普通。橙色	丸底、弱い稜をなし、口縁部は直線的にやや開く。口縁部内外面横ナデ。外面体部～底部は不定方向ヘラケズリ。内面底部は一方向のナデ。	P15
杯 須恵器	口縁部～ 底部%	2	(10.2) 3.1 ●	少量の白色細砂粒を含む。還元焰。堅緻。灰白色。	丸底、稜をなし、口縁部はやや外反気味に立ち上る。口唇部の器内は薄手。口縁部～体部は回転ナデ、外面底部は不定方向ヘラケズリ。	1は土師器だが、形態が非常によく類似している。フク土。

61号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部完 胴部上位 ～下位%	1	22.2 (22.9) —	白～灰色、石英、角閃石の細粗砂粒を含む。焼成普通。橙色。	胴部は中位上にふくらみを持ち、頸部はゆるやかにくびれ口縁部は外反する。外面胴部は斜め左上方向へのヘラケズリ。口縁部は横ナデ。内面胴部は横方向のヘラナデ。	46住P6・9・57住P18・29・33・61住P7

64号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	口縁部～ 胴部中位 %	1	18.3 (15.5) —	褐色内粒(1～3mm)、少量の石英、角閃石細砂粒を含む。焼成普通。にぶい橙色。	口縁部は「コ」の字状口縁の崩れた状態で、なだらかに立ち上り、上位が外反する。器肉は5mm前後と厚手。口縁部は横ナデで、胴部上位は左横方向、中位は左斜め上方向、下位右斜め下方向へのヘラケズリ。胴部内面はヘラナデ。	P17・36・39・43・44・45・48・49・51・54・55・65・フク土
甕	口縁部～ 胴部上位 %	2	19.0 (9.5) —	白～灰色粗砂粒、赤褐色円粒(1～4mm)を多く含む。酸化焰。にぶい橙色。	口縁部内外面、胴部内面は丁寧な回転ナデ。胴部外面は下方向へのヘラケズリ。	口縁部外面に焼成前の篋書きあり。 P53・54・55
椀 須恵器	口縁部～ 高台部%	3	14.3 5.7 7.4	白～灰色細、粗砂粒を含む。還元焰。やや軟質。灰白色。	体部は直線的に開き、口縁部は肥厚して外反する。ロクロ整形、底部は右回転糸切り、周辺部は高台貼付時にナデ。	P62・66・67 写図4
椀 須恵器	口縁部% 欠損	4	14.4 5.5 7.2	白色細砂粒、多量の灰色粗砂粒、細礫。還元焰。やや軟質灰白色。	体部は丸みを持ち、口縁部は外反する。器肉が比較的薄く体部外面はロクロ目が顕著。底部は右回転糸切り、周辺部は高台貼付時のナデ。高台の断面形は角形。内面底部に重ね焼痕あり。	P41・50・52・53・54・56・62・63・フク土 写図4



第20図 64号住居址出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀 須恵器	口縁部～ 高台部 $\frac{1}{2}$	5	(14.9) 4.9 6.6	白～灰色、長石、石英の細、粗砂粒を含む。還元焰。軟質灰白色。	体部はややふくらみをもって大きく開く。内底径は比較的大きいが、立ち上りは明瞭ではない。体部外面はロクロ目が顕著。底部は回転ナデ。	P12

64号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
釘	6	7.2	0.5	0.6	6.7	鉄	頭部、先端部欠損。断面四角形。	28
釘	7	3.5	0.6	0.5	4.7	鉄	頭部、先端部欠損。断面四角形。錆化が激しい	29

66号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部～ 胴部下位	1	18.9 (18.9) —	褐色円粗砂粒、少量の石英、 角閃石粗砂粒を含む。焼成普 通。赤色。	口縁部は弱い「コ」の字状を 呈す。口唇部には、一条の沈 線が巡る。器肉は厚手。口縁 部は横ナデ。外面胴部上位は 左横方向、中位は斜め左上方 向、下位は斜め右下方向への ヘラケズリ。内面胴部は横方 向ヘラナデ。	P18・23・27・32・33・ 34・37・38・39・41・ 42・44・45・46・47・ 48
杯 土師器	口縁部一 部欠損	2	14.2 4.5 ●	白～灰色粗砂粒を含む。焼成 普通。にぶい赤褐色。	底部は若干丸底気味、体部は 直線的に開き、口縁部は屈曲 して口唇部内湾、内面に一条 の弱い沈線が巡る。口縁部は 横ナデ。体部は左横方向への 一段のヘラケズリ。底部は不 定方向ヘラケズリ。体部内面 に間隔の粗い放射状暗文が施 される。	P36・28・33・34・30・ 31・32 写図4
杯 須恵器	口縁部～ 底部 $\frac{1}{4}$	3	(12.4) 3.7 5.2	白色細、粗砂粒を含む。還元 灰色。	底径は小さく、体部立ち上り はやや丸みをもち、体部は直 線的、口唇部が僅かに外反す る。内面体部の立ち上りはな だらか。口唇部にはススが付 着する。底部は右回転糸切り 未調整。	P27 写図4
杯 須恵器	口縁部～ 底部 $\frac{1}{4}$	4	(14.0) 4.3 (5.8)	白～灰色、石英の細砂粒を含 む。還元。やや軟質。灰黄色	体部は下位にやや丸みをもち 口縁部は直線的に開く。底部 は右回転糸切り未調整。	P22・23・24

66号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
土製円盤	5	2.6	2.5	0.4	4.3	土製	土師器破片を磨いて円盤にしている。	P14
紡錘車	6	3.3	3.4	1.1	17.0	土製	ロクロ整形。 $\frac{3}{4}$ 残存。外縁にケズリ痕。	P26

67号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	口縁部～ 底部 $\frac{3}{4}$	1	13.2 4.2 ●	白～灰色、石英細、粗砂粒を 含む。焼成普通。橙色、外面 底部黒褐色。	丸底、口縁部は短く内傾し、 明瞭な稜をなす。器肉は口唇 部に向って薄くなる。器形は やや歪みがある。外面底部は 不定方向ヘラケズリ、体部は 左横方向へのヘラケズリ。	P26・27・57・58 カマド内 写図4
杯 土師器	口縁部～ 底部 $\frac{1}{4}$	2	(12.2) (3.5) ●	僅かな白～灰色、角閃石の細 砂粒を含む。焼成普通。にぶ い橙色。	丸底、弱い稜をなして、口縁 部は外反する。口縁部内外面 内面体部は横ナデ。外面体部 は左横方向へのヘラケズリ。	P17

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	完形	3	11.0 3.2 ●	少量の白～灰色細砂粒を含む 焼成普通。にぶい赤褐色。	丸底、弱い稜をもち、口縁部 は僅かに外反する。器肉は比 較的厚手、底部は不定方向の ヘラケズリ。	P13・14 写図4

68号住居址遺物観察表

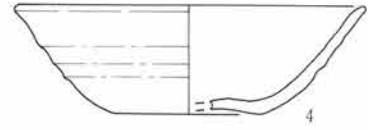
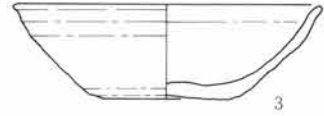
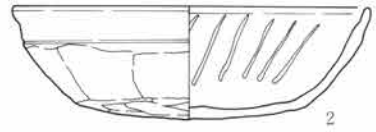
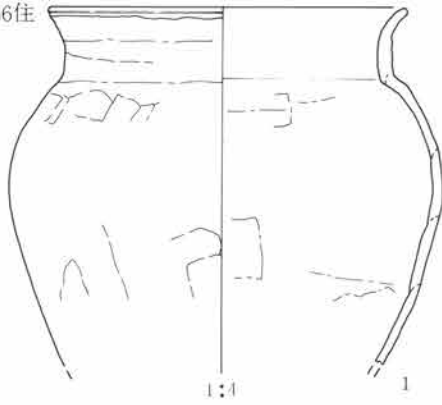
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
長甕 土師器	口縁部～ 底部ㄨ	1	(24.0) 36.8 (6.0)	灰色、赤褐色粗砂粒、細礫を 多量に、絹雲母片岩の中礫を 少量含む。焼成普通。暗赤灰 色、にぶい赤褐色。	頸部はしまらずに、ゆるやか にくびれる。外面胴部上半部 上方向へのヘラケズリ。下半 部は右斜め下、右横方向への ヘラケズリ。内面は横方向へ のヘラナデ。	P11
長甕 土師器	口縁部～ 底部ㄨ	2	20.6 (38.6) (3.5)	白～灰色、角閃石の細、粗砂 粒を含む。焼成普通。赤橙色	頸部は「く」の字状にくびれ る。外面胴部上半部は左斜め 上方向、胴部下半部は下方向 へのヘラケズリ。内面胴部は ヘラナデ。	P15・24・25・27・28・ 35・57・58

69号住居址遺物観察表

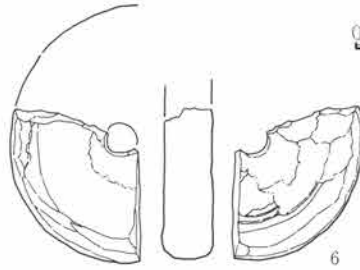
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	完形	1	17.1 18.75 ●	多量の白～黒色の細、粗砂粒 を含む。焼成普通。橙色。	丸底、胴部下半にふくらみをも つ。口縁部横ナデ、外面胴 部は上位左横方向、以下右斜 め下方向ヘラケズリ。内面横 方向ヘラナデ。	P66・79住P54・カマ ドP64・カマド内 写図4
小形甕 土師器	口縁部～ 底部ㄨ	2	(12.8) 13.6 4.2	白～黒色の細砂粒を多量に、 赤褐色円粒、雲母を少量含む 焼成普通。にぶい橙色。	胴部は上位に張りをもち、頸 部はゆるやかにくびれて外反 する。外面胴部上位は左横方 向、以下右斜め下方向、底部 ヘラケズリ。内面横方向ヘラ ナデ。	P67 写図4
雍 須恵器	胴部下位 ～底部	3	— (12.1) 17.0	白色細、粗砂粒、細礫を含む 還元焰。灰色。	外面胴部は平行叩きが薄く 残っている。内面はヘラナデ、 底部は回転ナデ、外面底部は 無調整、周辺ヘラナデ、下に 敷かれたようなものの痕跡は みられず、やや凸凹している	P20・51・62・64 70・ 写図4
杯 土師器	口縁部～ 底部	4	(12.4) (2.9) ●	白～灰色、角閃石の細、粗砂 粒を含む。焼成普通。橙色。	器肉は薄手、丸底だがかなり 偏平、口縁部はあまり内湾し ない。口縁部横ナデ、体部無 調整、底部ヘラケズリ。内面 底、体部の境に指頭痕が多く 残る。	P8・72

第2節 竪穴住居址出土遺物

66住

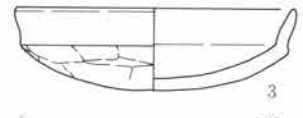
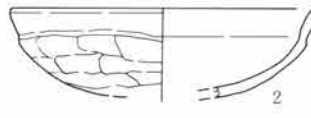
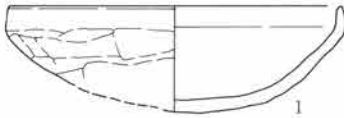


0 1:3 10cm



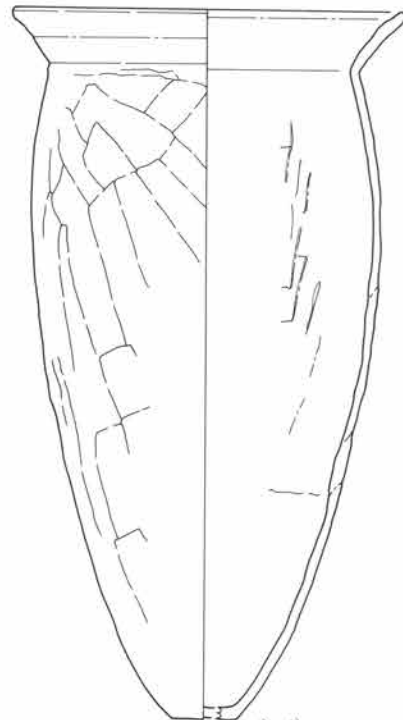
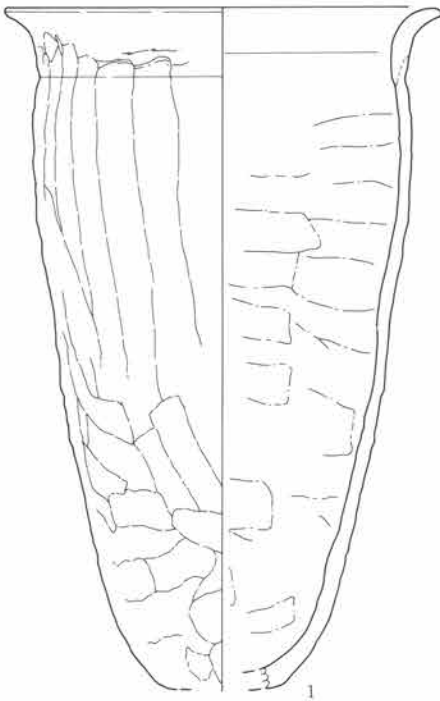
0 1:2 5cm

67住



0 1:3 10cm

68住



0 1:4 10cm

第21図 66号、67号、68号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	口縁部～ 底部迄	5	(11.2) 3.7 (7.5)	白～灰色、角閃石の細、粗砂粒を含む。焼成普通。淡赤橙色。	平底、体部はややふくらみをもつ。口縁部横ナデ、外面体部若干無調整帯をもち、一段のヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面横ナデ、底部ヘラケズリ。内面横ナデ、体部に間隔の粗い放射状暗文あり。	P 6 写図 4
椀 須恵器	口縁部一 部欠損	6	10.0 5.7 6.1	白色細砂粒、黒色鈹物粒を含む。還元焰。灰色。	高台は杯部底径よりやや内側につく。体部は直線的に若干開く。底部は右回転糸切り後周辺は高台貼付ナデ。	P19・21 写図 5
蓋 須恵器	口縁部一 部欠損	7	17.7 3.8 4.4 (鉦径)	白～灰色細砂粒、黒色鈹物粒を少量含む。還元焰。灰白色	天井部は若干平坦面をもち、口縁部屈曲際はややくびれる天井部回転ヘラケズリ。	P25・フク土 写図 5

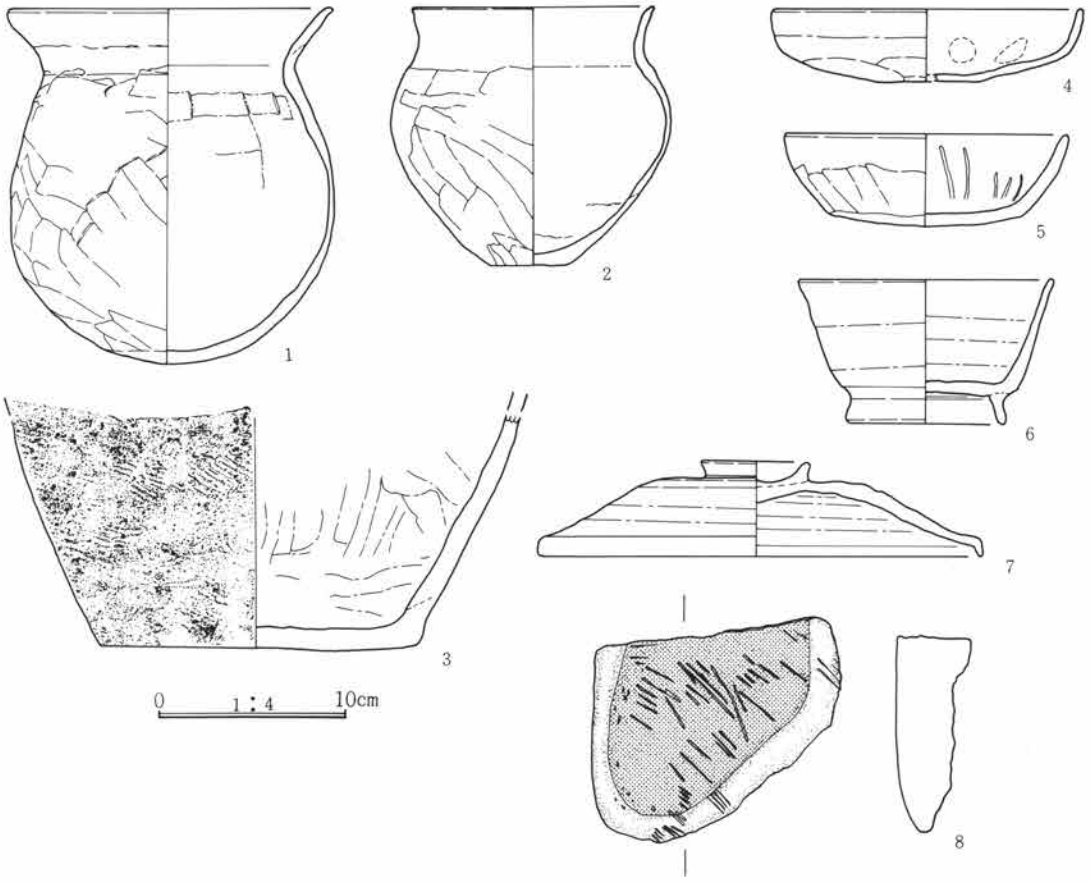
69号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磨石	8	7.8	9.8	2.4	310	粗粒安山岩	欠損品。トーン部磨面。細かい擦痕有。	S 2 写図26

71号住居址遺物観察表

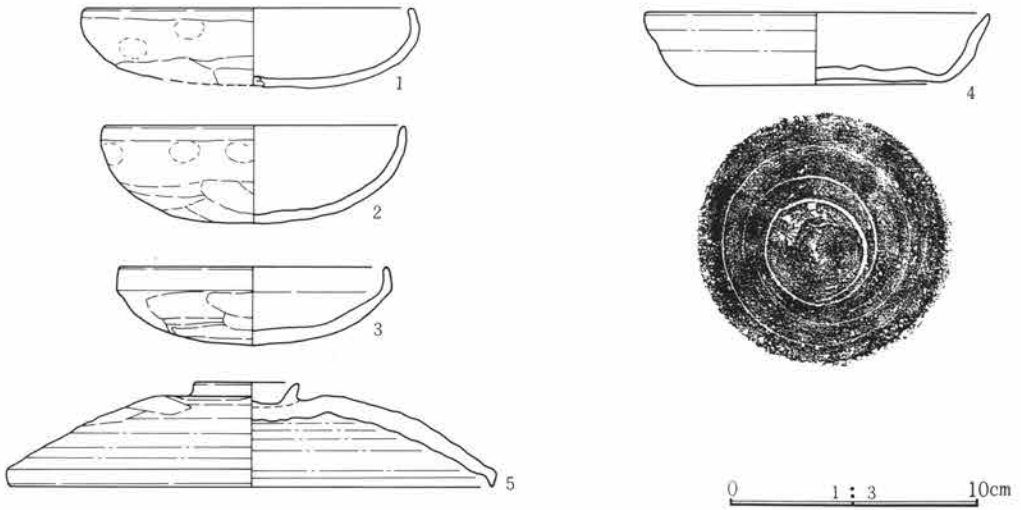
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	口縁部～ 底部迄	1	13.4 3.0 ●	白～黒色、角閃石の細、粗砂粒を含む。焼成普通。にぶい橙色。	丸底、体部～口唇部まで内湾する。口縁部横ナデ、体部は指ナデ、底部はヘラケズリ。	P23・フク土
杯 土師器	口縁部～ 体部一部 欠損	2	12.2 3.9 ●	白～黒色の細、粗砂粒を含む焼成普通。にぶい橙色。	丸底、体部は内湾する。口縁部横ナデ、体部はヘラケズリの単位のような稜もみえるがその上に指によるナデ、底部はヘラケズリ。	P13・16・71 写図 5
杯 土師器	完形	3	10.6 3.1 ●	白～黒色の細、粗砂粒を含む焼成普通。橙色。	丸底、口縁部はやや内傾気味体部は口縁部際までヘラケズリ後、軽いナデか不明瞭、内面横ナデ。	P16 写図 5
杯 須恵器	口唇部所 々欠損	4	13.8 2.9 9.8	少量の灰色細砂粒を含む。還元。灰白色。	器高が低い。底、体部の境は丸みをもつ。口唇部に向って器肉が薄くなる。底部は右回転ヘラケズリ。	P19 写図 5
蓋 須恵器	口唇部所 々欠損	5	19.0 4.1 4.1 (鉦径)	白～灰色細、粗砂粒、少量の黒色鈹物粒を含む。還元。灰白色。	細い輪状のツマミ、口縁部は垂直に折れ、端部は薄くシャープである。	P14 写図 5

第2節 竪穴住居址出土遺物



69住

71住



第22図 69号、71号住居址出土遺物

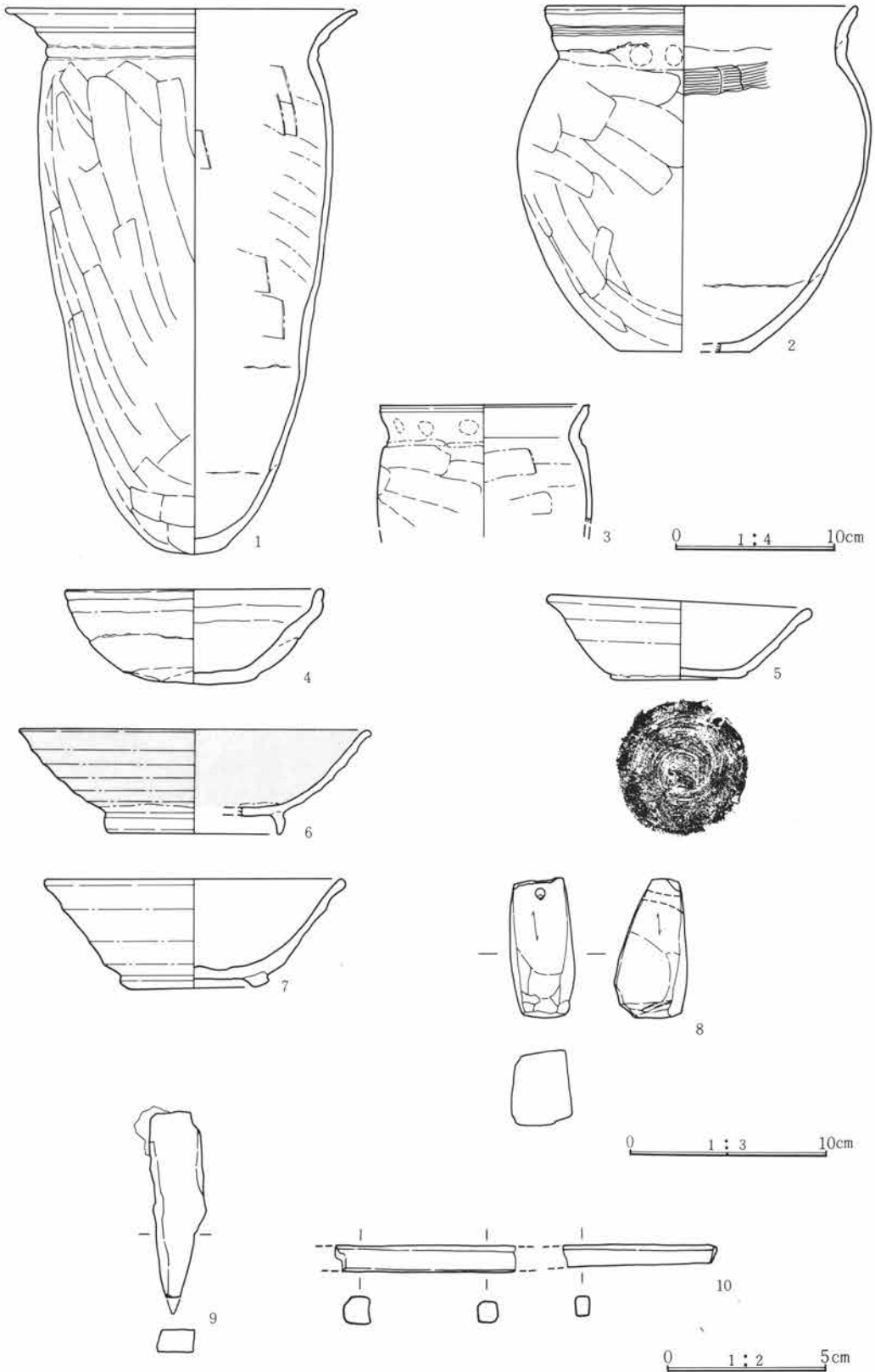
第3章 出土した遺物

70号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
長甕 土師器	胴部中～ 下部欠損	1	21.9 34.2 4.6	白～黒色、石英、角閃石の細粗砂粒を含む。焼成普通。にぶい黄橙色。	胴部上位にややふくらみをもち、口縁部は大きく開く。中にナデによる弱い段をもつ外面胴部上位頸部際左横方向ヘラケズリ、以下右斜め下方向へのヘラケズリ。内面横方向ヘラナデ。底部無調整。	P34・41・43・58・67・77・89
甕 土師器	口縁部～ 底部欠損	2	19.7 21.7 8.8	白～灰色、褐色細、粗砂粒、細礫を含む。焼成普通。にぶい赤褐色。	器高が低く、底径が大きい。口縁部は直線的に開き、口唇部に一条の沈線が巡る。外面胴部上位左横方向、中位斜め左上、下位右斜め下方向のヘラケズリ。内面ヘラナデ。	P31・37・42・44・72・73・75・77・79・83
小型甕 土師器	口縁部～ 胴中位欠損	3	13.2 (7.5) —	白～灰色、雲母の細砂粒を含む。焼成普通。明赤褐色、明赤灰色。	器肉は厚手、頸部は強くくびれ、指頭痕が明瞭。口唇部は一条の沈線が巡る。外面胴部左横方向のヘラケズリ、内面ヘラナデ。	P63・68
杯 土師器	口縁部一 部欠損	4	12.1 4.4 ●	白～灰色、赤褐色、角閃石の細、粗砂粒を含む。赤橙色。	全体的に凸凹しており、歪みがある。外面体部はほとんど調整が行なわれず、粘土紐の接合痕が明瞭にみられる。底部は一方ヘラケズリ。内面は横ナデ。	P91・93 写図5
杯 須恵器	口縁部～ 体部一部欠損	5	12.5 3.8 6.4	白～灰色、赤褐色の細、粗砂粒を含む。酸化焰。にぶい褐色。	比較的薄手、口縁部やや外反する。底部は糸切りの中心が中央にある。	P98 写図5
椀 灰釉陶器	口縁部～ 高台部欠損	6	(16.3) 4.8 (8.1)	僅かに白色細砂粒を含む。還元。堅緻。灰色、釉はオリープ灰色。灰白色。	器肉は比較的薄手、口縁部は若干外反する。高台は稜の弱い三ヶ月高台。調整は丁寧、重ね焼痕あり。釉は刷毛塗り	P69 写図5
椀	口縁部～ 高台部欠損	7	(14.2) 5.1 (7.0)	白色細砂粒と少量の小礫、中礫を含む。酸化焰。橙色。	比較的薄手、体部は直線的、口縁部は僅かに外反。底部は右回転糸切り、高台は低く雑	P97 写図5

70号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	8	6.5	3.1	3.5	90	砥沢石	五面を研ぎ面としている。紐穴貫通。	3 写図30
くさび?	9	6.5	1.2	0.7	35.2	鉄	頭部欠損。先端部が欠損。断面長方形。	24
釘	10	(10.6)	0.9	0.7	20.0	鉄	頭部、中程を欠損。断面四角形。	25



第23図 70号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

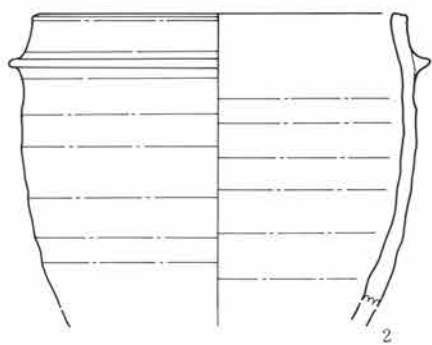
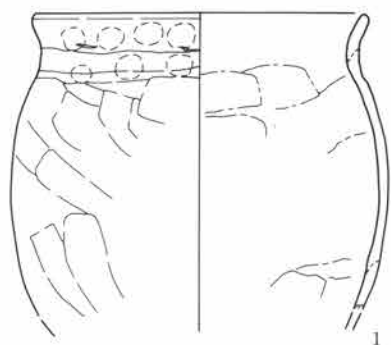
72号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部～ 胴部中位 1/3	1	(18.0) (15.5) —	白～黒色の細、粗砂粒を含む 焼成普通。にぶい褐色。	器肉は厚手、口縁部は僅かに 「コ」の字形態が残るが、外 反する。指頭痕が明瞭。外面 胴部上位は左横方向、中位左 斜め上方向、下位は右斜め下 方向ヘラケズリ。内面横方向 ヘラナデ。	P24・34・35・43・44・ カマド
羽 釜	口縁部～ 胴部中位 1/3	2	(20.2) (15.5) —	白～灰色、雲母、角閃石の細 粗砂粒を含む。還元焰。酸化 焰気味。淡黄色。	ロクロ調整。	P27・28・35・36
杯	口縁部一 部欠損	3	13.5 6.0 6.4	白～灰色、雲母、角閃石の細 砂粒、灰色細礫を含む。酸化 焰。暗灰黄色。	体部は深く、下位はややふく らみをもつ。内面体部立ち上 りは明瞭。底部は右回転糸切 り未調整。	P22 写図5
椀 須恵器	口縁部～ 体部1/2と 高台部欠 損	4	(14.4) (4.3) —	白～灰色、角閃石の細、粗砂 粒を含む。還元焰。軟質。灰 色。	体部は直線的、口縁部はやや 外反気味。底部は高台貼付時 のナデ、中心に糸切り痕が残 る。	P31・33

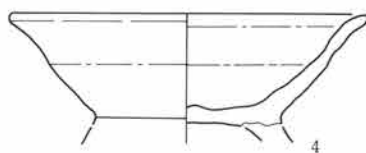
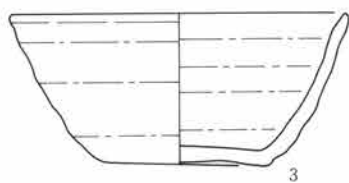
73号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
段 皿 灰釉陶器	口縁部一 部欠損	1	11.6 2.5 6.8	微量の黒色粒を含む。還元焰 灰白色。無釉。	内面の段は僅か、内底面は1/2 程回転ナデ、中央は丸くナデ る。外面はぬた痕が残る。底 部は右回転糸切り未調整。内 面底部に墨の痕跡がある。口 唇部一部に僅かにスス附着。	P23 写図5
皿	口縁部一 部欠損	2	10.1 2.5 5.1	白～灰色の細砂粒を多く含む 還元焰。酸化焰気味。浅黄橙 色。	体部は外反気味に開く。底部 は静止糸切り未調整。	P15 写図5
皿	口縁部～ 体部1/2欠 損	3	10.3 3.0～1.7 6.0	白～灰色、角閃石の細砂粒を 多量に含む。還元焰。軟質。 灰色。	体部立ち上がりは丸みをも つ。歪みが著しい。底部は静 止糸切り未調整。	P1 写図5
軒丸瓦	軒丸部1/2 残存	6	9.4 14.4 2.9	細かい砂粒、φ1～6mmの小 石を含む。胎土やや緻密で、 焼成良。黄褐色。	単弁4葉と思われる。内面粘 土紐痕を残す。横位のナデ整 形。外面横位のヘラ整形。	P22
軒丸瓦	軒丸部1/2 残存	7	12.6 6.7 2.2	細かい砂粒、φ1～6mmの小 石を含む。胎土はやや緻密で 焼成良。赤褐色。	単弁4葉と思われる。内面粘 土紐痕を残す。横位のナデ整 形。外面横位のヘラ整形。	P10
平瓦	破片	8	16.4 10.7 1.6	細かい砂粒、φ1～10mmの小 石を含む。胎土やや緻密。焼 成良。にぶい赤褐色。	上面は布目、板痕を残す。外 面はヘラによる整形。側面は ていねいに面取りする。	P9

72住

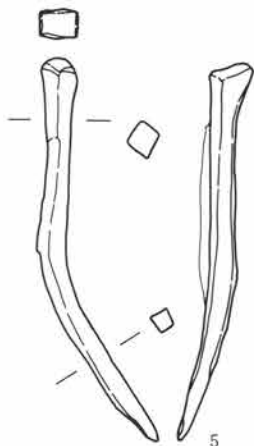
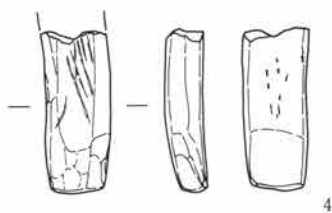
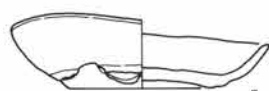
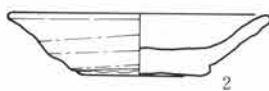
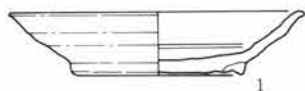


0 1:4 10cm



0 1:3 10cm

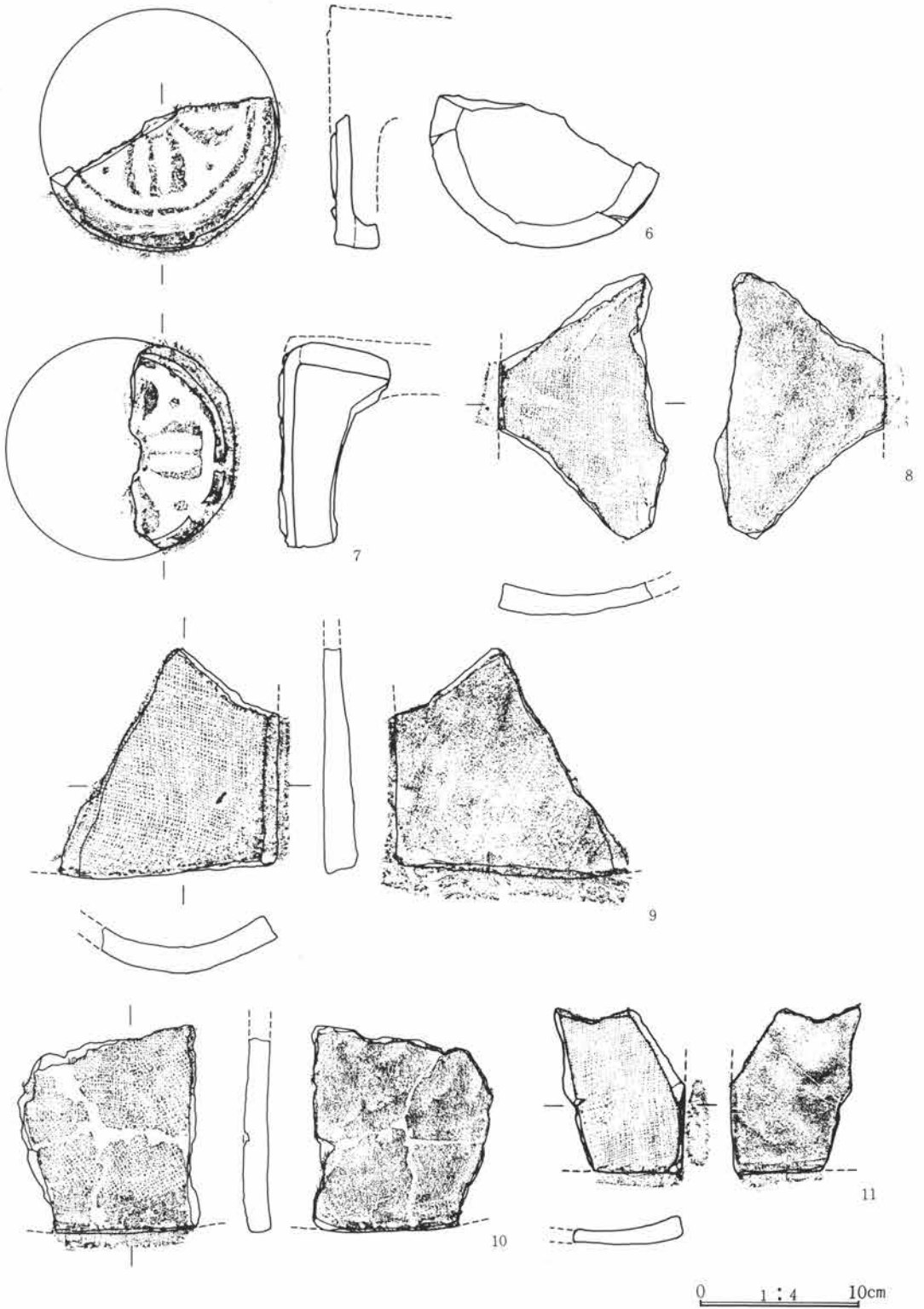
73住



0 1:3 10cm

0 1:2 5cm

第24図 72号、73号住居址出土遺物



第25図 73号住居址出土遺物

第2節 竪穴住居址出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
平瓦	破片	9	14.2 13.7 2.1	細かい砂粒、 $\phi 1\sim 10$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい赤褐色。	上面は布目を残す。外面はヘラによる整形。側面はていねいに面取りする。	P 8
平瓦	破片	10	12.7 11.3 1.6	砂粒、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。二次焼成を受けヒビが入る。赤褐色。	上面は布目を残す。外面はヘラによる整形。側面はていねいに面取りをする。	P 4・7・9
平瓦	破片	11	10.3 8.1 0.9	砂粒、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。スス付着。にぶい黄褐色。	上面は布目を残す。外面はヘラによる整形。側面はていねいに面取りをする。	P 2・5

73号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	4	6.5	2.6	1.6	46	砥沢石	全面研ぎ面。上部欠損。	12 写図30
釘	5	11.0	0.7	1.0	21.0	鉄	完形。中程で曲がる。断面四角形。	13

74号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯須恵器	口縁部～底部欠	1	(12.6) 3.3 (7.3)	少量の白色細砂粒、細かい黒色鉾物粒を多量に含む。還元焰。灰白色。	口縁部は外反気味、内面底部の凸部がすれている。底部右回転糸切り未調整。	P 1

75号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	口縁部～底部欠	1	(10.5) (3.3) ●	白～黒色の細、粗砂粒を含む焼成普通。明褐色。	丸底、口唇部まで内湾する。口縁部横ナデ、体部に無調整帯があり、底、体部ヘラケズリ。	P60
杯須恵器	口縁部一部欠損	2	10.4 4.3 ●	白色細砂粒、黒色鉾物粒を含む。還元。灰白色。	底部周辺が丸みをもって立ち上り、体部～口唇部は直線的。底部は手持ちヘラケズリ後ナデか磨減か不明瞭。	胎土は3と同じ。セットで焼かれた可能性が強い。P64 写図5
蓋須恵器	完形	3	11.0 3.3	白色細砂粒、黒色鉾物粒を含む。還元。灰白色。	口縁部の回転ナデで、弱い段がつく。天井部は手持ちヘラケズリの後、回転ナデ調整。	P63 写図5

75号住居址遺物観察表

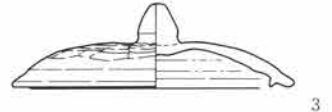
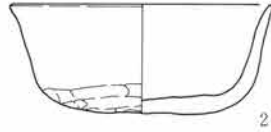
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
不明釘	4	6.0	1.8	0.2	5.1	鉄	薄い板状のもの用途不明。	52
紡錘車	5	4.5	0.6	0.7	3.1	鉄	頭部欠損。断面四角形。	31
紡錘車	6	14.0	0.7	0.6	8.8	鉄	紡錘車の軸部。断面四角形。中空になる。	25

74住

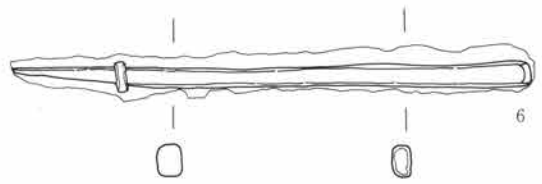
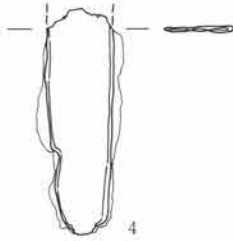


0 1:3 10cm

75住

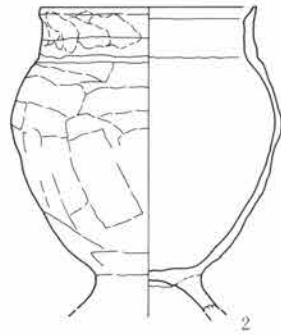
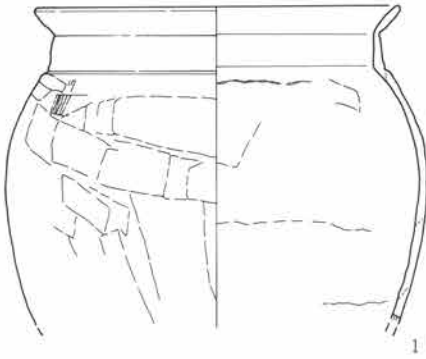


0 1:3 10cm

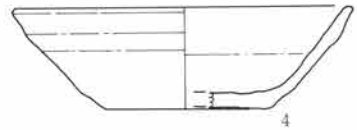
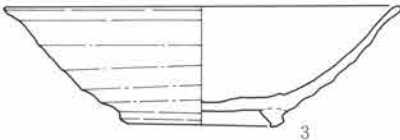


0 1:2 5cm

76住



0 1:4 10cm



0 1:3 10cm



第26図 74号、75号、76号住居址出土遺物

76号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部～ 胴部中位 迄	1	(19.3) (16.6) —	白～黒色の細、粗砂粒、少量の赤褐色粒、雲母を含む。焼成普通。にぶい橙色。	口縁部は、「コ」の字状を呈す。外面胴部上位は左横方向、中位は左斜め上方向、下位は右斜め下方向ヘラケズリ。内面、横方向ヘラナデ。	P15・16・17・30・44・45・47・フク土・8・13・14・22
台付甕 土師器	胴部一部 台部端部 を欠く	2	11.6 (16.3) —	白～灰色の細砂粒を含む。焼成普通。橙色、外面胴部暗赤褐色。	口縁部内面は明瞭な「コ」の字胴部は長く、器壁がやや凸凹している。外面胴部上位は左横方向、以下は右斜め下方向のヘラケズリ。	P32・33・フク土・30
椀 須恵器	口縁部迄 欠損	3	15.7 4.7 6.1	白～灰色の細、粗砂粒を含む還元焰。灰白色。	器内は薄手、体部外面はロクロが強い。高台は雑な作りで端部は、丸みのあるものでナデつけられ、凸凹している。	P26・27 写図5
杯 須恵器	口縁部～ 底部迄	4	(13.2) 4.1 (6.2)	白色細、粗砂粒、黒色鉍物粒を含む。還元焰。灰色。	体部は直線的、口縁部が若干肥厚する。底部は回転糸切り未調整。	P3・5・71・92・フク土

77号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部～ 胴部中位 迄	1	(26.0) (21.7) —	雲母、石英細砂粒、白～灰色細、粗砂粒を含む。焼成普通にぶい橙色。	口縁部内外面横ナデ。外面胴部頸部際左横方向、上半部左斜め上方向、下半部は下方向へのヘラケズリ。内面胴部横方向ヘラナデ。	P1・12・14・17
杯 土師器	口縁部・ 底部の一 部欠損	2	14.5 (3.6) ●	角閃石、白～灰色細、粗砂粒を含む。焼成普通。にぶい赤褐色。	丸底、口縁部内外面横ナデ。外面底部中央一方向、周辺横方向ヘラケズリ、口縁部との間に1cmの無調整帯をもつ。	P26・カマド内・フク土
杯 土師器	口縁部迄 欠損	3	13.9 4.4 ●	角閃石、白～灰色細、粗砂粒を含む。焼成普通。にぶい橙色。	丸底、口縁部内外面横ナデ。内面体部横ナデ。外面底部一方向、体部は左横方向へのヘラケズリ。	P22・カマド内
杯 土師器	口縁部～ 体部迄	4	(17.8) (5.5) ●	角閃石、白色、褐色細、粗砂粒を含む。焼成普通。にぶい橙色。	丸底、口縁部内外面、内面体部横ナデ。外面体部は左横方向ヘラケズリ。口縁部下1cm程無調整帯あり。	P1・2・15・20

78号住居址遺物観察表

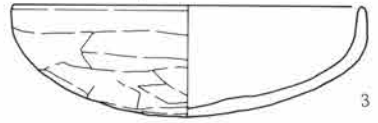
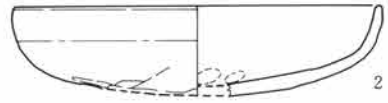
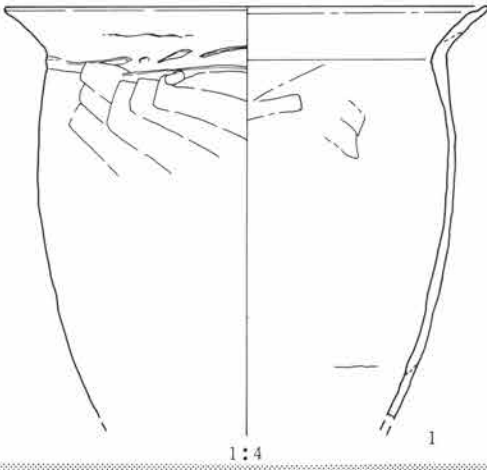
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	口縁部～ 体部一部 欠損	1	12.5 3.1 9.0	白～灰色細、粗砂粒、少量の角閃石を含む。焼成普通。橙色。	平底、体部はやや丸みをもち口縁部は若干反する。口縁部横ナデ、体部無調整、指頭痕を残す。底部はヘラケズリ。	P1 写図5

第3章 出土した遺物

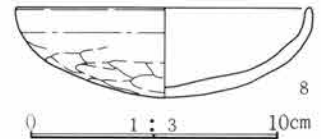
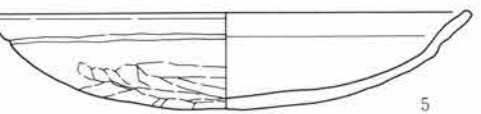
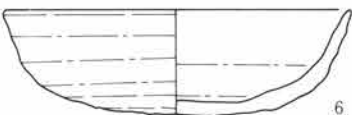
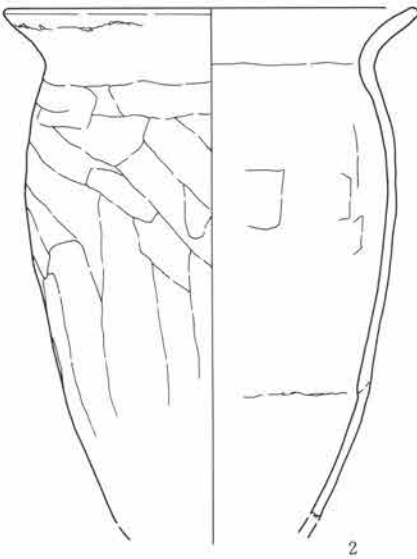
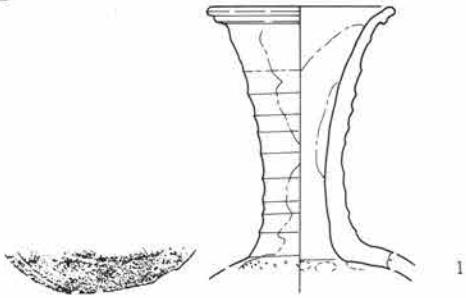
79号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
長頸瓶 須恵器	口縁部～ 頸部	1	(9.5) (13.8) —	白色細砂粒を多く含む。還元 堅緻。灰色。	肩部には弱い列点刺突文が巡 る。残存部分で二条。内面肩 部は指頭痕が残る。	P 6
長壺 土師器	口縁部～ 胴部下位	2	22.0 27.2 —	雲母、石英細砂粒、白～灰色 細、粗砂粒を含む。焼成普通 橙色。	胴部上位に若干ふくらみをも ち、頸部との境は段をなす。 頸部は緩やかにくびれ、口縁 部は開く。外面胴部、頸部際 は左横方向、上半部は左斜め 上方向、下半部は下方向への ヘラケズリ。器肉は厚手。	P 44・52・49・53・50・ 30・51・43
長壺 土師器	口縁部～ 胴部下位 1/2	3	(22.7) (28.6) —	白色、褐色細、粗砂粒を含む。 焼成普通。にぶい橙色。	胴部上位にややふくらみをも ち、頸部は胴部のヘラケズリ によって段をなす。口縁部は 外反気味に開く。口縁部横ナ デ。胴部頸部際左横方向、上 位～中位左斜め上方向へ、下 位は下方向へのヘラケズリ。 内面胴部は横方向ヘラナデ。	P 18・46・48・56 カマド内
高台付杯 須恵器	口縁部～ 高台部1/2	4	(17.3) 3.5 (14.4)	白色細砂粒を含む。還元。堅 緻。灰色。	体部は立ち上がり丸みをも ち、体部から口縁部まで直線 的に開く。高台は付高台、断 面角形で、内端部が接地する。 底部は右回転ヘラケズリ。内 面底部には紐作りの痕跡か凹 凸がある。不定方向のナデ痕 あり。	P 61
皿 土師器	体部一部 欠損	5	19.5 3.8 ●	白～灰色、褐色細、粗砂粒を 含む。にぶい橙色。	丸底、体部と口縁部境の稜は 弱く、口縁部は外反する。口 縁部内外面、内面体部横ナデ。 外面底部は一方方向、体部は左 横方向へのヘラケズリ。	P 5・40・55 写図 5
杯 須恵器	口縁部～ 底部1/2	6	13.7 4.1 ●	白色細砂粒、黒色鉱物粒を含 む。還元。堅緻。灰色。	丸底、底部と体部の境は丸み をもち、体部から口縁部は直 線的にやや開く。底部は回転 ヘラケズリ。底部に自然釉が 付着。	P 47・カマド内 写図 5
杯 土師器	口縁部一 部欠損	7	11.6 4.3 ●	少量の白色、褐色の細砂粒。 夾雑物が少なく、やや粉っぽ い胎土。焼成普通。橙色。	丸底、口縁部は内湾、体部は 深い。口縁部内外面、内面体 部は横ナデ。底部はヘラのあ たった痕跡があるが不鮮明。 外面底～体部はヘラケズリ の上をナデしていると思われ不鮮 明。	P 42 写図 5
杯 土師器	口縁部一 部欠損	8	11.6 3.5 ●	白色、石英、角閃石の細砂粒 を含む。焼成普通。内面明赤 褐色、外面褐灰色、灰黄褐色	丸底、口縁部は直立気味。口 縁部内外面横ナデ。外面底部 中央は一方方向、周辺横方向 のヘラケズリ、体部上位はナデ	P 65 写図 6

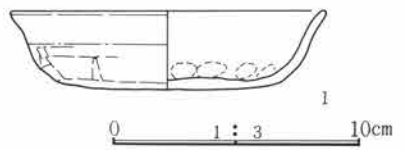
77住



79住



78住



0 1:4 10cm

第27図 77号、78号、79号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

80号住居址遺物観察表

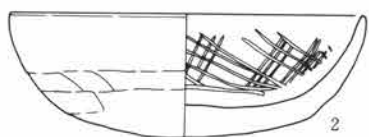
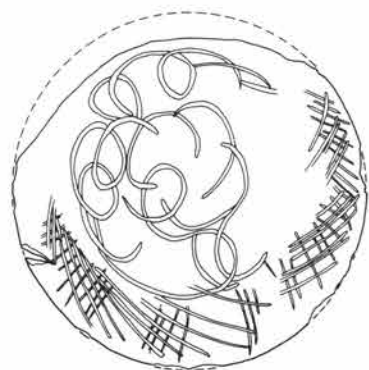
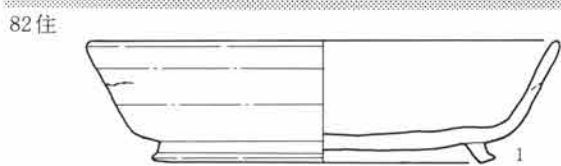
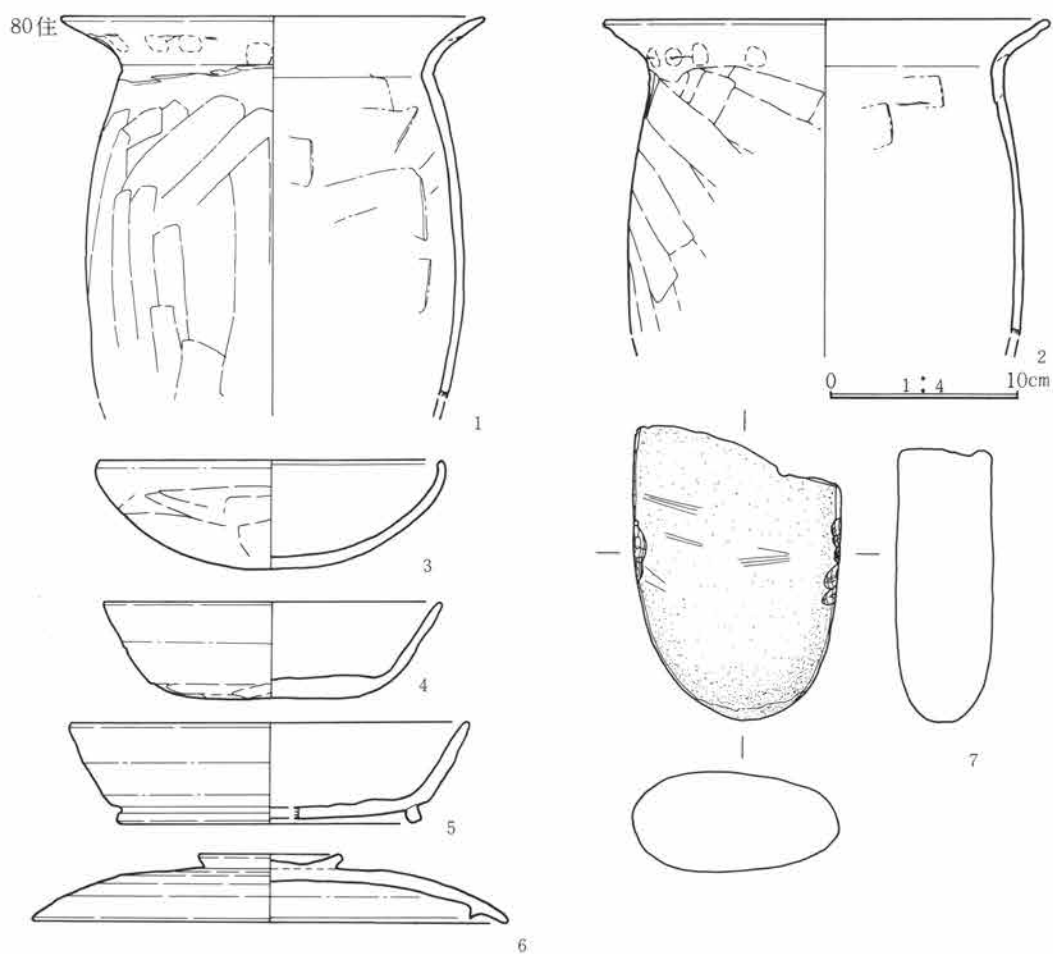
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
長甕土師器	口縁部～胴部中位	1	22.7 (20.2) —	白～灰色、角閃石細、粗砂粒を含む。焼成普通。橙色。	胴部はややふくらみを持ち、頸部は明瞭にくびれ、口縁部は外反気味に大きく開く。外面胴部上位は右斜め横方向、以下右斜め下方向へのヘラケズリ。内面横方向ヘラナデ。	P23・25・26・28
長甕土師器	口縁部～胴部中位	2	23.6 (16.7) —	白～灰色の細、粗砂粒を含む。焼成普通。明褐色。	胴部はややふくらみを持ち、頸部はゆるやかにくびれる。外面胴部上位は左斜め上方向へのヘラケズリ。内面は横方向ヘラナデ。	P20・21・23・29
杯土師器	口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	3	13.6 4.3 ●	白～灰色細、粗砂粒を含む。焼成普通。橙色。	丸底、口唇部まで内湾する。口縁部横ナデ。底、体部はヘラケズリだが、体部の口縁部際は部分的に無調整を残す。	P7・13・14・24・33・50 写真6
杯須恵器	口縁部～体部一部欠損	4	13.4 3.8 ●	白色細砂粒を含む。還元。堅緻。灰色。	底部周辺は丸みを持ち、体部～口唇部まで直線的、底部は手持ちヘラナデ。	P3 写真6
高台付杯須恵器	口縁部～高台部 $\frac{1}{4}$	5	(16.0) 4.0 (12.2)	白色細砂粒、黒色鉍物粒を少量含む。還元。堅緻。灰白色	体部は直線的、高台は底径のやや内側に付く。底部は回転ナデ。	P15 写真6
蓋須恵器	鈕～口縁部 $\frac{1}{4}$	6	(19.0) 2.7 5.7(鈕径)	白色細砂粒、黒色鉍物粒を含む。	鈕は大形で偏平、カエリの断面は三角形、端部はシャープ。天井部～体部は回転ヘラケズリ後、部分的に回転ナデ。	P26・31 写真6

80号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磨石	7	10.7	8.2	3.8	572	粗粒安山岩	側縁、端部に敲打痕。細い擦痕有。	S10 写真26

82号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
高台付杯須恵器	口縁部～高台 $\frac{1}{2}$	1	18.5 4.7 13.8	白色細砂粒、赤褐色粒を含む還元焰。酸化焰気味。にぶい黄橙色。	体部は直線的、高台は底径の内側に付く。底部は回転ヘラケズリ。	P9 写真6
杯土師器	口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 欠損	2	13.9 4.9 ●	少量の白～灰色、赤褐色細、粗砂粒を含み、素地は密だがやや粉っぽい。焼成良好。橙色。	丸底気味、底、体部の境は弱い稜をなす。内面体部に斜格子状暗文、底部は腕線状暗文が施される。外面底、体部はヘラケズリの後ナデられ、単位は不明瞭。	P84 写真6



0 1:3 10cm

第28図 80号、82号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

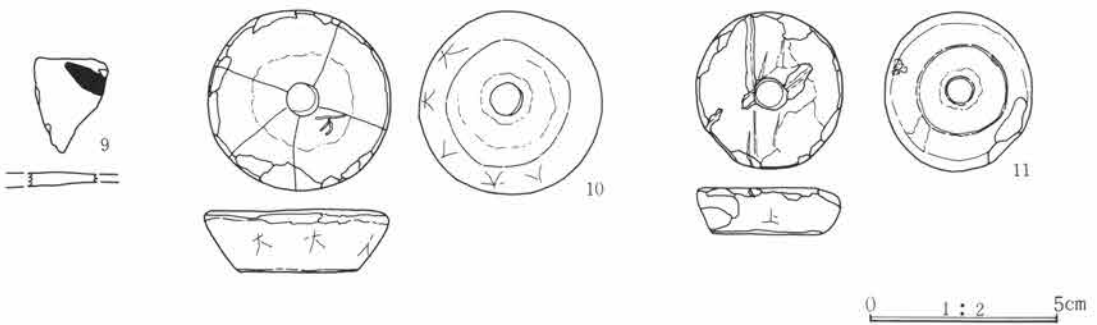
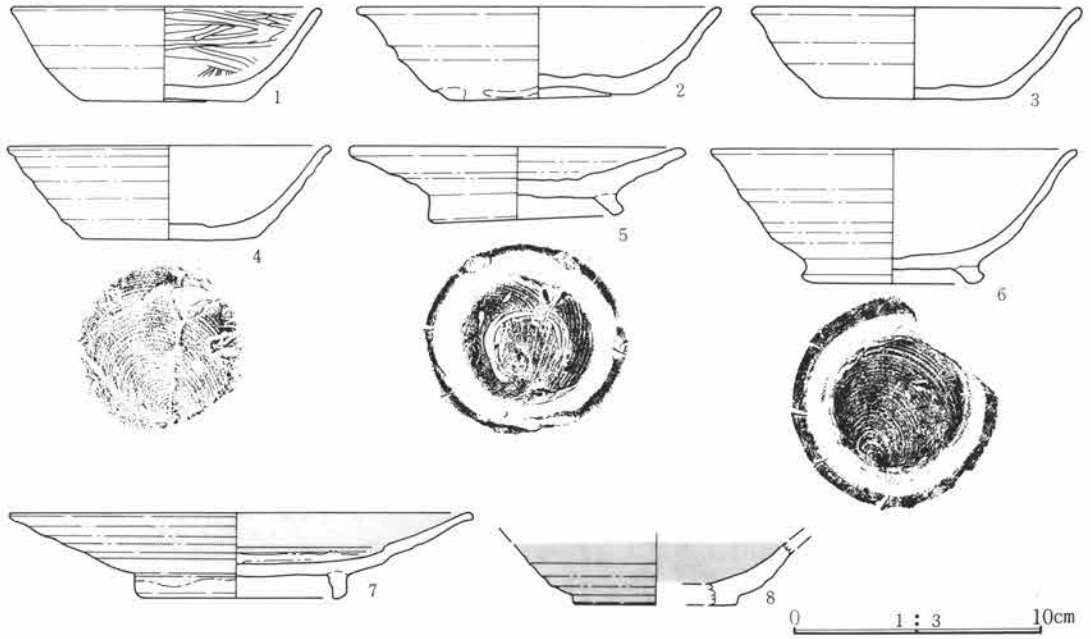
81号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 黒色土器	口縁部～ 底部%	1	12.5 3.7 6.6	白～灰色細、粗砂粒を含む。 酸化焰。内面黒色処理。外一に ぶい橙色、内一黒色。	体部は中位がややふくらみをもつ。 内面は凹凸がなく、な だらかに調整される。底部は 右回転糸切り未調整。	P146・148・149 写図6
杯 須恵器	口縁部～ 底部%	2	14.5 3.7 7.5	白～灰色細、粗砂粒と黒色鈹 物粒を含む。還元焰。灰色。	口縁部は僅かに外反気味、外 面体部はロクロ目が顕著。底 部は右回転糸切り、部分的に ヘラナデやヘラの当たった痕跡 があり雑。	P2・120 写図6
杯 須恵器	口縁部～ 底部%	3	(13.2) 3.6 (7.5)	白色細砂粒、細礫を含む。還 元焰。灰白色。	体部はややふくらみをもって 開く。底部は右回転糸切り未 調整。	P3・フク土
杯 須恵器	口縁部～ 底部%	4	(12.7) 3.7 (7.0)	白～灰色細、粗砂粒を含む。 還元焰。軟質。灰白色。	体部は直線的に開き、口唇部 が若干外反する。底部は右回 転糸切り未調整。	P2・13・フク土
皿 須恵器	口縁部～ 体部%欠 損	5	13.2 2.7 7.7	少量の白～灰色の細砂粒を含 む。還元焰。灰白色。	器肉は全体的に厚手。底部は 右回転糸切り後、周辺部は高 台貼付時のナデ、高台端部は 丸い棒状のものを当てた痕跡 が数ヶ所みられる。	P127 写図6
椀 須恵器	口縁部～ 体部%欠 損	6	(14.6) 5.3 7.3	白色細砂粒、赤褐色粗砂粒を 少量、微細な雲母を多量に含 む。還元焰。やや軟質。灰色 底部内外面黒色。	器肉は比較的薄手、口縁部は 外反する。底部は右回転糸切 り、高台断面は角形。	P55・144 写図6
段 皿 灰釉陶器	口縁部% 欠損	7	18.2 3.3 8.4	少量の白色細砂粒を含む。還 元。灰白色。釉はぶい黄色。	調整は丁寧、底部は回転ナデ 釉は刷毛塗、外面体部全面、 内面体部と底部中央部が施釉 される。内面底部に重ね焼痕 あり。	P26 写図6
椀 緑 釉	底部細片	8	(2.3) (6.5)	砂かい砂粒を含む。胎土はや や粗密。焼成あまり良くない 釉は淡緑色。灰白色。	ロクロ整形。ロクロ目弱い。 高台貼り付け。	フク土
杯 土 師 器	小破片	9	— —	細かい砂粒を含む。胎土やや 緻密。焼成良。明赤褐色。	小破片のため整形不明。墨書 土器。	書体読めず。 掘方P2

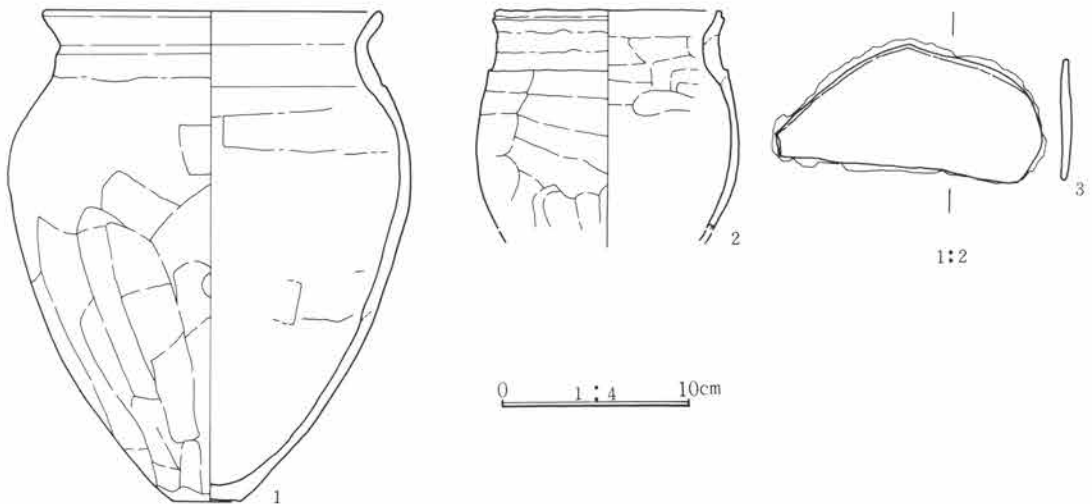
81号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材 質	特 徴	出土位置・写真図
紡 錘 車	10	4.8	4.8	1.5	56.4	蛇紋岩	側縁の一部欠損。側縁に線状痕。文字有。	P147 写図33
紡 錘 車	11	4.1	4.2	1.2	35.3	蛇紋岩	側縁の一部欠損。側縁に線状痕。文字有。	東付近 写図33

81住



83住



第29図 81号、83号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

83号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部～ 底部 $\frac{1}{2}$	1	18.0 26.0 3.6	白色細砂粒、褐色粗砂粒、細礫を含む。焼成普通。にぶい赤褐色。	口縁部は厚手の崩れた「コ」の字状を呈す。外面胴部は左横方向、中位左斜め上、下位右斜め下方向へのヘラケズリ。内面は横方向ヘラナデ。	P 68・91・95・カマド内 P 100・カマド内 P 97・カマド P 89
小形甕 土師器	口縁部～ 胴部下位 $\frac{1}{2}$	2	(12.2) (11.5) —	白色、石英細砂粒を少量、褐色粗砂粒を多く含む。焼成普通。にぶい赤褐色。	器肉は厚く、口縁部は崩れた「コ」の字状を呈す。外面胴部上半は左横方向、下位は下方向へのヘラケズリ。	P 70・72・76・77

83号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
不明	3	7.3	3.2	0.3	18.2	鉄	薄い板状になる。断面は平。用途不明。	5

85号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	口縁部僅かに欠損	1	14.4 5.1 ●	白～灰色、角閃石の細、粗砂粒を含む。焼成普通。橙色。	丸底、口唇部まで弱く内湾する。口縁部横ナデ、外面体部口縁部際是指押え、ナデ、底体部はヘラケズリ後、軽くナデている。	P 59 写図 6

86号住居址遺物観察表

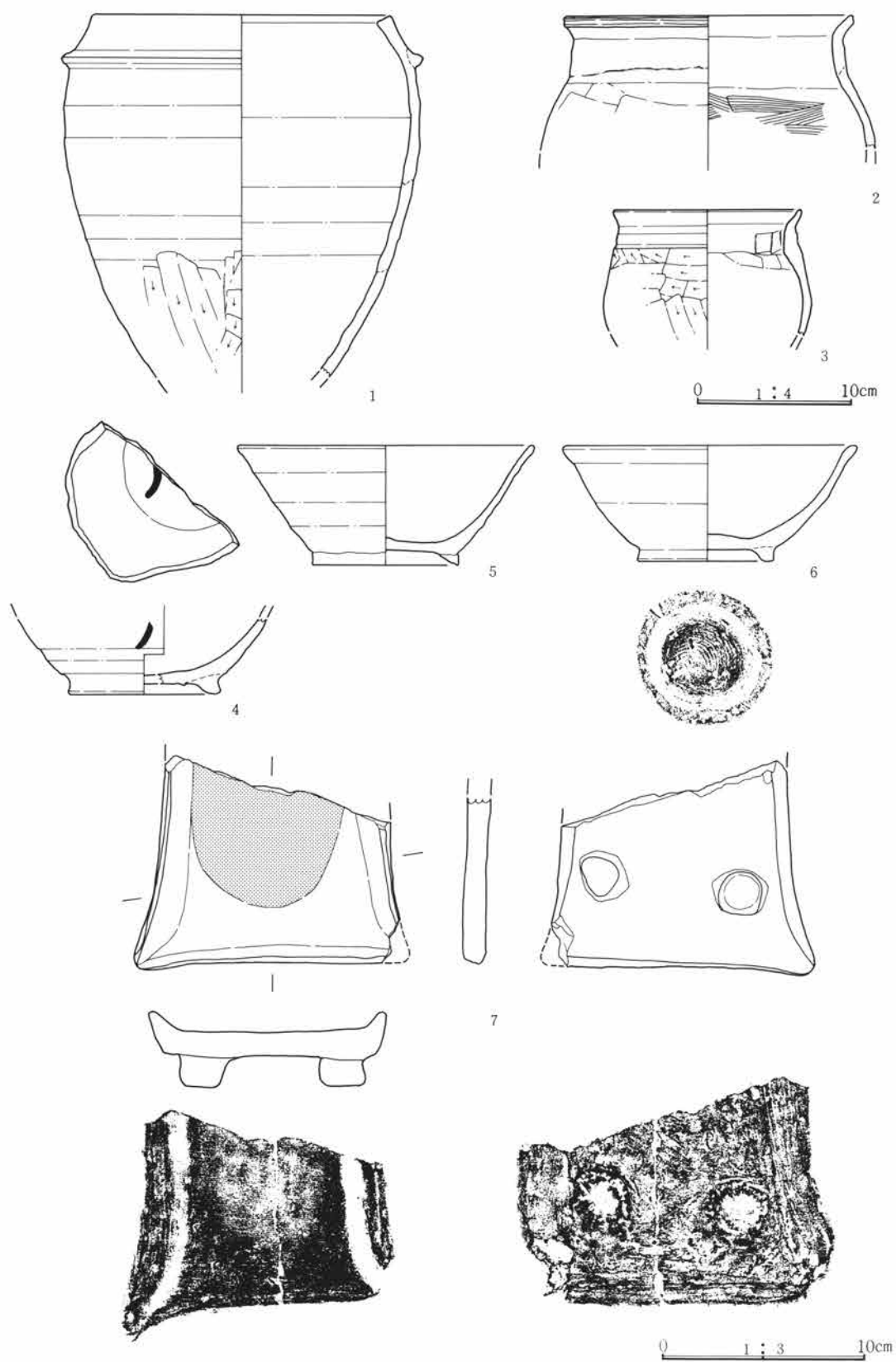
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部～ 胴部中位 $\frac{1}{2}$	1	21.2 (18.7) —	白～黒色、赤褐色細、粗砂粒を多量に含む。焼成普通。明赤褐色。	胴部は上位にふくらみをもち頸部はゆるやかにくびれて外反する。口唇部に一条の沈線が巡る。頸部に指頭痕、外面胴部上位は左横方向、中位は左斜め上方向へのヘラケズリ。	P 4・38 カマド内 P 31・36・37・39・34
杯 土師器	口縁部～ 体部 $\frac{1}{2}$ 欠損	2	12.1 2.7 9.2	白～灰色、角閃石の細、粗砂粒を含む。焼成普通。にぶい赤褐色。	ほぼ平底、周辺部がやや丸みをもつ。体～口縁部は直立気味で、口唇部が若干内湾する。口縁部横ナデ、体部は無調整底部はヘラケズリ。	P 3・26

84号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁部～胴部下位 1/2	1	(18.9) (23.3) —	白～灰色、赤褐色の細、粗砂粒を含む。酸化焰。橙色。	胴部上半に丸みをもち、口縁部まで内湾する。口唇部は平坦面をもち、内傾する。下半は底部に向ってすぼまる。ロクロ調整、外面胴部下半は下方向へのヘラケズリ、ナデ。	P112・113・114・117・118・120・121・122・123・124・125・128・130・135・158
甕土師器	口縁部～胴部上位 1/2	2	18.3 (9.2) —	白色、褐色、石英の細、粗砂粒を含む。普通。赤褐色。	器肉は厚手、口縁部は崩れた「コ」の字状を呈す。口唇部は端部も厚く、一条の沈線が巡る。外面胴部は左横方向へのヘラケズリ、内面横方向のヘラナデ。	P122・124・129・149
小型甕土師器	口縁部～胴部上位 1/2	3	(12.0) (8.0) —	白～灰色細砂粒、褐色粗砂粒を含む。普通。にぶい赤褐色	器肉は厚手、口縁部は崩れた「コ」の字状を呈す。胴部は左横方向ヘラケズリ、下半は下方向ヘラケズリ。内面横方向ヘラナデ。	P108・139
椀須恵器	胴～底部 1/2残。	4	— (3.6) (7.9)	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。灰白色。	体部は内湾ぎみに立ち上る。ロクロ整形。ロクロ目強い。底部右回転糸切り、高台貼り付け後ナデを施す。	P146 墨書土器。文字不明。
椀須恵器	口縁部～体部 1/2欠損	5	(14.3) 5.7 7.0	白～灰色細、粗砂粒、細礫を含む。還元焰。軟質。灰色。	体部はほぼ直線的に開く。底部は右回転糸切り、高台は端部に弱い沈線が巡る。	P13・66・70 写真6
椀須恵器	口縁部～体部 1/2欠損	6	14.2 5.0 6.5	白～灰色細、粗砂粒、細礫を含む。還元焰。酸化焰気味。灰色、にぶい黄橙色。	体部は僅かにふくらみをもち口縁部は外反する。底部は右回転糸切り、高台は角形で端部の幅が不定。	P124・128・158 写真6
風字硯須恵器	1/2	7	長さ 10.1 巾 12.8 厚さ 1.2	白～灰色、石英細、粗砂粒を含む。還元焰。灰色。	硯背は円柱状の短い脚が2本残っている。陸部はよく磨れている。硯背はヘラナデ。	P96・151 写真6

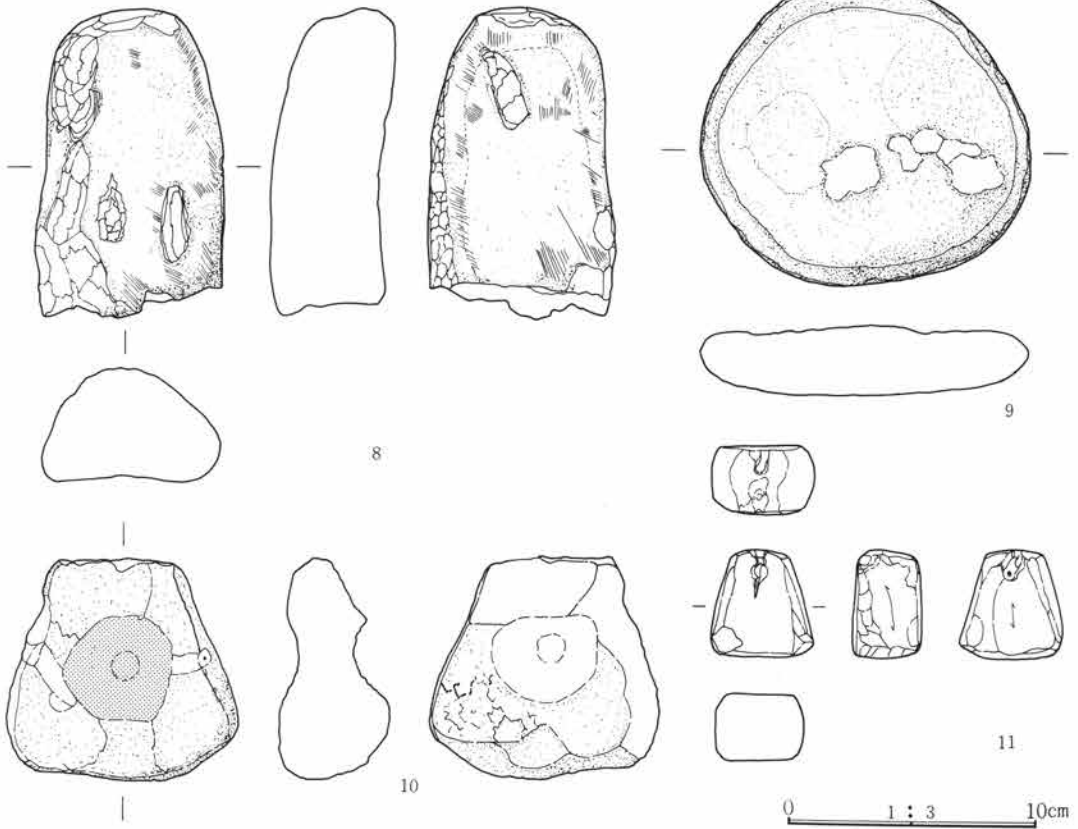
84号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磨石	8	12.1	6.9	4.3	650	粗粒安山岩	側縁部剥離。一部欠損。	S6 写真28
磨石	9	12.2	13.3	2.8	699	粗粒安山岩	表面一部剥離。	S1 写真28
凹石	10	8.6	8.1	2.3	230	軽石(二ツ岳)	両面に凹部を持つ。表面磨痕有。	S2 写真28
砥石	11	4.3	3.7	2.7	70	砥沢石	全面を研ぎ面としている。紐穴が斜めに貫通。	P97 写真30
釘	12	5.8	0.6	0.5	2.9	鉄	頭部と先端を欠損する。若干湾曲する。	136

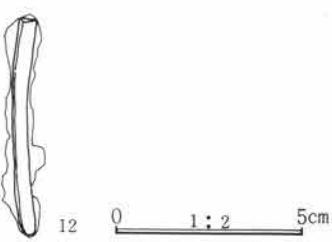


第30図 84号住居址出土遺物

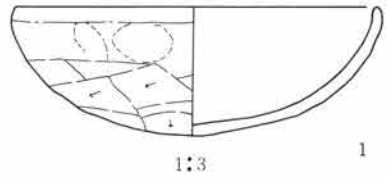
84住



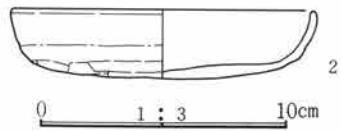
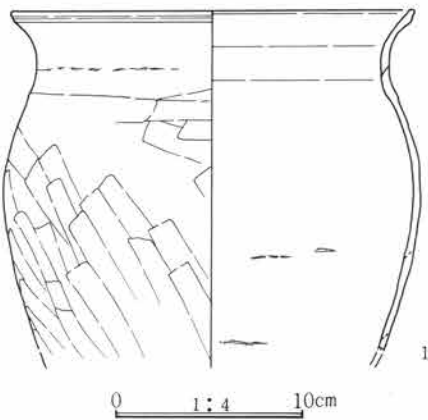
□



85住



86住



第31図 84号、85号、86号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

87号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
小型甕土師器	口縁部～胴部上位	1	15.8 (6.4) —	白～灰色・角閃石の細砂粒を含む。焼成普通。橙色、黒褐色。	頸部はやるやかにくびれ外反する。口縁部には輪積痕が明瞭、外面胴部上位は左横方向ヘラケズリ。	P67・77・82・83・84
小型甕土師器	口縁部～胴部上位%	2	15.1 (6.3) —	白～灰色、角閃石の細砂粒を含む。焼成普通。明赤褐色、黒褐色。	口縁横位のナデ。内面は横位のヘラケズリ。外面縦位のヘラケズリ整形。	形態、胎土とも1と類似 P2・76
杯土師器	口縁部～底部%	3	12.2 3.5 ●	白～灰色細、粗砂粒を含む。焼成普通。橙色。	丸底、口縁部まで内湾する。口縁部横ナデ、体部は無調整底、体部ヘラケズリ。	P45・48・43・52 写図6
杯須恵器	口縁部～肩部%	4	(12.8) 4.0 7.2	白色細砂粒を含む。還元焰。灰白色。	体部は直線的に開く。底部は右回転糸切り未調整。	P3
杯須恵器	体部下位～底部	5	— (1.7) 7.9	白～黒色細砂粒を含む。還元焰。灰白色。	底部は円板状に突出する。体部は丸みをもつ。底部は回転ヘラ切り後回転ナデ。	P15 写図6
杯土師器	口縁部～底部%	6	13.5 3.7 ●	白～灰色細、粗砂粒を含む。焼成普通。明赤褐色。	丸底、体部は丸みをもち、口縁部は直立気味。口縁部横ナデ、体部無調整、底部ヘラケズリ。	P31・33・35・36
杯須恵器	口縁部～底部%	7	(14.0) 4.2 8.0	白～灰色細、粗砂粒を含む。還元焰。灰黄色。	体部は下半がややふくらみをもち、口縁部が若干反る。底部回転ヘラ切り。	P75・79・81・フク土
皿灰陶陶器	口縁部～体部一部欠損	8	13.4 3.05 6.2	微量の黒色鉍物粒を含む。還元焰。灰白色、釉は淡黄色、明褐灰色。	器肉はやや薄手、口唇部は僅かに外反。高台は稜はなく丸みをもつ。調整は丁寧だが、外面体部は若干回転ヘラケズリの痕を残す。底部は回転ナデ、釉は刷毛塗り。	P25 写図6

87号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
銅	滓9	2.7	2.6	1.6	20.2	銅	緑青を生じる。	P6
銅	滓10	2.4	1.8	1.5	8.3	銅	緑青を生じる。	P6
銅	滓11	2.2	2.2	1.5	8.6	銅	緑青を生じる。	P6
銅	滓12	2.0	1.4	0.8	4.8	銅	緑青を生じる。	P6
銅	滓13	1.2	0.8	0.6	2.0	銅	緑青を生じる。	P6

88号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部～ 胴部中位	1	(19.4) (16.7) —	白色、褐色細、粗砂粒、細礫を含む。焼成普通。赤褐色。	器肉は非常に厚く、口縁部は崩れた弱い「コ」の字状を呈する。口縁部横ナデ、外面体部上位左横方向、中位左斜め上方向ヘラケズリ。内面胴部横方向ヘラナデ。	P23・33・34・36・41・45・52
小形甕	口縁部～ 底部 $\frac{1}{4}$	2	(12.0) 13.7 (7.1)	白色、長石の粗砂粒を多量に含む。還元焰。軟質。にぶい黄橙色。	胴部上位にふくらみをもち、頸部は強くくびれ、口縁部は短くひらく、口唇部は弱い角形。ロクロ調整、外面胴部下位は斜め下方向へのヘラケズリ。	P46・47・フク土
椀 須恵器	口縁部～ 体部 $\frac{1}{4}$ 欠損	3	(13.1) 5.6 5.4	白～灰色細、粗砂粒を含む。還元焰。軟質。灰白色。	器肉は薄手で、歪みが著しい。底径は小さく、高台貼付時に全面回転ナデ。	P35

89号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
剣形品	1	4.6	1.4	0.5	5.2	滑石	側縁に自然面を残す。紐穴貫通する。	P60 写図33

90号住居址遺物観察表

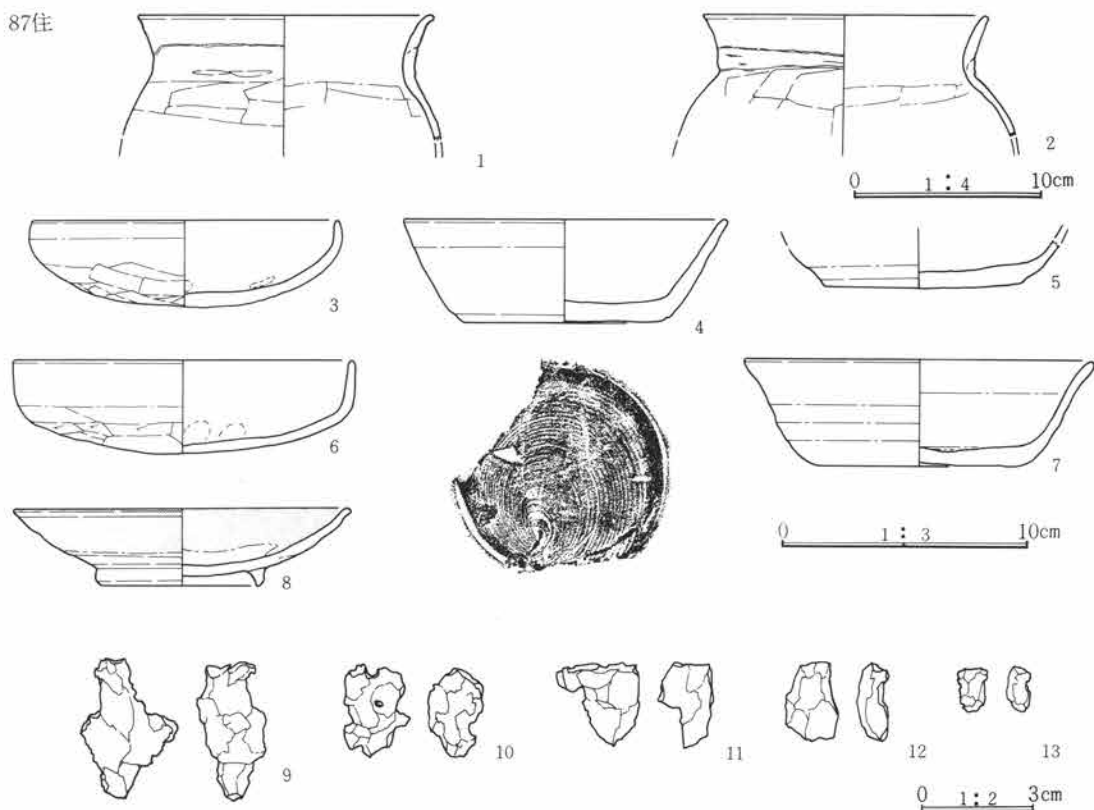
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀 須恵器	口縁部 $\frac{1}{4}$ と高台欠損	1	16.0 (4.9) 6.0	白～灰色細砂粒を多く含む。還元焰。灰白色。	器肉は厚く、体部はやや丸みをもつ。底部は右回転糸切り高台を欠く。	P1・2 写図7

91号住居址遺物観察表

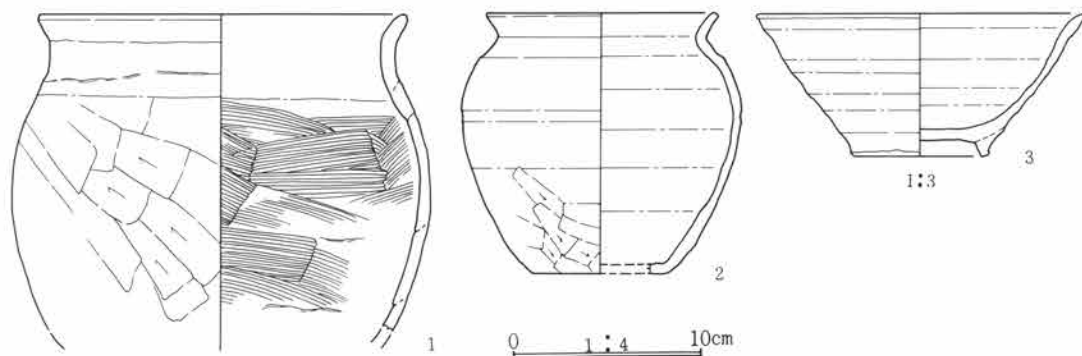
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 須恵器	胴部破片	1	— — —	白色、長石の粗砂粒、細礫と褐色の細礫を含む。還元焰。やや酸化気味。外—灰色、内にぶい橙色。	内面横ナデ、外面はナデだが単位は不明瞭。	P68
羽釜	口縁部～ 胴部下位 $\frac{1}{4}$	2	(19.2) (23.6) —	白～灰色、褐色、雲母の細砂粒を含む。酸化焰。明黄褐色黒色。	胴部下位が丸みをもち、胴部は直線的に開いて、鏝の部分で内傾する。ロクロ調整、外面胴部下位は下方向へのヘラケズリ、ヘラナデ。	P61・62・65・74・76
杯 須恵器	底部 $\frac{1}{2}$	3	— (1.0) (6.2)	白色細、粗砂粒、細礫を含む。還元焰。灰色。	底部は右回転糸切り未調整。外面底部に墨書あり。	P56

第3章 出土した遺物

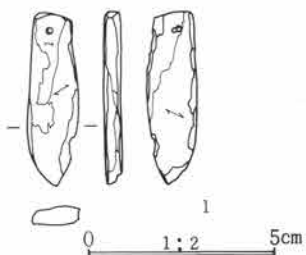
87住



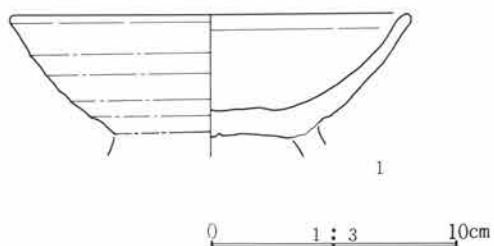
88住



89住



90住



第32図 87号、88号、89号、90号住居址出土遺物

93号住居址遺物観察表

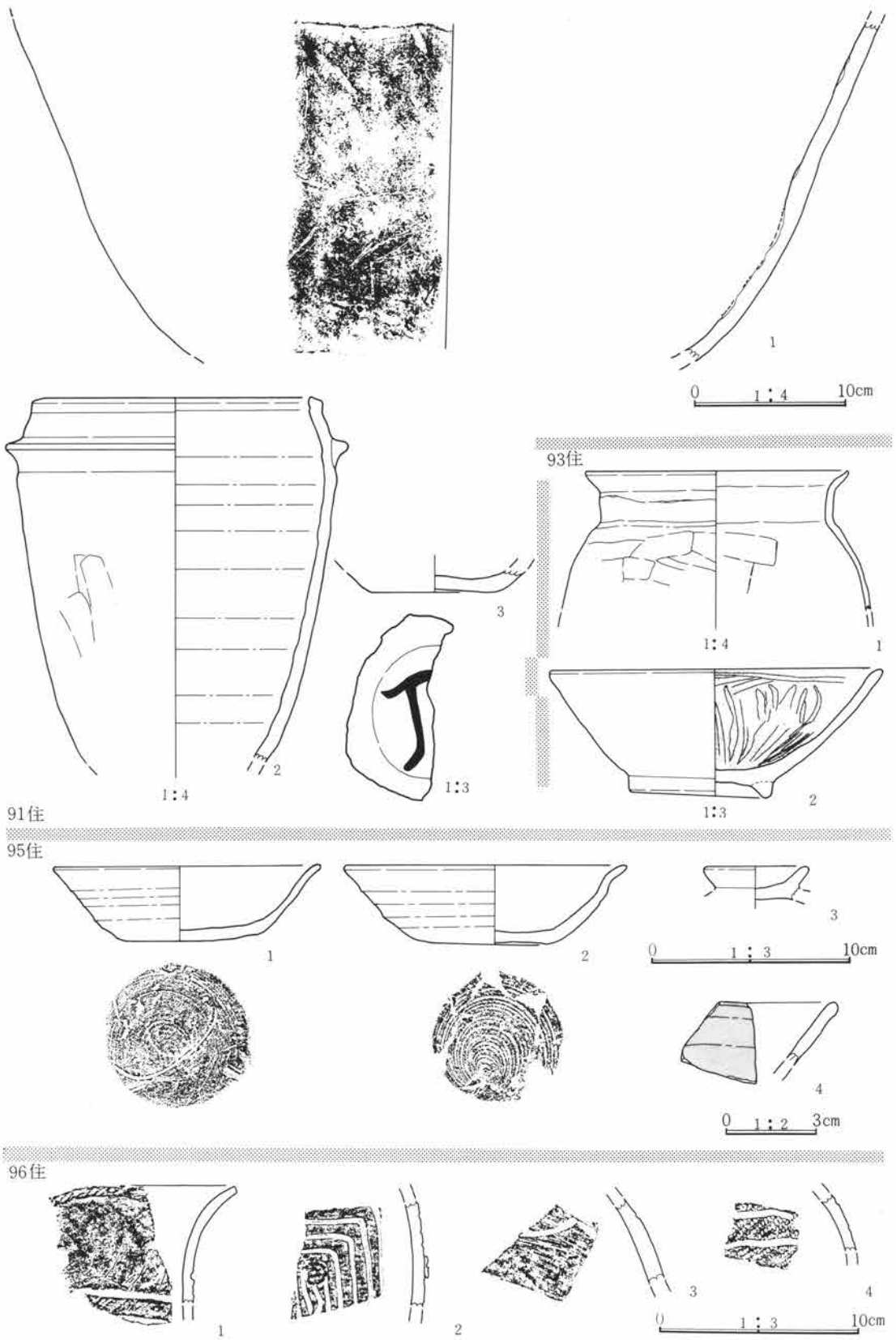
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部～ 胴部上位 % ₅	1	(17.4) (9.1) —	灰色、褐色、角閃石細砂粒を含む。にぶい橙色。	口縁部は明瞭な「コ」の字状を呈するが、口縁部の直立部分が僅かに外傾している。口唇部には弱い沈線が一条巡る。	P49・51・52
椀 黒色土器	口縁部～ 体部%欠 損	2	(16.3) 6.1 7.1	白～灰色・褐色細砂粒を含む酸化焰。内面黒色処理。橙色	体部から口唇部は僅かに内湾気味に開く。内面は口縁部横方向、体部は底部周辺から放射状、底部は不明瞭なヘラミガキ。底部は回転糸切り。	P32 写図7

95号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 須恵器	口縁部一 部欠損	1	13.6 3.7 6.5	多量の白色細砂粒と僅かな黒色鉱物粒を含む。還元焰。灰色。	底部周辺から体部は丸みを持ち、若干すれている。口縁部は僅かに外反する。底部は右回転糸切り未調整。	P26 写図7
杯 須恵器	口縁部～ 底部% ₅	2	14.0 3.7 5.8	白～灰色細、粗砂粒と僅かに中礫を含む。還元焰。褐灰色	体部は僅かに丸みを持ち、口縁部は外反する。底部は右回転糸切り未調整。	P2 写図7
蓋 須恵器	鈕のみ	3	5.2 (1.6) —	白色細砂粒を含む。還元焰。灰オリーブ色。	ロクロ調整。	P41
椀 緑 釉	小破片	4	— — —	細かい砂粒を少量含む。胎土やや緻密。焼成普通。淡黄色。釉は淡黄緑色。	ロクロ整形。小破片のため、調整等不明。	フク土

96号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺	口縁～口 頸部% ₅ 残	1	— — —	細かい砂粒を多く含む。にぶい褐色。	口縁が外反する長頸壺。頸部に2本の沈線で文様帯を区画し縄文を施す。口唇部にも同じ縄文原体を施文。縄文原体は単節 RL。その他の内外面は良く磨かれている。	P29 写図27
甕	胴部破片	2	— — —	胎土は緻密で細かい砂粒が極少量含まれる。内面に赤色塗彩黒褐色。	棒状の工具によるコの字重ね文を施す。円形付文の中心と外縁に刺突が施される。	P35 写図27
壺	胴部破片	3	— — —	黒色砂粒を多く含む。にぶい褐色。	内面ヨコナゲ、外面ハケ目後ミガキを施す。沈線による連弧状の文様を施文。	P14 写図27
壺	胴部破片	4	— — —	黒色砂粒を含む。にぶい黄橙色。	地文に単節 RL の斜行縄文、二条の沈線を施す。内面は良く磨かれている。	P42 写図27



第33図 91号、93号、95号、96号住居址出土遺物

第2節 竪穴住居址出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	胴部破片	5	— —	砂粒を多く含む。にぶい黄橙色	櫛歯状工具による波状文。内外面とも磨かれている。	フク土 写図27
甕	肩部破片	6	— —	砂粒を含む。にぶい黄橙色。	外面ハケによる縦位の調整、内面は横位のナデ。	フク土 写図27

96号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
剥片	7	7.5	2.6	0.6	22	雲母石英片岩	先端部欠損。側縁部に細い調整痕。	P 5 写図27

97号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部～ 胴部上位	1	18.8 (12.5) —	白色細砂粒、多量の褐色粗砂粒を含む。焼成普通。赤橙色	器肉は厚手、口縁部は「コ」の字の形態はまったく留めずつよくくびれて外反する。	P41
皿 須恵器	口縁部～ 高台 $\frac{1}{2}$	2	(14.2) 2.6 (8.2)	少量の白色細砂粒を含む。還元焰。灰白色。	体部は比較的短く、外反する。内面底部に重ね焼痕あり。	P179

97号住居址遺物観察表

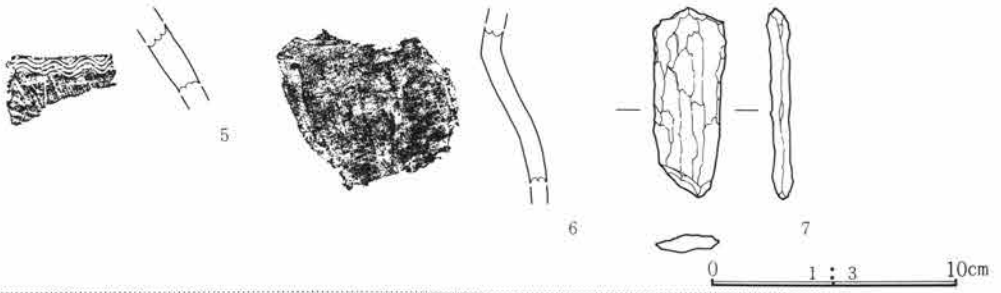
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	3	5.3	4.0	2.8	82	砥沢石	全面研ぎ面。底面に線刻。紐穴貫通。	P204 写図7

98号住居址遺物観察表

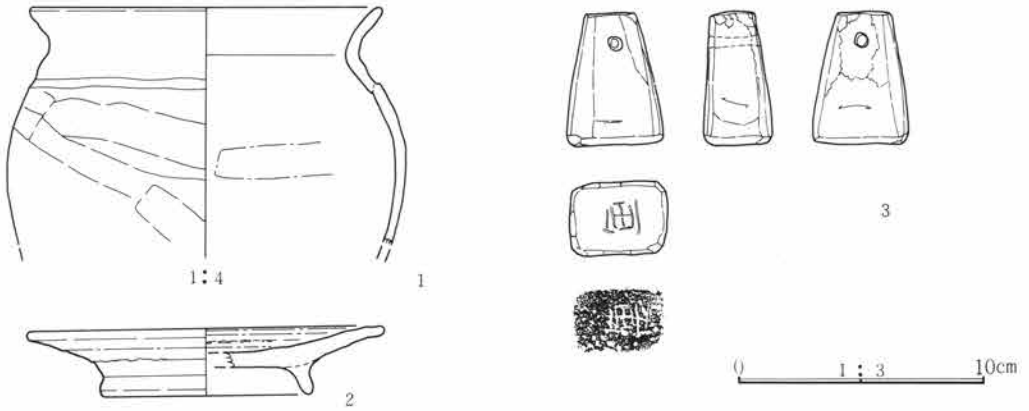
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
足釜	$\frac{1}{2}$ 、脚部は欠損	1	(22.1) 10.5 (14.5)	白～灰色、赤褐色の細、粗砂粒を多く含む。酸化焰。明黄褐色。	脚部は欠くが、三ヶ所に盛り上った部分が確認できる。口縁部から胴部上位は回転ナデ 外面胴部は上方向へのヘラナデ、底部は軽いヘラナデ。	P26・33・34・35・36・ 44・45
甕	口縁部～ 胴部上位 $\frac{1}{2}$	2	(19.5) (15.2) —	白～灰色、長石の細、粗砂粒を多量に含む。橙色。	胴部から口唇部まで直線的に開き、口唇部は平坦面をもつ 鐙の端部は角形。ロクロ調整	P17・37
椀 須恵器	口縁部一部欠損	3	14.1 6.1 6.2	白～灰色の細砂粒を多く含む還元焰。灰黄色。	体部はやや丸みをもち、細かくロクロ目が残る。口縁部はやや外反。高台端部内側に弱い沈線が巡る。	P31 写図7

第3章 出土した遺物

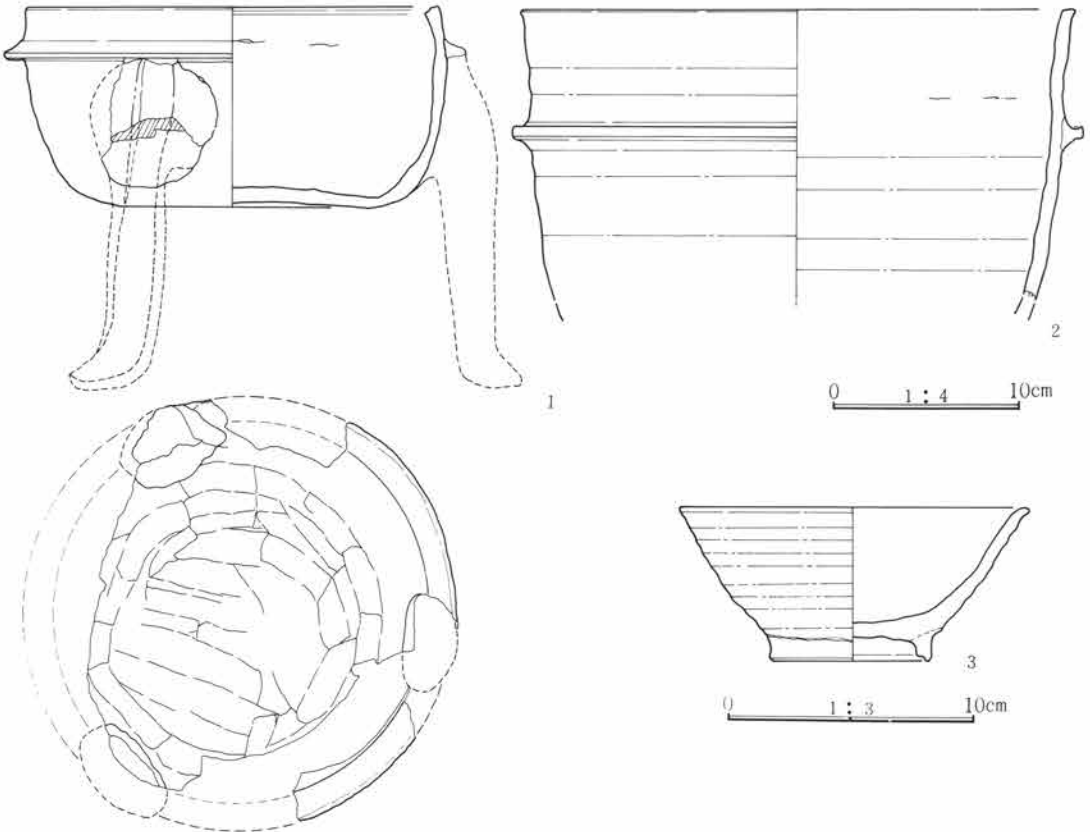
96住



97住



98住



第34図 96号、97号、98号住居址出土遺物

99号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀 黒色土器	口縁部～ 体部小片	1	(17.5) (5.8) —	白～黒色の細砂粒を含む。内 外面黒色処理。黒色、内側は 黒褐色。	体部は丸みをもち、口縁部は 外反する。内外面とも横方向 のヘラケンマ。	P114・123
椀 須恵器	口縁部～ 高台 $\frac{1}{2}$	2	(13.8) (4.7) —	白～灰色細・粗砂粒を含む。 還元焰。軟質。灰黄色。	体部外面はロクロ目が残る。 口縁部は若干外反する。底部 は右回転糸切り。	P50
椀 緑 釉	底部破片	3	— 0.6 5.6	砂粒、 ϕ 1～2mmの小石を含 む。胎土やや緻密。焼成普通 釉は淡黄緑色。	ロクロ整形。その他小破片の ため不明。	P18
段 皿 灰釉陶器	口縁部 $\frac{1}{2}$	4	14.9 (1.7) —	僅かな黒色鉱物粒を含む。還 元焰。灰白色、釉は灰オー プ色。	段は弱い。釉は内面口縁部全 体にかかるが、外面のライン と同じ位置で内面にもみえる ので漬け掛か。調整は比較的 丁寧。	P64・71・95

99号住居址遺物観察表

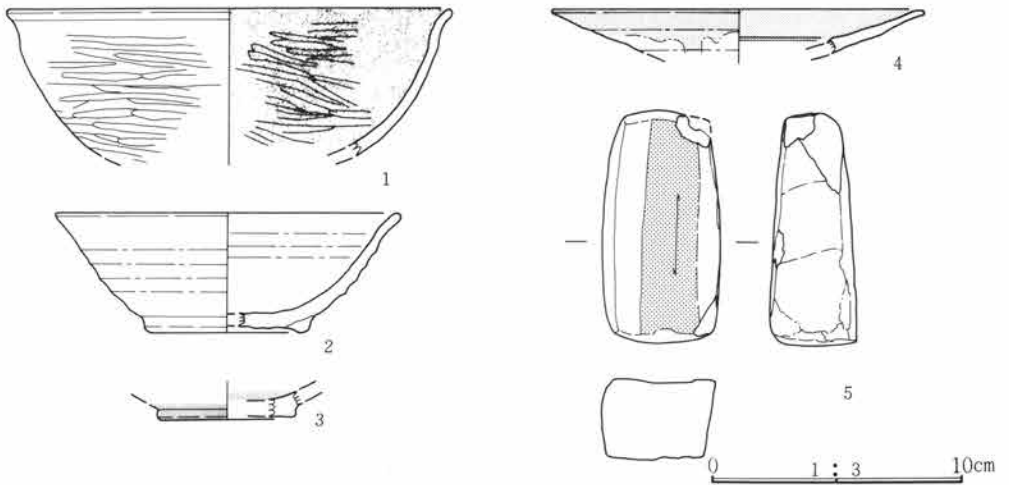
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特 徴	出土位置・写真図
砥 石	5	9.2	4.8	3.5	108	軽石(二ツ岳)	四面研ぎ面としているが一部自然面が残る。	1 写真30

100号住居址遺物観察表

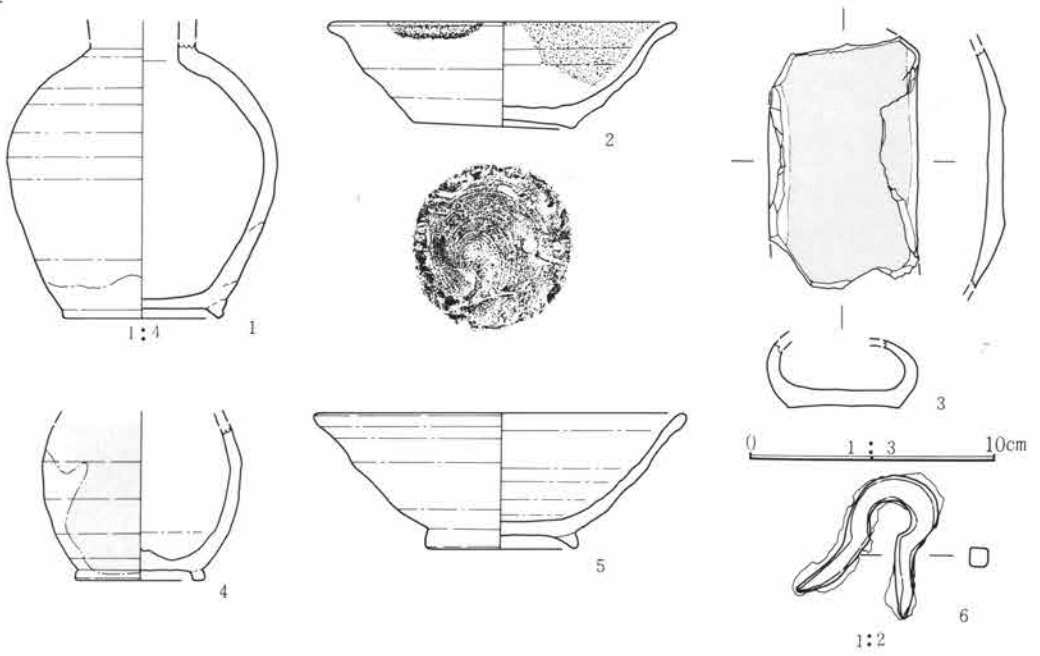
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
長頸壺 須恵器	頸部欠損	1	— (14.7) 8.2	白～灰色細・粗砂粒、3～5 mmの黒褐色円粒を含む。還元 焰。灰白色。	高台から胴部中位まで直線的 に立ち上がり、上半部が丸み をもつ。ロクロ調整。底部調 整はナデか不明瞭。	P1 写真7
杯	口縁部一 部欠損	2	14.0 3.9 6.5	白～灰色細砂粒、雲母を含む 酸化焰気味。明褐色。	体部は直線的に開き、口縁部 が外反する。底部は右回転糸 切り未調整。口縁部 $\frac{1}{2}$ 程ス スが附着する。	P2 写真7
耳 皿 灰釉陶器	口縁部欠 損	3	— (2.7) 4.5	僅かな白色細砂粒、黒色鉱物 粒を含む。還元焰。灰白色、 釉はオリーブ灰色。	底部は右回転糸切り未調整。 体部の折り曲げた部分はナデ 調整。	P3 写真7
小 瓶 灰釉陶器	胴部上位 ～高台 $\frac{1}{2}$	4	— 6.1 5.2	少量の長石細・粗砂粒、黒色 鉱物粒を含む。還元焰。灰白 色、釉は明緑灰色。	胴部はゆるやかに湾曲する。 高台は低い角高台。底部は回 転糸切り後回転ナデ。胴部下 半回転ヘラケズリ。	P95・106
椀 須恵器	口縁部～ 体部 $\frac{2}{3}$ 欠 損	5	(15.0) 5.4 6.1	白～黒色、石英細砂粒を含む 還元焰。軟質。灰白色。	器は体部上位が薄く、口唇部 が肥厚する。体部はやや丸み をもって開く。底部は右回転 糸切り。	P8・10

第3章 出土した遺物

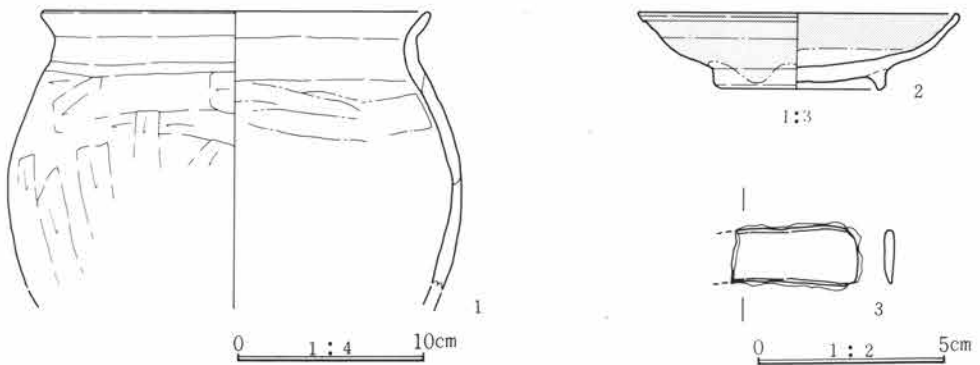
99住



100住



103住



第35図 99号、100号、103号住居址出土遺物

100号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
留金具	6	8.0	0.5	0.5	6.9	鉄	ほぼ左右対象形。先端は尖る。断面四角形。	29

103号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁部～ 胴部中位 欠	1	(20.6) (14.5) —	白色、褐色の細、粗砂粒を含む。焼成普通。にぶい橙色。	器肉は厚手、口縁部は「コ」の字状を僅かに残すが崩れている。外面胴部上位は左横方向、中位は下方向へのヘラケズリ。	P64・66・67・70 カマド内P98
皿 灰釉陶器	口縁部欠 損	2	12.8 3.1 6.9	僅かな黒色鉱物粒を含む。還元焰。灰白色、灰オリーブ色。	体部から口縁部まで内湾気味に開く。体部の調整は比較的丁寧、底部は回転ナデ。釉は漬け掛による施釉。	カマド内P100 カマド内P101 P7 写真7

103号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
不明	3	3.5	1.4	0.3	3.5	鉄	一端を欠損。左側に穿孔痕がある。	82

104号住居址遺物観察表

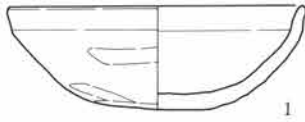
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	口縁部～ 底部欠	1	(12.0) 4.1 (4.6)	白～灰色、褐色、角閃石の細粗砂粒を含む。焼成普通。明赤褐色。	口縁部横ナデ、体部は指頭によるナデで凸凹している。底部は一方方向のヘラケズリ。内面は横ナデ。	P9・30・32

105号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀 黒色土器	口縁部～ 底部欠	1	(24.0) (7.4) (12.1)	白～灰色の細砂粒を少量含む。酸化焰。内面黒色処理、橙色黒色。	体部はやや丸みをもち、口唇部が僅かに外反する。外面体部上半は回転ナデ、下半は回転ヘラケズリの上僅かにヘラミガキ。内面は横方向ヘラミガキ、外面底部は回転ヘラケズリ。	P37・38・41・42 写真7
杯 土師器	口縁部～ 底部欠	2	11.7 3.0 8.4	白～黒色、石英の細、粗砂粒を含む。焼成普通。橙色。	体部立ち上りに丸みをもち、口縁部は外反、口唇部は内湾する。口縁部横ナデ、体部は無調整、底部はヘラケズリ。	P39・45・46
蓋 須恵器	完形	3	14.4 3.4 3.7 (鈕経)	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。灰色。	口縁部は垂直に折れる。内面も屈曲線は明瞭。天井部は回転ヘラナデ。	P38 写真7

第3章 出土した遺物

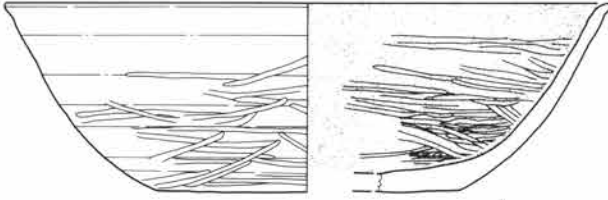
104住



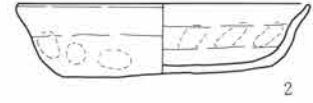
1

0 1:3 10cm

105住



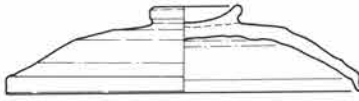
1



2

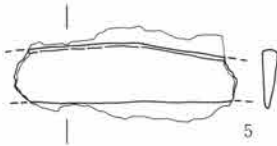


4



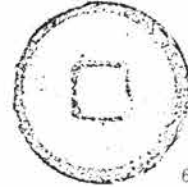
3

0 1:3 10cm



5

0 1:2 5cm



6

0 1:1 3cm

107住

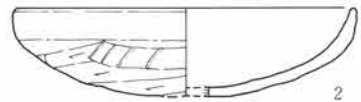


1

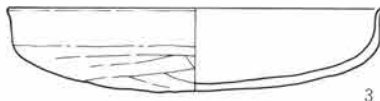
108住



1



2



3



4

0 1:3 10cm

第36図 104号、105号、107号、108号住居址出土遺物

105号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	4	3.7	3.7	1.7	42	砥沢石	四面研ぎ面。両端欠損。	写図30
刀子	5	6.0	1.6	0.5	8.4	鉄	鋒部、茎部を欠損する。刃部の消耗少ない。	P16
和同開弥	6	2.4	2.4	0.2	2.2	銅	若干緑青を生じる。	P28 写図7

107号住居址遺物観察表

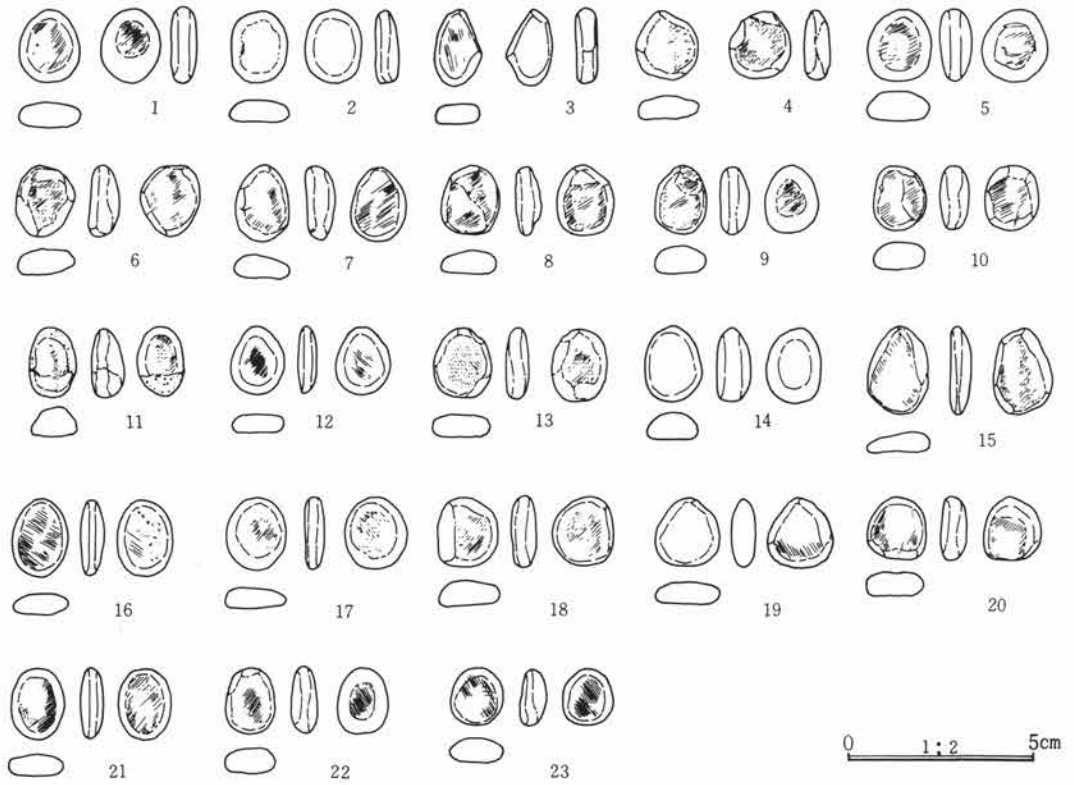
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	口縁部～ 体部 $\frac{1}{4}$ 欠損	1	12.2 2.8 9.5	白～灰色、角閃石の細、粗砂粒を含む。焼成普通。にぶい赤褐色。	平底、体部は内湾気味だが、部分的に口縁部の反り気味のところがある。内面に赤色顔料が若干付着している。	P23 写図7

108号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	口縁部～ 底部	1	(13.8) (3.5) ●	白～灰色、角閃石の細、粗砂粒を含む。焼成普通。にぶい赤褐色。	丸底、体部から口唇部まで内湾する。口縁部横ナデ、体部無調整、底部はヘラケズリ。	P1
杯土師器	口縁部～ 底部 $\frac{1}{2}$	2	(13.8) 3.5 ●	白～黒色、褐色の細、粗砂粒を含む。焼成普通。明赤褐色	丸底、体部から口縁部は内湾する。口縁部横ナデ。体部は僅かな無調整部分があるがヘラケズリ。	P2
杯土師器	口縁部～ 底部 $\frac{1}{2}$	3	(15.0) 3.2 ●	白色、角閃石の細砂粒を含む。焼成普通。橙色。	丸底、体部立ち上がりは丸みをもつが、口縁部は直立する口縁部横ナデ、体部無調整、底部はヘラケズリ。	掘方フク土
小型甕土師器	胴部下位～ 底部	4	— (5.1) 5.6	白～褐色、灰色、雲母の細砂粒を含む。褐色。	小さな平底、体部は丸みをもつ。胴部下位は右斜め下方向底部ヘラケズリ。	P3



第3章 出土した遺物



第37図 109号住居址出土遺物

109号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
基石	1	1.9	1.6	0.7	3.66	石英	白石。	P 3
基石	2	1.9	1.5	0.6	3.28	石英	白石。	P 8
基石	3	2.0	1.25	0.5	2.37	石英	白石。長楕円形。	フク土
基石	4	1.8	1.7	0.7	3.51	石英	白石。	
基石	5	1.9	1.7	0.8	4.73	石英	白石。	
基石	6	1.9	1.6	0.8	4.16	石英	白石。	
基石	7	2.0	1.0	0.7	3.72	石英	白石。	
基石	8	1.8	1.5	0.7	3.34	石英	白石。	
基石	9	1.8	1.4	0.8	3.50	石英	白石。	
基石	10	1.7	1.4	0.8	3.46	石英	白石。	
基石	11	1.8	1.3	0.9	2.95	石英	白石。長楕円形。	
基石	12	1.8	1.5	0.5	2.58	珪質頁岩	黒石。	P 7
基石	13	1.8	1.5	0.6	3.22	チャート	黒石。	P 30
基石	14	2.0	1.5	0.9	4.57	チャート	黒石。	P 31
基石	15	2.3	1.7	0.6	3.86	蛇紋岩	黒石。	
基石	16	2.0	1.5	0.6	3.09	蛇紋岩	黒石。	
基石	17	1.9	1.6	0.5	3.30	黒色安山岩	黒石。	
基石	18	1.9	1.6	0.7	3.71	頁岩	黒石。	
基石	19	1.8	1.7	0.6	3.66	蛇紋岩	黒石。	
基石	20	1.7	1.6	0.7	3.18	チャート	黒石。	
基石	21	1.9	1.4	0.6	2.87	ホルンフェルス	黒石。	
基石	22	1.7	1.3	0.7	2.93	チャート	黒石。	
基石	23	1.5	1.4	0.7	2.61	珪質頁岩	黒石。	

110号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁～胴 上部の一部欠	1	21.5 29.2 (4.3)	小砂粒を含む。焼成普通。明赤褐色。	胴長。頸部は緩やかにくびれ。胴最大径上位。外面輪積痕。外面は、口縁部横ナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面ナデ	P114 写真7
甕 土師器	ㄱ残	2	17.5 (21.4) (6.8)	小砂粒を多く含む。焼成普通赤褐色。	内面輪積痕。外面は、口縁部回転横ナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面は、口縁部回転横ナデ。胴部ナデ。	P112・カマド P116 写真7
杯 須恵器	ㄱ残	3	(12.7) (4.0) (6.6)	砂粒殆んど含まず。硬質。灰白色。	平底、ほぼ直線的に外反。外面は、体部～口縁部回転横ナデ、底部回転糸切り。内面は回転横ナデ。	P75
杯 須恵器	ㄱ残	4	(13.5) (3.2) (9.3)	砂粒殆んど含まず。硬質。灰白色。	平底、ほぼ直線的に外反。外面は、体部～口縁部回転横ナデ、底部回転ヘラ切り。内面は回転横ナデ。	P97
杯 須恵器	ㄱ残	5	12.9 3.1 9.6	砂粒殆んど含まず。硬質。灰白色。	平底、ほぼ直線的に外反。外面は、体部～口縁部回転横ナデ、底部回転ヘラ切り。内面は回転横ナデ。	P98 写真8
杯 須恵器	ㄱ残	6	(13.9) 3.7 (8.8)	砂粒殆んど含まず。硬質。灰白色。	平底、ほぼ直線的に外反。外面は、体部～口縁部回転横ナデ、底部回転ヘラ切り後、ヘラケズリ、ナデ調整。内面は回転横ナデ。	P25

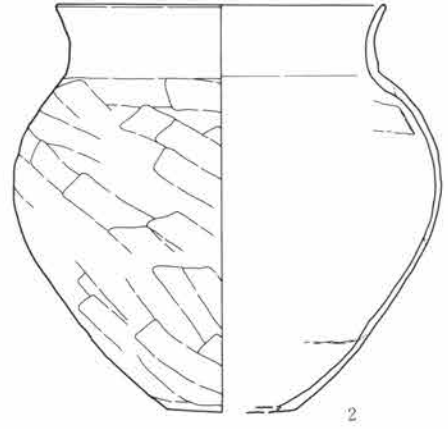
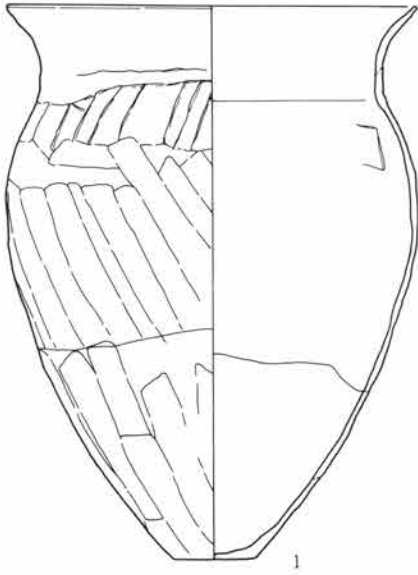
110号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	7	15.9	5.8	5.7	710	粗粒安山岩	四面研ぎ面。自然面を残す。	
敲石	8	10.8	3.6	2.4	160	変玄武岩	両端、側縁に敲打痕を残す。	

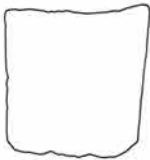
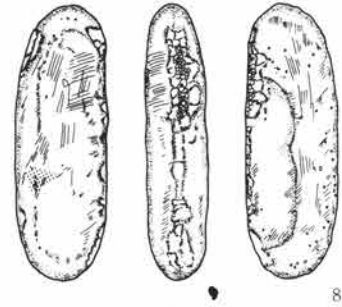
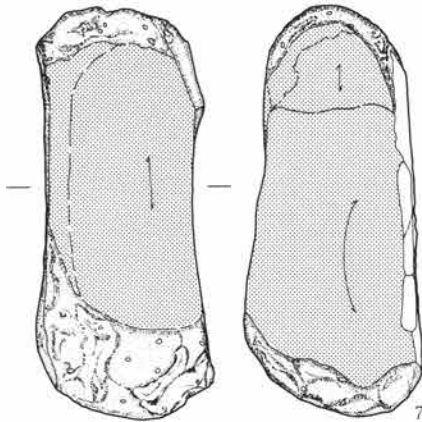
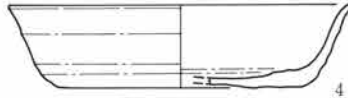
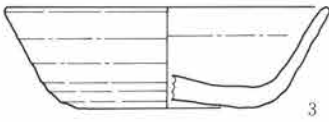
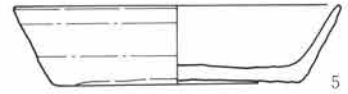
112号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯	完形	1	11.6 3.1 ●	砂粒僅かに含む。焼成良好。橙色。	浅く丸底、口縁部はやや内傾しながら立上がる。成形不明 外面は、口縁部横指ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面指ナデ。	カマド内 P38 写真8
杯 土師器	ㄱ残	2	(11.8) (3.3) ●	砂粒僅かに含む。焼成良好。にぶい橙色。	丸底、口縁部やや外傾。成形不明。外面は、口縁部横指ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面指ナデ。	P48

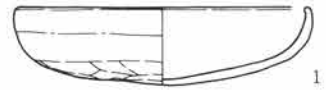
110住



0 1:4 10cm

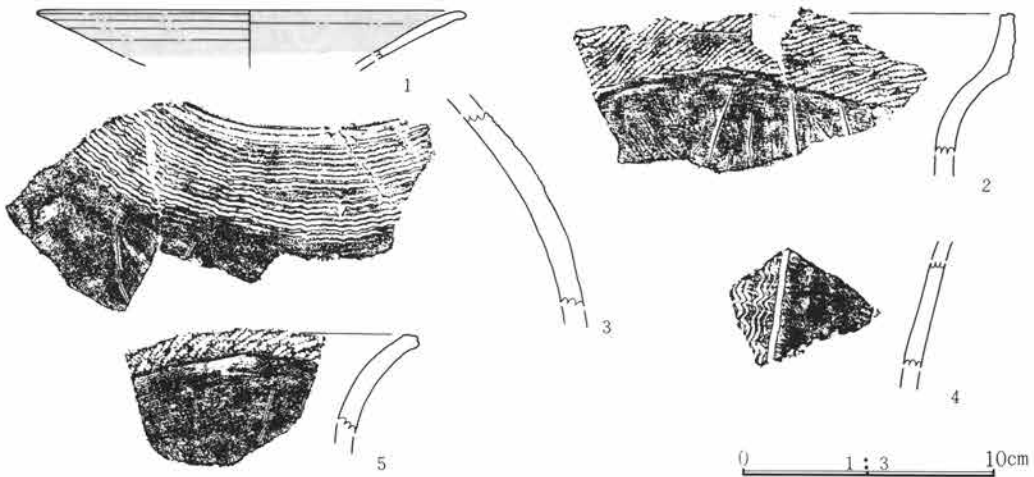


112住



0 1:3 10cm

第38図 110号、112号住居址出土遺物



第39図 114号住居址出土遺物

114号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
皿 緑釉	口縁部片	1	(17.2) (1.8)	極少量の黒色砂粒を含む。軟質の胎土である。	口縁部がゆるやかに外反する。	混入。表土
壺 (弥生)	口縁部片	2	(16.6) (5.4) —	砂粒、 ϕ 1~2 mmの小礫を少量含む。にぶい黄褐色。	口縁下に段を持ち、口縁は垂直に立ち上る。口縁、口唇部に LR の単節斜行縄文を施す。頸部外面は縦方向にミガキが施される。内面は横位のナデ。	P 26・43 写図27
壺 (弥生)	胴部~肩部破片	3	— (7.5) —	砂粒を含む。肩部に黒斑あり。灰黄褐色。	肩部に3本単位の櫛歯状工具による横線と波状沈線を施文。それ以下はミガキを施す。内面は、横位のナデ。	P 8 写図27
甕 (弥生)	胴部破片	4	— (4.3) —	砂粒を含む。褐灰色。	3本単位の櫛歯状工具による波状文。丸棒状工具による沈線が垂下する。	P 39 写図27
壺 (弥生)	口縁部破片	5	(16.4) (3.9)	砂粒を含む。口唇部に黒斑。にぶい黄褐色。	口唇部に LR の斜行縄文。内外面ともミガキが施される。	P 44 写図27

第3章 出土した遺物

115号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	口縁～頸部のㄨ	1	(20.4) (5.6) —	砂粒を多く含む。焼成普通。橙色。	口縁部は直線的に外反し、口唇部は内傾。外面輪積痕。外面は、口唇部波状文、頸部時計回り簾状文。内面は、口縁部横指ナデ、頸部は横ヘラナデ。	P47・66
小形甕	口縁部欠	2	— (6.7) 4.0	小砂粒を含む。焼成普通。外面スス附着。褐色。	内面輪積痕。外面は指ナデ後時計回り簾状文、波状文。内面は指ナデ。	P60 写図8
台付甕	台部のㄨ	3	— (4.6) (6.8)	小砂粒を含む。焼成普通。淡赤橙色。	台部は「ハ」の字状にひろく内面輪積痕。外面ハケナデ。内面横指ナデ。	P29
甕	胴の一部	4	— — —	砂粒を少量含む。焼成良好。にぶい橙色。	内面輪積痕。外面胴上部縦ヘラナデ、中央部横ヘラナデ。内面は、指ナデとハケナデ。	P11 写図28
甕	口縁部の一部	5	— — —	小石、砂粒を多く含む。焼成良好。にぶい橙色。	口縁部はラップ状にひろく。成形不明。外面は、指ナデ後一部ヘラケズリ。内面指ナデ	P10 写図28
高杯	杯の一部	6	— — —	小砂粒を含む。焼成普通。外面スス附着。にぶい赤褐色。	口縁部は大きく外反。成形不明。外面は指ナデ。内面は赤彩後ヘラミガキ。	P14 写図28
土製品	破片	7	— — —	砂粒、φ1～2mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良好。橙色。	楕円形の円板に高台状のものが付く。トーン部は赤彩されている。	P89 写図46

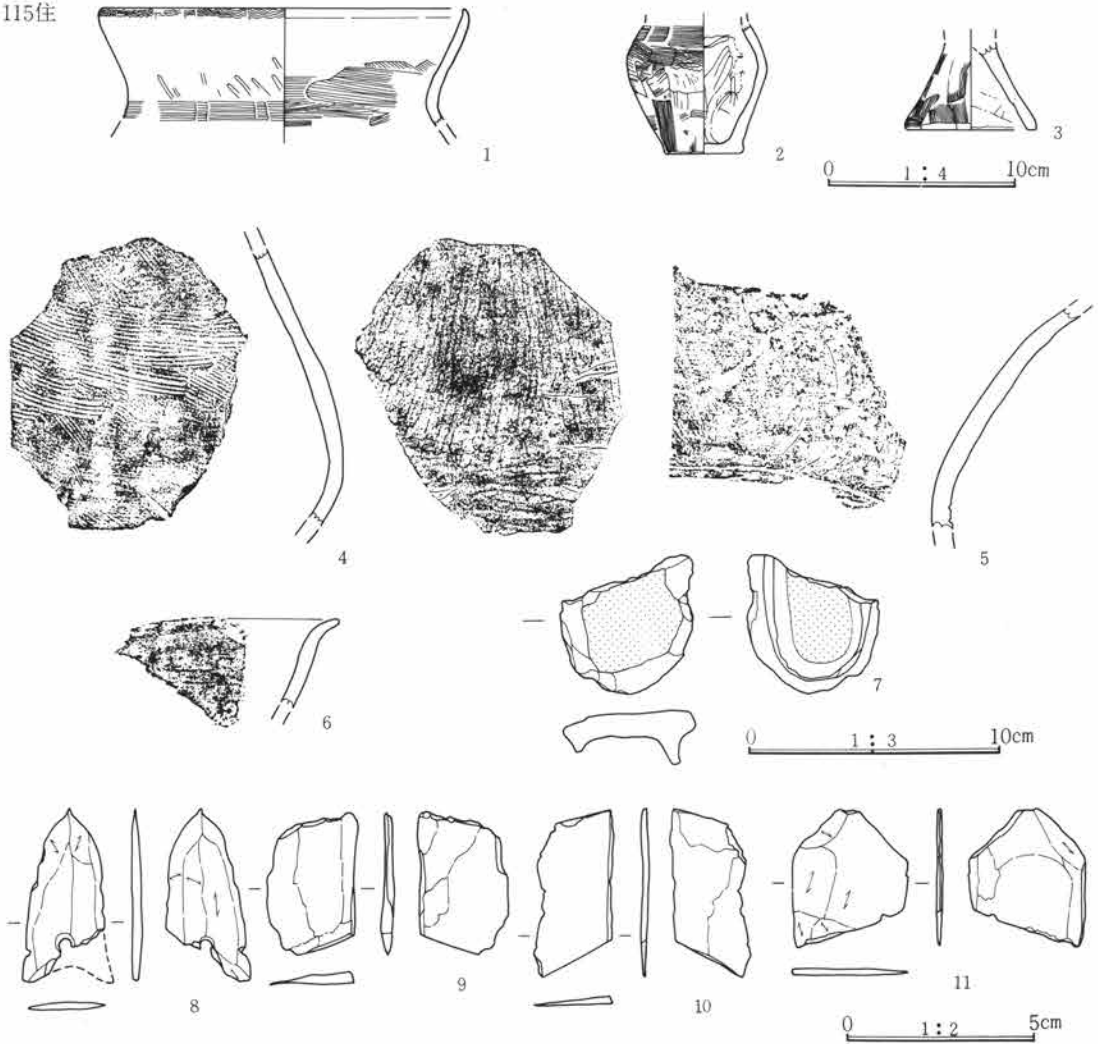
115号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磨製石鏃	8	4.6	2.3	0.3	2.95	珪質準片岩	基部に扶りを持つ。孔は径2.8mm。	P69
剥片	9	3.8	2.5	0.4	3.07	緑色片岩	石鏃の未製品と思われる。	P38
剥片	10	0.5	2.2	0.3	2.41	緑色片岩	石鏃の未製品と思われる。	P38
磨製石鏃	11	3.7	3.1	0.2	3.50	緑色片岩	石鏃の欠損したもの。	P38

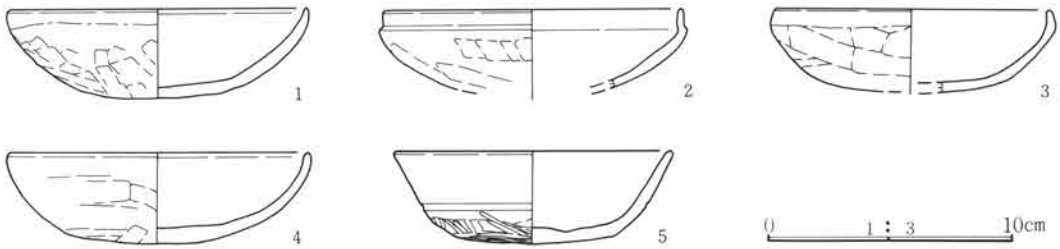
116号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	½残	1	(11.8) 4.5 ●	小砂粒を含む。焼成普通。外面底部に黒斑。橙色。	丸底、底部～体部は双曲線的な丸みをもち、口唇部は直立する。外面体部～底部ヘラケズリ、口縁部横ナデ。内面ナデ。	P136

115住



116住



第40図 115号、116号住居址出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	ㄱ残	2	(10.8) (3.2) ●	小砂粒を含む。焼成普通。底部スス付着。橙色。	丸底、底部～体部は双曲線的な丸みをもち、口縁部は稜をもってやや内傾する。外面体部～底部ヘラケズリ、口縁部横ナデ。内面ナデ。	P145

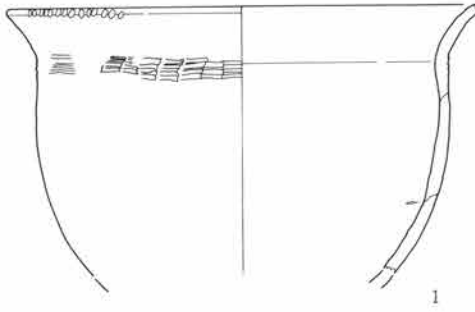
第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	ㄨ残	3	(10.9) (3.3) ●	砂粒を少量含む。焼成普通。 にぶい橙色。	丸底、底部～体部は双曲線的 な丸みをもち、口縁部はやや 内傾する。外面体部～底部へ ラケズリ、口縁部横ナデ。内 面ナデ。	P86・171
杯 土師器	ㄨ残	4	(11.8) 3.5 ●	砂粒を含む。焼成普通。橙色	丸底、底部～体部は双曲線的 な丸みをもち、口唇部は直立 する。外面体部～底部へラケ ズリ、口縁部横ナデ。内面ナ デ。	P24
杯 須恵器	ㄨ残	5	11.0 3.65 6.2	砂粒、小石を少量含む。硬質 灰白色。	平底、体部～口唇部は直線的 に外反する。外面体部～口唇 部は回転横ナデ、底部は回転 ヘラ切り。内面回転横ナデ。	P48・102・108 写図8

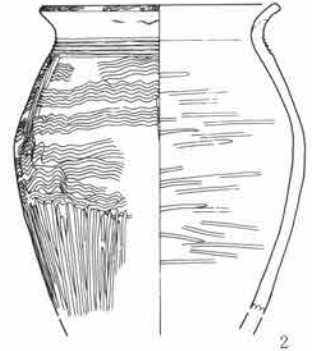
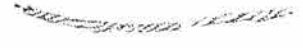
117号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 (弥生)	口縁～胴 部ㄨ	1	(24.7) (14.1) —	砂粒を多く含む。口縁部から 頸部にかけて黒斑あり。明褐 色。	口縁部外反し、胴上部がふく らむ。口唇部にミガキが施さ れ、頸部には3本単位の櫛歯 状工具で簾状文を左から右方 向に施文。内外面ともミガキ	フク土
甕 (弥生)	口縁～胴 部ㄨ残	2	(12.3) (16.0) —	細かい砂粒を少量含むが胎土 は緻密である。胴部の脹らみ 部以下にススが付着してい る。胴上半部に黒斑有。灰黄 褐色。	胴上半部に最大径を持つ。口 唇部に単節LRの斜行縄文を 施す。四本単位の櫛歯状工具 で頸部には横位に、胴上半 部に縦区画をしその間を波状 に施文する。胴下半部は縦方 向、内面は横方向にミガキが 施される。	フク土
壺 (弥生)	口頸部残	3	(11.6) (12.3) —	細かい砂粒を含むが胎土は緻 密で焼成良い。口縁、頸部に 4～5cmの黒斑が有る。にぶ い橙色。	口唇部と、沈線によって三段 に区画された頸部に単節LR の斜行縄文が施文される。口 縁部に縦方向のミガキ、頸部 下にも若干の縦方向のミガキ が施される。内外は横位のミ ガキ。	97住フク土・フク土
壺 (弥生)	口縁部片	4	(21.2) (1.3)	砂粒を含む。赤灰色。	口唇部に単節LRの斜行縄文 内外面ともミガキが施され る。	P66・71 写図28
壺 (弥生)	頸部	5	— (4.3)	砂粒を多く含む。にぶい黄橙 色。	頸部に2本の沈線。内外面と も横ナデ状の調整がある。	P62 写図28
甕 (弥生)	胴部破片	6	— (3.2)	砂粒を少量含む。にぶい黄橙 色。	櫛歯状工具で矢羽根状に施文 内面は横ナデ。	P53 写図28
壺 (弥生)	頸部	7	— (2.4)	砂粒を多く含むもろい。黄灰 色。	2条の沈線が施される。内外 面横ミガキ。	P55 写図28

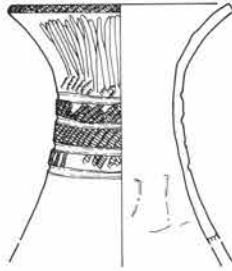
117住



1



2



3

0 1:4 10cm



4



5



6



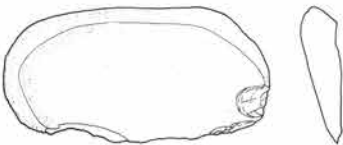
7



8

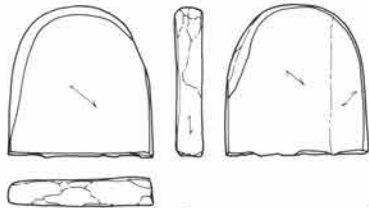


9



10

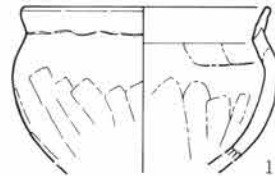
0 1:3 10cm



11

0 1:2 5cm

119住



1

0 1:3 10cm

第41図 117号、119号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 (弥生)	胴部	8	— (2.5) —	砂粒を多く含む。雲母片を極少量含む。褐灰色。	沈線が、横位、波状に引かれる。地文は単節LRの斜行縄文。	P30 写図28
甕 (弥生)	胴部	9	— (3.8) —	砂粒を多く含むもろい。黒褐色。	沈線によってコの字重ね文を施す。	P70 写図28

117号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
石包丁	10	5.3	10.6	1.6	100	黒色頁岩	打製品。側縁部に刃部を持つ。	S 1 写図27
磨製石斧	11	4.0	3.8	0.8	23.48	蛇紋岩	偏平片刃石斧か？。下半欠損。全面磨られる。	P21 写図33

119号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
小型壺	口縁から胴部 $\frac{1}{2}$ 残	1	(9.8) (6.2) —	砂粒、石英等を含む。焼成は良い。にぶい黄橙色。	口縁に接合痕が残る。肩部に最大径を持つ。内外面とも口縁から胴上部にかけて横ナデを施す。外面胴下部にヘラケズリ、内面は縦方向にナデを施す。	118住P31・119住P32

120号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁 $\frac{1}{2}$ 残存	1	(21.1) (9.7) —	砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良好。スス付着。にぶい黄褐色。	鋳下に脹らみを持ち、口縁は内傾する。鋳は上方に反る。ロクロ整形。	P129
椀	$\frac{1}{2}$ 残存	2	(13.3) (4.6) —	砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。にぶい橙色。	体部は湾曲して立ち上り、口縁で外反する。ロクロ整形でロクロ目は弱い。底部は剥落して不明。	P115

121号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁 $\frac{1}{2}$ 残	1	(20.3) (7.0) —	砂粒、 $\phi 1$ mm以下の小石を含む。浅黄色。	胴部に若干の脹らみをもち、口縁は、外反ぎみに立ち上る。鋳は上面が水平で、先端が尖る。ロクロ整形。	P113
杯 須恵器	口縁 $\frac{1}{2}$ 残	2	(11.5) (3.3) —	少量の砂粒を含む。酸化焰焼成。外面の一部にスス付着。橙色。	外面はロクロ整形による稜を持つ。内面ロクロ整形。	P77・79・85
椀 須恵器	$\frac{1}{2}$ 残	3	(14.5) 5.2 (5.8)	$\phi 1$ mm前後の小石を含む。還元焰焼成。灰色。	口縁はやや外反する。底部の切り離しは、磨滅が多く不明。高台貼り付け後ナデている。	P72

122号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 須恵器	底部欠	1	— 5.4 (14.8)	φ1mm前後の小礫を含む。灰白色。	外面に格子目叩き。内面ナデが施される。	P18

123号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	1	5.7	3.2	1.9	640	砥沢石	四面に研ぎ面を持つ。両端欠損。	P 8 写真30

127号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁欠	1	(20.5) (11.7) —	細かい砂粒を極少量含む。胎土は緻密である。酸化焰。内面にスス付着。橙色。	口縁は内湾ぎみに立ち上る。鏝は上面でやや反り上り先端は尖る。ロクロ整形。	P 84
碗 須恵器	欠残存	2	(12.0) 4.4 6.0	φ1～2mmの小石、石英、雲母を含む。酸化焰焼成。褐灰色。	口縁は外反ぎみに立ち上る。底部は右回転糸切り後、高台貼り付け時周縁部をナデている。ロクロ目は弱い。	P 66
碗 須恵器	欠残存	3	(12.3) 4.7 5.5	φ1～3mmの小石、石英、雲母を含む。還元焰焼成。灰白色。	口縁は外反ぎみに立ち上り体部は内湾する。底部は右回転糸切り後、高台を貼り付け周辺部をナデている。ロクロ目は強い。	P 3・7・9・16

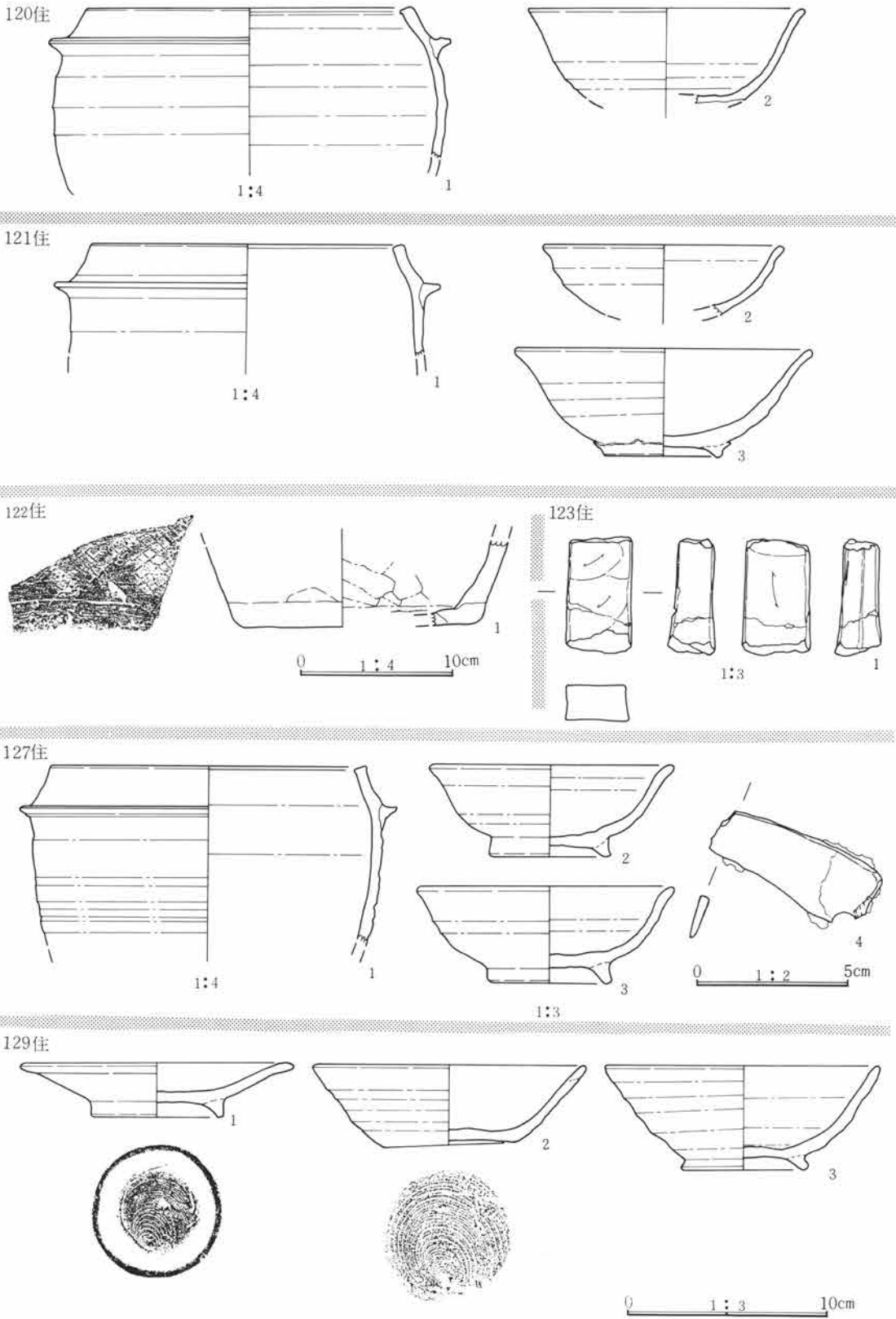
127号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
鎌	4	5.7	1.5	0.3	11.0	鉄	先端部欠損。基部に折り返しがわずかに残る。	79

129号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
皿 須恵器	欠残存	1	(13.1) 2.7 6.3	φ1～2mmの小石を含む。酸化焰焼成。灰黄色。	口縁が外反ぎみに開く。底部右回転糸切り。周辺は高台貼り付け時のナデ。	P 68・95
杯 須恵器	ほぼ完形	2	13.2 4.0 6.5	φ1～3mmの小石を含む。還元焰焼成。灰白色。	直線的に開く。底部は右回転糸切り未調整。ロクロ目が強く残る。	P 93 写真 8
碗 須恵器	完形	3	13.5 5.1 6.1	φ1～3mmの小石を含む。還元焰焼成。灰色。	体部から口縁にかけて直線的に開く。底部は、右回転糸切り、高台貼り付け時のナデ。ロクロ目が強く残る。	P 94 写真 8

第3章 出土した遺物



第42図 120号、121号、122号、123号、127号、129号住居址出土遺物

132号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜 須恵器	口縁~胴部 $\frac{1}{2}$	1	20.0 (9.1) —	ϕ 1~2 mmの小石を含む。酸化焰焼成。にぶい橙色。	胴部に脹らみを持つ。口唇部は片そぎ状になりするどい。鏝は大きくそり上がり、先端が尖る。ロクロ目が強い。	P31
壺 須恵器	頸部 $\frac{1}{2}$	2	— (8.3)	ϕ 1 mmの小石を含む。還元焰焼成。灰白色。	ロクロ整形、内面の一部剥落	P26
椀 須恵器	完形	3	10.0 2.9 4.6	細かい砂粒を含む。還元焰焼成。灰黄色。	体部からまっすぐに開く。磨滅が多く底部切り離れた後、高台貼りつけナデを施す。	P28・29・33・56・カマド 写図8
杯 須恵器	$\frac{3}{4}$ 残	4	11.4 4.5 6.0	ϕ 1~3 mmの砂粒を含む。酸化焰焼成。にぶい黄橙色。	体部からまっすぐに開く。底部は右回転糸切り。ロクロ目は弱い。	P32・フク土
甕 須恵器	胴部破片	5	— (10.3) —	ϕ 1~2 mmの小石を含む。灰色。	内面は青海波文の叩きが施される。外面は平行叩きで、繊維の庄痕が認められる。割れ口を磨いている。	P13

133号住居址遺物観察表

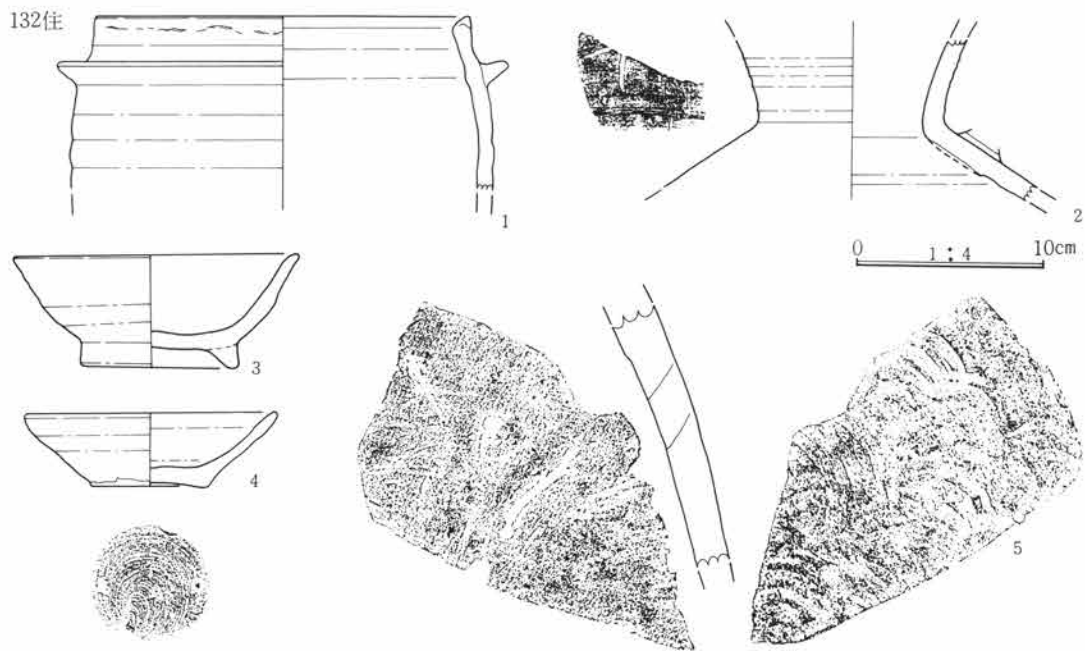
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
蓋 須恵器	鈕部のみ	1	4.1 (1.7)	細かい砂粒を少量含む。胎土は緻密である。灰色。	天井の平坦面がリング状に凹んでいる。	P17・27

133号住居址遺物観察表

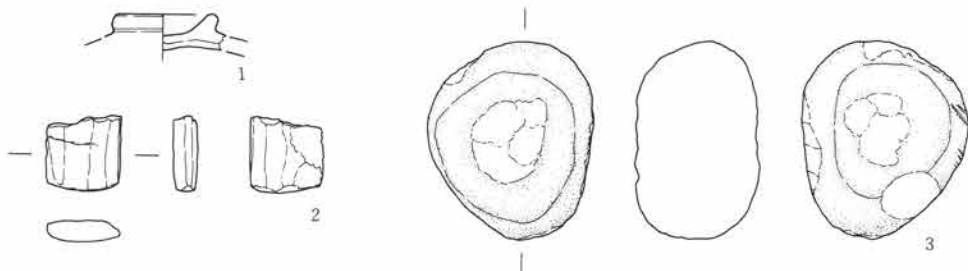
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	2	3.0	2.9	1.0	10	砂岩	表裏、側面研ぎ面。自然面を残す。欠損品。	P49 写図30
凹石	3	7.8	6.6	4.8	370	かこう岩	両面凹み。側縁敲打痕。表面磨っている。	S3 写図28

134号住居址遺物観察表

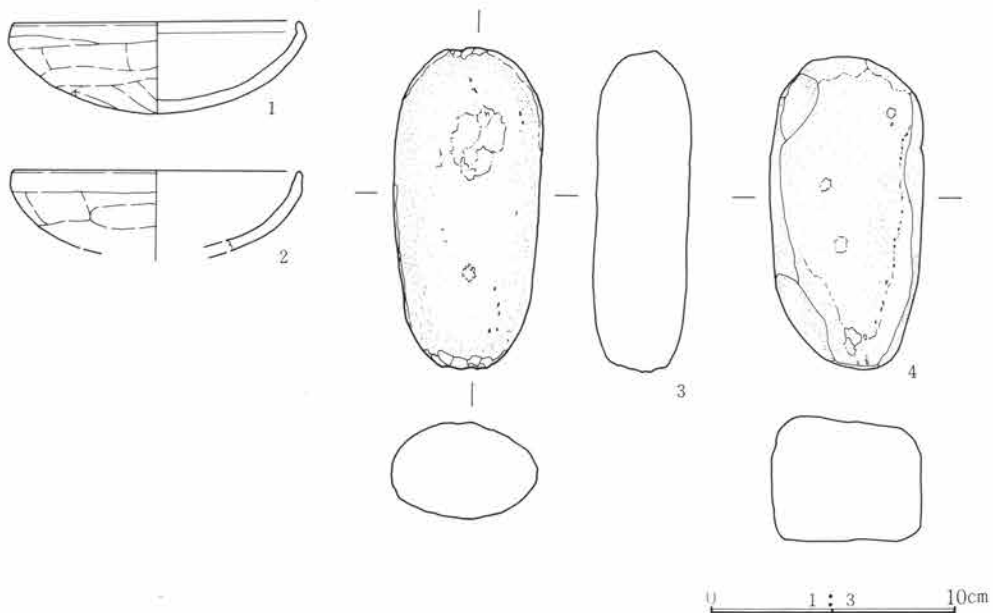
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	ほぼ完形	1	11.6 3.6 ●	ϕ 1~2 mmの小石、砂粒を多く含む。遺存状態は良い。橙色。	体部はゆるやかに湾曲し、口縁は直に立ち上る。口縁と体部の境界に稜を残す。内面と口縁部はナデ、外面はヘラケズリ整形。	P82 写図8
杯土師器	$\frac{1}{2}$ 残存	2	(10.8) (3.1) —	砂粒を多く含む。全体に磨滅がはげしい。橙色。	体部はゆるやかに湾曲し、口縁は直に立ち上る。口縁と体部の境界はゆるやかな稜を持つ。体部外面はヘラケズリ、他は磨滅のためはっきりしないが、ナデと思われる。	P9・25



133住



134住



第43図 132号、133号、134号住居址出土遺物

134号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	3	12.6	5.8	3.7	440	粗粒安山岩	両端、側縁部、平縁部に敲打痕を残す。 両端に敲打痕をわずかに残す。	S 1 写図26
敲石	4	12.3	6.1	4.9	679	粗粒安山岩		S 4 写図26

135号住居址遺物観察表

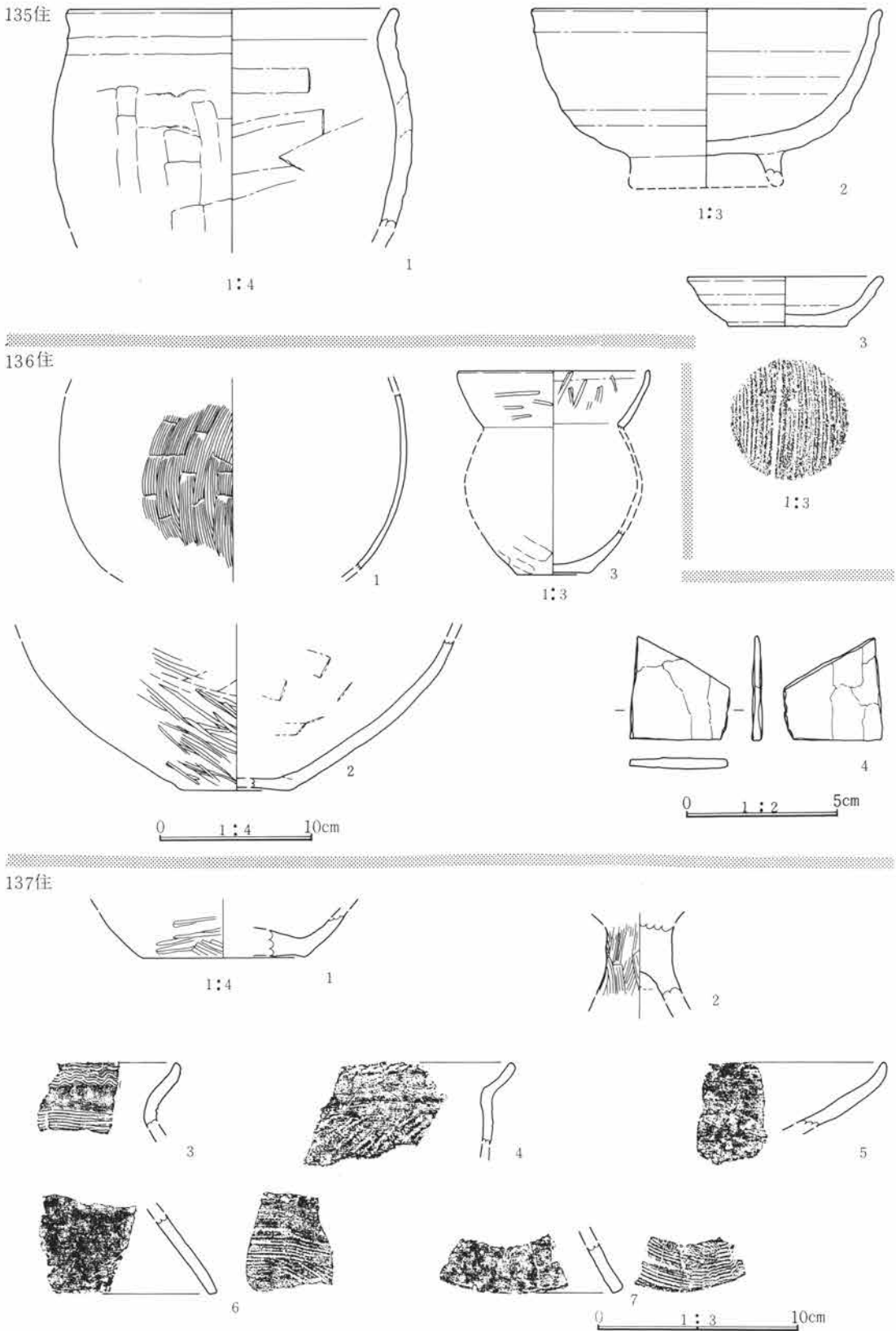
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	口縁～胴部 $\frac{1}{2}$	1	21.4 (14.2) —	ϕ 1～2 mmの小石、砂粒を含む。酸化焰焼成。橙色。	胴部に最大径を持ち、口縁はやや外反する。口縁部横ナデ内面はヘラ状工具によるナデ外面は縦位のヘラケズリ。	P 96
椀	$\frac{1}{2}$ 残存	2	(16.8) (8.1) —	細かい砂粒を少量含む。還元焰焼成。内面底にススが付着。灰白色。	ゆるく湾曲しながら垂直に近い角度で立ち上る。ロクロ目は弱い。底部は高台貼り付け時のナデが施される。	P 57 写図 8
皿	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠	3	9.6 2.4 5.9	ϕ 1～2 mmの小石を含む。酸化焰焼成。淡黄色。	体部から口縁にかけて直線的に開く。底部は静止糸切り未調整。	P 10 写図 8

136号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕土師器	胴部破片	1	— (11.4)	細かい砂粒を含む。器肉は薄く、焼成は良い。赤黒色。	台付甕の胴部になると思われる。外面はハケ目による整形	P 52・55
壺土師器	底部 $\frac{1}{2}$	2	— (9.7) (7.2)	ϕ 1～2 mmの小石、細かい砂粒を含む。焼成は良い。浅黄橙色。	外面はヘラミガキ。内面はヘラによるナデで、ヘラ先の痕跡が残る。	P 67
埴土師器	口縁、底部の一部	3	9.4 9.85 3.6	砂粒を含む。焼成は良い。橙色。	口縁は内湾ぎみに立ち上る。底部は若干の上げ底。口縁内外面はヘラミガキ。底部外面にはヘラナデ痕が残る。	P 34・37・40掘方・70・110

136号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
剝片	4	3.4	3.2	0.4	5.36	緑色片岩	磨製石鏃の未製品と思われる。磨かれている。	Na29掘方



第44図 135号、136号、137号住居址出土遺物

137号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕? 土師器	底部破片	1	— (3.0) (10.8)	砂粒を多く含む。褐灰色、黒色。	若干上げ底になる。外面はヘラミガキ。内面はハケ目が施される。	P69
高杯 土師器	脚部破片	2	— (3.3)	砂粒を多く含む。にぶい赤褐色。	外面にヘラミガキが施される。杯部との接合方法は不明。	P8
甕 (弥生)	口縁部破片	3	(13.8) (3.4) —	細かい砂粒を極少量含む。焼成は良い。にぶい橙色。	口縁に四本単位の櫛歯状工具による波状文。頸部に簾状文を施す。内面ミガキ。	P52 写図29
甕 (弥生)	口縁部破片	4	— (3.9)	砂粒を多く含む。にぶい橙色	口唇部と胴部に単筋LRの斜行縄文を施す。内面ナデ。	P11 写図29
高杯 (弥生)	杯部破片	5	— (3.1) —	砂粒を少量含む。内外面とも赤色塗彩。赤色。	口縁が内湾ぎみに立ち上る。内外面とも横位のミガキ。	P65 写図29
高杯 (弥生)	脚部破片	6	— (3.9) —	細かい砂粒を少量含む。外面に赤色塗彩。暗赤色。	外面に縦位のミガキ。内面は横位にハケによるナデが施される。	P73 写図29
高杯 (弥生)	脚部破片	7	— (2.4) (7.0)	細かい砂粒を少量含む。外面に赤色塗彩。暗赤色。	外面に縦位のミガキ。内面は横位にハケによるナデが施される。	P31・33 写図29

138号住居址遺物観察表

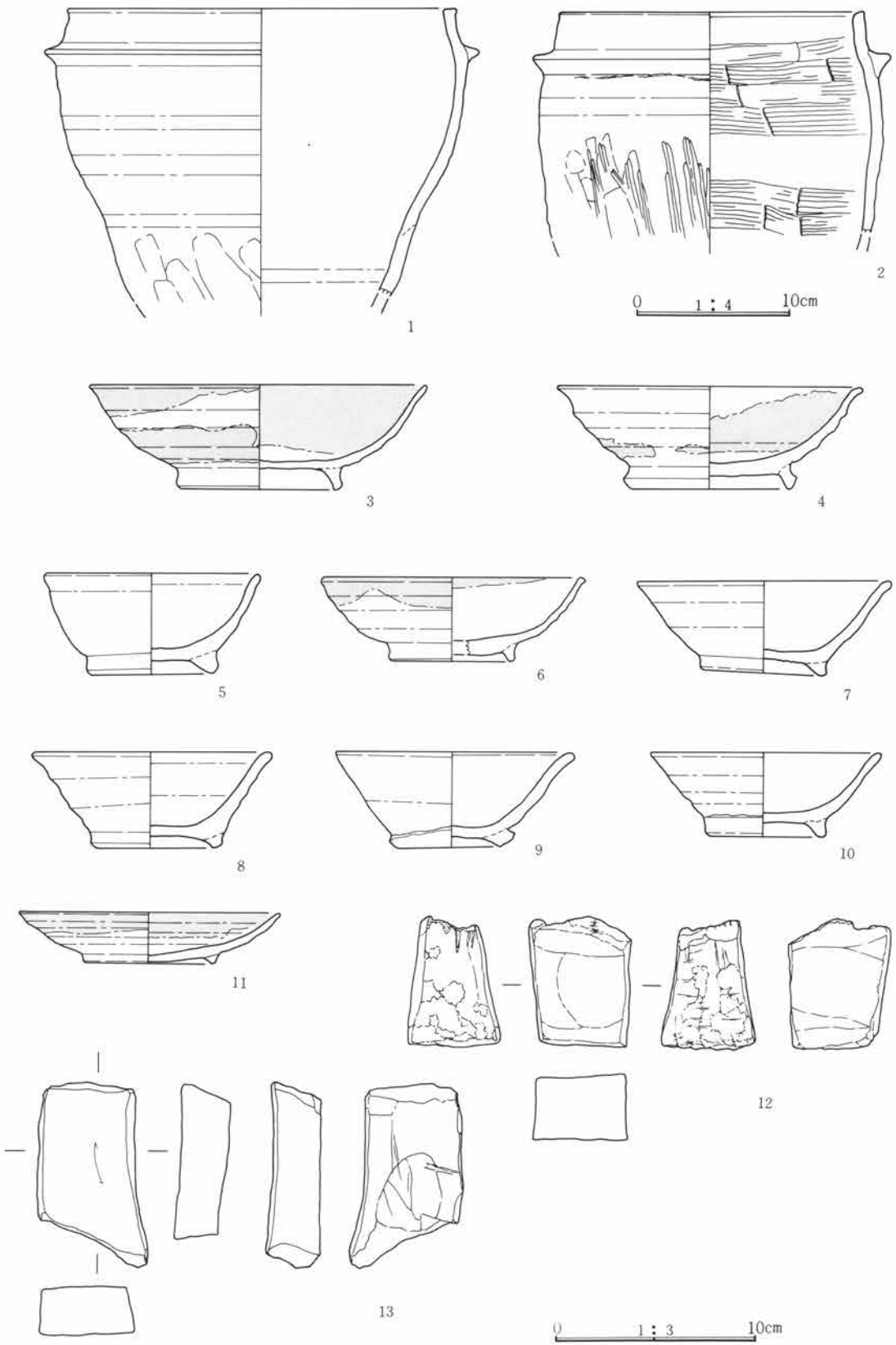
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁～胴部	1	(25.3) (18.8) —	φ1～2mmの白色小石、砂粒を含む。還元焰焼成。灰褐色	口縁は外反ぎみに立ち上る。鑄直下に最大径を持つ。口唇は水平に面取りしている。ロクロ整形で、胴下半部にヘラによるナデを施す。鑄は断面三角形で、先端がやや丸味を持つ。	P35・44・70・86
羽釜	口縁～胴部	2	(19.8) (14.5) —	φ1mmの小石、砂粒を含む。酸化焰焼成。にぶい赤褐色。	鑄下に膨らみ部をもち、口縁は直線的に立ち上る。鑄は断面三角形で、上面が水平になる。ロクロ整形で、外面胴下半部はヘラによるミガキ。内面は、横位のハケ目。	P7
椀 灰釉陶器	片残	3	(16.3) 5.0 (8.2)	砂粒等ほとんど含まず、緻密である。釉は漬掛け。外面の釉が一部剥落。灰色。	体部は内湾ぎみに立ち上り口縁で若干外反する。底部切り離しは、高台貼り付け時のナデにより不明。外面にロクロ目があるが、内面は消している。	P33 写図8

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀 灰釉陶器	ㄥ残	4	(14.8) 4.9 7.8	白色粒を若干含む。胎土は緻密である。釉は厚く塗っており一部が流れている。釉の剥落が多く塗り方は不明。灰色	体部は内湾ぎみに立ち上り口縁で外反する。底部は右回転糸切り後、高台貼り付け時にナデしている。外面にロクロ目	P 1 写図 8
椀 須恵器	口縁ㄥ欠損	5	(10.4) 4.8 6.0	φ1～2mmの小石、砂粒を多く含む。灰白色。	体部はやや内湾しながら開くロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り、高台貼り付け時にナデを施す。	P 65 写図 8
椀 灰釉陶器	ㄥ欠損	6	(12.8) 4.1 (6.0)	黒色の粒が若干混入。漬掛け灰色。	体部はやや内湾しながら開く外面にロクロ目が残る。底部は高台貼り付け時にナデ調整している。	P 56 写図 8
椀 須恵器	口縁ㄥ欠損	7	(12.2) 4.6 6.0	φ1～2mmの小石、砂粒を含む。還元焰焼成。灰白色。	体部は直線的に開く。外面にロクロ目がわずかに残る。底部は糸切り、高台貼り付け時にナデを施す。	P 56・57 写図 8
椀 須恵器	完形	8	11.6 4.6 5.6	φ1～2mmの白色小石を多く含む。砂粒混入。還元焰焼成灰白色。	体部は直線的に開き、口縁が若干外反する。底部は糸切り高台貼り付け時にナデを施す。外面にロクロ目を残す。	P 13 写図 8
椀 須恵器	口縁ㄥ欠損	9	11.6 4.5 6.0	砂粒を多く含む。酸化焰焼成。にぶい橙色。	体部は直線的に開き、口縁が若干外反する。ロクロ目は弱い。底部糸切り、高台貼り付け時にナデを施す。高台は断面三角形で、一部焼成前につぶれた部分がある。	P 34・85 写図 8
椀	口縁ㄥ欠損	10	11.2 4.0 5.6	φ1～2mmの小石、砂粒を含む。酸化焰焼成。にぶい黄橙色。	体部は直線的に開く。外面にロクロ目がのこる。底部は高台貼り付け時のナデが施される。	P 40・43・48・フク土 写図 8
皿 灰釉陶器	口縁ㄥ欠損	11	12.6 2.5 6.2	φ5mmの小石が1点混入、砂粒は極少量で緻密である。釉は漬掛け。灰白色。	体部から口縁にかけてやや内湾しながら開く。底部は高台貼り付け時にナデを施す。ロクロ目は弱い。高台断面は三角形を呈す。	P 32 写図 8

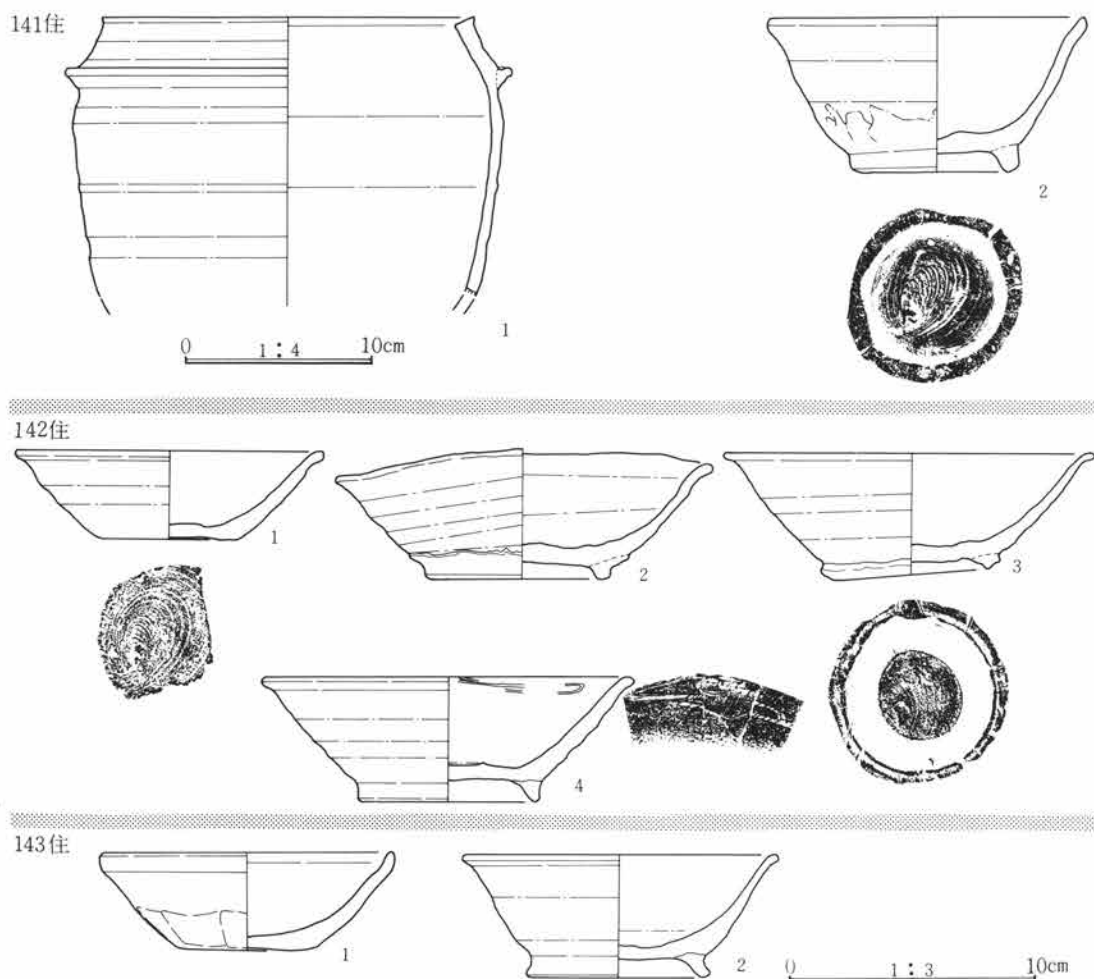
138号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	12	6.3	5.0	3.6	199	砥沢石	四面に研ぎ面。頭部は自然面、下端欠損。	P 62 写図30
砥石	13	7.5	4.7	2.3	161	砥沢石	四面に研ぎ面。両端欠損。	S 63 写図30



第45図 138号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物



第46図 141号、142号、143号住居址出土遺物

141号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁ほぼ残存	1	19.7 (14.6) —	砂粒を含む。胎土は緻密。遺存状態は良い。還元焰焼成。明黄褐色。	罎下に張り出し部を持ち、罎部で内湾しながら立ち上る。ロクロ目は強い。罎は断面三角形で、上面が水平になる。	P23・24・29・31・32・33・35
椀	口縁欠損	2	(12.4) 5.3 6.7	砂粒を少量含む。胎土は緻密で遺存状態は良い。酸化焰焼成。内外面にスス付着。灰褐色。	体部から直線的に開き、口縁部は若干外反する。ロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り高台貼り付け時にナデを施す高台断面は四角形を呈す。	P19・20・21

142号住居址遺物観察表

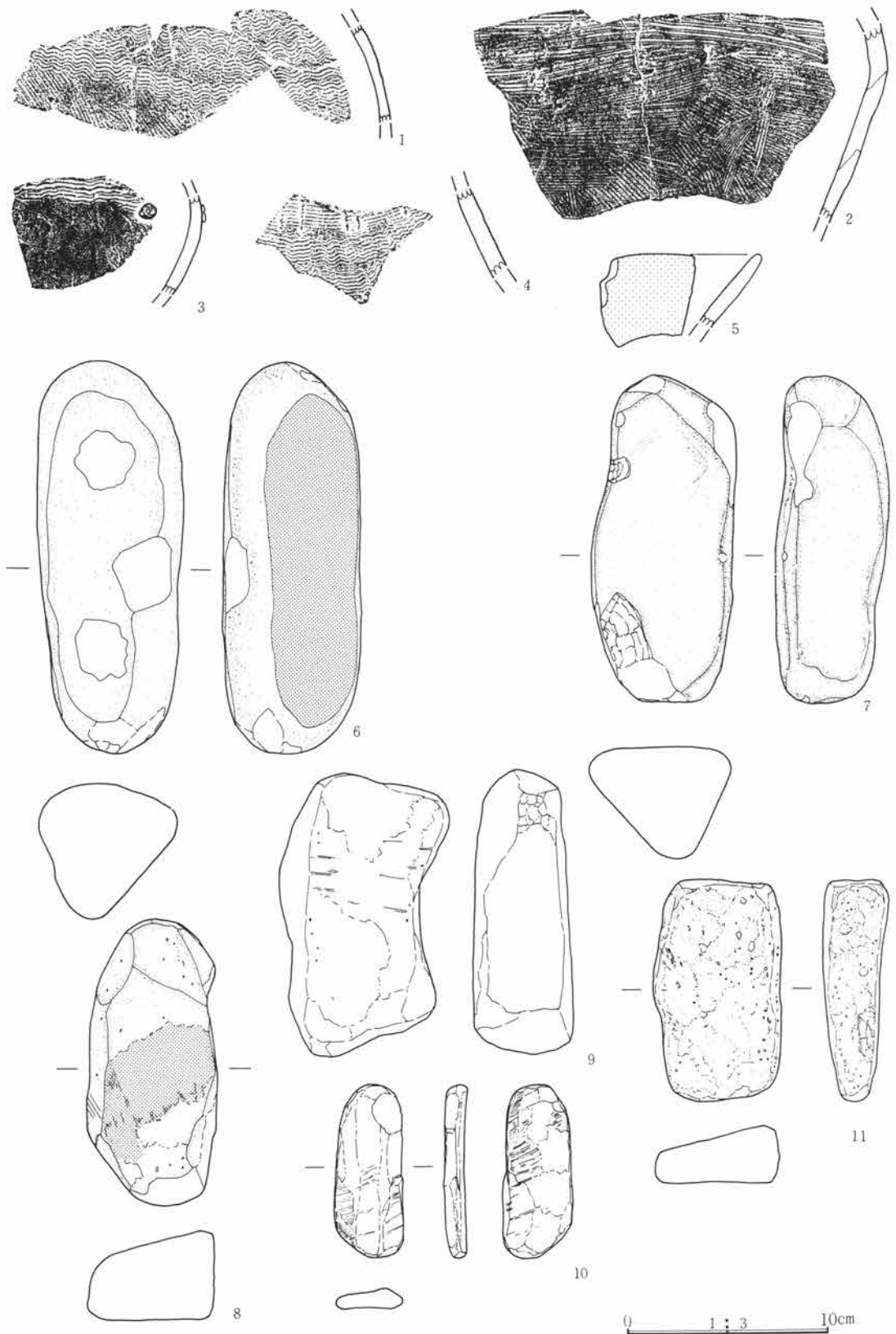
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 須恵器	㍁残存	1	(12.1) 3.5 (5.4)	φ1～4mmの小石、砂粒を含む。遺存状態は良い。還元焰焼成。暗オリーブ灰色。	体部から直線的に開き、口縁で外反する。底部は若干上げ底になる。外面にロクロ目を残す。底部右回転糸切り未調整。	P11
椀	口縁㍁欠損	2	15.0 5.1 7.1	細かい砂粒を含む。遺存状態は良くなく、器面はザラつく酸化焰焼成。にぶい橙色。	体部から若干内湾ぎみに開く口縁は外反するが、全体にゆがみを持つ。外面にロクロ目を持つ。底部は回転糸切り後高台貼り付け時のナデ。	P23・25 写真8
椀	口縁㍁欠損	3	(14.8) 5.0 5.0	砂粒を多く含む。遺存状態は良くない。器面はザラつく。酸化焰焼成。浅黄色。	体部から直線的に開く。口縁はやや外反する。外面にロクロ目を持つ。底部は回転糸切り後、高台貼り付け時のナデ高台断面は四角形。	P16
椀	㍁残存	4	(14.4) 4.9 (7.2)	砂粒小石を含む。遺存状態は良くない。器面はザラつく。内面に燃糸の圧痕が認められる。にぶい黄橙色。	体部から直線的に開く。口縁はやや外反する。ロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り、高台貼り付け時にナデを施す。高台断面は三角形を呈す。	P31

143号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	㍁残存	1	(11.4) 3.8 (5.6)	φ1～2mmの小石を含む。遺存状態は良い。黒褐色。	体部から直線的に開き、口縁部で垂直に屈曲する。外面上部には指頭痕を残し、下部にはヘラケズリが施される。	P8
椀 須恵器	㍁残存	2	(12.4) 4.8 (7.3)	φ1～4mmの小石、石粒を含む。内面にスス付着痕あり。褐色。	体部はやや内湾ぎみに開き、口縁部で外反する。ロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り高台貼り付け時にナデを施す。高台断面は四角でやや外反。	貼床中

144号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺 (弥生)	胴部破片	1	— (4.7) —	砂粒を含む。遺存状態は良い。橙色。	3本単位の櫛歯状工具による波状文。内面はナデ。	P90・93・95 写真30
壺 (弥生)	胴部破片	2	— (9.5) —	砂粒を含む。遺存状態は良い。橙色。	内外面とも条痕により器面が整形される。内面は横位が主体、外面は横位、斜位に施す。	P96 写真30



第47図 144号住居址出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺 (弥生)	胴部破片	3	— (4.8) —	砂粒を少量含む。胎土は緻密で、遺存状態は良い。にぶい黄橙色。	外面は櫛歯状工具による波状文と円形附文。胴下半にハケ目を施した後ナデている。円形附文には刺突が施される。内面は横位のナデ。	P 68 写真30
壺 (弥生)	頸部破片	4	— (4.5) —	砂粒を少量含む。胎土は緻密で、遺存状態は良い。橙色。	頸部には9～10本単位の簾状文と、波状文を施文。内面は横位のナデ。	P 75 写真30
高杯 (弥生)	杯部破片	5	— (3.4) —	砂粒を極少量含む。胎土は緻密で、遺存状態は良い。赤色塗彩。赤褐色。	内外面とも良く磨かれている。	P 33 写真30

144号住居址遺物観察表

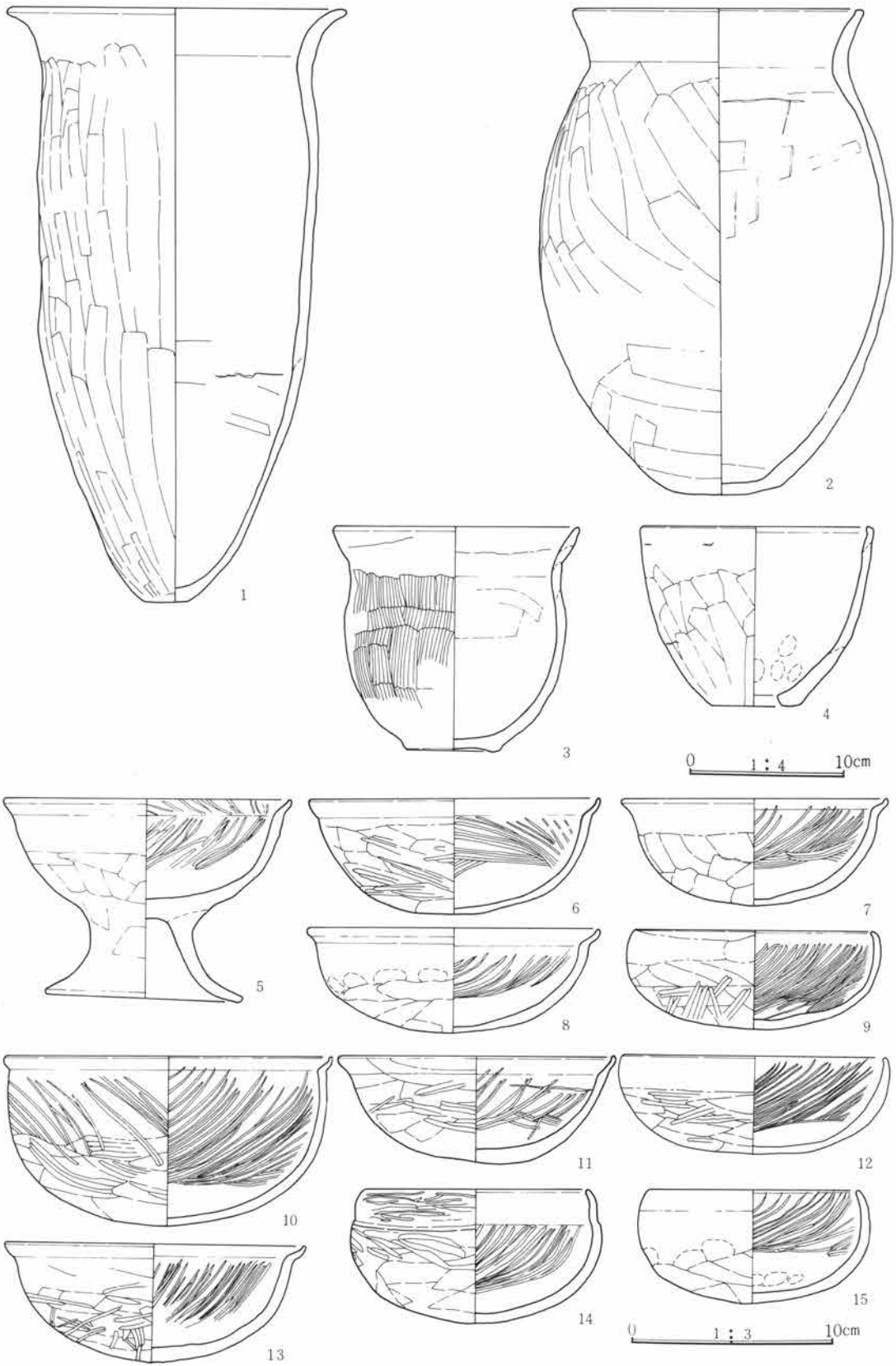
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	6	18.9	6.7	6.7	1250	粗粒安山岩	両端、側縁部敲打痕。トーン部磨面。	S 1 写真27
敲石	7	15.4	6.8	5.4	860	粗粒安山岩	両端わずかに敲打痕を残す。剝離面有。	写真27
敲石	8	13.8	6.2	4.3	550	粗粒安山岩	両端に敲打痕。トーン部磨面。	写真27
敲石	9	13.7	6.7	4.5	810	粗粒安山岩	両端角にわずかに敲打痕。	写真27
礫器	10	8.5	3.4	0.9	51	緑色変岩	両端に敲打痕。	S 1 写真27
敲打具	11	10.8	6.3	2.8	341	粗粒安山岩	両端角にわずかに敲打痕。	写真27

145号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕土師器	ほぼ完形	1	21.4 38.2 2.8	φ1～5mmの小石、砂粒を含む。内外面にススが付着。明赤褐色。	胴部から直線的に立ち上り、外反する口縁部に続く。底部は小さく、自立しない。外面は下から上方向の縦位のヘラケズリ、口縁内外面はナデが施される。	P 106 写真9
甕土師器	口縁～胴部欠	2	18.4 31.3 ●	φ1～3mmの小石、砂粒を含む。ススが付着。口縁部はにぶい橙色。胴部はにぶい黄褐色。	胴下半部に最大径を持つ。底部は小さくやや丸味をおび自立しない。外面は、胴部上半で、左上から右下に、胴部下半で左から右方向へのヘラケズリ。口縁内外面ともヨコナデ。胴部内面にはヘラによるナデ、ヘラ先の痕が残る。	145住
甕土師器	口縁欠 胴部欠	3	15.7 14.3 6.2	φ1～3mmの小石、砂粒を多く含む。ススが付着。赤色。	口縁部に最大径を持つ。全体に作りは雑でゆがんでいる。口縁に接合痕を持つ。外面はハケによる整形、内面はヘラ先痕をのこしてナデている。	P 77 写真9

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甗 土師器	口縁～胴部 ^{3/4} 欠損	4	14.5 11.5 6.0	φ1～2mmの砂粒を含む。胎土は緻密でかたい。内外面にススが付着する。淡橙色。	底部近くにゆるい湾曲を持つ。口唇直下に小さい屈曲がある。胴部下半は下から上方向へのヘラケズリ。上半に横ナデを施す。内面下半には指頭による圧痕がある。	P38 写真9
高杯 土師器	脚底部縁一部欠損	5	14.0 9.5 9.6	φ1～2mmの小石、砂粒を含む。焼成は良い。内外面の一部にススが付着。赤橙色。	脚は短い。口縁は内斜し、体部はゆるく湾曲する。外面はヘラケズリが左から右、下から上方に施される。内面にはヘラによる暗文が放射状に施される。	145住 写真8
杯 土師器	底部一部欠	6	14.2 5.5 ●	φ1mm前後の砂粒を多く含む。胎土は緻密で焼成は良い。明赤褐色。	内斜口縁、体部はゆるく内湾する。外面はヘラケズリの後ヘラミガキ。口縁部横ナデ、内面は放射状に暗文が施される。	P237 写真9
杯 土師器	完形	7	13.0 5.1 ●	細かい砂粒を含む。胎土は緻密で焼成は良い。内外面にススが付着する。橙色。	内斜口縁、体部は内湾する。外面はヘラケズリ、粘土のケズリ塊が残る。内面は放射状に暗文が施される。	P236 写真9
杯 土師器	口縁一部欠損	8	14.1 5.0 ●	φ1～5mmの小石、砂粒を含む。焼成は良い。橙色。	内斜口縁、体部は内湾。外面ヘラケズリ。口縁部ヨコナデ。内面は放射状の暗文。	P295 写真9
杯 土師器	ほぼ完形	9	11.7 4.7 ●	細かい砂粒を含む。胎土は緻密で焼成は良く堅い。にぶい赤褐色。	体部は内湾する。外面はヘラケズリの後ヘラミガキ。口縁はヨコナデ。内面底部に凹みを持つ。放射状に暗文が施される。	P35・36・37・425 写真9
杯 土師器	口縁一部欠損	10	16.0 8.2 ●	φ1mmの小石を含む。胎土は緻密で焼成は良い。褐色。	内斜口縁で、体部は湾曲する。底部付近はヘラケズリの後ヘラミガキ。内面は放射状に暗文を施す。	P18 写真9
杯 土師器	口縁一部欠損	11	13.5 5.2 ●	細かい砂粒を含む。胎土は緻密で焼成は良い。内面は赤褐色に変色。明赤褐色。	内斜口縁で、体部は湾曲する。底部付近はヘラケズリの後ヘラミガキ。内面は放射状に暗文を施す。	写真9
杯 土師器	口縁部一部欠損	12	12.8 4.7 ●	φ1mmの小石、砂粒を含む。胎土は緻密で焼成良い。底面に黒斑を持つ。明赤褐色。	体部から内湾して立ち上る。底部ヘラケズリ後ヘラミガキ。口縁部はヨコナデ。内面は放射状に暗文を施す。	P1・3・4 写真9
杯 土師器	完形	13	14.7 5.7 ●	φ1～5mmの小石、砂粒を含む。焼成は良く堅い。橙色。	内斜口縁で、体部が湾曲する。ヘラケズリの後、ヘラミガキが入念に施される。口縁部はヨコナデ。内面は放射状の暗文を施す。	P20 写真9



第48図 145号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	欠損	14	10.8 6.4 ●	φ1～3mmの小石を含む。焼成は良く堅い。赤橙色。	口縁外面に稜を持つ。内湾しながら立ち上る。稜の上部を内外面ともヨコナデをしている。外面底部はヘラケズリの後、体部上半以上をヘラミガキを施す。内面は放射状の暗文が施される。	P243 写図9
杯土師器	完形	15	10.2 5.5 ●	φ1～5mmの小石、砂粒を含む。底部に黒斑、内面は灰褐色を呈する。橙色。	体部から内湾して立ち上る。口縁は内外面ともヨコナデ。底部はヘラケズリを施す。内面は放射状に暗文を施す。底部近くには指頭による圧痕を持つ。	P21 写図9

145号住居址遺物観察表

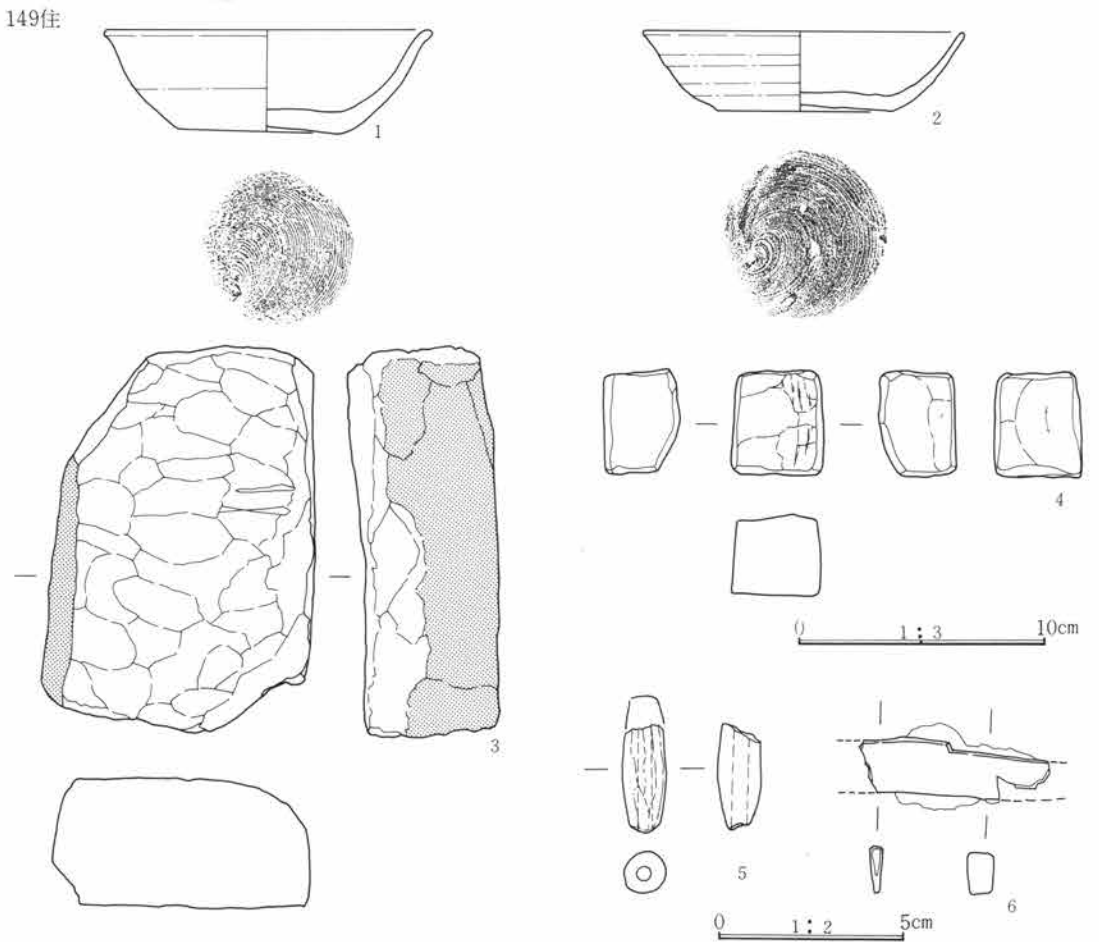
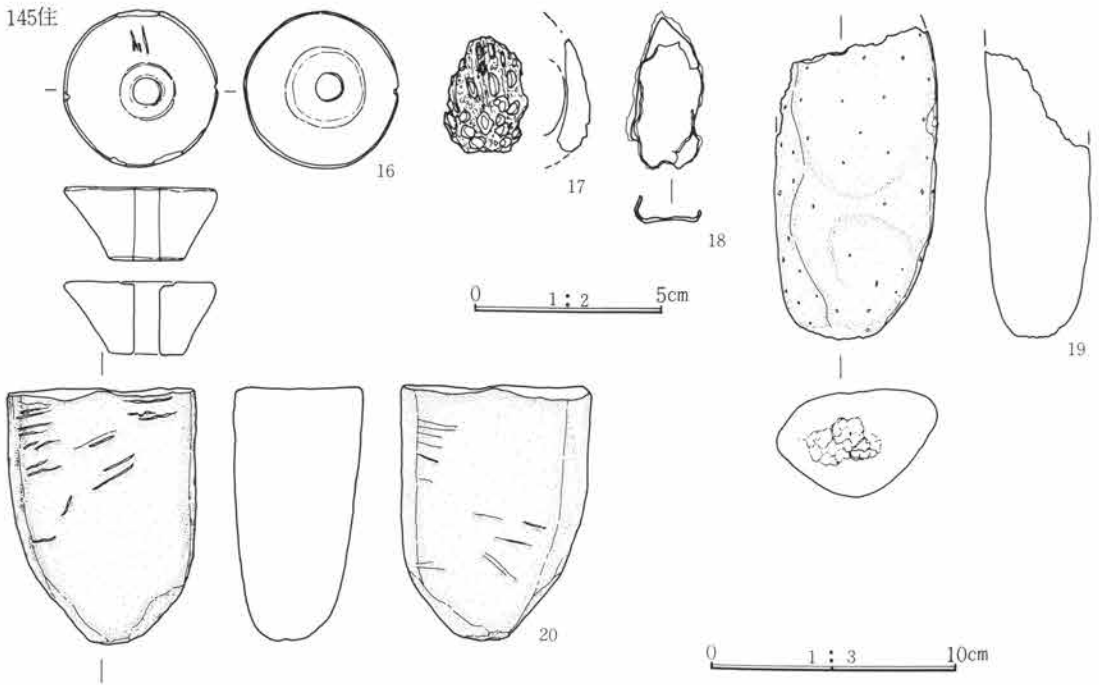
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
紡錘車	16	4.1	4.1	1.8	40	滑石	側縁に縦位、横位の線状痕。	P395 写図33
モモの種	17	3.1	2.2			果実種	欠損ほど残る。	P303
不明	18	4.2	1.8	0.1	4.3	鉄	薄い板状のものが湾曲する。	141
敲石	19	11.2	6.3	4.0	440	粗粒安山岩	端部に敲打痕。半部欠損。	S2 写図28
敲石	20	10.0	7.5	5.2	630	粗粒安山岩	端部に敲打痕。表面に擦痕。	S1 写図28

149号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯須恵器	口縁部一部欠損	1	13.1 4.0 6.6	φ1～2mmの小石を含む。焼成がやや酸化焙きみである。灰褐色。	体部はやや内湾ぎみに立ち上り、口縁で外反する。ロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り未調整。	写図9
杯須恵器	口縁部一部欠損	2	12.8 3.2 7.0	細かい砂粒を少量含む。口縁部黒斑有。灰白色。	体部は直線的に立ち上る。ロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り未調整。	写図9

149号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	3	15.3	10.5	5.4	1286	砥沢石	側面部を研ぎ面としている。表裏剥離痕。	S37 写図31
砥石	4	4.2	3.6	3.1	83	黒色頁岩	五面研ぎ面。	P53 写図30
土錘	5	2.8	1.2	1.2	3.5	土製品	両端欠損。中央部脹らむ。	P103
刀子	6	5.1	1.3	0.1	4.8	鉄	錆び化激しい。両端欠損。	フク土



第49図 145号、149号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

150号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
剝片	1	4.7	2.3	0.5	8.63	頁岩	石鉄の素材剝片。表面が磨かれる。	P 7

151号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺 (弥生)	頸部破片	1	— — —	砂粒を多く含む。ややザラつく。外一橙、内一暗灰色。	簾状文は右から左方向、ハケ目は下から上方向に施す。内面は横位のハケ。	フク土 写真29
壺 (弥生)	肩部破片	2	— — —	黒色の砂粒を多く含む。ザラつく。にぶい黄橙色。	三条の平行沈線とその下に一条のゆるい山形状の沈線が施文される。	P 67 写真29
壺 (弥生)	頸部破片	3	— —	黒色の砂粒を多く含む。焼成悪くザラつく。にぶい橙色。	二条の細い沈線が施される。原体はヘラ状のものか。	P 56 写真29
壺 (弥生)	口縁部破片	4	— — —	黒色の砂粒を含む。焼成良い。ややザラつく。にぶい橙色。	口唇部に櫛歯状工具による波状文。内外面にハケ目整形を施す。	P 70 写真29
鉢 (弥生)	口縁部破片	5	— —	砂粒を多く含む。焼成悪くザラつく。にぶい褐色。	口唇部にV字状の刻みがある。内外面ともヨコナデを施す。	P 18 写真29
壺 (弥生)	頸部破片	6	— — —	細かい砂粒を少量含む。焼成良いが、ややザラつく。赤色。	外面と、内面頸部くびれ部上を赤色塗彩している。赤色部は良くみがかれている。	P 42 写真29

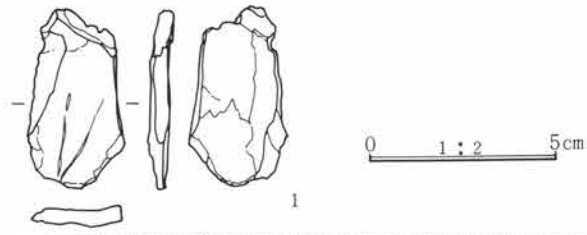
152号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕土師器	口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存	1	(17.0) (17.3) —	細かい砂粒を少量含む。焼成は良い。褐色。	胴部に最大径を持ち、口縁は「コ」の字状。肩部以下を右から左方向へのヘラケズリ。口縁部と内面はヨコナデ。	P 79・86・87・97・101・フク土
甕土師器	口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存	2	(19.8) (8.7) —	細かい砂粒を少量含む。焼成は良い。にぶい赤褐色。	胴部に最大径を持ち、口縁はゆるく外反する。外面は右から左へのヘラケズリ。口縁内外面ヨコナデ。胴部内面にはヘラによるナデ。	P 12・76

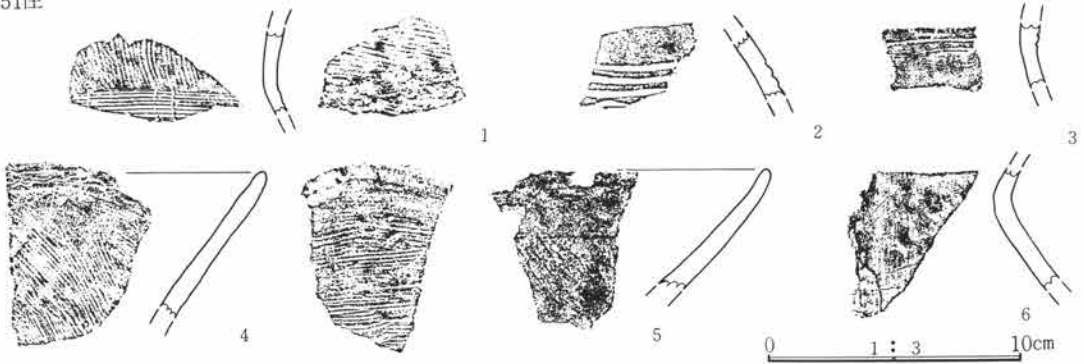
152号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	3	7.6	2.9	2.9	104	砥沢石	四面研ぎ面。紐穴は貫通していない。	フク土 写真30

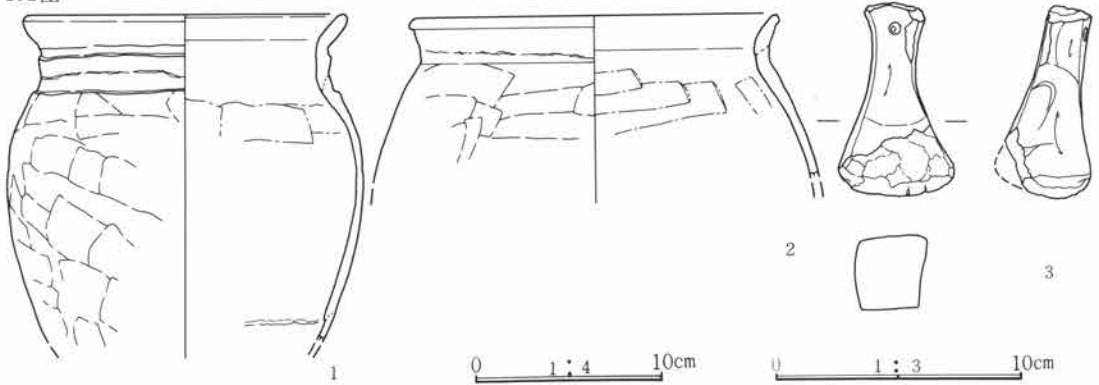
150住



151住



152住



第50図 150号、151号、152号住居址出土遺物



第3章 出土した遺物

153号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甌	完形	1	25.7 27.8 9.3	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良くない。内面茶褐色のタール状のものが付着。内外面黒斑が付く。にぶい褐色。	胴下半で湾曲し、直線的に立ち上る。口縁部は大きく外反する。口縁内外面横位のナデ。胴外面はヘラケズリの後ミガキ。内面ヘラミガキを施す。	P53 写真10
甌	完形	2	10.3 10.8 ●	小石、砂粒を僅かに含む。焼成普通。外面に黒斑。明赤褐色。	口縁部は大きく、ラップ状にひらく。最大径胴上位、丸底、胴最大径部分に1.2cm×1.3cmの焼成前穿孔。内面輪積痕。外面は、口縁部ヨコナデ後暗文状縦ヘラミガキ、胴上部ヨコナデ、胴下部ヘラケズリ後指ナデとヘラナデ。内面は、口縁部ヘラミガキ、内面指ナデ。	P59 写真9
杯	完形	3	12.8 4.6 ●	小石、砂粒を含む。焼成普通。底部に黒斑。明赤褐色。	丸底、底部～体部は緩やかな丸みをもつ。体部と口縁部の間に段を有し、口縁部は外反する。外面底部～体部ヘラケズリ、口縁部横ナデ、内面底部ナデ。	P58 写真9
杯	完形	4	12.0 4.6 ●	砂粒殆んど含まず。焼成普通。外面口縁部に黒斑。暗赤褐色。	丸底、底部～体部は緩やかな丸みをもつ。体部と口縁部の間に段を有し、口縁部は外反する。外面は口縁部横ナデ。底部ヘラケズリ。内面は底部ナデ、口縁部横ヘラミガキ。	P61 写真9
杯	完形	5	11.8 4.1 ●	砂粒を含む。焼成普通。橙色。	底部はやや丸みをもつ。口縁部外反。外面は口縁部横ナデ。底部ヘラケズリ。内面は底部ナデ、口縁部ヘラミガキ。	P57 写真10
杯	完形	6	11.9 4.3 ●	砂粒、小石を含む。焼成普通。橙色。	丸底、底部～体部は緩やかな丸みをもつ。体部と口縁部の間に段を有し、口縁部は外反する。外面は口縁部横ナデ。底部ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	P63 写真10
杯	完形	7	12.7 5.1 ●	小石、砂粒を含む。焼成普通。外面体部～底部に黒斑。赤褐色。	丸底、底部～体部は緩やかな丸みをもつ。体部と口縁部の間に段を有し、口縁部は外反する。外面底部～体部ヘラケズリ、口縁部横ナデ。内面ヘラナデ。	P55 写真10
杯	口縁部の一部欠	8	12.2 4.4 ●	砂粒を含む。焼成普通。明赤褐色。	丸底、底部～体部は、緩やかな丸みをもつ。体部と口縁部の間に段を有し、口縁部は外反する。外面底部～体部ヘラケズリ、口縁部横ナデ。内面ヘラナデ。	P60 写真10

第2節 竪穴住居址出土遺物

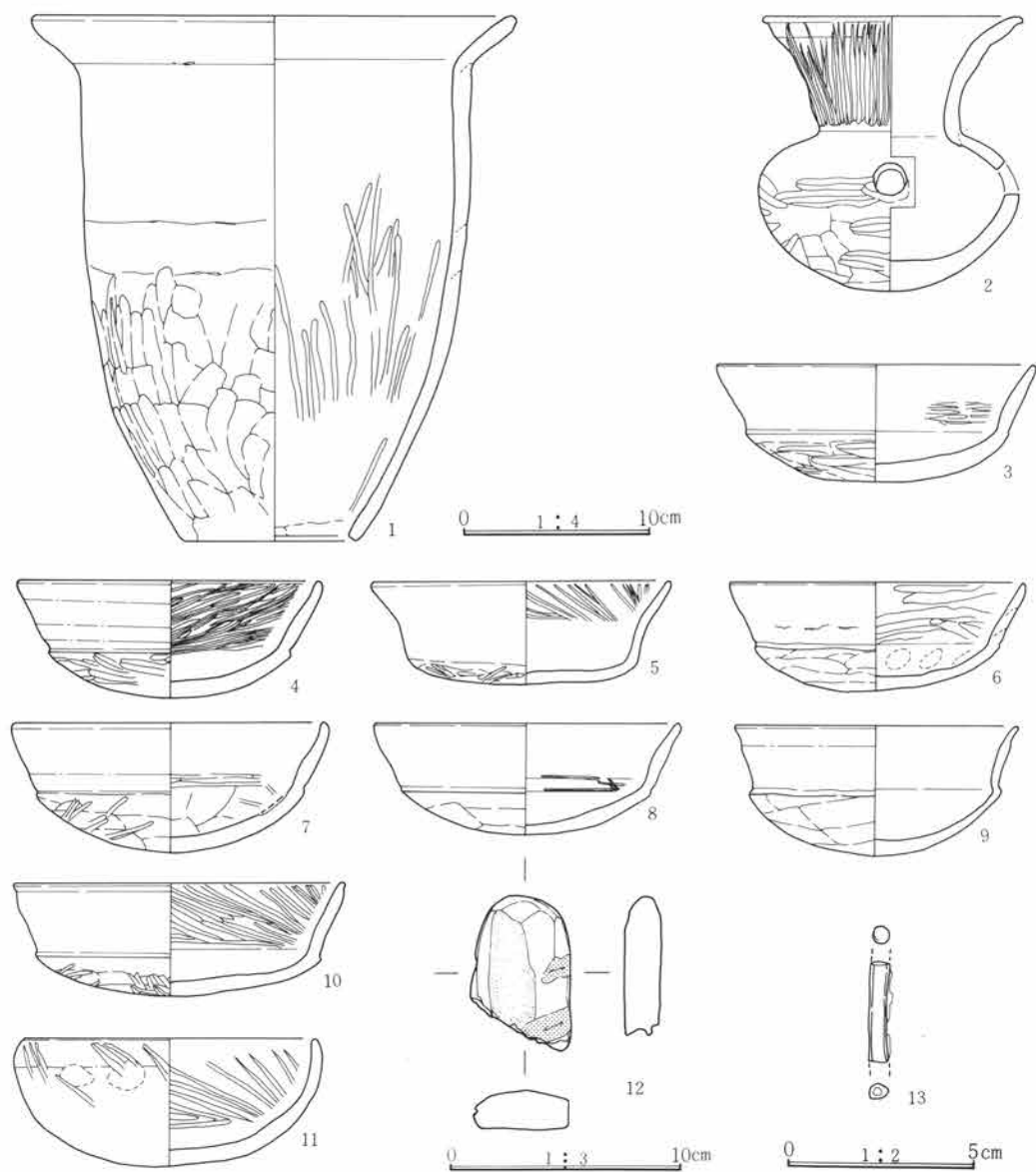
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯	ほぼ完形	9	11.3 5.1 ●	砂粒を含む。焼成普通。橙色	丸底、底部～体部は、緩やかな丸味をもつ。体部と口縁部の間に段を有し、口縁部は外反する。外面底部～体部ヘラケズリ、口縁部横ナデ。内面ヘラナデ。	P 56 写図10
杯	ほぼ完形	10	13.3 4.5 ●	砂粒僅かに含む。焼成普通。口縁部内外面に黒斑。橙色。	丸底、底部～体部は緩やかな丸味をもつ。体部と口縁部の間に段を有し、口縁部は外反する。外面底部～体部ヘラケズリ、口縁部横ナデ。内面ナデ後、口縁部に斜行する暗文状ヘラミガキ。	P 62・68 写図10
杯	完形	11	11.5 5.1 ●	小砂粒を含む。焼成普通。橙色。	丸底、底部～体部は双曲線の丸み。口縁部は内湾、外面口縁部横ナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	P 54 写図10

153号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
礫器釘	12	5.6	3.8	1.5	51	雲母石英片岩	トーン部磨面。ドット部自然面。	S 1 写図28 118
	13	2.7	0.5	0.1	1.1	鉄	両端欠損。断面円形。	

155号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	口縁部～胴中央部	1	(18.0) (18.6) —	砂粒、小石を含む。焼成普通 外面スス附着。褐灰色。	頸部は緩やかにくびれ、口縁部はほぼ直線的に外反、口唇部はやや内傾。内面輪積痕。口唇部に波状文、口縁部縦ハケナデ、頸部に時計回り簾状文。内面はハケナデ。	P 7 C 写図10
甕	口縁部～胴上半部	2	16.0 (16.4) —	砂粒、小石を含む。焼成普通 外面スス附着。黄橙、黒褐色	頸部は緩やかにくびれ、口縁部はほぼ直線的に外反。口唇部は内傾。内面輪積痕。外面は、口唇部に波状文、口縁部縦ハケナデ、胴上部に3段の波状文。内面ハケナデ後、指ナデ。	P 7 B 写図10
甕	胴下部～底部	3	— (10.1) 8.8	砂粒、小石を含む。焼成普通 明赤褐色。	胴下部は直線的につぼまる。内面輪積痕。外面は、縦ハケナデ。内面ナデ。	P 7 A



第51図 153号住居址出土遺物

第2節 竪穴住居址出土遺物

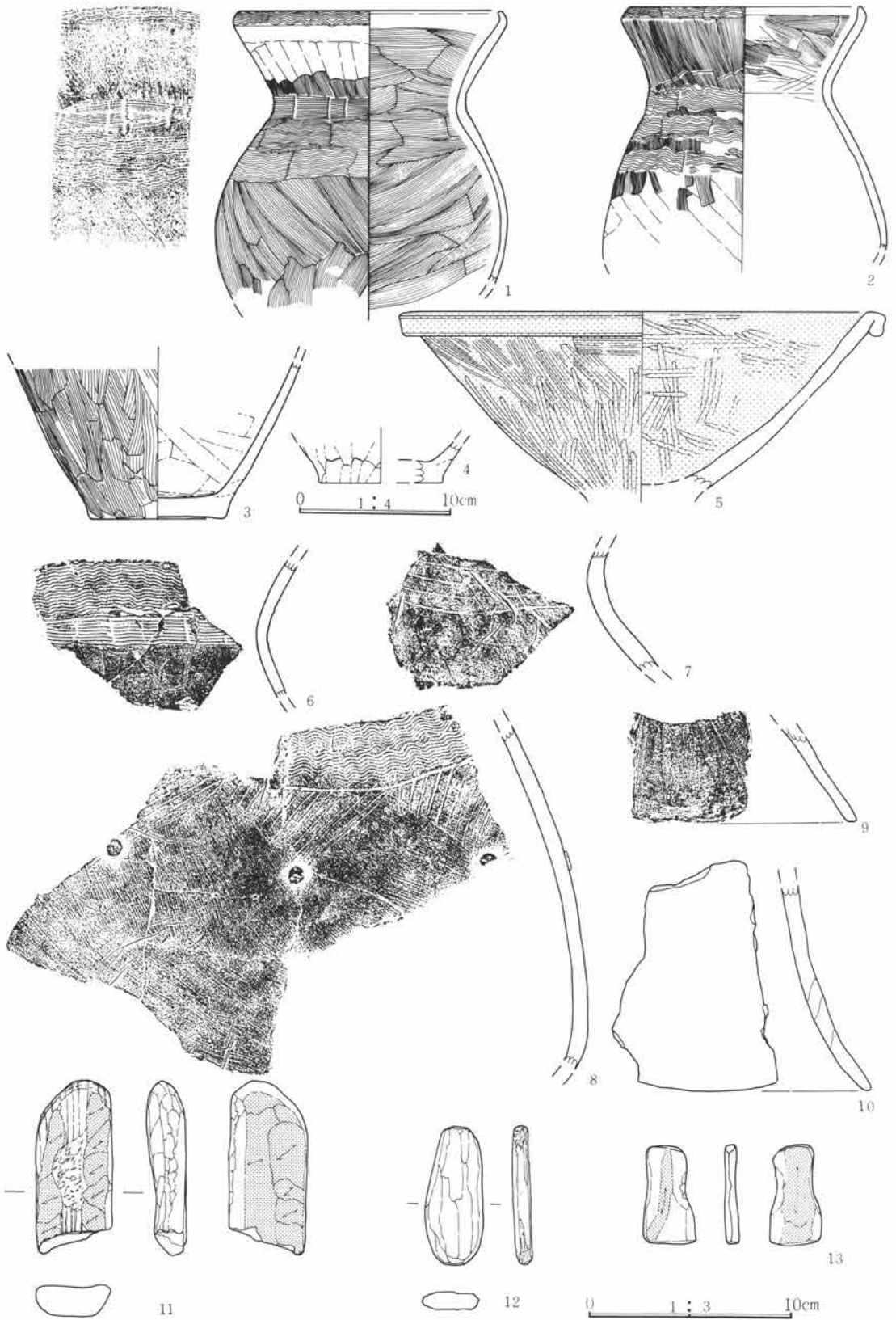
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	底部破片	4	— (2.5) (8.2)	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。焼成良い。外面スス付着にぶい褐色。	外面ヘラによる整形。	P1
高杯	杯部の欠	5	(23.0) (8.8) —	砂粒小石を含む。焼成普通。赤橙色。	杯部は内湾気味にひらく。口唇部外面に凸帯貼り付け。内外面輪積痕。内外面赤彩後ヘラミガキ。	P4 写図10
甕	頸部小片	6	— — —	小砂粒を含む。胎土細かい。焼成普通。にぶい黄橙色。	内面輪積痕。外面は、口縁部縦指ナデ、頸部時計回り簾状文、胴上部波状文。内面ナデ	フク土 写図31
甕	頸部の一部	7	— —	小砂粒を含む。焼成良好。橙色。	成形不明。内外面ナデ。頸部に数条の横線文。	フク土 写図31
甕	胴上半の一部	8	— — — —	砂粒小石を含む。焼成普通。にぶい黄橙色。	内外面輪積痕。外面は、上から順に8条を1単位とする波状文、鋸歯文、ボタン状貼付文、外面胴部は細いナナメハケナデ。内面はヨコハケナデ	P7D 写図10
台付甕	台部の一部	9	— —	小砂粒を含む。焼成良好。橙色。	成形不明。外面縦ハケナデ内面指ナデ。	P20 写図31
高杯	口縁の一部	10	— —	砂粒小石を含む。焼成普通。橙色。	外面輪積痕。外面縦指ナデ。内面横指ナデ。	P2 写図31

155号住居址遺物観察表

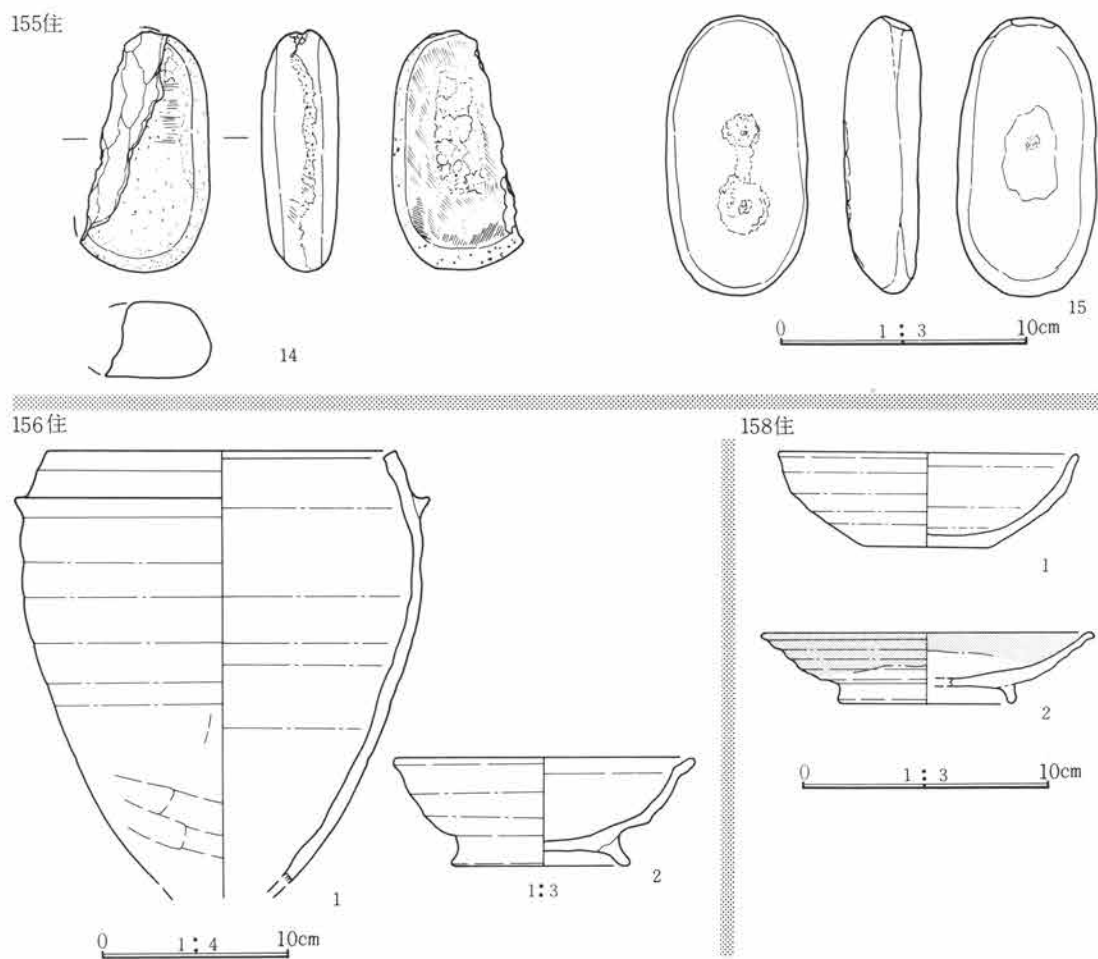
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	11	8.45	3.8	1.5	92	雲母石英片岩	トーン部磨面。表面敲打痕。	フク土 写図29
礫器	12	6.8	2.8	0.9	31	雲母石英片岩	両端に敲打痕。	フク土 写図29
砥石	13	4.9	2.6	0.7	11	砂岩	トーン部磨面。	フク土 写図30
磨石	14	9.5	5.4	3.1	190	粗粒安山岩	表面磨面。側縁、表面敲打痕。	フク土 写図29
凹石	15	11.0	5.7	3.1	280	粗粒安山岩	両面凹。表面磨られている。	1

156号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁～胴部欠残	1	18.5 (23.0) —	φ1～4mmの小石、砂粒を含む。内面にスス付着。還元焰焼成。浅黄橙色。	鏝下に最大径をもち、内湾しながら口縁につながる。鏝は先端が尖り、上面が上方向に反る。ロクロ目は強い。胴下部では右下から左上方向にヘラケズリが施される。	P58・65・98・76
椀	口縁は一部欠損	2	11.8 4.3 7.2	細かい砂粒を含む。内面にスス付着。焼成良い。酸化焰焼成。にぶい橙色。	体部から直線的に立ち上り、口縁で外反する。ロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り。高台を貼り付け後ナデ。	P97 写図10



第52図 155号住居址出土遺物



第53図 155号、156号、158号住居址出土遺物

158号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 須恵器	口縁～体 部欠損	1	(12.0) 3.7 5.0	φ 1 mm以下の細かい砂粒を含む。内外面にスス附着。灰オリーブ色。	体部は内湾ぎみに立ち上る。ロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り後、ナデを施す。	P40 写真10
皿 灰細陶器	1/2残存	2	13.3 2.8 7.1	極細かい黒色の砂粒を少量含む。釉は厚くぬられている。釉は緑色。灰白色。	体部はゆるく内湾して開く、ロクロ目は強い。高台は貼り付けで、やや内湾する。	P138・175

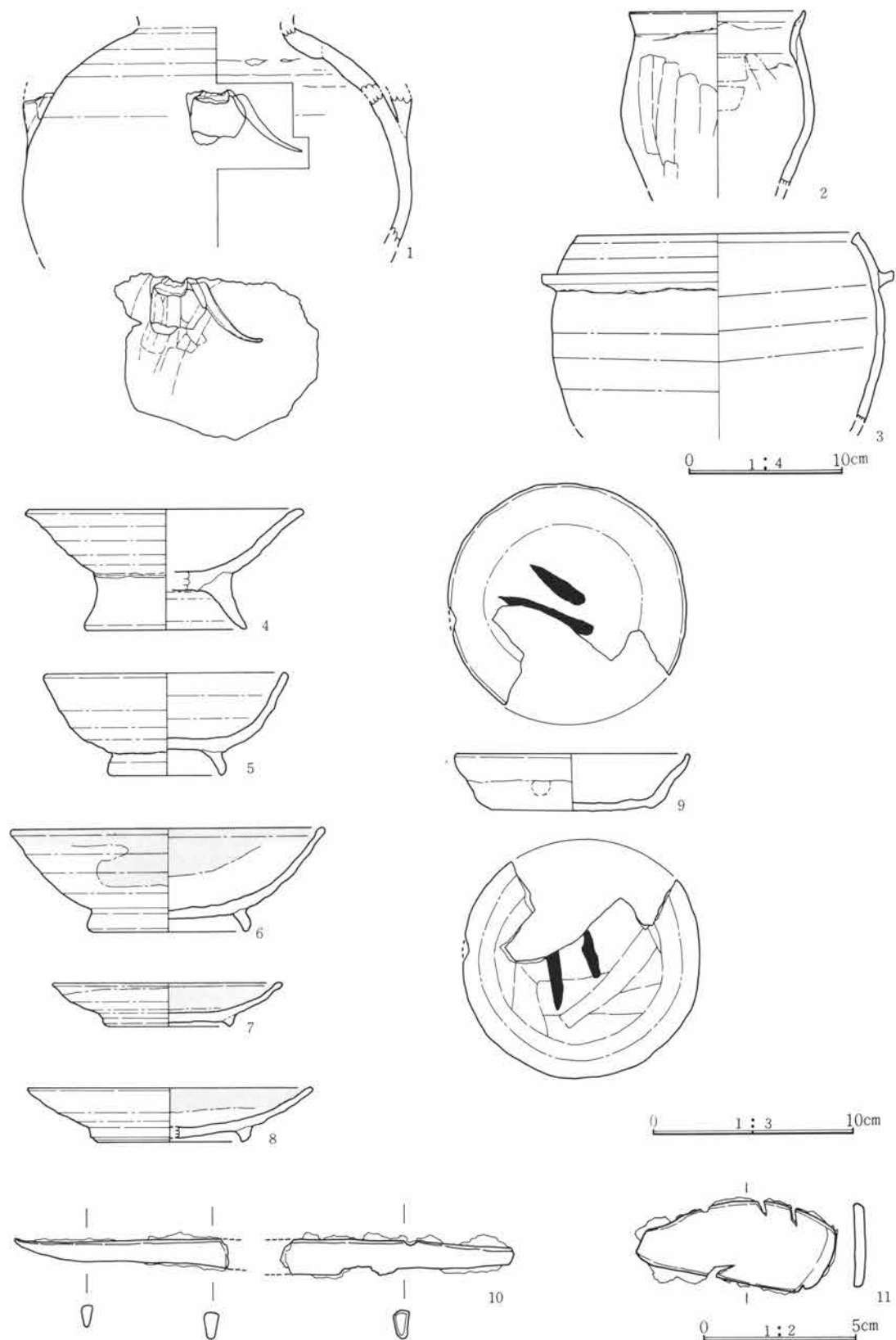
第3章 出土した遺物

159号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
四耳壺? 須恵器	肩部 $\frac{1}{2}$ 残	1	— (14.7) —	砂粒、礫を含み緻密ではない 焼成良。灰色。	内面はヨコナデ、外面はヘラ によるナデ。耳の部分は貼り 付け後ナデを施す。	P14・12
甕	口縁へ胴 $\frac{1}{2}$ 残	2	11.4 (11.3) —	砂粒、 ϕ 1~5mmの小石を含 む。口縁付近スス附着。焼成 良。赤褐色。	口縁は内外面とも横ナデ、体 部は、縦方向のヘラケズリ 内面に輪積痕が残る。	P105
羽 釜	口縁 $\frac{1}{2}$ 残	3	(18.4) (12.2) —	ϕ 1~3mmの小石、砂粒を含 む。外面スス附着。焼成良。 灰白色。	ロクロ整形、罎下に最大径を 持つ。罎上は大きく内湾する 罎は断面四角形で上面が反 る。	P65・カマドフク土 写図10
椀	$\frac{1}{2}$ 残存	4	(13.6) 5.8 (8.0)	ϕ 1mm以下の細かい砂粒を多 く含む。内面スス附着。焼成 良灰白色。	口縁で外反する。ロクロ整形 外面はロクロ目が残る。底部 は、糸切り後高台貼り付。高 台は高く外反する。	P22
椀	$\frac{1}{2}$ 残存	5	(12.0) 5.0 5.8	細かい砂粒を多く含む。焼成 良くなくザラつく。にぶい赤 褐色。	体部は内湾ぎみに立ち上る。 ロクロ整形、ロクロ目は弱い 底部切り離し不明、高台貼り 付け後、良くナデ整形してい る。	P37・24・69
椀 灰釉陶器	$\frac{1}{2}$ 残存	6	15.4 5.0 (7.4)	胎土は良く精製され緻密であ る。焼成良い。スス附着。灰 白色。	体部は内湾しながら立ち上 る。ロクロ整形、ロクロ目は 弱い底部は高台貼り付け後、 ナデ整形している。	P67・44
皿 灰釉陶器	完形	7	11.2 2.1 6.3	黒色砂粒を少量含む。焼成良 釉は漬掛け、淡い緑色。灰白 色。	体部は直線的に開くが、全体 にゆがみを持つ。底部右回転 糸切り後、高台貼り付。断面 三角形を呈する。	P21 写図10
皿 灰釉陶器	$\frac{1}{2}$ 残	8	(13.6) 2.6 (7.1)	極少量細かい砂粒を含む。焼 成良い。釉は漬掛け、透明。 灰白色。	体部は直線的に開く。ロクロ 目が表面に強く残る。底部高 台貼り付後、ロクロ回転によ る整形。断面四角形。	P144
杯 土師器	$\frac{1}{2}$ 残	9	11.5 2.8 8.0	ϕ 1mmの黒色砂粒を含む。焼 成良い。口唇部にスス附着。 橙色。	体部は屈曲しながら開く。内 面ナデ、外面口縁部ナデ。底 部ヘラ切り。口縁部内面に指 頭による圧痕。墨書が内外面 にみられる。	P85

159号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材 質	特 徴	出土位置・写真図
刀	10	14.7	1.0	0.1	11.1	鉄	錆化が激しい。中程欠損。刃部の消耗少ない。	148
不 明	11	6.6	2.8	0.3	13.5	鉄	錆化が激しくひびが入る。長方形の板状。	18



第54図 159号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

160号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
鉢?	口縁部破片	1	— — —	細かい砂粒多い。焼成良い。にぶい黄橙色。	やや厚手で、口縁に屈曲を持つ。口唇外面ヨコナデ。外面縦位、内面横位のハケ目整形	P44・45・フク土 写図32
壺	口縁部破片	2	— — —	砂粒多く含む。焼成良い。にぶい褐色。	口唇が屈曲し直に立ち上る。口唇部に波状の沈線。外面斜位、縦位、内面横位にハケ目整形。	P64 写図32
甕	口縁部破片	3	— — —	黒色の雲母、砂粒を含む。焼成良い。橙色。	口唇がやや内湾する。口唇部に波片の沈線。外面はハケ目内面はミガキによる整形。	P71 写図32
壺	口縁部破片	4	— — —	細かい砂粒を含む。焼成良い。にぶい褐色。	口唇が屈曲し直に立ち上る。口唇部に波状の沈線と、円形の粘土を貼付。粘土には丸棒状の工具による刺突が施される。外面は斜、縦位に内面は横位にハケ目整形。	P79 写図32
甕	口縁部破片	5	— — —	黒色の砂粒を含む。焼成良くなくザラつく。にぶい橙色。	折り返し口縁。口縁部に波状の沈線。外面は斜位、内面は横位のハケ目整形。	P32 写図32
壺	肩部破片	6	— —	砂粒を含む。焼成は良く堅く緻密である。浅黄橙色。	波状の沈線と、鋭いヘラ状の工具による斜格子目文。内面は横位のナデ、外面も斜位のハケ目整形。	P3 写図32
甕	肩部破片	7	— — —	砂粒を多く含む。焼成良くなくザラつく。灰黄褐色。	外面斜位にハケ目整形した後波状の沈線。内面横位のハケ目整形。	P86 写図32
高杯	口縁部破片	8	— — —	細かい白色砂粒を多く含む。焼成良い。内外面に朱を塗る。内外面赤彩色。	高杯口縁部が外側に屈曲する。口唇には3~4単位の刻みが鋭いヘラ状工具により施される。	P25 写図32
高杯	口縁部破片	9	— — —	細かい砂粒を多く含む。焼成やや良くない。表面が剥落している。内外面に赤色塗彩。	口唇部で若干立ち上る。内外面とも良く磨かれている。	P80 写図32
高杯	杯部破片	10	— —	細かい砂粒を含む。焼成良い。内外面に赤色塗彩。	両面ともていねいにヘラミガキを施す。	P59 写図32

162号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	胴下部～底部	1	— (4.0) 6.1	砂粒、 ϕ 2 mm程の小石を含む 焼成良い。にぶい黄橙色。	外面は縦位のハケ目。内面は 横位のハケ目で、底部との接 合部は指頭による圧痕が見ら れる。	P 3・フク土
壺	肩部破片	2	— — —	細かい砂粒が多く含まれる。 焼成良い。にぶい黄橙色。	ハケ目整形の後、波状、山形 状の沈線を施文する。山形沈 線の頂点には円形の粘土が貼 付され、円形竹管による刺突 が施される。	フク土 写図32
壺	複合口縁 部破片	3	— — —	ϕ 1 mm前後の砂粒を多く含み 焼成悪くザラつく。橙色。	複合口縁の屈曲部。表面磨滅 多い。口縁部には、単節 LR の 縄文が施文される。	P 8 写図32

163号住居址遺物観察表

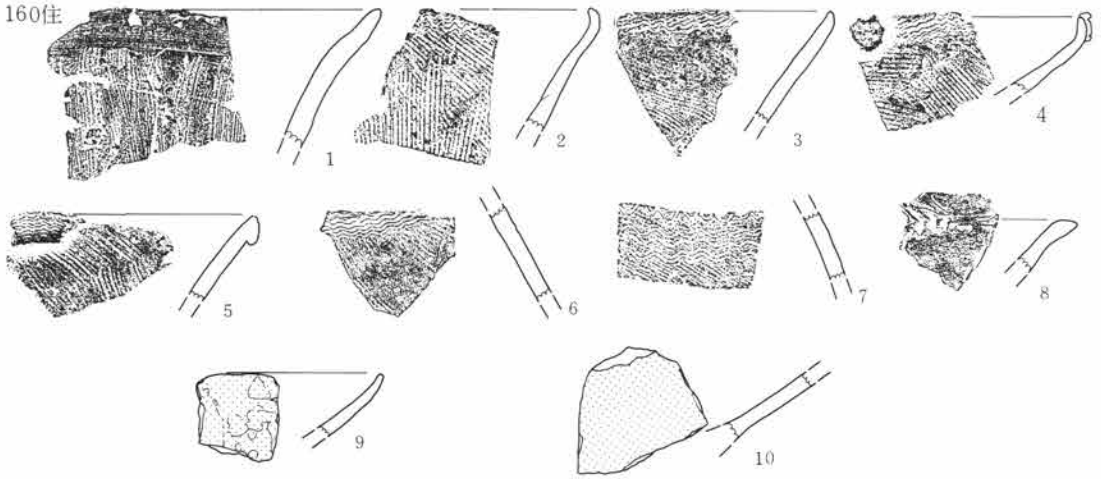
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
盤 須恵器	1/2残存	1	(30.0) (2.6) —	砂粒を多く含む。焼成良い。 灰色。	底部から口縁に直線的に開く ロクロ整形。底部から口縁部 にかけてヘラケズリによる整 形が施される。	P 19
椀	口縁3/4欠	2	(16.8) 6.3 8.8	黒色の極細かい砂粒を含む。 胎土は粗密で焼成良くない。 ザラつく。灰白色。	体部は直線的に開き、口縁で 若干外反する。底部は右回転 糸切りで、高台貼り付け後ナ デている。ロクロ整形で、ロ クロ目は強い。	P 22 写図10

163号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	3	14.8	13.1	11.0	2100	粗粒安山岩	トーン部研ぎ面。刃先を調整した痕が残る。	カマド S 1 写図31



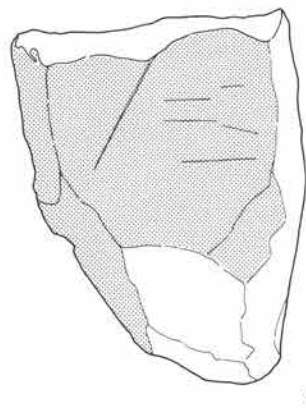
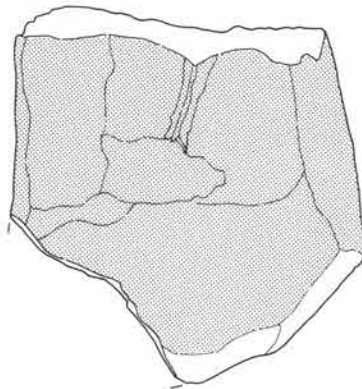
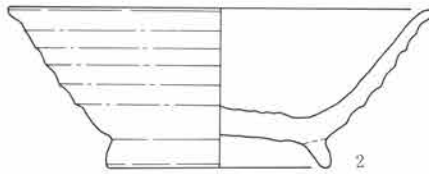
160住



162住



163住



0 1 : 3 10cm

第55図 160号、162号、163号住居址出土遺物

164号住居址遺物観察表

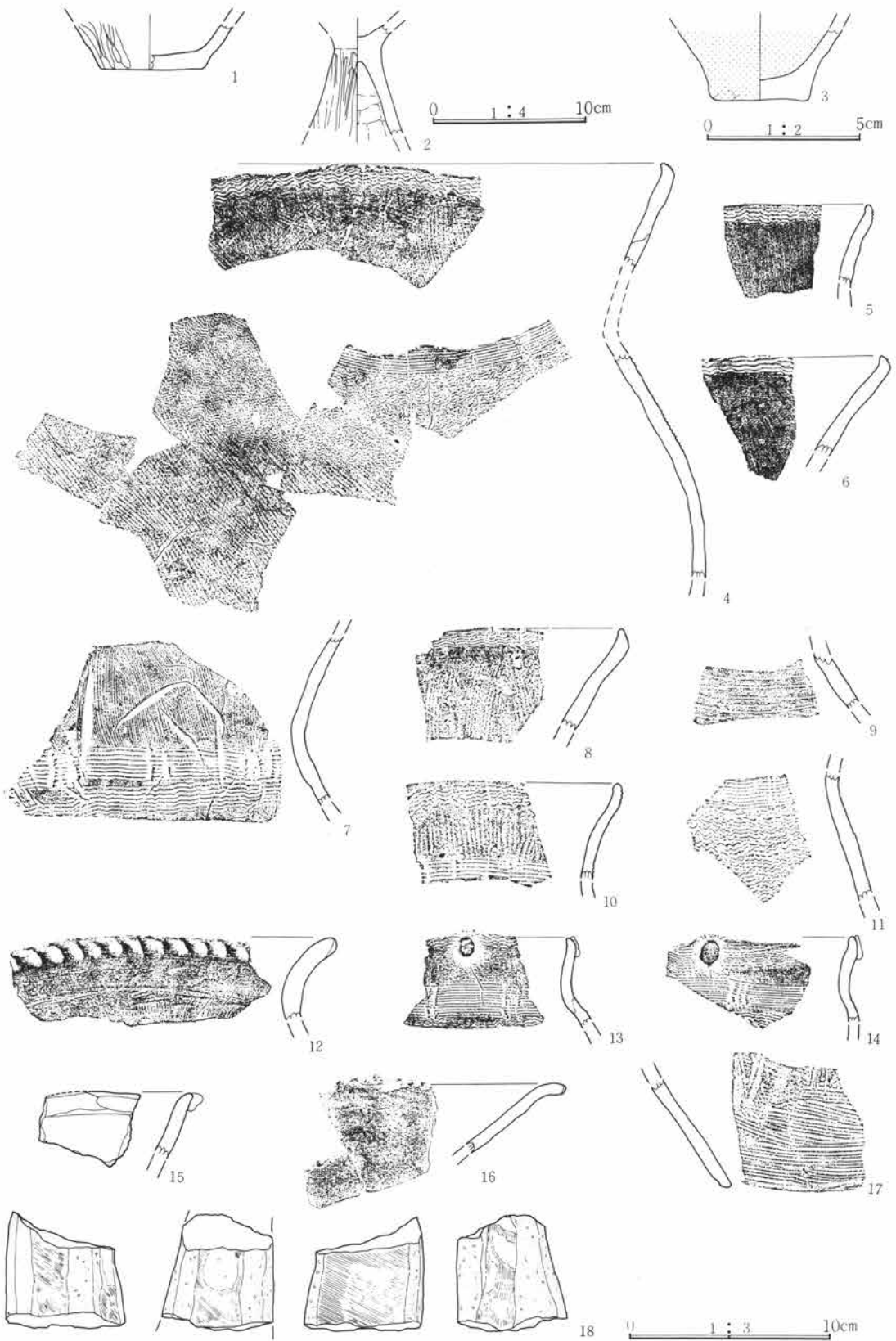
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	胴部下～ 底部	1	— (3.0) 6.5	砂粒を多く含む。焼成良い。 胎土は緻密である。褐灰色。	外面はヘラによる縦位のナデ 整形。内面は横位のナデ。底 面はヘラケズリによる整形。	P55・62・70・81
高杯	脚部破片	2	— (7.1) —	砂粒、φ4～6mmの小石を含 む。焼成良い。胎土は緻密。 赤褐色。	やや細身で直線的に開く脚部 外面は縦位のミガキ、内面は 横方向のミガキ。杯部内面は 若干のミガキがあるが、粘土 のシワが残る。	P85
甕 ミニチュ ア土器	上部欠損	3	— (2.3) 3.2	細かい砂粒を多く含む。胎土 は粗密。焼成は良い。内外面 とも赤彩。	外面は縦位、内面横位のミガ キ。底面はヘラケズリ。底面 には赤彩は施されない。	P56
甕	口縁～胴 部破片	4	— — —	砂粒、φ3～5mmの小石を含 む。胎土は粗密。焼成良い。 にぶい黄橙色。	胴上部に最大径を持つ。口唇 部が外側へ削がれる。内外面 にハケ目整形を施した後、口 唇部、肩部に波状、頸部に簾 状文を施す。	P77・167・129・112・ 33・140・141・143・157・ 263 写図33
甕	口縁部破 片	5	— — —	砂粒を含む。胎土は緻密。焼 成良い。黒褐色。	口唇部で若干内側に屈曲する 口唇部に4本単位の波状文。 外面縦位のハケ目、内面横位 のミガキを施す。	P210 写図34
甕	口縁部破 片	6	— — —	細かい砂粒を含む。胎土は粗 密で焼成は良い。にぶい黄褐 色	口唇部で若干内側に屈曲する 口唇部に4本単位の波状文。 外面縦位のハケ目調整。内面 横位にミガキ。	P215 写図33
壺	頸部破片	7	— — —	砂粒、φ1mm前後の小石を含 む。胎土は粗密。焼成は良い 口縁内側に若干赤色塗彩が残 る。にぶい黄橙色。	比較的頸部の径が大きくなる 頸部内面に成形時の輪積痕と 稜を残す。内面横位のハケ目 外面縦位のハケ目整形。頸部 に4本単位の櫛歯による簾状 文を2段に施し、肩部に同一 工具による波状文を施文。文 様は右から左方向へ施文して いる。	P268 写図33
甕	口縁部破 片	8	— — —	砂粒、φ1～2mmの小石を含 む。胎土は粗密。焼成良い。 にぶい黄橙色。	口唇部で若干内側に屈曲する 口唇部に4本単位の波状文。 外面縦位のハケ目、内面横位 のハケ目整形。	フク土 写図33
壺	肩部破片	9	— — —	黒色の細かい砂粒を含む。胎 土は粗密。焼成は良くなくザ ラつく。橙色。	鋭いヘラ状の工具で横位に沈 線を施文。	P88 写図34
甕	口縁部破 片	10	— — —	細かい砂粒を多く含む。胎土 は粗密。焼成良い。黒褐色。	口唇部で若干内側に屈曲する 口唇部に2本単位の波状沈線 を2段に施す。頸部には同一 工具による簾状文を施文。外 面はハケ目、内面はミガキに よる調整。	P73・82 写図33

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	頸部～肩部破片	11	— — —	黒色の細い砂粒を多く含む。胎土は粗密で、焼成良くなくザラつく。浅黄橙色。	2本単位の櫛歯状工具を数段重ねて簾状文、波状文を施文	P23 写図34
甕	口縁部破片	12	— — —	砂粒、φ1mm前後の小石を含む。胎土粗密。焼成良い。灰黄褐色。	口縁は外反する。口唇部に指頭による圧痕をめぐらす。内外面とも、横位にミガキ。外面頸部以下にハケ目整形。	P78 写図34
甕	口縁部破片	13	— — —	砂粒を含む。胎土は粗密。焼成良い。にぶい黄褐色。	内外面ともハケ目整形の後ミガキ。口唇部に波状沈線と円形の粘土貼付。粘土上には、刺突が加えられる。頸部は右から左方向へ施文する簾状文	P38 写図34
甕	口縁部破片	14	— — —	細かい白色砂粒を含む。胎土は緻密。焼成良い。にぶい橙色。	内外面ミガキ。外面口唇部は波状沈線の上に円形の粘土を貼付。頸部は右から左への簾状文。肩部にも波状文が施文される。	フク土 写図34
高杯	杯口縁部破片	15	— — —	砂粒を含む。胎土は緻密。焼成良い。内外面とも赤色塗彩される。	口縁は折り返しになる。内外面とも良くミガキが施される。	P32 写図34
高杯	杯口縁部破片	16	— — —	砂粒、φ1～4mmの小石を含む。胎土は粗密。焼成あまり良くない。外面口唇部を除き赤色塗彩を施す。	口唇部にキザミを施す。内外面とも良くミガキを施す。	P229 写図34
高杯	脚部破片	17	— — —	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土はやや粗密。焼成良い。外面に赤色塗彩を施す。内一にぶい黄橙色、外一暗赤色。	直線的に開く脚部。外面は良くミガキが施され、光沢がある。内面は、横位方向のハケ目整形を施す。	P187 写図34

164号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磨石	18	5.6	6.0	5.4	242	粗粒安山岩	表面に細かい擦痕が認められる。	S4 写図27
磨石	19	10.1	7.5	3.0	290	砂岩	ドット部磨面。両端、側縁部敲打痕。	S8 写図30
敲石	20	13.9	6.1	4.2	520	粗粒安山岩	両端に敲打痕。側面は磨面。	S6 写図27
敲石	21	11.2	6.8	4.0	440	粗粒安山岩	両端と表裏面に敲打痕。	S11 写図27
砥石	22	3.3	4.0	1.3	24	砂岩	両面、側縁に研ぎ面。	フク土 写図30
不明	23	2.6	0.8	0.2	1.0	鉄	錆化が激しくはっきりしない。刃子片か。	3



第56図 164号住居址出土遺物

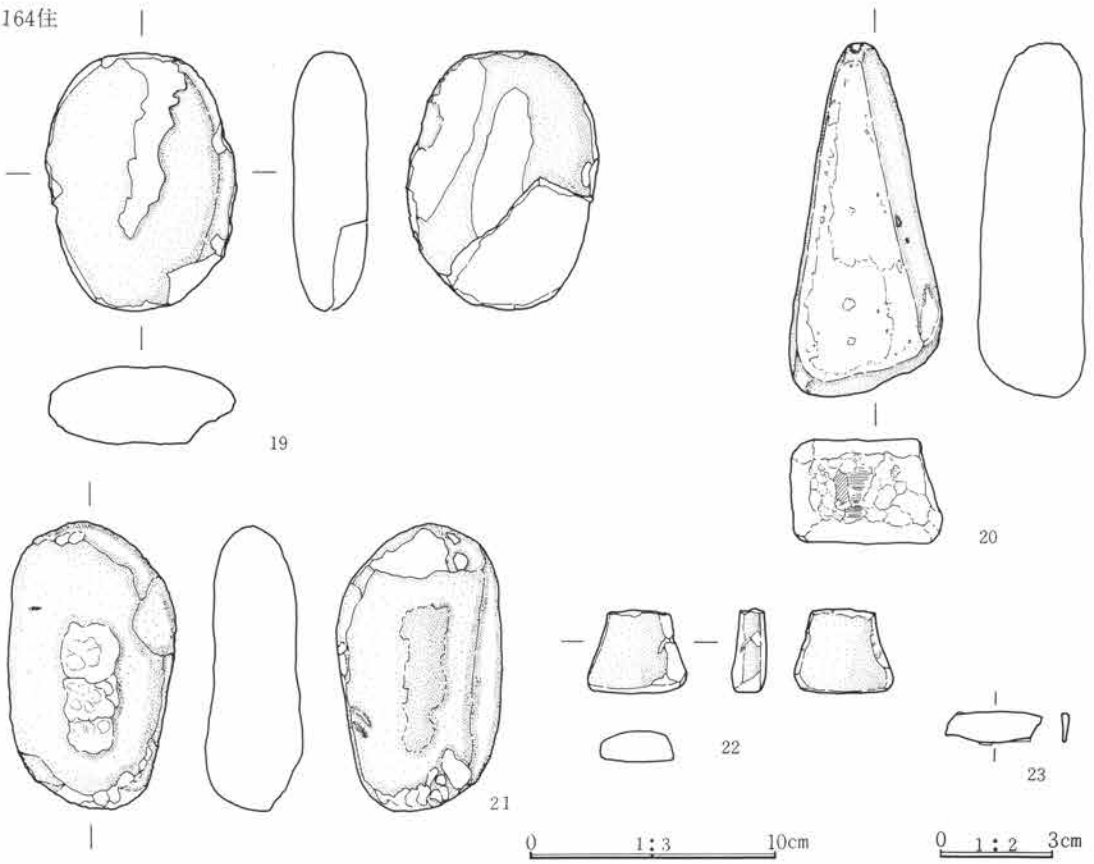
第3章 出土した遺物

166号住居址遺物観察表

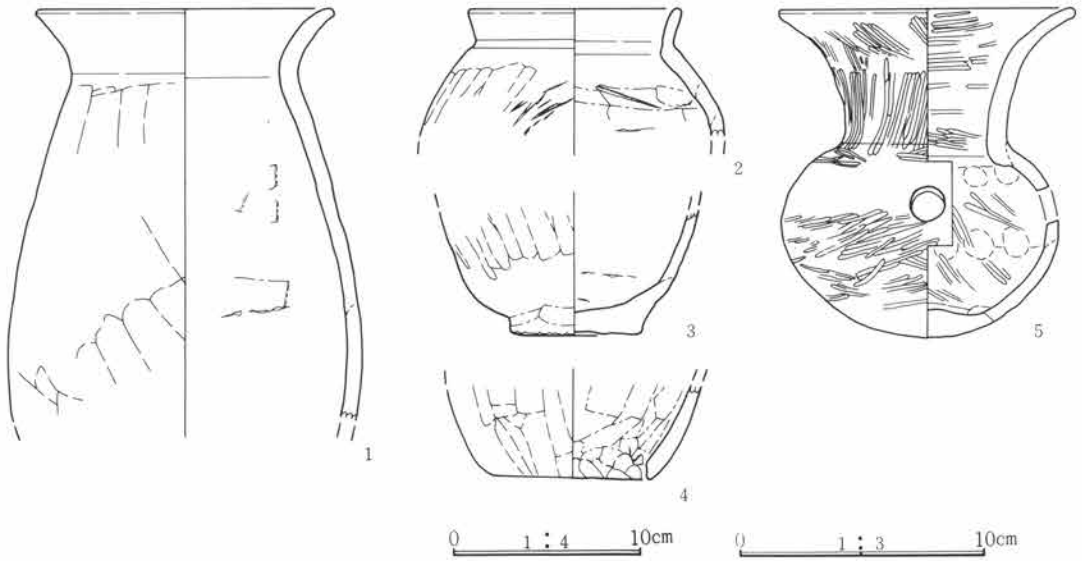
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	口縁〜胴部 ^{1/2}	1	(16.2) (21.8) —	細かい砂粒を少量含む。胎土は粗密。焼成良い。にぶい褐色。	口縁はゆるく外反し、胴下部に最大径を持つ。口縁部ヨコナデ。胴部はヘラケズリ整形内面に輪積痕が残る。	P 6・フク土
甕	口縁〜胴部	2	(11.4) (6.8) —	細かい砂粒、 ϕ 2〜5 mmの小石を含む。胎土は粗密、焼成良くなくザラつく。全体に摩滅している。にぶい橙色。	口縁部は短く、垂直に近い角度で立ち上る。肩部で丸く張り出す。口縁部はヨコナデ、胴部は内外面ともヘラによるナデ整形。内面に口縁部の接合痕を残す。	P 2
甕	底部	3	— (6.7) 6.9	ϕ 1〜3 mmの小石を多く含む。胎土は粗密。焼成は良くない。内面にスス、外面にも付着物がある。橙、黒褐色。	内外面ともヘラによるナデ整形を施す。底部は、接合痕が認められる。底面はヘラによるケズリ。	P 12
甕	底部	4	— (4.8) 8.4	砂粒、 ϕ 2〜5 mmの小石を含む。胎土はやや緻密。焼成良さ付着。にぶい橙、明赤灰	内外面ともヘラケズリが入念に施される。底部孔は1穴で表面が剝落している。	P 5
甕	ほぼ完形	5	11.6 13.0 ●	細かい砂粒を含む。胎土は緻密で、焼成は良い。にぶい橙、橙色。	胴部は球形に近く底部丸底。頸部は直立し外反する口縁部に続く。内外面ともヘラミガキによって入念に磨かれてる	P 1 写真11



164住

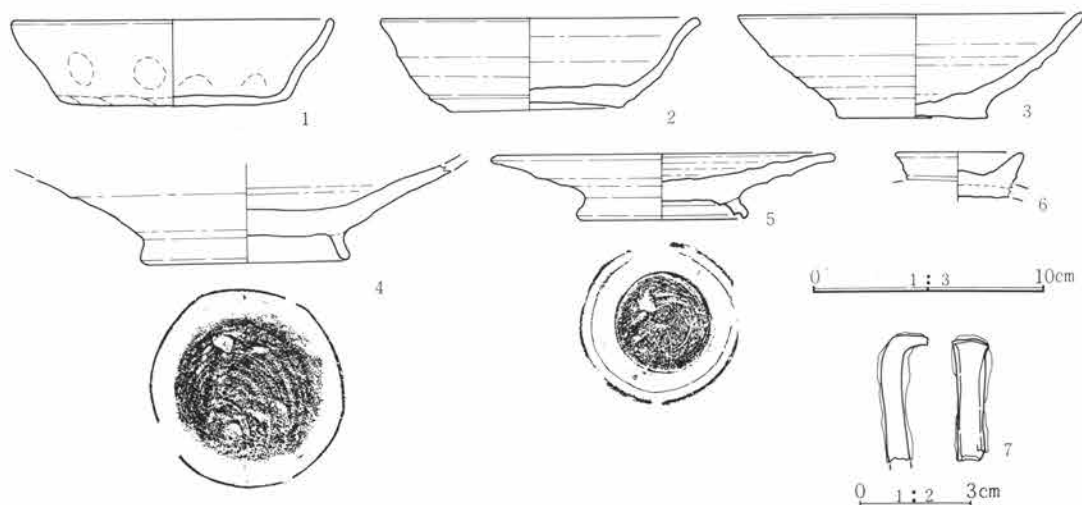


166住



第57図 164号、166号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物



第58図 167号住居址出土遺物

167号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	1/4残存	1	(12.8) 3.4 (9.2)	細かい砂粒を少量含む。胎土緻密。焼成良い。にぶい赤褐色	体部内外面に指頭による圧痕がある。口縁部ヨコナデ。底部ヘラケズリ。	P 2
杯 須恵器	口縁の一部欠損	2	12.8 3.6 6.8	黒色の細かい粒子を含む。胎土粗密。焼成悪くザラつく。還元焰焼成。灰白色。	ロクロ整形。ロクロ目は弱い。口縁部でやや外反する。底部は右回転糸切り。	P14 写真10
杯 須恵器	口縁の1/2欠損	3	(13.8) 4.1 6.0	砂粒を少量含む。胎土やや粗密。焼成良い。還元焰焼成。にぶい黄橙色。	体部はやや内湾ぎみに立ち上る。ロクロ整形で、ロクロ目は強い。底部は右回転糸切りで、高台状に作り出す。	P 9 写真11
碗 須恵器	口縁部欠損	4	— (3.7) (8.0)	黒色砂粒を多く含む。胎土緻密。焼成良い。還元焰焼成。内面スス付着。灰白色。	ロクロ整形。ロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り後高台を貼り付けナデを施す。	P 1
皿 須恵器	口縁部約1/2欠損	5	(13.8) 2.55 6.6	砂粒、φ1~3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成あまり良くなく、ザラつく。還元焰焼成。灰白色。	体部から直線的に開く。ロクロ整形。ロクロ目は強い。底部右回転糸切り高台貼り付け後ナデを施す。高台底面にロクロによる稜を残す。	P12 写真11
蓋 須恵器	鈕部破片	6	4.9 (1.7)	黒色砂粒を含む。胎土緻密。焼成良い。還元焰焼成。灰白色。	ボタン状に粘土を貼り付け、ロクロ整形をする。中央部がもり上る。	フク土

167号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
釘	7	3.3	0.7	0.7	3.3	鉄	先端部欠損。断面四角形。頭部屈曲する。	フク土

168号住居址遺物観察表

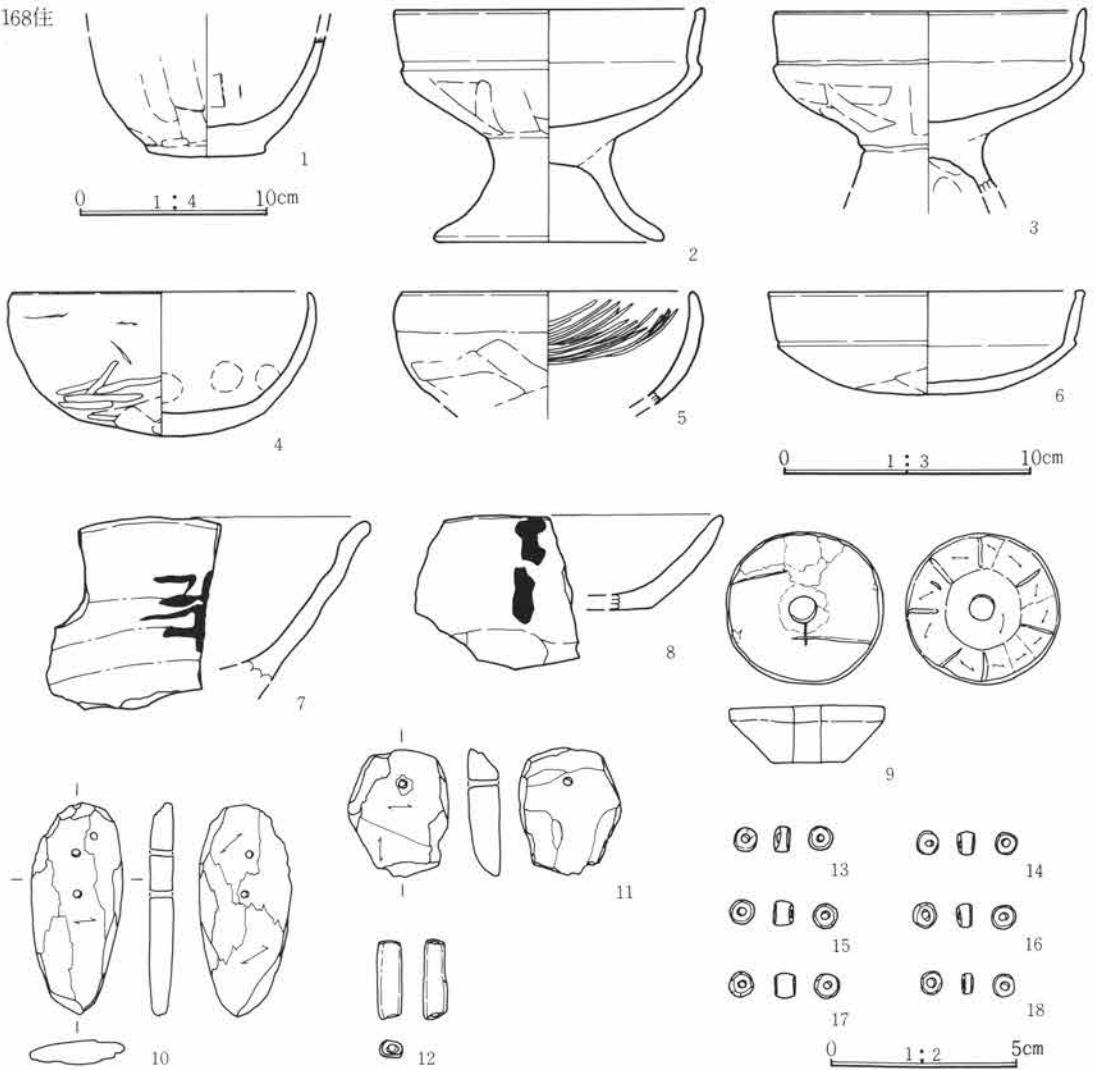
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
小型甕土師器	胴下部～底部	1	— (6.3) 6.5	砂粒、 ϕ 1～5mmの小石、胎土は粗密。焼成普通。内面スス付着。にぶい橙色。	全体に磨滅が多い。外面に縦位のヘラケズリ。内面底部に円型の剝落痕が数ヶ所有。	P11・カマド内
高杯土師器	脚部 $\frac{1}{2}$ 欠損	2	12.3 9.1 (9.1)	砂粒、 ϕ 1～5mmの小石を含む。胎土は粗密。焼成良い。明赤褐色。	口縁下端部に稜を持つ。脚は短めで緩やかに湾曲しながら広がる。口縁部はヨコナデ、稜より下はヘラケズリ調整。	P13・フク土
高杯土師器	脚部欠損	3	12.4 (7.2) —	砂粒、 ϕ 1～5mmの小石を含む。胎土は粗密。焼成あまり良くなくザラつく。橙色。	口縁下端部に稜を持つ。脚は欠損しているが、おそらく2の土器と同じになる。口縁部はヨコナデ、稜より下はヘラケズリ。	P12
杯土師器	口唇部の一部が欠ける	4	11.8 5.5 ●	ϕ 1mm前後の小石を含む。胎土は緻密。焼成良い。にぶい橙色。	体部は内湾しながら立ち上り丸底になる。内面はていねいにナデを施す。指頭丘痕がある。外面底部近くはミガキによる整形。	P14 写図11
杯土師器	体部 $\frac{1}{2}$ 残存	5	(11.6) (4.4) —	ϕ 1～3mmの小石を含む。胎土はやや緻密。焼成良い。明赤褐色。	体部は内湾しながら立ち上り丸底になると思われる。口縁下に弱い稜がつく。内面は放射状のヘラによるミガキ。外面は、口縁部ヨコナデ、稜線下は、ヘラケズリが施される。	P16・フク土
杯土師器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存	6	(12.4) 4.0 ●	ϕ 1～3mmの小石を含む。胎土はやや緻密。焼成良い。橙色。	口縁下端に稜を持ち丸底になる。口縁内外面はヨコナデ。外底面は、ヘラケズリが施される。	フク土
杯土師器	口縁破片	7	— — —	砂粒、 ϕ 1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。外面スス付着。灰白色。	ロクロ整形。ロクロ目は強い	墨書土器。文字不明。貯フク
杯土師器	口縁破片	8	— — —	砂粒、 ϕ 1～3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。にぶい橙色。	内面横ナデ。底部はヘラ切り	墨書土器。文字不明。フク土

168号住居址遺物観察表

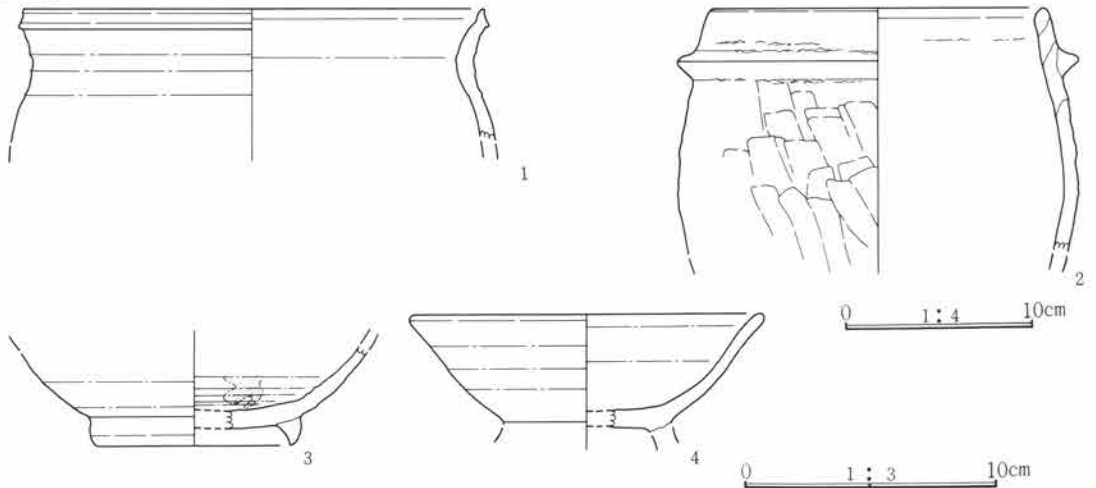
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
紡錘車	9	4.0	4.2	1.5	33.6	蛇紋岩	下端の一部欠損。上面に線刻。側面線状痕。	31 写図33
剣形品	10	5.7	2.5	0.6	11.78	滑石	表裏に自然面を残す。側縁に打ち欠き痕残す。	7 写図33
剣形品	11	3.4	2.7	0.9	10.45	滑石	表裏に自然面、側縁に打ち欠き痕残す。	8 写図33
管玉	12	2.1	0.7	0.6	1.38	蛇紋岩	表面に擦痕。両側から穿孔している。	9 写図33
白玉	13	0.7	0.6	0.4	0.25	滑石	管玉状のものを切り離したと思われる。	1 写図33
白玉	14	0.6	0.6	0.5	0.25	滑石	//	2 写図33
白玉	15	0.7	0.7	0.5	0.35	滑石	//	3 写図33
白玉	16	0.7	0.7	0.4	0.23	滑石	//	4 写図33
白玉	17	0.7	0.7	0.6	0.40	滑石	//	5 写図33
白玉	18	0.6	0.6	0.3	0.14	滑石	//	6 写図33

第3章 出土した遺物

168住



169住



第59図 168号、169号住居址出土遺物

169号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 須恵器	口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存	1	24.5 (7.0) —	黒色粒子、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。灰白色。	ロクロ整形、ロクロ目が強く残る。口唇部は直立する。口縁部はゆるく外反し胴部へ続く。	P12
羽釜	口縁~胴部 $\frac{1}{2}$ 残存	2	17.8 (12.9) —	砂粒、 ϕ 1~5mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良。酸化焰焼成。内面剥落がある。橙色。	胴部で内湾し、口縁部は直立ぎみに立ち上る。罫は断面三角形。口縁内外面ともヨコナデ。胴部外面縦位のヘラケズリ。	P3
椀 須恵器	$\frac{1}{2}$ 残存	3	— (3.9) (8.0)	黒色粒子少量含む。胎土緻密。焼成良。高台部にスス付着。還元焰焼成。浅黄色。	ロクロ整形、ロクロ目弱い。体部は内湾ぎみに立ち上る。底部切り離し不明。高台貼り付後良くナデている。高台は内湾し、猫足状になる。	P4・フク土
椀 須恵器	$\frac{1}{2}$ 残存	4	(14.0) (4.2) —	砂粒、 ϕ 1~5mmの小石を含む。胎土はやや粗密。焼成良。還元焰焼成。灰白色。	ロクロ整形、ロクロ目は弱い。体部は内湾ぎみに立ち上り、口唇で弱く外反する。底部は糸切り後高台貼り付し良くナデている。	P7

170号住居址遺物観察表

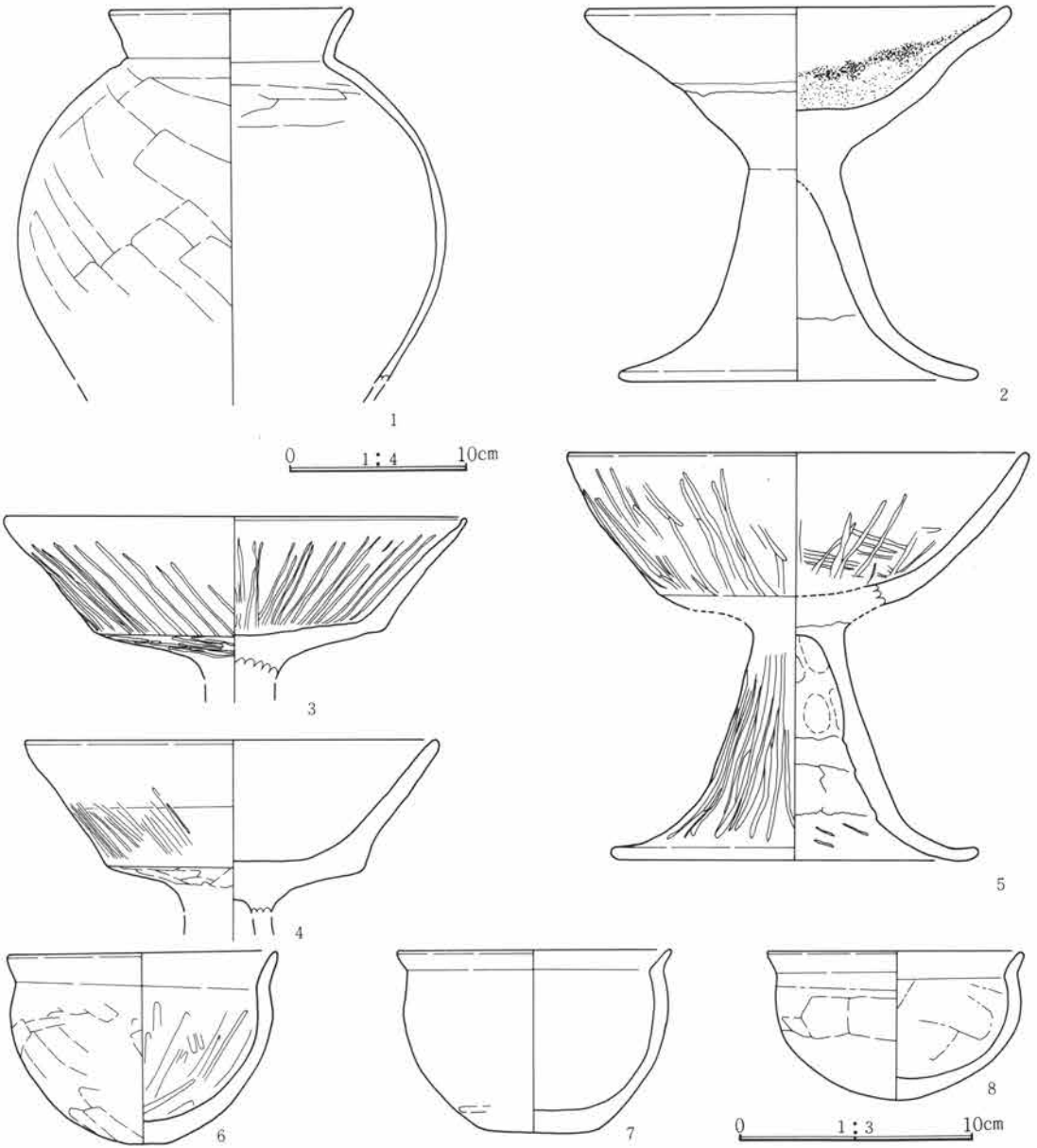
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	胴上半部 $\frac{1}{2}$	1	13.8 (20.5) —	砂粒を多く含む。焼成普通。外面スス付着。にぶい赤褐色。	口縁部、「く」の字状に外反内面輪積痕。外面は、口縁部横ナデ、胴部ナメヘラケズリ。内面はナデ。	P2・16
高杯 土師器	全体の $\frac{1}{2}$ 残	2	(17.6) 15.5 (14.0)	砂粒を少量含む。胎土粒子細かい。焼成普通。杯部内面に炭化物付着。にぶい黄橙色。	杯部は、中央がやや内湾気味にひらく。杯部内面にしぼり目。杯部は、脚部とは別に作り、後から接合したもの。内外面ナデ。	P2・3・フク土
高杯 土師器	杯部のみ	3	19.6 (6.2) —	砂粒を含む。胎土粒子細かい。焼成良好。橙色。	体部は直線的に広がり、口縁部やや外反。整形不明。内外面ナデ。内面および外面に放射状の暗文。	P9
高杯 土師器	杯部のみ	4	17.1 (7.2) —	砂粒を少量含む。胎土粒子粗い。焼成普通。内面黒斑。にぶい黄橙色。	体部は直線的に広がり、口縁部やや外反。整形不明。外面下半縦ナデ、上半横ナデ、内面上半横ナデ、下半横ヘラミガキ。	P6・10
高杯 土師器	杯部と脚部の接合部分欠	5	19.2 (16.9) 15.4	小石、砂粒を含む。焼成良好。脚部に黒斑。橙色。	体部はやや内湾しながら広がる。脚部内面に輪積痕。外面横ナデ後、縦ヘラミガキ、杯部内面横ナデ、脚部内面ナデ	P8・12

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
埴	完形	6	10.4 6.2 ●	砂粒を含む。焼成普通。にぶ い褐色。	丸底、口縁部は短かく、緩や かな「く」の字状に外反。成 形不明。外面上半横ナデ、下 半ヘラケズリ。内面横ナデ。	P14 写図11
埴	全体の欠 残	7	11.4 7.6 5.2	粗砂粒を含む。焼成普通。に ぶい橙色。	平底、口縁部は短かく、緩や かな「く」の字状に外反。成 形不明。内外面ナデ。	P11・17
埴 土師器	完形	8	11.4 8.0 ●	砂粒を含む。焼成普通。外面 に黒斑。にぶい黄橙色。	丸底、口縁部は短かく、緩や かな「く」の字状に外反。内 面輪積痕。外面上半横ナデ、 下半ヘラケズリ。内面横ナデ	P7 写図11

171号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	胴最下部 ～底部の 一部	1	— (4.1) (7.8)	砂粒を含む。焼成普通。黒斑 あり。灰白色。	成形不明。外面は縦ハケナデ 内面は横ナデ。	P10
高杯	脚部のみ	2	— (5.9) 5.9	砂粒を含む。焼成普通。外面 スス附着。にぶい黄橙色。	脚部は、やや反り気味に「ハ」 の字状にひらく。成形不明。 外面および杯部内面ヘラミガ キ。脚部内面ナデ。	P4
高杯	脚の一部	3	— (6.9) —	小砂粒を僅かに含む。焼成普 通。杯部内面黒色。にぶい橙 色。	脚部は「ハ」の字状にひらく 成形不明。外面ハケナデ。内 面はナデ。杯部内面ヘラミガ キ。	フク土
甕	口縁部の 一部	4	— — —	砂粒、小石を含む。焼成普通 外面スス附着。浅黄色。	成形不明。外面は、ハケナデ 調整後、口唇部および頸部に 波状文。内面は、横ヘラケズ リ後、横ヘラミガキ。	P5 写図32
甕	口縁～胴 上部欠	5	— — —	小砂粒を含み、胎土粒子粗い 焼成普通。外面スス附着。灰 褐色。	口縁部は緩やかに立ち上がり 口唇部はやや内傾。成形不明 外面は、口唇部波状文、頸部 に時計回り簾状文、胴上部に 波状文施文後、ボタン状貼付 文。内面は、横ヘラミガキ。	P9・フク土 写図32
高杯	杯部の一 部	6	— — —	砂粒を含み、胎土粒子粗い。 焼成良好。にぶい橙色。	口唇部は、断面三角形、上面 平坦で、外方に突出。成形不 明。内外面とも赤色塗彩後ヘ ラミガキ。	P1 写図32
高杯	杯部の一 部	7	— — —	砂粒を多く含み、胎土粒子粗 い。焼成普通。浅黄橙色。	成形不明。内外面とも赤色塗 彩後ヘラミガキ。	P3 写図32



第60図 170号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

171号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
台石	8	16.2	12.3	6.8	2660	粗粒安山岩	表面に磨痕がある。	S 7 写真38
敲石	9	7.3	6.3	5.3	300	粗粒安山岩	側縁部に敲打痕。一部欠損。	S 5 写真29
礫器	10	7.8	2.4	0.7	28	雲母石英片岩	表面に擦痕。中程に剝離痕。	P 15 写真29
礫器	11	9.4	2.15	1.5	51	雲母石英片岩	表面に擦痕。一部欠損。	S 3 写真29
磨製石鉄	12	2.9	1.7	0.3	1.8	珩質頁岩	左右対象形。中央の孔は径1.9mm。	2

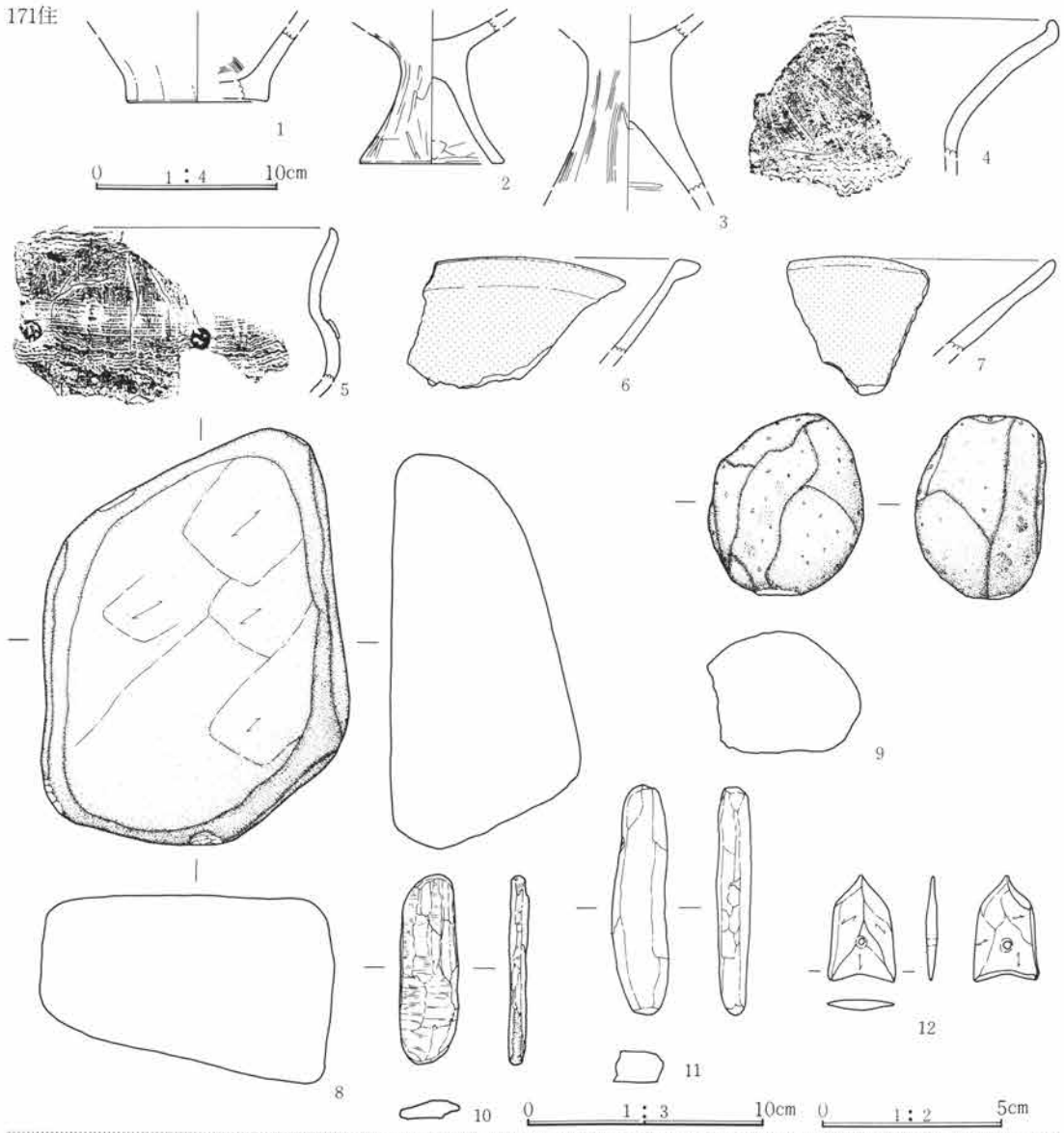
172号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺 手づくね	口縁部欠損	1	1.2 3.6 2.3	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良好。赤褐色。	全体に指頭痕が残る。	P 2 写真46
甕	胴上半の一部	2	— —	小砂粒を含む。土の粒子細かい。焼成良好。橙色。	成形不明。外面は櫛横線文波状文。内面はナデ。	フク土 写真32
甕	胴部の一部	3	— —	小砂粒を含む。土の粒子細かい。焼成良好。灰黄褐色。	成形不明。外面は、斜行する櫛描文。	フク土 写真32

173号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残	1	(15.8) 14.6 5.8	小石、砂粒を含む。焼成不良。外面スス付着。灰色。	口縁部は、やや緩やかな「く」の字状。成形不明。外面はナデ。内面はヘラケズリ後、上半ナデ。	P 1・フク土
甕	口縁部～胴部の一部欠	2	(12.7) (16.1) (5.0)	砂粒を含む。焼成普通。外面スス付着。にぶい黄褐色。	成形不明。外面は、上半ハケナデ、下半ヘラミガキ。外面はヘラケズリ後、上半ナデ。	P 3・フク土 写真11
台付甕	胴最下部～脚部の一部	3	— (6.7) (7.4)	小石、砂粒を含む。焼成普通。赤褐色。	台部は「ハ」の字状。成形不明。内外面ハケナデ。	フク土
台付甕	台部のみ	4	— (5.9) 8.7	小砂粒を多く含み、もろい。焼成良好。灰黄色。	成形不明。外面は全面タテハケ、内面は全面横ハケ。	P 4
壺	胴最大部～底部の $\frac{1}{4}$ 残	5	— (3.8) (6.0)	砂粒を多く含む。焼成普通。明黄褐色。	胴部は、やや丸味をもって立ち上がる。成形不明。内外面ナデ、底部外面はヘラケズリ	フク土

171住



172住



第61図 171号、172号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

174号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	全体の $\frac{1}{2}$	1	17.3 21.1 (5.3)	砂粒含む。焼成普通。内面ナデ。外面スス付着。浅黄色。	やや長胴形。口縁部外反。内面輪積痕。外面は、口縁部ナデ、胴部縦ヘラケズリ。内面ナデ。	P10・17・18・20・26・28・フク土 写図11
小型甕	全体の $\frac{1}{2}$	2	11.2 10.1 (5.2)	砂粒僅かに含む。胎土粒子細かい。外面に黒斑。にぶい橙色。	頸部のくびれ小さい。内面輪積痕。内外面指ナデ。	P1
甕	胴部の $\frac{1}{2}$	3	— (21.0) 7.5	砂粒含む。焼成普通。胴部外面に黒斑。浅黄橙色。	球形。内面輪積痕。外面ヘラナデ。内面磨滅のため不明底面に木葉痕。	P15・17・23・25・27・貯穴
甕	胴上半部の $\frac{1}{2}$	4	25.0 (18.3) —	砂粒を含む。焼成良好。外面スス付着。黄橙色。	長胴。内面輪積痕。外面は、口縁部ナデ、胴部縦ヘラケズリ。内面ナデ。	P3・4・フク土
杯	全体の $\frac{1}{2}$	5	(13.2) (4.9) ●	小砂粒を含む。焼成普通。底面スス付着。にぶい赤褐色。	丸底、口唇部外反。成形不明外面指ナデ。内面ヘラナデ後斜行する暗文。	P5・8

174号住居址遺物観察表

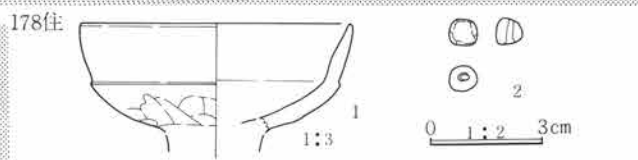
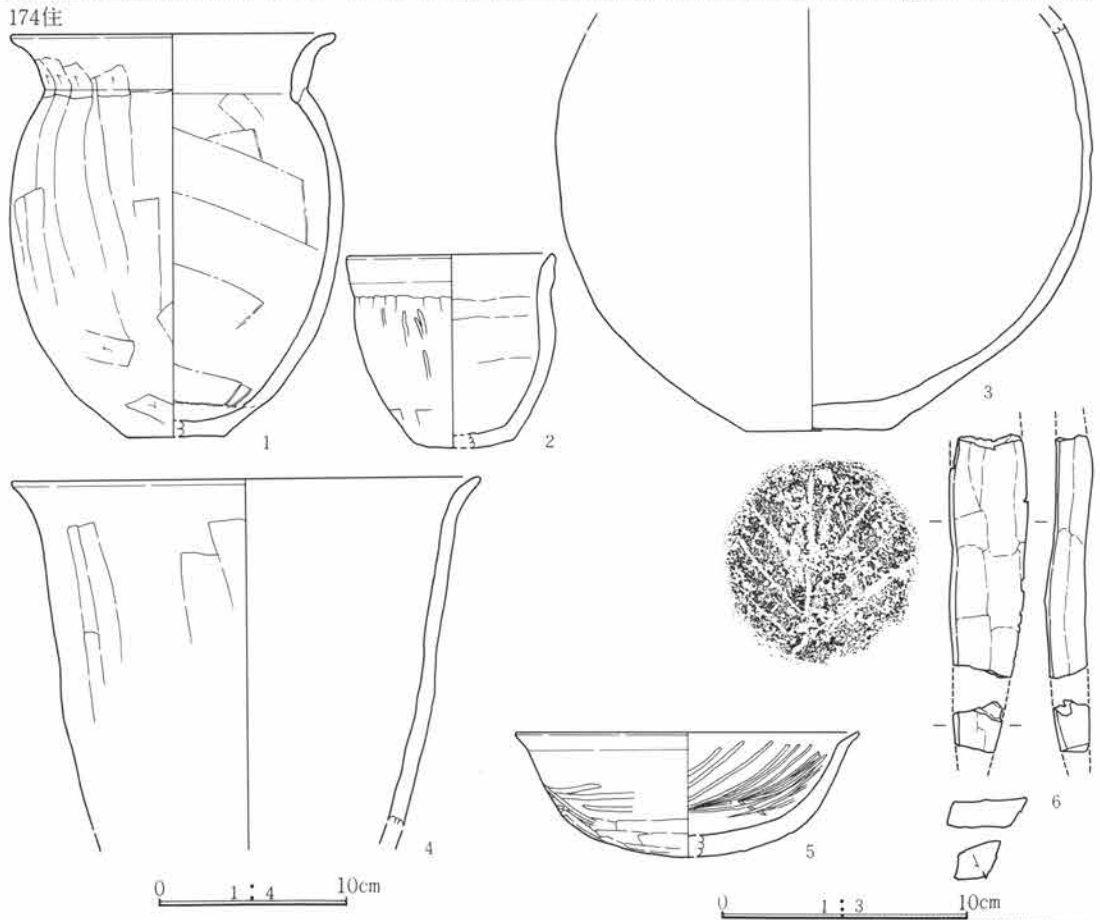
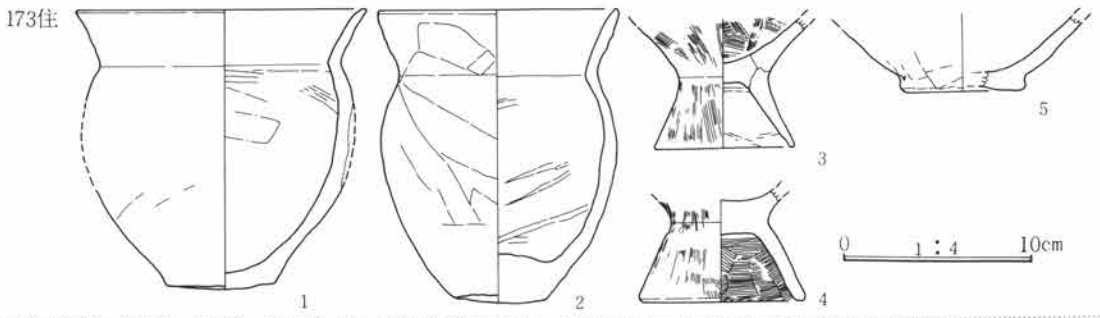
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
建物部材	6	(12.6)	(3.3)	(1.5)	19.6	木 (広葉樹)	住居の部材。炭化している。	

175号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	胴最下部～底部の一部	1	— (4.2) (10.0)	砂粒を含む。焼成良好。にぶい黄橙色。	成形不明。外面はハケナデ。内面は磨滅。	フク土
甕	胴上部の一部	2	— — —	小石、砂粒を含む。焼成良好。堅く磨滅なし。にぶい褐色。	成形不明。外面は、頸部に簾状文、胴上部に8条1単位の波状文。内面は、指ナデおよびハケナデ。	フク土 写図32
甕	破片	3	— — —	小砂粒を含む。焼成不良。にぶい黄褐色。	成形不明。外面は、頸部に簾状文、胴上部に波状文。内面は横ヘラミガキ。	フク土 写図32

176号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	全体 $\frac{3}{4}$ 残	1	(12.9) 5.25 ●	砂粒を僅かに含む。焼成良好。明赤褐色。	丸底、体部は緩やかな丸みをもち、口唇部外反。外面底部ヘラケズリ。外面は胴上部～口唇部横ナデ。内面はヘラナデ。内面胴部に暗文。	P5・7



第62図 173号、174号、175号、176号、178号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

178号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
高杯土師器	3/4残	1	(10.8) (4.3) —	砂粒を含む。胎土粒子細かい。焼成普通。明赤褐色。	底部～体部は緩やかな丸みをもつ。体部と口縁部の間に段を有し、口縁部はやや開き気味となる。成形不明。外面底部～体部ヘラケズリ、口縁部横ナデ、内面底部～体部ナデ口縁部横ナデ。	P2・3・フク土

178号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
土玉	2	0.7	0.7	0.6	0.5	土製品	ていねいに磨かれる。	13 写真34

181号住居址遺物観察表

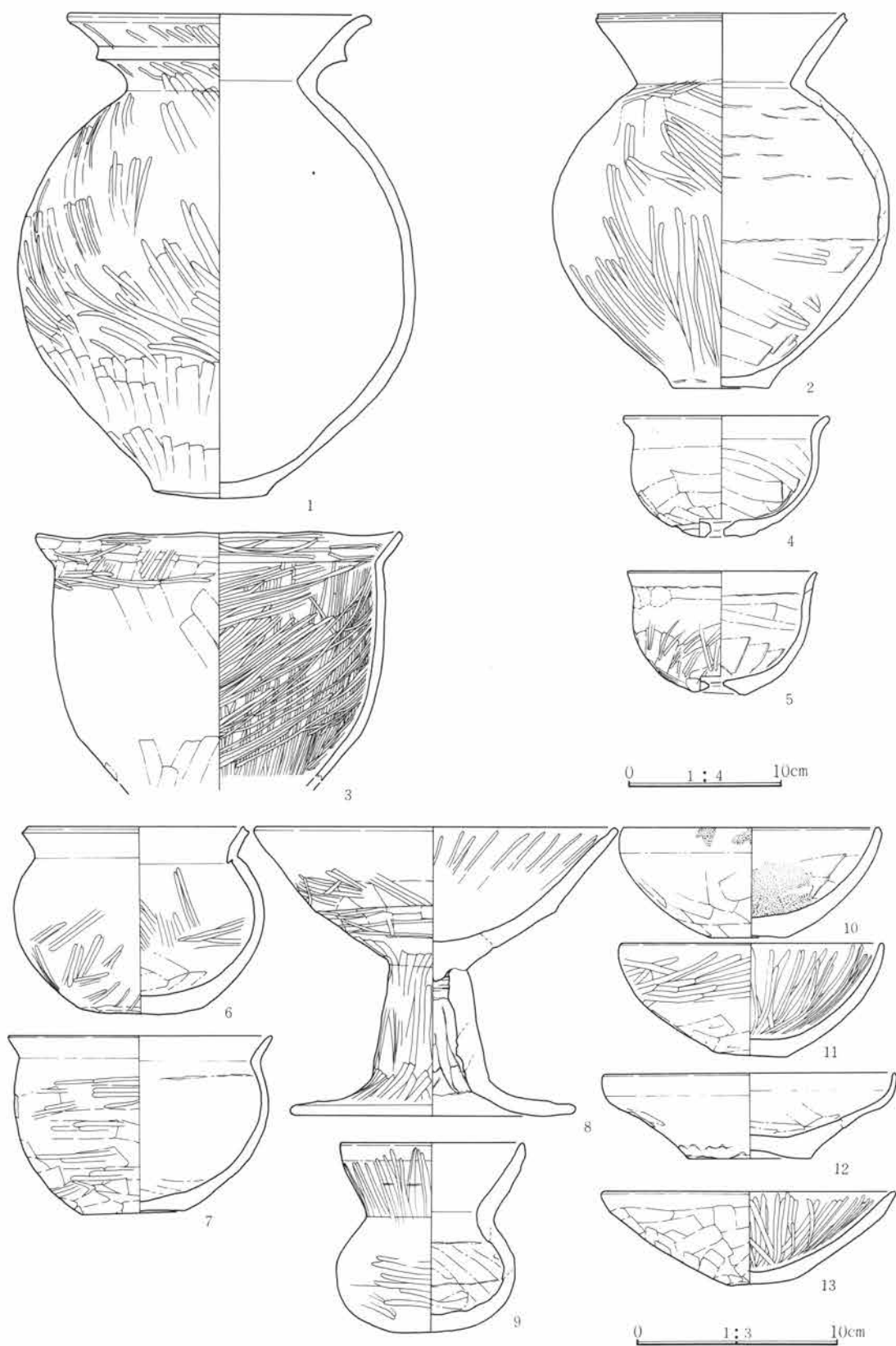
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺	完形	1	18.7 31.4 7.4	砂粒を含む。焼成普通。浅黄色。	複合口縁。内面輪積痕。外面ハケナデ後、ヘラナデ。内面は、口縁部ヘラナデ、胴部指ナデ。	P10 写真11
壺	3/4残	2	16.0 24.1 6.2	砂粒を少量含む。焼成普通。外面胴上部に炭化物付着。にぶい赤褐色。	口縁部は「く」の字状に外反。内面に輪積痕が明瞭に残る。外面は、胴部ヘラナデ、口縁部指ナデ。内面指ナデ。	P2・3・8・9
甕	口縁～胴部3/4残	3	23.6 (15.8) —	砂粒殆んど含まず、胎土粒子細かい。焼成普通。外面に炭化物付着。にぶい橙色。	口縁部は緩やかな「く」の字状に外反。内面に輪積痕。外面は、口縁部ヘラケズリ、胴部指ナデ。内面指ナデ後、ヘラナデ。	P28・フク土
甕	完形	4	13.2 7.8 —	砂粒を含む。焼成普通。内面炭化物付着。にぶい橙色。	口縁部短く、緩やかに外反。底部の周辺部を削り、丸底に成形。内面輪積痕。外面は、口縁部ていねいな横ナデ。胴部ナデ、底面ヘラケズリ。内面ナデ。	P18 写真11
甕	口縁～胴部3/4欠	5	12.2 7.9 —	小砂粒を含む。焼成不良。外面炭化物付着。にぶい橙色。	口縁部短く、頸部のくびれ小さい。内外面輪積痕。内外面ナデ。	P2 写真11
埴	完形	6	10.4 9.0 6.0	砂粒を含む。焼成良好。明赤褐色。	小形広口。最大径胴上位。口縁部「く」の字状に外反。内面輪積痕。外面は、口縁部～胴部指ナデ、底部ヘラケズリ内面指ナデ。	P19 写真11

第2節 竪穴住居址出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
埴	完形	7	12.6 8.5 4.8	砂粒を殆んど含まず。焼成普通。外面スス付着。にぶい橙色。	口縁部短く緩やかな「く」の字状。内面輪積痕。内外面指ナデ。	P20 写真11
高杯	完形	8	17.3 13.9 13.5	砂粒を多く含む。焼成普通。にぶい黄橙色。	杯部は稜をもって立ち上がる。脚部は僅かにふくらみをもつ。杯部外面は輪積痕。外面は、杯部稜上部横指ナデ、稜下部縦ヘラ削り、脚部ヘラナデ。内面は、杯部横ヘラナデ後、放射状暗文、脚部指ナデ。	P21 写真11
埴	一部欠	9	8.8 9.1 —	砂粒を含む。焼成良好。にぶい橙色。	口唇部やや内傾。丸底。内面輪積痕。外面横指ナデ後、口縁部縦ヘラナデ。	P7・カマドフク土 写真11
杯	完形	10	12.5 5.2 3.6	砂粒を含む。焼成普通。内面に炭化物付着。明赤褐色。	平底、口縁部分で立ち上がる。外面輪積痕。外面は、口縁部ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ナデ。外面口縁部および内面体部上半に赤色塗彩。	P27 写真12
杯	完形	11	12.7 5.4 3.6	砂粒を含む。焼成普通。外面体部下部～底部に炭化物付着。にぶい褐色。	平底、口縁部分で立ち上がる。成形不明。外面は、口縁部ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面はナデ後、放射状暗文。	P23 写真12
杯	全体の殆	12	14.0 4.1 6.0	砂粒を含む。焼成普通。内面に炭化物付着。橙色。	体部は外湾し、口縁部は立ち上がる。成形不明。内外面ナデ。	掘P30・カマドフク土 写真12
杯	完形	13	14.0 4.5 3.5	砂粒を含む。焼成普通。外面炭化物付着。明赤褐色。	体部はほぼ直線的にひらく。外面輪積痕。外面は、口縁部ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面はナデ後、縦ヘラミガキ。	P24・26・貯フク土・フク土 写真12
杯	完形	14	12.7 6.2 ●	砂粒を少量含む。焼成良好。明赤褐色。	口縁部内傾。丸底。外面輪積痕。外面ナデ、外面底部はヘラケズリ。内面ナデ後放射状暗文。	P25 写真12
杯	完形	15	12.5 4.7 ●	砂粒を少量含む。焼成普通。外面に黒斑。橙色。	丸底、口縁部内傾。成形不明。外面ナデ。内面ナデ後、放射状暗文。	P22 写真12
杯	全体の%	16	14.4 6.4 ●	砂粒を含む。焼成良好。内面に炭化物付着。明赤褐色。	丸底、口縁部は短く、緩やかに外反。成形不明。外面は口縁～体部ナデ。底面ヘラケズリ。内面ヘラナデ後、放射状暗文。	P12

181号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
剣形品	17	3.7	1.2	0.4	1.83	緑色片岩	裏面偏平。表面稜を持つ。	13 写真39



第63図 181号住居址出土遺物

182号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残	1	(17.8) (15.0) —	砂粒を含む。還元。軟質。外面スス付着。明褐色、褐灰色。	最大径胴上半部。内外面回転横ナデ。	P 9・12・14
羽釜	口縁～胴上部の $\frac{1}{4}$	2	(20.5) (10.1) —	砂粒含む。焼成良好。硬質。外面スス付着。灰黄色。	内外面回転横ナデ。	P 1・Na 1
皿 灰釉陶器	全体の $\frac{1}{2}$	3	11.6 1.8 6.0	内面に重ね焼き痕。表面および裏面中央を除いて灰釉を施釉。灰黄色。	内外面回転横ナデ。底部回転糸切り後、高台貼付。	P 3 写図12
杯	小破片	4	— —	細かい砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。褐灰色。	ロクロ整形。小破片のため他の整形等不明。	墨書土器。文字不明。 182ピット

182号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
金具	5	12.6	0.2	0.5	5.6	鉄	ヘアピン状を呈す。錆化が激しい。	6

183号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
置きかまど	破片	1	— —	小石、砂粒を含む。焼成良好にぶい橙色。	内外面ナデ。	フク土
杯	小破片	2	— —	細かい砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。浅黄色。	ロクロ整形。小破片のため他の整形等不明。	墨書土器。文字不明。 フク土

184号住居址遺物観察表

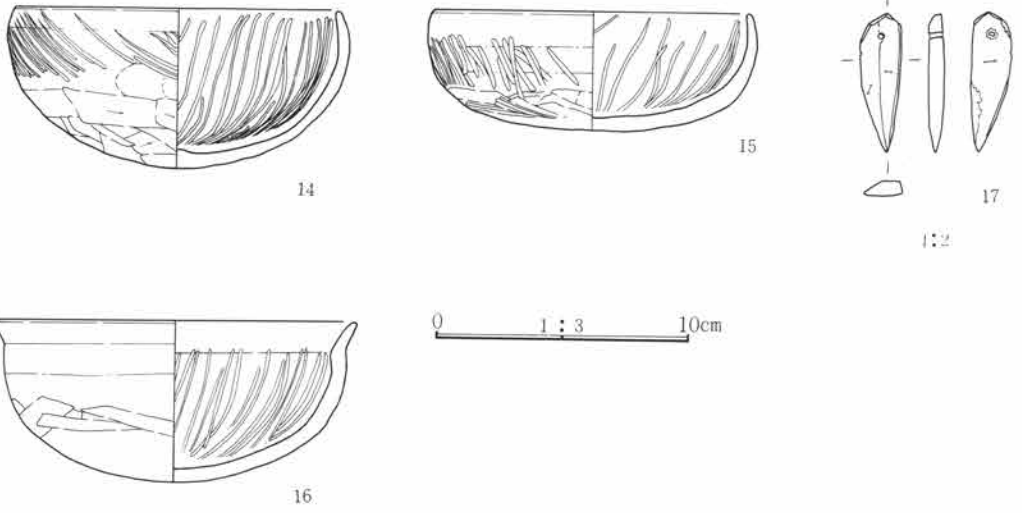
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 小型甕	口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残	1	11.2 (10.6) —	小石、砂粒を含む。焼成普通。外面スス付着。暗赤褐色。	口縁部「コ」の字状。内面輪積痕。外面は、口縁部横ナデ胴部ヘラケズリ。	P 18

184号住居址遺物観察表

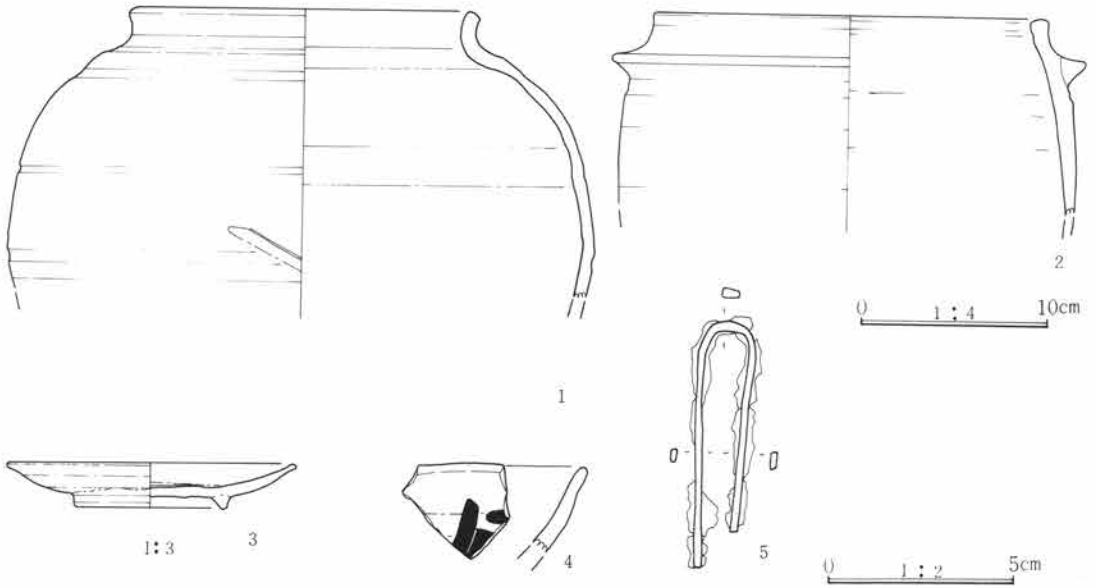
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磨石	2	11.5	5.0	3.9	310	粗粒安山岩	トーン部磨面。端部、表部敲打痕。	P 2 写図28
銅滓	3	6.5	2.2	1.0	14.1	銅	用途不明。棒状のものが溶解凝固したもの。	フク土
銅滓	4	3.5	0.8	0.6	3.3	銅	用途不明。棒状のものが溶解凝固したもの。	フク土
銅滓	5	3.3	1.5	1.0	8.4	銅	用途不明。棒状のものが溶解凝固したもの。	フク土

第3章 出土した遺物

181住



182住

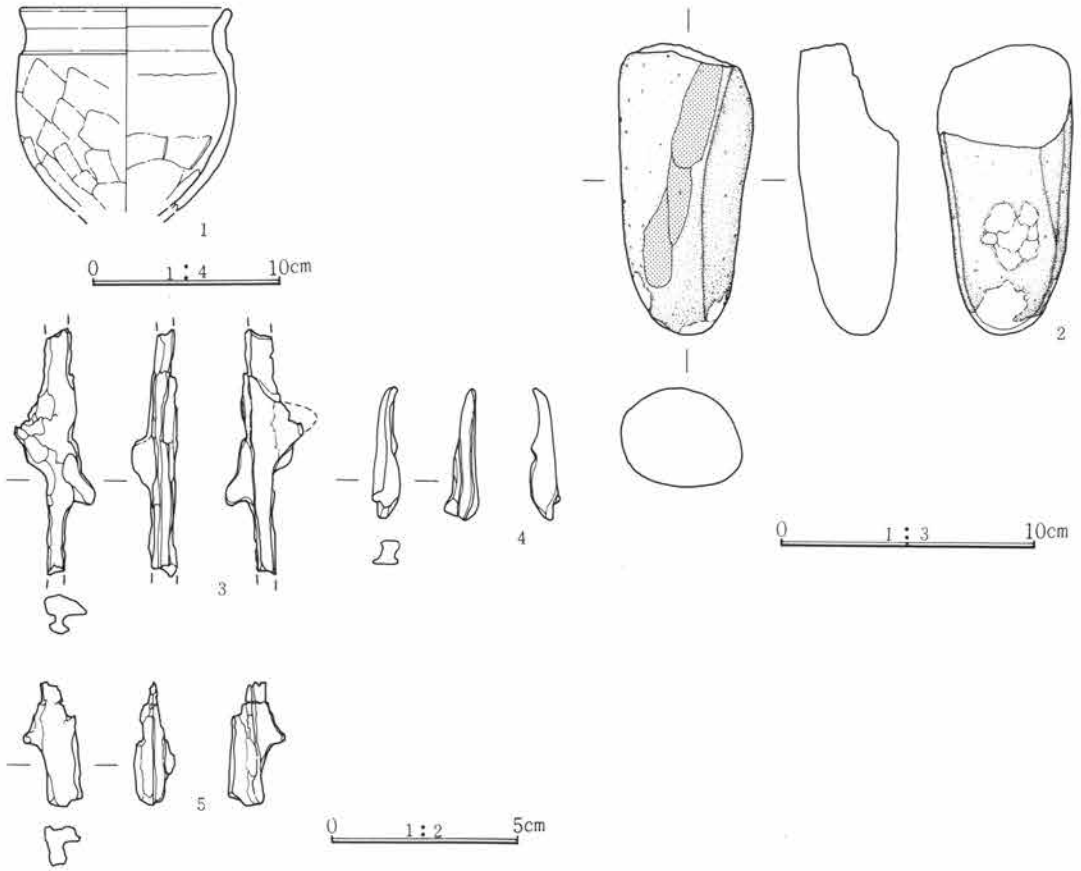


183住



第64図 181号、182、183号住居址出土遺物

184住



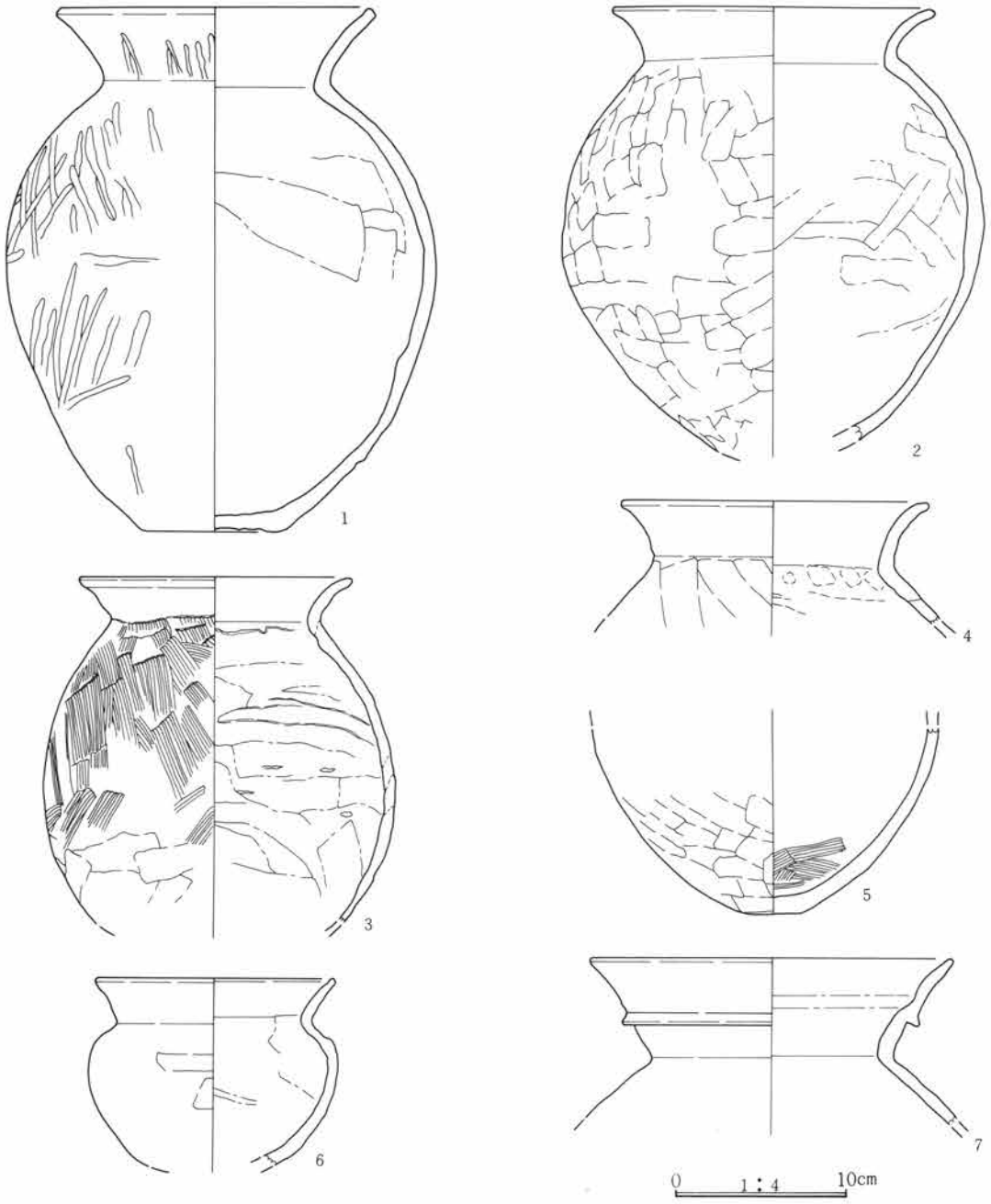
第65図 184号住居址出土遺物



第3章 出土した遺物

185号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	㉔残	1	18.3 30.0 8.2	砂粒、小石を含む。焼成普通 暗褐色。	最大径胴上位。口縁部外反。 内面輪積痕。外面は指ナデ後 ヘラナデ。内面指ナデ。	P18・掘方フク土・ フク土 写真12
甕	底部欠	2	18.8 (25.5) —	砂粒、小石を含む。焼成普通 外面黒斑。にぶい赤褐、黒褐 色。	最大径中位やや上方。口縁部 は「く」の字状に外反。内面 輪積痕。外面は、口縁部横指 ナデ、胴上半部縦指ナデ、胴 下半ヘラケズリ。内面は、ナ デ、ヘラケズリ。	Na11・P16・18 フク土 写真12
甕	胴下半欠	3	(15.8) (19.8) —	砂粒を含む。焼成普通。外面 スス付着。赤褐、黒褐色。	口縁部「く」の字状に外反。 内面輪積痕。外面は、口縁部 横指ナデ。胴上部ヘラナデ。 胴下部ヘラケズリ。	P17・フク土 写真12
壺	口縁〜頸 部㉔残	4	(17.9) (7.0) —	砂粒を含む。焼成普通。浅黄 橙色。	頸部は「く」の字状にくびれ 口縁部外反。内面輪積痕。外 面は、口縁部横指ナデ、胴部 縦ヘラケズリ。内面ナデ。	P23
甕	胴下半〜 底部	5	— (10.5) 3.7	砂粒を含む。焼成普通。外面 スス付着。淡黄色。	球形。内面輪積痕。外面は 胴下半〜底部ヘラケズリ。胴 中央部ナデ。内面は指、ハケ ナデ。	P28・29・51・56・58・ 72・フク土
甕 小型甕	口縁〜胴 下部㉔残	6	14.0 (10.8) —	小石を含むが、砂粒殆ど含ま ず。焼成普通。橙色。	頸部は「く」の字状にくびれ 口縁部外反。最大径胴上位。 成形不明。外面は、口縁部〜頸 部横指ナデ、胴部ヘラケズリ。 内面は、口縁部横ナデ、胴部 指ナデ。	P24・25・27・29
壺	口縁㉔残	7	(21.1) (9.2) —	砂粒を含む。焼成不良。淡赤 橙色。	頸部は「く」の字状にくびれ 口縁部外面に凸帯をもつ。内 面輪積痕。内外面口縁部は、 ていねいな指ナデ、他は普通 のナデ	P32・66・67
高杯	完形	8	16.0 15.6 (12.8)	小砂粒を含む。焼成普通。橙 色。	杯部は口縁部外反。脚部はや やふくらみをもつ。成形不明 外面は、口縁部〜体部上半指 ナデ、体部下半ヘラケズリ、 脚部指ナデ。外面裾部に放射 状の暗文あり。内面は、杯部 内面放射状暗文。脚部内面ナ デ。	P12・13・14 写真12
高杯	完形	9	19.1 16.3 14.45	砂粒、小石を含む。焼成普通 橙色。	杯部上半は直線的にひらく。 脚部はややふくらみをもつ。 成形不明。外面は、体部上半 横ナデ、体部下半ナデ、脚部 ヘラナデ。内面は、杯部横ナ デ後、一部縦ヘラナデ。脚部 内面ナデ。	P9・10 写真12



第66図 185号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

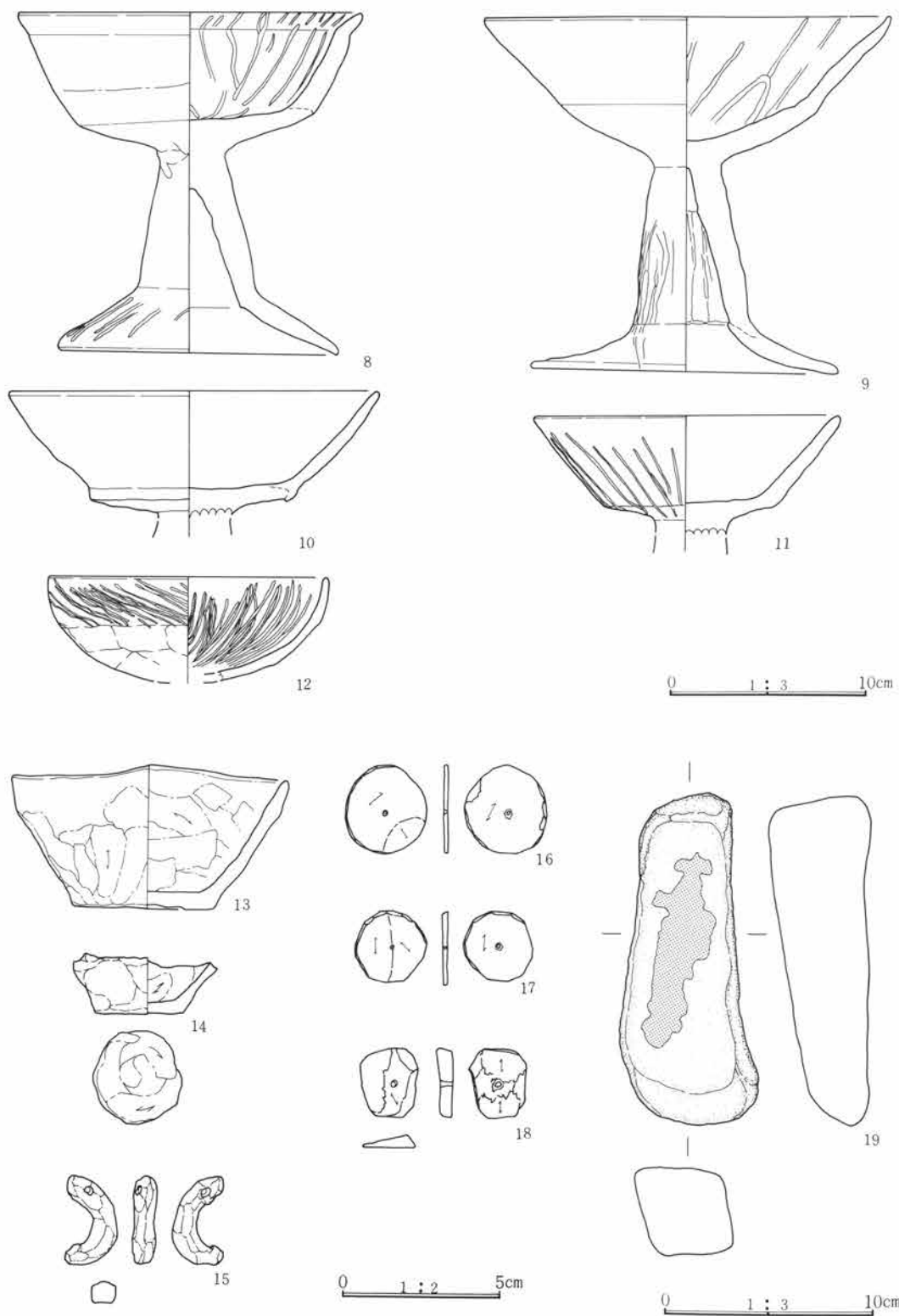
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
高杯	杯部のみ	10	17.3 (5.6) —	砂粒を含む。焼成普通。内外面黒斑。にぶい橙色。	杯部下方に段をもち、やや内湾しながら立ち上がる。成形不明。外面は、口縁～段上部横指ナデ、段下方は縦指ナデ内面は横指ナデ。	P44・54・50・掘方フク土・フク土
高杯	杯部のみ	11	14.35 (5.2) —	砂粒を含む。焼成不良。外面黒斑。にぶい黄橙色。	杯部下方に段をもち、ほぼ直線的に立ち上がる。外面輪積痕。外面は、口縁～段上部横指ナデ、段下部ナデ。内面横指ナデ。	P15・フク土
杯	壊残	12	(13.0) (4.8) ●	砂粒を含む。焼成良好。橙色	丸底、底部～体部は内湾。口縁部は内湾。外面体部上半～口縁部横ナデ、底部～体部下半ヘラケズリ。内面は横指ナデ後、放射状暗文。	P69・フク土
鉢 手づくね	口縁%欠損	13	8.7 4.5 4.5	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。にぶい黄褐色。	指頭による圧痕、内外面にハケ目もみられる。	P28
鉢 手づくね	胴部下半残存	14	4.6 1.9 2.9	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。赤褐色。	指頭による圧痕。ナデ整形を施す。	P59

185号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
勾玉	15	2.8	1.0	0.8	2.4	土製	指頭による圧痕が残る。	1 写図34
有孔円盤	16	2.8	2.6	0.15	2.8	蛇紋岩	孔は1つ、表裏側面とも磨いている。	2 写図39
有孔円盤	17	2.3	2.2	0.2	1.8	蛇紋岩	孔は1つ、表裏側面とも磨いている。	3 写図39
有孔円盤	18	2.2	1.9	0.5	2.4	蛇紋岩	孔は1つ、側面に自然面を残す。	4 写図39
敲石	19	15.3	4.7	4.0	610	粗粒安山岩	トーン部磨面。両端角部敲打痕。	P19 写図28

186号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
小型甕	口縁欠損	1	— (10.4) 6.2	小砂粒を含む。焼成普通。胴上部に黒斑。浅黄橙色。	最大径胴下半。頸部は緩やかにくびれる。内面輪積痕。外面は、頸部に時計回り簾状文胴上部に波状文。外面胴中位～下半に赤色塗彩。内面ハケナデ。	P1 写図12
甕	底部の一部	2	— (1.9) (8.0)	砂粒を含む。胎土粒子が細かい焼成普通。外面に黒斑。褐灰色。	成形不明。胴最下部および底面ヘラケズリ。内面ナデ。	フク土



第67図 185号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	胴上部の一部	3	— — —	砂粒を含む。焼成不良。にがい黄褐色。	成形不明。外面ナデ調整後、9条を1単位とする時計回り簾状文。波状文。	フク土 写図35
甕	胴の一部	4	— — —	砂粒を含む。焼成良好。明褐色。	成形不明。外面は波状文施文後、ボタン状貼付文。内面はナデ。	フク土 写図35
甕	胴の一部	5	— —	砂粒を含む。焼成普通。外面スス附着。褐色。	内面輪積痕。外面ハケナデ後波状文施文。内面横ハケナデ	フク土 写図35
甕	口縁部 $\frac{1}{2}$	6	— — —	砂粒を含む。焼成普通。外面スス附着。灰褐色。	成形不明。外面ハケナデ後、口唇部および頸部に波状文。内面ヨコヘラミガキ。	P2 写図35
甕	口縁～胴上半の $\frac{1}{2}$	7	— — —	砂粒を含む。焼成普通。内面黒色。にぶい褐色。	頸部のくびれ小さい。最大径頸部の直下。内面輪積痕。外面指ナデ後、口唇部波状文、頸部簾状文、ボタン状貼付文	フク土 写図35
高杯	口縁部の一部	8	— —	小砂粒を含む。焼成普通。赤色。	内外面赤色塗彩後ヘラミガキ	フク土 写図35

186号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
礫器	9	9.8	4.8	1.6	101	粗粒安山岩	表面、側縁部に擦痕。	フク土 写図29

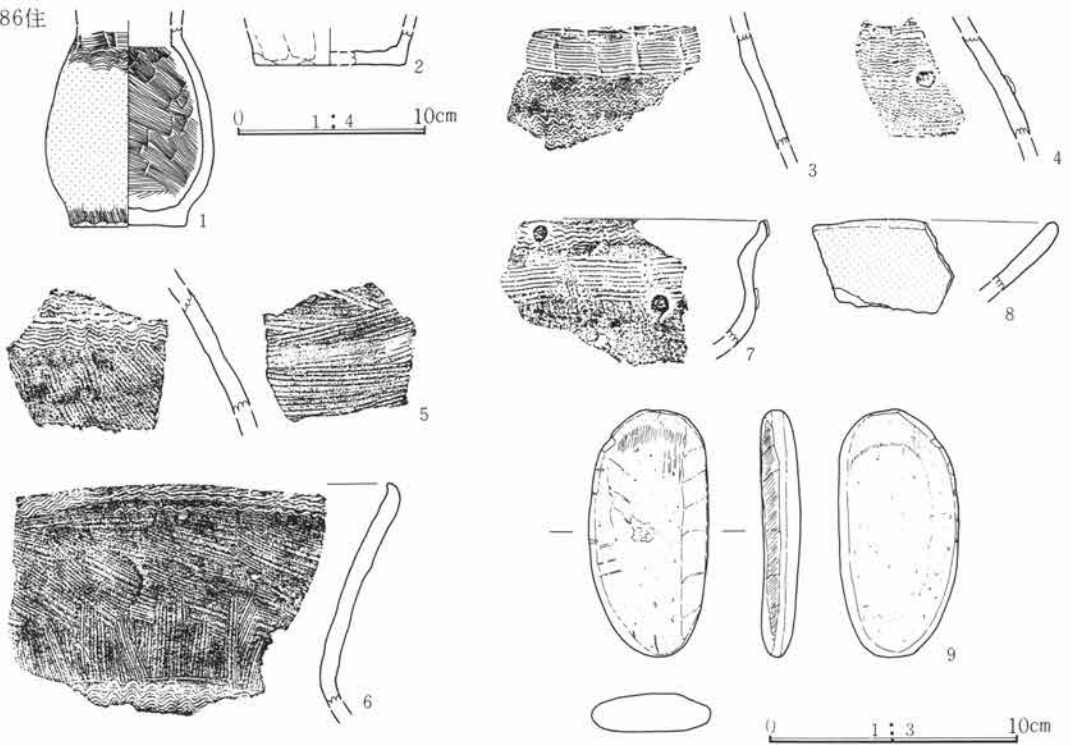
188号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁 $\frac{1}{2}$ 残存	1	20.3 (13.2) —	砂粒、黒色粒子等含む。胎土は緻密。焼成良い。酸化焙焼成。にぶい黄橙色。	胴部はゆるく内湾し、口縁部は外反ぎみに立ち上る。鐙は断面三角形で上側に反る。輪積痕を残し、ロクロ整形による稜を強く残す。	P14・12・18・カマド
皿 緑釉	口縁部破片	3	— — —	細かい砂粒、黒色粒を含む。胎土やや粗密。焼成良。釉は緑色。	ロクロ整形。	P3

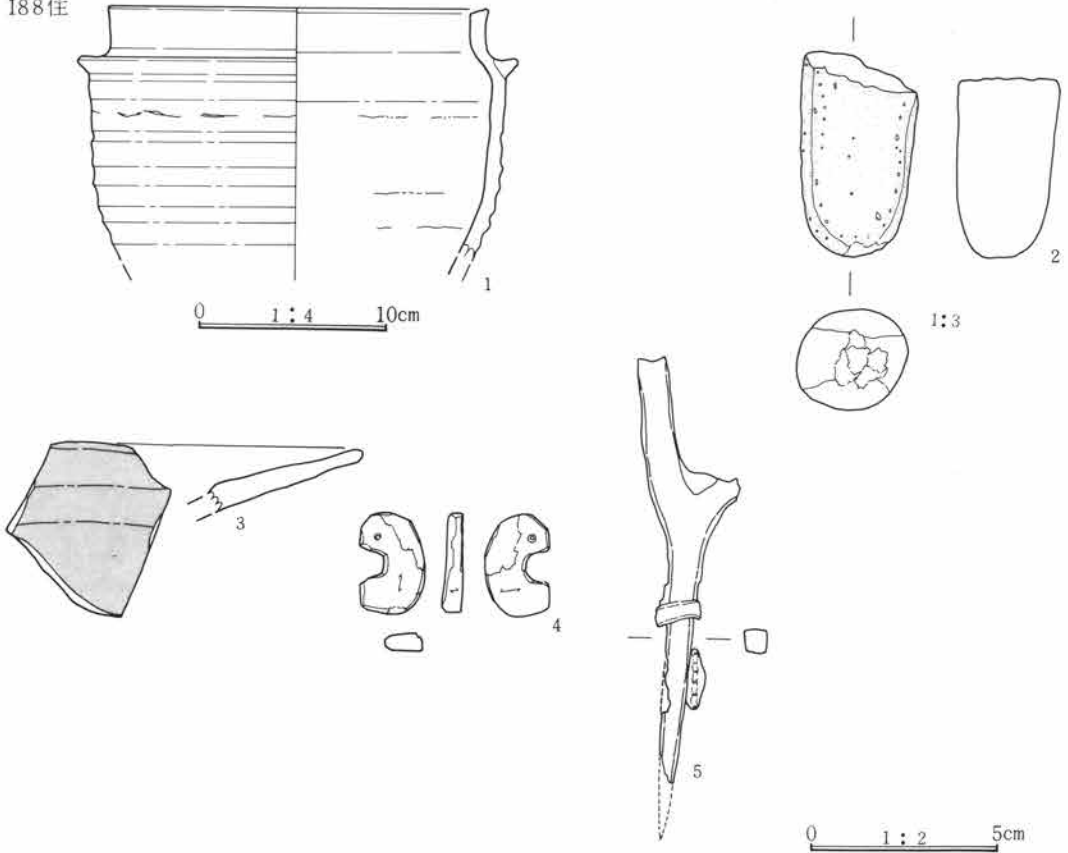
188号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	2	7.9	4.7	4.0	210	粗粒安山岩	表面磨面。端部敲打痕。	フク土 写図28
勾玉	4	2.7	1.8	0.6	3.1	蛇紋岩	「コ」の字形になる。偏平で全体を磨く。	フク土 写図39
鉄	5	11.3	2.8	0.6	18.5	鉄	先が二又に分かれる。刃部断面は三角形。	FNo1

186住

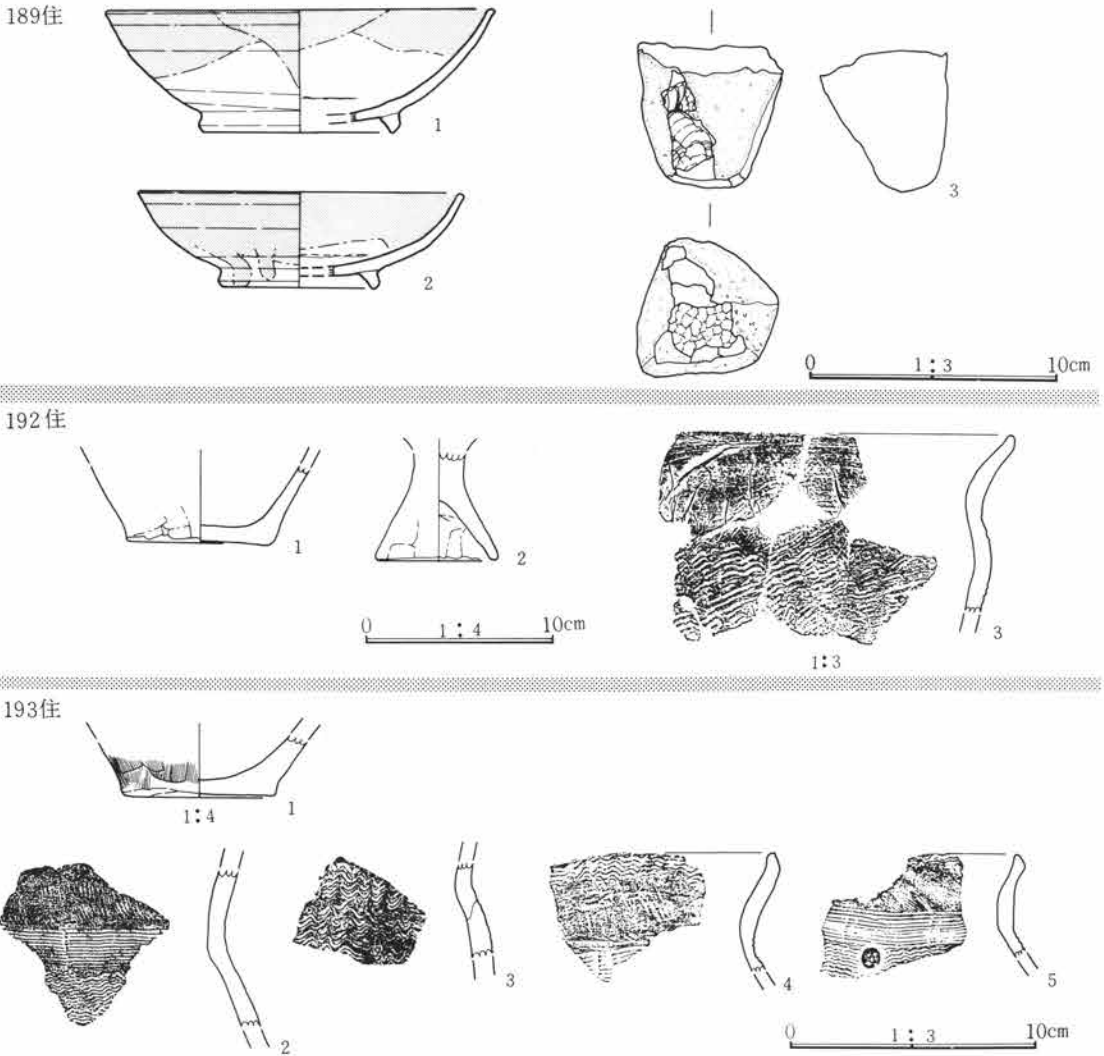


188住



第68図 186号、188号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物



第69図 189号、192号、193号住居址出土遺物

189号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀	1/2残存	1	(16.0) (4.1) (7.5)	細かい黒色粒子を少量含む。胎土は緻密。焼成良。釉は漬け掛け。灰白色。	体部は内湾しながら立ち上るロクロ整形で、ロクロ目は弱い。底部切り離しは不明。高台貼り付け後ナデを施す。	P 1
椀	1/2残存	2	(13.0) (3.6) (6.0)	白色の粒子を極少量含む。胎土は緻密。焼成良。釉は漬け掛け。灰白色。	体部は内湾しながら立ち上るロクロ整形で、ロクロ目は弱い。底部切り離しは不明。高台貼り付け後ナデを施す。	P 2

189号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	3	5.7	5.9	5.5	200	粗粒安割岩	端部敲打痕。半部欠損。	S1 写図28

192号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	底部	1	— (4.1) 7.6	黒色砂粒、 ϕ 1～3mmの小石を含む。胎土は粗密。焼成良い。にぶい褐色。	外面にヘラケズリ整形を残す	P 3
高杯	脚部	2	— 5.55 6.4	白色砂粒を含む。胎土は緻密。焼成良い。内外面に黒斑を持つ。黒褐、にぶい褐色。	内外面ともヘラ状工具による横位のナデ。	P 4
甕	口縁破片	3	— — —	細かい砂粒、 ϕ 1～2mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良い暗褐色。	口縁部はゆるく外反し、胴部は張り出す。口縁内外面ヨコナデ。胴部は波状の沈線が施文される。	P 2 写図35

193号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	底部	1	— 2.9 8.0	砂粒、 ϕ 1～3mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良い。褐灰にぶい褐色。	外面はハケによる縦位の整形。内面はナデ。底面はヘラ状工具によるケズリ。	P 1
甕	頸部破片	2	— — —	砂粒多く含む。胎土緻密。焼成良い。褐色。	頸部にハケ目による整形。肩部は右から左方向への簾状文と波状文。	フク土 写図35
甕	頸部破片	3	— — —	黒色の粒子含む。胎土やや粗密。焼成良い。褐色。	頸部に波状文が施文される。内面の頸部上には横位のハケによる整形。	フク土 写図35
甕	口縁部破片	4	— — —	砂粒を含む。胎土やや粗密。焼成良い。暗褐色。	口唇に波状沈線。頸部に右から左方向への簾状文を施文。内面はミガキが施される。	フク土 写図35
甕	口縁部破片	5	— — —	砂粒を少量含む。胎土は緻密。焼成良い。内面にスス付着。黒褐色。	ハケ目整形の後、口唇に波状沈線。頸部に右から左方向への簾状文。肩部に波状沈線が施文される。肩部には刺突された円形の粘土が貼付される。	フク土 写図35

第3章 出土した遺物

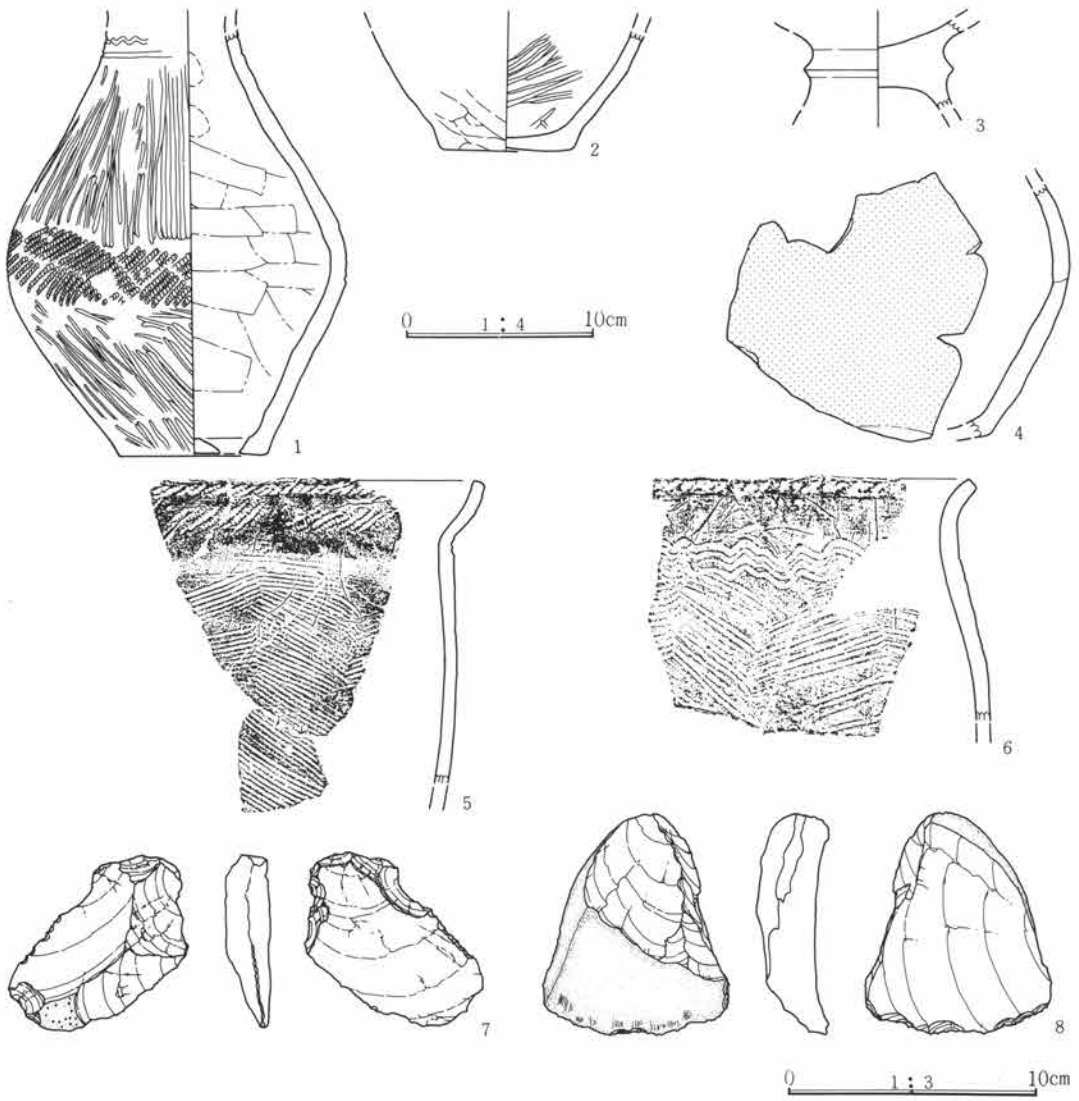
194号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺	胴下半部 %残	1	— (22.6) 7.8	砂粒を含む。焼成普通。黒斑あり。外面スス附着。底部に径1cmの焼成後穿孔あり。にぶい橙色。	内面輪積痕。外面胴中央部に縄文押捺後、胴上半部タテヘラミガキ、胴下半部ナナメヘラミガキ。頸部に横線文と山形文。内面指ナデ。	P 1 写図12
甕	底部～胴部の一部	2	— (6.0) 6.6	小砂粒含む。焼成普通。にぶい橙色。	成形不明。外面は、ナナメハケ調整後、ヘラミガキ。内面は横ヘラミガキ。	フク土
高杯	杯部と脚部の接合部	3	— (3.3) —	小砂粒を含む。焼成普通。明赤褐、にぶい橙色。	杯部と脚部の接合部に凸帯をもつ。成形不明。外面は赤色塗彩後、ヘラミガキ。内面は杯部ヘラミガキ、脚部指ナデ	フク土
甕	胴中位～下半分	4	— — —	小砂粒を含む。焼成普通。赤色。	胴下半は、やや内湾。内面輪積痕。内外面とも赤色塗彩後ヘラミガキ。	フク土・掘方フク土 写図36
甕	口縁～胴上半部の一部	5	— — —	小砂粒を含む。焼成普通。外面スス附着。にぶい褐色。	成形不明。外面は指ナデ後、口唇部、口縁部に縄文、胴部に羽状文。内面横ヘラミガキ	フク土 写図36
甕	口縁～胴上半部の一部	6	— — —	小砂粒を含む。焼成普通。外面スス附着。にぶい褐色。	口縁部は袋状に外反。成形不明。外面は指ナデ後、口唇部口縁部に縄文、胴部に羽状文内面横ヘラミガキ。	フク土・掘方フク土 写図36

194号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
石匙 削器	7	6.9	7.3	1.8	60	黒色頁岩	刃部を下縁に持つ。扱いは裏面に作る。	No.3 写図29
	8	8.7	7.3	3.0	160	粗粒安山岩	三角形、下縁に使用痕。	フク土 写図29





第70図 194号住居址出土遺物



第3章 出土した遺物

195号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	胴~底部	1	— (15.1) 7.9	砂粒、φ1~5mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良。外面黒斑有。にぶい褐色。	胴部にあまり脹らみを持たない。外面ヘラ状工具によるミガキ。内面は、ヘラ状工具による整形。	P2・3・4・5・8・11・フク土
甕	底部	2	— (7.0) 6.1	砂粒、φ1~2mmの小石を含む。胎土緻密で薄手。焼成良スス付着。にぶい黄橙色。	外面ヘラケズリ、内面もヘラによる整形が施される。底面ヘラケズリ。	P1

195号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
礫器	3	12.4	17.5	7.3	1630	粗粒安山岩	凹みと、刃部研いたような擦痕。	S1 写図40

197号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
勾玉	1	3.4	1.2		6.7	土製	ナデ整形。	掘方フク土写図34 37
割片	2	3.7	2.4	0.5	3.56	珪質準片岩	両面を磨く。磨製石鏃の未製品か。	

198号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀	1/2残	1	(14.4) 4.8 (7.1)	砂粒を含む。胎土はやや粗密。焼成良。還元焰焼成。灰白色	体部は直線的に開く。ロクロ整形。ロクロ目は強い。底部右回転糸切り高台貼り付け後ナデている。	P1

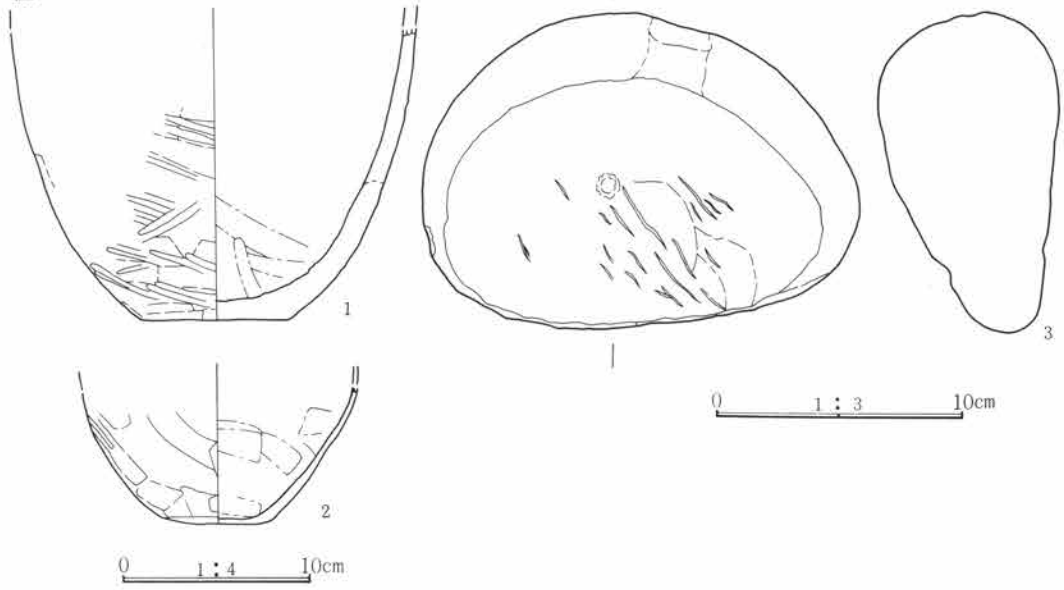
200号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
剣形品	1	5.6	1.7	0.9	5.66	緑色片岩	全面を磨くが側面に一部自然面を残す。	フク土 写図39 鉄No1 鉄No2
釘	2	9.2	0.7	0.1	7.3	鉄	錆化が激しい。断面四角形。	
釘	3	6.8	0.6	0.6	9.5	鉄	錆化が激しい。断面四角形。	

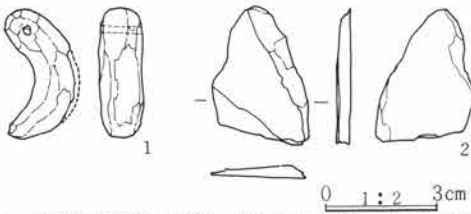
201号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	1	7.6	2.6	1.5	38	砥沢石	四面を研ぎ面としている。紐穴貫通。	1 写図47

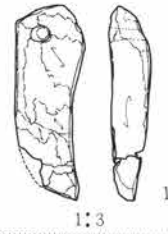
195住



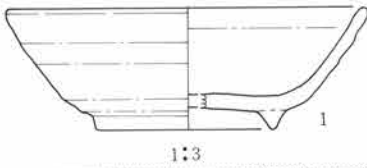
197住



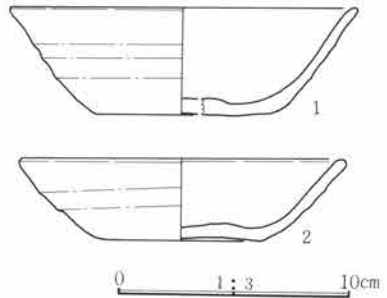
201住



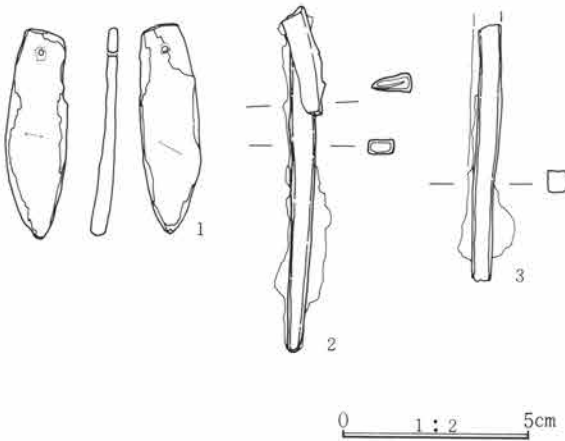
198住



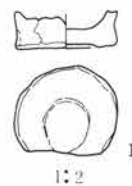
202住



200住



208住



第71図 195号、197号、198号、200号、201号、202号、208号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

202号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 須恵器	ㄨ残存	1	(13.8) (4.2) (6.8)	φ1～3mmの粒子、5mm程の小石など混入多い。胎土粗密焼成良くない。還元焰焼成。灰黄色。	体部は直線的に開く。ロクロ整形でロクロ目は強く残る。底部は回転糸切り離し後角をナデる。	P1・2
杯 須恵器	ㄨ残存	2	(12.8) 3.2 (6.0)	φ1～3mmの粒子、5mm程の小石など混入多い。胎土粗密焼成良くない。酸化焰焼成。オリブ灰色。	体部は直線的に開く。ロクロ整形でロクロ目は強く残る。底部は右回転糸切り離し後角をナデル。	P4・6

202号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
刀子	3	(10.1)	1.0	0.3	14.6	鉄	錆化が激しい。鋒部、基部欠損。	No.9

208号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
手づくね	上部欠損	1	2.6 1.1 1.7	砂粒を多く含む。胎土やや緻密。焼成普通。内外面にスス付着。灰黄褐色。	指頭圧痕が残る。外面横位のナデ。	フク土 写図34

209号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺	口縁～頸部	1	(18.0) (6.0) —	砂粒、小石を含む。焼成普通赤色。	頸部細く、口縁部有段。口唇部3ヶ所に棒状浮文。成形不明。口縁部内外面段部～頸部指ナデ、口縁端部～段部は赤彩後ヘラナデ。	P3・12・フク土
小型甕	口縁部～底部ㄨ	2	— (10.4) (5.4)	小砂粒を含む。焼成普通。外面に黒斑。内面に赤色顔料付着。淡黄色。	胴最大径中位やや上方。成形不明。内外面ナデ。	床下・フク土
甕	底部のみ	3	— (3.5) 6.8	小砂粒を含む。焼成普通。明黄褐色。	成形不明。外面は、胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面ナデ。	P4
台付甕	台部のみ	4	— (5.8) (9.0)	砂粒、小石を含む。焼成普通にぶい黄褐色。	成形不明。器肉厚く、粗いハケ調整。内面指ナデ、一部ハケナデ。	フク土
高杯	杯部ㄨ	5	(14.6) (5.7) —	砂粒、小石を含む。焼成普通赤色。	杯部はほぼ直線的に広がり、口唇部は内傾。成形不明。内外面赤彩後ヘラナデ。	P6・フク土・掘方
器台	台部の一部	6	— (5.1) —	砂粒、小石を含む。焼成普通橙色。	台部は「ハ」の字状にひろく4ヶ所に小孔を有する。成形不明。外面は縦ヘラナデ。内面は指ナデ。	P10

第2節 竪穴住居址出土遺物

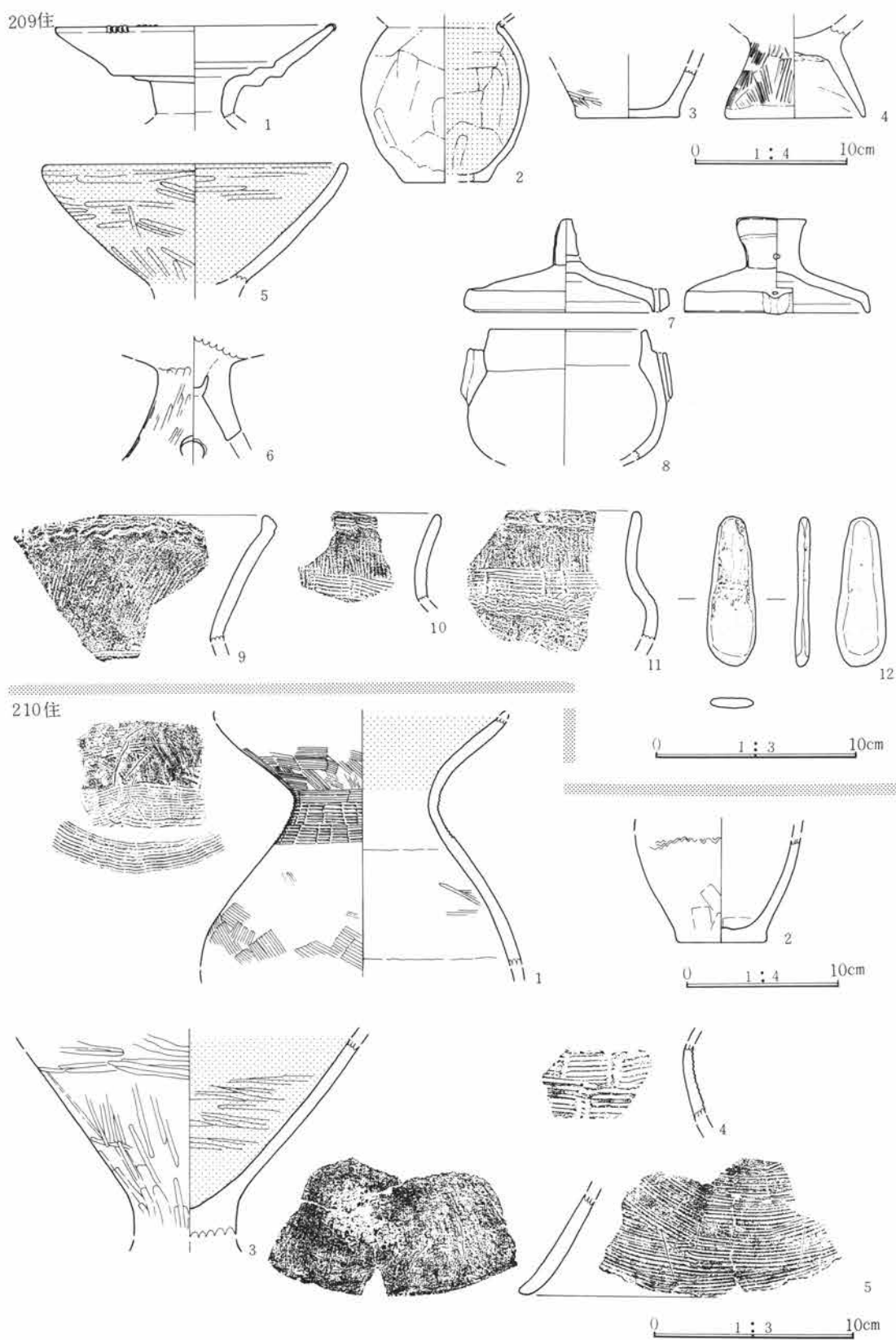
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
フタ付壺	フタの欠と胴下半欠	7	8.7 4.5	砂粒を含む。焼成普通。橙色赤色塗彩。	フタ部には「つまみ」と左右対称位置に突起があり、つまみと突起の中央に1孔を有する。身の最大径胴部。口縁部はやや内傾し、直線的に立ち上がる。頸部には左右対称位置に棒状突起があり、中央に1孔を有する。外面はヘラナデ。内面は指ナデ。	P1・フク土
甕	口縁～頸部の一部	9	— — —	小砂粒を含む。焼成普通。外面スス付着。橙色。	成形不明。外面は口唇部波状文、口縁部斜めハケナデ、頸部に簾状文。内面横ナデ。	P8
甕	口縁～頸部の一部	10	— —	小砂粒を含む。焼成普通。橙色。	成形不明。外面は口唇部波状文。	床下
甕	口縁～胴上部の一部	11	— — —	砂粒、小石を含む。焼成普通。明赤褐色。	頸部は緩やかにくびれ、最大径胴上位。成形不明。外面は口唇部波状文、頸部に6条を1単位とする時計回り簾状文、胴上部波状文。	フク土

209号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
碟器	12	7.3	2.2	0.5	23	緑色片岩	全体に擦痕を持つ。	1

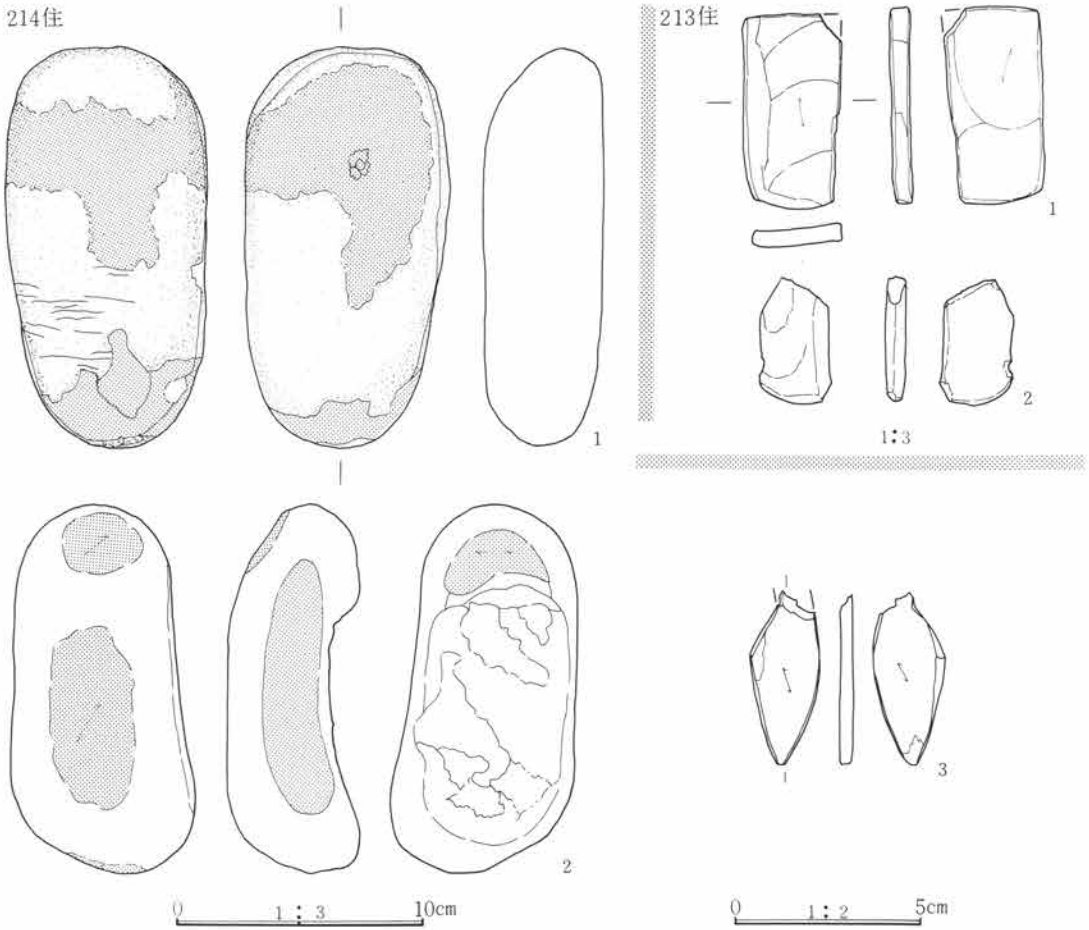
210号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺	口縁～胴上半残	1	— (16.1) —	砂粒、小石を多く含む。焼成不良。内面風化。灰褐色。	口縁部大きく外反。内面輪積痕。外面指ナデ後、頸部7条を1単位とする時計回り簾状文が3段。外面口縁部の一部および胴中位ハケナデ。内面は、胴部指ナデ、口縁部内面赤色塗彩後ヘラナデ。	P4・22・24・26
甕	胴下半の一部	2	— (7.0) 5.2	小砂粒を含む。焼成普通。外面スス付着。にぶい橙色。	内外面指ナデ後、胴部に波状文。	P23・フク土・ビットフク土
高杯	杯部のみ	3	— (9.5) —	砂粒、小石を含む。焼成普通。外面に黒斑。橙色。	杯部が深い。内面輪積痕。外面ヘラナデ。内面赤彩後ヘラナデ。	P8・12・13・14・15・16・19
壺	頸部破片	4	— — —	砂粒を多く含む。胎土粗密。焼成良い。にぶい褐色。	巾の広い工具による簾状文が左から右方向へ施される。内面は、横位のミガキ。	フク土 写図35
高台	脚部破片	5	— — —	白色の細かい砂粒を多く含む。胎土粗密。焼成良い。にぶい褐色。	外面は良く研磨されている。内面は横位のハケ目が施される。	P1・7・フク土 写図35



第72図 209号、210号住居址出土遺物

第2節 竪穴住居址出土遺物



第73図 213号、214号住居址出土遺物

213号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	1	7.7	4.2	0.9	42	砂岩	全面を研ぎ面としている。	3 写図47
砥石	2	5.0	2.9	0.9	11	砂岩	全面を研ぎ面としている。上端欠損。	北側フク土写図30

214号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	1	15.6	7.7	4.7	980	粗粒安山岩	トーン部磨面。両端敲打痕。	フク土床直写図48
磨石	2	14.5	6.5	4.0	880	粗粒安山岩	トーン部磨面。	フク土床直写図48
剣形品	3	4.6	1.9	0.4	5.1	緑色片岩	全面を磨く。上端欠損。孔はない。	フク土 写図39

第3章 出土した遺物

215号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺	口縁～胴部 ¹ / ₂ 残	1	(15.4) (21.7) —	砂粒を含む。焼成普通。外面スス附着。暗赤褐色。	最大径胴上位。口縁部に凸帯内面輪積痕。内外面ナデ。	P 5・9・フク土
壺	¹ / ₂ 残	2	20.2 15.0 —	砂粒を含む。焼成普通。外面に黒斑。黄橙色。	最大径口縁部。内外面輪積痕内外面ナデ。	P 1・2・3・フク土
杯	ほぼ完形	3	10.0 5.4 4.7	砂粒を含む。焼成普通。内外面黒斑。橙色。	最大径口縁部。頸部は僅かにくびれる。底部は貼付高台状成形不明。内外面ナデ。	P 8・フク土

215号住居址遺物観察表

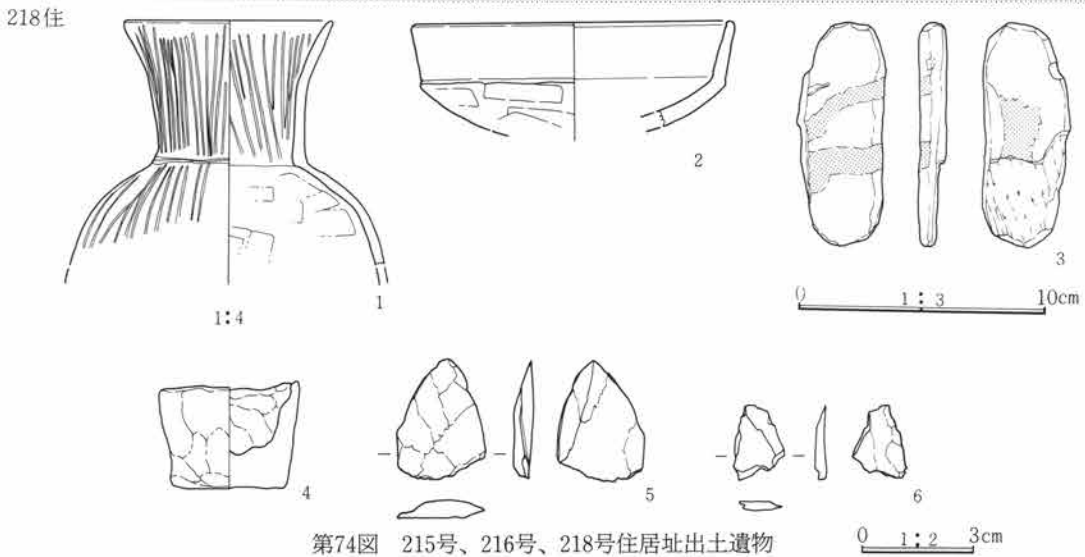
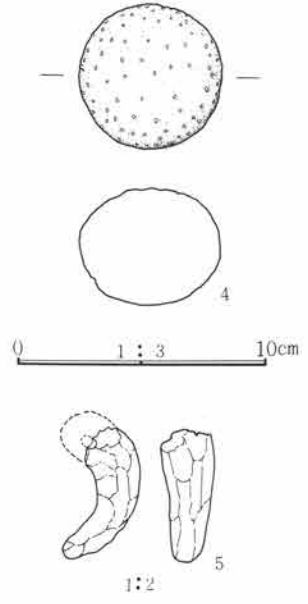
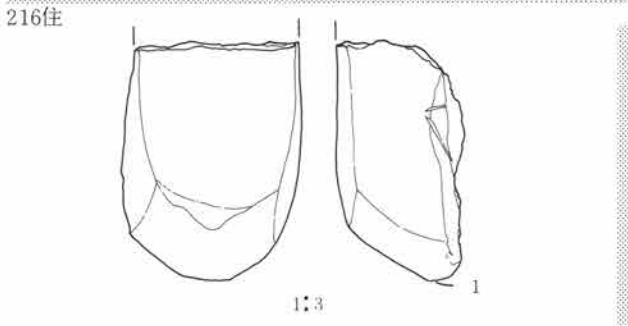
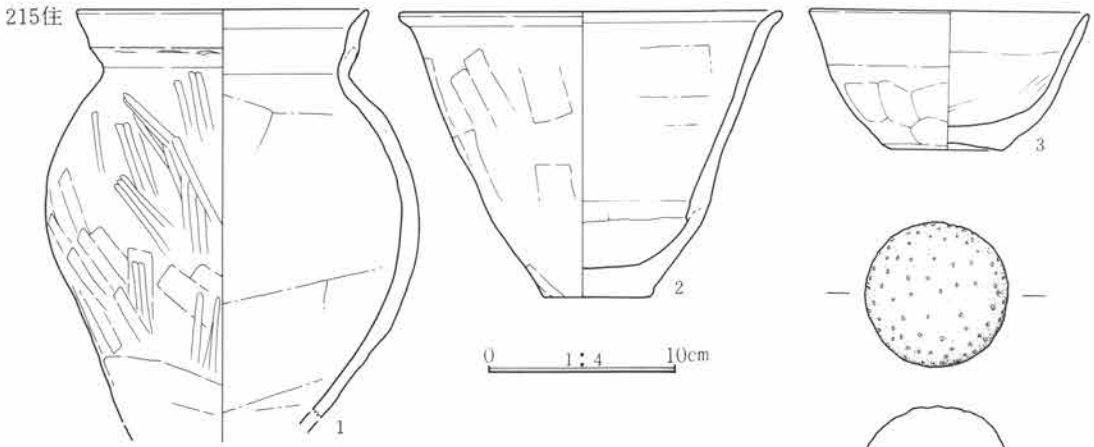
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
丸石勾玉	4 5	5.7 (3.6)	5.7 (1.3)	4.6	143 6.9	粗粒安山岩土製	全面を磨って丸くしている。頭部欠損。全体にていねいに作られる。	S 1 写図48 P 10 写図34

216号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	1	9.5	7.2	5.0	514	砥沢石	三面を研ぎ面としている。	1 写図30

218号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
埴	口縁～胴上半部	1	11.1 (13.0) —	砂粒殆んど含まず。焼成良好橙色。	頸部長く、緩やかに外反。内面輪積痕。外面は、口縁～胴上部ナデ、胴中位横ヘラケズリ、最後に口縁～胴部に縦方向の暗文。内面はナデ後、口縁部に縦方向の暗文。	P 2 写図12
杯	口縁～体部の一部	2	(12.9) (4.2) —	小石、砂粒を少量含む。焼成普通。明赤褐色。	丸底、底部～体部は緩やかな丸みをもつ。体部と口縁部の間に段を有し、口縁部は直立する。外面底部～体部ヘラケズリ。口縁部横ナデ。内面ナデ。	ピット内 写図36
手づくね	完形	4	3.8 2.9 3.1	砂粒、 ϕ 1～3 mmの小石、雲母を含む。胎土やや粗密。焼成良。にぶい橙色。	内面指頭による圧痕が線状に残る。外面横位のナデ。	P 6 写図46



第74図 215号、216号、218号住居址出土遺物

218号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特	徴	出土位置・写真図
礫器	3	8.8	3.5	1.2	50	雲母石英片岩	トーン部擦り面。		1
未製品	5	3.2	2.3	0.5	3.11	珩質準片岩	磨製石鎌の未製品。板状に剝離。		フク土
剥片	6	2.0	1.4	0.3	0.76	珩質準片岩	磨製石鎌の未製品。板状に剝離。		フク土

第3章 出土した遺物

219号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考(出土位置)
甕	口縁～胴上部	1	19.5 (10.2) —	砂粒を含む。焼成普通。外面スス付着。淡黄色。	頸部は緩やかな「く」の字状外面輪積痕。外面は、口縁部横ナデ、頸部～胴部縦ヘラケズリ。内面ナデ。	P 3
甕	底部欠	2	11.8 (16.0) (6.8)	砂粒、小石を含む。焼成普通。外面スス付着。にぶい橙色。	最大径胴中位。口縁部は緩やかな「く」の字状に外反する内外面輪積痕。外面は、口縁部横指ナデ、胴部ヘラナデ。内面ナデ。	P 2・フク土 写図13
壺	胴下半の $\frac{3}{4}$	3	— (14.0) 7.0	砂粒を少量含む。焼成普通。橙色。	胴下半部はややふくらみをもつ。内面輪積痕。内外面ナデ	P 4
高杯	杯部のみ	4	15.0 (7.0) —	砂粒を少量含む。焼成普通。赤橙色。	杯部上半は、直線的に外反。成形不明。外面指ナデ。内面ヘラナデ後、斜行する暗文。	P 1
高杯	杯底部～脚部	5	— (10.0) 13.0	砂粒を少量含む。焼成普通。橙色。	脚部はひらく。成形不明。内外面ナデ。杯部内面ヘラミガキ。	P 20
杯	$\frac{3}{4}$	6	12.4 4.4 10.8	砂粒、黒色粒子多く含む。胎土やや粗密。焼成良。橙色。	体部は直線的に開く。口縁下端に稜を持つ丸底。内外面横位のナデ。内面はミガキも加えられる。底部はヘラケズリ	P 6・10・フク土 写図12

219号住居址遺物観察表

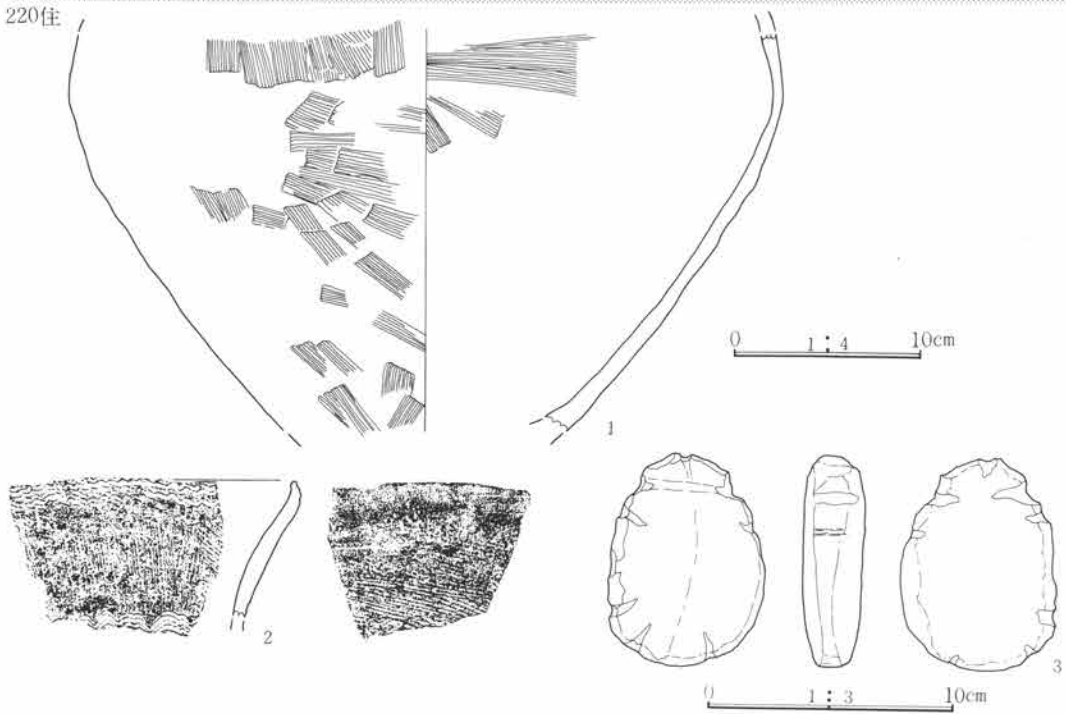
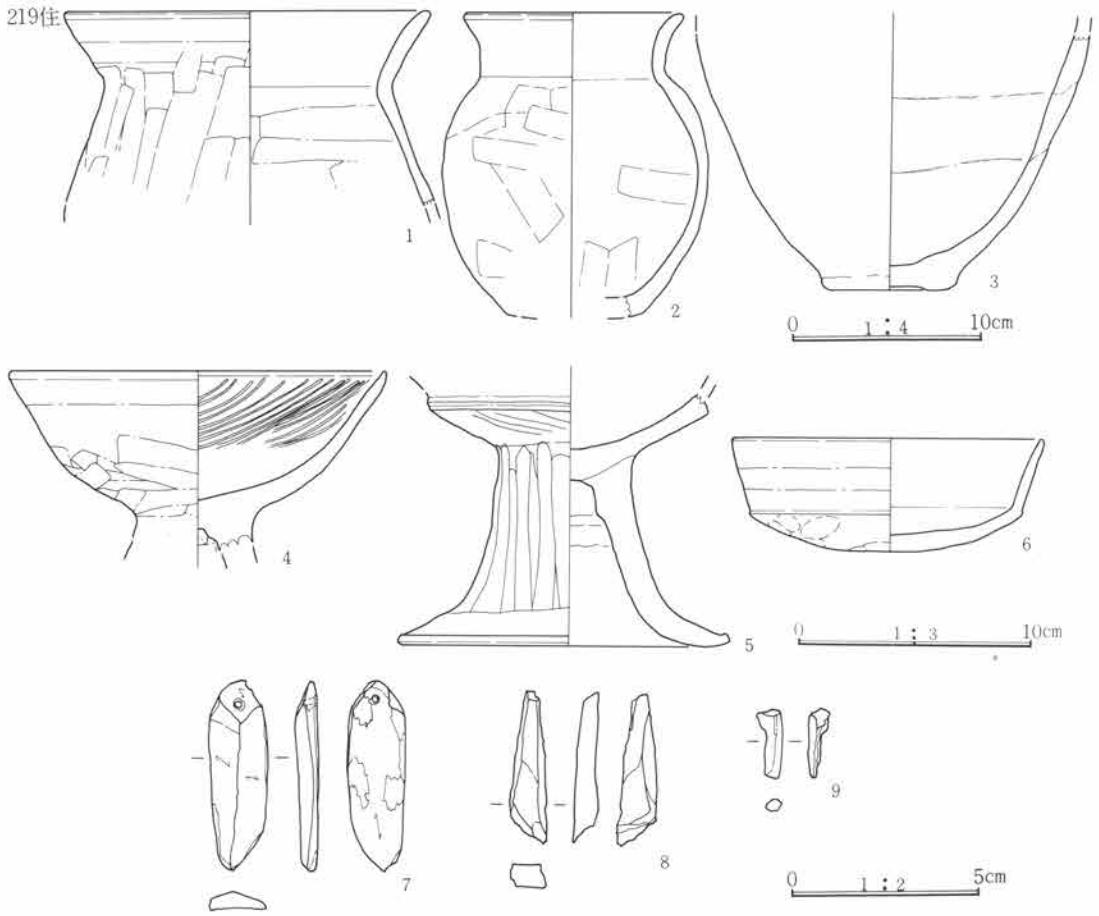
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
剣形品	7	0.5	1.6	0.6	6.2	蛇紋岩	表面に稜を持つ。孔は片側から穿孔。	フク土 写図39
剥片	8	4.0	1.0	0.6	2.77	珪質準片岩	両面とも磨かれている。	フク土
剥片	9	1.9	0.7	0.3	0.46	蛇紋岩	縦長に打ち割られたもの。他に調整はない。	フク土 写図39

220号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考(出土位置)
壺 (弥生)	胴部破片	1	— (21.8) —	砂粒、雲母を多く含む。胎土やや粗密。焼成良くない。内面剥落する。にぶい橙色。	内外面ともハケによる整形を施す。	P 4
甕 (弥生)	口縁部	2	— — —	砂粒、雲母、 $\phi 1 \sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。暗褐色。	内面は横位の、外面は縦位のハケ目整形。口唇部、頸部に波状の沈線を施文。	P 1 写図36

220号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磔器	3	8.4	6.4	2.5	160	粗粒安山岩	刃物状の研ぎ痕を残す。	1



第75図 219号、220号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

221号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	1/2残	1	13.2 (3.6)	● 細かい砂粒を極少量含んでいる。胎土やや緻密。焼成良。内面黒色。暗赤色。	口縁部で屈曲し大きく外反する。内外面とも横位のていねいなミガキを施す。	P 7・3
杯土師器	1/2残	2	11.8 4.2	● 砂粒、極細かい片岩、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。内面黒色。明赤褐色。	口縁部下端に稜を持ち、口縁は直線的に開く。口縁部はナデを行いその後ミガキを施す底面もミガキが施される。	P 3

221号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
凹石礫器	3	10.9	8.4	5.7	600	粗粒安山岩	両面に凹みを持つ。両端に敲打痕。	1
	4	12.9	6.7	1.6	284	雲母石英片岩	側縁部に敲打痕と磨面を持つ。	2

222号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
小型壺須恵器	口縁部一部欠損	1	— (9.7) 4.6	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。外面にスス付着オリープ黒色。	やや肩が張り、頸部は直線的に開く。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。底部は回転糸切り後ナデを施し、高台状に盛り上げている。	P 1 写図13

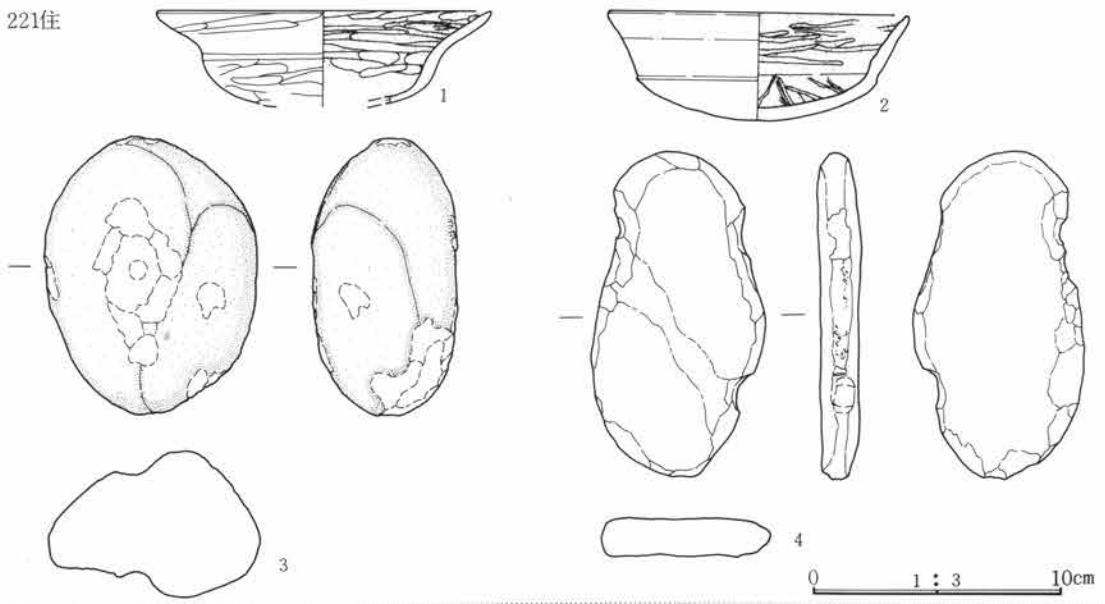
222号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
台石	2	10.9	8.3	6.3	787	粗粒安山岩	表面に磨面。	フク土 写図48

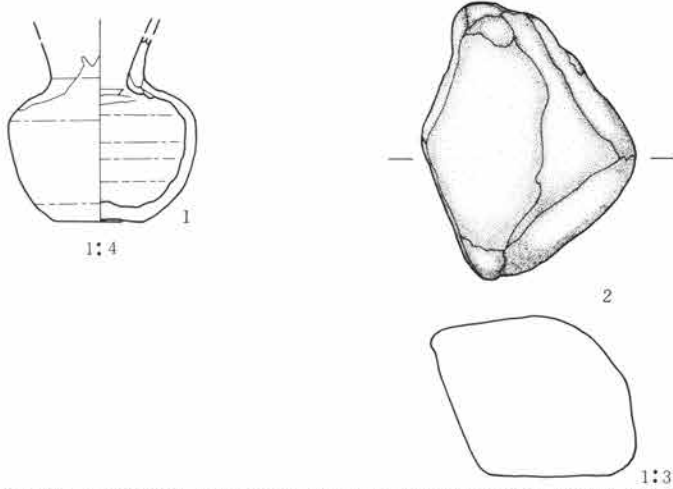
223号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁～胴部破片	1	23.9 (18.0)	— 細かい砂粒を少量含む。胎土は粗密。焼成は良。酸化焙焼成内面にスス付着。橙色。	鏝下に最大径を持つ。ロクロ整形で、胴部下半はヘラケズリ。鏝は断面三角形で貼り付けてあるがゆがみが大きい。	カマド P 9 カマド P 6・カマド P 8
羽釜	口縁～胴部破片	2	(26.8) (11.9)	— 砂粒、黒色粒子を含む。胎土は粗密。焼成良。酸化焙焼成内面に若干スス付着。橙色。	口縁は外傾ぎみに立ち上る。ロクロ整形、ロクロ目強い。鏝は上端が水平で、下端が斜めになる。鏝の貼け付け痕が残る。	カマド P 6
杯	1/2残存	3	12.2 4.5 5.4	砂粒、黒色粒子含む。胎土は粗密で、表面に気泡が残る。酸化焙焼成。焼成悪くザラつく。浅黄褐色。	体部から直線的に開く。ロクロ整形でロクロ目強い。底部は右回転糸切り離し後、未調整。	P 1

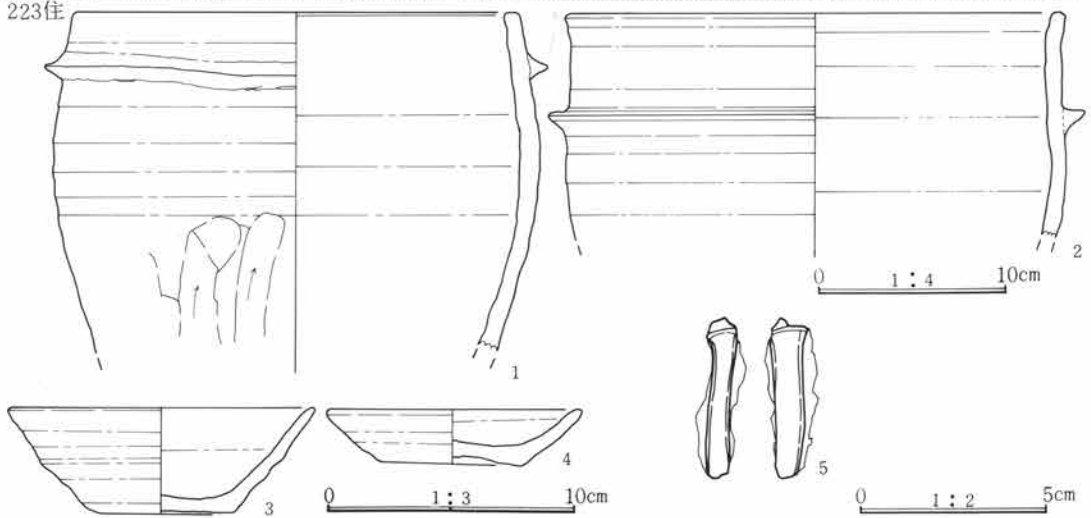
221住



222住



223住



第76図 221号、222号、223号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯	1/4残存	4	(10.2) 2.2 5.6	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。還元焰焼成。灰黄色。	体部から内湾ぎみに立ち上るロクロ整形でロクロ目弱い。底部は右回転糸切り離した後、未調整。	P2

223号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
釘	5	4.3	1.1	0.5	5.9	鉄	錆化が激しい。両端欠損。断面四角形。	フク土

224号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 (弥生)	底部破片	1	— (3.8) (8.4)	細かい砂粒、雲母を多く含む。胎土緻密。焼成良。橙色。	内外面ともハケによる調整。外面はハケ調整の後へラ調整内面は指頭による圧痕も認められる。	フク土
甕 (弥生)	口縁部破片	2	— — —	砂粒、φ1～2mmの小石を含む。胎土粗密。焼成悪くザラつく。浅黄橙色。	内外面にハケによる整形を施す。口唇部に数本単位の沈線による波状文が施される。	フク土 写真図36
甕 (弥生)	口縁部破片	3	— — —	砂粒、φ1～2mmの小石を含む。胎土粗密。焼成あまり良くない。にぶい黄橙色。	内面は横位、外面は縦位のハケによる調整。口唇部は4～5本の沈線による波状文。	フク土 写真図36
甕 (弥生)	口縁部破片	4	— — —	砂粒、φ1～2mmの小石を含む。胎土粗密。焼成あまり良くない。灰黄褐色。	内外面とも横位のミガキ。口唇部は4～5本の沈線による波状文。	フク土 写真図36
杯部? (弥生)	口縁部破片	5	— — —	砂粒、黒色の粒子、雲母を含む。胎土粗密。焼成あまり良くなくザラつく。内面は朱が塗られる。にぶい橙色。	口縁は折り反しになる。内外面とも横位にミガキが施される。	フク土 写真図36
壺 (弥生)	胴部破片	6	— — —	砂粒、雲母を含む。胎土粗密。焼成あまり良くなくザラつく。内一灰白、外一にぶい黄橙色	外面は斜方向に二段に沈線をめぐらす。沈線を二段に分割するように太い沈線がめぐる	フク土 写真図36
甕 (弥生)	口縁部破片	7	— — —	細かい砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい黄橙色。	内面はハケによる整形。外面は数本単位の沈線による波状文と籬状文。	フク土 写真図36

225号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考(出土位置)
台付甕 (弥生)	台部下端 欠損	1	12.0 (11.5) —	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土は粗密。焼成良。暗赤褐色。	体部は内湾しながら立ち上り口縁で屈曲する。台部は細くしまり端へ開く。内面は全面にミガキ。外面はハケによる整形。口唇部に5本の沈線による波状文。頸部は7本単位の簾状文。口唇と頸部にはボタン状の粘土が貼付される。	フク土 写図13
甕 (弥生)	胴部破片	2	— —	砂粒、 ϕ 1~5mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良。赤褐色。	内面は横位のミガキ。外面はハケによる整形。	写図37
甕 (弥生)	口縁~頸部破片	3	— — —	砂粒、雲母、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良。外面にスス付着。明赤褐色。	口縁内面ミガキ、頸部以下ヘラ状工具によるナデ。外面ハケによる整形。頸部右から左方向への簾状文。肩部に数本単位の沈線による波状文。頸部にボタン状の粘土が貼付される。	フク土 写図37
甕 (弥生)	胴部破片	4	— —	砂粒、雲母、 ϕ 1~2mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良。にぶい赤褐色。	内面は横位のミガキ。外面はハケによる整形。	フク土 写図37
甕 (弥生)	頸部破片	5	— — —	砂粒、雲母、 ϕ 1~2mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良。明赤褐色。	内面ミガキ。外面頸部右から左の簾状文。肩部数本単位の波状文。	フク土 写図37

228号住居址遺物観察表

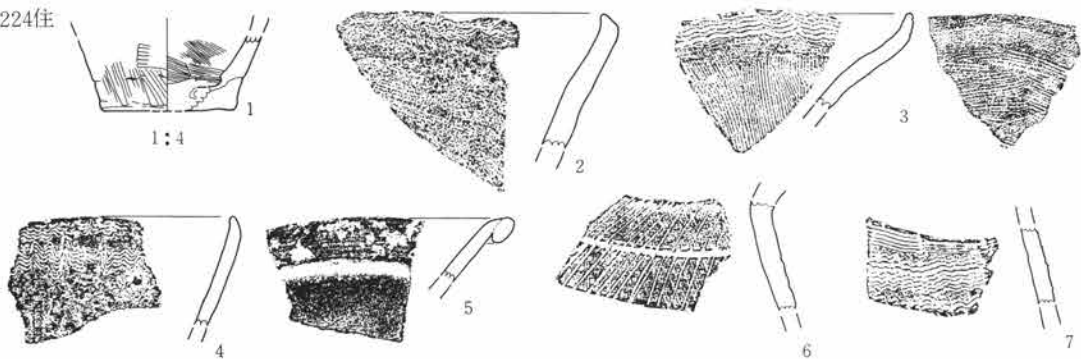
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考(出土位置)
甕 (弥生)	胴部破片	1	— — —	砂粒、 ϕ 1~2mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成やや悪くザラつく。明赤褐色。	内外面とも横位のハケによる調整。数本単位の沈線による波状文。	フク土 写図36
甕 (弥生)	頸部破片	2	— —	細かい砂粒を含む。胎土粗密。焼成良。内一灰黄橙、外一黒色。	内面ミガキ。外面頸部右から左への簾状文。肩部が波状文。	フク土 写図36

228号住居址遺物観察表

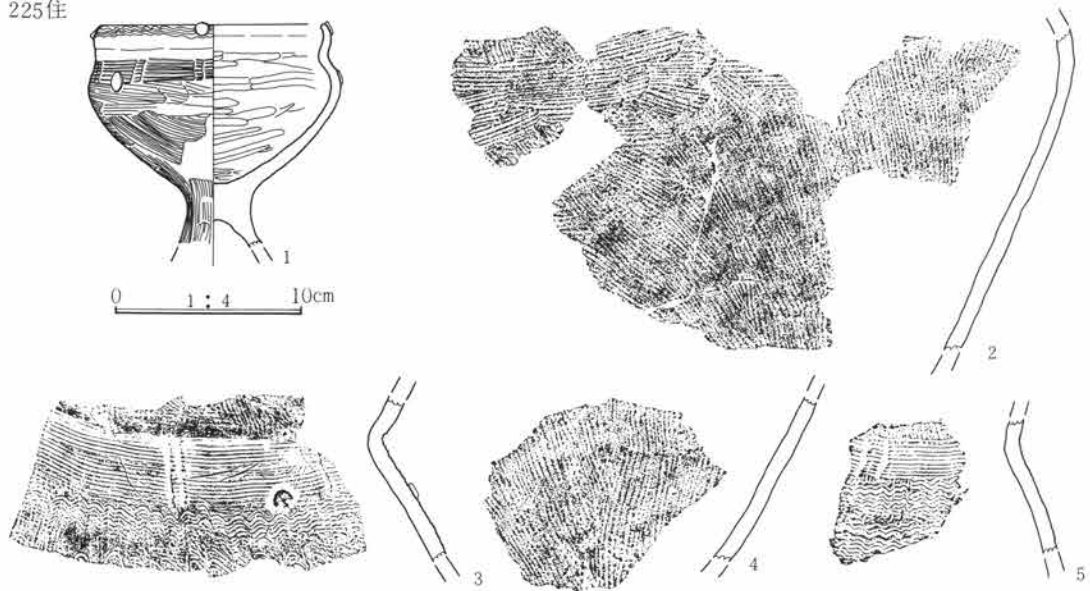
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磔器	3	8.7	3.85	1.1	54	緑色片岩	全体に磨痕が見られる。	1

第3章 出土した遺物

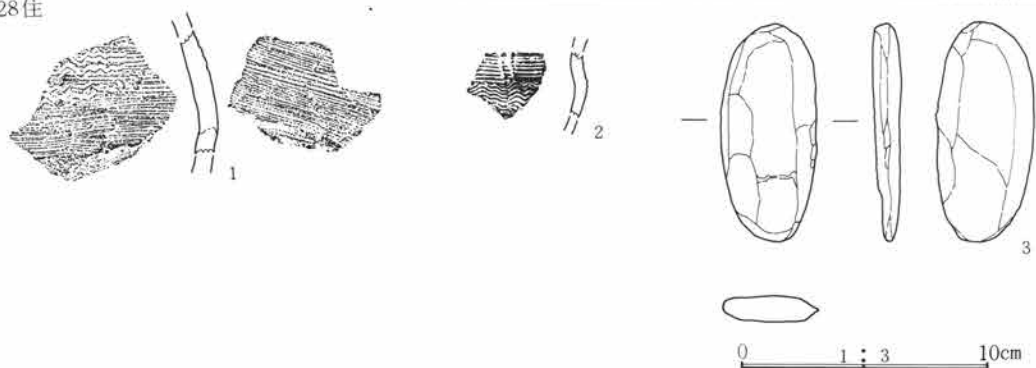
224住



225住



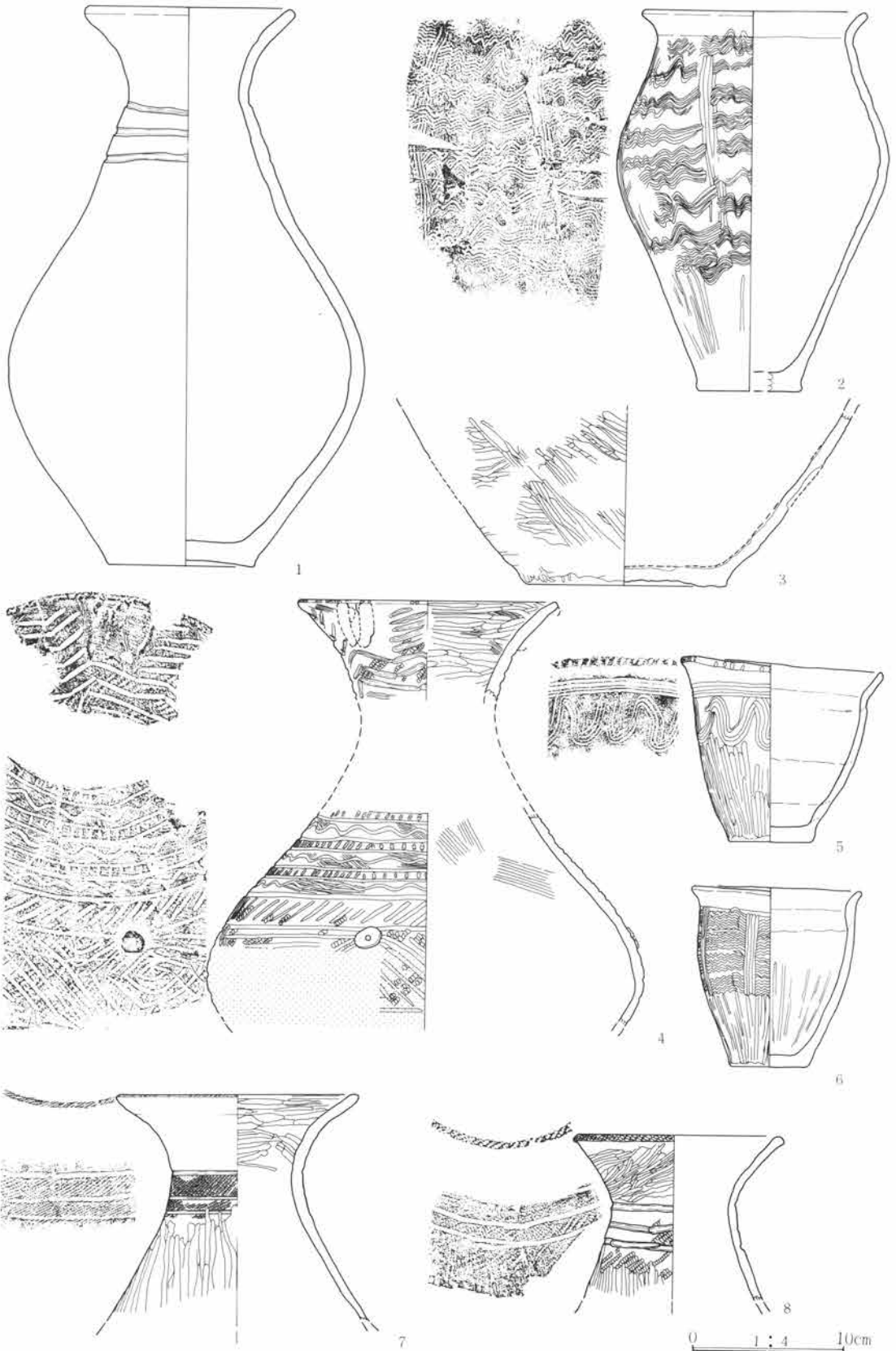
228住



第77図 224号、225号、228号住居址出土遺物

229号住居址遺物観察表

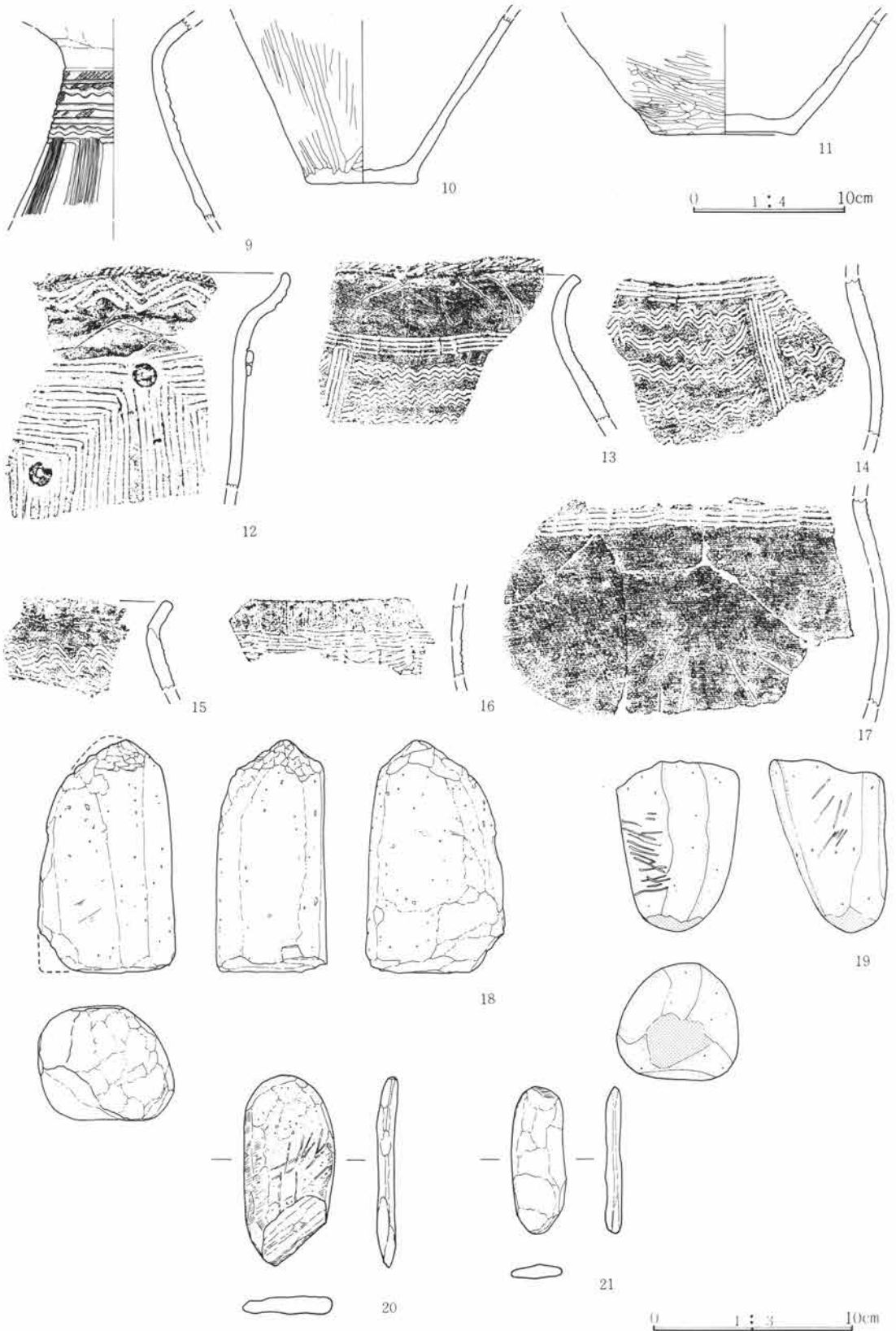
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺	口縁～底部%残	1	(13.7) 3.6 (8.5)	小石、砂粒を含む。焼成良好 黒斑多い。灰白色。	最大径は胴部の中央やや下方 口縁部は外反。内面輪積痕。 外面は指ナデ後、頸部に3条 の横線文、最後に口縁部およ び胴部ヘラミガキ。内面は、 指ナデ。	P14・28・32・39・フ ク土 写図13
甕	口縁部～ 底部%残	2	24.6 14.75 (6.6)	小石、砂粒を含む。焼成普通 橙色。	最大径は胴上位。口縁部は、 外反。胴下半は、直線につ ぼまる。内面輪積痕。外面は 指ナデ後、5条1単位の波状 文、櫛描区画文、胴下部の縦 ヘラミガキ。内面横ヘラミガ キ。	P34・フク土 写図13
壺	底部およ び胴部の 一部	3	— (11.2) (13.0)	砂粒を多く含む。焼成不良。 にぶい黄橙色。	胴部下半は、ほぼ直線につ ぼまる。内面輪積痕。外面縦 ヘラミガキ。内面横指ナデ。	P2・3・4・5・6・ 8・16・22・35・36
壺	口縁およ び胴部の 一部	4	(16.7) — —	小石、砂粒を含む。焼成良好 橙、明黄褐色。	最大径は胴部。口縁部は外反 内面輪積痕。口縁部外面は、 縄文施文後山形文。胴部上半 外面は、1条の波状文、横線 文、突帯文、胴部中央は、縄 文施文後、重ねひも形文。	P13・33 写図13
小型甕	完形	5	13.0 11.0～12.0 5.4	小砂粒を含む。焼成普通。内 外面に黒斑。にぶい橙色。	最大径は口縁部で、頸部のく びれが少ない。内面輪積痕。 外面は指ナデ後、口唇部にき ざみ文、頸部に4条1単位の 櫛目横線文、胴上半部に4条 1単位の波状文、胴下半部縦 ヘラミガキ。内面は、指ナデ 後ヘラミガキ。	P42 写図13
小型甕	完形	6	11.0 11.6 5.1	砂粒を含む。焼成普通。内外 面に黒斑。外面スス付着。に ぶい黄橙色。	最大径は口縁部。口縁部は短 い。胴下半は直線につぼま る。内面輪積痕。外面は指ナ デ後、胴上半部に4条1単 位の波状文、最後に胴下半部 に縦ヘラミガキ。	P1 写図13
壺	口縁～胴 上部%	7	15.9 (15.0) —	小石、砂粒を含む。焼成普通 外面口唇部に黒斑。にぶい黄 橙色。	口縁部は、やや受口状に大き く外反。内面輪積痕。外面は 指ナデ後、口唇部縄文、頸部 に縄文施文後三条の横線、胴 部縦ヘラミガキ。内面は、口 縁部ヘラミガキ、胴部指ナデ	P8・15 写図13
壺	口縁部～ 頸部%	8	(13.7) (10.5) —	砂粒を含む。焼成普通。にぶ い黄褐色。	口縁部は大きく外反。内面輪 積痕。口唇部縄文押捺、頸部 に縄文施文後、口縁部および 胴部ヘラミガキ。	P2



第78図 229号住居址出土遺物

第2節 竪穴住居址出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺	頸部および胴部の一部	9	— (12.8) —	砂粒を含む。焼成普通。にぶい黄橙色。	口縁部は大きく外反。成形不明。外面口縁部指ナデ。頸部に縄文施文後、横線文、1条の波状文。胴上部に6条1単位の櫛描区画を施文後、縦ヘラミガキ。内面は、口縁部ヘラミガキ、胴部指ナデ。	P18
壺	胴下半～底部㍉残	10	— (10.5) 7.3	小砂粒を含む。焼成普通。明赤褐色。	胴下半は、直線的につぼまる成形不明。内外面ヘラミガキ	P11・フク土
壺	底部のみ	11	— (7.1) 9.45	小砂粒を含む。焼成不良。にぶい黄橙色。	成形不明。外面横ヘラミガキ 内面不明。	P9
甕	口縁部～胴上部㍉	12	— (10.4) —	小砂粒を含む。焼成普通。口縁部内面に黒斑。外面スス付着。黒褐色。	口縁部やや袋状。胴上部は、ほぼ垂直。成形不明。外面指ナデ後、口唇部、口縁部に縄文押捺、口縁部外面に山形文。胴部にコの字重文。内面横ヘラミガキ。	P23・フク土 写図37
甕	口縁部～胴上部㍉	13	(17.0) (7.2) —	小砂粒を含む。焼成普通。にぶい黄橙色。	最大径は胴部。口縁部緩やかに外反。内面輪積痕。外面は指ナデ後、4条1単位の時計回り簾状文、4条1単位の波状文、4条1単位の櫛目区画文。内面横ヘラミガキ。	P21 写図37
壺	頸部～胴上部の一部	14	— (7.5) —	小砂粒を含む。焼成不良。にぶい黄橙色。	成形不明。外面は、頸部に3条を1単位とする時計回り簾状文、3条1単位の波状文、3条1単位の櫛描区画文。内面横ヘラミガキ。	フク土 写図37
甕	口縁～頸部の一部	15	— (4.2) —	小砂粒を含む。焼成不良。暗褐色。	口縁部は外反する。内面輪積痕。外面は、指ナデ後4条1単位の波状文、口唇部縄文押捺。内面は横ヘラミガキ。	フク土 写図37
甕	頸部の一部	16	— (3.6) —	小砂粒を含む。焼成普通。にぶい黄橙色。	内面輪積痕。外面は、ハケ調整後指ナデ、時計回り簾状文 内面横ハケ。	フク土 写図37
壺	頸部～胴部㍉残	17	— (10.0) —	砂粒、小石を含む。焼成良好 内外面に黒斑。橙色。	成形不明。外面は、頸部に4条を1単位とする時計回り簾状文、胴部ヘラミガキ。内面はヘラミガキ。	P10・フク土 写図37



第79図 229号住居址出土遺物

229号住居址遺物観察表

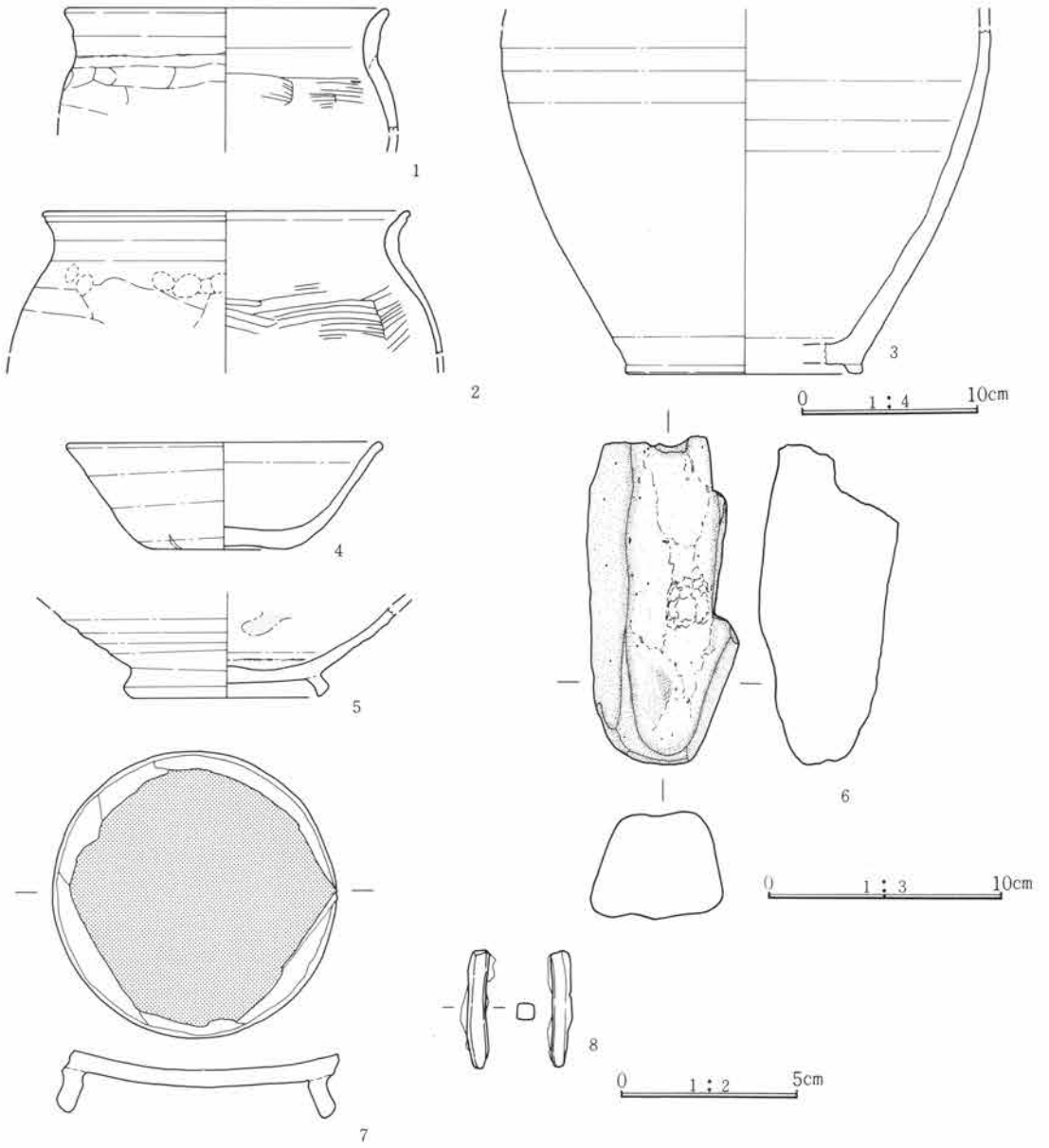
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磑器	18	11.2	6.9	5.5	642	石英閃緑岩	上端敲打痕。	1 写図29
敲石	19	8.3	6.0	5.8	360	粗粒安山岩	トーン部磨り面。表面に擦痕。	2 写図29
磑器	20	9.4	4.5	1.1	74	緑色片岩	表面に擦痕が見られる。	40(P) 写図29
磑器	21	7.2	2.6	0.9	26	黒色片岩	全体に磨られている。	フク土 写図29

230号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕土師器	口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存	1	(18.4) (5.2) —	砂粒、雲母、 ϕ 1~2mmの小石を含む。胎土粗密。焼成普通。外面頸部にスス付着。暗褐色。	頸部は「コ」の字形になる。内面は、ヘラ状工具による横位の整形。外面は横位方向へのヘラケズリ。	P20・24・47・フク土
甕土師器	口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存	2	(20.8) (7.9) —	砂粒、雲母、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。頸部にスス付着。赤褐色。	頸部は「コ」の字形になる。口唇に一条の沈線を持つ。口縁内外面は横位のナデ。内面はヘラ状工具による整形。外面は、横位のヘラケズリ。	P25
甕須恵器	胴部 $\frac{1}{2}$ 残存	3	— (19.3) (13.4)	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土粗密。焼成やや悪いにぶい褐色。	体部は内湾ぎみに立ち上り、高台が付く。ロクロ整形。ロクロ目は弱い。底部高台は貼り付け。	P21・50・8・4
杯須恵器	口縁一部欠損	4	13.2 4.5 6.0	砂粒、 ϕ 1~5mmの小石を含む。焼成良い。灰色。	底部から内湾ぎみに立ち上るロクロ整形。ロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り後、若干の整形を行う。	P29 写図13
椀灰釉陶器	底部	5	— (3.7) 7.4	黒色粒子を極少量含む。胎土緻密。焼成良。灰釉は淡い緑色を呈する。灰白色。	体部は内湾ぎみになる。ロクロ整形。ロクロ目は弱い。高台は猫足状に付けられる。	P1
椀灰釉陶器	底部	7	— (1.8) 7.4	細かい砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。灰白色。	ロクロ整形。底部高台貼り付け後ナデる。体部欠損後底面を硯に転用している。トーン部は磨り面。	P2

230号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	6	13.6	6.0	6.0	710	ひん岩	先端部、表面に敲打痕有。	P36 写図48
釘	8	3.3	0.5	0.5	2.0	鉄	上端欠損。断面四角形。	



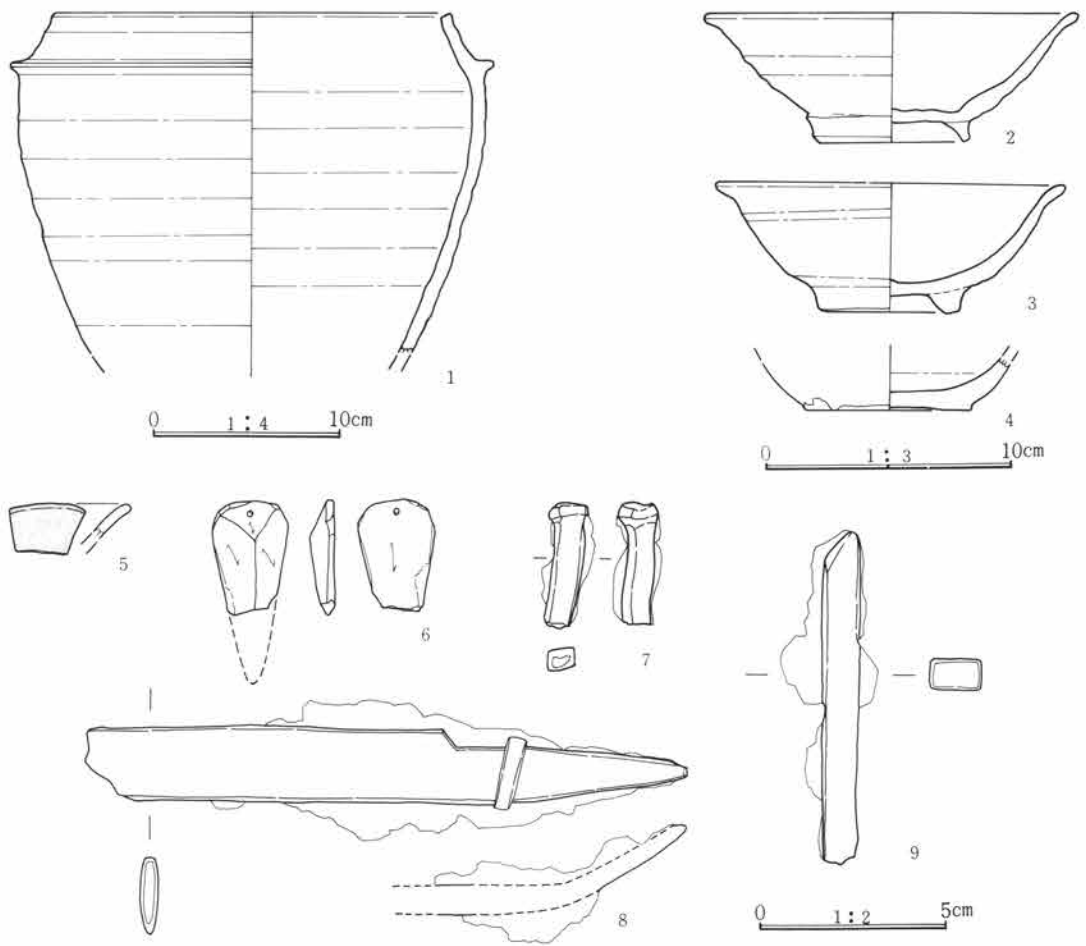
第80図 230号住居址出土遺物

231号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁胴部 欠残存	1	(21.1) (17.8) —	砂粒、 ϕ 1～5 mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。内外面スス付着、還元焰焼成灰オリーブ色。	胴部は大きく内湾し、口縁は内傾する。ロクロ整形でロクロ目は強い。罫は上面は水平で、下面は斜めになる。	P 11・17
椀 須恵器	口縁～体部の一部 欠損	2	(14.8) 5.1 6.0	砂粒、 ϕ 1～5 mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。底面にススが付着。灰色。	体部は直線的に開き、口縁で若干外反する。ロクロ整形でロクロ目が強い。底面は右回転糸切り離し、高台貼り付け後ナデるが貼り付け痕は大きく残る。	P 9・18
椀 須恵器	口縁欠損	3	13.8 5.1 5.0	砂粒、 ϕ 1～2 mmの小石を含む。胎土は粗密。表面に気泡が残る。焼成はやや良い。内面にスス付着。灰オリーブ色	体部は内湾ぎみに開き、口縁で外反する。ロクロ整形でロクロ目が弱い。底部は回転糸切り、高台貼り付け後ナデを施すがゆがみは大きい。器面にも粘土瘤が付着する。	P 15
杯	体部下 ～底部	4	— (2.0) 6.6	砂粒、 ϕ 1～2 mmの小石、細かい片岩を含みキラキラ光る。胎土粗密。焼成良。灰色。	体部は内湾ぎみに開く。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り。底部の整形が雑で粘土がはみ出す。	P 2
椀 緑釉	口縁破片	5	— — —	細かい砂粒を含む。胎土は軟らかくやや粗密。焼成良。釉は淡い緑色。灰白色。	ロクロ整形。口唇部はわずかに外反。	フク土

231号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
剣形品	6	3.0	2.1	0.7	4.9	滑石	全面研磨。表面稜を持つ。片側から穿孔。	フク土 写図39
釘	7	3.3	0.8	0.2	2.8	鉄	錆化が激しい。断面四角形。先端欠損。	フク土
刀子	8	16.0	2.0	0.1	33.5	鉄	鋒部欠損。茎が湾曲する。刃部の消耗少ない	F 2
釘	9	8.9	1.0	0.1	17.2	鉄	錆化が激しい。両端欠損。断面長方形。	F 1



第81図 231号住居址出土遺物



232号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺 (弥生)	胴部下半 ～底部	1	— (12.8) 7.0	砂粒、 ϕ 1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。外面に黒斑有。にぶい黄褐色	外面ミガキをていねいに施し 光沢を持つ。内面ハケ状工具 で整形。	P5・フク土
壺 (弥生)	頸部破片	2	— — —	砂粒、 ϕ 1～3mmの小石、細かい片岩を含む。胎土やや粗密 焼成良。にぶい黄褐色。	頸部より下の胴部内面にハケ による整形が施される。外面 は頸部にLRの斜行縄文を地 文とし、横位の沈線で文様帯 を区画し、中を斜めの沈線を 施す。胴部は縦位にミガキを 施す。	P1・2・3・フク土 写図38
甕 (弥生)	口縁部破 片	3	— — —	砂粒、 ϕ 1～2mmの小石を含 む。胎土やや粗密。焼成良。 口縁外面にスス付着。黒色。	ハケにより内外面とも整形し た後、内面は横位のミガキ、 外面は口縁部に、6本の波状 沈線を施す。	フク土 写図38
甕 (弥生)	口縁部破 片	4	— — —	砂粒、片岩を含む。胎土やや 粗密。焼成良。暗褐色。	内面はていねいなミガキ。外 面は単節LRの斜行縄文。口 縁に波状、横位の沈線が施さ れる。	フク土 写図38
壺 (弥生)	胴部破片	5	— — —	砂粒、 ϕ 1～3mmの小石、少量 の雲母を含む。胎土やや粗密。 焼成良。黒褐色。	内面ミガキ、剥落多い。外面 地文単節LR。横位の沈線間 に、波状の沈線、刺突などが 施される。	写図38
高杯 (弥生)	口縁部破 片	6	— —	砂粒、 ϕ 1～2mmの小石を含 む。胎土粗密。焼成良。内外 面朱塗り。	内外面ともていねいにミガキ が施される。	フク土 写図38

232号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磨石	7	12.3	8.1	4.0	525	砂岩	表面と側面に磨痕が見られる。表面に敲打痕。 右側縁に刃部状の調整が見られる。	No2 写図29 S1 写図29
剥片	8	7.0	6.1	1.5	38	硬質泥岩		

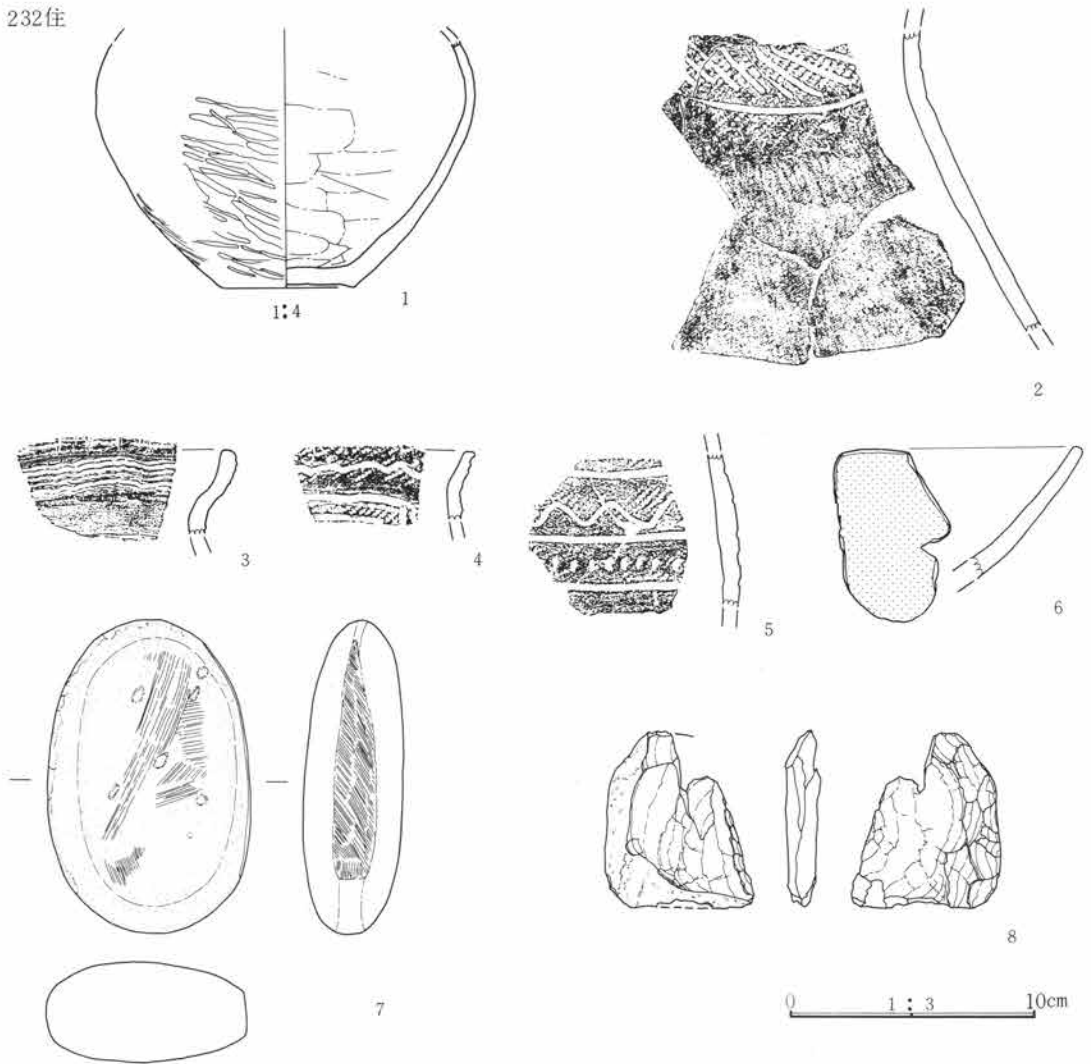
234号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	片残	1	21.4 (22.9) —	砂粒、 ϕ 1～3mmの小石を含 む。胎土やや粗密。焼成良。 胴下部に黒斑あり。橙色。	胴部はほぼ直線的に立ち上り 大きく外反する口縁に続く。 内面は良く磨かれている。外 面口縁部はミガキ、それ以下 は斜位のヘラケズリが全面に 施される。	P3・フク土・カマド フク土

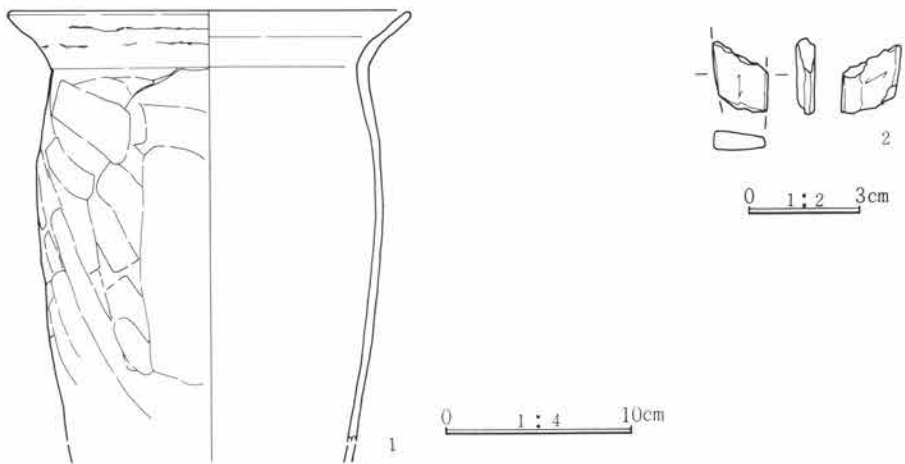
234号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
剣形品	2	1.9	1.5	0.5	1.6	滑石	平面研磨。両端欠損。	フク土 写図39

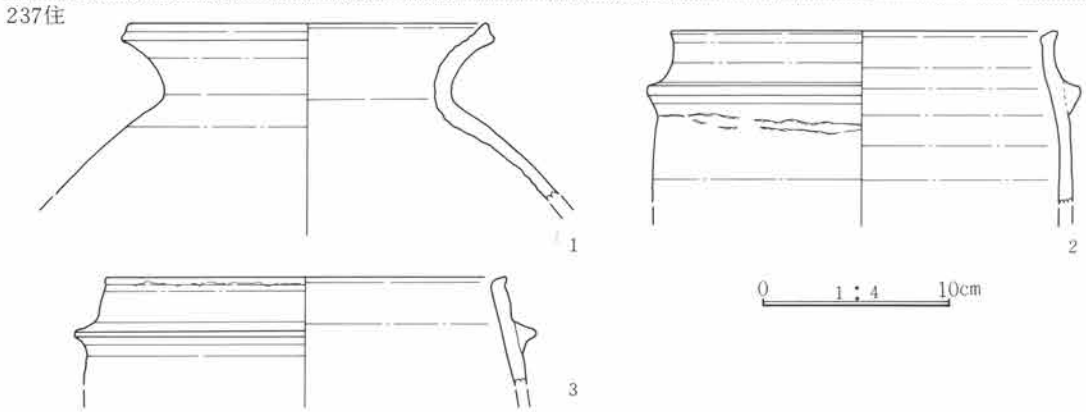
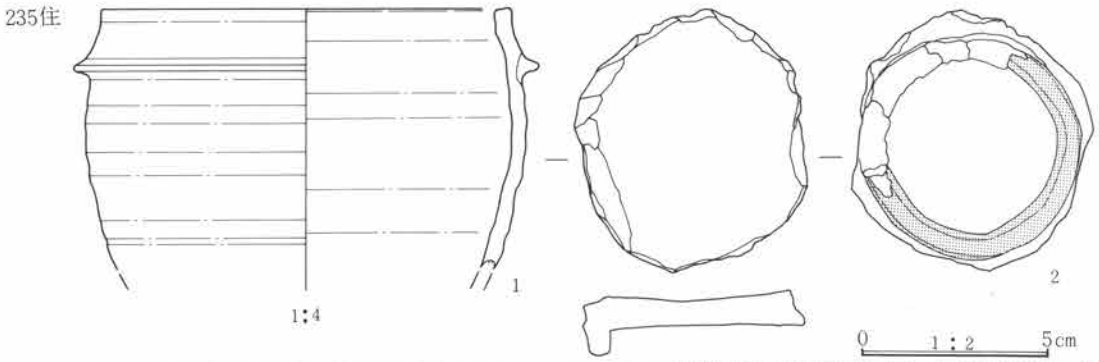
232住



234住



第82図 232号、234号住居址出土遺物



第83図 235号、237号住居址出土遺物

235号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁~胴部破片	1	(21.7) (13.7) —	砂粒、 ϕ 1~5 mmの小石、雲母を含む。胎土やや緻密。焼成良。酸化焰焼成。橙色。	罎下で脹らみ、口縁は内傾する。ロクロ整形、ロクロ目は強い。罎は断面三角形で、貼り付け。	P12
椀 (転用土盤)	底部破片	2	— — —	砂粒、 ϕ 1~5 mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良。にぶい褐色。	ロクロ整形、内面にロクロ目が残る。底部は高台貼り付け後ていねいにナデる。高台底面は、磨きけずられなめらかになる。	フク土

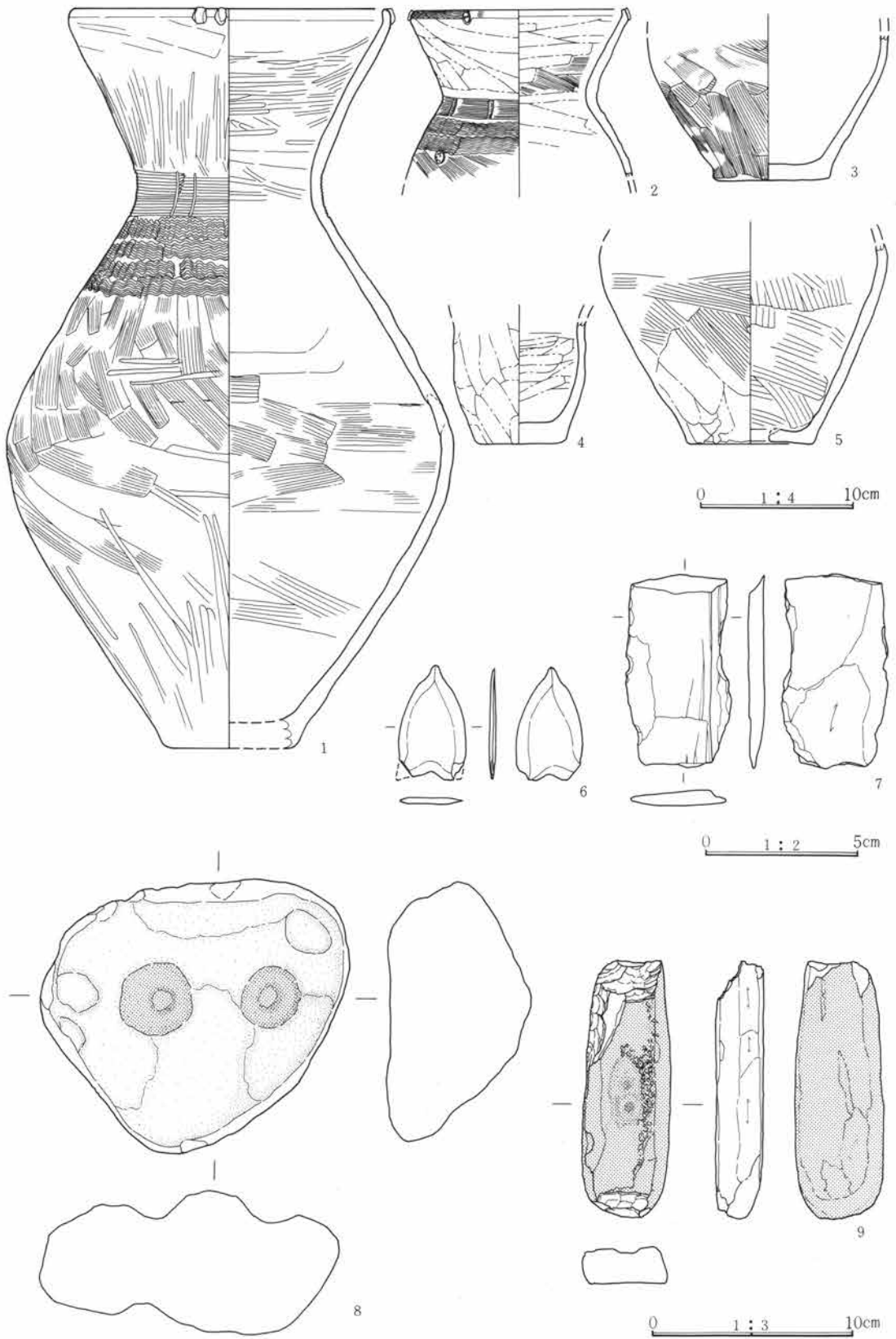
第3章 出土した遺物

237号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	口縁部破片	1	(19.3) (9.4) —	砂粒、φ1～4mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。外面にスス付着。還元焰焼成にぶい橙色。	ロクロ整形。ロクロ目は弱い。内面に二次的な火熱を受けて剥落した部分があり、土器の二次的使用が考えられる。	P12・13
羽釜	口縁部破片	2	(20.7) (9.0) —	細かい砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。内外面にススが付着する。還元焰焼成。にぶい黄橙色。	胴部はわずかに内湾し、口縁部はゆるく外反しながら立ち上る。ロクロ整形。ロクロ目は弱い。銚は断面三角形で、上面が水平、下面が斜めになる。	P15
羽釜	口縁部破片	3	(21.4) (5.7) —	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。外面スス付着。にぶい橙色。	胴部から、口縁に内傾しながら立ち上る。ロクロ整形、ロクロ目は弱い。銚は断面三角形を呈する。	P4

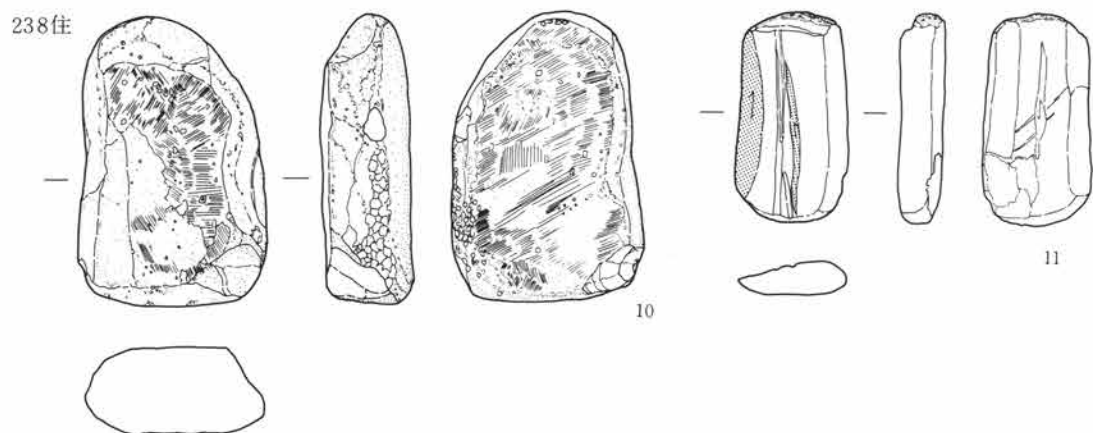
238号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺	%残	1	(20.4) 47.2 —	砂粒を含む。焼成普通。外面スス付着。淡黄色。	最大径胴中位。内面輪積痕。外面は指ナデ後、口唇部に突起文、頸部に簾状文、胴上部に波状文、胴部ハケナデ後、一部ヘラミガキ。内面横指ナデ。	P11・12・13・フク土 写図13
甕	口縁～胴上部	2	13.6 (10.8) —	砂粒を少量含む。焼成普通。外面スス付着。にぶい橙色。	口縁部は直線的に外反する。内面輪積痕。外面は指ナデ後口唇部に波状文とボタン状貼付文。	P16・フク土 写図13
甕	胴～底部	3	— (9.3) 7.6	小砂粒を含む。焼成不良。にぶい褐色。	外面ハケナデ。内面磨滅のため調整不明。	P1・2 写図13
小型甕	胴～底部 %残	4	— (7.9) 5.6	砂粒を含む。焼成普通。にぶい赤褐色。	やや不整形。成形不明。外面縦ナデ、内面横ナデ。	P14 写図14
甗 (甗の下半を再利用)	完形(甗の下半部)	5	— (13.4) 8.1	砂粒を含む。焼成普通。にぶい橙色。	体部(甗下半)は直線的に広がる。底部に1.4×1.6cmの焼成後穿孔。外面指ナデ後、軽いハケナデ。内面ナデ。	P3 写図14



第84図 238号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物



第85図 238号、239号住居址出土遺物

238号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磨製石鏃	6	3.6	2.2	0.2	2.64	珪質準片岩	全面研磨。基部抉れる。	1
剥片	7	6.2	3.2	0.5	17.35	珪質準片岩	偏平で長方形。表面研磨。剥離痕残す。	2
凹石	8	12.5	14.7	6.9	1050	粗粒安山岩	表裏に凹みを持つ。	S 4 写図38
磨石	9	12.5	4.3	2.4	282	緑色片岩	トーン部磨面。表面に凹みを持つ。	3
礫器	10	11.3	7.2	3.6	558	ひん岩	側縁に敲打痕。表面に擦痕を持つ。	S 5 写図29
砥石	11	8.4	4.3	1.8	85	砂岩	トーン部が特に磨られている。	フク土 写図47

239号住居址遺物観察表

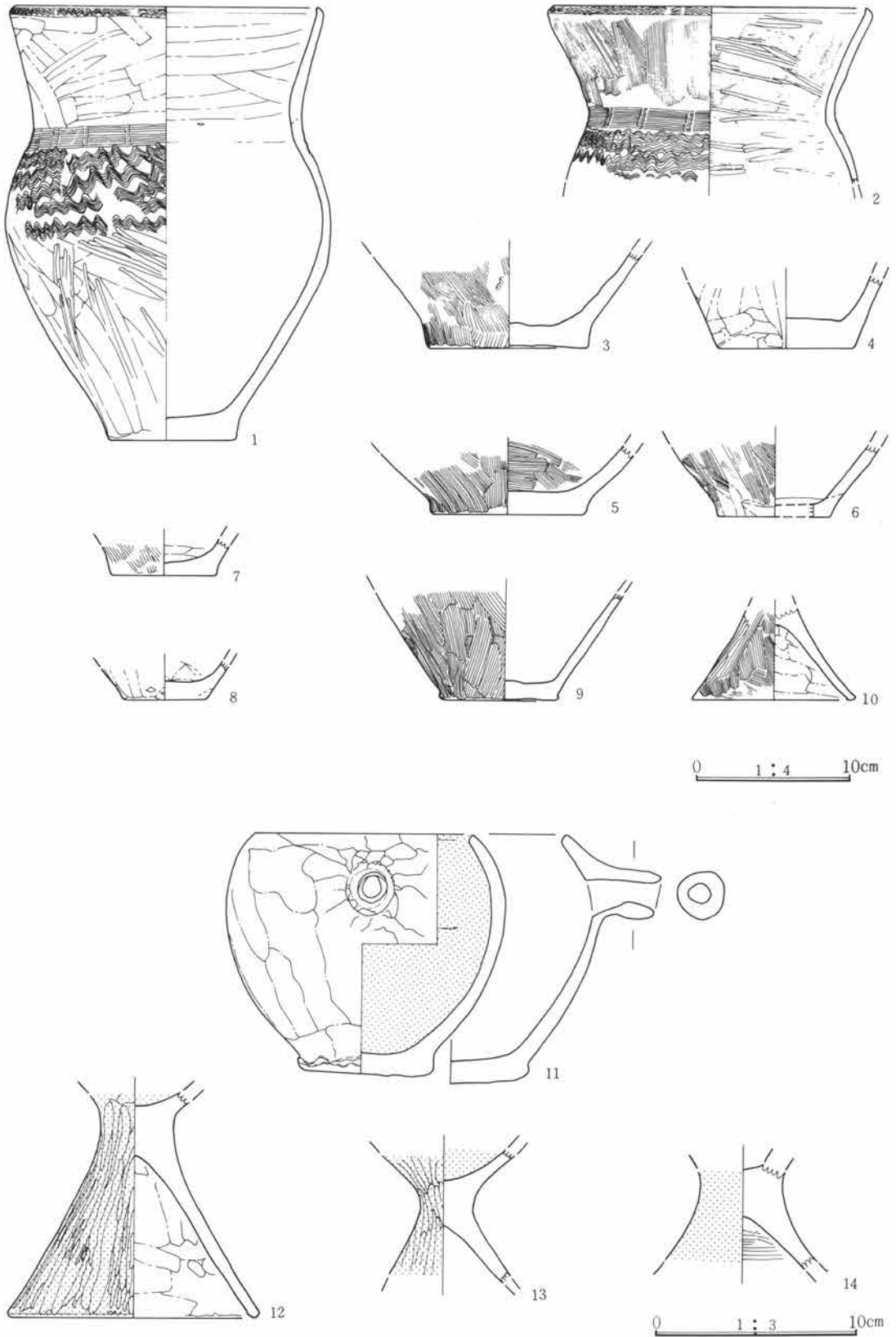
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀 灰釉陶器	口縁一部 欠損	1	(12.5) (4.2) 6.7	砂粒を含む。胎土緻密。焼成 良い。釉は漬け掛け。灰白色	体部は内湾して立ち上り、口 縁でゆるく外反する。ロクロ 整形。ロクロ目弱い。底部高 台貼り付け後でいねいなナ デ。高台は直立する。	P 3・4 写図14

240号住居址遺物観察表

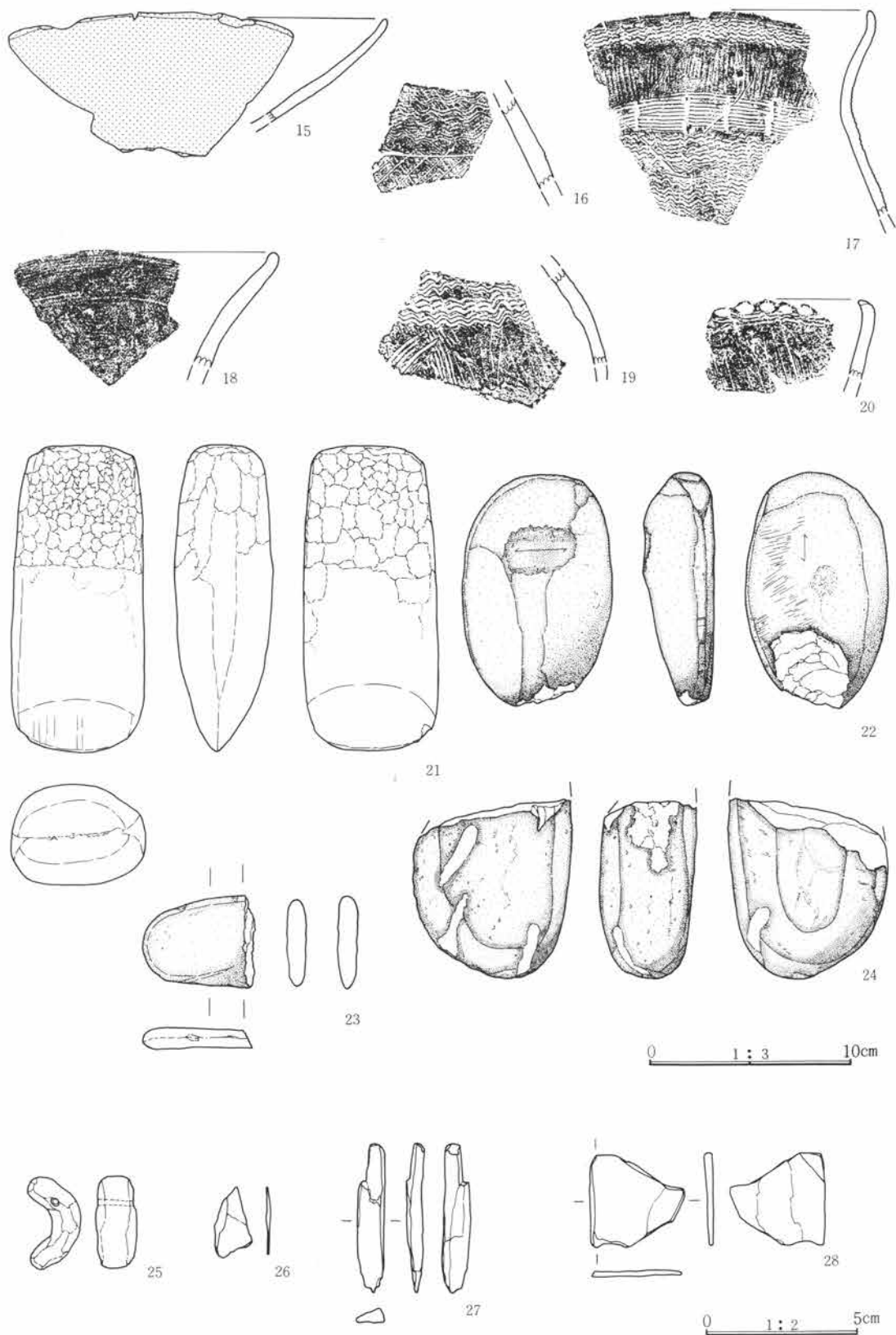
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	ㄨ残	1	19.8 28.0 8.2	砂粒を多く含む。焼成不良。外面にスス付着。にぶい黄橙色。	胴下半部は、ほぼ直線的につぼまる。内面輪積痕。外面は口唇部に波状文、頸部に9条を1単位とする簾状文、胴上半部に波状文。外面胴下半部は縦ヘラケズリ後縦ヘラミガキ。内面指ナデ後、ヘラミガキ。	P37 写図14
甕	口縁～胴上部残	2	21.2 (11.3) —	砂粒を含む。焼成良好。外面スス付着。にぶい黄橙色。	内面輪積痕。外面は、口唇部に波状文、頸部に9条を1単位とする時計回り簾状文、胴上部に波状文。内面横ヘラミガキ。	P2
壺	胴最下部～底部残	3	— (6.1) (10.4)	砂粒、小石を含む。焼成普通。内面磨滅。にぶい黄橙色。	成形不明。胴下部は、ハケ調整後ヘラミガキ。	P12
壺	胴下部～底部	4	— (4.8) (8.2)	砂粒を多く含む。焼成良好。明褐色。	成形不明。内外面指ナデ。	P20
壺	胴最下部～底部	5	— (4.8) 10.0	砂粒を含む。焼成普通。浅黄橙色。	成形不明。胴最下部はハケ調整。内面はハケナデ。	P1
甕	胴下部～底部	6	— (4.7) (7.1)	砂粒を多く含む。焼成良好。にぶい橙色。	成形不明。外面胴下部は、ハケ調整。内面はヘラミガキ。	P32
甕	底部のみ	7	— (2.5) 6.6	砂粒を含む。焼成普通。底部に黒斑。灰白色。	成形不明。外面胴最下部はハケ調整。内面はナデ。	P10
甕	底部のみ	8	— (2.5) 5.1	砂粒を多く含む。胎土粒子細かい。外面スス付着。明赤灰色。	成形不明。外面胴最下部はヘラナデ。内面は、ヘラケズリ後ヘラナデ。	P28
甕	胴下部～底部ㄨ残	9	— (6.9) 7.8	小砂粒を含む。焼成普通。外面スス付着。橙色。	成形不明。外面はハケ調整。内面は横ヘラミガキ。	P5
台付甕	脚部のみ残	10	— (6.0) 10.6	砂粒を含む。焼成良好。外面に黒斑。にぶい黄橙色。	成形不明。外面は、ナナメハケ調整後、縦ハケ調整。内面はヘラケズリ。	P7
注口土器	完形	11	10.7 11.5 6.4	小砂粒を含む。焼成良好。外面に黒斑。内面赤色塗彩。にぶい黄橙色。	最大径上部、口縁部内傾。注口部は、筒状でほぼ水平に突出。内面輪積痕。内外面ナデ。外面は赤色顔料による鋸歯文？	P36 写図14

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
高杯	脚部のみ残	12	— (10.9) 11.7	小砂粒を含む。焼成普通。脚部内面に赤色顔料付着。赤色	脚部は、「ハ」の字状に開く。成形不明。杯部内外面および脚部外面は、赤彩後ヘラミガキ内面指ナデ後、一部ヘラケズリ。	P11 写図14
高杯	杯部と脚部の接合部のみ残	13	— (6.0) —	砂粒を含む。焼成良好。赤色	成形不明。杯部内外面および脚部外面は、赤色塗彩後ヘラミガキ。脚部内面はナデ。	P30
高杯	杯部の上半部	14	— (3.9) —	砂粒を含む。焼成良好。赤色	成形不明。杯部外面は、赤色塗彩後ヘラミガキ。脚部内面はナデ。	P27
高杯	杯部残	15	(15.0) (5.1) —	小砂粒を僅かに含む。焼成良好。内外面赤彩色。	口唇部は内湾。成形不明。内外面は、赤色塗彩後ヘラミガキ。	フク土 写図41
甕	胴部の一部	16	— (4.3) —	砂粒、小石を多く含む。焼成良好。にぶい橙色。	成形不明。外面に波状文、斜行する平行沈線。内面ナデ。	P19 写図41
甕	口縁部～胴上部の一部	17	(16.0) (9.5) —	小石、砂粒を含む。焼成普通。外面スス付着。にぶい褐色。	頸部は緩やかにくびれる。口唇部はやや内傾。内面輪積痕。外面は、ナデ後口唇部に波状文、頸部に時計回り簾状文、胴部に波状文。内面は横ヘラミガキ。	P6 写図41
甕	口縁部の一部	18	— (5.5) —	砂粒を多く含む。焼成良好。浅黄橙色。	口唇部やや内傾。成形不明。内外面横ナデ。	P22 写図41
甕	胴部の一部	19	— (4.5) —	砂粒を多く含む。土の粒子細かい。焼成良好。外面スス付着。にぶい褐色。	成形不明。胴上半部に波状文。胴中央～下方に綾杉文。内面ヘラミガキ。	P16 写図41
甕	口縁部の一部	20	— (3.8) —	小砂粒を含む。土の粒子細かい。焼成良好。明赤褐色。	口唇部やや内傾。成形不明。口唇部外面に波状文施文後、口唇部に指による連続押形文。内面は、横ヘラミガキ。	掘方フク土 写図41



第86図 240号住居址出土遺物



第87图 240号住居址出土遺物

240号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磨製石斧	21	14.8	6.6	4.8	823	変輝緑岩	蛤歯石斧。基部は凸凹が多い。先端研磨。	6 写図39
凹石	22	11.3	7.3	3.5	445	粗粒安山岩	全体に磨られている。表面凹。先端敲打痕。	フク土
礫器	23	4.2	5.4	0.9	35	雲母石英片岩	半分欠損。全体に磨られている。	S 4 写図42
敲石	24	8.1	7.8	4.9	410	粗粒安山岩	先端部敲打。全体に磨面。	フク土 写図42
勾玉	25	3.0	0.9	—	6.2	土製	指頭によるナデ。	35 写図34
剥片	26	2.3	1.3	0.2	0.45	珩質準片岩	偏平。未調整。	フク土 写図39
剥片	27	4.9	0.9	0.6	2.13	珩質準片岩	偏平。未調整。	フク土 写図39
剥片	28	3.0	3.1	0.3	385	珩質準片岩	偏平。両面研磨。磨製石鎌未製品。	フク土

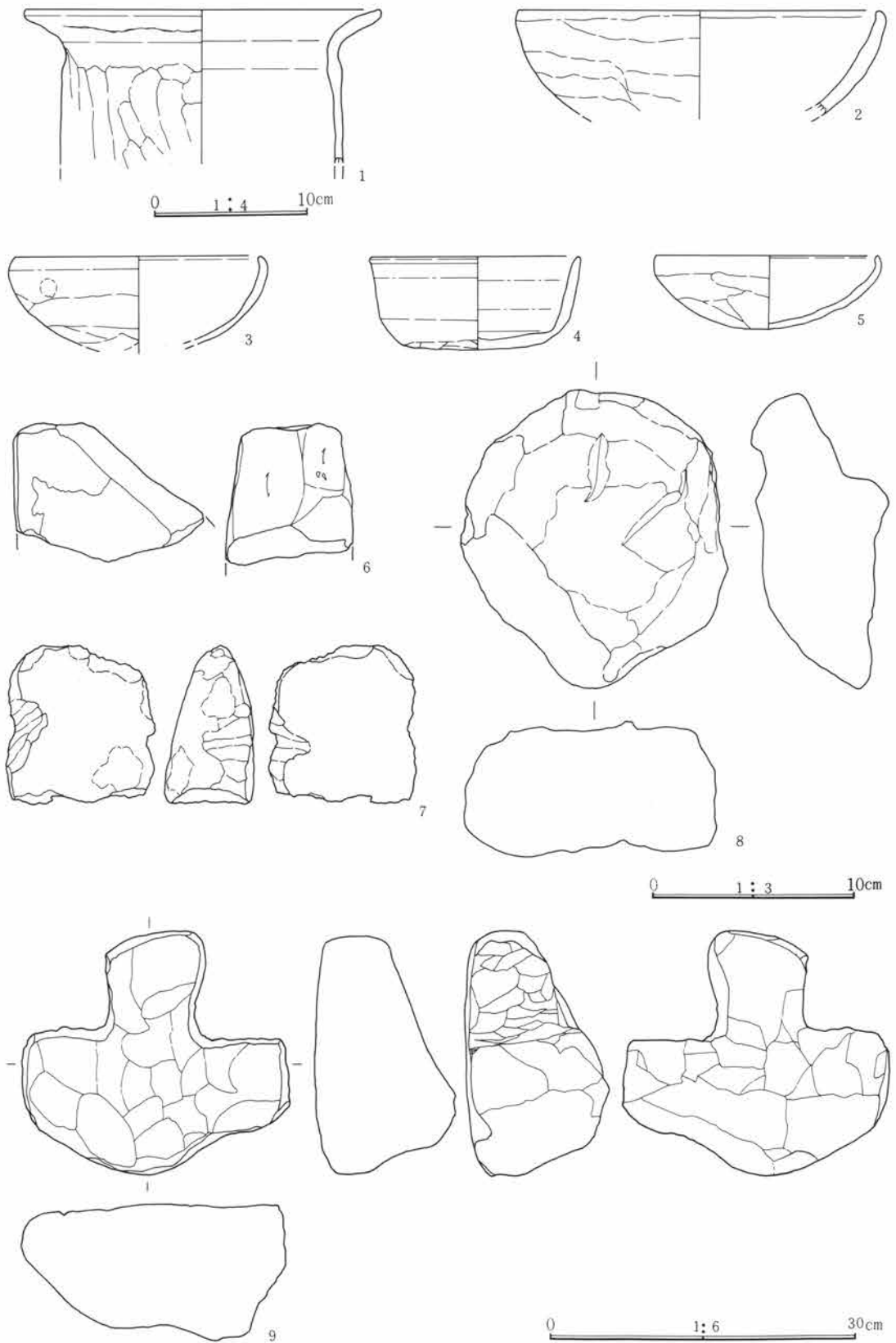
241号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕土師器	口縁～胴部の一部	1	(23.2) (10.0) —	砂粒を多く含む。焼成不良。にぶい橙色。	口縁部は大きく外反する。外面輪積痕。外面は、口縁部横ナデ、胴部縦ヘラケズリ。内面ナデ。	P 1
杯土師器	口縁～体部の一部	2	18.0 (5.0) —	砂粒を少量含む。焼成良好。橙色。	体部は丸みをもち、口唇部は内傾する。外面体部～底部ヘラケズリ。口唇部横ナデ。内面横ナデ。	P 2・フク土
杯土師器	㍽残	3	(12.0) 4.2 ●	砂粒を含む。焼成普通。明褐色。	丸底、底部～体部は丸みをもち、口唇部は内傾する。外面体部～底部ヘラケズリ、口唇部横ナデ。内面ナデ。	フク土
杯須恵器	㍽残	4	(10.1) 4.5 6.5	砂粒を含む。還元。硬質。灰白色。	体部～口縁部は直線的にやや外反する。外面体部～口縁部は回転横ナデ、底部は回転ヘラ切り。内面は回転ナデ。	フク土 写図14
杯土師器	㍽残	5	10.8 3.5 ●	砂粒を少量含む。焼成良好。明赤褐色。	丸底、底部～体部は丸みをもち、口唇部は内傾する。外面体部～底部ヘラケズリ。口唇部横ナデ。内面ナデ。	フク土

241号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	6	6.7	9.2	6.2	390	砥沢石	三面研ぎ面。他は自然剝離面。	フク土 写図30
石錘	7	7.7	6.9	3.7	320	粗粒安山岩	両側縁に抉りを持つ。	フク土 写図48
台石	8	14.1	12.3	5.6	870	粗粒安山岩	中央部がへこみ磨られている。	2 写図40
不明石器	9	23.0	25.6	11.9	3340	軽石(二ツ岳)	剝離面の一部を磨り面としている。	1 写図14
鉄鏃	10	15.8	0.7	0.8	9.5	鉄	先端部欠損。断面四角形。錆化が激しい。	鉄No 1
刀子	11	13.8	1.0	0.5	12.1	鉄	ほぼ完形。錆化が激しく刃部は太くなる。	鉄No 2
釘	12	4.3	0.7	0.4	2.5	鉄	両端欠損。断面四角形。	フク土

第3章 出土した遺物



第88図 241号住居址出土遺物

242号住居址遺物観察表

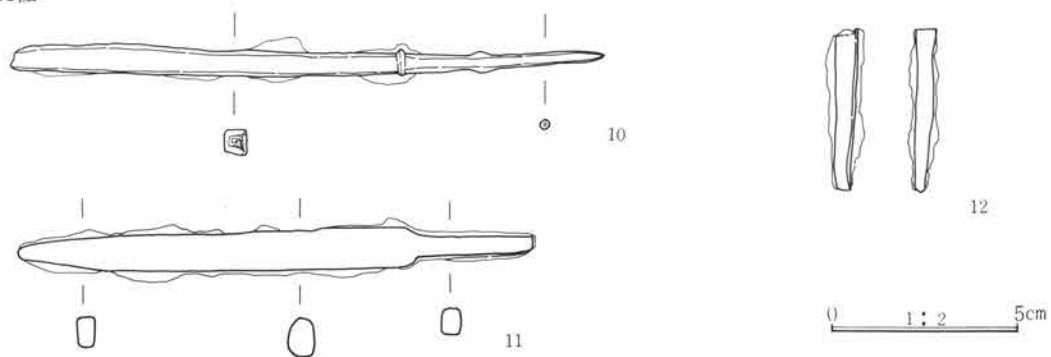
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
長甕	胴下半～ 底部欠	1	21.3 (21.7) —	砂粒を多く含む。焼成良好。 浅黄橙色。	最大径は口縁部で大きく外反 内面輪積痕。外面は、口縁部 横ナデ、胴部縦ヘラケズリ。 内面ナデ。	P 1・2・フク土 写真14
長甕	底部欠	2	20.75 (32.8) —	砂粒、小石を多く含む。焼成 良好。橙色。	最大径口縁部。外面輪積痕。 外面は、口縁部横ナデ、胴部 縦ヘラケズリ。内面ナデ。	P 1 写真14
甕	口縁～胴 上半	3	20.8 (16.4) —	小砂粒を多く含む。焼成普通 にぶい黄橙色。	口縁部は大きく外反。最大径 胴上位。内外面輪積痕。外面 は、口縁部横ナデ、胴部横 ヘラケズリ。内面ナデ。	P 2
杯	一部欠	4	13.6 4.6 ●	砂粒を僅かに含む。焼成普通 にぶい褐色。	丸底、底部～体部は丸みをも ち、口唇部は内傾する。外面 体部～底部ヘラケズリ、口縁 部横ナデ。内面ナデ。	P 2・6 写真14
杯	一部欠	5	(11.0) 4.35 ●	砂粒を少量含む。焼成良好。 底部に黒斑。橙色。	丸底、底部～体部は丸みをも ち、口縁部は直立する。外面 体部～底部ヘラケズリ、口縁 部横ナデ。内面ナデ。	P 1・3 写真14
杯	㊦残	6	10.4 (3.3) ●	砂粒を少量含む。焼成良好。 橙色。	丸底、底部～体部は丸みをも ち、口縁部は内傾する。外面 体部～底部ヘラケズリ、口縁 部横ナデ。内面ナデ。	P 4・5 写真15

243号住居址遺物観察表

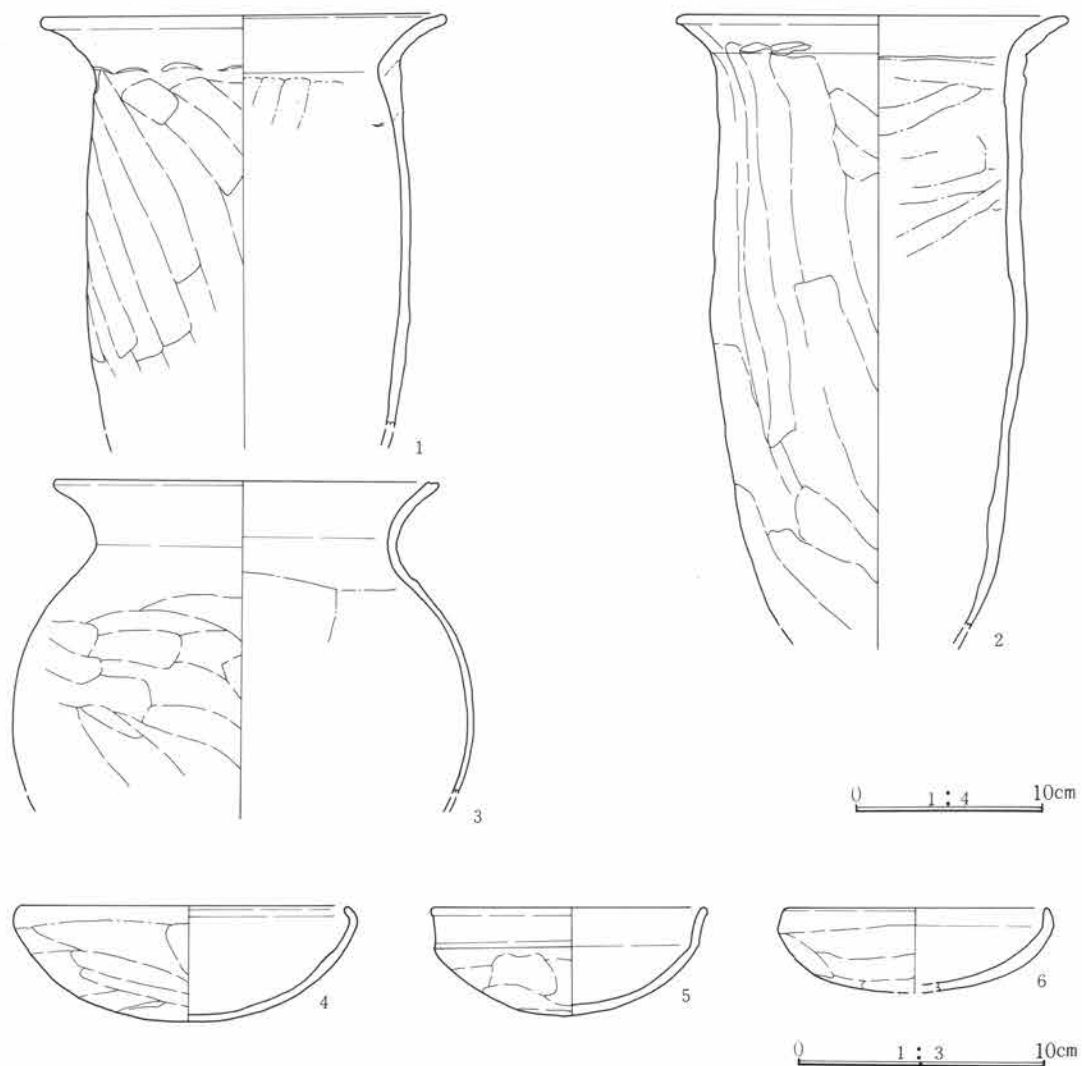
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	㊦残存	1	(15.1) 6.2 ●	砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含 む。胎土緻密。焼成やや良。 ザラつく。橙色。	内湾ぎみに立ち上り、口縁で 内傾する。丸底。内面はてい ねいにナデる。底部ヘラケズ リ。口縁はナデを施す。	P10・フク土
杯 土師器	㊦残存	2	(12.8) 4.3 ●	砂粒、黒色粒子、 $\phi 1\sim 3$ mmの 小石を含む。胎土やや緻密。 焼成良。橙色。	内湾ぎみに立ち上り、底部は 丸底になる。内面、口縁外面 はナデ、外面体部はヘラケズ リが施される。	P 1 写真15
杯 土師器	㊦残存	3	(11.3) 3.4 ●	砂粒、黒色粒子、 $\phi 1\sim 3$ mmの 小石を含む。胎土やや粗密。 焼成良。橙色。	内湾ぎみに立ち上り、口縁で 内傾、丸底。内面、口縁部外 面はナデ、外面体部はヘラケ ズリが施される。	フク土
杯 土師器	口縁一部 欠損	4	10.4 3.4 ●	砂粒、黒色粒子を含む。胎土 やや緻密。焼成良。橙色。	内湾ぎみに立ち上り、口縁で 内傾、丸底になる。内面、口 縁部外面はナデ、外面体部は ヘラケズリが施される。	P11・12・フク土 写真15

第3章 出土した遺物

241住

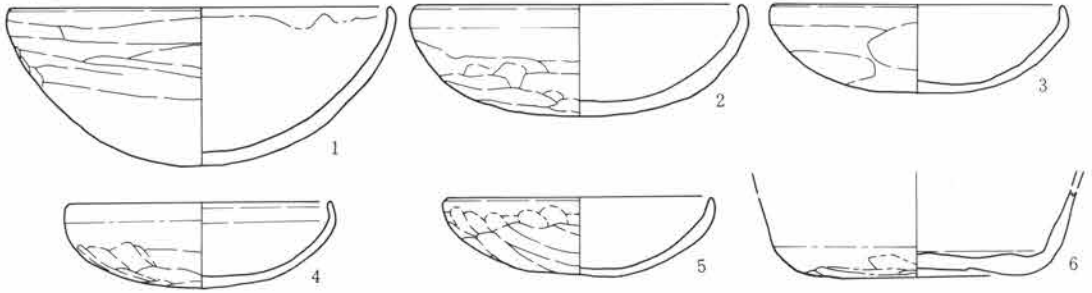


242住

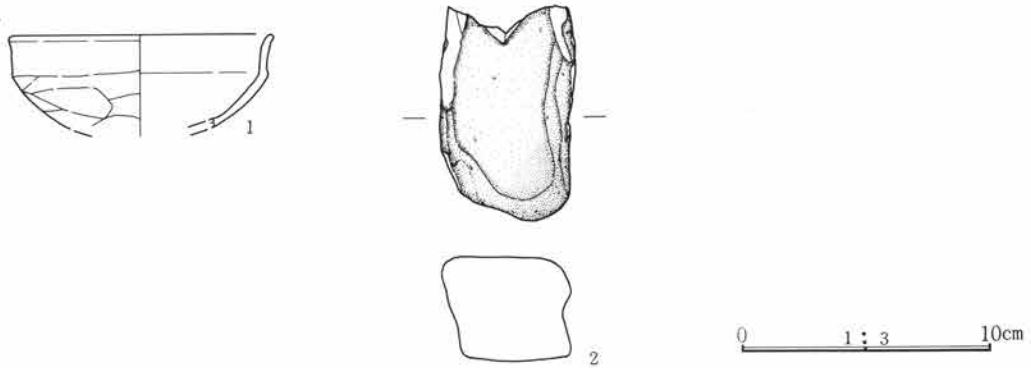


第89図 241号、242号住居址出土遺物

243住



245住



第90図 243号、245号住居址出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	口縁 $\frac{1}{2}$ 残存	5	10.5 3.1 ●	砂粒、黒色粒子、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。橙色。	内湾ぎみに立ち上り、口縁で若干内傾する。丸底。内面、口縁部外面はナデ、外面体部はヘラケズリが施される。	フク土
杯 須恵器	口縁欠損	6	— (3.3) 8.5	砂粒、黒色粒子、 ϕ 1~2mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。自然釉がかかる。青灰色。	体部は直線的に開く。ロクロ整形。ロクロ目は弱い。底部ヘラ切り後ナデている。雑で粘土のみ出しが見られる。	P13

245号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	$\frac{1}{2}$ 残存	1	10.6 (3.7) ●	細かい砂粒を少量含む。胎土緻密。焼成良。橙色。	内湾ぎみに立ち上り、口縁で屈曲し、外反する。丸底。内面、口縁部は横位のナデ、外面ヘラケズリ。	フク土

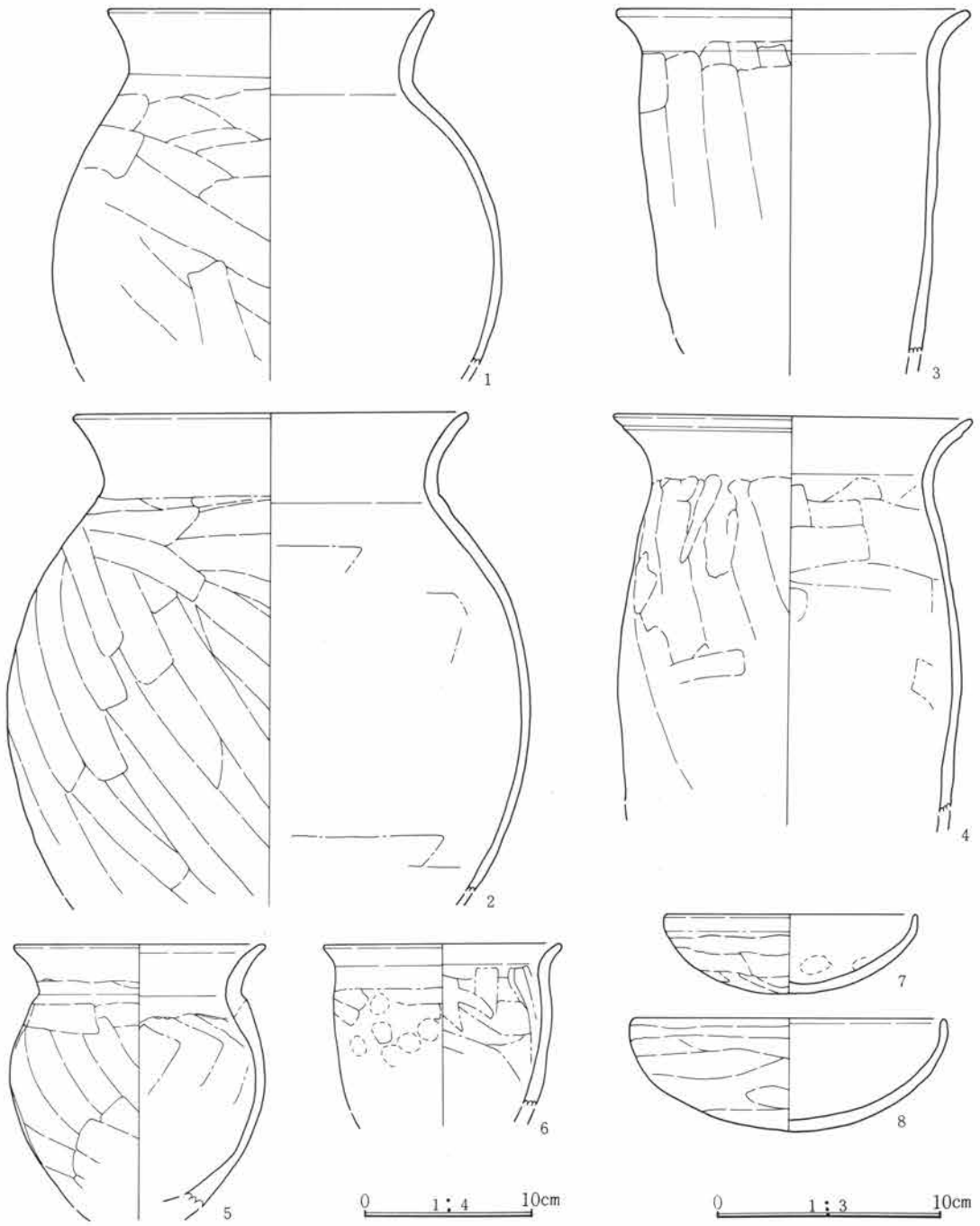
245号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	2	8.0	5.2	4.1	350	粗粒安山岩	端部角、側縁部敲打痕。全面磨面。	1 写図48

第3章 出土した遺物

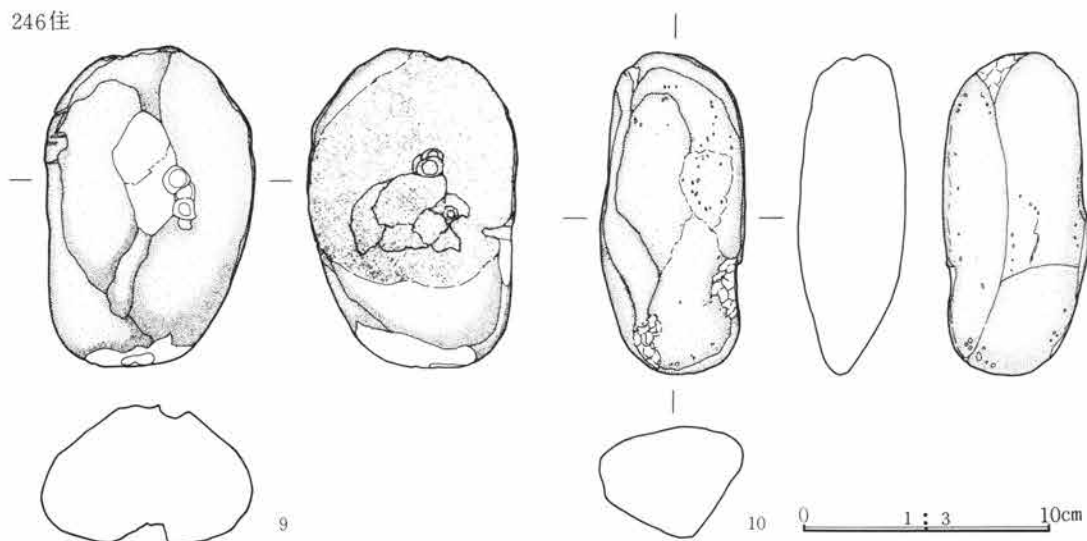
246号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕土師器	口縁～胴部	1	19.1 (20.7) —	砂粒、黒色粒子多く含む。胎土やや緻密。焼成やや良。若干ザラつく。橙色。	胴部は丸く脹らみ口縁で「く」の字状に外反する。口縁内外面は横位のナデ。内面はヘラによる調整。外面はヘラケズリによる整形。	P 2 写図15
甕土師器	口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 破片	2	(22.5) (28.2) —	砂粒、黒色粒子、雲母を含む胎土やや緻密。焼成やや良。胴部に黒斑。橙色。	胴部は丸く脹らみ口縁で外反する。口縁内外面は横位のナデ。胴部内面はヘラによる調整痕が残る。外面はヘラケズリによる整形。	P 5 写図15
甕土師器	口縁～胴部	3	20.6 (20.0) —	砂粒、黒色粒子、 ϕ 1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。表面気泡多い。焼成良。表面に粘土の付着多い。内外面炭化物付着。明赤褐色。	胴部は直線的に立ち上り、外反する口縁へと続く。口縁内外面は横位のナデ。胴部内面はヘラによる調整。外面はヘラケズリによる整形。	P 1・9・カマド・フク土 写図15
甕土師器	口縁～胴部破片	4	(20.9) (22.0) —	砂粒、黒色粒子、雲母、 ϕ 1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。橙色。	胴部わずかに脹らみながら外反する口縁に続く。口縁内外面横位のナデ。内面横位にヘラによる整形。外面縦位のヘラケズリによる整形。	P 9・カマド 写図15
甕土師器	底部欠損	5	14.8 (15.4) —	砂粒、雲母、 ϕ 1～3mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。胴部から口縁にかけて黒斑。にぶい橙色。	胴部は丸く脹らみ、口縁部は段を作り外反する。口縁内外面とも横位のナデ。胴部内面はヘラによる整形。外面は縦位のヘラケズリによる調整。	P 8・カマド 写図15
甕土師器	口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存	6	(14.0) (9.7) —	砂粒、 ϕ 1～5mmの小石を含む。胎土粗密。焼成やや良。明赤褐色。	胴部でわずかに脹らみ外反する口縁につづく。口縁内外面とも横位のナデ。内面はヘラによる整形。外面は指頭による圧痕が若干みられる。	カマド東ビット 写図15
杯土師器	完形	7	11.0 3.5 ●	細かい砂粒、黒色粒子を含む。胎土緻密。焼成良。橙色。	内湾しながら立ち上り、口縁で直立する。丸底。口縁は横位のナデ。底部はヘラケズリ内面に指頭圧痕が残る。	P 6 写図15
杯土師器	$\frac{1}{2}$ 残存	8	13.8 4.9 ●	細かい砂粒を少量含む。胎土粗密。焼成あまり良くなくザラつく。橙色。	内湾しながら立ち上り、口縁で若干内傾する。丸底。口縁は横位のナデ。内面に指頭による圧痕が見られる。外面はヘラケズリ。	P 7・カマド 写図15

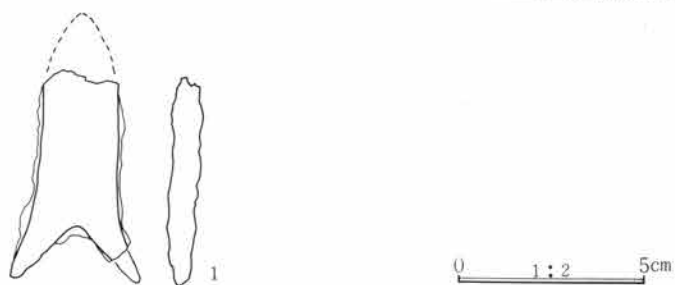


第91図 246号住居址出土遺物

246住



247住



第92図 246号、247号住居址出土遺物

246号住居址遺物観察表

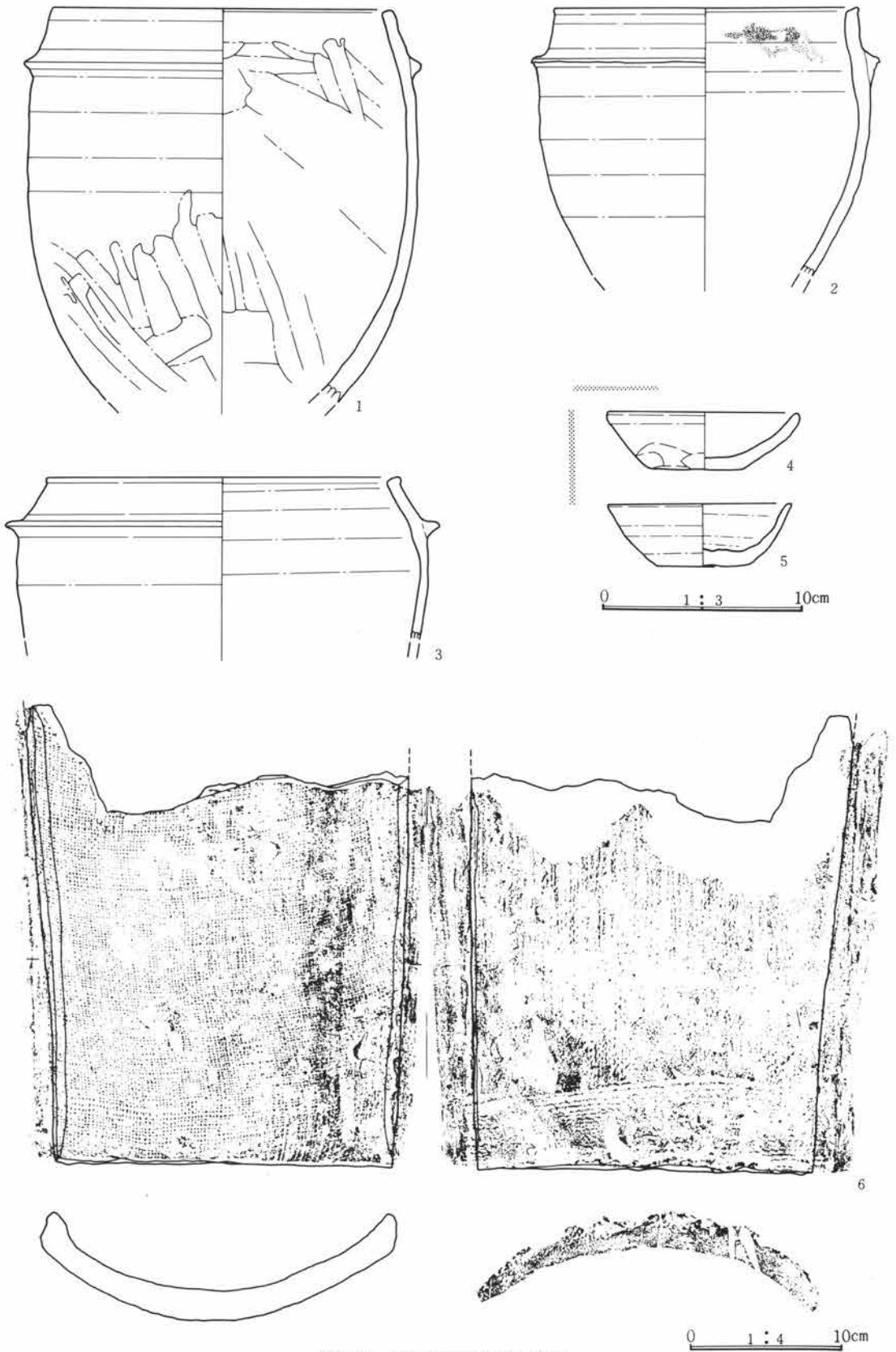
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
凹石	9	12.4	8.2	4.7	290	軽石(二ツ岳)	両面に凹み、ドット部磨面。トーン部炭化。	S 1 写図48
敲石	10	12.6	5.7	4.3	440	粗粒安山岩	両端敲打痕。表面磨き。	S 2 写図48

247号住居址遺物観察表

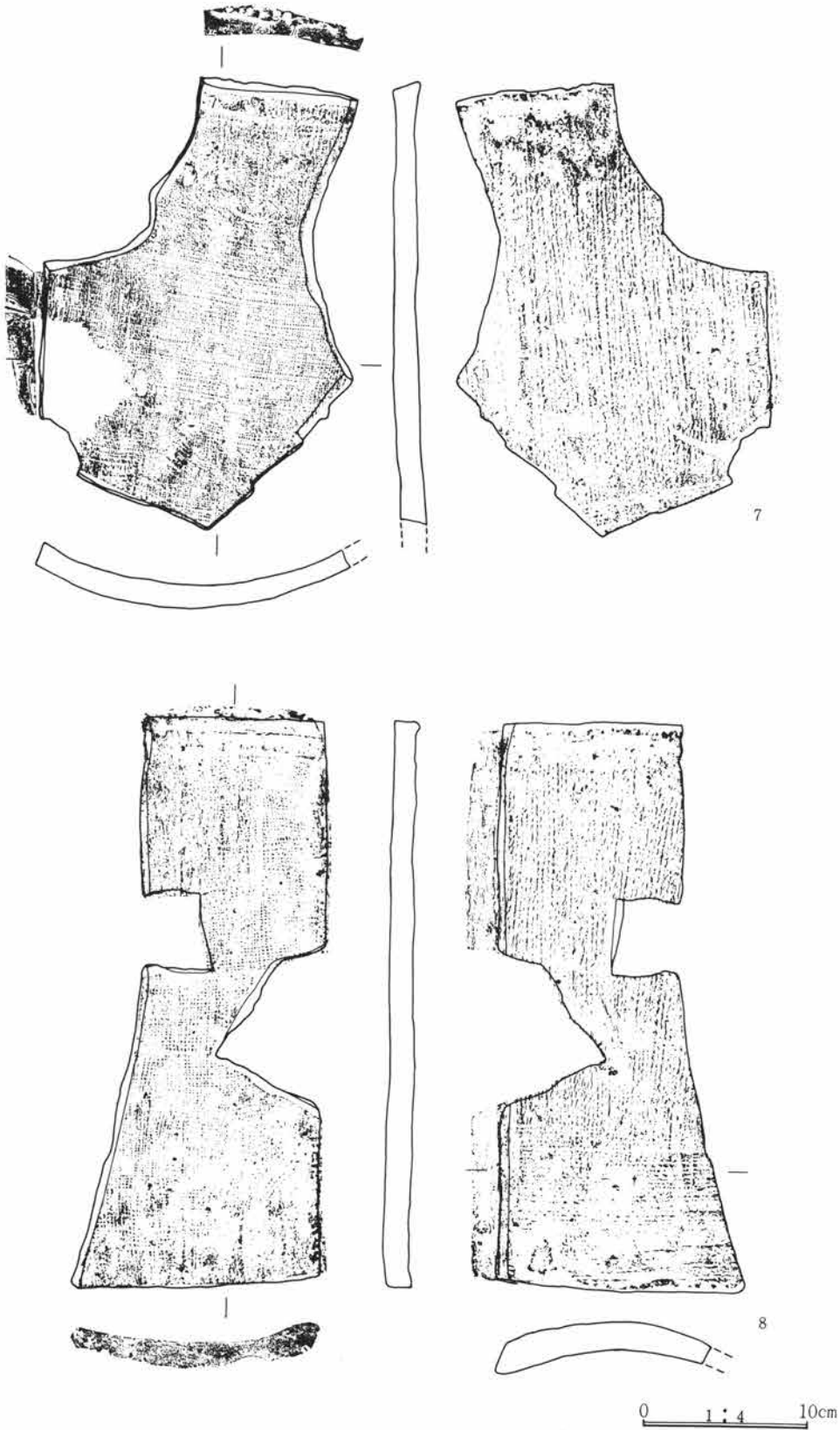
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
鉄 鏃	1	5.5	3.5	0.7	3.7	鉄	左右対象形。錆化が激しく先端部欠損。	

248号住居址遺物観察表

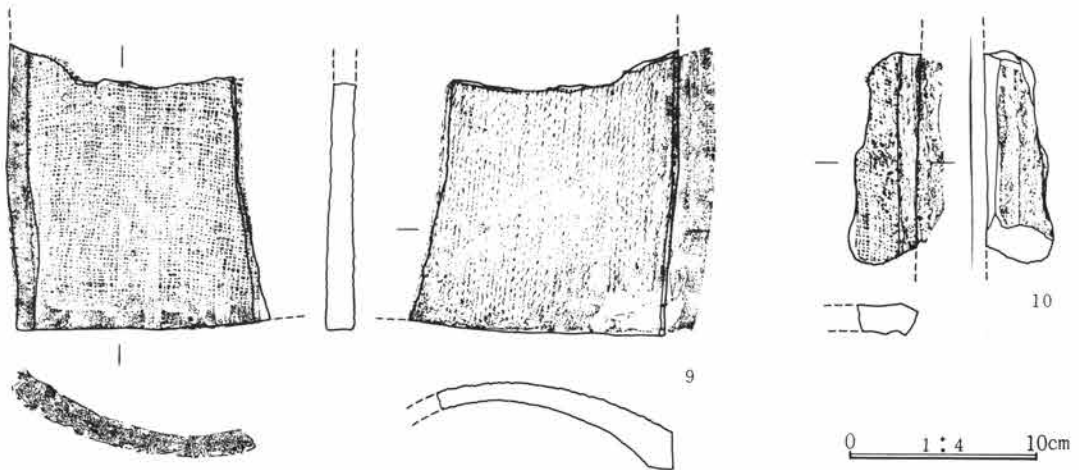
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁～胴部残存	1	(22.1) (25.6) —	砂粒、 $\phi 1\sim 8$ mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。還元焰焼成。外面にスス付着灰白色。	鏝下に脹らみを持ち、口縁は内傾する。鏝は断面三角形で貼り付け。ロクロ整形の後内面と外面にヘラによる整形が施される。	P3・7・8・10
羽釜	口縁～胴部残存	2	(20.0) (17.4) —	砂粒、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。酸化焰焼成。口縁内面にススがタール状に付着。明赤褐色。	鏝下に脹らみを持ち、口縁は内傾する。鏝は断面三角形で上面が水平に近くなる。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。胴部内面は器表が荒れている	P15・18・21・22
羽釜	口縁～胴部	3	23.4 (10.4) —	細かい砂粒を少量含む。胎土緻密。焼成良。酸化焰焼成。灰黄褐色。	鏝下に脹らみを持ち、口縁は内傾する。鏝は薄く、上面は水平になる。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。	P10・26・フク土
杯土師器	完形	4	9.5 2.7 4.5	砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良。内面にススが多く付着する。にぶい橙色。	体部は直線的に開き口縁になる。内外面とも横位のナデ整形で若干ゆがみを持つ。底部はヘラ切り。	P11 写図15
杯土師器	口縁一部欠損	5	9.1 3.1 4.6	砂粒、雲母、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。橙色。	体部は直線的に開き口縁になる。ロクロ整形でロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り。	P2 写図15
平瓦	先端部欠損	6	(29.9) 22.0 1.9	砂粒、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。内外面スス付着。二次焼成を受けている。にぶい黄橙色。	上面は布目を残している。下面は縄による叩きを方向を変えて行なう。一枚作り。側面はていねいに面取りする。	P20・24・25
平瓦	破片	7	26.8 19.0 1.5	砂粒、 $\phi 1\sim 10$ mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。内外面にスス付着。灰黄色。	上面は布目を残している。下面は縄による叩きを施す。一枚作り。	P23
平瓦	破片	8	34.4 15.1 1.8	砂粒、 $\phi 1\sim 10$ mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。内外面にスス付着。黄灰色。	上面は布目を残している。下面は縄による叩きを方向を変えて行なう。一枚作り。側面はていねいに面取りする。	P17・フク土
平瓦	破片	9	(14.9) (14.1) 2.0	砂粒、 $\phi 1\sim 10$ mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。内外面にスス付着。灰白色。	上面は布目を残している。下面は縄による叩きを施す。一枚作り。側面はていねいに面取りする。	P12
平瓦	破片	10	(11.2) (3.7) (1.6)	砂粒、 $\phi 1\sim 10$ mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。内外面にスス付着。灰色。	上面は布目を残している。下面は縄による叩きを施す。一枚作り。側面はていねいに面取りする。	P17



第93図 248号住居址出土遺物



第94図 248号住居址出土遺物



第95図 248号住居址出土遺物

250号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁部破片	1	(20.4) (11.0) —	砂粒、 ϕ 1~5 mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。酸化焰焼成。明赤褐色。	胴部は若干脹らみながら外反する口縁に続く。鏝は上面が上方に反る。貼り付け痕が残る。口縁内外面は横ナデ、外面は縦位のヘラケズリ。口縁内面に指頭による圧痕。	P 1・フク土
椀	口縁の一部欠損	2	15.2 7.0 9.7	砂粒を少量含む。胎土緻密。焼成良。還元焰焼成。内面にスス付着。にぶい橙色。	体部は内湾ぎみに立ち上る。高台は高く外反する。ロクロ整形でロクロ目は弱い。底部は高台貼り付け後良くナデている。	P 14 写図15
椀	口縁の一部欠損	3	11.6 4.5 7.0	砂粒、黒色粒子を多く含む。胎土緻密。焼成良。還元焰焼成。淡黄色。	体部は内湾して立ち上り、口縁で外反する。ロクロ整形でロクロ目は弱い。焼成時のゆがみが底部内面にある。底部は高台貼り付け後ていねいにナデる。	P 8 写図15
椀	底部のみ残存	4	— (2.3) 7.8	砂粒、 ϕ 1~5 mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良。酸化焰焼成。橙色。	ロクロ整形。底部は高台貼り付け後ていねいにナデる。内面器表の剥落が目立つ。	P 11
椀 緑釉	底部のみ残存	5	— (1.3) 7.4	胎土は緻密で焼成良。釉は濃い緑色を呈する。	ロクロ整形。底部は高台貼り付け後ていねいに整形する。高台は直立ぎみで、わずかに外傾する。	P 2

第2節 竪穴住居址出土遺物

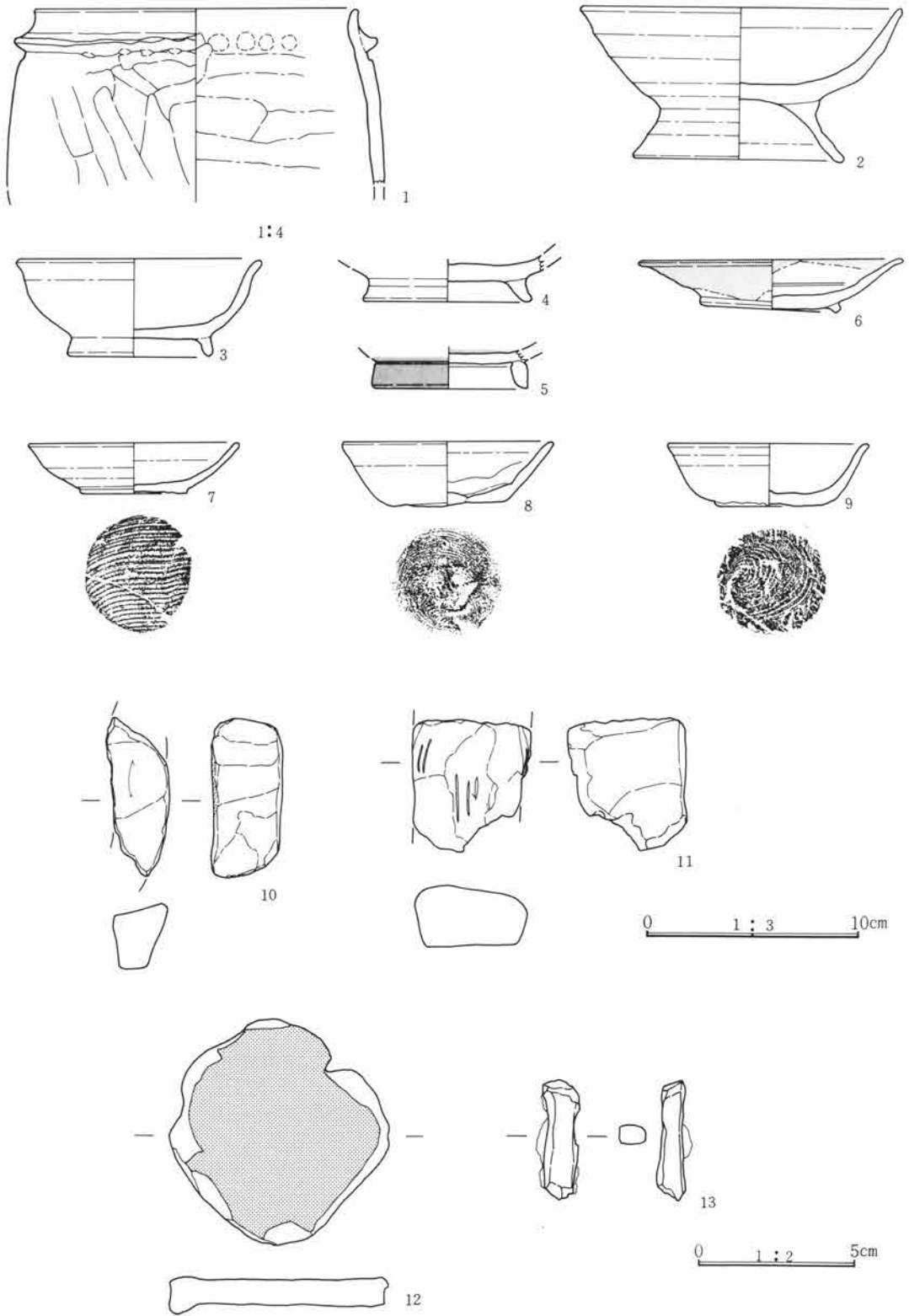
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
皿 灰釉陶器	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠損	6	12.5 2.4 6.5	細かい砂粒を極少量含む。胎土緻密。焼成良。釉は潰け掛け。灰白色。	体部から直線的に開き、口縁で外反する。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。底部は高台貼り付け後でいねいに磨く。	P 7 写図16
杯	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠損	7	(9.9) 2.4 5.0	砂粒、黒色粒子を含む。胎土やや緻密。焼成良。酸化焰焼成。にぶい橙色。	体部から内湾ぎみに立ち上るロクロ整形でロクロ目は弱い。底部は静止糸切り。	P 12
杯	完形	8	10.0 3.0 5.0	砂粒、 $\phi 1 \sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。酸化焰焼成。にぶい黄橙色。	体部から直線的に開く。ロクロ整形、ロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り。底部に整形時のゆがみが残る。	フク土 写図16
杯	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠損	9	9.5 3.9 5.1	砂粒、 $\phi 1 \sim 5$ mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良くない。酸化焰焼成。内一黒褐、外一にぶい橙色。	体部から直線的に開き、口縁で外反する。ロクロ整形、ロクロ目弱い。底部右回転糸切り。	P 10 写図16

250号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	10	7.5	2.7	3.3	78	砥沢石	表、側面研ぎ面。	フク土 写図47
砥石	11	6.2	5.5	2.9	119	砥沢石	四面研ぎ面。両端欠損。	P 5 写図47
転用硯	12	7.0	7.1	7.2	54.6	土器	杯底部を利用している。トーン部磨り面。	フク土
釘	13	3.8	0.8	0.6	7.5	鉄	錆化が激しい。両端欠損。断面四角形。	仮取上

251号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁～胴部	1	(20.5) (18.1) —	砂粒、 $\phi 1 \sim 3$ mmの小石、石英を含む。胎土やや緻密。焼成良。酸化焰焼成。暗赤褐色。	胴部はほとんど直線的に立ち上り、口縁で若干内傾する。罎は断面三角形で、若干上方に反る。内面は横位のナデ。外面はヘラケズリが施される	P 1・3
杯	$\frac{1}{2}$ 残存	2	(10.0) 1.4 7.2	細かい砂粒を含む。胎土粗密。焼成良くない。にぶい橙色。	体部は直線的に開く。ロクロ整形、ロクロ目は弱い。底部右回転糸切り。	フク土

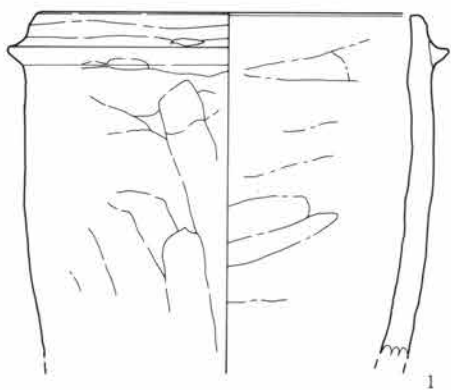


第96図 250号住居址出土遺物

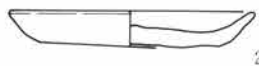
253号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考(出土位置)
甕 土師器	口縁～胴 部欠	1	(25.8) (18.5) —	砂粒、雲母、 ϕ 1～3mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良。褐色。	胴上部で脹らみ最大径を持ち外反する口縁に続く。口縁と胴部の間に輪積痕を残す。口縁内外に横位のナデ、胴部に縦位のヘラケズリを施す。	P7・6・4・14・19・カマドフク土・掘方フク土
甕 土師器	口縁～胴 部欠	2	30.3 (21.8) —	砂粒、雲母、片岩多く含む。胎土やや粗密。焼成良。明赤褐色。	胴上部で脹らみ最大径を持ち外反する口縁に続く。口縁と胴部の間に輪積痕を残す。口縁内外に横位のナデ、胴部に縦位のヘラケズリを施す。胴部内面は指頭とみられる横位の整形痕を残す。	P8・20・14・カマドフク土・フク土
羽 釜	口縁～胴 部破片	3	(29.0) (13.7) —	砂粒、雲母、 ϕ 1～2mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。酸化焰焼成。明赤褐色。	胴部は内湾し、内傾する口縁に続く。口縁内外面は横位のナデ。胴部は縦位のヘラケズリ。内面はヘラによる整形。鏝は断面三角形で貼り付け後ていねいにナデる。	P9
杯	欠残存	4	14.0 4.6 7.2	砂粒、 ϕ 1～2mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。酸化焰焼成。にぶい橙色。	体部は内湾ぎみに立ち上り、口縁で大きく外反する。ロクロ整形でロクロ目大きい。底部は回転糸切りの後ヘラミガキを施す。	P22・23
杯 須恵器	口縁一部 欠損	5	13.8 3.8 6.7	砂粒、 ϕ 1～4mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成やや良い。灰黄色。	体部から直線的に開き、口縁でわずかに外反する。ロクロ整形でロクロ目は強い。底部右回転糸切り。底面成形のひずみがある。	P27・28・フク土・掘方フク土 写図16
杯 須恵器	口縁欠損	6	13.9 4.2 6.2	砂粒、 ϕ 1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。褐色。	体部から直線的に開く。ロクロ整形でロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り。底面に切り離し時の粘土瘤が残る。	P13・27 写図16
皿 土師質	口縁一部 欠損	7	8.0 1.7 5.5	砂粒、 ϕ 1～2mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成よくなく磨減多い。淡黄色。	体部から直線的に開く。ロクロ整形でロクロ目は弱い。底部は回転糸切り。	P15 写図16
皿 土師質	欠残存	8	(9.2) 2.2 6.0	砂粒、黒色粒子、 ϕ 1～3mmの小石。胎土やや緻密。焼成良くなくザラつく。浅黄橙色。	体部から直線的に開く。ロクロ整形でロクロ目は弱い。底部切り離し磨減多く不明。	P11
? 緑釉	破片	9	— (2.1) —	胎土緻密。焼成良。釉は濃い緑。表面に若干の白色の点が残る。	細片のため器種等不明。	フク土

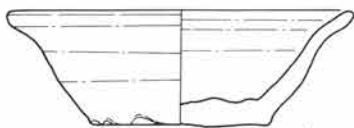
251住



1



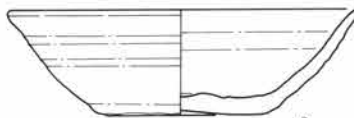
2



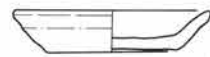
4



5



6



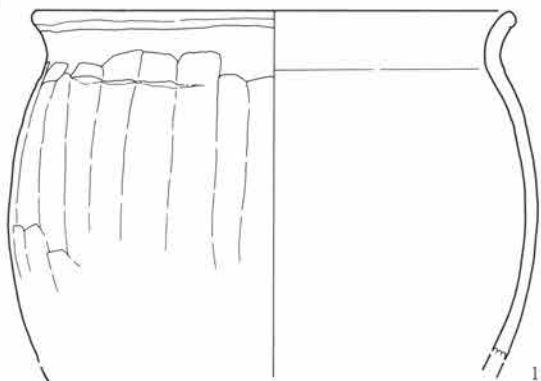
7



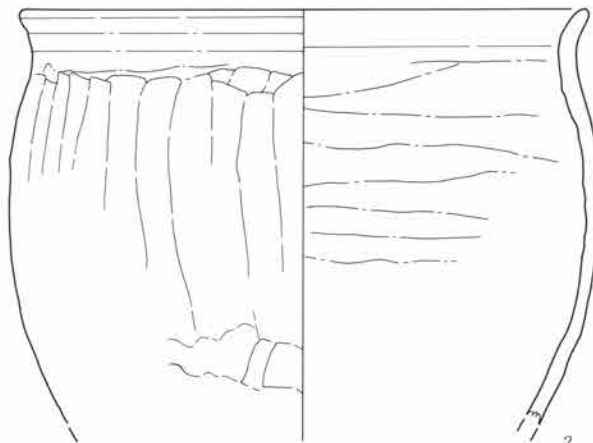
8

0 1 : 3 10cm

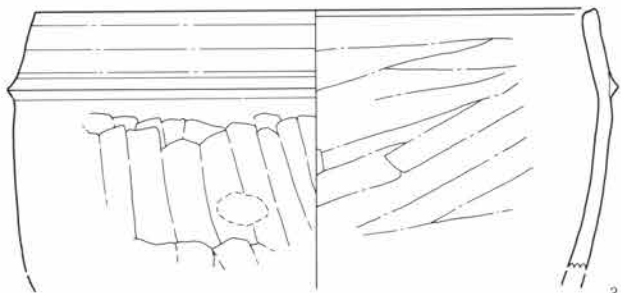
253住



1

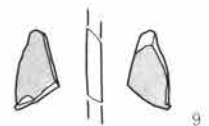


2



3

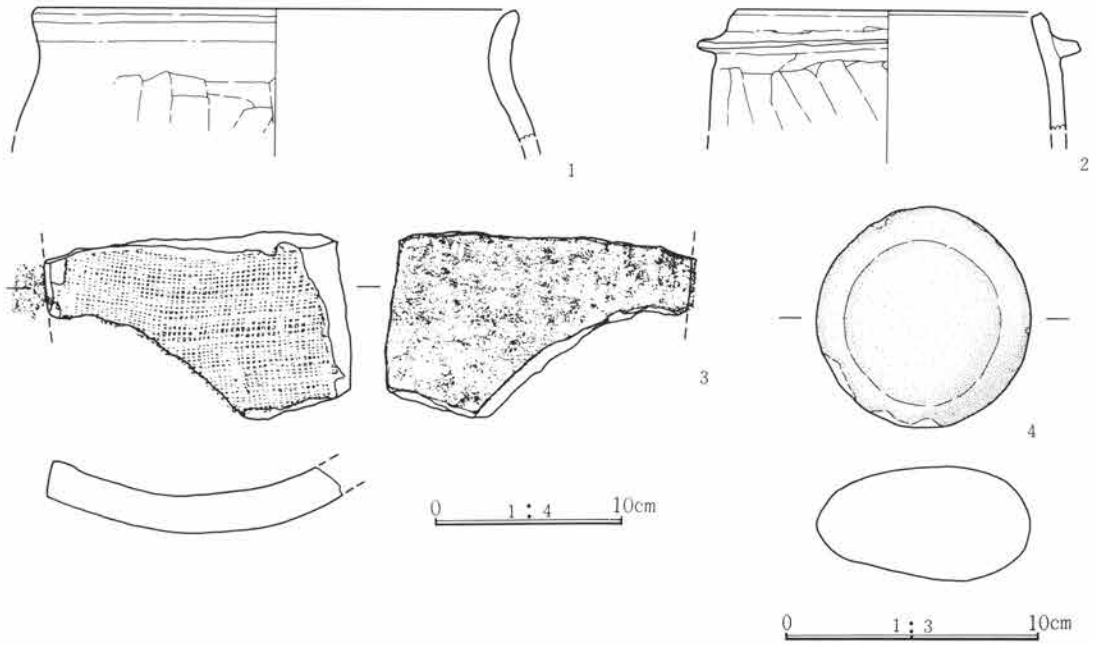
0 1 : 4 10cm



9

0 1 : 2 5cm

第97図 251号、253号住居址出土遺物



第98図 254号住居址出土遺物

254号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甗 土師器	口縁部破片	1	(24.8) — —	砂粒、石英、雲母を多く含む胎土やや緻密。焼成良。橙色。	肩部は脹り出す。口縁はわずかに外反する。内面はていねいなナデ。口縁外面は横位のナデ整形。肩部以下は縦位のヘラケズリ。	P 4
羽 釜	口縁部破片	2	16.3 — —	砂粒、雲母、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。橙色。	胴部は直線的に立ち上り、口縁で若干内傾する。鐔は断面四角形に近い。貼り付け後ナデを施すが、凹凸多い。内面口縁外面は横位のミガキ。胴部は縦位のヘラケズリ。	P 3
平 瓦	破片	3	(9.7) (15.8) 2.1	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。外面スス附着。にぶい橙色。	上面は布目を残す。下面はヘラケズリ整形。側面はていねいに面取りをする。	P 2

254号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磨石	4	8.7	8.6	4.5	405	粗粒安山岩	側縁部敲打痕。表裏面磨き。	1 写図48

第3章 出土した遺物

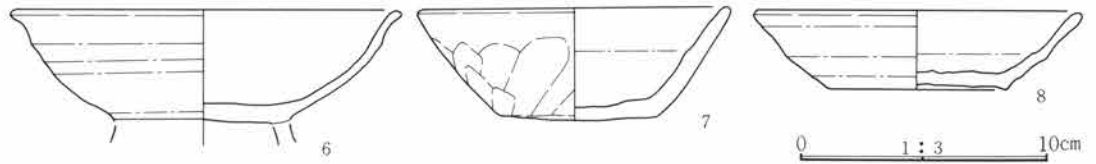
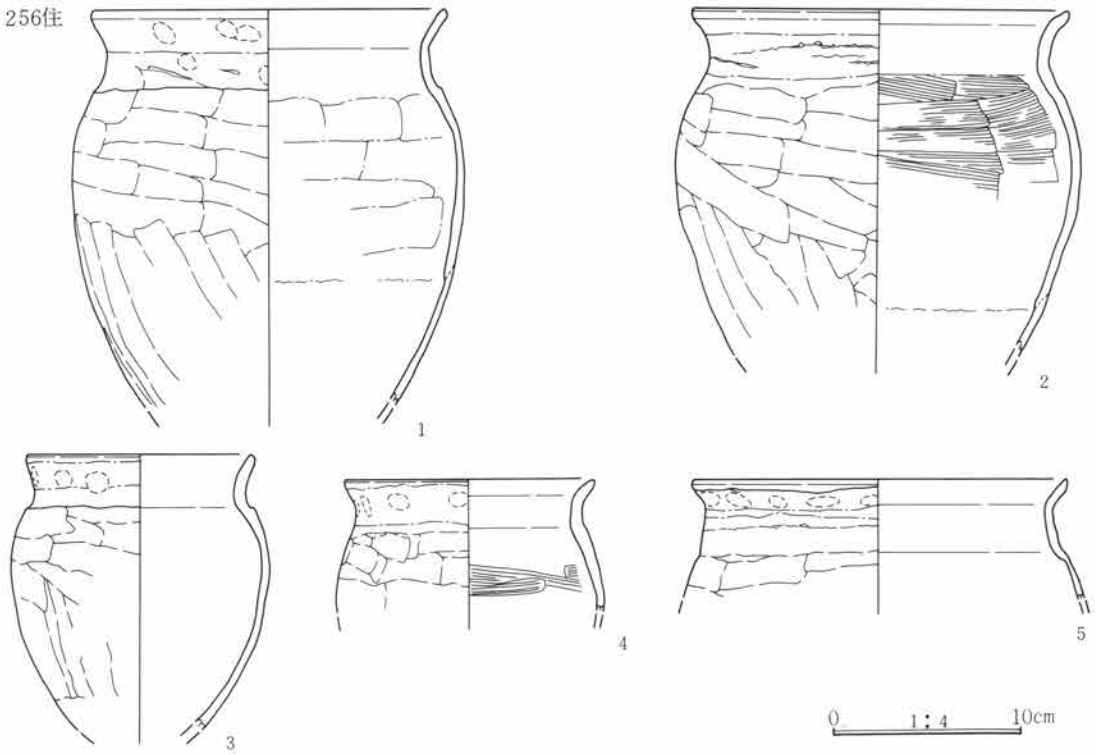
256号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考(出土位置)
甕 土師器	口縁～胴部 残	1	(18.6) (21.0) —	細かい砂粒、雲母を含む。胎土はやや緻密。焼成あまり良くない。ザラつく。にぶい橙色	胴部は丸く内湾し肩が脹る。口縁は「コ」の字形。口縁内外面は横位のナデ。内面はヘラによるナデ整形、外面はヘラケズリ。口縁に指頭による圧痕が認められる。	P19・17・16・37・20・39・フク土
甕 土師器	口縁～胴部	2	20.0 (18.1) —	砂粒、黒色粒を含む。胎土はやや粗密。焼成あまり良くない。内面に炭化物付着する。にぶい赤褐色。	胴部は内湾し、肩が脹る。口縁はゆるく「コ」の字形を呈する。輪積痕が残る。口縁内外面は横位のナデ。胴部内面にハケ目状の整形痕を残す。外面はヘラケズリ整形。	P26・30・23・31・29 写図16
甕 土師器	口縁～胴部	3	12.0 (15.0) —	砂粒、雲母、φ1～2mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。暗赤褐色。	胴部は内湾し、肩が脹る。口縁は「コ」の字形を呈する。口縁内外面は横位のナデ。胴部外面はヘラケズリ整形。	P36・フク土
甕 土師器	口縁～胴部 残存	4	(13.4) (6.9) —	砂粒、φ1～2mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい赤褐色。	胴部は内湾して立ち上り、外反する口縁に続く。肩部に若干稜を残す。口縁部内外面に横位のナデ。胴部外面はヘラケズリ。内面は、横位のハケ目状の整形。	P7・9・37
甕 土師器	口縁～胴部	5	19.8 (6.0) —	砂粒、雲母を含む。胎土緻密。焼成良。淡橙色。	口縁部は「コ」の字状を呈する。内面は横位のナデによる整形。外面は横位方向にヘラによる整形。口縁上部に指頭による圧痕が認められる。	P7・8・12・14 フク土
椀 須恵器	高台部欠損	6	15.1 (4.5) —	砂粒、黒色粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。黄灰色。	体部は内湾ぎみに立ち上り、口縁で外反する。ロクロ整形でロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り、高台貼り付け後ナデを施す。	P42・フク土 写図16
杯 土師器	残存	7	(12.5) 4.4 6.3	砂粒、黒色粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい橙色	体部から直線的に開く。内面は横位のナデ、外面はヘラによる整形を行う。底面はヘラケズリ。	P18・40 写図16
杯 須恵器	残存	8	(13.0) 3.1 7.1	細かい砂粒を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。灰色。	体部から直線的に開き、口縁で若干外反する。ロクロ整形で、ロクロ目は強い。底部は右回転糸切り。	P33

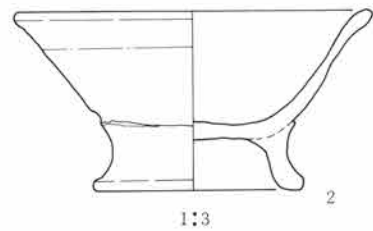
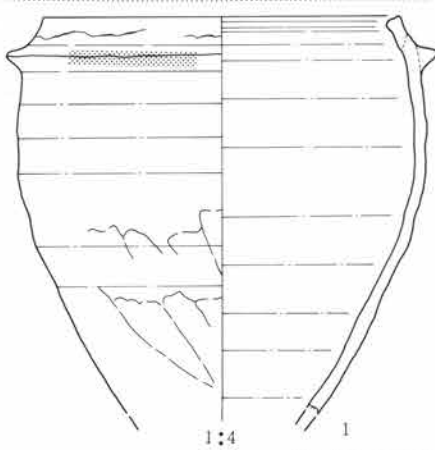
256号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
鉄 滓	9	4.5	0.3	0.4	14.1	鉄	錆化が激しくヒビが入る。板状を呈す。	P25

256住



257住



第99図 256号、257号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

257号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁〜胴部 $\frac{1}{2}$	1	(19.0) (20.9) —	砂粒を含む。焼成良好。硬質 外面スス付着。にぶい黄橙色	内外面横ナデ。	P17・18
椀	$\frac{1}{4}$ 欠	2	14.2 7.0 8.2	砂粒を含む。焼成良好。内面 及び割れ口〜外面の一部に炭 化物付着。灰白色。	高台付。高台部大きく、口唇 部は外傾する。内外面回転横 ナデ。高台貼付。	P21 写真16

258号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀 須恵器	$\frac{1}{2}$ 残	1	(12.0) 4.1 5.4	砂粒を多く含む。軟質。浅黄 橙色。	高台付。体部は直線的にひら く。外面は、体部〜口縁部回 転横ナデ、底部回転糸切り後 高台貼付。	P1

259号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	$\frac{1}{2}$ 残	1	(12.4) 3.0 ●	小砂粒含有。焼成良。にぶい 橙色。	丸底、口縁部僅かに内反ぎみ 体部との境に緩やかな稜。外面 口縁部横ナデ、体部〜底部 ヘラケズリ。内面ナデ。	フク土
杯 土師器	$\frac{1}{2}$ 残	2	(11.6) 3.7 ●	小砂粒含有。焼成良好。橙色	丸底、口縁部は直立し、体部 との境に緩やかな稜。外面口 縁部横ナデ、体部〜底部ヘラ ケズリ。内面ナデ。	フク土
杯 土師器	$\frac{1}{2}$ 残	3	(10.8) 2.75 ●	砂粒含有。焼成良好。橙色。	丸底、口縁部は内傾し、体部 との境に稜。外面口縁部横ナ デ、体部〜底部ヘラケズリ。 内面ナデ。	フク土

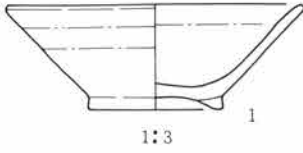
259号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
凹石	4	21.0	16.4	7.3	1440	軽石(二ツ岳)	表面凹み。裏面石皿ふうの磨かれている。	2 写真40
磨石	5	22.1	10.1	10.5	2630	粗粒安山岩	トーン部磨面。	1 写真40
有孔円盤	6	4.1	3.5	1.2	20.8	滑石	表裏面研磨するが自然面残る。片面から穿孔。	フク土 写真39
白玉	7	1.4	1.4	1.0	2.3	滑石	側面研磨。管状のものを切断。断面未調整。	フク土 写真39

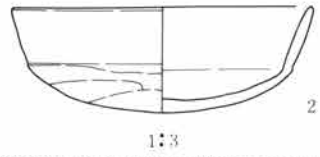
261号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯	$\frac{1}{2}$ 残	1	(11.8) 4.1 ●	砂粒を僅かに含む。焼成普通 外面底部に黒斑。橙、褐灰色	口縁部横ナデ。底部〜体部ヘ ラケズリ。体部下半〜底部ナ デ。	P1・2・3

258住



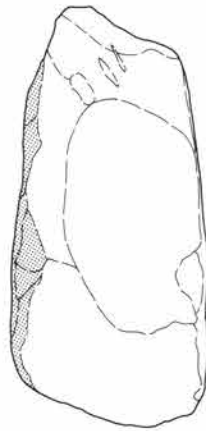
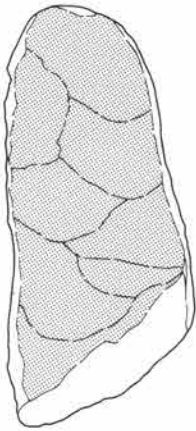
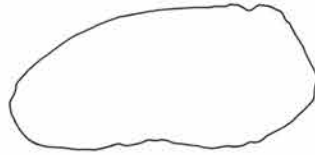
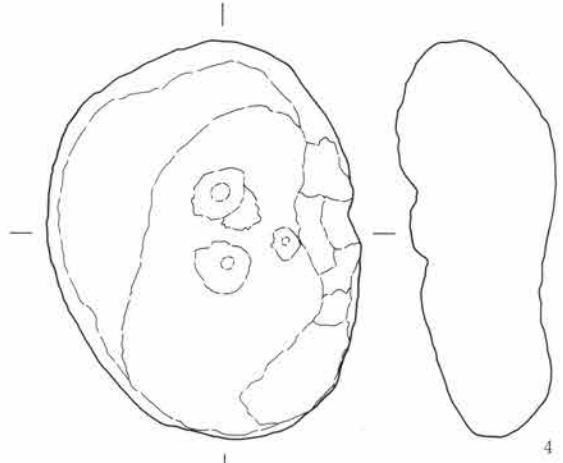
261住



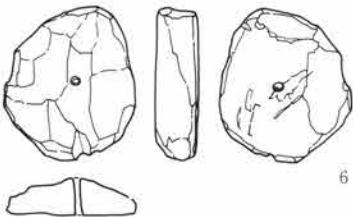
259住



0 1:3 10cm



0 1:4 10cm



0 1:2 5cm

第100図 258号、259号、261号住居址出土遺物

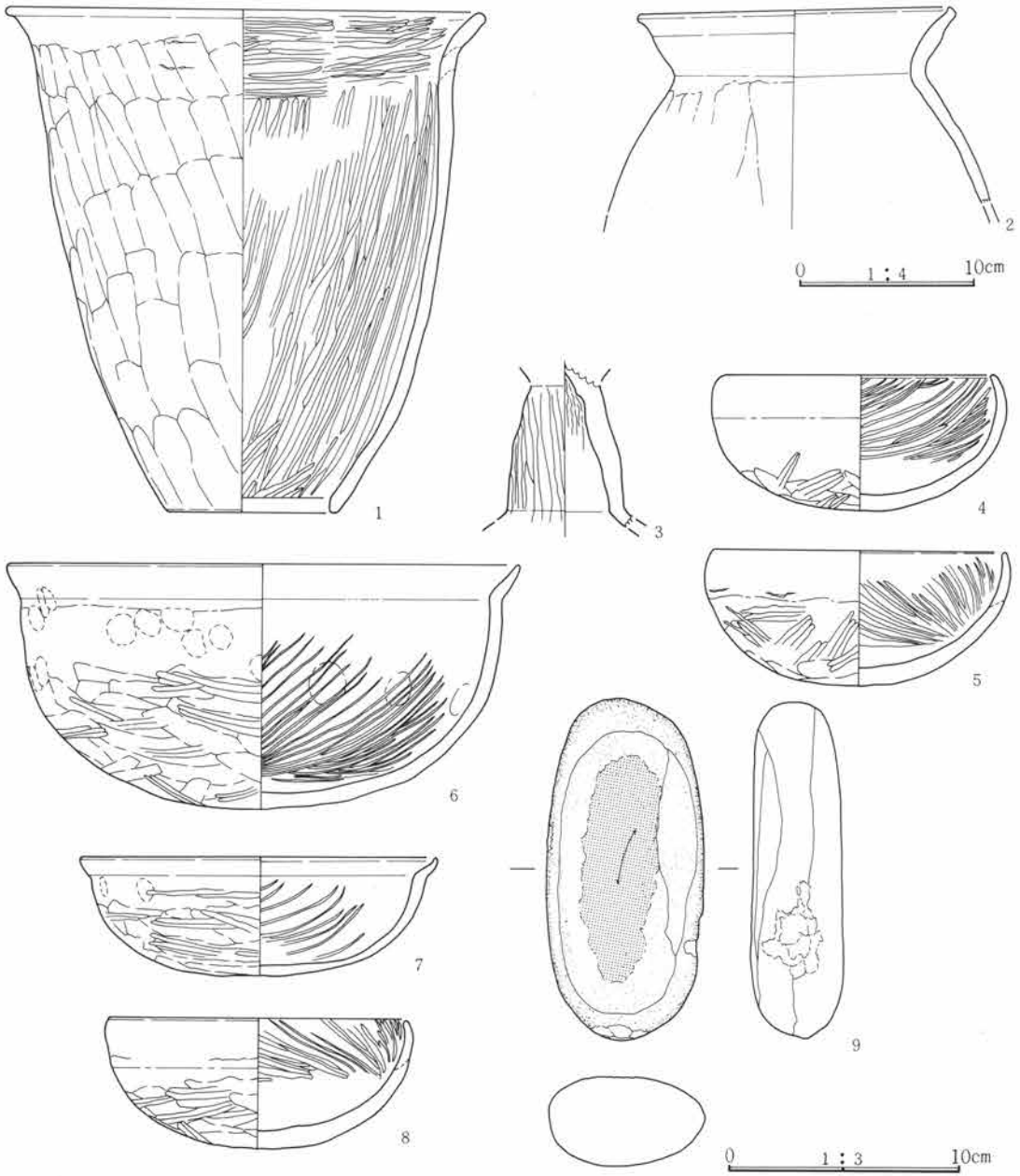
第3章 出土した遺物

3区1号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甌土師器	ほぼ完形	1	27.2 28.7 9.0	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。胴部に黒斑有。にぶい橙色。	胴部は内湾ぎみに立ち上り、口縁で外反する。口縁内面は横位のナデの後横位のミガキ 胴部内面は縦位のミガキ 胴部外面は縦位のヘラケズリ。	P13一括 写真16
甌土師器	口縁～胴部破片	2	18.2 (11.0) —	砂粒、φ1～3mmの小石を多く含む。胎土やや粗密。焼成良。にぶい橙色。	口縁は「く」の字状に屈曲する。口縁内外面は横位のナデ 胴部外面は、ハケ状の工具により縦位に整形される。	P8一括
高杯土師器	脚部破片	3	— (5.8) —	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。赤褐色。	脚部は中程が若干張らむ。外面は縦位のミガキ。内面に輪積の痕跡が残る。	P4
杯土師器	完形	4	11.8 5.7 ●	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。橙色。	体部は内湾し、口縁は内傾ぎみに立ち上る。丸底。内面は斜放射状にミガキが施される。口縁外面は横位のナデ。胴外面はヘラケズリ整形。	P24 写真16
杯土師器	口縁一部欠損	5	12.6 5.7 ●	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。橙色。	体部は内湾し、口縁は内傾ぎみに立ち上る。丸底。内面は斜放射状にミガキが施される 口縁外面は横位のナデ。胴外面はヘラミガキ整形。	P15一括 写真16
大形鉢土師器	1/4欠損	6	21.7 10.3 ●	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。内面黒色。橙色。	体部は内湾し丸底になる。口縁は屈曲する内斜口縁。口縁内外面横位のミガキ。内面斜放射状のミガキ。外面ヘラケズリ。指頭丘痕が認められる。	P7 写真16
杯土師器	1/2欠損	7	15.2 5.0 ●	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。橙色。	体部は内湾し丸底になる。口縁は屈曲する内傾口縁。口縁内外面横位のミガキ。内面斜放射状のミガキ。外面ヘラケズリの後ミガキを施す。	P2 写真16
杯土師器	口縁一部欠損	8	12.7 5.4 —	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。明褐色。	体部は内湾し丸底になる。口縁外面は横位のナデ、内面は斜放射状のミガキ。外面ヘラケズリの後ミガキを施す。	P6一括 写真16

3区1号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	9	14.3	6.8	3.8	649	粗粒安山岩	両端、側縁敲打痕。トーン部磨り面。	床直 写真41



第101図 3区1号住居址出土遺物

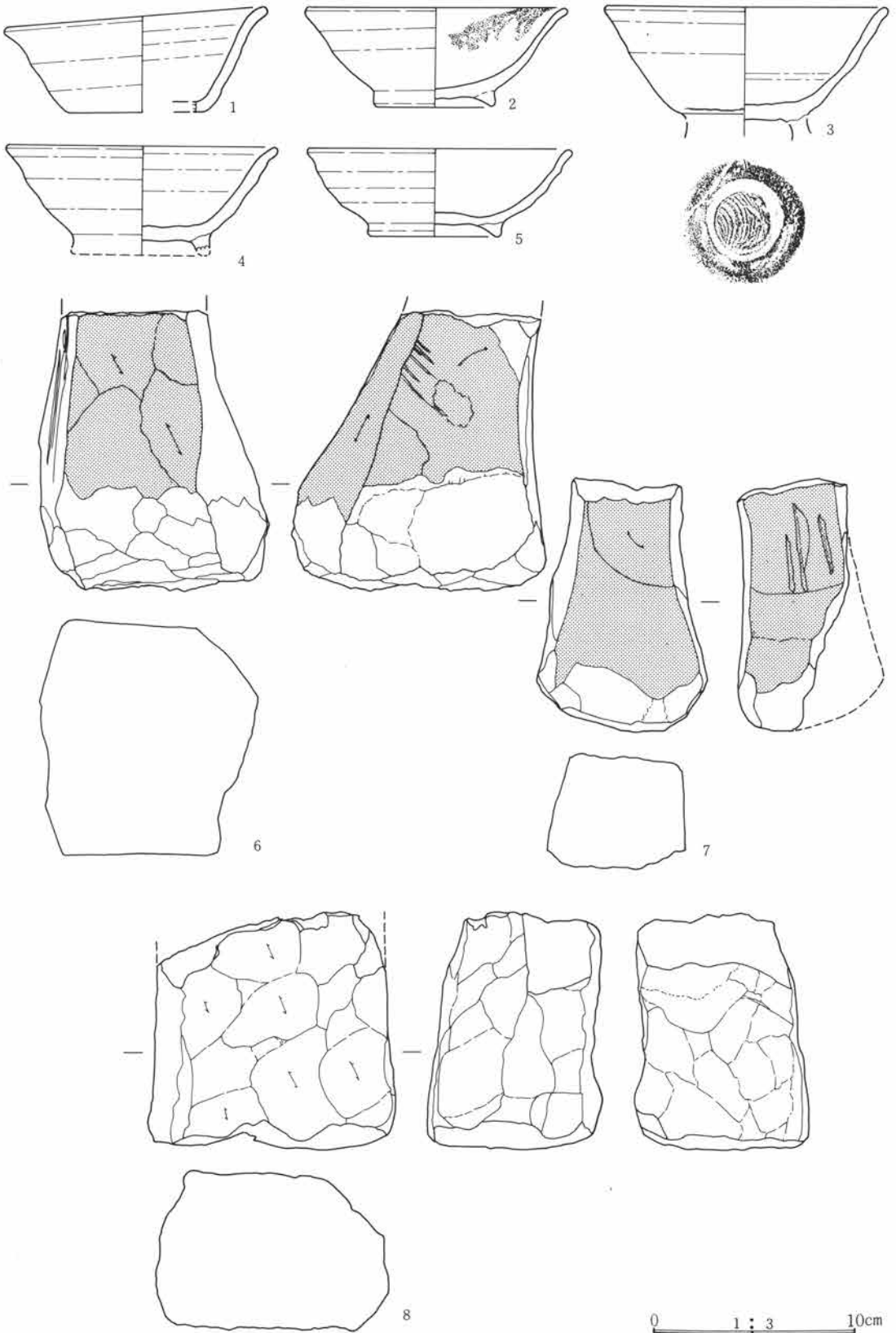
第3章 出土した遺物

3区2号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯	底部欠損	1	12.6 (4.6) (6.6)	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。酸化焰焼成。明赤褐色。	体部から直線的に開き、口縁で外反する。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。底部はヘラ切り。	P9・35・19一括カマド内
椀	3/4残	2	12.6 4.8 5.8	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。酸化焰焼成。黒斑有。明黄褐色。	体部から内湾ぎみに立ち上り口縁でわずかに外反する。ロクロ整形、ロクロ目弱い。底部右回転糸切り、高台貼り付け後ていねいにナデる。	P41 写図16
椀	口縁3/4高台欠損	3	13.7 (5.6) —	砂粒、φ1～2mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成やや悪い。還元焰焼成。灰黄色。	体部から直線的に立ち上る。ロクロ整形、ロクロ目弱い。底部右回転糸切り、高台貼り付け後ていねいにナデる。高台剥離後、底部を削り再使用している。	1住古いカマド内
椀	口縁3/4欠損	4	(13.2) 4.6 —	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。酸化焰焼成。黒斑有。褐灰、にぶい黄橙色。	体部から内湾ぎみに立ち上り口縁でわずかに外反する。ロクロ整形、ロクロ目弱い。底部高台貼り付け後、底部をていねいにナデる。高台は外側に反る。	P37・カマド内
椀	口縁一部欠損	5	12.7 4.2 6.1	細かい砂粒を多く含む。胎土やや緻密。焼成あまり良くない。黒褐色。	体部から内湾ぎみに立ち上り口縁でわずかに外反する。ロクロ整形、ロクロ目弱い。底部は右回転糸切り、高台貼り付け後、ていねいにナデる。高台は若干外側に開く。	1住古いカマド内 写図16

3区2号住居址遺物観察表

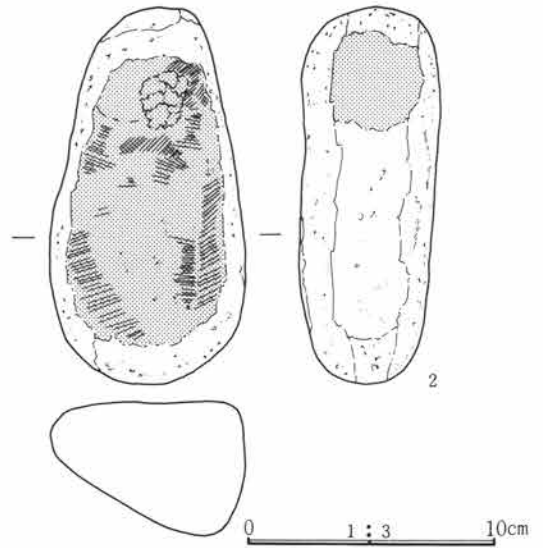
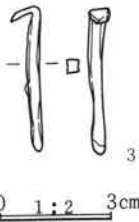
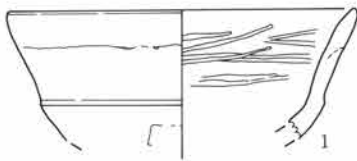
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	6	13.6	10.6	11.4	1830	粗粒安山岩	トーン部研ぎ面。細長い擦痕を持つ。	古カマド内写図41
砥石	7	12.3	6.8	5.3	390	粗粒安山岩	トーン部研ぎ面。細長い擦痕を持つ。	古カマド内写図41
支脚	8	11.5	11.3	7.8	680	軽石(二ツ岳)	断面四角形。上端にスス附着。	古カマド内写図41



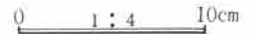
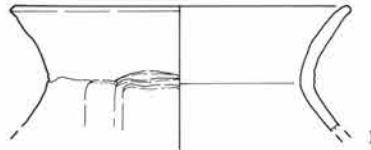
第102図 3区2号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

3-3住



3-4住



第103図 3区3号、4号住居址出土遺物

3区3号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	口縁部破片	1	(13.8) (5.1) —	砂粒、雲母、石英を含む。胎土やや緻密。焼成良。明褐色	体部は内湾し、口縁部下に稜を持つ。内面ヘラミガキ、口縁外面横位のナデ、体部ヘラケズリ。	フク土

3区3号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	2	14.8	7.7	5.3	840	粗粒安山岩	トーン部磨り面。細長い擦痕。両端敲打痕。	S 1 写図41
釘	3	4.4	0.6	0.4	1.7	鉄	先端部欠損。断面四角形。頭部は屈曲する。	ピットNo 2内

3区4号住居址遺物観察表

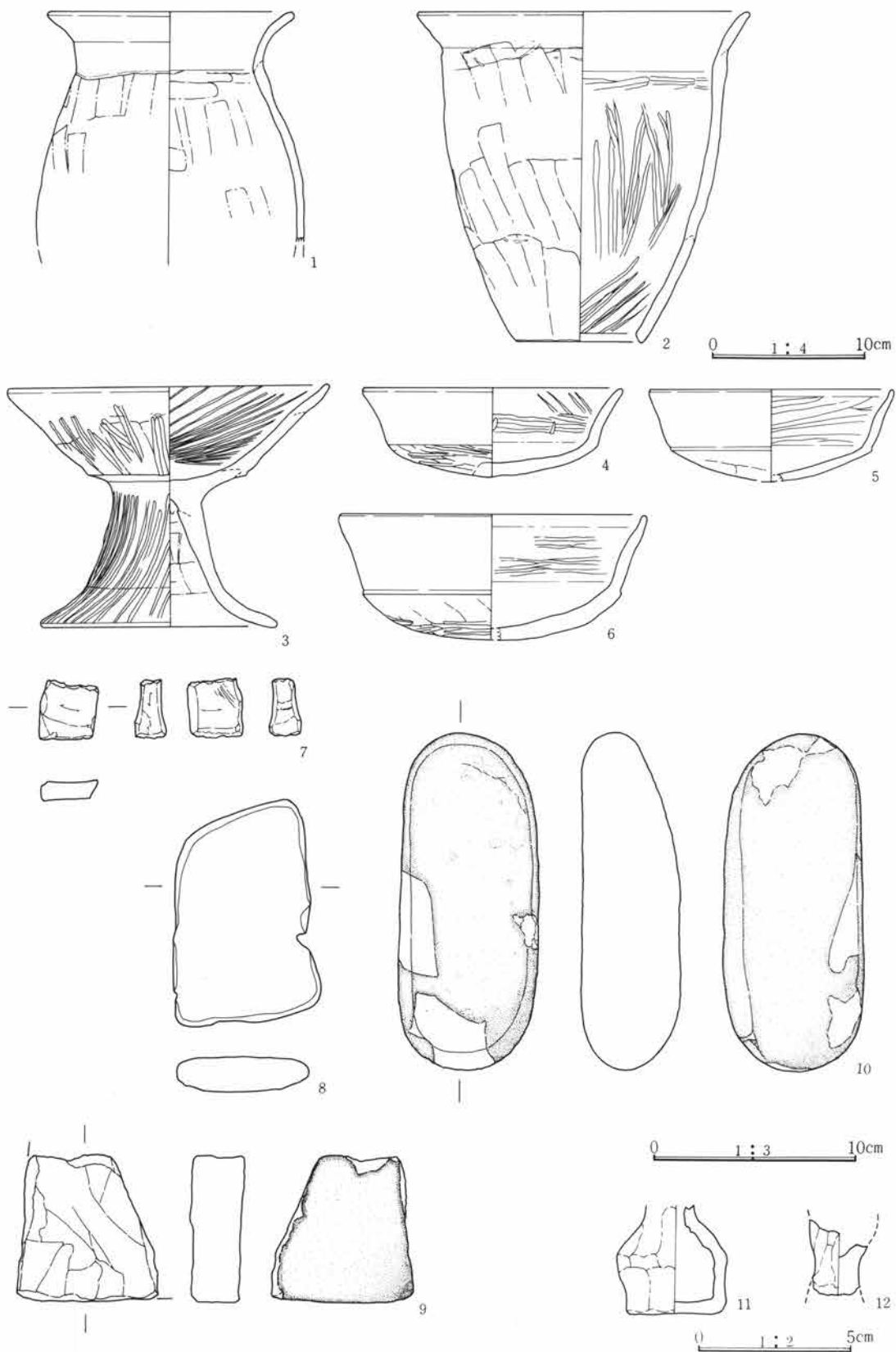
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕土師器	口縁部	1	17.7 (6.7) —	砂粒、φ1~3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。橙色。	口縁は大きく外反する。口縁内外面は、横位のナデ。胴部外面はヘラケズリ。	P 7

3区5号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕土師器	口縁〜胴部	1	15.7 (15.0) —	砂粒、 ϕ 1〜4 mmの小石を多く含む。胎土やや緻密。焼成良。表面に粘土、スス附着。におい橙色。	胴部はゆるやかに湾曲し、口縁は大きく外反する。口縁部と胴部の境界に段を持つ。口縁内外面横位のナデ。胴部内外面はハケによる調整。	P 235 写真17
甕土師器	胴部一部欠損	2	21.3 21.0 (8.2)	砂粒、 ϕ 1〜3 mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。内面にスス附着部有。橙色。	胴部はわずかに内湾し、口縁は大きく外反する。口縁内外面は横位のナデ。胴部外面はハケ整形の後ヘラケズリ。内面はミガキが施される。	P 144 写真17
高杯土師器	口縁、脚部一部欠損	3	15.4 11.5 11.3	砂粒、 ϕ 1〜5 mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。黒斑有。橙色。	杯部底面に稜を持つ。脚部は太めで下端で大きく開く。杯部内面は斜放射状のミガキ。外面は横位のミガキの後ナデる。脚部外面は縦位のミガキ内面はヘラ状の工具による整形痕が認められる。	P 17・19・20・242・128・237・238 写真17
杯土師器	㍻残存	4	(12.4) 4.3 ●	砂粒、 ϕ 1〜3 mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。橙色。	丸底で口縁下端に稜を持つ。口縁は外反して開く。口縁内外面横位のナデ、内面は斜放射状のミガキが加わる。底部外面はヘラケズリ。	P 140・166・167
杯土師器	㍻残存	5	(11.8) (4.4) ●	砂粒、わずかに雲母を含む。胎土はやや緻密。焼成良。橙色。	丸底で口縁下端に稜を持つ。口縁は外反して開く。口縁内外面横位のナデ、内面にミガキが入る。底部はヘラケズリ後ていねいにナデル。	カマド内
杯土師器	㍻残存	6	(14.8) (6.0) ●	砂粒、 ϕ 1〜3 mmの細かい石を含む。胎土ややしまり良。焼成良。橙色。	丸底で口縁下端に稜を持つ。口縁はゆるく外反して開く。口縁内外面は横位のナデ、内面にミガキが入る。底面はヘラケズリ整形。	P 232

3区5号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	7	2.6	2.7	0.8	17	砥沢石	四面研ぎ面。両端欠損。	フク土 写真47
砥石	8	11.1	6.6	1.7	152	粗粒安山岩	両面研ぎ面。	S 11 写真41
砥石	9	7.1	6.9	2.7	215	粗粒安山岩	両面研ぎ面。ドット部の方が目が粗い。	S 14 写真41
敲石	10	16.1	6.7	4.7	837	粗粒安山岩	両端、側縁に敲打痕。	S 2 写真41
手づくね	11	(1.6)	(3.5)	3.2	21.8	土製	壺形。指頭尻痕を残す。口縁部欠損。	P 225 写真46
手づくね	12	(2.4)	(2.5)	—	6.0	土製	高杯形。脚部残存。指頭を残す。	P 46 写真34



第104図 3区5号住居址出土遺物

3区6号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 (弥生)	底部	1	— (5.6) 4.8	砂粒、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。外面に黒斑。にぶい橙色。	外面はヘラミガキ。内面は指頭によるナデの後、ヘラによる整形。	P202
壺 (弥生)	肩部破片	2	— — —	砂粒を多く含む。胎土やや粗密。焼成良。灰黄褐色。	内外面条痕による整形。肩部に沈線を充填した三角文が施される。	P189・241・フク土 写図17

3区6号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	3	6.3	3.8	1.1	30	砂岩	両面研ぎ面。	2
土製円盤	4	3.1	3.3	0.8	10.5	土製	周縁を打ち欠き整形する。両面にハケ目。	フク土 写図34

3区7号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀	底部	1	5.7 5.4 1.3	細かい砂粒を含む。胎土緻密。焼成良。黄灰色。	ロクロ整形。体部と高台部を打ち欠いている。	土製円盤に転用 P3

3区7号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
礫器	2	10.0	2.5	1.5	68	蛇紋岩	側縁に敲打痕。表面磨面。	S1 写図41
礫器	3	4.5	2.2	0.9	17	緑色片岩	側縁に敲打痕。表面磨面。	S3 写図41

3区8号住居址遺物観察表

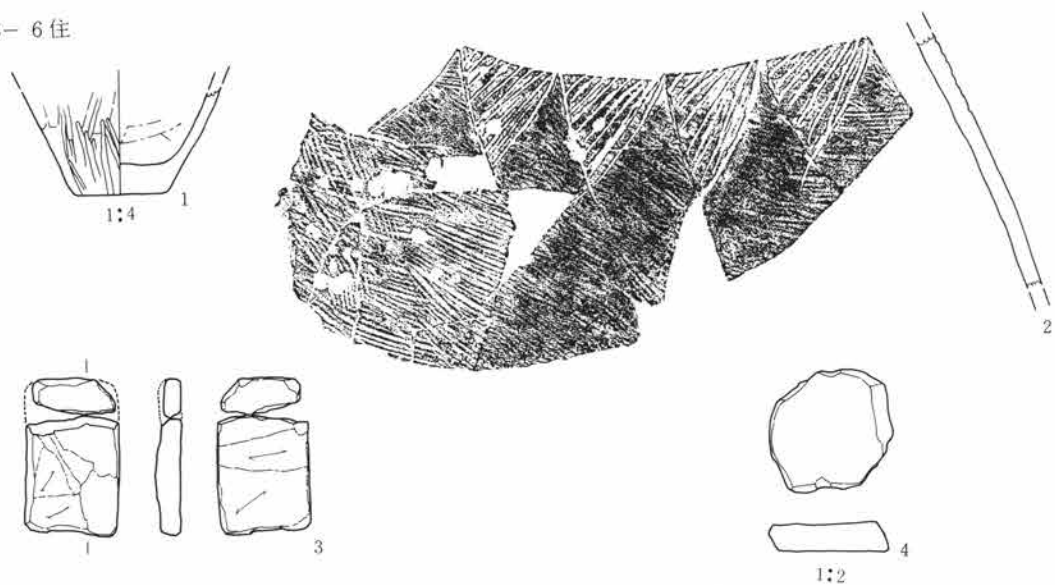
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
台付甕 土師器	底部	1	— (9.7) 9.0	砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい橙色。	外面ハケによる整形。内面はヘラによる整形。脚部内面は指頭による整形。脚下端は折り反している。	貯蔵穴

3区8号住居址遺物観察表

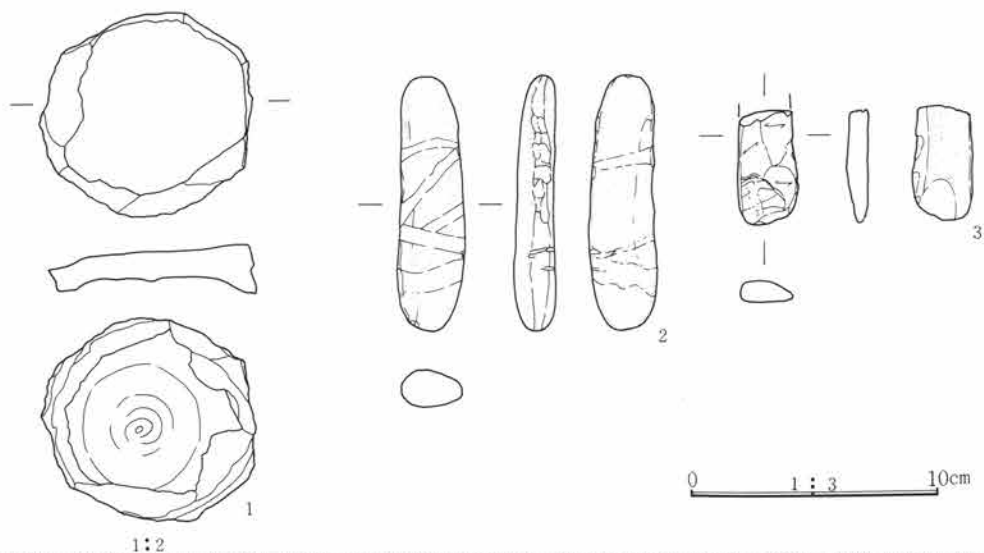
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
琴柱状 玉末製品	2	2.7	2.3	0.4	2.88	蛇紋岩	全面研磨。柱部一部欠損。	フク土 写図39
刀子	3	2.4	3.1	1.1	9.48	滑石	表面研磨。側面打ち欠き痕。	フク土 写図39
釘	4	11.8	1.4	0.5	10.4	鉄	鋒部が若干欠損。錆化激しく2つに折れる。	Na5
	5	6.5	0.5	0.1	4.8	鉄	上端欠損。湾曲する。断面四角形。	Na4

第3章 出土した遺物

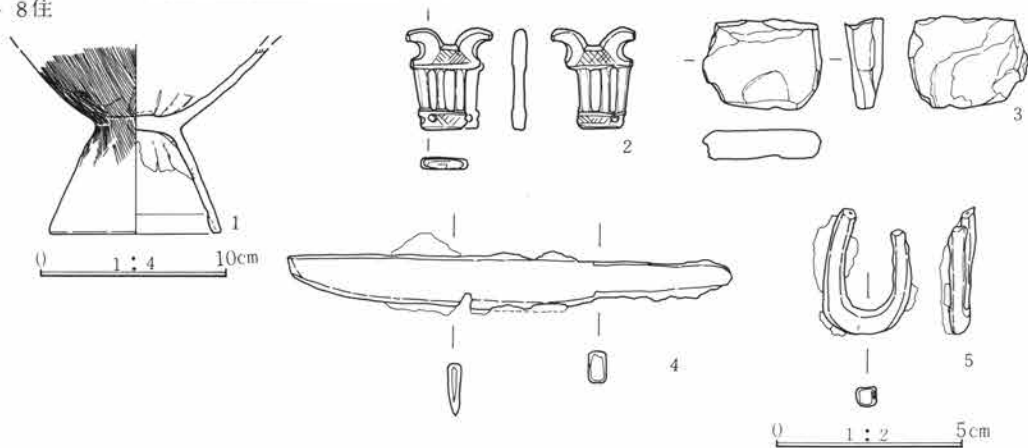
3-6住



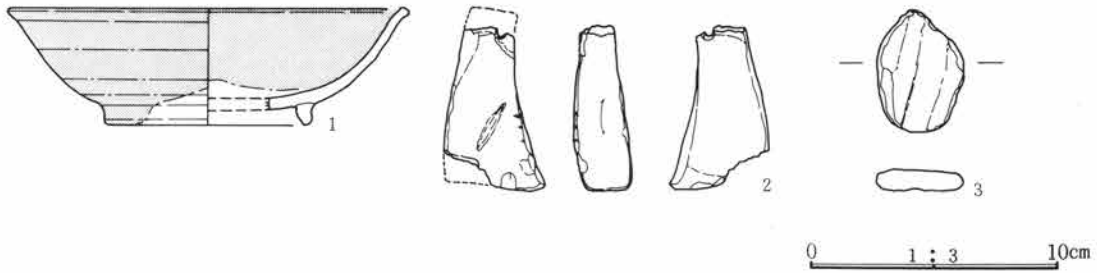
3-7住



3-8住



第105図 3区6号、7号、8号住居址出土遺物



第106図 3区9号住居址出土遺物

3区9号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
碗 灰釉陶器	1/2残存	1	(15.2) 4.6 (7.9)	細かい白色粒子を極少量含む。胎土やや緻密。焼成良。全体に釉は緑色。底部内外面にススが附着。灰白色。	ロクロ整形。高台は若干外側に反る。体部は内湾し口縁はゆるく外反する。	P21

3区9号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	2	6.5	2.9	2.1	63	砥沢石	四面研ぎ面。紐穴部から欠損。	S1 写図47
礫器	3	4.8	3.5	0.8	17	黒色片岩	側縁部剝離。	フク土 写図41

3区10号住居址遺物観察表

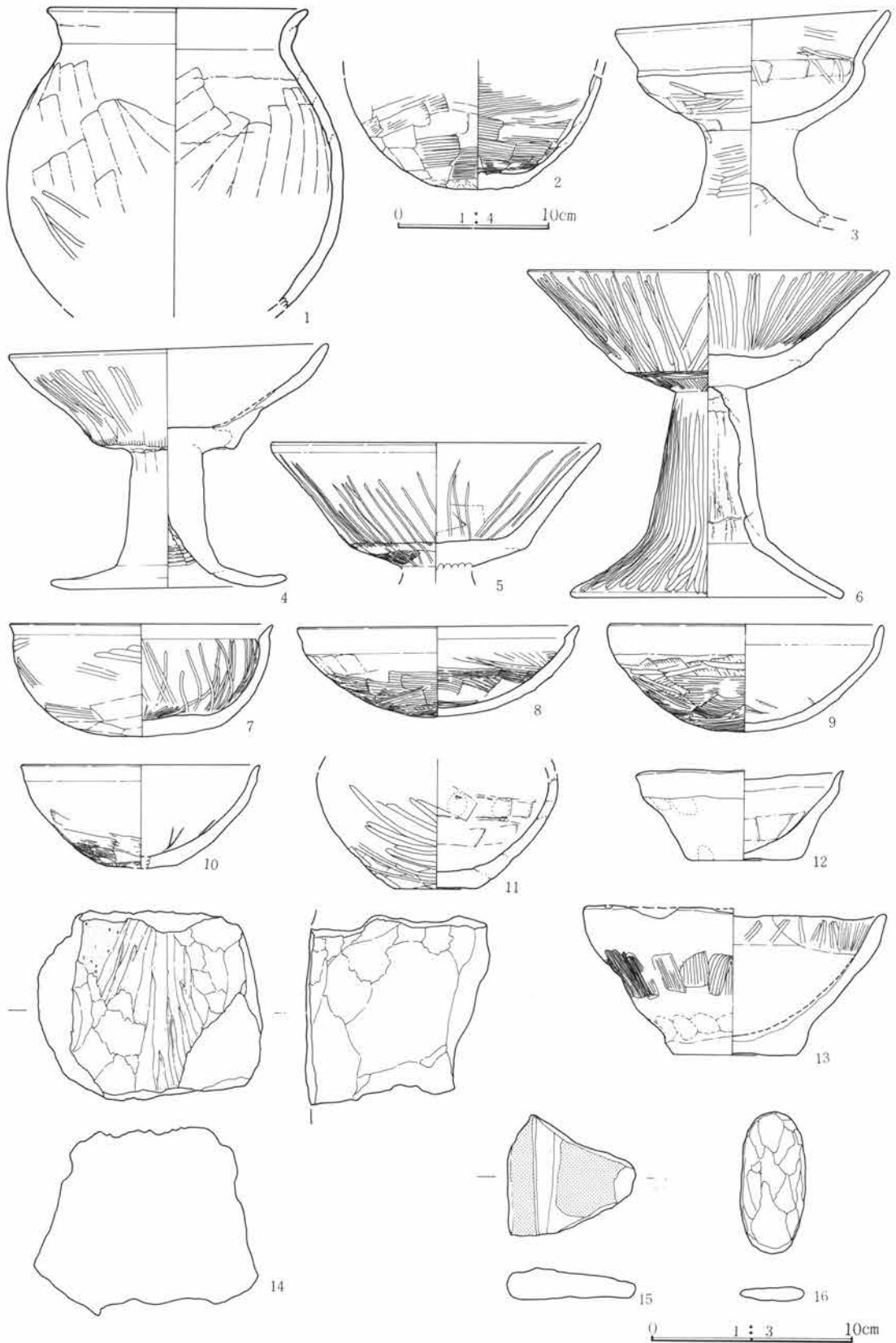
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁から胴部1/2残存	1	(16.8) (19.4) —	砂粒、 ϕ 1~5mmの小石を多く含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。明赤褐色。	胴部は球形に近く張り出し、外反する口縁に続く。内面に輪積痕を残す。口縁内外面に横位のナデを施す。胴内外面ともヘラによる整形。	P72・カマド中(1) 写図17
甕 土師器	胴部下半~底部	2	— (7.3) ●	砂粒、 ϕ 1~5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。にぶい褐色。	底部は丸底に近い形を呈する内外面とも横位のハケによる整形。内面底に指頭による整形痕が残る。	カマド中(2)
高杯 土師器	脚縁部欠損	3	13.3 (10.2) —	砂粒、 ϕ 1~8mmの小石、雲母を含む。胎土やや緻密。焼成良。杯部外縁に黒斑有。橙色。	体部は内湾し、口縁部下端に段を持つ。口縁は直線的に開く。口縁内外面は横位のナデ。体部内外面はミガキ。脚部もミガキが施される。	12住P58 写図17
高杯 土師器	完形	4	15.4 11.5 11.6	砂粒多く含む。胎土やや緻密。焼成良。杯部内面剝落多い。器面にスス附着。浅黄橙色。	脚部円柱状を呈し、杯部は直線的に開く。器面はミガキが施される。脚部内面は、ハケ状の工具により整形する。	カマド中(2) 写図17
高杯 土師器	杯部のみ	5	16.0 (6.1) —	砂粒、 ϕ 1~6mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。明赤褐色。	杯部は下端に稜を持ち体部は直線的に開く。杯は横位にナデを施した後ミガキを施す。	P69

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
高杯土師器	脚部下端 一部欠損	6	17.8 15.9 (13.0)	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい橙色。	杯部下部に段を持ち、体部は直線的に開く、杯部は横位のナデを施した後、全体にヘラミガキを施す。脚内部は輪積痕と、粘土をしぼりこんだ筋が残る。	P67
杯土師器	1/4欠損	7	12.8 5.4 ●	砂粒、φ1～7mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。表面剥落。明赤褐色。	体部は内湾し、口縁は外側へ屈曲する。丸底。口縁は横位のナデ。器面内外面はヘラミガキが施される。	P26 写図17
杯土師器	1/4欠損	8	13.7 4.4 ●	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。黒斑有。にぶい褐色。	体部は内湾しながら立ち上る。口縁でわずかに屈曲する。口縁は横位のナデ。底面付近はハケによる整形。内面は横位方向にハケ整形。	P68 写図17
杯土師器	1/4欠損	9	(13.2) 5.2 ●	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。にぶい橙色。	体部は内湾しながら立ち上り口縁は直立する。口縁は横位のナデ。外面はハケ整形。内面はヘラによる整形。	P26
鉢土師器	1/4欠損	10	(11.6) (5.0) ●	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。にぶい黄橙色。	体部は内湾しながら立ち上り口縁は直立する。口縁は横位のナデ。外面はハケ整形。内面はヘラによる整形。	P70
甕土師器	胴～底部 1/4残存	11	— (5.7) (4.0)	砂粒を少量含む。胎土やや緻密。焼成あまり良くない。にぶい黄橙色。	内面に輪積痕を残す。外面はヘラミガキ、内面はヘラによる整形。	カマド中
鉢土師器	完形	12	10.2 4.4 5.5	砂粒、雲母等を含む。胎土緻密。焼成良。にぶい橙色。	体部は直線的に開き、口縁で直立する。口縁内外面は横位のナデ。内面はヘラによる整形。外面に指頭痕が残る。	P71 写図17
鉢土師器	完形	13	14.7 7.0 5.9	砂粒、φ1～6mmの小石を多く含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。内面は剥落多い。にぶい橙色。	体部は直線的に開く。口縁部内外面は横位のナデ。外面はハケによる整形。口縁内面はミガキ。外面に指頭痕が残る。	P70 写図17

3区10号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	14	9.1	10.4	9.1	660	粗粒安山岩	細長く刃部を研いだような溝が残る。	S3 写図41
砥石	15	5.9	6.3	1.6	56	砂岩	トーン部磨面。	S55 写図41
石錘	16	6.9	3.2	0.7	27	黒色片岩	偏平で、全体に磨かれている。	S1 写図41



第107図 3区10号住居址出土遺物

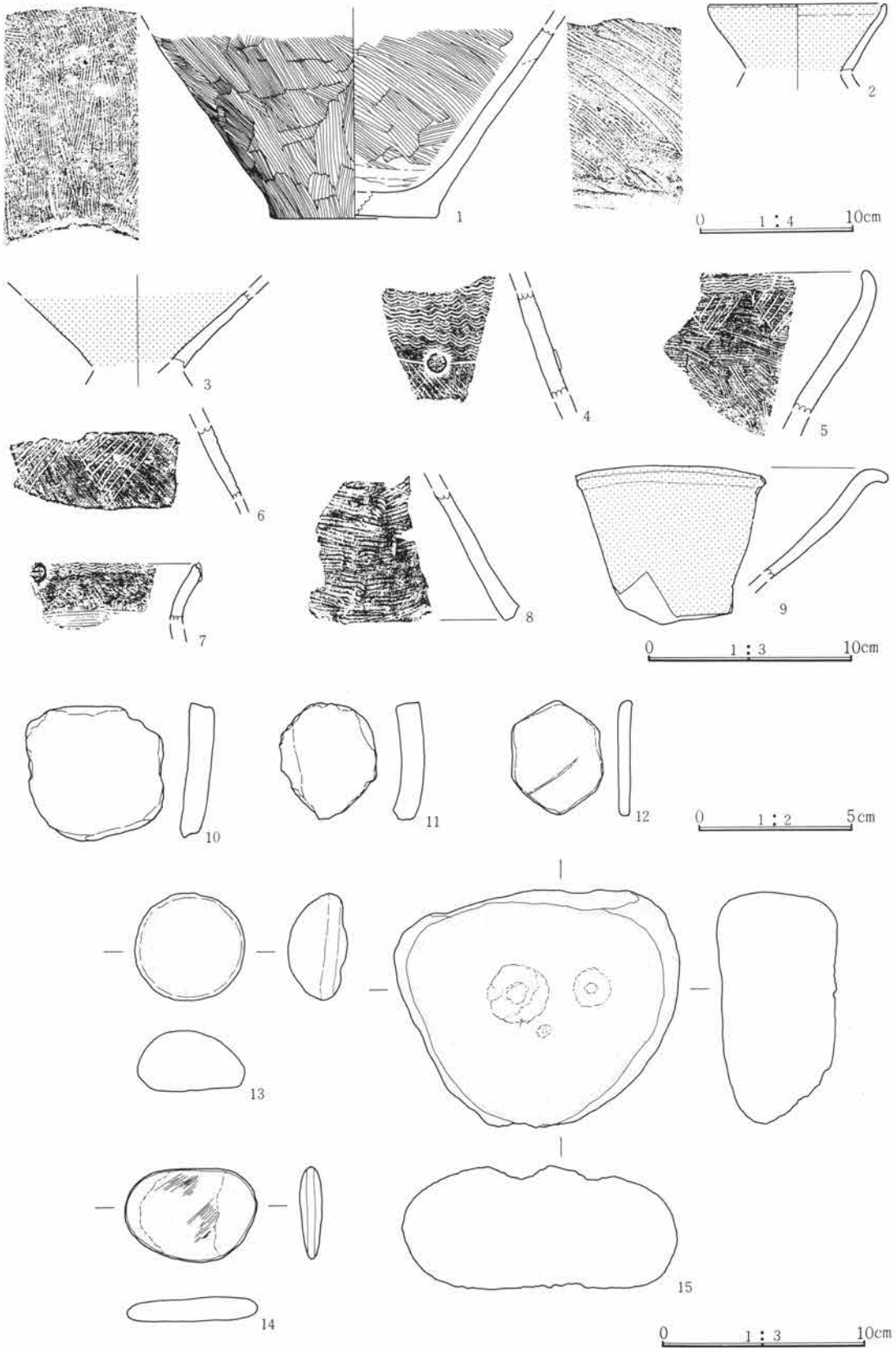
第3章 出土した遺物

3区12号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺 (弥生)	胴下部～ 底部	1	(12.0) 10.8	砂粒、黒色粒多い。胎土やや緻密。焼成良。浅黄色。	内外面ともハケによる整形。	南端土坑
壺 (弥生)	口縁部	2	(11.5) (4.1) —	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。赤色塗彩。明赤褐色。	全体にていねいにミガキを施している。	P11・65・フク土
高杯 (弥生)	杯部破片	3	— (3.4) —	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成やや良。赤色塗彩。にぶい橙色。	全体にていねいにミガキを施している。	P14・10住
壺 (弥生)	肩部破片	4	— — —	砂粒、黒色粒多く含む。胎土粗密。焼成あまり良くなくザラつく。にぶい黄橙色。	波状の沈線文。沈線による三角状文と、円形の粘土を貼付する。	南・フク土 写図42
壺 (弥生)	口縁部破片	5	— — —	砂粒を多く含む。胎土粗密。焼成良くなくザラつく。浅黄橙色。	内外面ともハケによる整形。口唇部に波状の沈線を施す。口縁部は沈線による三角文。	ピット5 写図42
壺 (弥生)	肩部破片	6	— — —	砂粒を多く含む。胎土粗密。焼成良くなくザラつく。にぶい橙色。	外面ハケによる整形。外面に沈線による三角文。内面はナイデを施す。	南端土坑 写図42
甕 (弥生)	口縁部破片	7	— — —	砂粒を多く含む。胎土粗密。焼成良。黒褐色。	内外面ともハケによる整形。内面横位のナデ。外面口唇部波状の沈線。頸部は簾状文を施す。口唇部には、円形の粘土を貼付。	南端土坑 写図42
高杯 (弥生)	脚部破片	8	— — —	砂粒多く含む。胎土やや粗密。焼成良。外面赤色塗彩。内面黒色、外面赤褐色。	内面は横位のハケ整形。外面縦位のミガキ。	P17 写図42
高杯 (弥生)	杯部破片	9	— — —	砂粒、雲母を少量含む。胎土やや粗密。焼成良。内外面赤色塗彩。赤色。	内外面ともていねいにミガキを施す。	P51 写図42

3区12号住居址遺物観察表

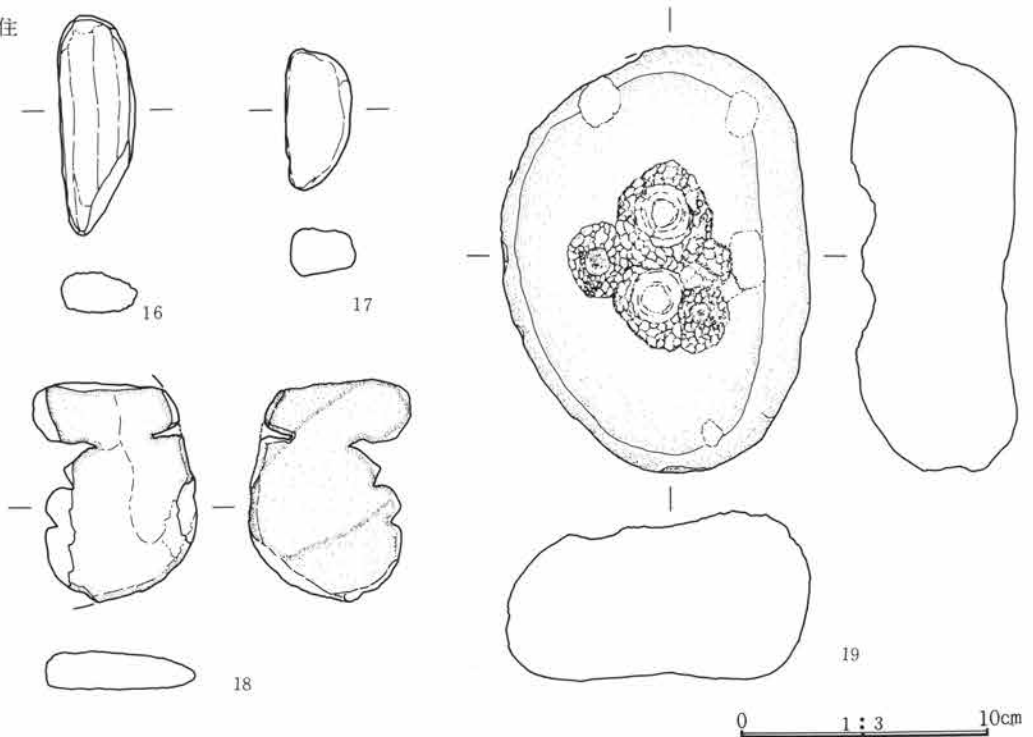
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
土製円盤	10	4.2	4.3	0.8	22.4	土製 (弥生)	周縁を打ち欠き整形。表面に波状文。	フク土 写図34
土製円盤	11	3.8	3.2	0.8	11.3	土製 (弥生)	周縁を打ち欠き整形。両面ハケ目。	フク土 写図34
土製円盤	12	3.7	3.0	0.4	5.7	土製 (弥生)	周縁を打ち欠き整形。	P36 写図34
磨石	13	5.2	5.4	3.0	111	粗粒安山岩	表面磨られる。	ピット11 写図42
礫器	14	4.5	6.5	1.1	32	砂岩	表面磨られる。	S46 写図42
凹石	15	11.3	13.7	5.6	1100	粗粒安山岩	表面円錐状の凹み。裏面敲打痕。	ピット4 写図43
砥石	16	8.3	3.0	1.5	60	黒色片岩	表面に研ぎ面。	フク土中8 写図42
礫	17	5.6	2.6	1.9	40	チャート	全面磨られる。	フク土中 写図42
砥石	18	8.6	5.9	1.45	109.9	砂岩	表裏面研ぎ面。細かく割れる。	写図42
凹石	19	16.9	12.1	5.7	1563	粗粒安山岩	表面円錐状の凹み。裏面敲打痕。	ピット4 写図43



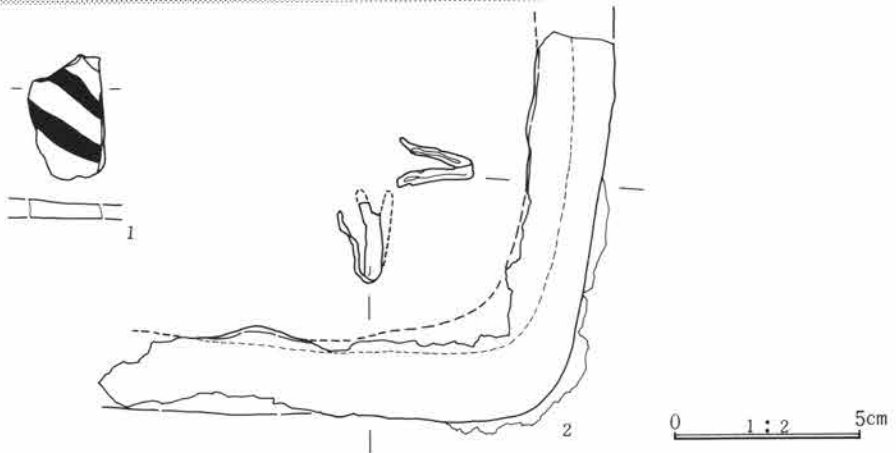
第108図 3区12号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

3-12住



3-15住



第109図 3区12号、15号住居址出土遺物

3区15号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	底部破片	1	— —	砂粒を含む。明赤褐色。	墨書判読不可。	墨書土器。 フク土

3区15号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
鋤先	2	19.8	2.4	1.0	75.0	鉄	錆化激しい。刃部の消耗少ない。	床直

4区2号住居址遺物観察表

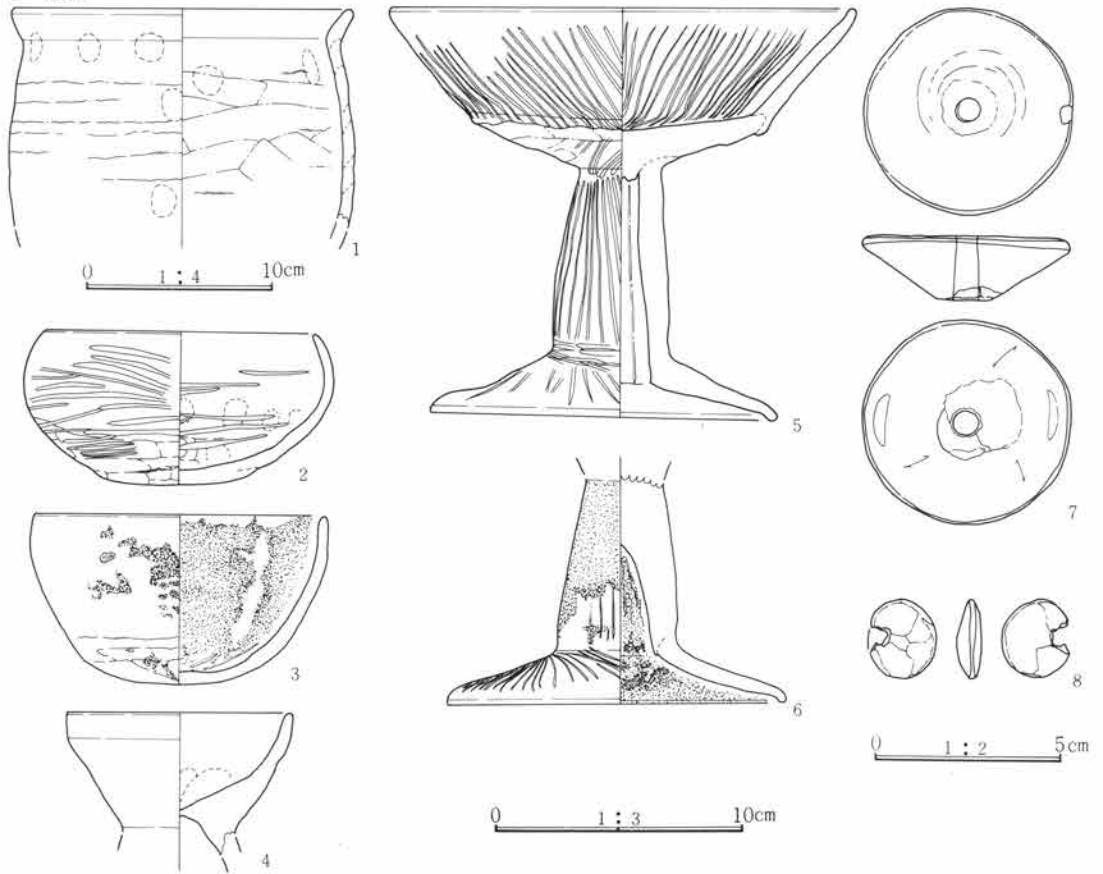
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁～胴 部欠残存	1	(18.2) (11.5) —	細かい砂粒を多く含む。胎土 やや緻密。焼成あまり良くな い内外面に炭化物がタール状 に付着する。にぶい橙色。	胴部はわずかに内湾して立ち 上り、口縁はゆるく外反する。 輪積痕を残す。口縁部は横位 のナデ。胴部内面はハケ整形 口縁部付近に、指頭圧痕が残 る。	No11・14・15
椀 土師器	口縁一部 欠損	2	10.7 6.0 5.8	砂粒、 ϕ 1～3mmの小石を含 む。胎土やや緻密。焼成良。 内面若干の剥落有。赤褐色。	体部は内湾し口縁に続く。底 部は貼り付け、若干の高まり になる。内外面とも横位のミ ガキ。指頭圧痕が残る。	No 1 写図17
椀 土師器	口縁一部 欠損	3	11.8 6.65 —	細かい砂粒を少量含む。胎土 やや緻密。焼成普通。内面に 暗褐色の付着物多い。にぶい 橙色。	丸底、内湾ぎみに立ち上り、 口縁直立する。口縁内外面横 位のナデ。内面はヘラによる 整形、外面ヘラナデ。	No17・炉内 写図17
甕 土師器	脚部	4	— 5.2 9.2	砂粒を含む。胎土やや緻密。 焼成良。内外面にスス付着。 にぶい橙色。	脚部は内湾ぎみに開く。脚端 部は横位のナデ。内面は指頭 による整形痕を残す。	No 8
高杯 土師器	脚部一部 欠損	5	18.4 16.0 13.8	砂粒、 ϕ 1～3mmの小石を含 む。胎土やや緻密。焼成良。 橙色。	杯部は直線的に開き下端に稜 を持つ。脚は下側でふくらみ を持ち開く。表面は横位のナ デ整形の後放射状のミガキが 施される。脚内面はヘラによ る整形。	No 2 写図17
高杯 土師器	脚部	6	— (9.1) 13.5	砂粒を含む。胎土やや緻密。 焼成良。表面、脚部裏に茶褐 色の付着物有。にぶい橙色。	脚部は下側でふくらみを持ち 大きく開く。表面は放射状の ミガキを施す。内面は横位の ナデ。	No 2・13

4区2号住居址遺物観察表

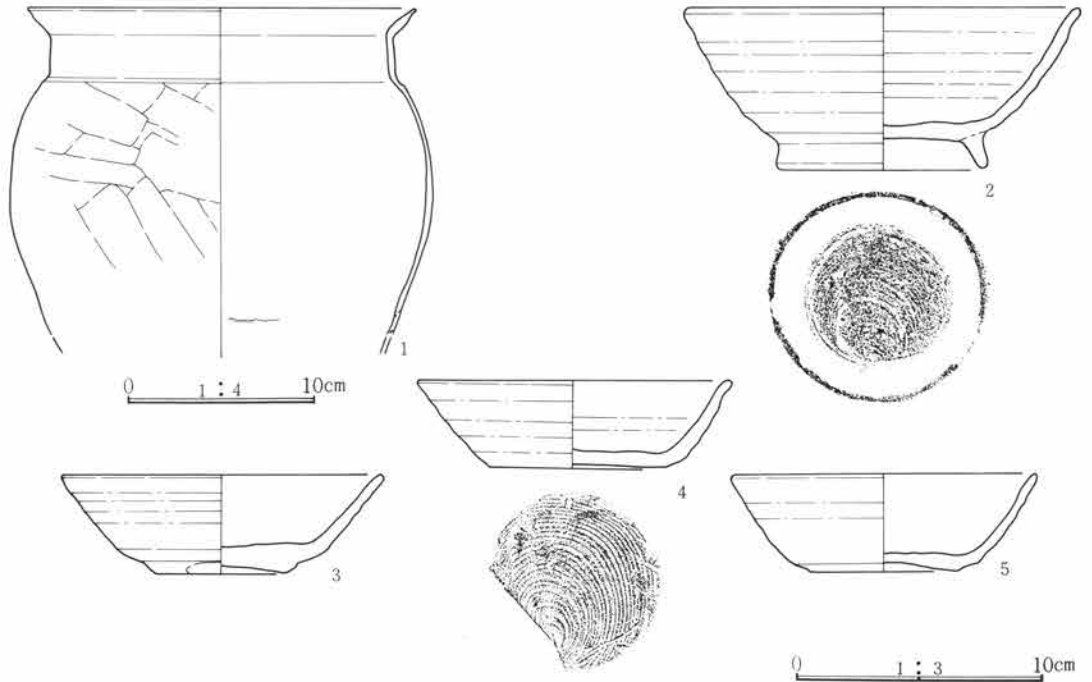
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
紡錘車 土玉	7	5.4	5.5	1.5	55.1	蛇紋岩	下縁一部欠損。側縁線状痕。 一端が欠れている。人物埴輪の玉か？	S No 1 写図40 写図34
	8	2.1	(1.9)	0.7	1.7	土製		

第3章 出土した遺物

4-2住



4-3住



第110図 4区2号、3号住居址出土遺物

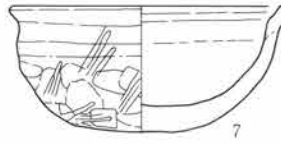
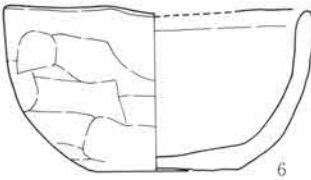
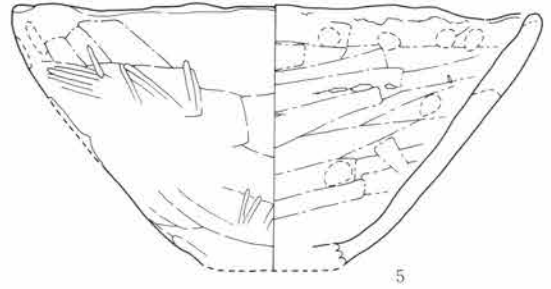
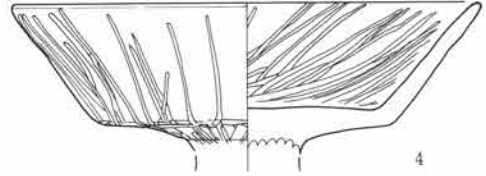
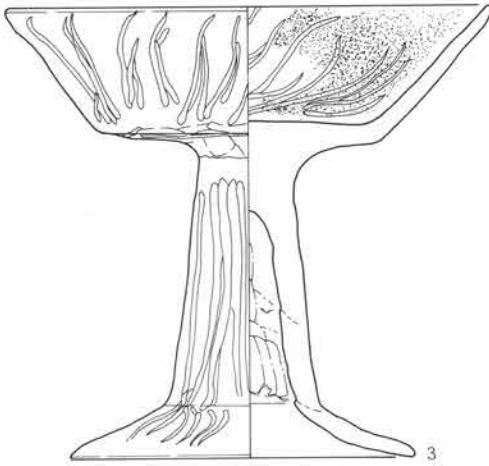
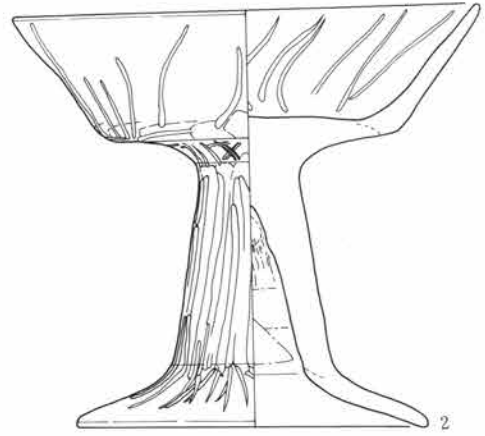
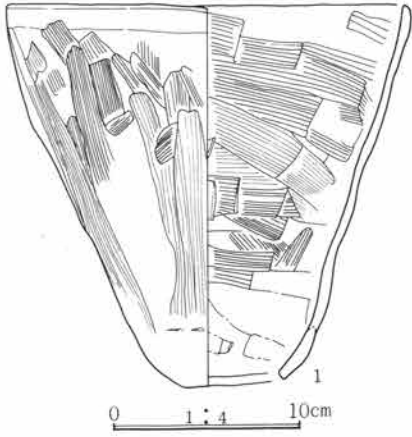
4区3号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕土師器	口縁部～ 瓦残存	1	(21.0) (17.3) —	砂粒を含む。胎土やや緻密。器壁は薄い。焼成良。にぶい橙色。	口縁「コ」の字形で短く外反する。肩が張り出す。口縁は横位のナデ。胴部は上半部が横位、下半が斜位のヘラケズリを施す。	No18II層床直・西フク土中・No2II層床直・No17II層床直一括
椀須恵器	口縁部瓦 欠損	2	16.0 6.4 8.3	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良いが体部はゆがむ。灰白色。	体部は直線的に開く。ロクロ整形で、ロクロ目は強い。底部は右回転糸切り、高台貼り付け後でいねいにミガク。高台は外側に反る。	No11床直・II層一括 写真16
杯須恵器	瓦残存	3	(12.8) 3.9 (5.2)	黒色粒を多く含む。胎土緻密。焼成良。灰白色。	体部は直線的に開く。ロクロ整形で、ロクロ目は強い。底部は右回転糸切り、周辺を削出し高台状に整形している。	No9II層床直
杯須恵器	瓦残存	4	12.8 3.4 7.3	黒色粒を多く含む。胎土やや緻密。焼成良。灰白色。	体部は直線的に開く。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。底部右回転糸切り。	貯蔵穴 写真18
杯須恵器	瓦残存	5	(12.3) 3.8 (6.0)	細かい砂粒を少量含む。胎土緻密。焼成良。にぶい黄橙色。	体部は直線的に開く。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。底部右回転糸切り、若干上げ底になる。	No6II層床直・No20II層床直一括

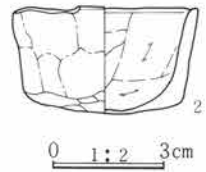
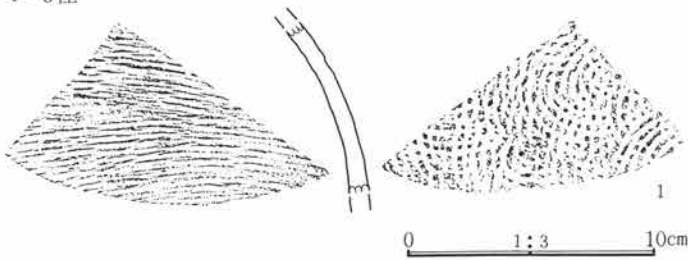
4区4号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕土師器	ほぼ完形	1	21.6 20.2 5.3	砂粒、φ1～5mmの小石を少量含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい黄橙色。	胴部は直線的に開く。内面は横位のハケ整形、外面は縦位のハケ整形。口縁外面に横位のナデ。	P1 写真18
高杯土師器	脚裾部一 部欠損	2	18.5 16.3 13.9	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。杯部内面に茶褐色の付着物、脚にスス付着。橙色。	杯部下端は水平に開き、屈曲して直線的に立ち上る。脚部は下部が太くなり裾部は大きく開く。表面はナデ整形を施した後ヘラミガキを施す。脚内部に輪積痕を残す。	PNo3 写真18
高杯土師器	杯部瓦欠 損	3	19.1 17.7 13.6	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。杯部内面に茶褐色の付着物、外面にスス付着。にぶい橙色。	杯部下端は水平に開き、屈曲して直線的に立ち上る。脚部は下部が太くなり裾部は大きく開く。表面はナデ整形を施した後ヘラミガキを施す。脚内面はヘラによる整形。輪積痕を残す。	PNo14・No1—I層 写真18
高杯土師器	杯部一部 欠損	4	18.5 (5.7) —	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密だが表面は粗い。焼成良。杯部外側に茶褐色の付着物。にぶい橙色。	杯部下端は水平に開き、屈曲して直線的に立ち上る。表面はナデ整形を施した後ヘラミガキを施す。	PNo2・II層床直

4-4住



4-5住



第111図 4区4号、5号住居址出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
鉢 土師器	1/2欠損	5	21.2 (10.3) —	砂粒、 ϕ 1~5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。灰黄色。	体部は直線的に開く。内面は横位にハケによる整形。外面は、横位のヘラケズリ整形。所々指頭圧痕が残る。	No 7
碗 土師器	1/2残存	6	12.5 6.5 5.9	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成あまり良くない。にぶい黄橙色。	体部は内湾ぎみに立ち上るがゆがみが大きい。外面は横位のヘラケズリ、内面は横位のナデ整形。	P 6 写図18
碗 土師器	ほぼ完形	7	10.9 4.9 ●	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土はやや緻密。焼成あまり良くない。内外面に茶褐色の付着物。にぶい黄色。	体部は内湾ぎみに立ち上る。丸底。口縁内外面は横位のナデ。体部はヘラによる整形。全体にゆがみがある。	P 5 写図18

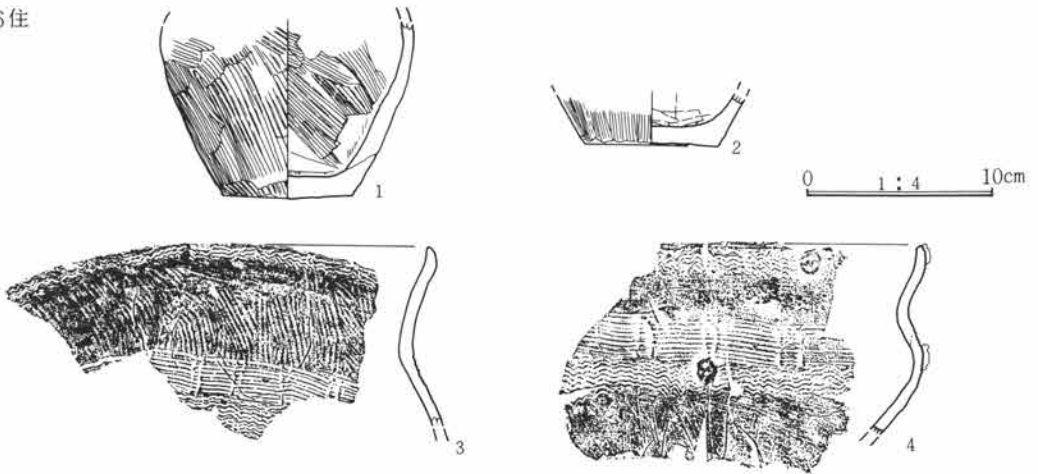
4区5号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 須恵器	胴部破片	1	— —	細かい砂粒を少量含む。胎土緻密。焼成良。灰色。	外面叩、内面青海波による整形。	P16床直・VI層一括
手捏	1/2欠損	2	5.0 2.9 4.3	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。にぶい黄褐色。	手捏土器、指頭により作り出している。	P 8床直・VI層 写図46

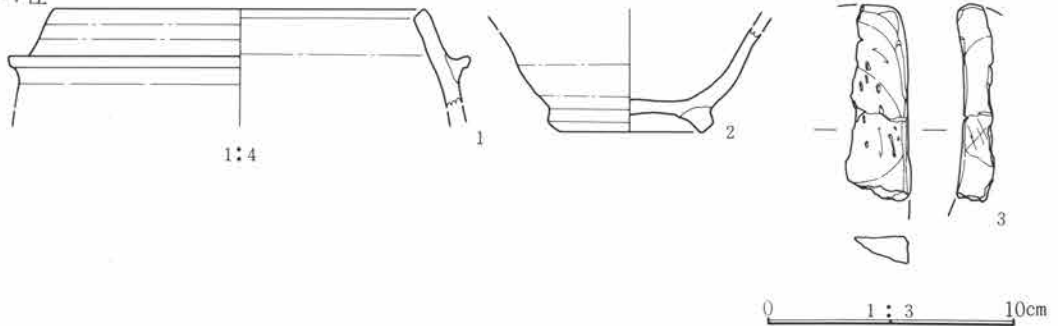
4区6号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 (弥生)	胴~底部 1/2	1	— (9.2) (7.1)	砂粒を多く含む。胎土やや粗密。焼成良。外面にスス付着にぶい褐色。	胴部は内湾して立ち上る。外面は縦位のハケ目、内面は斜め方向のハケ目による整形。	No 5 黒色パミス底部
甕 (弥生)	底部	2	(2.8) 7.2	砂粒を多く含む。胎土やや粗密。焼成良。にぶい黄褐色。	外面縦位のハケ整形。内面ヘラによる整形。	No20黒褐色土
甕 (弥生)	口縁部破片	3	— — —	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい橙色。	外面ハケによる整形の後、口唇部に4条の波状沈線、頸部に10条の簾状文。それ以下に波状沈線を施される。内面は横位のミガキ。	No21・22黒褐色土 写図43
甕 (弥生)	口縁部破片	4	— — —	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい褐色。	外面ハケによる整形の後、口唇部に6条の波状沈線、頸部に8条の簾状文。肩部の張り出した部分に7~8条の波状沈線を施文する。口唇部と肩部に円形の粘土を貼付し、4個の刺突を加える。	No14黒褐色土 写図43

4-6住



4-7住



第112図 4区6号、7号住居址出土遺物

4区7号住居址遺物観察表

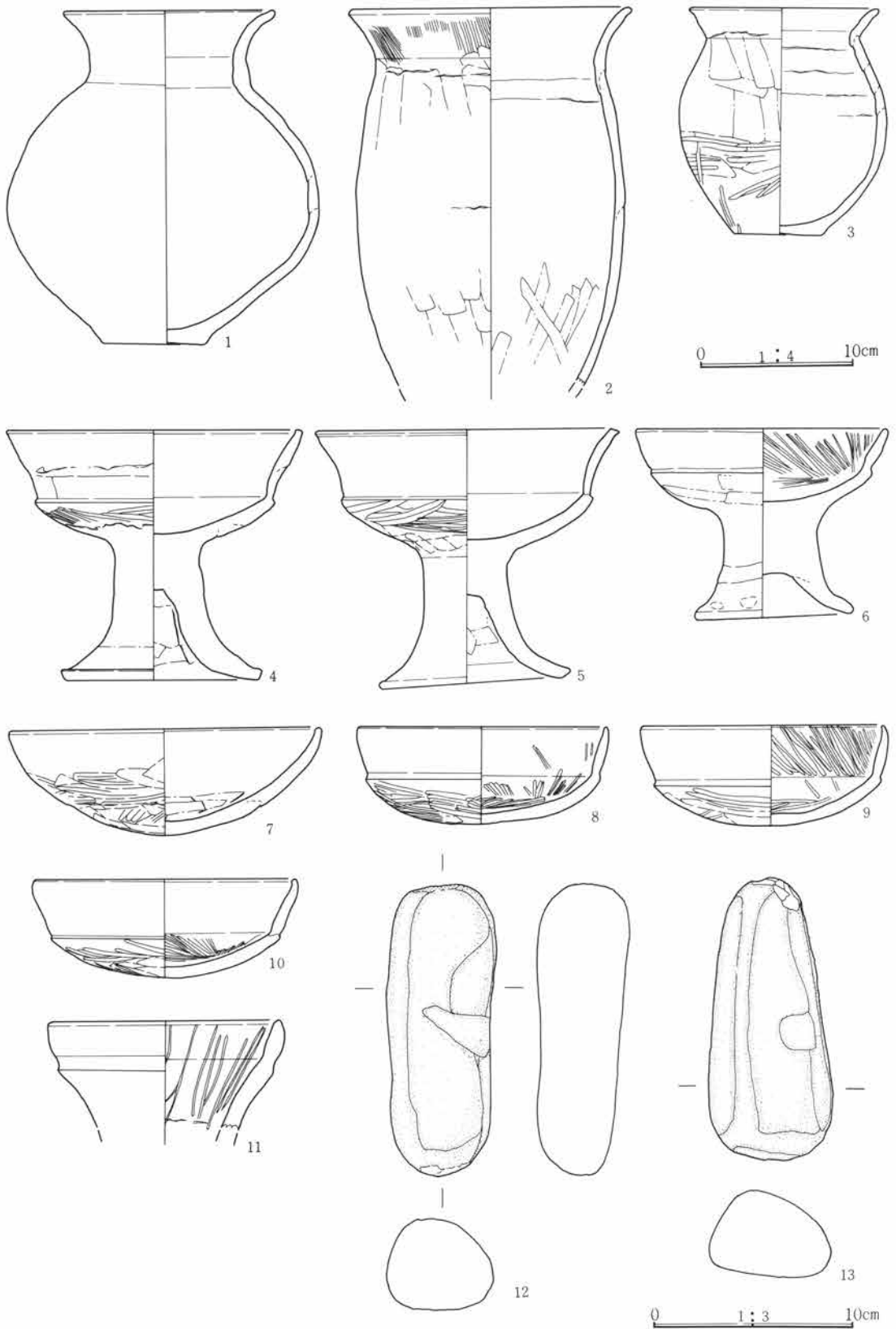
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁部破片	1	(20.2) (5.3) —	砂粒、φ1~3mmの砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。酸化焰焼成。にぶい橙色。	口縁は内傾する。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。鏝は、上方に反る。	No.5
椀	1/2残存	2	— (4.1) (5.8)	砂粒、黒色粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。還元焰焼成。灰黄褐色。	体部は内湾ぎみに立ち上る。ロクロ整形。ロクロ目弱い。底部右回転糸切り、高台貼り付後ナデる。高台は外側に開く。	カマド内

4区7号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	3	7.9	2.3	1.2	29	砥沢石	2面を研ぎ面としている。欠損品。	写図47

4区9号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺 土 師 器	胴部一部 欠損	1	(14.0) 21.5 6.7	砂粒、雲母を含む。胎土緻密 焼成良。胴部中程にスス付着 にぶい橙色。	胴部は球形を呈し、直立した 頸部から口縁が外反する。頸 部は縦位、それ以外は横位方 向にしていねいなミガキが施さ れる。	No33 写図18
甕 土 師 器	口縁〜胴 部瓦破片	2	(18.6) (25.0) —	砂粒、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含 み、表面粗い。胎土やや粗粒 焼成良。にぶい赤褐色。	胴部は若干脹らみ、外反する 口縁に続く。口縁部は横位の ナデ。胴部外面は、縦位のヘ ラケズリを施すが口縁外面に まで及ぶ。内面はヘラによる ナデ整形。	P26・27・28・35・39・ P37床直
甕 土 師 器	胴部一部 欠損	3	12.6 14.7 6.1	細かい砂粒を含む。胎土やや 緻密。焼成あまり良くなくザ ラつく。表面に暗褐色の付着 物。にぶい赤褐色。	胴部は丸く脹らみ、口縁は 「く」の字状に外反する。胴 上半は縦位のヘラケズリ、下 半は横位にヘラによるミガ キ。口縁は横位のナデ。内面 に輪積痕を残す。	P53・24ピット内 写図18
高 杯 土 師 器	脚裾部一 部欠損	4	14.1 12.1 (9.4)	砂粒、雲母、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石 を含む。胎土緻密。焼成良。 外面に暗褐色の付着物。内面 に剝落有。明赤褐色。	体部は内湾し、稜を持ち外反 する口縁に続く。脚は末広が りに開く。口縁内外面、脚部 は横位のナデ。体部外面はヘ ラミガキ。	P58 写図18
高 杯 土 師 器	杯口縁部 瓦欠損	5	14.2 12.3 9.9	砂粒、雲母、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石 を含む。胎土緻密。焼成良。 外面に暗褐色の付着物。内面 に剝落有。橙色。	体部は内湾し、稜を持ち外反 する口縁に続く。脚は末広が りに開く。口縁内外面、脚部 は横位のナデ。体部外面はヘ ラミガキ。	P25 写図18
高 杯 土 師 器	口縁部一 部欠損	6	12.1 9.1 7.3	砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含 む。胎土やや緻密。焼成普通 杯部内面黒色。外面にスス付 着。橙色。	体部は内湾し、稜を持ち外反 する口縁に続く。脚は末広が りに開く。口縁内外面、脚部 は横位のナデ。体部外面はヘ ラミガキ。	P45・50・II層P4 写図18
杯 土 師 器	完形	7	15.3 5.2 ●	砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含 む。胎土やや緻密。焼成良。 明赤褐色。	体部は内湾して立ち上る。丸 底。口縁内外面横位のナデ。 内面底部はヘラによるナデ。 外面はヘラケズリ。	P23 写図18
杯 土 師 器	口縁一部 欠損	8	12.3 4.7 ●	砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含 む。胎土やや緻密。焼成あま り良くない。内外面に暗褐色 の付着物多い。明赤褐色。	丸底で、体部は内湾し、稜を 持つ。口縁は若干外反ぎみに 立ち上る。口縁内外面は横位 のナデ、内面は斜放射状にヘ ラミガキを施す。外底面はヘ ラケズリ後ヘラミガキ。	P40 写図18
杯 土 師 器	口縁一部 欠損	9	12.0 4.8 ●	砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含 む。脚土やや緻密。焼成良。 内外面に暗褐色の付着物、炭 化物の付着多い。黒褐色。	丸底で、稜を持つ。口縁は外 反ぎみに立ち上る。口縁内外 面は横位のナデ。内面は斜放 射状にヘラミガキ。外底面は ヘラケズリ後ヘラミガキ。	P55壁ピット3内 写図18



第113図 4区9号住居址出土遺物

第2節 竪穴住居址出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	口縁部欠損	10	13.0 4.8 ●	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。外面に暗褐色の付着物。橙色。	丸底で、体部は内湾し、稜を持つ。口縁は若干外反ぎみに立ち上る。口縁内外面は横位のナデ。内面は斜放射状にヘラミガキを施す。外底面はヘラケズリ後ヘラミガキ。	P43・47・49・67 II層P19・65一括 II層P18・59床直 カマド内
埴土師器	口縁部破片	11	11.2 5.2 —	砂粒、黒色粒を多く含む。胎土緻密。焼成良。橙色。	口縁は外反して立ち上り屈曲部から内湾する。横位のナデ整形後、放射状にヘラミガキをまばらに施す。	P385—C 浮石・1溝 382・1溝288・5・4・ 1方周6上

4区9号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	12	14.1	5.2	4.3	590	粗粒安山岩	両端敲打痕。表面擦られる。	S2—I層写図44
敲石	13	13.6	6.1	4.2	484	粗粒安山岩	両端敲打痕。表面擦られる。	S4 写図44
敲石	14	15.7	5.2	4.4	590	粗粒安山岩	両端側縁敲打痕。側部欠損。	S3—I層写図44
石斧	15	11.1	5.2	1.3	120	雲母石英片岩	トーン部擦られる。先端刃部欠ける。	フク土 写図44

4区10号住居址遺物観察表

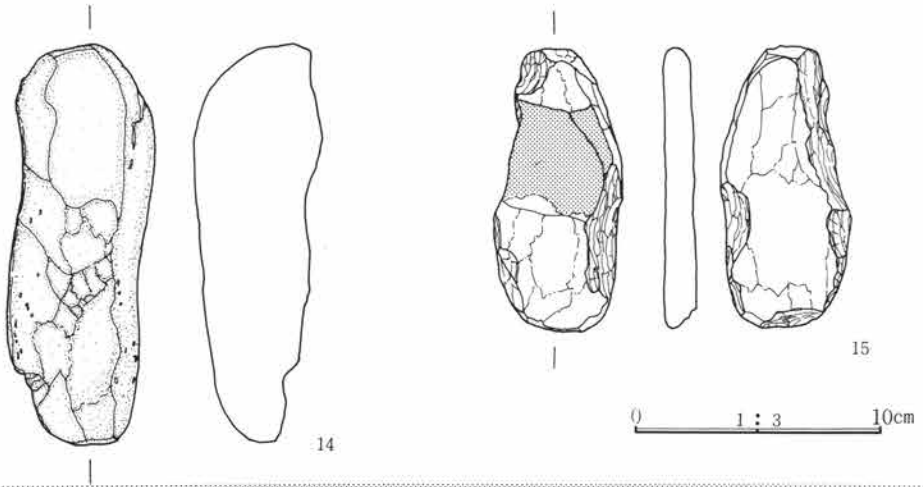
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁～胴部	1	20.0 (16.8) —	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。内外面にスス付着。酸化焰焼成。にぶい黄橙色。	胴部はゆるく外反し、内傾する口縁に続く。鐔は上側が水平になり、断面三角形を呈する。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。胴部下半はヘラケズリ。	P10床直・P8床直・ フク土・P7床直・P 6床直 写図19
羽釜	口縁部破片	2	(22.2) (8.6) —	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くなく、断面の色が異なる。外面にスス付着。酸化焰焼成。暗灰黄色。	胴部はほぼ垂直になり、若干内傾する口縁に続く。鐔は断面三角形を呈する。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。	P23床直・カマド内・ フク土
皿 灰釉陶器	口縁部欠損	3	12.0 2.5 6.5	細かい砂粒を含む。胎土緻密。焼成良。釉は潰け掛け。灰白色。	体部はわずかに内湾して開くロクロ整形。底部は切り離し後高台を付けていねいなミガキ。	II層P28・II層P30・ II層P37 写図19

4区10号住居址遺物観察表

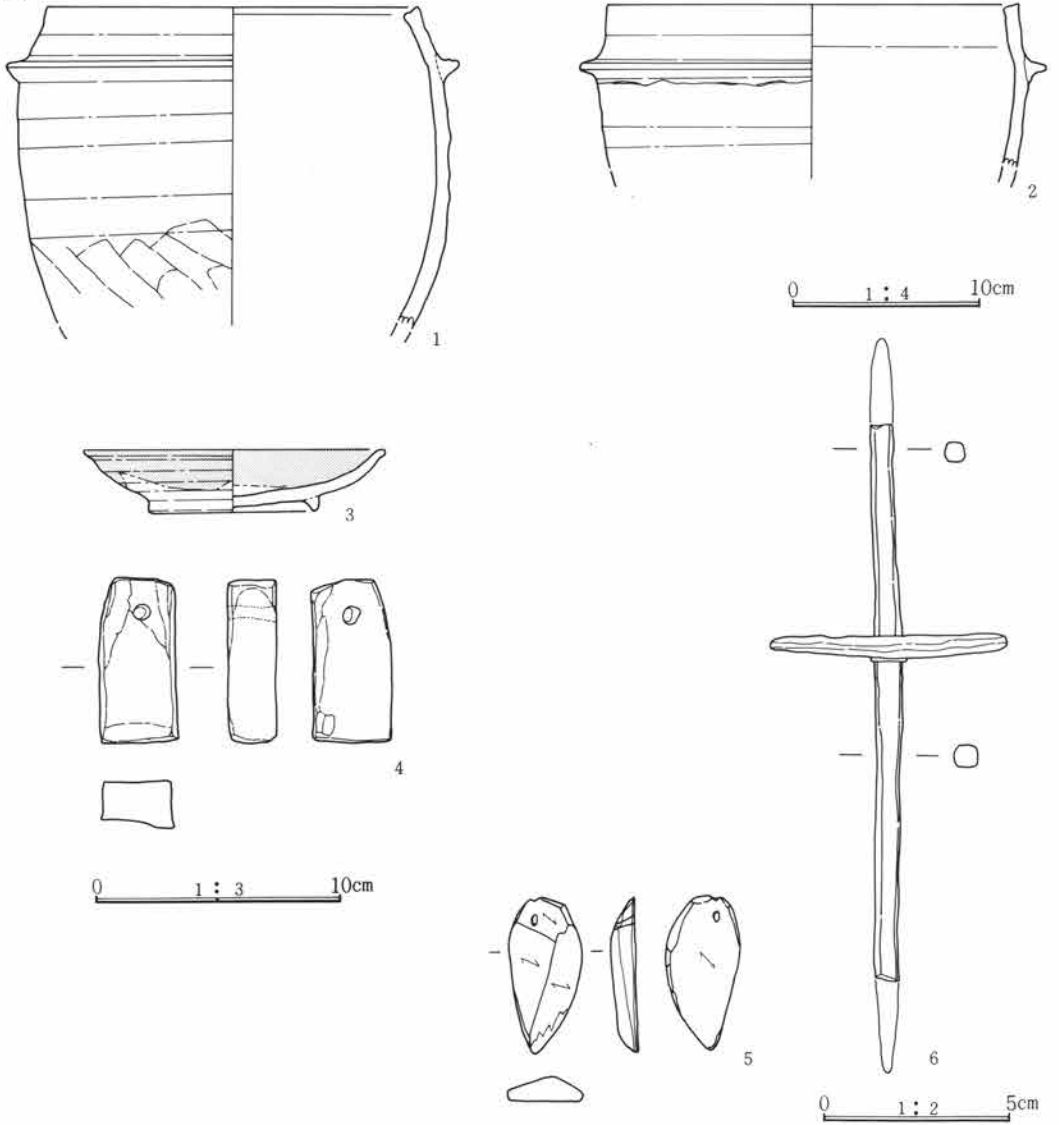
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	4	6.5	3.1	1.9	72	砥沢石	四面研ぎ面。紐穴貫通。	床直 写図47
剣形品	5	4.1	2.0	0.7	6.17	蛇紋岩	全面研磨。表面に稜を持つ。表面から穿孔。	写図40
紡錘車軸	6	14.8	0.8	0.6	55.0	鉄	両端欠損。軸の断面四角形。紡錘車は偏平。	PNo1

第3章 出土した遺物

4-9住



4-10住



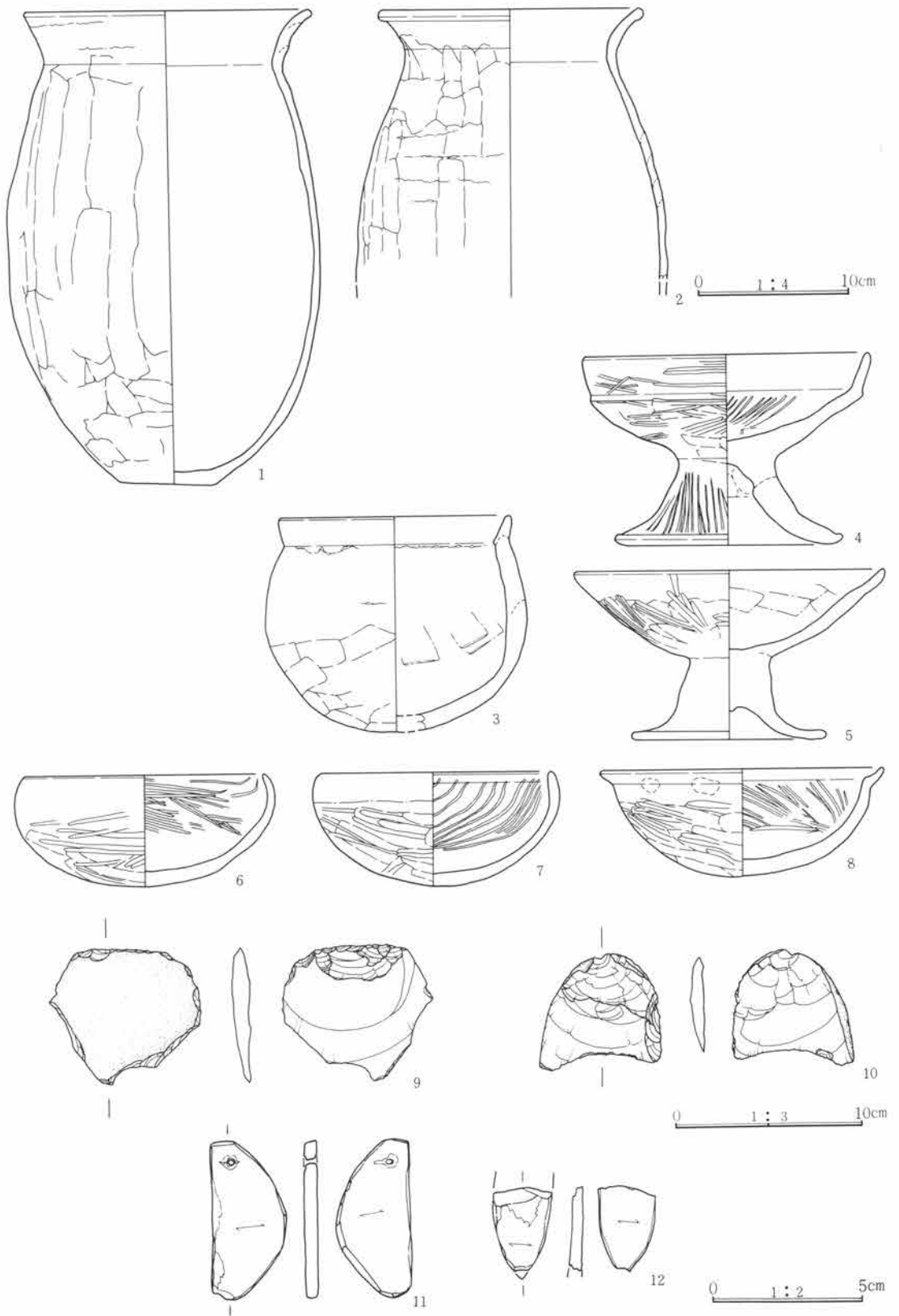
第114図 4区9号、10号住居址出土遺物

4区11号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁～胴部一部欠損	1	18.1 30.8 6.3	砂粒、 ϕ 1～3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くなくザラつく。外面に炭化物の付着。にぶい橙色。	胴下半が脹らみ、外反する口縁に続く。口縁内外面は横位のナデ。外面は縦位のヘラケズリ。内面はヘラによる整形を施す。	P40
甕 土師器	口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 破片	2	17.5 (17.5) —	砂粒、 ϕ 1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。外面にスス付着にぶい黄橙色。	胴部は内湾し、大きく外反する口縁に続く。口縁内外面は横位のナデ。外面は縦位のヘラケズリ、輪積痕を残す。内面はヘラによる整形。	P51
埴 土師器	口縁～胴の一部欠損	3	11.2 (10.45) ●	砂粒、 ϕ 1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成普通。底面にスス付着。赤褐色。	胴部は球形を呈し、口縁は短く「く」の字状に屈曲する。口縁部は横位のナデ、外面はヘラケズリ。内面はヘラによるナデ痕を残す。	P21・22・24・44・46・48 写図19
高杯 土師器	口縁～脚裾の一部欠損	4	14.0 9.2 11.25	砂粒、 ϕ 1～5mmの小石を少量含む。胎土やや粗密。焼成普通。表面に暗褐色の付着物。赤褐色。	体部は内湾して立ち上り、口縁下に稜を持ち外反する。脚は短く「ハ」の字状に開く。表面ナデ整形の後ヘラミガキを施す。	P49 写図19
高杯 土師器	口縁～脚裾の一部欠損	5	14.5 8.2 (9.5)	砂粒、 ϕ 1～5mmの小石を少量含む。胎土やや緻密。焼成普通。明赤褐色。	体部は直線的に開く。脚部は短かく、裾部が開く。表面はナデ整形後杯部内面はヘラナデ、外面はヘラミガキが施される。	P49 写図19
杯 土師器	完形	6	11.9 5.4 ●	砂粒、 ϕ 1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。底面に暗褐色の付着物。明赤褐色。	丸底、体部は内湾する。外面はヘラケズリ。口縁、内面は横位のナデ整形後内面は斜放射状のヘラミガキ。	P6・41 写図19
杯 土師器	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠	7	11.3 5.5 ●	砂粒、 ϕ 1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。橙色。	丸底、体部は内湾する。外面はヘラケズリ。口縁、内面は横位のナデ整形した後内面は斜放射状のヘラミガキ。	P7・2 写図19
杯 土師器	口縁部一部欠損	8	14.0 5.2 —	砂粒、 ϕ 1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。明赤褐色。	丸底、体部は内湾し、口縁で外側に屈曲する。口縁、内面は横位のナデ整形した後内面は斜放射状のヘラミガキ。	P8・11 写図19

4区11号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
剥片	9	6.7	7.6	0.9	45	黒色頁岩	側縁に使用痕を持つ。	S4 写図45
剥片	10	4.6	6.1	0.7	30	黒色頁岩	下縁を刃部になっている。使用痕有。	写図45
剣形品	11	5.2	2.5	0.5	10.6	滑石	断面は偏平。両面、側縁とも磨っている。	S1 写図40
剣形品	12	2.8	2.0	0.5	3.35	蛇紋岩	上端欠損。偏平。両面、側縁とも磨っている。	S28 写図40



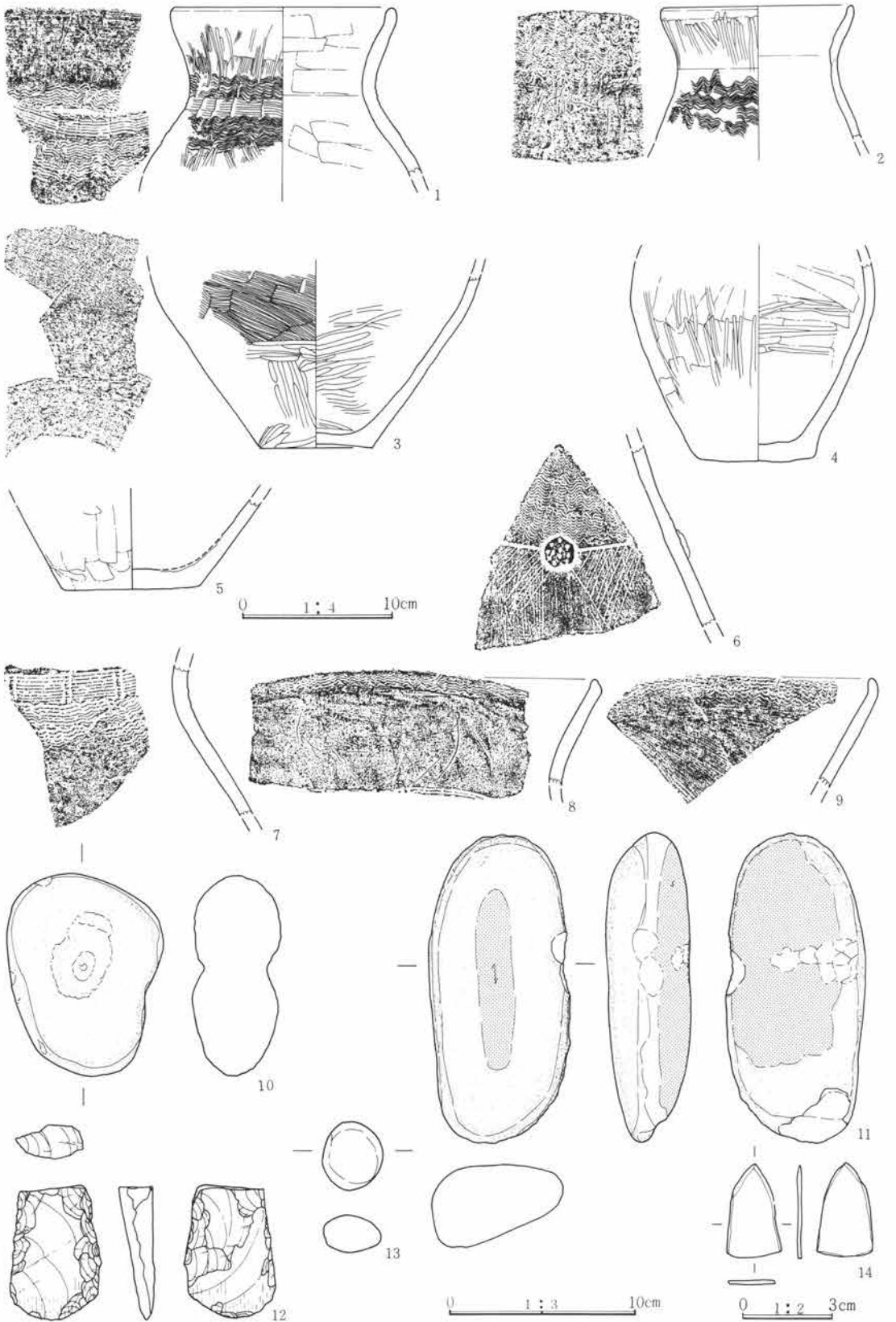
第115図 4区11号住居址出土遺物

4区12号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 (弥生)	口縁～頸部の残	1	(14.4) (11.0) —	砂粒、小石を含む。焼成普通。外面スス付着。にぶい黄橙色。	頸部はやや緩やかにくびれ、口唇部は直立する。内面輪積痕。外面は、口縁部縦ハケナデ後横指ナデ、頸部に7条を1単位とする時計回り簾状文施文後、上下に波状文。内面は横ハケナデ。	P20・36・40
甕 (弥生)	口縁～胴上部の残	2	(12.6) (8.7) —	砂粒を含む。焼成普通。外面スス付着。黒褐色。	頸部は緩やかにくびれ、口唇部は直立する。内面輪積痕。外面は、頸部～胴上部に波状文施文後、口縁部縦ヘラミガキ。内面は横ヘラナデ。	炉No2
甕 (弥生)	胴部下	3	— (11.3) 7.5	細かい砂粒を含む。胎土緻密。焼成良。外面と内面底部にスス付着。にぶい黄橙色。	底部から直線的に立ち上り、胴部中程で内湾する。外面は上半はハケによる整形、下半と内面はていねいなヘラミガキ。	P39・42
甕 (弥生)	胴下半～底部の残	4	— 13.1 7.7	細粒、φ1～8mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良くない。外面、内面底部近くにスス付着。にぶい黄橙色。	底部から直線的に立ち上り、胴部中程で内湾する。外面は縦位の、内面は横位方向へのヘラによる整形。	P8・43・45・63・67
甕 (弥生)	胴下半～底部	5	— (5.6) 9.1	砂粒、黒色粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良くない。にぶい橙色。	外面はヘラによる縦位方向の整形。	P4
壺 (弥生)	肩部破片	6	— — —	細かい黒色粒を含む。胎土やや緻密。焼成良くなくザラつく。浅黄橙色。	上部は5～6本単位の波状沈線文。それ以下はハケ整形後沈線により三角文が施され、交点に円形の刺突された粘土が貼付される。	P3 写図44
甕 (弥生)	頸部～肩部破片	7	— — —	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良くない。黄橙色。	頸部は9本単位の簾状文が右から左方向へ施文される。それ以下は波状沈線を施文。	P7・9 写図44
甕 (弥生)	口縁の残存	8	(17.0) (5.2) —	砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成普通。にぶい黄橙色。	内面輪積痕。外面は、口唇部に波状沈線、口縁部横位のナデ、頸部右から左へ簾状文。	P44 写図44
甕 (弥生)	口縁部破片	9	— (5.5) —	砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成普通。外面スス付着。にぶい黄橙色。	内面輪積痕。外面は口唇部波状文。口縁上部横位のナデ。口縁部斜めハケ整形。	P66・フク土 写図44

4区12号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
凹石	10	9.8	7.5	3.3	365	粗粒安山岩	両面円錐状に凹む。側縁敲打痕。	S1 写図42
敲打具	11	15.1	6.7	4.0	551	粗粒安山岩	両端側縁に敲打痕。トーン部磨り面。	写図42
打斧	12	6.6	4.5	1.7	49	硬質泥岩	上端欠損。先端部擦っている。	S2 写図42
丸石	13	3.3	2.9	1.8	26	チャート	全面磨かれている感じ。	南隅床直 写図42
磨製石鉄	14	3.1	1.9	0.2	1.63	珪質準片岩	左右対象形。両面研磨。側縁打ち欠き。	No1



第116図 4区12号住居址出土遺物

4区13号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	口縁欠損	1	11.8 6.0 ●	砂粒、雲母、小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。底面にスス付着。橙色。	丸底、体部は内湾する。口縁は横位のナデ。内面斜放射のヘラミガキ。底面ヘラケズリ	No.1・No.2・No.5 床直・No.23カマド・フク土 写図19

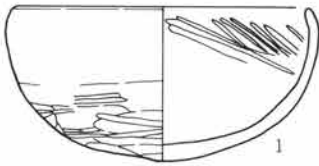
4区15号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺 土師器	胴部欠残存	1	— (11.6) —	細かい砂粒を含む。胎土緻密。焼成良。胴部にスス付着。黄褐色。	胴部は球形に脹らむ。内面は横位、外面は上半で縦位、下半は横位のハケ整形。	P 2・4・フク土
壺 土師器	口縁破片	2	(22.0) (3.0) ●	細かい砂粒を含む。胎土やや粗密。焼成良くない。にぶい赤褐色。	口縁内面と外面は櫛歯状工具により矢羽根状に施文される。折り反した口唇部には数条の沈線が施文される。	フク土・144土坑フク土
壺 土師器	胴部欠残存	3	— (10.7)	砂粒、雲母を含む。胎土緻密。焼成良。赤色。	外面は横位のミガキ。内面はヘラによる整形が施される。	P 4
甕 土師器	脚部	4	— 6.4 8.9	細かい砂粒を含む。胎土緻密。焼成あまり良くない。にぶい黄褐色。	表面はハケによる整形の後、底部との接合によるナデを施す。内面は横位のナデ。	P 2・フク土
甕 土師器	底部	5	— (2.6) 7.7	細かい砂粒を少量含む。胎土緻密。焼成あまり良くない。内面黒色。にぶい黄褐色。	表面は縦位のヘラミガキ。	P32
埴 土師器	胴部欠損	6	8.6 14.5 3.6	砂粒、 ϕ 1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。灰白色。	口縁内面縦位のヘラミガキ。外面縦位のヘラミガキ後上半を横位にミガキ。胴部外面は斜位のミガキ。内面ヘラ整形	P 60・61・63・22 写図21
高杯 土師器	杯部	7	(12.1) (7.2)	砂粒、黒色粒、 ϕ 1～3mmの小石。胎土やや緻密。焼成良。外面に黒褐色の塗料。灰白色。	口縁内外面は横位のナデ、それ以下はヘラミガキによる整形。	フク土 写図21
器台 土師器	脚部	8	— (5.5) 18.2	砂粒、雲母、黒色粒を含む。胎土緻密。焼成普通。若干ザラつく。にぶい橙色。	透は二段に四個づつ付けられる。裾部端は横位のナデ整形。表面はヘラミガキ。	P 1 写図21
壺 (弥生)	胴部破片	9	— — —	細かい砂粒を少量含む。胎土緻密。焼成良。外面赤色塗彩褐色。	無文部は赤色塗彩でミガキを施す。縄文部は単節 LR の斜行縄文。	No.31

4区15号住居址遺物観察表

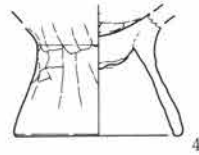
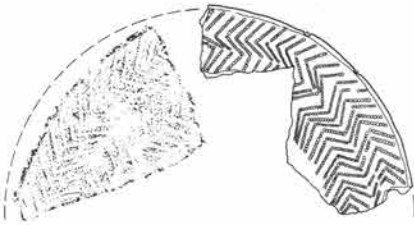
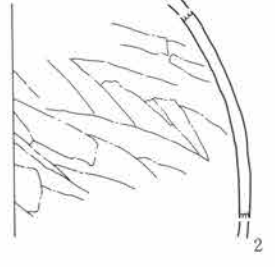
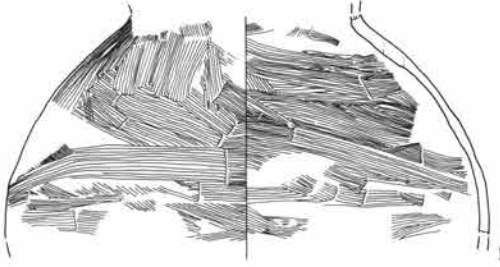
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	10	6.9	5.7	3.7	210	砥沢石	両端敲打痕。細長い研磨痕。	S 3 写図45

4-13住

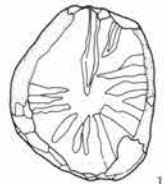
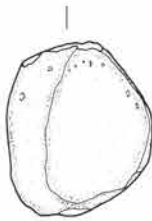
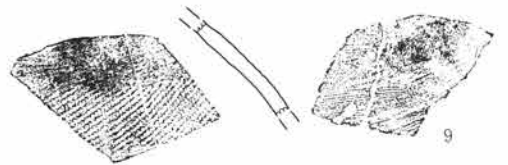
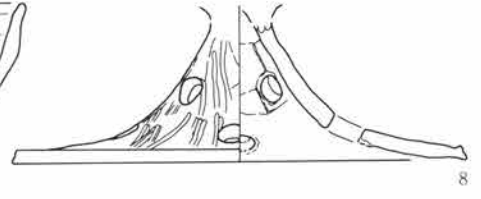
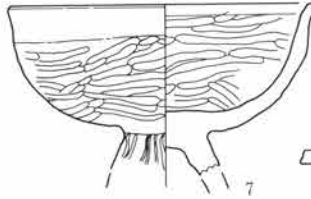
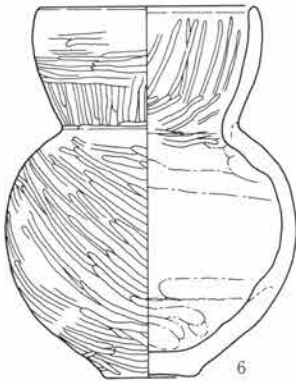
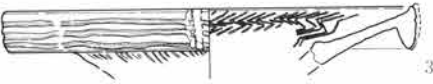


1:3

4-15住



0 1:4 10cm



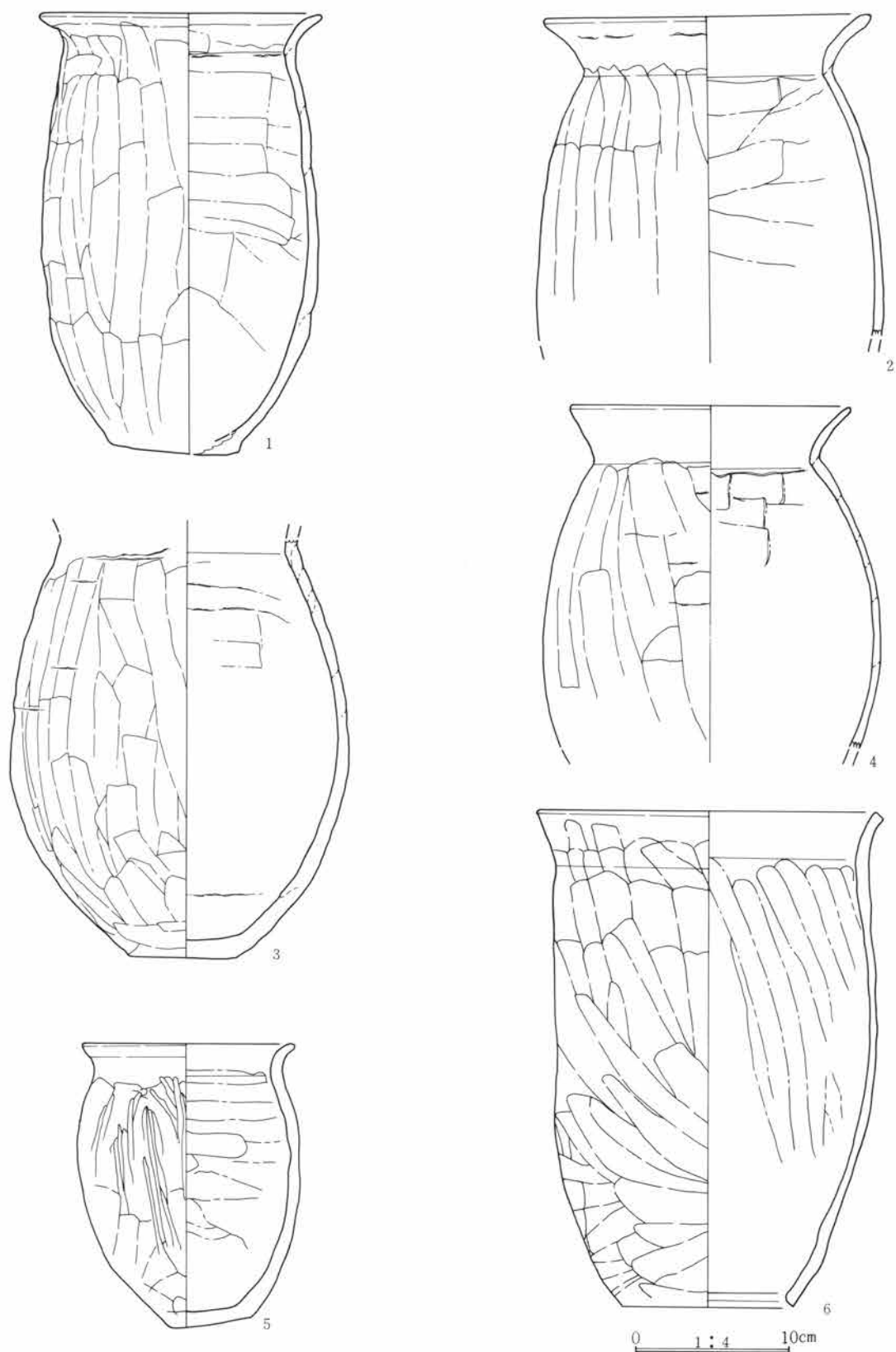
10

0 1:3 10cm

第117図 4区13号、15号住居址出土遺物

4区14号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	胴部一部 欠損	1	18.0 (28.1) (8.0)	砂粒、 ϕ 1~5 mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成普通。内面底部近く、表面の剥落とスス、外面上半にスス付着。にぶい黄橙色。	胴部下半が若干張り出し直線的に立ち上る。口縁外反。胴部外面は下から上方向へのヘラケズリ。内面は横位のヘラによるナデ。	No22 写真19
甕 土師器	口縁~胴 部 $\frac{1}{2}$	2	(21.0) (20.3) —	砂粒、 ϕ 1~8 mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成普通。外面に粘土が付着。明黄褐色。	胴部はゆるく内湾し、大きく外反する口縁に続く。口縁内外面に横位のナデ。胴部外面は下から上へのヘラケズリ。内面横位のヘラケズリ。	P66・67・68・69・175・ カマド内180・183・貯 蔵穴
甕 土師器	口縁欠損	3	— (27.4) 6.8	砂粒、 ϕ 1~5 mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。外面にスス付着。火熱を受けた部分有。赤色、橙色。	胴部下半に脹らみを持つ。胴上部に輪積痕を残す。外面は下から上へのヘラケズリ。内面は横位のナデ。	カマド内No181 写真19
甕 土師器	胴部下半 欠損	4	18.0 (21.9) —	砂粒、 ϕ 1~8 mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。内面、外面口縁直下にスス付着。にぶい黄橙色。	胴部は脹らみ「く」の字状に屈曲する口縁に続く。最大径は胴部中程。口縁内外面横位のナデ。胴外面下から上へのヘラケズリ。胴内面は横位のヘラによるナデ。	P 1・49・79・85・44・ 88・102・134・142・144・ 148・149・154・V層 写真19
甕 土師器	口縁~胴 部	5	(13.6) 18.2 (5.2)	砂粒、 ϕ 1~5 mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。内面に暗褐色の付着物。橙色。	胴部は中程脹らみ、外反する口縁に続く。口縁内外面は横位のナデ。外面は縦位のヘラケズリ。内面は横位のヘラケズリ。	カマド内P33・34 181・カマド内
甕 土師器	口縁~胴 部 $\frac{2}{3}$ 残	6	22.2 31.8 11.0	砂粒、 ϕ 1~8 mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。橙色。	口縁部はゆるく外反し、胴部はほぼ直線的に立ち上る。口縁部内外面は横位のナデ。外面は下から上方向のヘラケズリ。内面は縦位のナデ。	P48・50・56・59・70・ 72・85・174 カマド内186 写真19
甕 土師器	口縁~胴 部 $\frac{1}{2}$ 欠損	7	15.9 15.8 5.7	砂粒、 ϕ 1~5 mmの小石を含む。胎土はやや粗密。焼成良。胴下半に暗褐色の付着物。橙色。	胴中程に最大径を持ち、口縁部境界にわずかに稜を持つ。口縁はゆるく外反する。口縁内外面は、横位のナデ。胴部は斜下から上へのヘラケズリ。底部孔周辺の内面ヘラケズリ整形。	P 4・158・159 写真19
杯 土師器	完形	8	11.7 5.0 ●	砂粒、雲母、 ϕ 1~5 mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。底部スス付着。橙色。	体部は内湾して立ち上る。丸底。口縁は横位のナデ。内面斜放射状のヘラミガキ。外底面ヘラケズリ。	P114 写真19
杯 土師器	完形	9	11.6 5.6 ●	砂粒、 ϕ 1~3 mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。底部スス付着。橙色。	体部は内湾して立ち上る。丸底。口縁は横位のナデ。内面斜放射状のヘラミガキ。外底面ヘラケズリ。	P123 写真19



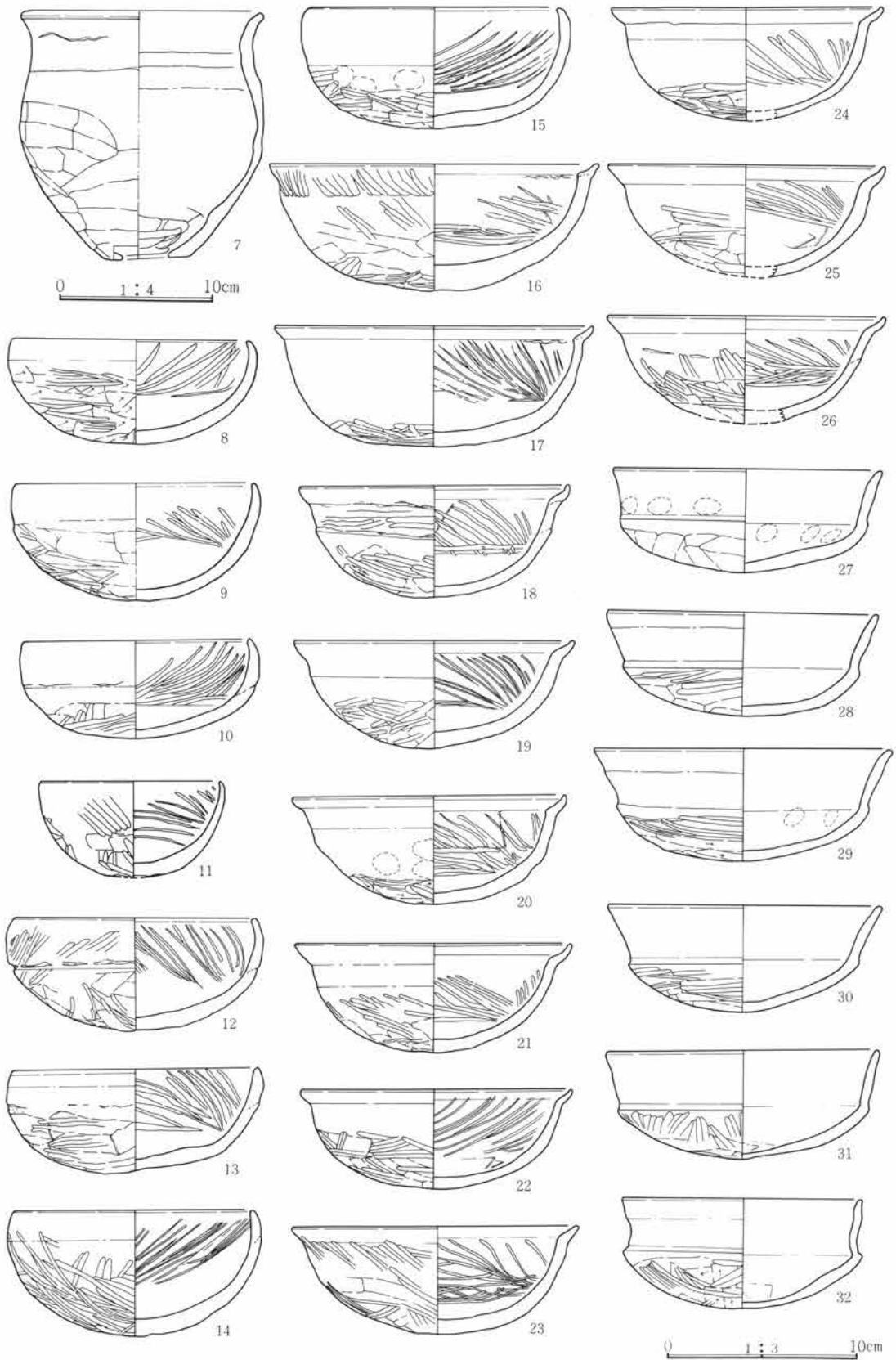
第118図 4区14号住居址出土遺物

第2節 竪穴住居址出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	完形	10	11.0 4.7 ●	砂粒、雲母、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良外面口縁付近にスス付着。橙色。	体部は内湾して立ち上る。口縁との境界にわずかに稜ができる。底面は平底化するが体部との境は明確でない。口縁は横位のナデ。内面斜放射状のミガキ。外底面へラケズリ。	P 3 写図20
杯土師器	口縁一部欠損	11	8.9 4.6 ●	砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。内面口縁にスス付着。橙色。	体部から内湾して立ち上る。丸底。口縁部横位のナデ。内面斜放射状のへらミガキ。外底面へラケズリ。	P 83 写図20
杯土師器	口縁一部欠損	12	11.7 5.4 ●	砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。外面にスス付着。明赤褐色。	体部から内湾して立ち上る。丸底。体部と口縁部の境に輪積痕を残す。口縁横位のナデ内面斜放射状のへらミガキ。外底面へラケズリ後へらミガキ。	P 128・134・138 写図20
杯土師器	口縁一部欠損	13	12.0 4.9 ●	砂粒、雲母、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成普通。明赤褐色。	体部から内湾して立ち上る。丸底。口縁横位のナデ。内面斜放射状のへらミガキ。外底面へラケズリ後へらミガキ。	P 95・119 写図20
杯土師器	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠損	14	11.7 6.1 ●	砂粒、雲母、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。外底面スス付着。明赤褐色。	体部から内湾して立ち上る。丸底。口縁横位のナデ。内面斜放射状のへらミガキ。外底面へラケズリ後へらミガキ	P 133 写図20
杯土師器	$\frac{1}{2}$ 残存	15	12.0 5.8 ●	砂粒、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成普通。外底面スス付着。橙色。	体部から内湾して立ち上る。やや平底化した丸底。口縁部横位のナデ。内面斜放射状のへらミガキ。外底面へラケズリ。	P 9 写図20
杯土師器	完形	16	15.8 6.1 ●	砂粒、雲母、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成普通。赤色。	体部から内湾して立ち上り口縁で屈曲し、内斜口縁になる。丸底。口縁横位のナデ。内面斜放射状のへらミガキ。外底面はへらによる整形。	P 165 写図20
杯土師器	体部一部欠損	17	15.6 15.8 ●	砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成普通。表面の一部にスス付着。赤褐色。	体部から内湾して立ち上り口縁で屈曲し、内斜口縁になるやや平底化した丸底。口縁横位のナデ。内面斜放射状のへらミガキ。外底面をへラケズリを施し、平底化している。	P 14・93・129・144 写図20
杯土師器	完形	18	13.0 5.4 ●	砂粒、雲母、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含む。胎土緻密。焼成あまり良くない。口縁外側にスス付着。橙色。	体部から内湾して立ち上り口縁で屈曲し、内斜口縁になる口唇部は直立する。口縁は横位のナデ。内面斜放射状のへらミガキ。外面へら整形。	P 146・150・151 写図20

第3章 出土した遺物

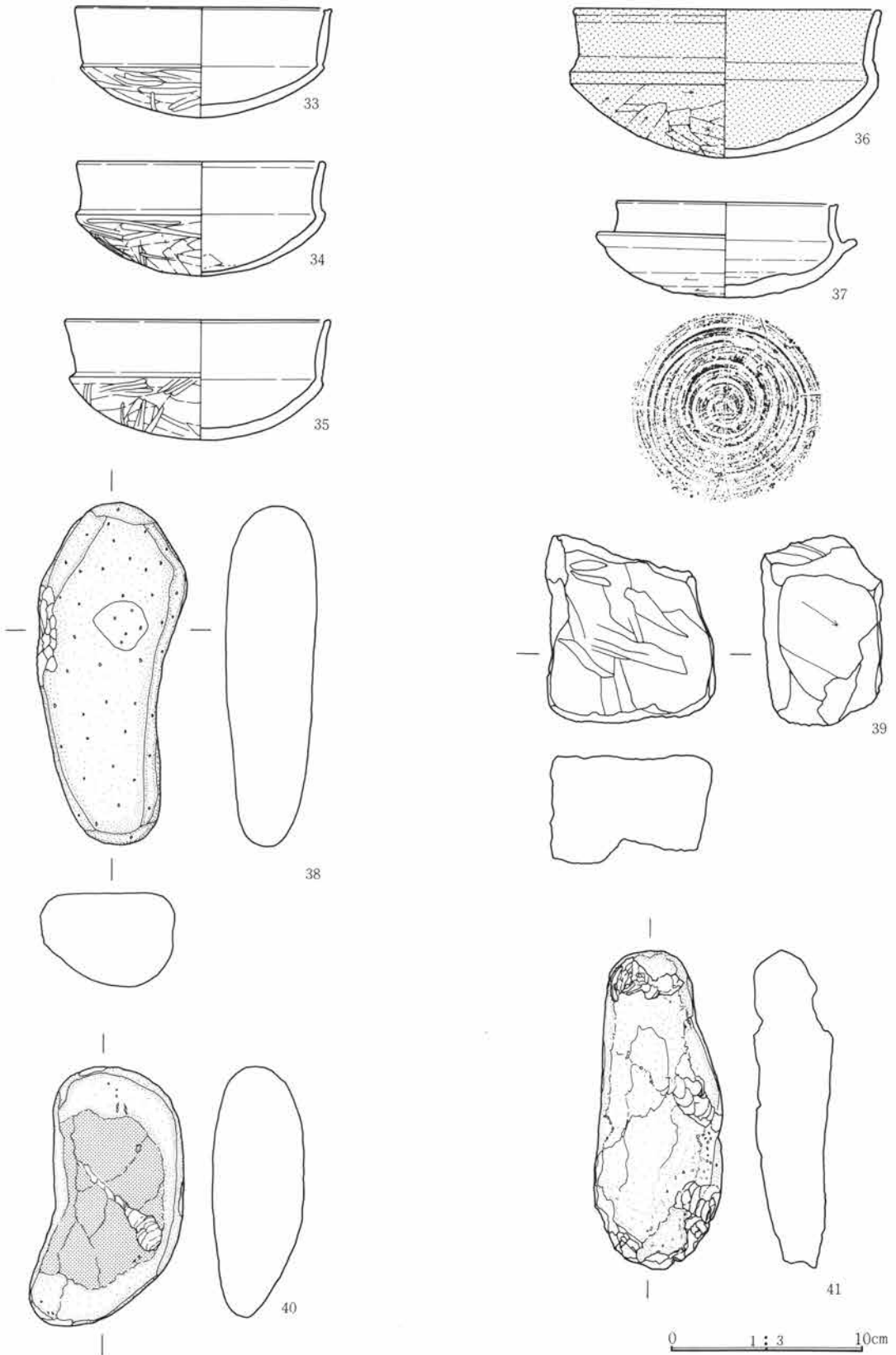
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	完形	19	13.6 5.2 ●	砂粒、雲母、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。内外面とも体部中程に環状にスス付着。赤色。	体部から内湾して立ち上り口縁で屈曲し、内斜口縁になる口唇部内面に稜を持つ。口縁横位のナデ。内面斜放射状のヘラミガキ。外底面ヘラ整形。	P 8 写図20
杯土師器	完形	20	13.4 5.2 ●	砂粒、黒色粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。橙色。	体部から内湾して立ち上り口縁で屈曲し、内斜口縁になる口唇部内面に稜を持つ。口縁横位のナデ。内面斜放射状のヘラミガキ。外底面ヘラケズリ。体部中程に指頭痕。	P137 写図20
杯土師器	口縁一部欠損	21	13.4 5.3 ●	砂粒、黒色粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。橙色。	体部から内湾して立ち上り口縁で屈曲し、内斜口縁になる口唇部内面に稜を持つ。口縁横位のナデ。内面斜放射状のヘラミガキ。外底面ヘラ整形。	P139 写図20
杯土師器	口縁一部欠損	22	13.7 4.8 ●	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。底部スス付着。橙色。	体部から内湾して立ち上り口縁で屈曲し、内斜口縁になる口唇部内面に稜を持つ。口縁横位のナデ。内面斜放射状のヘラミガキ。外底面ヘラミガキ。	P140 写図20
杯土師器	体部一部欠損	23	13.8 5.2 ●	砂粒、雲母、φ1～5mmの小石を多く含む。胎土やや粗密焼成普通。明赤褐色。	体部から内湾して立ち上り口縁で屈曲し、内斜口縁になる丸底。口縁横位のナデ。内面斜放射状のヘラミガキ。外底面ヘラ整形。	P 4 写図20
杯土師器	口縁～底部一部欠損	24	13.0 (5.4) ●	砂粒、雲母、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。底部にスス付着。橙色	体部から内湾して立ち上り口縁で屈曲し、内斜口縁になる丸底。口縁横位のナデ。内面斜放射状のヘラミガキ。外底面ヘラケズリ後ヘラミガキ。	P104・105・131・138・146・147 写図20
杯土師器	ㄨ残存	25	13.4 5.4 ●	砂粒、雲母、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成あまり良くない。橙色。	体部から内湾して立ち上り口縁で屈曲し、内斜口縁になる口唇部内面に稜を持つ。丸底。口縁横位のナデ。内面斜放射状のヘラミガキ。外底面ヘラケズリ。	P 40 写図20
杯土師器	ㄨ残存	26	13.4 (5.2) ●	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良い明赤褐色。	体部から内湾して立ち上り口縁で屈曲し、内斜口縁になる口唇部内面に稜を持つ。丸底口縁部横位のナデ。内面斜放射状のヘラミガキ。外底面ヘラケズリ。	P93・94・97・105 写図20



第119図 4区14号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	完形	27	12.9 5.0 ●	砂粒、 $\phi 1 \sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成普通橙色。	体部は内湾し、口縁部下に段を持つ。口縁は外反する。丸底。口縁横位のナデ。外底面ヘラによる整形。内面に指頭圧痕を残す。	P166 写図20
杯土師器	体部一部欠損	28	13.1 5.0 ●	砂粒、 $\phi 1 \sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成あまり良くなく、ザラつく。底部にスス付着。にぶい橙色。	体部は内湾し、口縁部下に段を持つ。口縁は外反する。丸底。口縁横位のナデ。外底面ヘラケズリ。	P116・117・118 写図20
杯土師器	口縁一部欠損	29	14.3 5.4 ●	砂粒、雲母、 $\phi 1 \sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成あまり良くなく、ザラつく。橙色。	体部は内湾し、口縁部下に段を持つ。口縁は外反する。丸底。口縁横位のナデ。外底面ヘラケズリ後、体部上部ヘラミガキ。内面指頭圧痕を残す。	P141・143 写図20
杯土師器	%残存	30	13.2 5.1 ●	砂粒、 $\phi 1 \sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成あまり良くない。橙色。	体部は内湾し、口縁部下に段を持つ。口縁は外反する。丸底。口縁横位のナデ。内面ヘラによる整形痕。外底面ヘラケズリ後、体部上部ヘラミガキ。	P118・167・168
杯土師器	完形	31	13.2 5.2 ●	砂粒、黒色粒、 $\phi 1 \sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい褐色。	体部は内湾し、口縁部下に段を持つ。口縁は外反する。丸底。口縁横位のナデ。内面ヘラによる整形痕。外底面ヘラによる整形の後ヘラミガキ。	P7 写図20
杯土師器	完形	32	11.7 5.3 ●	砂粒、 $\phi 1 \sim 3$ mmの小石多く含む。胎土やや緻密。焼成良。底面にスス付着。橙色。	体部は内湾し、口縁部下に段を持つ。口縁は外反する。丸底。口縁横位のナデ。内面ナデ痕が残る。外底面ヘラケズリ。	P126 写図21
杯土師器	完形	33	12.3 5.2 ●	砂粒、 $\phi 1 \sim 3$ mmの小石多く含む。胎土やや緻密。焼成良。底面、口縁外面にスス付着。橙色。	体部は内湾し、口縁部下に段を持つ。口縁は直立する。丸底。口縁横位のナデ。内底面ナデ痕、指頭痕残る。外底面ヘラケズリ。	P136 写図21
杯土師器	完形	34	11.8 5.4 ●	砂粒、 $\phi 1 \sim 3$ mmの小石多く含む。胎土やや緻密。焼成良。内面に暗褐色の付着物。橙色。	体部は内湾し、口縁部下に段を持つ。口縁は外反する。丸底。口縁横位のナデ。内底面ナデ痕残る。外底面ヘラケズリ。	P135 写図21
杯土師器	口縁一部欠損	35	12.7 5.8 ●	砂粒、 $\phi 1 \sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。橙色。	体部は内湾し、口縁部下に段を持つ。口縁は外反する。丸底。口縁は横位のナデ。内底面ナデ痕。指頭痕残る。外底面ヘラケズリ。	P129・130・131・153・ フク土中 写図21



第120図 4区14号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	体部一部欠損	36	14.3 7.0 ●	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。内外面の一部にスス付着。赤橙色。	体部は内湾し、口縁部下に段を持つ。口縁は外反する。丸底。口縁横位のナデ。ナデ痕残す。外底面へラケズリ。	P11・89・171 写図21
杯須恵器	口縁一部欠損	37	10.7 4.5 ●	砂粒、 ϕ 1~5mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。外面に自然釉。灰色。	体部は内湾し、口縁下に段を持ち受け部はするどく張り出す。丸底。ロクロ整形。口縁部ヨコナデ。	P135 写図21

4区14号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲打具	38	16.3	6.6	4.4	770	粗粒安山岩	両端側縁、表面に円形に敲打痕。	No19 写図44
砥石	39	8.9	7.9	5.5	440	砂岩	刃部を研いたような細い研ぎ痕。	No9 写図44
敲打石	40	12.0	6.2	4.4	524	粗粒安山岩	両端に敲打痕。トーン部磨り面。	No20 写図44
敲打石	41	15.1	6.0	3.4	526	礫岩	両端に敲打痕。表面剝離。	No6 写図44
白玉	42	0.75	0.75	0.55	0.45	滑石	側面研磨。管玉を切断する。切断面未調整。	写図40
白玉	43	0.8	0.7	0.4	0.33	滑石	側面研磨。管玉を切断する。切断面未調整。	写図40
白玉	44	0.7	0.8	0.3	0.25	滑石	側面研磨。管玉を切断する。切断面未調整。	写図40
白玉	45	0.8	0.8	0.4	0.22	滑石	側面研磨。管玉を切断する。切断面未調整。	写図40
白玉	46	0.8	0.8	0.3	0.30	滑石	側面研磨。管玉を切断する。切断面未調整。	写図40
白玉	47	0.8	0.8	0.5	0.43	滑石	側面研磨。管玉を切断する。切断面未調整。	写図40
白玉	48	0.8	0.8	0.5	0.39	滑石	側面研磨。管玉を切断する。切断面未調整。	写図40
白玉	49	0.8	0.7	0.6	0.49	滑石	側面研磨。管玉を切断する。切断面未調整。	写図40
白玉	50	0.8	0.7	0.2	0.16	滑石	側面研磨。管玉を切断する。切断面未調整。	写図40
白玉	51	0.7	0.7	0.5	0.36	滑石	側面研磨。管玉を切断する。切断面未調整。	写図40
白玉	52	0.8	0.8	0.4	0.38	滑石	側面研磨。管玉を切断する。切断面未調整。	写図40
白玉	53	0.8	0.8	0.4	0.32	滑石	側面研磨。管玉を切断する。切断面未調整。	写図40
白玉	54	0.8	0.7	0.6	0.54	滑石	側面研磨。管玉を切断する。切断面未調整。	写図40
剣形品	55	4.3	3.2	0.7	11.9	滑石	全面研磨するが自然面を残す。	No1 写図40
勾玉	56	3.5	1.3	0.5	2.97	滑石	表裏面研磨。両側縁を欠損する。	No2 写図40

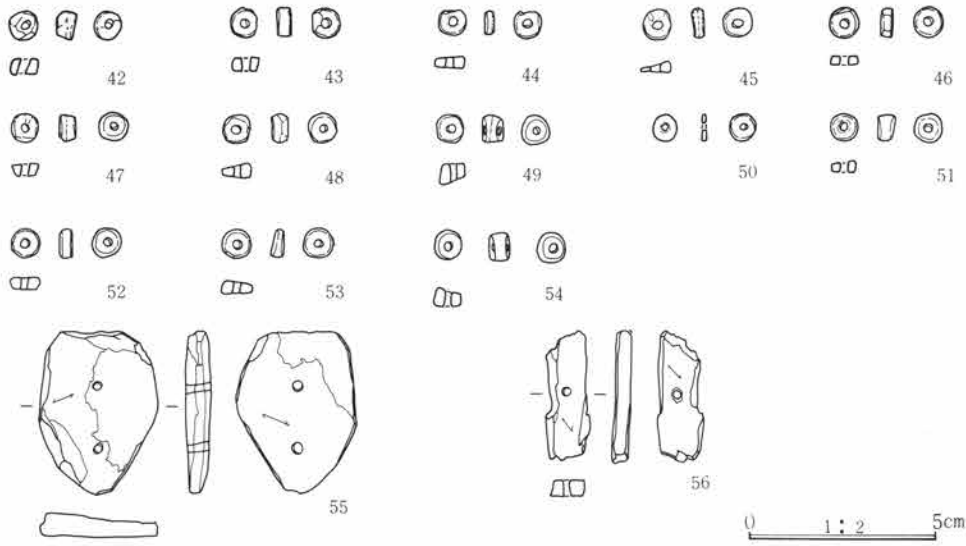
4区16号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕土師器	口縁~胴部	1	(14.6) (8.1) —	細かい砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。内外面の一部にスス付着。橙色。	胴部は脹らみ口縁は外反する。口縁内外面横位のナデ後、胴部はへらによるナデ。内面に輪積痕、指頭痕を残す。	P16・17
杯土師器	一部欠損	2	10.2 5.7 4.6	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成あまり良くない。明黄褐色。	体部は内湾する。平底。口縁横位のナデ。外底面へラケズリ。	写図21

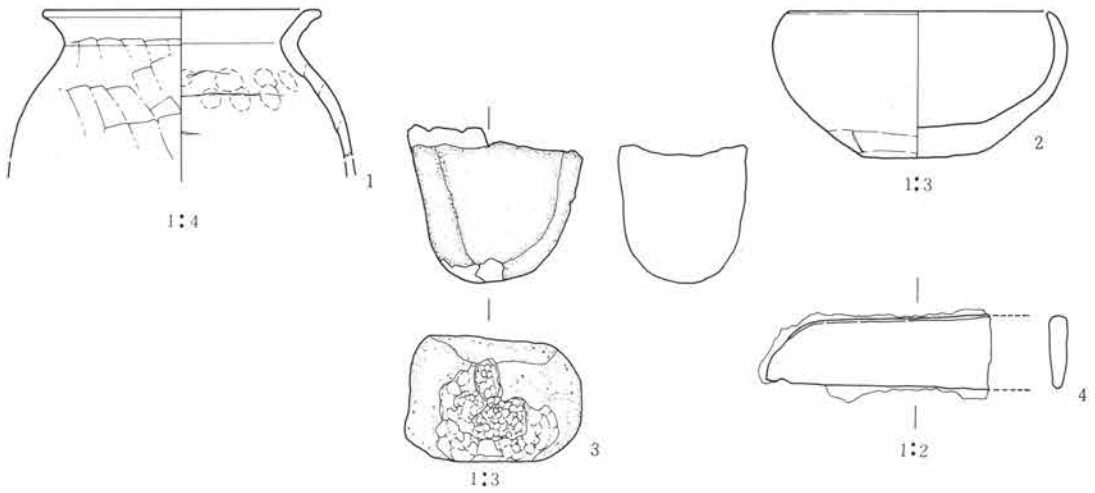
4区16号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲打石	3	5.4	6.9	5.1	270	粗粒安山岩	上半欠損。端部敲打痕。	S1 写図45
鎌	4	6.0	2.0	0.5	6.3	鉄	刃部は直線。刃部の消耗は少ない。	鉄器No1

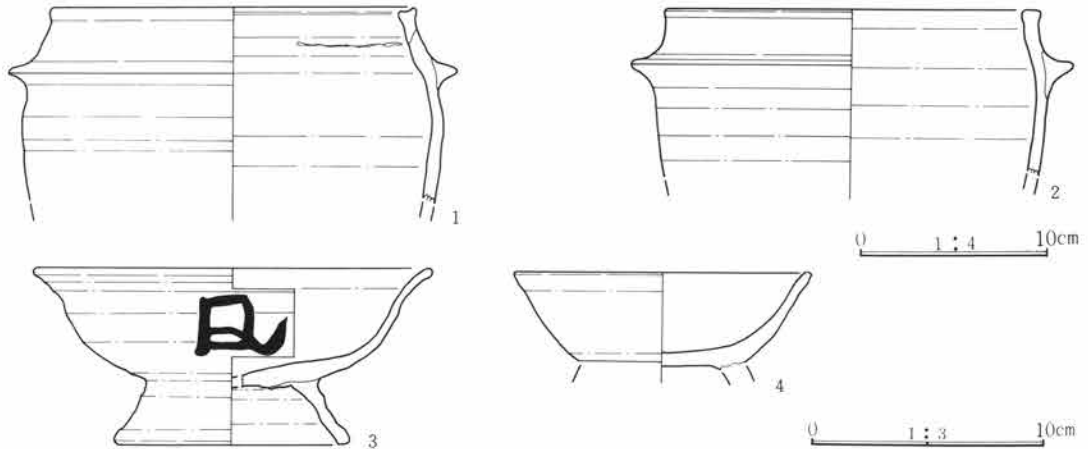
4-14住



4-16住



4-17住



第121図 4区14号、16号、17号住居址出土遺物

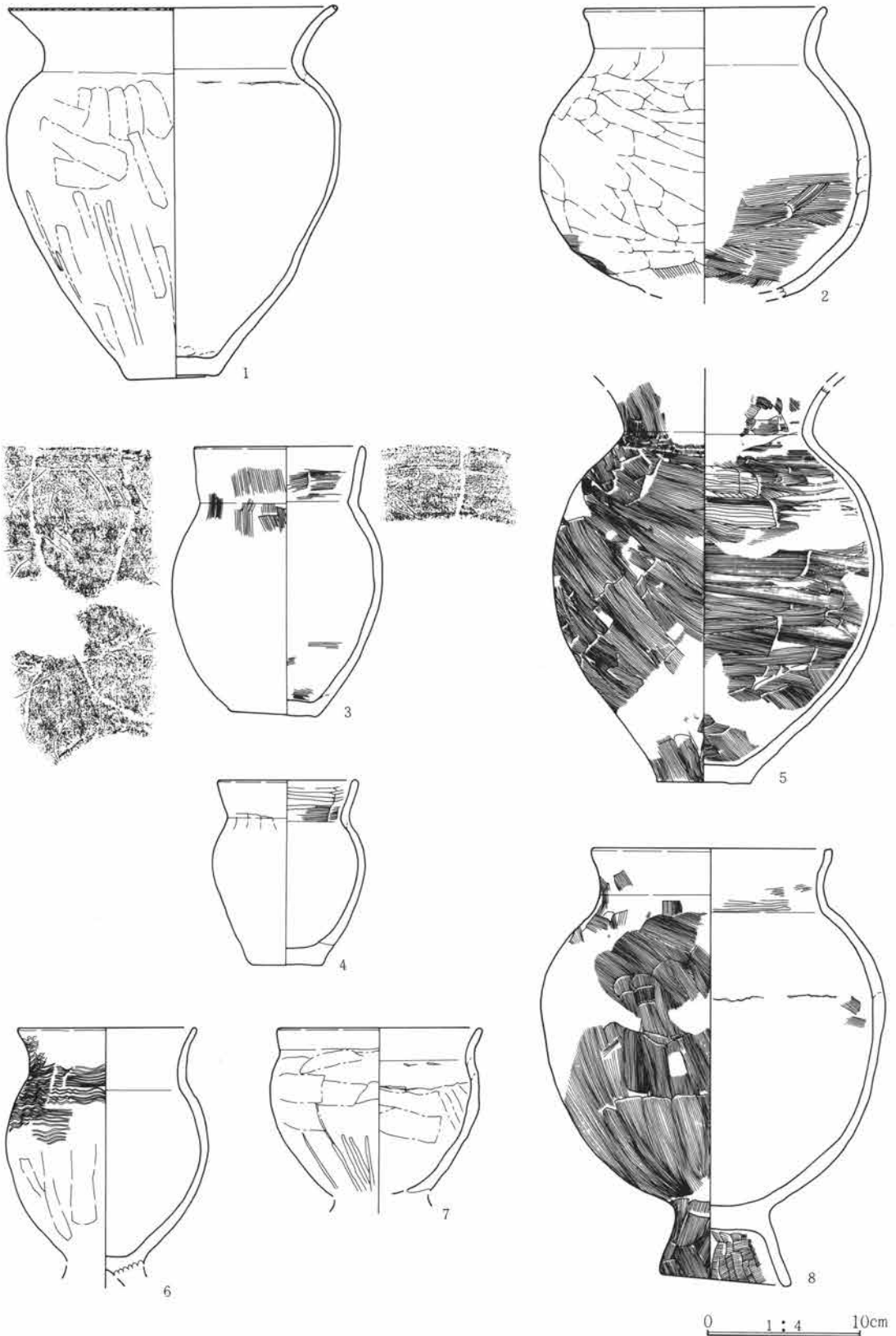
第3章 出土した遺物

4区17号住居址遺物観察表

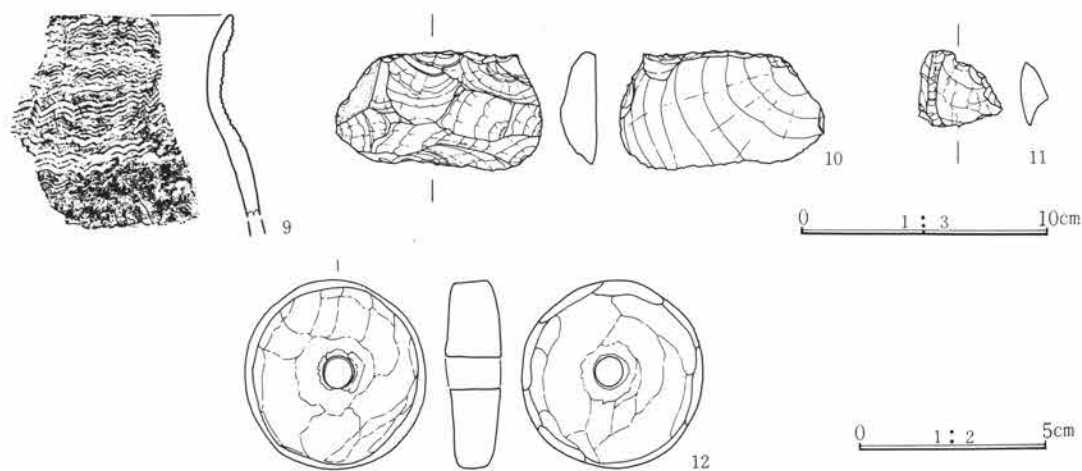
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁～胴上部の欠	1	(19.4) (10.3) —	砂粒、小石を含む。焼成良好明黄褐色。	内外面回転横ナデ。	カマド内No.3・カマド内No.11
羽釜	口縁～胴上部の欠	2	(19.9) (8.8) —	砂粒を含む。焼成良好。にぶい黄橙色。	内外面回転横ナデ。	カマド内
椀	体部～高台部欠損	3	(16.0) 7.0 (9.4)	砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。酸化焰焼成。にぶい褐色。	体部は内湾し、口縁は外反する。高台部は外側に開く。ロクロ整形、ロクロ目弱い。底部右回転糸切り高台貼り付け後良くナデる。	墨書土器。字体不明。カマド内No.1・8・9・10・フグ土中・カマド
椀	体部欠残	4	(11.8) (3.7) —	砂粒、φ1～5mmの小石を多く含む。胎土やや緻密。焼成良。酸化焰焼成。浅黄色。	体部はゆるく内湾し、口縁は外反する。ロクロ整形、ロクロ目は弱い。底部右回転糸切り高台貼り付け後ナデ。	カマド内No.2

4区18号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕土師器	胴部一部欠損	1	(21.2) 23.8 6.0	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。外底面近くにスス付着。明赤褐色。	底部から直線的に開き、胴上半で湾曲し、肩が張る。口縁は「く」の字に屈曲する。口縁は横位のナデ。内底面に指頭圧痕。外面はヘラによるナデ整形。	P1 写図21
甕土師器	口縁～胴底部欠損	2	(15.6) 18.5 —	砂粒を多く含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。全体に磨滅。にぶい黄橙色。	胴部は球形を呈し、口縁はゆるやかに外反する。口縁横位のナデ。胴内面はハケによる整形、輪積痕を残す。外面はハケ整形後ヘラによるナデ。	P62・64 写図21
甕土師器	部分的に欠損	3	11.1 17.2 5.7	砂粒を多く含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。外面肩部にスス付着。全体に磨滅。にぶい黄褐色。	胴部はゆるく内湾して立ち上り、外側に直線的に開く口縁に続く。口縁外面横位のナデ内面ハケによる整形。外面口縁から肩部にかけてハケ整形	P49
甕土師器	欠残存	4	9.0 11.9 4.9	細かい砂粒を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。外面にスス付着。全体に磨滅にぶい橙色。	胴部はゆるく内湾して立ち上り、外側に直線的に開く口縁に続く。口縁外面横位のナデ内面ハケ整形後ナデ。外面頸部ヘラ整形。	P40
甕	全体の欠	5	— (25.3) 6.0	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。外面胴下半にスス付着。にぶい黄褐色。	胴は丸く張り出し、外反する口縁に続く。内面は横位、外面は斜位のハケ目整形。	P3・4・9・12・53・58・60・61・96・100



第122図 4区18号住居址出土遺物



第123図 4区18号住居址出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
台付甕土師器	口縁の一部、脚部欠損	6	(11.6) (15.9) —	砂粒、 ϕ 1~3 mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。外底面スス附着。にぶい黄褐色。	胴部は内湾して立ち上り、ゆるく外反する口縁に続く。口縁波状沈線、頸部ゆるい波状沈線。肩部波状沈線を施文。胴下半は縦位のナデ。口縁内面は横位のナデ。	写図21
台付甕土師器	口縁の一部、脚部欠損	7	(13.4) (10.9) —	砂粒、 ϕ 1~5 mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。胴部外面、内底面にスス附着。にぶい黄橙色。	胴部は内湾して立ち上り肩部が張る。口縁はゆるく外反。口縁内外面横位のナデ。内面横位にヘラによるナデ。外面胴上半横位のナデ、下半縦位のミガキ。	P 10 写図21
台付甕土師器	胴部欠損	8	(15.4) 27.9 8.5	砂粒、 ϕ 1~3 mmの小石を多く含む。胎土やや緻密。焼成あまり良くない。胴部外面中程にスス附着。にぶい黄橙色	胴部は丸く内湾し、直立ぎみの口縁に続く。口縁内外面横位のナデ。外面、脚内面ハケ整形。	写図22
甕 (弥生)	口縁~頸部	9	— — —	細かい砂粒、 ϕ 1~5 mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい赤褐色。	胴部は内湾し、口縁はゆるく外反する。口縁~頸部に3本単位の波状沈線多段化させて施文。肩部下を縦位のミガキ	P 83 写図21

4区18号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
剝片	10	4.4	8.0	1.4	78	黒色頁岩	下縁を刃部にする。使用痕有。	S 3 写図42
剝片	11	2.5	3.3	1.1	11	黒色安山岩	下縁に使用痕有。	S 43 写図42
紡錘車	12	5.0	4.8	1.4	38.9	土製	完形品。全面磨き。	P 5 写図34

4区19号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考(出土位置)
甕 (弥生)	口縁～胴部 $\frac{1}{2}$	1	(14.4) (15.5) —	細かい砂粒を少量含む。胎土やや緻密。焼成良。内面上半スス付着。にぶい赤褐色。	胴部ゆるく内湾し、口縁は外反する。内外面ともハケ整形後、口縁横位のナデ、胴部縦位のミガキ。内面横位のナデ頸部8本の沈線による簾状文肩部数本単位の波状沈線。	No83・52 写図22
甕 (弥生)	口縁～頸部 $\frac{1}{2}$	2	20.2 9.7 —	細砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成普通。外面スス付着。暗褐色。	口縁は外反し、口唇部は直立する。内面輪積痕。外面は口唇部波状文。口縁横位のナデ頸部は8本を1単位とする簾状文。内面は横ヘラナデ。胴上部に波状文。	No121 写図22
甕 (弥生)	口縁 $\frac{1}{4}$	3	(24.6) (11.5) —	砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成普通。黄橙色。	口縁は直線的に開き、口唇部は直立する。内外面輪積痕。外面は、口唇部波状文。口縁部はヘラナデ。内面は横位のハケ整形。	No124 写図21
甕 (弥生)	底部	4	— (4.4) 7.4	砂粒、雲母、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい赤褐色。	外面ヘラによる縦位のミガキ内面、横位のミガキ。	No62
甕 (弥生)	底部	5	— (2.4) 9.4	砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい橙色。	外面縦位のハケ整形。内面ヘラによるミガキ。	No99
鉢 (弥生)	$\frac{2}{3}$ 残存	6	11.9 7.7 5.4	砂粒、 $1\sim 5$ mmの小石を含む胎土やや緻密。焼成良。内面スス付着。にぶい橙色。	体部から直線的に開き、口唇で直立する。口縁部横位のナデ。内面横位のミガキ。外面斜位のハケによる整形後上半部は横位のミガキ。	No17・25・30 写図22
高杯 (弥生)	口縁一部欠損	7	13.6 11.0 7.8	砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。内外面赤彩色されるが外面は脱色している。橙色。	杯部は直線的に開き、口縁で大きく外反する。脚も直線的に開く。口縁横位のナデ。杯内面ヘラミガキ。外面ヘラによる整形。脚内面ヘラによるナデ。口唇部には刻みが部分的に施される。	No88 写図22
高杯 (弥生)	杯部 $\frac{2}{3}$	8	13.3 5.8 —	砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。内外面赤色塗彩。赤色。	体部は直線的に開く。内面横位、外面縦位のヘラミガキ。	No97・125・フク土中
高杯 (弥生)	脚部	9	— (7.4) 7.9	細かい砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。外面赤色塗彩。赤色。	脚部は直線的に開く。外面は縦位のヘラミガキ。内面指頭による整形痕。	No133
高杯 (弥生)	脚部	10	— (8.1) 5.9	細かい砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。外面赤色塗彩。赤色。	脚部は直線的に開く。外面は縦位のヘラミガキ。内面指頭による整形痕。	No 5

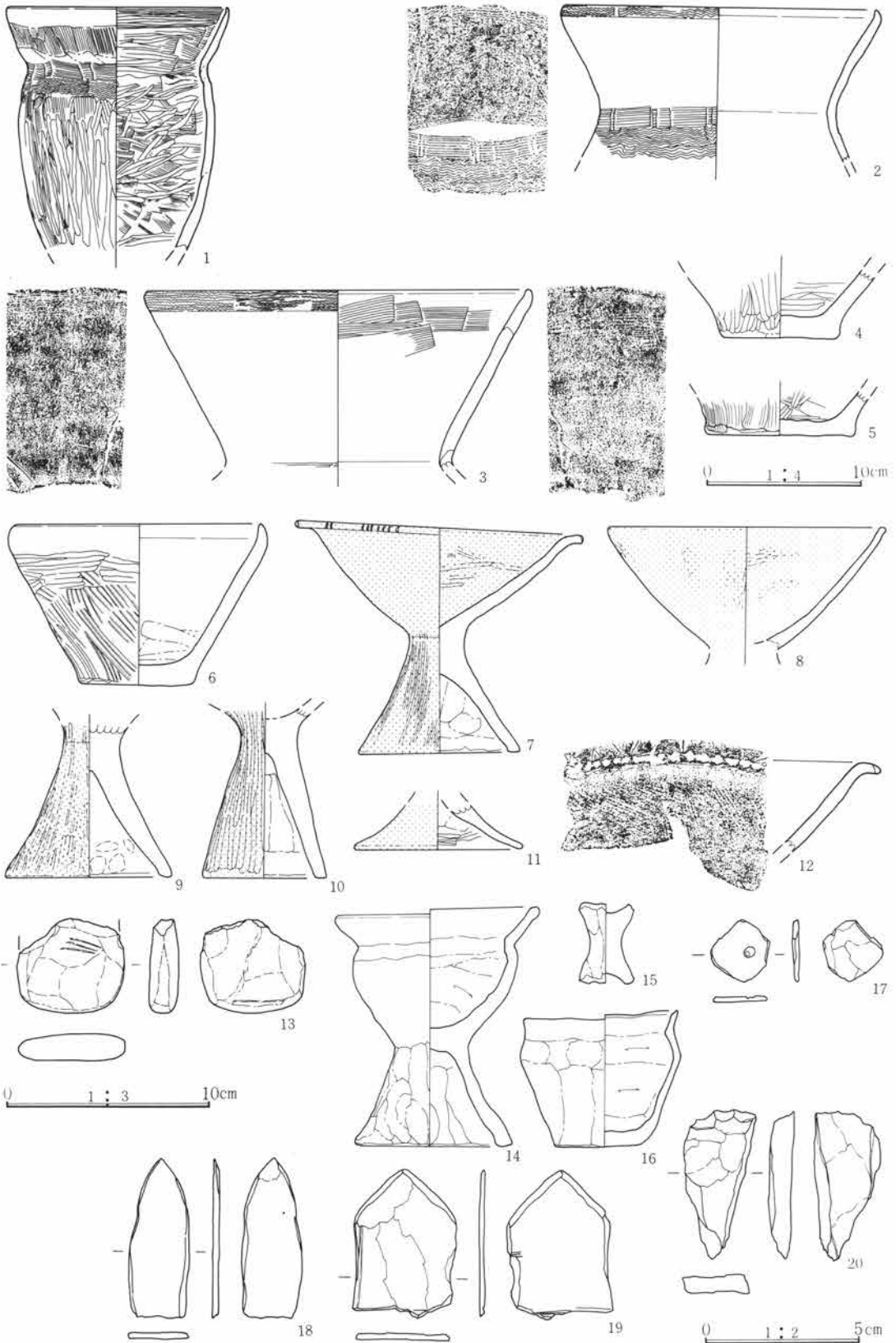
第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
高杯 (弥生)	脚部破片	11	— (2.6) (8.0)	細かい砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。外面赤色塗彩。赤色。	脚部は直線的に大きく開く。外面は縦位のヘラミガキ。内面ヘラ整形。	No18 写図45
高杯 (弥生)	杯部破片	12	— (4.3)	細かい砂粒、 ϕ 1~8mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。内面赤色塗彩。鈍黄橙	内面横位のミガキ。外面ハケ整形。口唇部は刻みを施す。	No114・184 写図45
台付甕 手づくね	完形	14	6.6 7.7 5.1	砂粒、黒色粒子、雲母、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。橙色。	口縁内外面横位のナデ。脚部縦位のヘラミガキ。内面指頭によるナデ。	No61 写図46
高杯 手づくね	脚部	15	器高 2.7	細かい砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい橙色。	脚外面ヘラによる整形。内面に指頭による圧痕を残す。	フク土 写図34
甕 手づくね	口縁一部 欠損	16	5.1 4.3 3.1	砂粒、雲母を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい橙色。	内外面指頭による圧痕を残す口縁外面横位のナデ。底面ヘラ切り。	No198 写図46

4区19号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	13	4.5	5.2	1.4	34	砂岩	表裏面を研ぎ面としている。	No88 写図47
平玉	17	0.2	2.0	0.2	0.99	珪質準片岩	偏平な剥片。中央の穿孔痕は貫通しない。	S20
磨製石鏃	18	5.2	2.0	0.3	4.12	珪質準片岩	左右対象形。全面研磨。側縁若干ゆがむ。	フク土南北壁上部
磨製石鏃	19	4.8	3.1	0.2	6.89	珪質準片岩	基部欠損。偏平な剥片。側縁部抉れる。	PNo116
剥片	20	4.9	2.4	0.9	7.83	珪質準片岩	偏平に打ち欠く。磨製石鏃の未製品か。	No58





第124図 4区19号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

4区21号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀 灰釉陶器	1/2残存	1	16.0 5.2 7.7	砂粒、 ϕ 1~2mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。釉は漬け掛けて淡い緑。灰白色。	体部は内湾して立ち上る。高台部は若干外側に開く。ロクロ整形、ロクロ目は弱い。底部糸切り高台貼り付後でいねいなナデ。	P1・2

4区21号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
鉄製丸棒	2	13.1	0.5	0.1	6.9	鉄	錆化激しい。屈曲なく直線。断面円形。	P5

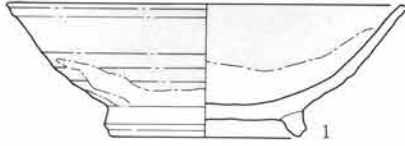
4区22号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺 土師器	胴部欠損	1	16.3 25.5 ●	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。胴外面中程にスス付着。橙色。	胴は球形を呈し、口縁は「く」の字状に外反する。口唇に稜を持ち直立する。丸底。口縁横位のナデ。胴部ヘラ整形後ミガキ。内面に輪積痕。	写図22
高杯 土師器	脚部欠損	2	15.0 (15.0) —	砂粒、 ϕ 1~5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成普通。杯部内面剝落多い。にぶい褐色。	杯部は下端に稜を持ち直線的にのびる。脚は下側が太くなり裾が開く。杯部はナデ整形の後放射状のヘラミガキ。脚外面は縦位のヘラミガキ、内面粘土のシボリ痕。	写図22
高杯 土師器	杯部のみ	3	18.2 (6.1) —	砂粒、 ϕ 1~5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。内面の一部スス付着。浅黄色。	杯部下端に稜を持ち、体部は直線的に開く。横位のナデ整形の後内面は放射状のヘラミガキ。	P6
高杯 土師器	杯部のみ	4	15.8 (7.0) —	砂粒、雲母、 ϕ 1~5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。外面口縁近くにスス付着。赤褐色。	杯部下端に稜を持ち、体部は直線的に開く。横位のナデ整形後内外面とも放射状のヘラミガキ。外面に指頭痕が残る。	P28 写図22
杯 土師器	口縁一部欠損	5	11.8 5.8 ●	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。内外面スス付着。にぶい黄橙	底部は丸味を持ち体部は直線的に開く。口縁横位のナデ。内面、底部ヘラ整形。	P38 写図22

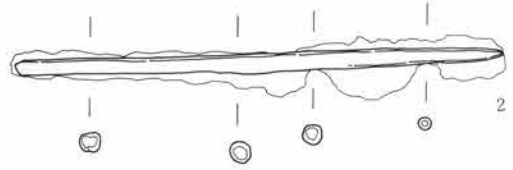
4区22号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
台石	6	10.6	9.4	6.0	1012	粗粒安山岩	表面が若干磨られる。	S2 写図45
砥石	7	14.4	8.4	1.0	159	黒色片岩	偏平。トーン部若干磨られる。	S12 写図45

4-21住

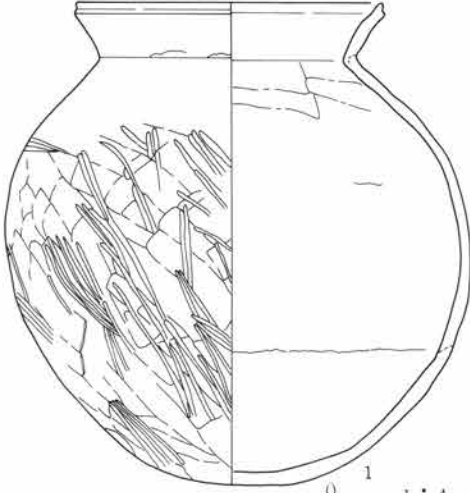


1:3

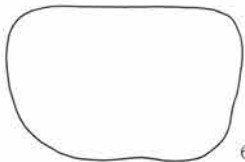
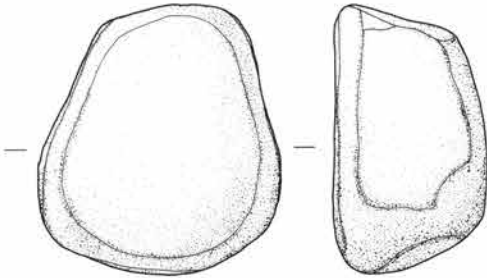
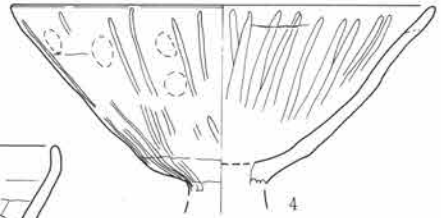
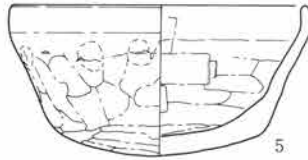
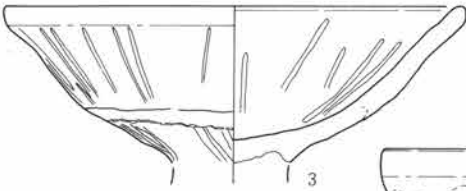
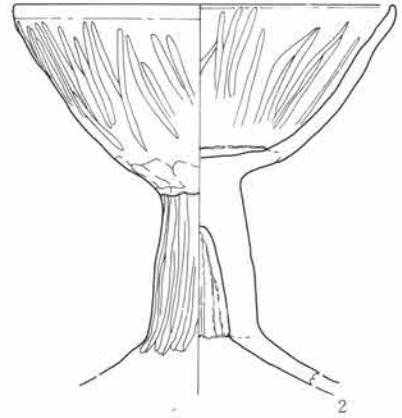


0 1:2 5cm

4-22住



0 1 1:4 10cm



0 1:3 10cm

第125図 4区21号、22号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

4区23号住居址遺物観察表

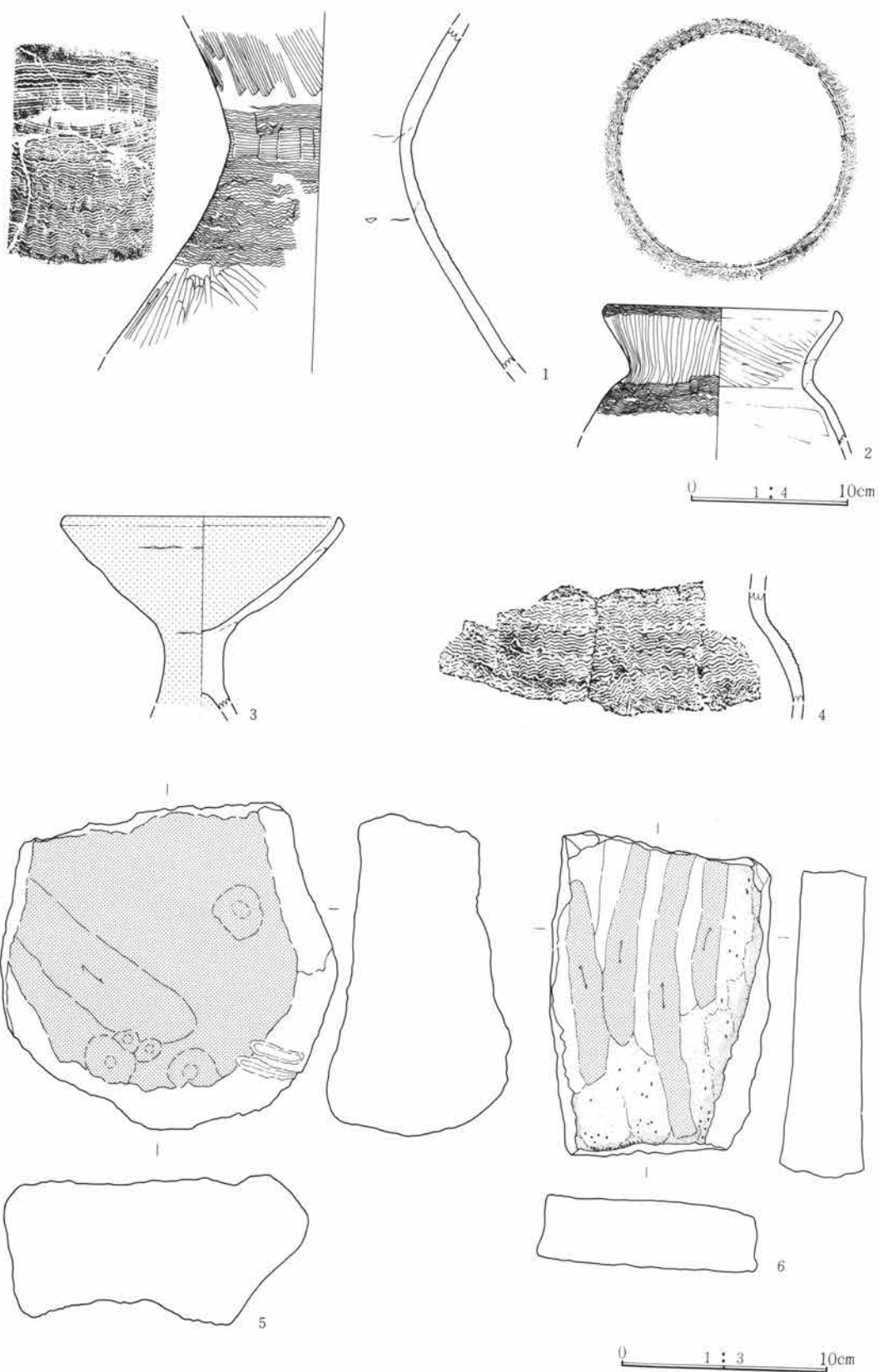
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺	頸部～胴上部の一部	1	— (21.3) —	砂粒を多く含む。焼成普通。浅黄橙色。	頸部は緩やかにくびれ、口縁部大きく外反。内面輪積痕。外面は、頸部～胴上部に波状文、時計回り簾状文、波状文の順に上から施文。胴部はヘラミガキ。内面横ナデ。	No31
甕	口縁～胴上部	2	14.7 (8.5) —	砂粒を含む。焼成不良。外面スス附着。灰褐色。	頸部は緩やかな「く」の字状口唇部は直立する。内面輪積痕。外面は、口唇部波状文、口縁部縦ハケナデ、胴上部波状文。内面ナデ。	No37
高杯	脚部下半欠	3	13.1 (8.8) —	砂粒、小石を含む。焼成普通。内外面に黒斑。赤色。明赤褐色。	口唇部直立。成形不明。内外面赤色塗彩後一部ヘラナデ。脚部内面ナデ。	No 1
甕	肩部破片	4	— — —	砂粒、 ϕ 1～8 mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。黒褐色。	内外面ともハケによる整形後外面は6本単位の破状沈線を頸部～肩部に施文。	No11 写図45

4区23号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	5	15.1	14.6	5.8	1850	粗粒安山岩	円錐形の凹み。トーン部磨り面。	S No 6 写図43
砥石	6	14.4	10.4	3.1	1119	粗粒安山岩	両面研ぎ面になるがトーン部は特になめらか。	S No 2 写図43

4区24号住居址遺物観察表

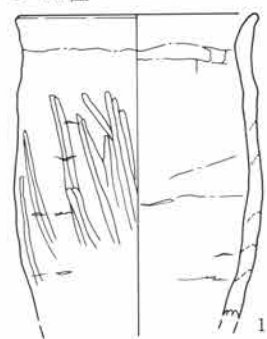
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕土師器	胴部 $\frac{1}{2}$	1	(12.5) (16.0) —	砂粒、 ϕ 1～5 mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。胴下半スス附着。にぶい橙色	体部は直線的で、口縁はゆるく外反する。口縁は横位のナデ。外面縦位のヘラナデ。内外面に輪積痕。	カマド内No.6・No.11・8住土坑フク土中
杯土師器	$\frac{2}{3}$	2	11.5 5.5 ●	砂粒、石英、雲母、 ϕ 1～5 mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。内面スス附着。にぶい褐色。	体部は内湾して立ち上る。口縁内外面横位のナデ。内面斜放射状のヘラミガキ。外面ヘラケズリ。丸底。	カマド内No.3 写図22



第126図 4区23号住居址出土遺物

第3章 出土した遺物

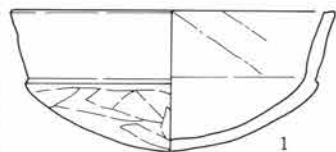
4-24住



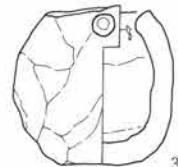
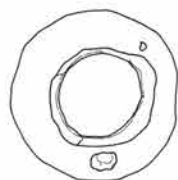
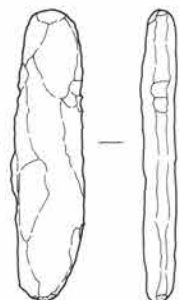
0 1:4 10cm



4-25住



0 1:3 10cm



0 1:2 3cm

第127図 4区24号、25号住居址出土遺物

4区25号住居址遺物観察表

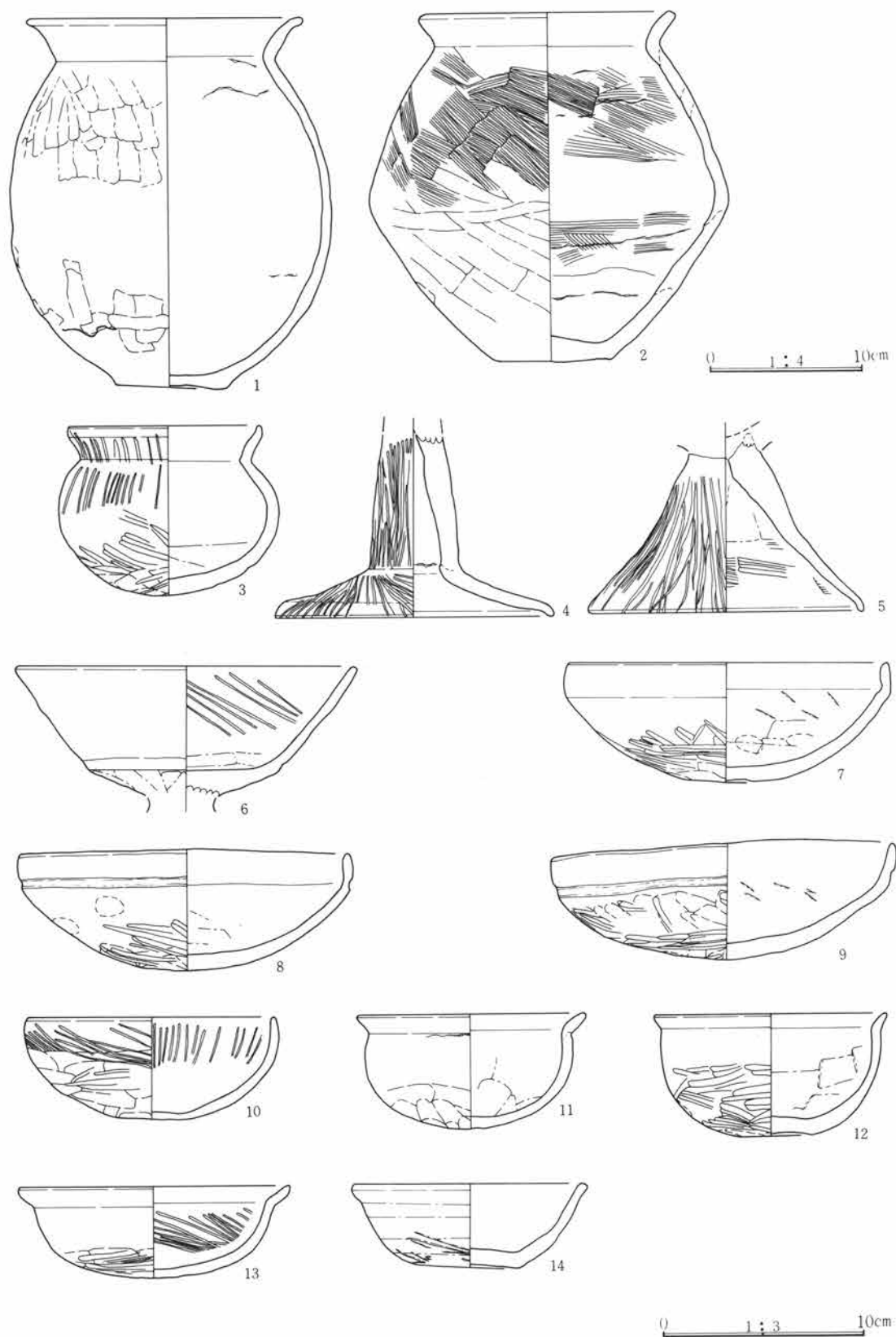
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	欠	1	(12.8) 5.5 ●	砂粒を少量含む。焼成良好。硬質。破砕後、スス付着。にぶい赤褐色。	丸底。底部～体部は丸味をもつ。体部と口縁部の間に段を有し、口縁部はやや開き気味に直立する。外面底部～体部へラケズリ。口縁部横ナデ。内面底部～口縁部ナデ。	No10・フク中・フク中一括 写図22
手づくね	完形	3	3.0 4.2 2.3	砂粒、雲母を含む。胎土やや緻密。焼成良。外面スス付着にぶい黄橙色。	指頭圧痕が残る。表面はミガキが施される。口縁に大小二個の孔を持つ。	No3・No166 写図46

4区25号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
礫器	2	11.4	2.7	1.2	64	雲母石英片岩	側縁部に敲打痕。	フク土中 写図45

4区26号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁、胴部の一部欠損	1	(17.9) 23.7 7.1	砂粒、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。胴下部内面にスス附着。にぶい黄橙色。	胴部は内湾、口縁は「く」の字状に外反する。口縁内外面横位のナデ。外面ヘラナデ整形。内面に輪積痕を残す。	P7・8 写図22
甕 土師器	口縁～底部 $\frac{3}{4}$ 残存	2	(16.7) 22.6 (7.6)	砂粒、雲母、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。胴外面スス附着。にぶい橙色。	胴部中程でソロバン玉状に脹らむ。口縁は「く」の字状に外反。口縁内外面横位ナデ。胴部内外面ハケ整形。	P14・16・17・20・22・32
埴 土師器	口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 欠損	3	(9.5) 8.1 ●	砂粒、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。内外面スス附着。内底面剥落有。にぶい赤橙色。	胴は球形、口縁は「く」の字で口唇は直立する。口縁は横位のナデ。外面はナデ整形後ヘラミガキ。	P24・29 写図22
高 杯 土師器	脚部	4	— (9.0) 13.6	細かい砂粒、黒色粒を含む。胎土緻密。焼成良。明赤褐色	脚部は下側が太くなり裾部で大きく開く。内外面ナデ整形後、外面は放射状のヘラミガキ。	P25
高 杯 土師器	脚部	5	— (8.2) 13.5	細かい砂粒、黒色粒を含む。胎土緻密。焼成良。内外面にスス附着。明赤褐色。	脚はラッパ状に開く。内外面ナデ整形後、外面は放射状のヘラミガキ。脚内面上半はヘラケズリ。	P30
高 杯	杯部	6	16.7 (6.3) —	細粒、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。橙色。	杯部下側に稜を持ち、直線的に開く。体部は横位のナデ整形。杯部屈曲下はヘラ整形。内面ヘラミガキ。	
杯 土師器	完形	7	15.7 5.7 ●	砂粒、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。外面スス附着。にぶい橙色。	体部は内湾ぎみに立ち上り、口縁で屈曲し直立する。底部はやや平底化している。口縁横位のナデ。外面ヘラナデ。内面に指頭圧痕。	P135 写図22
杯 土師器	口縁一部欠損	8	16.2 5.9 ●	砂粒、雲母、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。外面スス附着。にぶい黄橙色。	体部は内湾ぎみに立ち上り、口縁で屈曲し、直立する。丸底。口縁横位のナデ。外底面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	P1・11・97 写図22
杯 土師器	$\frac{3}{4}$ 残存	9	16.9 5.8 ●	砂粒、 $\phi 1\sim 5$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。外面スス附着。にぶい黄橙色	体部は内湾ぎみに立ち上り、口縁で屈曲し段を持ち直立する。口縁横位のナデ。外底面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	P129 写図23
杯 土師器	口縁部一部欠損	10	(12.2) 5.0 ●	砂粒、 $\phi 1\sim 3$ mmの小石を多く含む。胎土やや緻密。焼成良。橙色。	体部は内湾ぎみに立ち上り、口縁はわずかに内傾する。底部はやや平底化している。口縁横位のナデ後、放射状にヘラミガキ。外底面ヘラケズリ。内底面に指頭圧痕を残す。	P44 写図23



第128図 4区26号住居址出土遺物

第2節 竪穴住居址出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	口縁一部欠損	11	11.2 5.5 ●	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。外面スス付着。浅黄橙色。	体部は内湾して立ち上り口縁で屈曲し、外反する。丸底。口縁横位のナデ。外底面ヘラケズリ。内底面ヘラナデ。	写図23
杯土師器	体部一部	12	11.4 5.9 3.5	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。外面スス付着。にぶい橙色。	体部は内湾して立ち上り、口縁で屈曲し、外反する。底部は上げ底。口縁部横位のナデ。外底面ヘラミガキ。内底面ヘラナデ。	No134
杯土師器	欠損	13	(13.3) 4.4 ●	細かい砂粒、雲母を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい橙色。	体部は内湾して立ち上り、口縁で屈曲し外反する。底部は上げ底。口縁部横位のナデ。外底面ヘラミガキ。内底面ナデ後ヘラミガキ。	P51・155・カマド内
杯	完形	14	11.5 5.1 5.0	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。内面スス付着。淡黄色。	体部は直線的に開き、口縁でわずかに外反する。ロクロ整形でロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り後、ヘラ整形。	写図23

4区26号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
台石	15	16.8	10.0	4.1	1032	粗粒安山岩	トーン部磨り面。側縁角に敲打痕。	S 2 写図45
敲石	16	16.1	7.0	5.8	851	粗粒安山岩	トーン部磨り面。両端敲打痕。	S 4 写図45
滑石原石	17	13.5	5.3	2.3	216	滑石	板状に剝離している。	S 1床直写図45
有孔円板	18	2.7	2.9	0.3	4.93	蛇紋岩	全面研磨。孔は片側から穿孔される。	S41 写図40

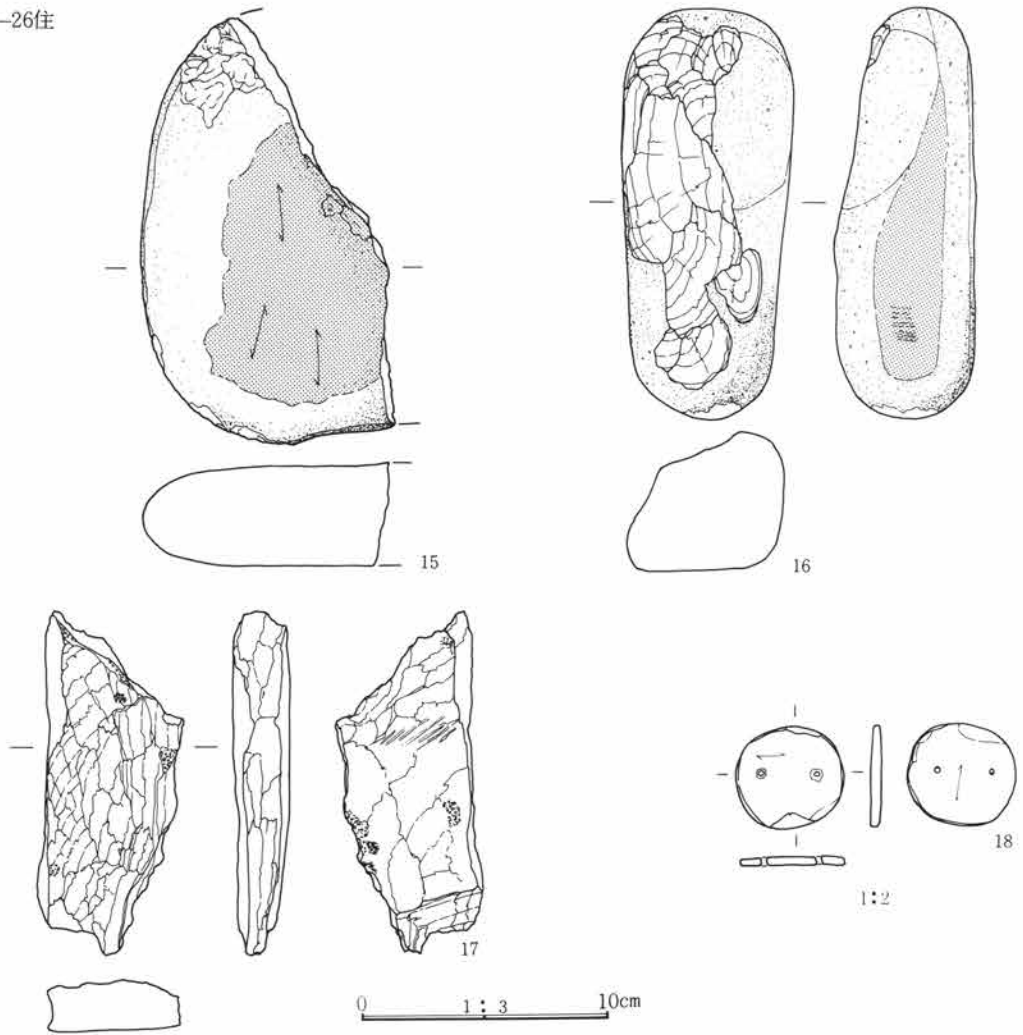
4区27号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕土師器	胴部欠	1	(23.2) (27.3) —	細砂、φ1～5mmの小石を多く含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。赤褐色。	肩部が張り出し、口縁は小さくわずかに外反する。肩部に輪積痕。口縁横位のナデ。胴上半縦位、下半横位のヘラケズリ。	No 3・No 4・No 5床直写図23

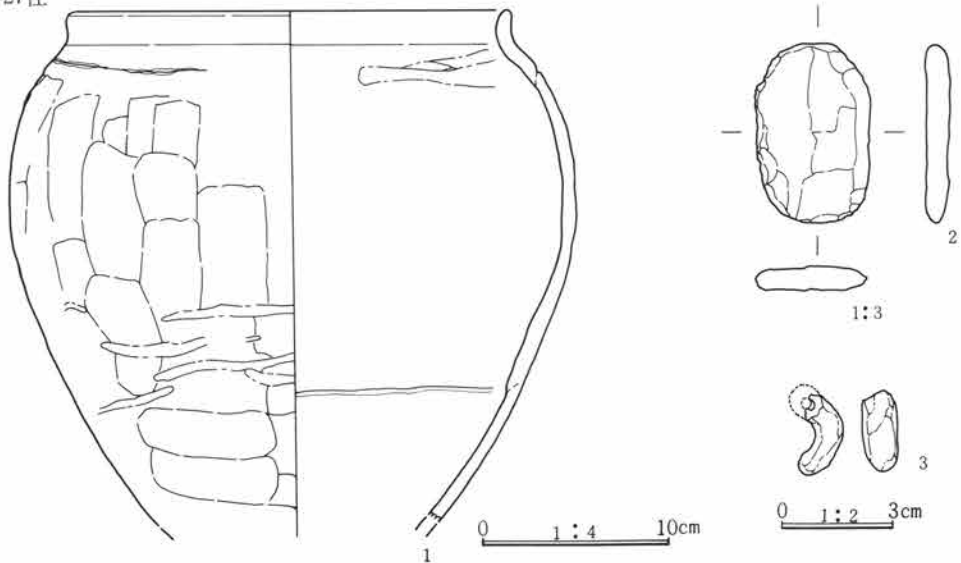
4区27号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
石錘	2	7.1	4.6	1.0	44	黒色片岩	薄い板状になる。	フク土中 写図45
勾玉	3	(2.2)	0.8	0.9	2.1	土製	頭部欠損。指頭痕残る。	写図34

4-26住



4-27住



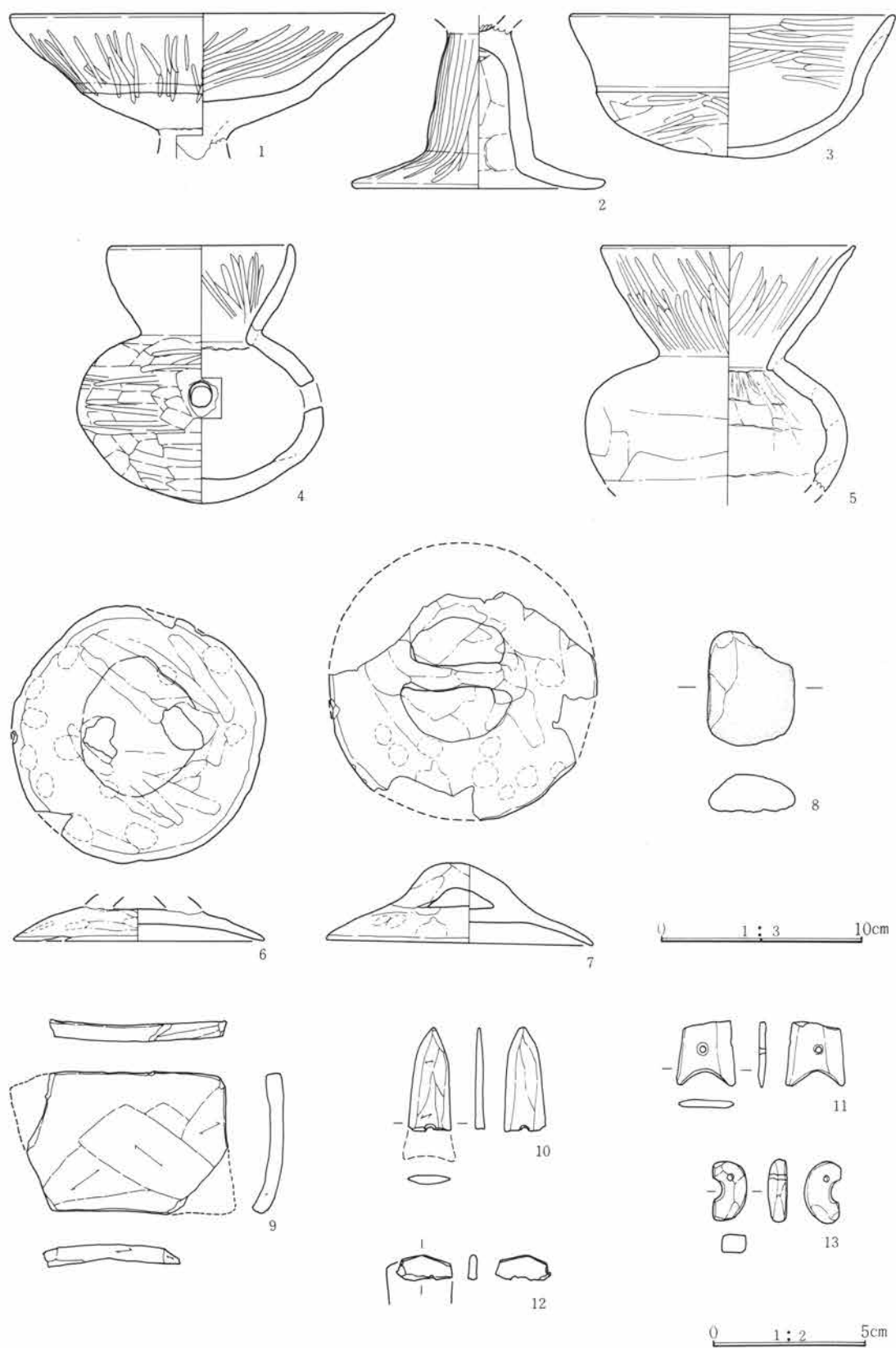
第129図 4区26号、27号住居址出土遺物

4区28号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考(出土位置)
高杯土師器	杯部	1	18.6 (7.0) —	砂粒、黒色粒多く含む。胎土やや緻密。焼成あまり良くない。外面スス付着。にぶい褐色。	杯部下側にわずかに稜を持ち直線的に開く。内外面横位のナデ整形後斜放射状のヘラミガキ。	P 3
高杯土師器	脚部	2	— (7.3) 12.2	細かい砂粒を多く含む。胎土やや緻密。焼成良。内外面スス付着。にぶい黄橙色。	脚部下側に太くなり裾部で屈曲し大きく開く。ナデ整形後外面縦位のヘラミガキ。脚内面はヘラケズリ。	P 4
杯	口縁欠損	3	15.8 6.8 ●	砂粒、雲母を含む。胎土やや緻密。焼成普通。内外面にスス付着。赤色。	体部は内湾し口縁部下側で段を持つ。口縁は外反する。口縁横位のナデ後、内面は横位のヘラミガキ。外底面ヘラケズリ後ヘラミガキ。丸底。	P112一括 写図23
甕土師器	口縁一部欠損	4	(8.9) 12.4 ●	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成普通。外面スス付着。にぶい橙色。	胴部は球形を程し丸底。口縁は直線的に開く。口縁横位のナデ後内面ヘラミガキ。胴部ヘラ整形後ミガキ。	4区12住P11・カマド フク土 写図23
埴土師器	胴~底部欠損	5	12.2 (11.8) —	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。橙色。	胴部は球形を呈する。口縁は直線的にのびる。口縁横位のナデ整形後放射状にヘラミガキ。胴外面ナデ。内面指頭圧痕。輪積痕。	P 2・6・フク土
蓋土師器	把手部欠損	6	— 1.4 12.2	細かい砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい褐色。	体部はゆるく内湾する。端部は横位のナデ。外面は指頭による整形。	P 1・8
蓋土師器	端部欠損	7	— 3.8 12.9	細かい砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。内面にスス付着。灰黄橙色。	体部はゆるく内湾し、つまみが付く。端部は横位のナデ。外面は指頭による整形。	P10 写図23
甕土師器	破片	9	— — —	細かい砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土緻密。焼成普通。橙色。	外面ヘラケズリ。内面ナデ整形。土器片の両端を磨って砥石状にしている。	No146

4区28号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	8	5.5	4.3	1.8	47	砥沢石	表面研ぎ面。	S 1 写図45
磨製石鏃	10	3.4	1.5	0.3	1.60	蛇紋岩	中央にわずかに稜を持つ。全面研磨。	
磨製石鏃	11	2.2	1.9	0.3	1.47	珪質準片岩	全面研磨。孔は片側からの穿孔。	
剣形品	12	0.9	1.9	0.3	0.82	蛇紋岩	欠損品。全面研磨。	フク土 写図40
勾玉	13	2.0	1.1	0.6	1.95	蛇紋岩	半円形、やや偏平。全面研磨。	床下 写図40



第130図 4区28号住居址出土遺物

4区31号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁～胴 1/2残存	1	21.2 (22.4) —	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。内面器表一部剥落。外面スス付着還元焰焼成。赤褐色。	胴部内湾し、口縁は内傾しながら外反する。鏝は上側が平坦。ロクロ整形。ロクロ目が強い。	P4・5・6・8・10・11・12 カマドフク土 写図23
羽釜	胴下部～ 底部欠損	2	(20.6) (12.8) —	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成普通酸化焰焼成。内面スス付着。灰黄褐色。	胴部はゆるく内湾し、口縁は内傾する。鏝は上側が水平になる。ロクロ整形の後、胴部は縦位のヘラケズリ。	P5
椀	口縁部欠 損	3	10.6 4.4 5.7	砂粒を含む。胎土やや粗密。焼成普通。内面炭化物付着。暗灰黄色。	体部は内湾して開く。ロクロ整形でロクロ目は弱い。内面にヘラミガキによる文様が施文される。底部は高台張り付け後良くミガク。	P15 写図23
杯	完形	4	11.3 4.0 4.6	砂粒を多く含む。胎土やや緻密。焼成あまり良くなく焼けむらがある。浅黄色。	体部は直線的に開く。ロクロ整形でロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り。	P1・カマドフク土 写図23

KT-1号住居址遺物観察表

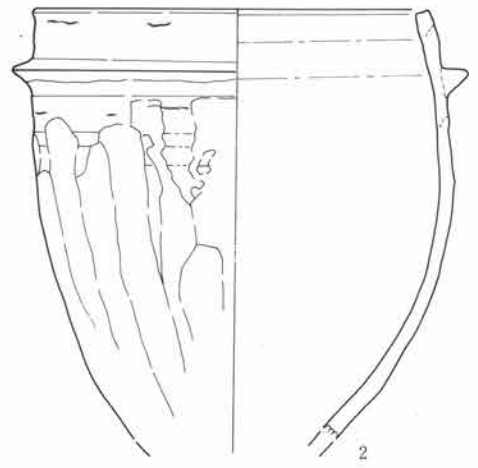
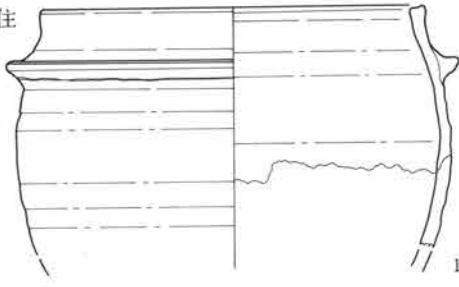
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	口縁部破 片	1	(19.0) (9.2) —	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。外面にスス付着。黒褐色。	ロクロ整形。鏝は断面三角形だが、ゆがみを持つ。	P51
椀	1/2残存	2	12.7 4.6 (6.8)	砂粒、φ1～2mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良。淡黄色。	体部は直線的に開く。ロクロ整形。ロクロ目は弱い。底部糸切り、高台貼り付け後ナデている。	P8・83・102 写図23
耳 緑 皿 釉	破片	3	— — —	極細かい砂粒を少量含む。胎土は軟質で、緻密。焼成良。緑色の釉。	釉をハケで塗ったような痕が見られる。釉にはムラがある。	P69

KT-1号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
釘	4	5.7	1.0	0.9	9.7	鉄	先端部欠損。断面四角形。Jの字に湾曲。	No141
釘	5	5.2	0.5	0.5	0.9	鉄	薄板状を呈する。Jの字形に湾曲。	No111
釘	6	4.1	0.4	0.4	2.0	鉄	両端欠損。断面四角形。	No128

第3章 出土した遺物

4-31住

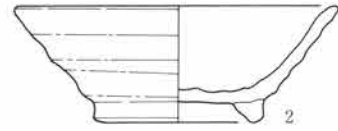
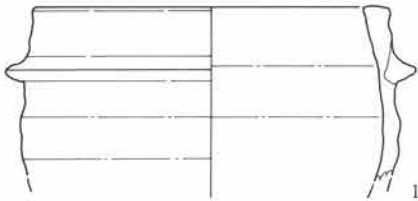


0 1:4 10cm



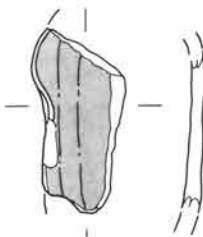
0 1:3 10cm

K-T-1住



1:3

1:4



0 1:2 5cm

第131図 4区31号、K-T-1号住居址出土遺物

KT-2号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
羽釜	％残	1	(19.2) 25.8 6.3	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。還元焰焼成。底部、鏝下にスス付着。にぶい黄褐色。	鏝の直下に最大径を持ち、口縁は内傾して立ち上る。ロクロ整形で、ロクロ目は強い。鏝は断面三角形、底部に沈線が引かれる。	P41・6・10・8・7・1・2・3住フク土・2溝P13・61・1住P89 写図23

KT-2号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
釘	2	3.0	0.8	0.4	4.8	鉄	錆化激しい。両端欠損。断面四角形。	No38
釘	3	2.8	0.7	0.5	3.1	鉄	上端欠損。先端部曲がる。断面四角形。	
釘	4	3.6	0.8	0.9	4.8	鉄	両端欠損。断面四角形。	No48

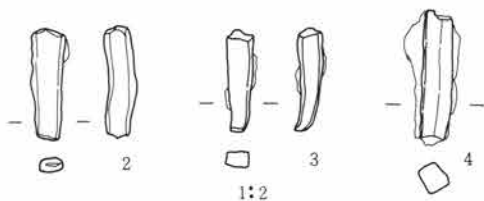
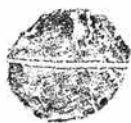
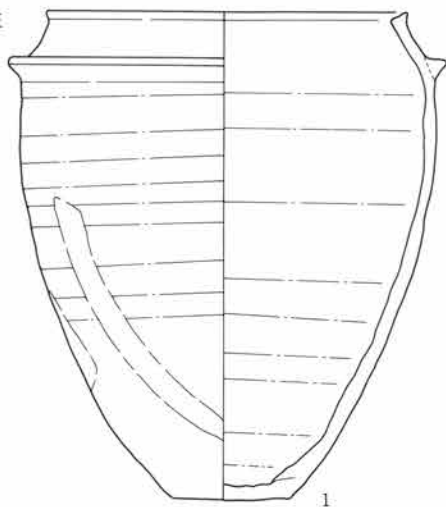
KT-3号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	胴下半％	1	— (22.0) 4.4	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石多く含む。胎土粗密。焼成良。粘土が外面に付着する。橙色。	底部は小さく、胴部も脹らみがすくない長胴となる。外面はヘラケズリ整形。内面はミガきを施す。	カマド内・ピット内
杯蓋	％残存	2	12.4 (2.1) —	黒色の粒子、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良。灰白色。	口縁にかえりを持つ。ロクロ整形、ロクロ目は弱い。つまみない。	P16・17・19
杯蓋	鈕部	3	4.2 1.8 —	黒色粒子、 ϕ 1~3mmの小石を多く含む。灰白色。	つまみは円筒状で上部が凹む。蓋部にはりつける。全体にナデがよく施されている。	カマド
緑釉陶器	小破片	6	— —	細かい砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。釉は緑色。	小破片のため整形等不明。	P7

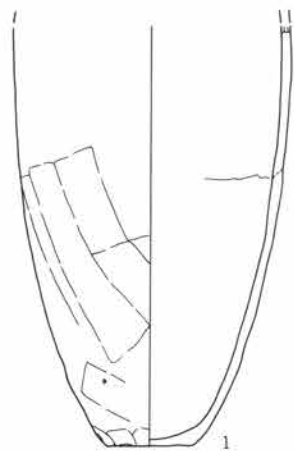
KT-3号住居址遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	4	15.4	7.1	4.2	669	粗粒安山岩	両端側縁敲打痕。	S5 写図47
敲石	5	12.7	7.0	3.7	610	粗粒安山岩	両端側縁敲打痕。表面に細長い擦痕。	S6 写図47
土製円盤	7	2.5	3.2	0.8	7.4	土製	長楕円形。周縁部を打ち欠き磨っている。	P18

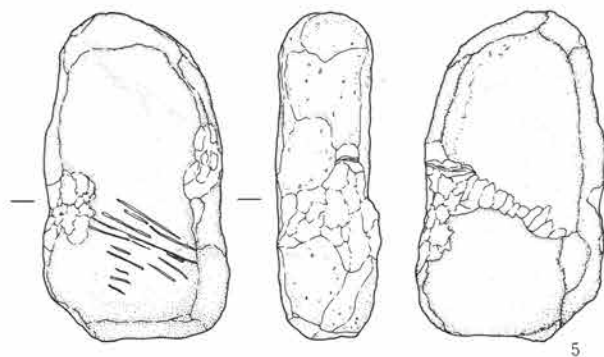
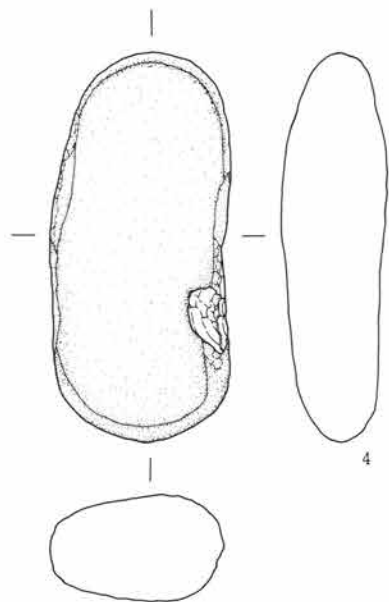
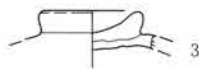
K・T-2住



K・T-3住



0 1:4 10cm



0 1:3 10cm



0 1:2 5cm

第132図 K T-2号、3号住居址出土遺物

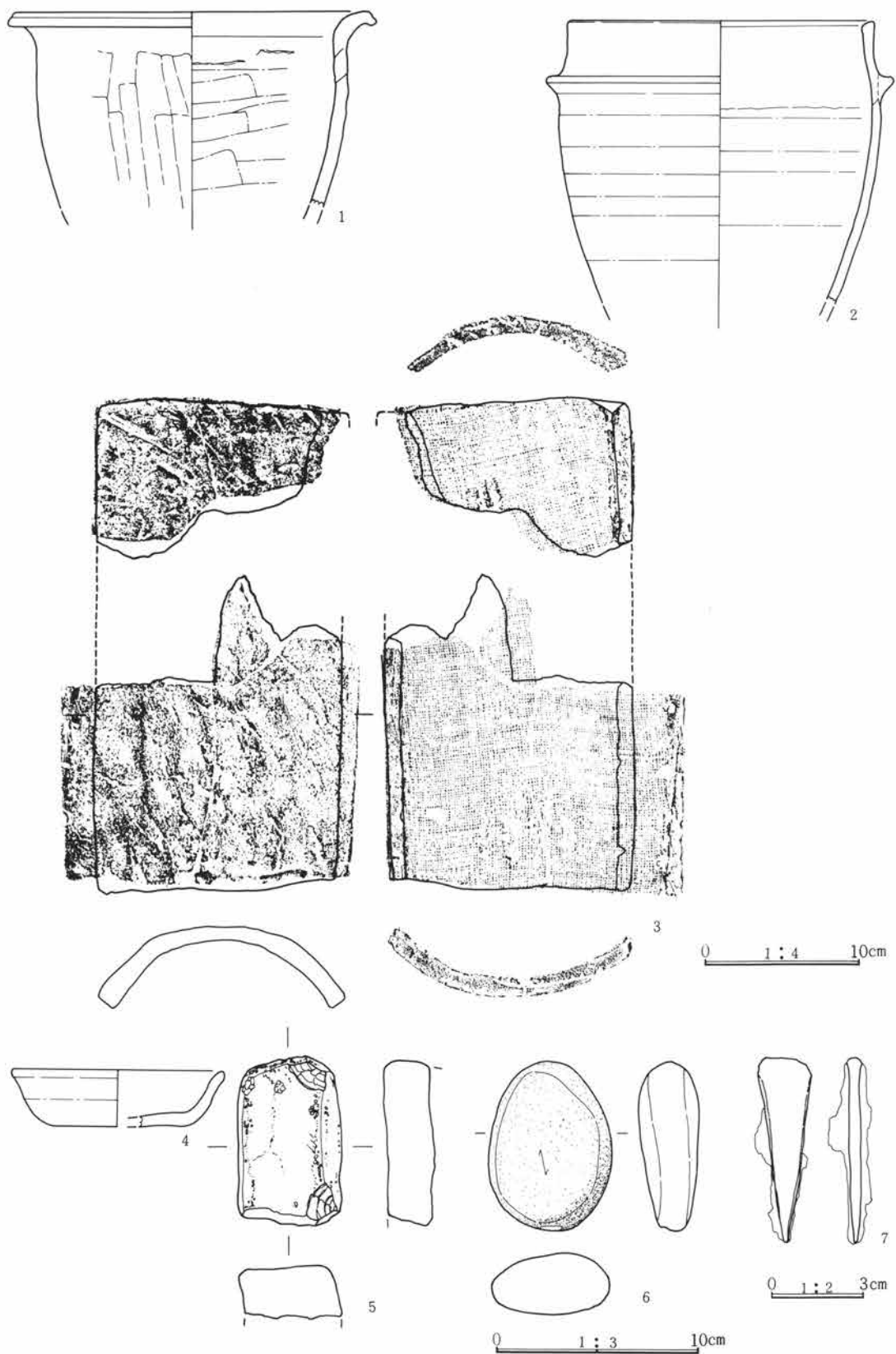
KT-4号住居址遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 土師器	口縁~胴 部破片	1	(22.9) (12.5) —	砂粒、 ϕ 1~5mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。にぶい褐色。	口縁内外面ヨコナデ。胴部外面は縦位のヘラケズリ。内面は横位のナデ整形。	P30
羽釜	口縁~胴 部破片	2	(19.7) (18.0) —	砂粒、 ϕ 1~2mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。酸化焰焼成。にぶい橙色。	鋳下に最大径を持ち、口縁は内傾して立ち上る。鋳は上方に反る。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。	P60
丸瓦	1/2残存	3	31.3 16.0 1.2	砂粒、 ϕ 1~5mmの小石等を含む。胎土やや緻密。焼成良。二次焼成を受ける。橙色。	上面はヘラによる整形のため叩等は残らない。下面は布目を残す。	P47・51・76・77・82
杯	1/2残存	4	(10.4) 2.7 (6.5)	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石。胎土緻密。焼成良。赤黒色。	口縁は外反しながら立ち上る。口縁、内面ともヨコナデ、底部糸切り。	P79

KT-4号住居址遺物観察表

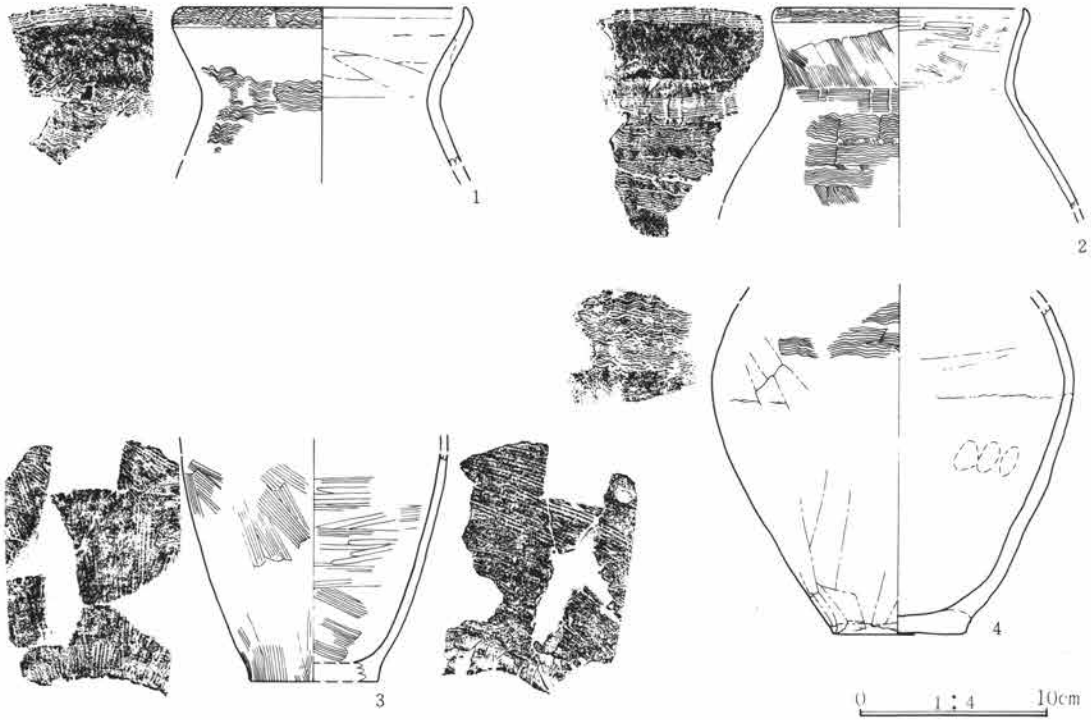
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磑	5	8.1	5.8	2.9	205	粗粒安山岩	全体に磨られている。	S2 写真47
磑	6	7.9	5.1	2.3	192	粗粒安山岩	全体に磨られている。欠損品。	S10 写真47
不 明	7	6.0	1.7	0.4	8.6	鉄器	錆化激しい。偏平の板状になる。	No28





第133図 KT-4号住居址出土遺物

第3節 井戸出土遺物



第134図 3区1井戸出土遺物

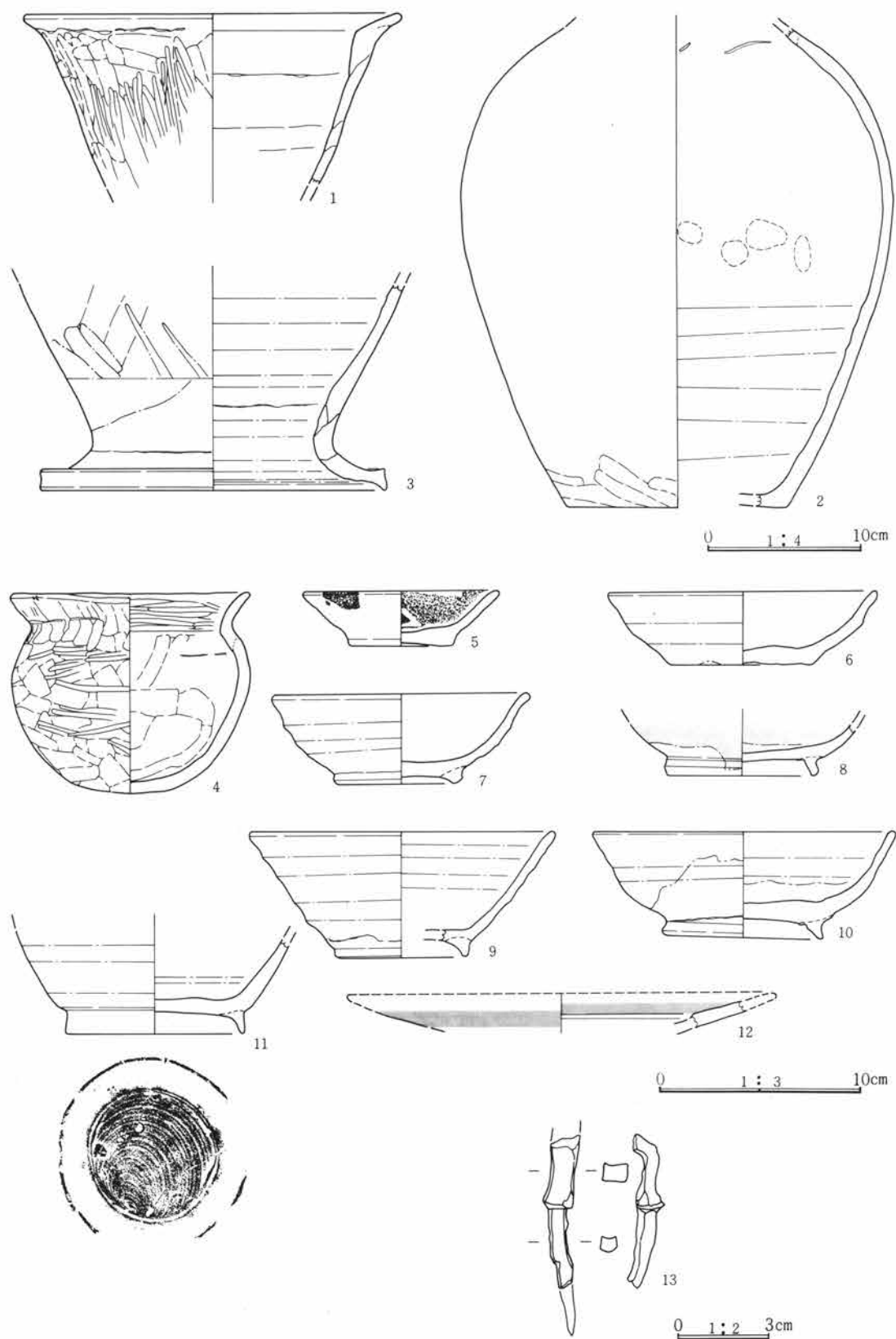
3区1井戸遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 (弥生)	口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存	1	(15.2) (8.2) —	砂粒、 ϕ 1~3 mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。にぶい橙色。	頸部でくびれ、口縁部で外反し、口唇部で若干屈曲する。口唇部、頸部に横位の波状沈線を施文する。	フク土
甕 (弥生)	口縁部破片	2	(13.5) (10.4) —	砂粒が部分的に偏って混入する。胎土粗密。焼成良。灰褐色。	頸部でくびれ、口縁部で外反する。口唇部は若干屈曲し立ち上る。口唇部、肩部に波状の沈線。頸部には、右から左方向への簾状文。	フク土
甕 (弥生)	胴下部~底部 $\frac{1}{2}$ 残存	3	— (12.0) (7.0)	砂粒が部分的に偏よって混入する。胎土粗密。焼成良。にぶい赤褐色。	底部で若干反る。外面は縦位斜位のハケ目を施すが一部磨減している。内面は横位のハケ目整形。	フク土
甕 (弥生)	頸部~底部 $\frac{1}{2}$ 残存	4	— (17.3) 7.0	砂粒を多く含む。胎土やや粗密。焼成良。にぶい褐色。	外面肩部に波状の沈線。胴下部はヘラ状のものによる縦位のナデ。内面には、輪積痕、指頭痕がある。	フク土

第3章 出土した遺物

4区2井戸遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甌?	口縁部破片	1	(24.0) (11.0) —	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良。橙色	口縁部で外反、内側に稜を持つ。外面はヘラケズリによる調整。内面は横位のナデ整形輪積痕を残す。	
甌	胴部 $\frac{1}{2}$ 残存	2	— (31.1) (14.2)	砂粒、φ1～5mmの乳白色の小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。灰色。	胴上半に最大径を持ち、胴下半から底部にかけて直線的に続く。外面はていねいにミガかれるが底部近くにヘラケズリ痕を残す。内面は、ヨコナデと、ロクロによる凹凸、指頭圧痕が見られる。	下層 写図24
甌	胴下半部 $\frac{1}{2}$ 残存	3	(22.7) (13.3) —	砂粒、雲母、φ1～3mmの乳白色の小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。灰色。	ロクロ整形。底部縁はていねいなヨコナデを施している。外面はヘラケズリ、内面はヨコナデを施し、ロクロ目が残る。	フク土
埴	ほぼ完形	4	11.5 9.6 ●	砂粒、φ1～5mmの小石、雲母を含む。胎土緻密。焼成良。赤橙色。	口縁で「く」の字に屈曲する丸底の土器。外面口縁部は横位のナデの後縦位にヘラナデを施す。胴部は斜位のヘラナデ。内面は、ヘラによるナデが施される。	写図23
杯	$\frac{1}{2}$ 残存	5	9.4 2.6 5.1	黒色の粒子を含む。胎土は粗密。焼成良。内面にススがタール状に付着。酸化焰焼成。淡黄色。	体部は直線的に開く。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。底部は静止糸切りで若干上げ底状になる。	
杯 須恵器	$\frac{1}{2}$ 残存	6	(13.2) 3.5 (7.0)	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土粗密で、表面に気泡多くみられる。焼成良。灰色	ロクロ整形。体部は直線的に開き、ロクロ目が弱い。底部は右回転糸切り後、底部付近をナデている。	フク土
碗	完形	7	12.6 4.3 5.6	砂粒を少量含む。胎土やや粗密。焼成良くなくザラつく。内外面に黒斑がみられる。酸化焰焼成。淡黄色。	体部は内湾ぎみに立ち上り、口縁部で外反する。ロクロ整形で、ロクロ目は強い。底部は回転糸切りで、高台貼り付け後ナデをていねいに施す。	写図23
碗 灰釉陶器	口縁部欠損	8	— (2.5) 7.2	極細かい砂粒を少量含む。胎土は緻密。焼成は良い。釉は漬け掛けで、淡緑色を呈する。内面に重ね焼き痕が残り、釉が固まる。灰白色。	体部は内湾ぎみに立ち上る。底部は回転糸切りで、高台貼り付け後ていねいにナデている。高台は外側に開く。	
碗		9	14.9 6.1 6.5	砂粒、φ1～3mmの小石を多く含む。胎土やや緻密。焼成あまり良くなくザラつく。還元焰焼成。灰白色。	体部は直線的に開く。ロクロ整形でロクロ目は弱い。底部は回転糸切りで高台貼り付け後ナデている。	写図24



第135図 4区2井戸出土遺物

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀 須恵器	口縁の一部欠損	10	14.7 5.1 7.6	黒色、白色の粒子を多く含む胎土はやや緻密。焼成は普通内外面に鉄分が多く付着している。灰色。	体部は内湾ぎみに立ち上る。ロクロ整形。ロクロ目は強い底部切り離し不明、高台貼り付け後でいねいにミガク。高台は外側に開く。	フク土 写図24
椀 須恵器	口縁部欠損	11	— (4.6) 8.6	細かい砂粒を多く含む。胎土はやや緻密。焼成良い。灰白色	体部から直線的に開く。ロクロ整形。ロクロ目は弱い。底部右回転糸切り離し、高台貼り付け後でいねいにミガク。高台は外側に開く。	フク土
段 皿 緑 釉	破片	12	— (1.0) —	極細かい砂粒を極少量含む。胎土はやや緻密。焼成良。釉にムラがある。	直線的に開き、内面に段を持つ。	

4区2井戸遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
釘	13	5.0	0.8	0.6	7.8	鉄	先端部欠損。屈曲している。断面四角形。	

第4節 溝出土遺物

2溝 遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	完形	1	12.0 3.7 ●	砂粒、φ1～2mmの小石を含む。胎土は緻密。焼成良。内面にスス付着。橙色。	体部下端に稜を持ち、口縁は外反しながら立ち上る。口縁内外面はヨコナデ。底部内面はナデと指頭による圧痕。外面はヘラケズリ。	P 3 写図24

3溝遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	％残存	1	11.1 3.7 ●	細かい砂粒を少量含む。胎土は緻密。焼成良。橙色。	口縁部に稜を持ち、屈曲して立ち上る。丸底。内面、口縁部はナデを施す。外面は、ヘラケズリ。	P 11 写図24
椀 須恵器	％残存	2	15.2 5.0 8.0	細かい砂粒、φ1～2mmの小石を含む。胎土は緻密。焼成良。灰白色。	体部から直線的に開き、口縁で外反する。底部は、右回転糸切り離し、高台貼り付け後ナデを施す。	P 9
羽 口	％残存	3	— — —	黒色の粒子を含む。胎土緻密。焼成良。先端部は発泡する。にぶい黄橙色。	下端が広がる円筒形。外面ミガキと指頭による調整。内面ミガキ。	銅製錬。P 9

3 溝遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
礫器 砥石	4	7.5	4.9	1.8	104	頁岩	全体に磨られる。 トーン部研ぎ面。目が細かい。	S 1 写図46
	5	8.2	3.3	1.3	69	頁岩		S 2 写図47

4 溝遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
釘 不明 釘 勾玉	1	6.0	5.2	0.4	8.6	鉄	両端欠損。断面四角形。 鉄鏃状の形をするがはっきりしない。 両端欠損。断面四角形。 頭部、下端欠損。	No.12
	2	5.2	1.5	0.4	1.1	鉄		No.30
	3	2.5	0.6	0.5	6.7	鉄		No.30
	4	2.5	1.0		2.5	土製		No.30

5 溝遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀 須恵器	体部下 ～底部	1	— (2.4) 8.2	細かい黒色粒子を含む。胎土は緻密。焼成良。灰白色。	ロクロ整形。ロクロ目が残る。底部は右回転糸切り。高台貼り付け後ナデを施す。	P 1

5 溝遺物観察表

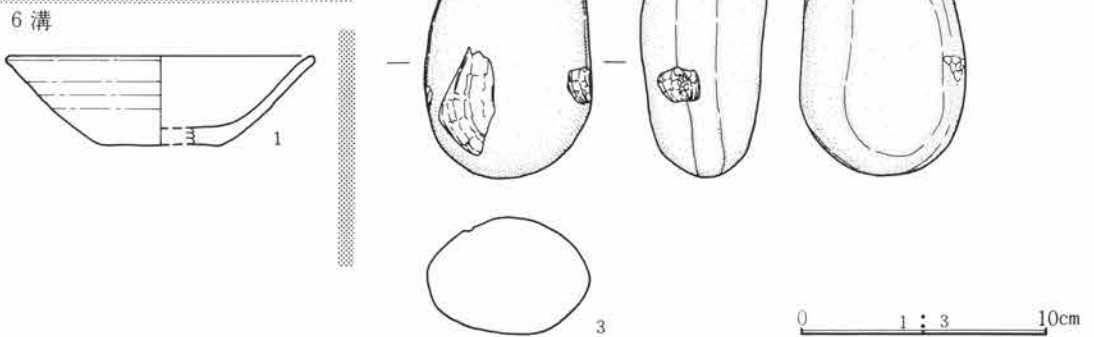
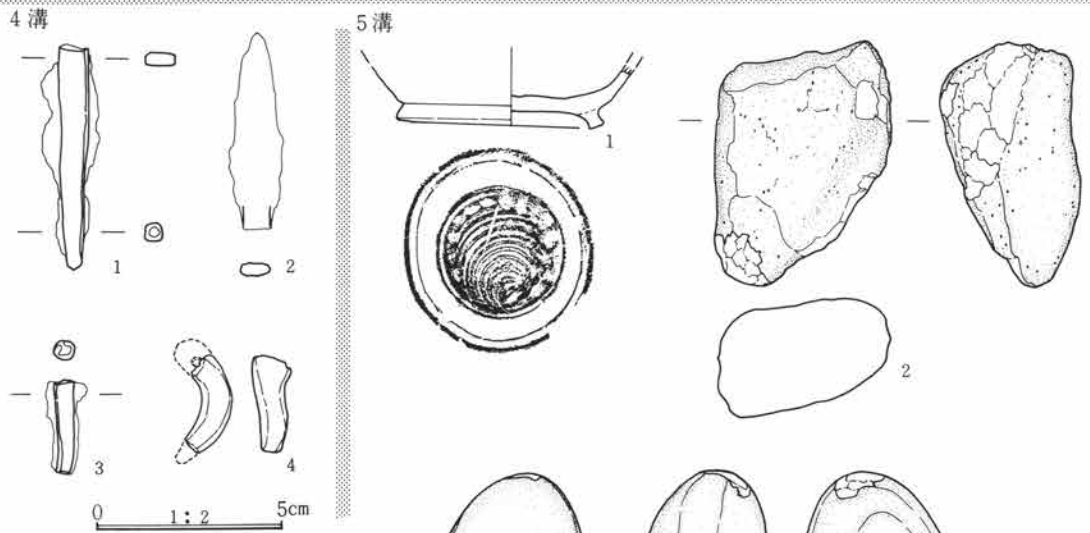
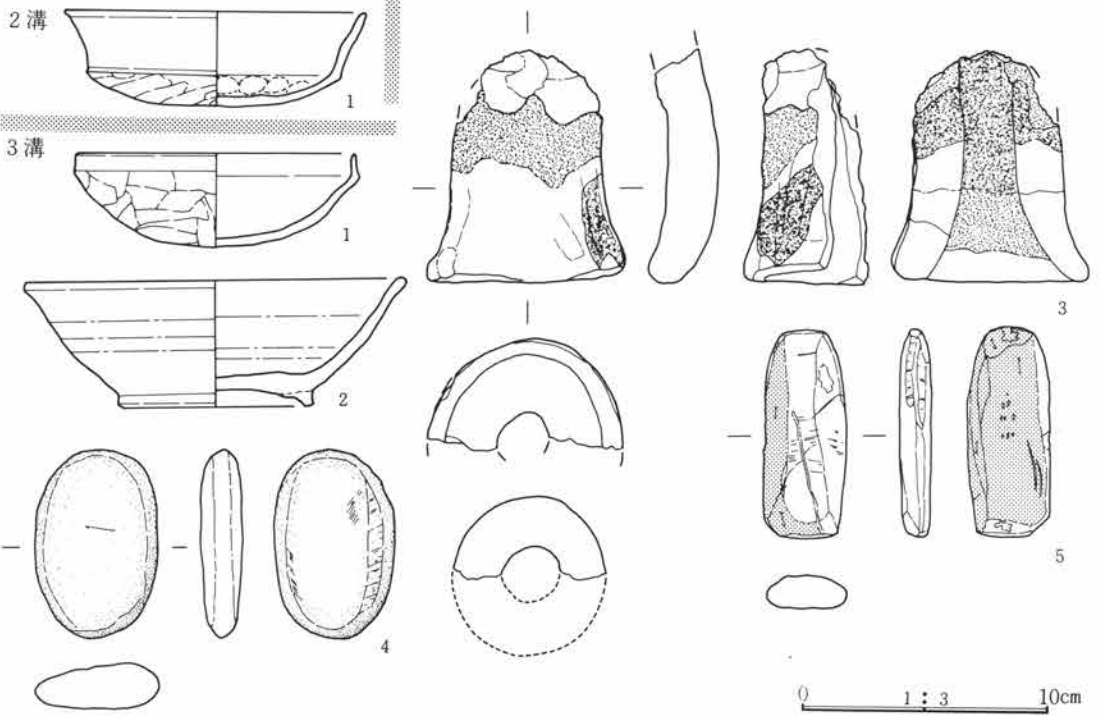
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲 磨石	2	8.1	6.9	5.0	340	粗粒安山岩	角部に敲打痕。 全体に磨られる。表面一部剥離。	S 1 写図46
	3	10.6	6.6	4.8	467	粗粒安山岩		S 2 写図46

6 溝遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 須恵器	片残	1	(12.2) 3.5 (4.6)	白色の粒子多く含む。胎土やや粗密。焼成良。還元焰焼成。灰色。	体部から直線的に開く。ロクロ整形。ロクロ目を残す。底部回転糸切り。	P 6

8 溝遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺 (弥生)	底部	1	— (9.1) 12.3	砂粒、黒色粒子を多く含む。胎土は緻密。焼成良。にぶい黄橙色。	内外面ともハケ目による整形を施した後ナデている。底部と胴部の接合痕が残る。	P 40・33
壺 (弥生)	底部	2	— (2.4) 9.6	砂粒、黒色粒子を多く含む。胎土は緻密。焼成良。にぶい黄橙色。	底部と胴部の接合面で分離している。内外面ともナデによる整形。	P 15



第136図 2～6溝出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 (弥生)	底部	3	— (2.5) 4.4	砂粒、黒色粒子を多く含む。 胎土は粗密。焼成良。外面に スス付着。にぶい黄橙色。	全体にナデによる調整。	P18
高杯 (弥生)	杯部破片	4	— — —	砂粒を少量含む。胎土粗密。 焼成良。表裏面とも朱塗り。 淡黄色。	口縁部が角度を変えて立ち上 る。全体に横位方向のミガキ をていねいに施す。	P19
鉢 (弥生)	口縁部破 片	5	— — —	砂粒、黒色粒子を多く含む。 胎土は粗密。焼成良。にぶい 黄橙色。	口唇部にキザミを持つ。内外 面ともナデによる調整。	P26

16溝遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	1	6.9	6.5	1.3	76	砂岩	表裏面研ぎ面。	S3 写図46

20溝遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磔器	1	5.5	4.9	1.5	76	粗粒安山岩	全面磨られる。細長い擦痕有。	フク土 写図46

28溝 遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯	1/2欠損	1	11.8 5.8 ●	砂粒、雲母を含む。胎土は緻 密で焼成良い。底部円形にス ス付着。橙色。	内湾しながら立ち上る。丸底 になる。内面は放射状にヘラ ミガキが施される。外面口縁 部ヨコナデ。底面はヘラケズ リを施す。	P1 写図24

31溝遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	1	13.1	4.0	2.6	236	黒色片岩	両端側面敲打痕。	写図46

33溝遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
紡錘車	1	2.8	(1.6)	0.8	3.3	土製	半分欠損。孔は片側から穿孔される。	フク土 写図34

第3章 出土した遺物

37溝遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
火鉢	口縁部破片	1	— — —	φ1mm以下の黒色粒子を含む。粒子は粗密。外面剥落多い。にぶい黄橙色。	内面横ナデ。内面に菊形のスタンプ文が施される。またφ8mm程の斜め上方を向いた孔を口唇近くに穿つ。	フク土

37溝遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
不明	2	5.4	1.3	0.1	5.9	鉄	錆化激しい。長方形の板状。	フク土

40溝遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
播鉢	底部破片	1	— (8.2) (10.8)	φ1～3mmの小石、砂粒を含む。胎土緻密。焼成良い。還元焰焼成。浅黄色。	底部から直線的に開く。内面に播目がまばらに付く。	フク土
内耳鍋	口縁部破片	2	— — —	細かい砂粒を少量含む。胎土は緻密。焼成良。外面にスス付着。灰黄褐色。	内外面とも良くナデが施される。内耳の付く凹みが見られる。	フク土
内耳鍋?	口縁部破片	3	— —	砂粒を含む。胎土緻密。焼成良。褐灰色。	内外面ナデを施す。	フク土

40溝遺物観察表

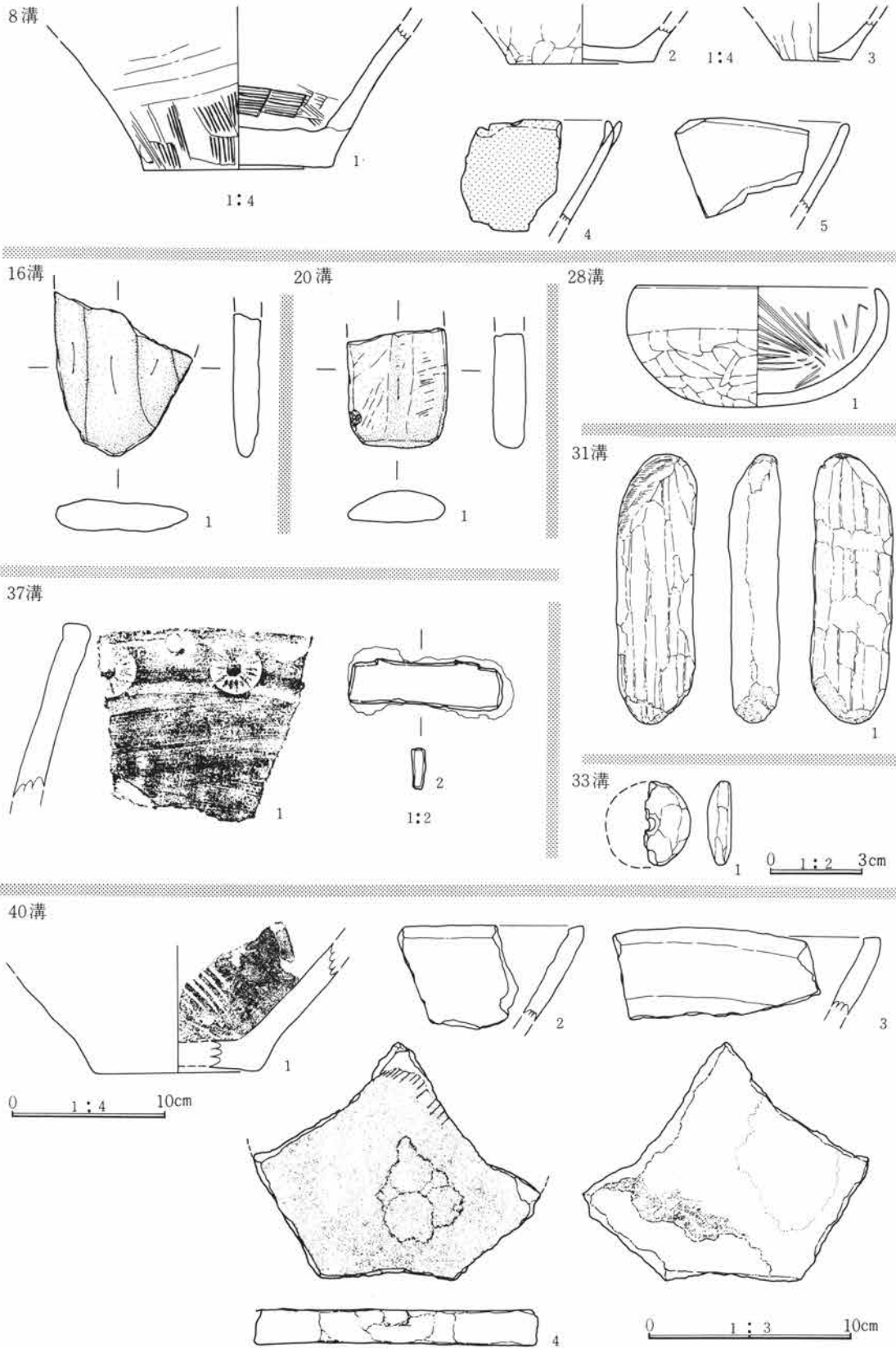
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
台石	4	11.5	14.1	1.7	397	粗粒安山岩	表裏面スス付着。平板状を呈する。	フク土

3区2溝遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	底部の一部欠損	1	11.9 3.5 8.7	細かい黒色粒子を含む。胎土は緻密。焼成良。橙色。	体部は直線的に開く。内外面ともナデが施される。また指頭による圧痕が見られる。底部はヘラケズリ。	P1 写図24

3区2溝物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
丸石	2	3.4	3.2	3.2	47	粗粒安山岩	全体に磨かれるがトーン部は特に磨かれる。	フク土 写図46
砥石	3	6.9	7.4	2.1	163	粗粒安山岩	長楕円形の凹みを持つ。	S1 写図46
石錘	4	8.3	7.2	6.0	400	粗粒安山岩	側縁に紐かけようの袂りを持つ。	S1 写図46



第137図 8号、16号、20号、28号、31号、33号、37号、40号溝出土遺物

第3章 出土した遺物

3区3溝遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯土師器	ㄨ残存	1	(11.3) 3.2 (7.5)	細かい砂粒、片岩系の細かい粒子が入り光る。胎土は粗密で、焼成良。内面にスス付着する。にぶい褐色。	体部は内湾ぎみに立ち上る。内面はナデを施す。口縁部ナデでそれ以下、底部までヘラケズリ。	P27・26
碗須恵器	体部ㄨ欠損	2	(12.7) 5.0 5.6	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を多く含む。胎土粗密。焼成良。内面にスス付着。にぶい黄褐色。	直線的に開き、口縁部で外反する。ロクロ整形でロクロ目は弱い。底部は回転糸切り高台貼り付け後ナデを施すため糸切り痕はつきりしない。高台はヒズミ粘土がはみ出す。	P24
碗須恵器	完形	3	11.3 4.5 6.0	砂粒、 ϕ 1~5mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良。内面スス付着。黄灰色。	体部は直線的に開き、口縁部で外反する。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。底部は回転糸切り。高台貼り付け後ナデている。	P22 写図24
碗須恵器	口縁ㄨ、高台ㄨ欠損	4	(14.8) 5.6 (6.7)	砂粒、 ϕ 1~2mmの小石を含む。胎土は粗密。焼成あまり良くない。口縁内面にスス付着。灰白色。	体部は直線的に開き、口縁でわずかに外反する。ロクロ整形。ロクロ目は弱い。底部右回転糸切り。高台張り付け後ナデを施す。	P22 写図24
碗須恵器	口縁一部欠	5	11.2 4.6 6.3	砂粒、雲母等を含む。胎土は粗密。焼成良くなく、断面中央は、良く焼けず黒色。内面すす付着。浅黄色。	体部は直線的に開がり、口縁でわずかに外反する。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。底部は高台貼り付け後ナデを施す。	P18
皿灰釉陶器	ㄨ残存	6	(12.9) 2.6 (6.9)	白色砂粒を極少量含む。胎土は緻密だが、 ϕ 1mm程の礫を含む。焼成良。釉は潰け掛けで淡い緑色。灰色。	体部から内湾ぎみに開く。高台は回転糸切り、高台貼り付け後ナデ。	P17
甕須恵器	胴部破片	7	— —	白色の砂粒を多く含む。胎土緻密。焼成良。褐灰色。	外面格子目タタキ。内面青海波を残す。	P7

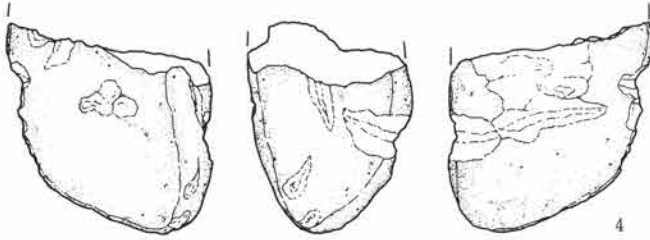
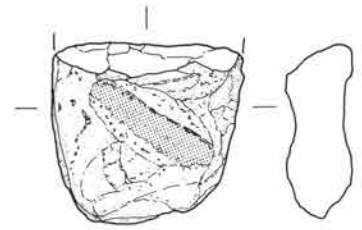
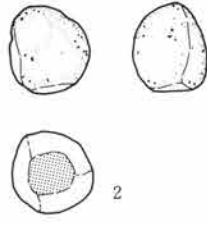
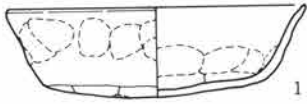
3区3溝遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
敲石	8	12.8	6.9	5.5	840	粗粒安山岩	下端敲打痕。トーン部磨り面。	写図46
刀子	9	9.7	1.0	0.2	7.9	鉄	錆化激しい。茎部、鋒部とも欠損。	Fe-1
玉	10	1.3	1.2	1.1	2.5	土製	孔は貫通する。	フク土 写図34

3区4溝遺物観察表

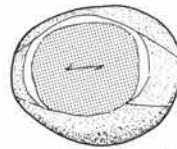
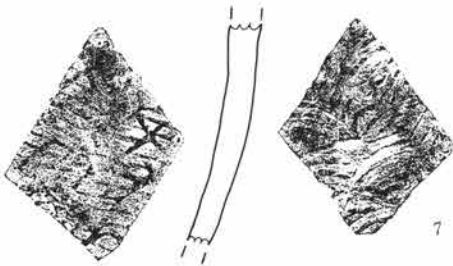
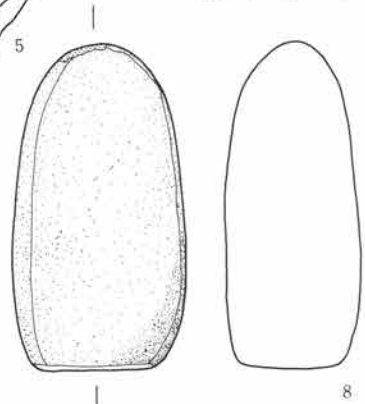
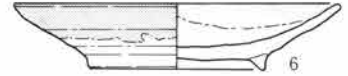
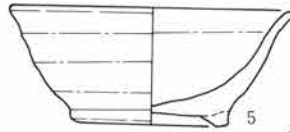
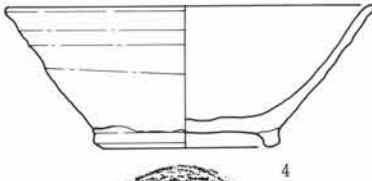
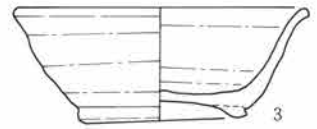
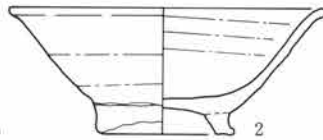
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
皿土師器	完形	1	9.7 2.5 4.7	砂粒、 ϕ 1~2mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。橙色	体部外面に段を持ちながら立ち上る。ロクロ整形。底部右回転糸切り。	No1 写図24

3-2溝

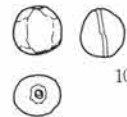
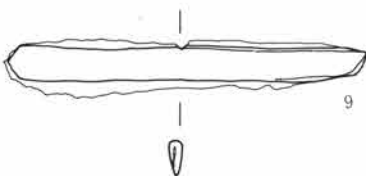


0 1 : 3 10cm

3-3溝



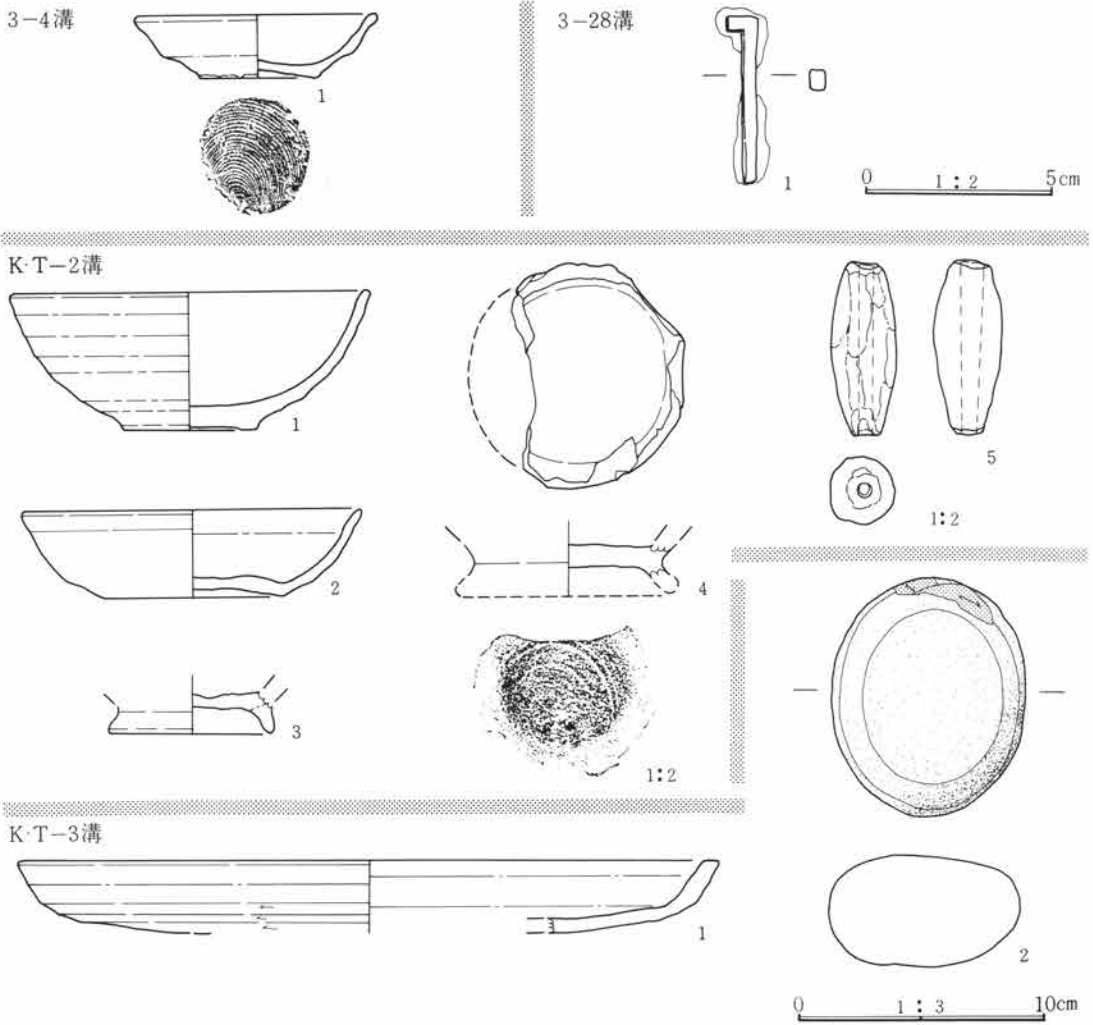
0 1 : 3 10cm



0 1 : 2 5cm

第138図 3区2号、3号溝出土遺物

第3章 出土した遺物



第139図 3区4号、28号、K T-2号、3号溝出土遺物

3区28溝遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
釘	1	4.4	0.4	0.5	5.6	鉄	錆化激しい。先端欠損。頭部屈曲。断面四角形。	フク土

K T-2 溝遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
土 錘	5	4.6	1.8	1.8	5.0	土製	中央部に最大径を持つ。表面磨滅。	P45

KT-2 溝遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
碗 土師器	1/2残	1	(14.2) 5.4 5.4	φ1~4mmの砂粒を含む。胎土緻密。焼成良。火熱を受け表面剥落。にぶい赤褐色。	体部から内湾ぎみに立ち上るロクロ整形。ロクロ目は強い。底部右回転糸切り。	P4・61 写図24
杯 須恵器	1/2残	2	(13.4) 3.4 (7.4)	砂粒、φ1~4mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。自然釉が付着。灰白色。	体部から直線的に開く。ロクロ整形。ロクロ目弱い。底部右回転糸切り。	P33
碗	底部破片	3	— 1.6 6.5	砂粒、雲母を含む。胎土粗密。焼成良。還元焰焼成。内面スス付着。にぶい橙色。	底部右回転糸切り。高台貼り付け後ナデ。	P3
碗 須恵器	底部破片	4	— (1.4) (6.0)	白色砂粒を多く含む。焼成良。胎土粗密。灰色。	底部右回転糸切り、高台貼り付け後ナデを施す。	転用硯。 フク土

KT-3 溝遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
盤 須恵器	1/2破片	1	27.7 (2.9) —	砂粒、φ1~5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。灰白色。	ロクロ整形。ロクロ目は弱い。口縁内外面は横ナデ。底部は右回転ヘラケズリ。	P6

KT-3 溝遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
磨石	2	9.4	7.8	4.4	490	粗粒安山岩	トーン部強く磨られる。裏面に浅い凹み有。	S4 写図47

第5節 土坑出土遺物

7 土坑遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯	口縁一部欠	1	14.0 3.9 6.5	細かい黒色の砂粒を少量含む。胎土やや粗密。焼成良。還元焰焼成。暗灰色。	体部は直線的に開き、口縁でわずかに外反する。ロクロ整形でロクロ目は弱い。底部は左回転糸切り。	P1・3 写図24
杯	1/2残	2	(13.6) 4.7 (7.7)	砂粒を多く含む。胎土やや緻密。焼成良。還元焰焼成。黒色。	体部から直線的に開き、口縁で屈曲する。ロクロ整形。ロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り。	P9
碗	1/2残	3	(14.5) 5.2~6.0 (6.8)	砂粒、φ1~3mmの小石を含む。胎土は緻密。焼成良。還元焰焼成。灰色。	体部から直線的に開き、口縁でわずかに外反する。ロクロ整形でロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り。高台貼り付け後ナデを施す。	P4 写図24

第3章 出土した遺物

13土坑遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
砥石	1	3.1	4.5	2.6	59	砥沢石	両端欠損。四面研ぎ面。	P 1 写図46

29土坑遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯	口縁破片	1	— —	黒色粒子を含む。胎土粗密。焼成良。灰白色。	ロクロ整形。ロクロ目弱い。墨書土器「万」が書いてある	

36土坑遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀	口縁部欠損	1	— (3.9) 7.0	砂粒、 ϕ 1~2 mmの小石を含む。胎土は緻密。焼成良。灰褐色。	体部は内湾ぎみに立ち上る。ロクロ整形、ロクロ目強い。底部右回転糸切り。高台貼り付け後ナデを施す。	P 5
耳皿	耳部一部欠損	2	(11.0) 4.3 6.6	細かい砂粒を少量含む。胎土粗密。焼成良。黒色。	全体にヘラ状工具でミガキを施す。底部は、高台貼りつけ後ナデている。	P 16 写図24

37土坑遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯	㊦残存	1	(12.8) (3.8) ●	砂粒を含む。胎土は粗密。焼成やや悪い。ザラつき、磨減多い。橙色。	底部丸底。口縁下に屈曲を持つ。口縁内外面ミガキ。底部ヘラケズリ。内面に指頭圧痕を持つ。	P 3・4・5

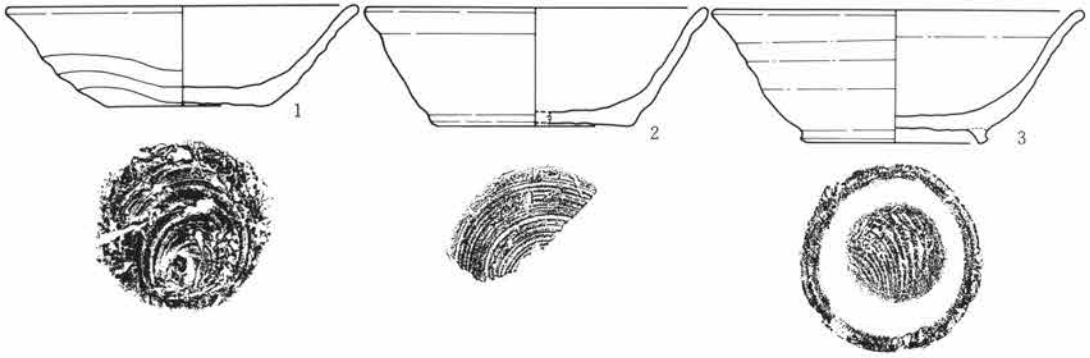
70土坑遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀	口縁一部欠損	1	10.9 4.5 5.9	砂粒を多く含む。胎土粗密。焼成良。酸化焰焼成。灰黄色	体部は直線的に急角度で立ち上る。ロクロ整形、ロクロ目弱い。底部回転糸切り、高台貼り付け後ナデを施す。	フク土 写図24

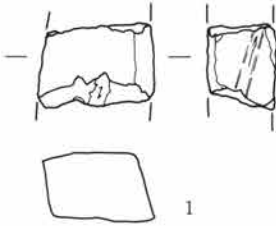
70土坑遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
有孔円板	2	2.9	2.6	0.4	5.17	蛇紋岩	全面研磨。片側から穿孔。	写図40

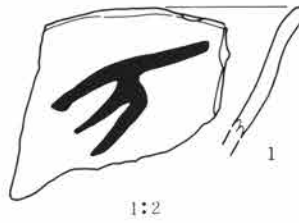
7土坑



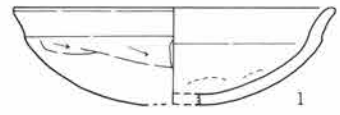
13土坑



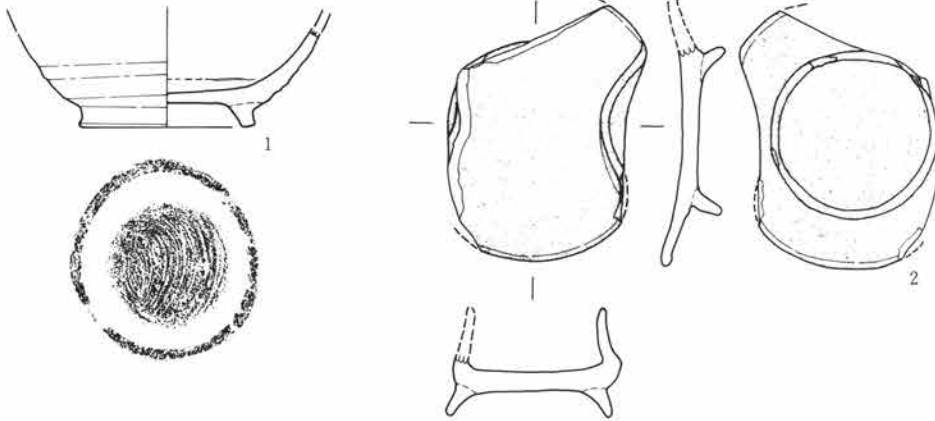
29土坑



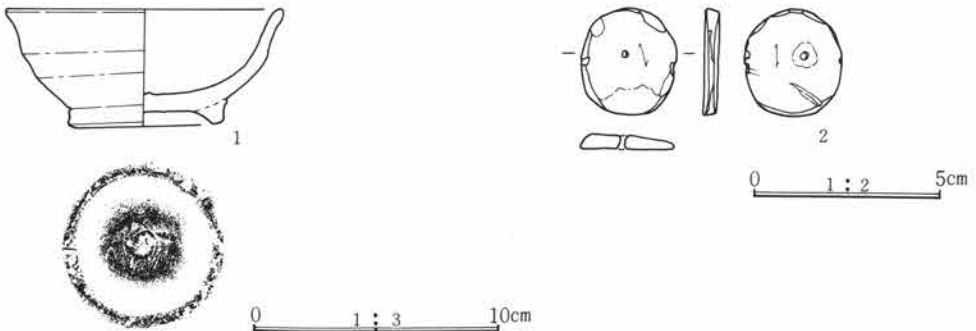
37土坑



36土坑



70土坑



第140図 7号、13号、29号、36号、37号、70号土坑出土遺物

第3章 出土した遺物

77土坑遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀	1/2残	1	(13.8) 5.1 (8.0)	砂粒、 ϕ 1~3 mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良くないザラつく。口縁にスス付着。橙色。	体部は直線的に開く。ロクロ整形。ロクロ目は強い。底部は右回転糸切り。高台貼り付け後ナデを施す。	P 1・フク土

79土坑遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
偏平片刃石斧	1	4.1	3.1	0.7	17	蛇紋岩	一部欠損。ていねいに磨いて作られている。	S 1 写真46

123土坑遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀	完形	1	12.2 4.4 5.9	砂粒多く含む。胎土やや粗密。焼成普通若干ザラつく。底部近くに黒斑がある。酸化焰焼成。淡黄色。	体部から直線的に開き、口縁で外反する。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り、高台貼り付け後ナデを施す。	黒書土器 P 1
椀	完形	2	12.0 5.1 5.1	砂粒、 ϕ 1~5 mmの小石を多く含む。胎土やや粗密。焼成普通若干ザラつく。酸化焰焼成。にぶい黄色。	体部から直線的に開き、口縁で外反する。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。底部は高台貼り付け後ナデを施すため切離方不明。	黒書土器 P 2

149土坑遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
剣形品	1	3.0	1.9	0.5	3.63	緑色片岩	上端欠損。全面研磨。	フク土 写真40

172土坑遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
銅のうす板製品	1	3.5	3.1	0.05	2.9	銅	薄板状のもの。用途不明。	フク土

175土坑遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
留金具	1	6.4	2.2	0.3	10.5	鉄	錆化激しい。上端は二叉になる。	

189土坑遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
釘	1	14.3	0.7	0.4	5.6	鉄	断面長方形。錆化が激しい。先端曲がる。	

199土坑遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
皿 緑釉	1/2残存	1	(17.4) 3.3 (7.6)	極少量の白色粒子を含む。胎土は緻密、焼成良い。灰オリブ色。	体部に段を持つ。ロクロ整形 底部は高台貼り付け後、よくナデている。	P 1

200土坑遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀	体部1/2欠損	1	(11.8) 4.5 6.25	砂粒を多く含む。胎土やや粗密。焼成良くない。ザラつく酸化焰焼成。内面黒斑有。にぶい黄橙色。	体部は直線的に開く。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。底部は高台貼り付け後ていねいにナデている。	P 1

201土坑遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	1/2残存	1	(14.6) 4.2 —	黒色砂粒、片岩のφ1mm以下の細かい粒子を含む。胎土粗密焼成良。橙色。	口縁で内側に屈曲を持つ。口縁部と内面はヨコナデ。外面はヘラケズリによる整形。底面は丸底。	

205土坑遺物観察表

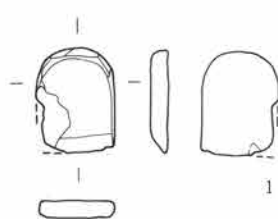
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	口縁一部欠損	1	(11.6) 4.2 ●	砂粒を少量含む。胎土は緻密焼成良。橙色。	口縁下に稜を持つ丸底になる口縁と内面はヨコナデによる整形。底面内部は指頭による圧痕がみられる。底部外面はヘラケズリ整形。	P 1 写真24
杯 土師器	1/2欠損	2	(12.0) 3.8 ●	黒色粒子を含む。胎土はやや緻密。焼成良。明赤褐色。	口縁下に稜を持つ丸底になる口縁は外反する。口縁と内面はヨコナデ、底部外面はヘラケズリ調整。	P 7
杯 土師器	1/2残存	3	(12.2) 4.2 ●	砂粒、φ1～2mmの小石を含む。胎土はやや緻密。焼成良。橙色。	口縁下に稜を持つ丸底になる口縁はわずかに外反する。口縁と内面はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ調整。	P 4

第3章 出土した遺物

77土坑



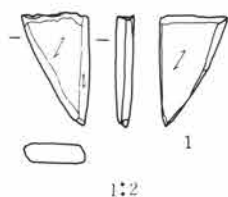
79土坑



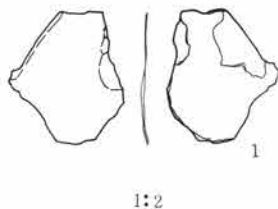
123土坑



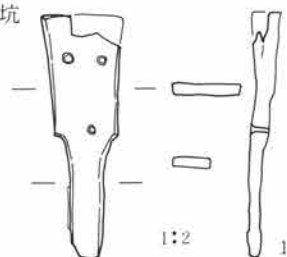
149土坑



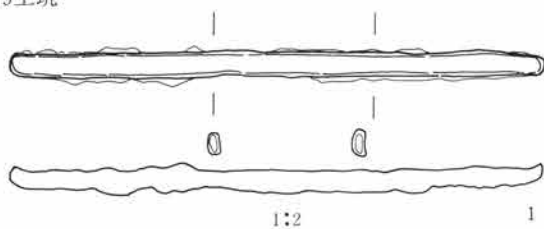
172土坑



175土坑



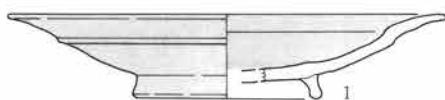
189土坑



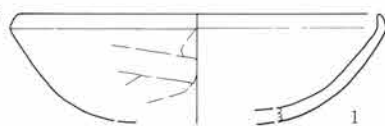
200土坑



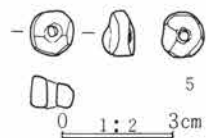
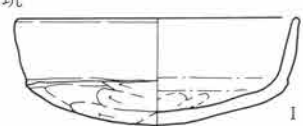
199土坑



201土坑



205土坑



第141図 77号、79号、123号、149号、172号、175号、189号、199号、200号、201号、205号土坑出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	1/2残存	4	(12.2) 3.9 ●	砂粒、 ϕ 1~3 mmの小石を含む。胎土はやや緻密。焼成良 橙色。	口縁下に稜を持つ丸底になる 口縁はわずかに外反する。口 縁と内面はヨコナデ。内面底 部に指頭圧痕が残る。底面外 部にはヘラケズリ調整。	P 5

205土坑遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
白 玉	5	1.18	1.15	0.9	1.69	滑石	側面研磨。管状のものを切断。断面未調整。	No.1 土器内写真図40

206土坑遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕	口縁1/2残 存	1	(22.7) (8.3) —	極細かい砂粒、 ϕ 1 mm前後の 小石を含む。胎土は粗密。焼 成良。明赤褐色。	胴部から口縁部にかけて「く」 字に屈曲し、口唇部でわずかに 内湾して立ち上る。口縁と 胴部面はヨコナデ、ヘラによ る調整痕あり。胴部外面はヘ ラケズリ調整。	P 2

3区2土坑遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺	口縁から 頸部	1	15.3 (11.4) —	砂粒、 ϕ 1~3 mmの小石を含 む。胎土やや緻密。焼成良。 黄橙色。	頸部から口縁にかけて外反し て立ち上る。口唇、口縁部に 単節 LR の斜行縄文。頸部 には二段に簾状文が右から左 方向へ施文される。	No.281
小 型 壺	頸部上欠 損	2	— (11.1) 5.1	細かい砂粒、 ϕ 1~3 mmの小 石を含む。胎土やや粗密。焼 成良。にぶい黄橙色。	胴下半に最大径を持ち、頸部 で細くなる。頸部には、二本 の沈線が巡る。胴上半部は上 下にミガキ、下半部は横位 方向へのミガキが施される。	No.283
注口土器	口縁部欠 損	3	— (11.3) 4.8	白色粒子、砂粒を多く含む。 胎土やや粗密。焼成良。赤黒 色。	胴下半に最大径を持ち、その 上部に注口が付けられる。頸 部で細くなり、口縁は外反す る。全体に上下方向のミガキ が施される。	No.282

第3章 出土した遺物

4区7土坑遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 (弥生)	胴部破片	1	— — —	砂粒φ1mm程の小石を含む。 胴土粗密。焼成良。橙色。	波状沈線文と、同じ工具による沈線の懸垂文。内面は横位のミガキを施す。	No15

4区9土坑遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
釘	1	2.9	0.6	0.1	1.1	鉄	錆化激しい。両端欠損。	No13

K T-2 土坑遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
有孔円盤	1	4.1	3.0	0.1	4.9	鉄	欠損。薄板状を呈す。	No 1

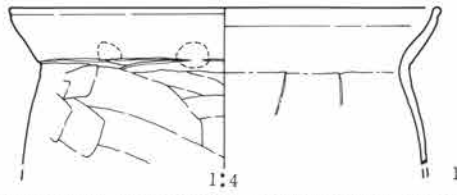
K T-4 土坑遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 土師器	%残	1	(13.6) 4.1 (8.5)	砂粒、φ1~2mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。橙色。	体部は直線的に開き、口唇部で内側に屈曲する。口縁内外面はヨコナデ、内面は斜放射暗文をまねて、ヘラで刻む。外面はヘラケズリ。指頭圧痕を残す。	フク土 写真図24

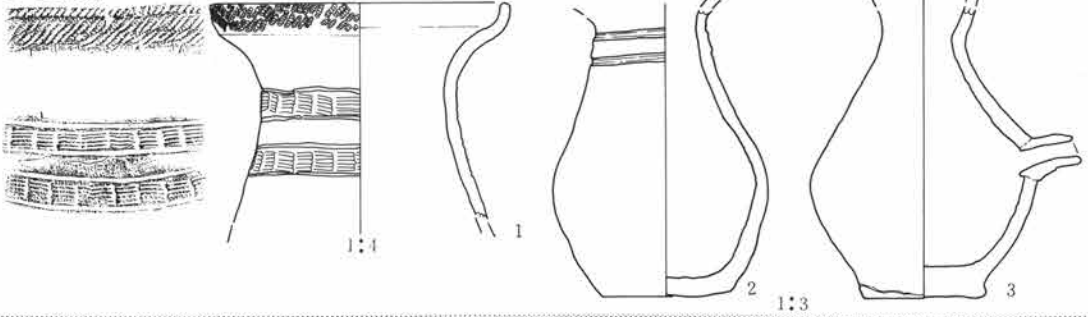
K T pit 1 遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 須恵器	口縁部破片	1	(54.5) (9.7) —	砂粒、φ1~5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。灰色。	ロクロによる整形。ロクロ目が良く残る。外面には、波状の沈線が施文される。	ビット3 P 1・5・6
椀	½残存	2	(10.3) 4.9 (4.2)	細かい黒色の粒子を多く含む。胎土は粗密。焼成良。還元焼成。にぶい橙色。	体部から直線的に開く。ロクロ整形、ロクロ目は弱い。	ビット5 P 3
椀 灰釉陶器	½残存	3	(15.7) 5.0 (7.8)	極少量白色の粒子を含む。胎土は緻密。焼成良。灰釉は、漬け掛け、淡緑色。灰色。	体部は内湾ぎみに立ち上る。ロクロ整形で、ロクロ目は弱い。底部は高台貼り付けで、高台は内湾する。	ビットフク土

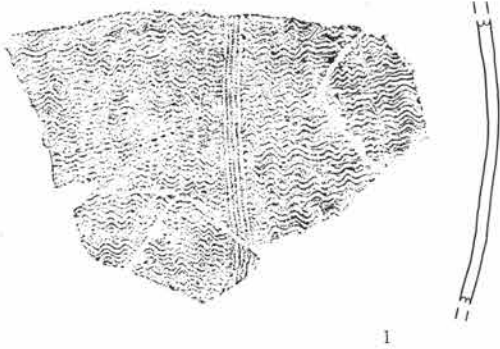
206土坑



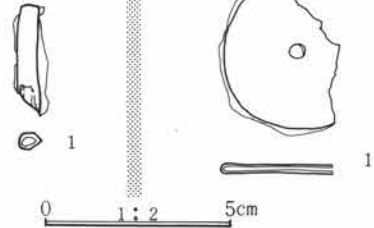
3-2土坑



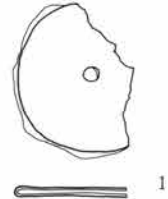
4-7土坑



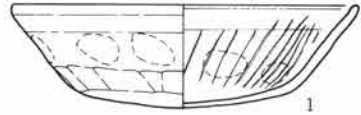
4-9土坑



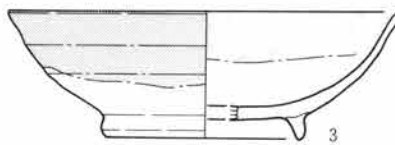
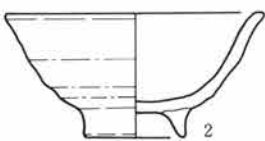
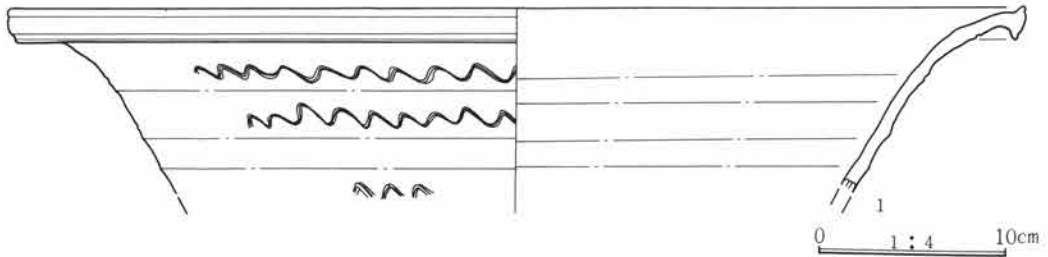
K·T-2土坑



K·T-4土坑



K·T-pit 1



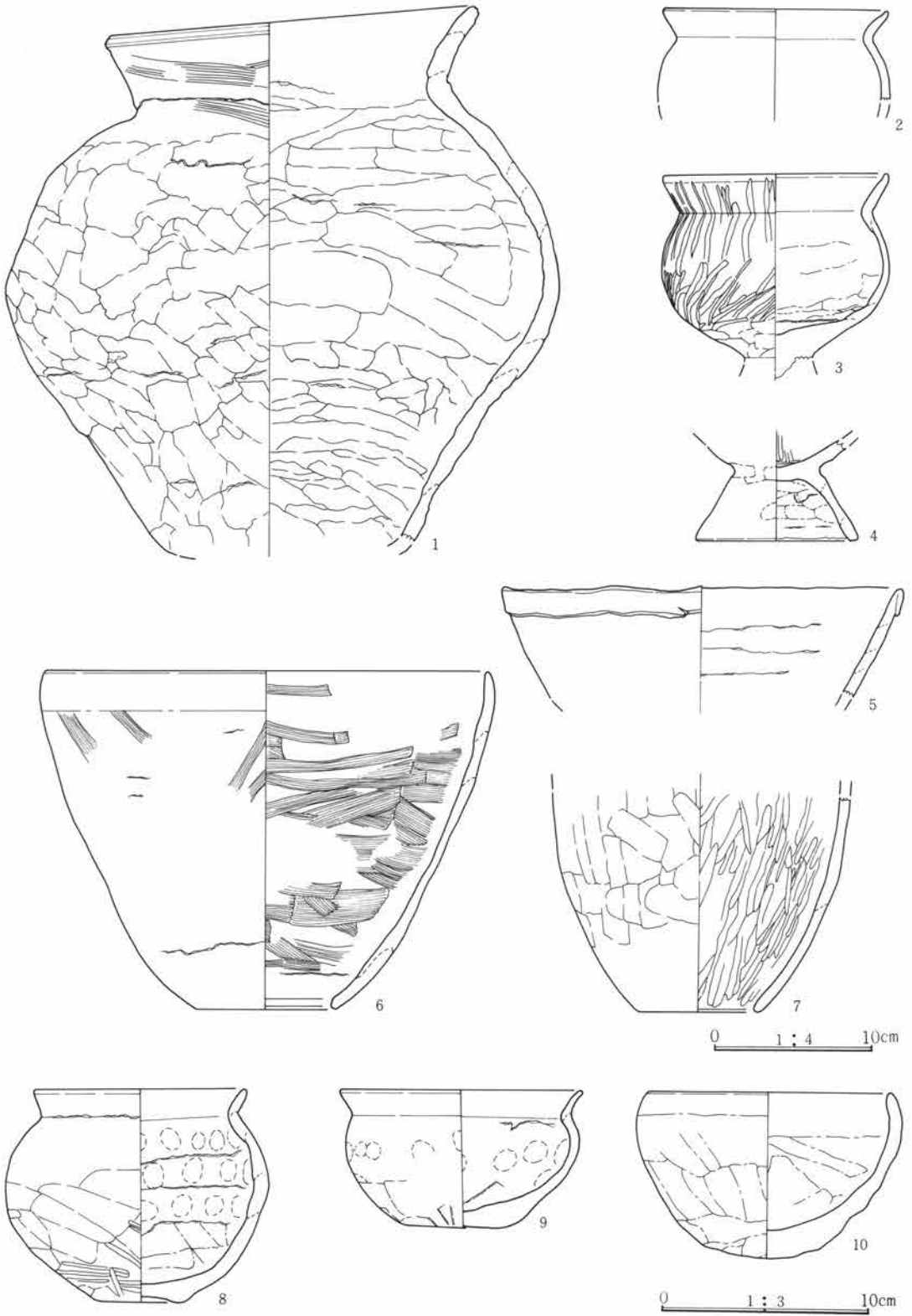
0 1:3 10cm

第142図 206号、3区2号、4区7号、9号、K·T-2号、4号、Pit 1号土坑出土遺物

第6節 1号方形周溝墓出土遺物

4区1号方形周溝墓遺物観察表

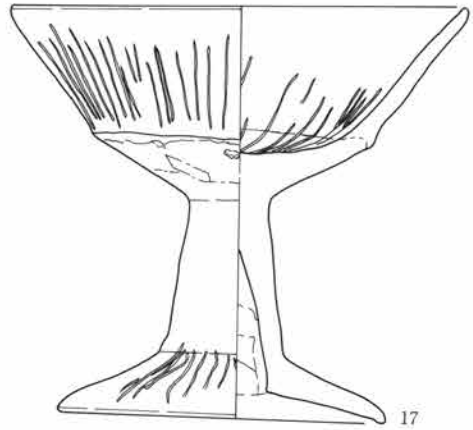
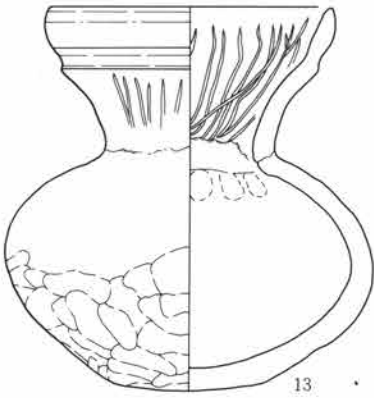
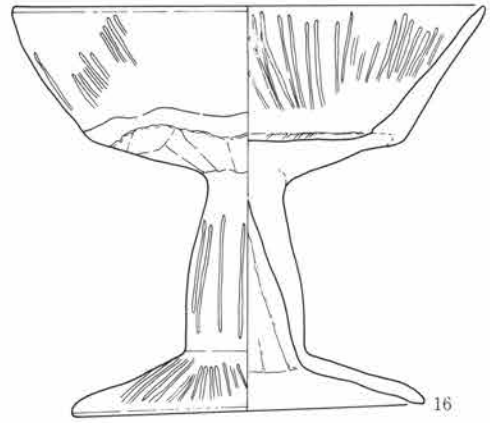
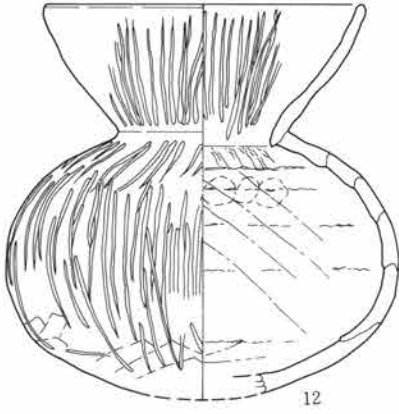
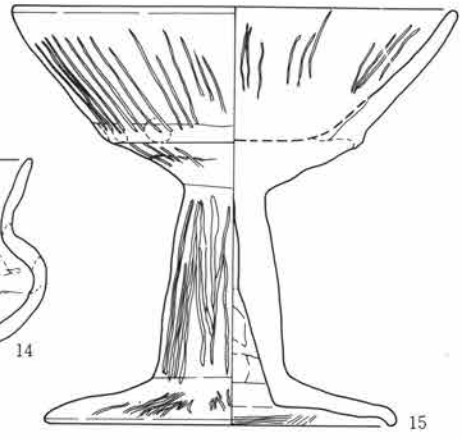
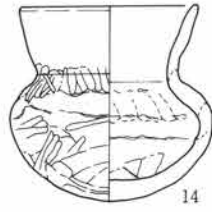
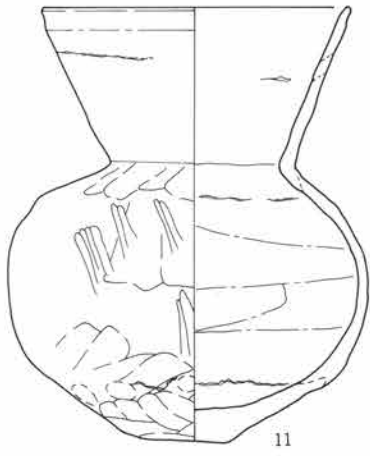
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕土師器	口縁の一部、底部欠損	1	(23.7) (33.3) —	砂粒、φ1～8mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成普通。胴部に黒斑。にぶい橙色。	底部から直線的に開がり、胴中程で張り出す。口縁は外反する。口縁は横位のナデ。胴外面はヘラケズリ。内面ヘラによる整形。指頭痕。	P15 写図25
甕土師器	口縁の $\frac{1}{2}$	2	14.1 (5.8) —	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成普通。橙色。	胴部は内湾し、口縁は「く」の字状に外反する。口縁部横位のナデ。	P51・方周辺
台付甕土師器	脚部欠損	3	14.2 (11.5) —	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。内面、外面の一部にスス附着。橙色。	胴は球形を呈し、口縁は「く」の字状に外反する。口縁横位のナデ。外面上半ヘラミガキ。下端ではヘラケズリ。内面は指頭による整形。	P59 写図25
台付甕土師器	脚部	4	— (6.3) (5.4)	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成普通。にぶい橙色。	脚は直線的に開く。内面輪積痕。指頭による整形で、指頭痕を残す。	P7
鉢?土師器	口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存	5	(25.3) (7.0) —	砂粒、φ1～8mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成普通。橙色。	直線的に開き、口縁は折り返す。内面に輪積痕有。口縁横位のナデ。外面縦位のナデ。	P50・56 1方周C上
甕土師器	$\frac{1}{2}$ 残存	6	28.2 21.2 8.9	砂粒、雲母、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成普通。にぶい黄橙色。	胴部は直線的に開き、口縁で内傾し、直立する。口縁横位のナデ。内面横位のハケ整形。外面斜位のハケ整形後ナデを施す。輪積痕を残す。	1方周C上・フク土
甕土師器	胴～底部 $\frac{1}{2}$ を残す	7	— (13.7) (7.8)	砂粒、φ1～8mmの小石を残す。胎土やや粗密。焼成普通。外面スス附着。にぶい黄橙色。	胴部内湾して立ち上る。外面縦位のヘラケズリ、内面横位のナデ後、ヘラによる縦位のナデ。	1方周C上・P17
埴土師器	口縁～胴 $\frac{1}{2}$ 欠損	8	10.2 10.0 3.9	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。外面スス附着。黒褐色。	胴は球形を程し、口縁は「く」の字に外反する。底部は若干上げ底。口縁横位のナデ。胴外面はヘラケズリ。内面はナデと指頭による整形。輪積痕を残す。	P25・フク土
埴土師器	ほぼ完形	9	11.4 6.4 4.5	砂粒多く含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。灰黄色。	胴は内湾し、外反する口縁に続く。口縁横位のナデ。外面胴から底部ヘラケズリ。内面ヘラによる整痕。指頭圧痕。	フク土 写図24
椀土師器	$\frac{1}{2}$ 残存	10	11.6 7.8 ●	砂粒、雲母、φ1～3mmの小石を含む。胎土粗密。焼成あまり良くない。灰黄色。	体部は内湾して立ち上り、口縁は内傾する。口縁横位のナデ。外面胴から底部ヘラケズリ、内面ヘラによる整形。	フク土



第143图 4区1号方形周溝墓出土遺物

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
埴土師器	%残存	11	(12.3) 17.0 4.1	砂粒、φ1～3mmの小石を多く含む。胎土やや粗密。焼成あまり良くない。浅黄橙色。	胴部は球形を呈し、口縁は直線的に開く。口縁部横位のナデ。胴部はヘラによる整形。内面ヘラによる整形。輪積痕	P23・フク土 写図25
埴土師器	口縁～胴の一部底部欠損	12	12.6 (15.3) ●	細粒を多く含む。胎土やや緻密。焼成あまり良くない。橙色。	胴部は球形を呈し、口縁は直線的に開く。口縁横位のナデ後放射状のヘラミガキ。胴部ヘラミガキ。内面輪積痕。	P52・1 溝157・1 溝170・1 溝175・1 溝263・1 溝283
埴土師器	口縁%欠損	13	(11.4) 15.2 ●	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。明赤褐色。	胴部は球形を呈する丸底。口縁は外反し、2段の稜を持ち口唇が直立する。口縁横位のナデ後ヘラミガキ。胴部下半ヘラによる整形。	溝No386 写図24
埴土師器	口縁一部欠損	14	7.2 7.7 ●	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成良。外面にスス附着。にぶい橙色	胴部は球形を呈する丸底。口縁は直線的に開く。口縁は横位のナデ。胴部外面下半はヘラケズリ。内面はヘラによる整形痕。輪積痕を残す。	1 溝 写図24
高土師器	脚裾の一部	15	17.6 16.3 13.8	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。杯部内面一部剥落。明赤褐色	杯部は下端に稜を持ち、外側に開く。脚は下側で太くなり裾部が開く。杯部は横位のナデ後放射状のヘラミガキ。脚部は整形後ヘラミガキ。脚部内面ナデとヘラによる整形。	P20・フク土 写図25
高土師器	杯部一部欠損	16	18.8 15.9 14.1	砂粒、φ1～5mmの小石を多く含む。胎土やや緻密。焼成あまり良くない。橙色。	杯部は下端に稜を持ち、外側に開く。脚は下側で太くなり裾部が開く。杯部は横位のナデ後放射状のヘラミガキ。脚部整形後ヘラミガキ。脚内面はナデとヘラによる整形。	1 溝130・131・134・135・136・137・139・120・117・317・318・319・142・143・147 写図25
高土師器	杯部一部欠損	17	17.9 16.2 12.8	砂粒、φ1～5mmの小石を多く含む。胎土やや緻密。焼成良。明赤褐色。	杯部は下端に稜を持ち、外側に開く。脚は下側で太くなり裾部が開く。杯部は横位のナデ後放射状のヘラミガキ。脚部整形後ヘラミガキ。脚内面はナデとヘラによる整形。	P1・32・36・北東・フク土 写図25
高土師器	杯部一部欠損	18	16.7 13.3 13.3	砂粒、φ1～5mmの小石を多く含む。胎土やや粗密。焼成普通。杯内底面一部剥落。杯部外面にスス附着。橙色。	杯部は下端に稜を持ち、屈曲して外側に開く。杯部は横位のナデ後放射状のヘラミガキ。脚は整形後全体にヘラミガキを施す。脚内面はナデとヘラによる整形。	P28・39・48・フク土 写図25
高土師器	杯部、裾部一部欠損	19	(18.0) 13.6 13.4	砂粒、φ1～8mmの小石を多く含む。胎土やや粗密。焼成普通。杯内底面一部剥落。明赤褐色。	杯部は下端にわずかに稜を持ち、外側に開く。脚は下側で太くなり裾部が開く。杯部は横位のナデ整形。脚は整形後ヘラミガキ。脚内面ヘラとナデによる整形。	P39・北東 写図25

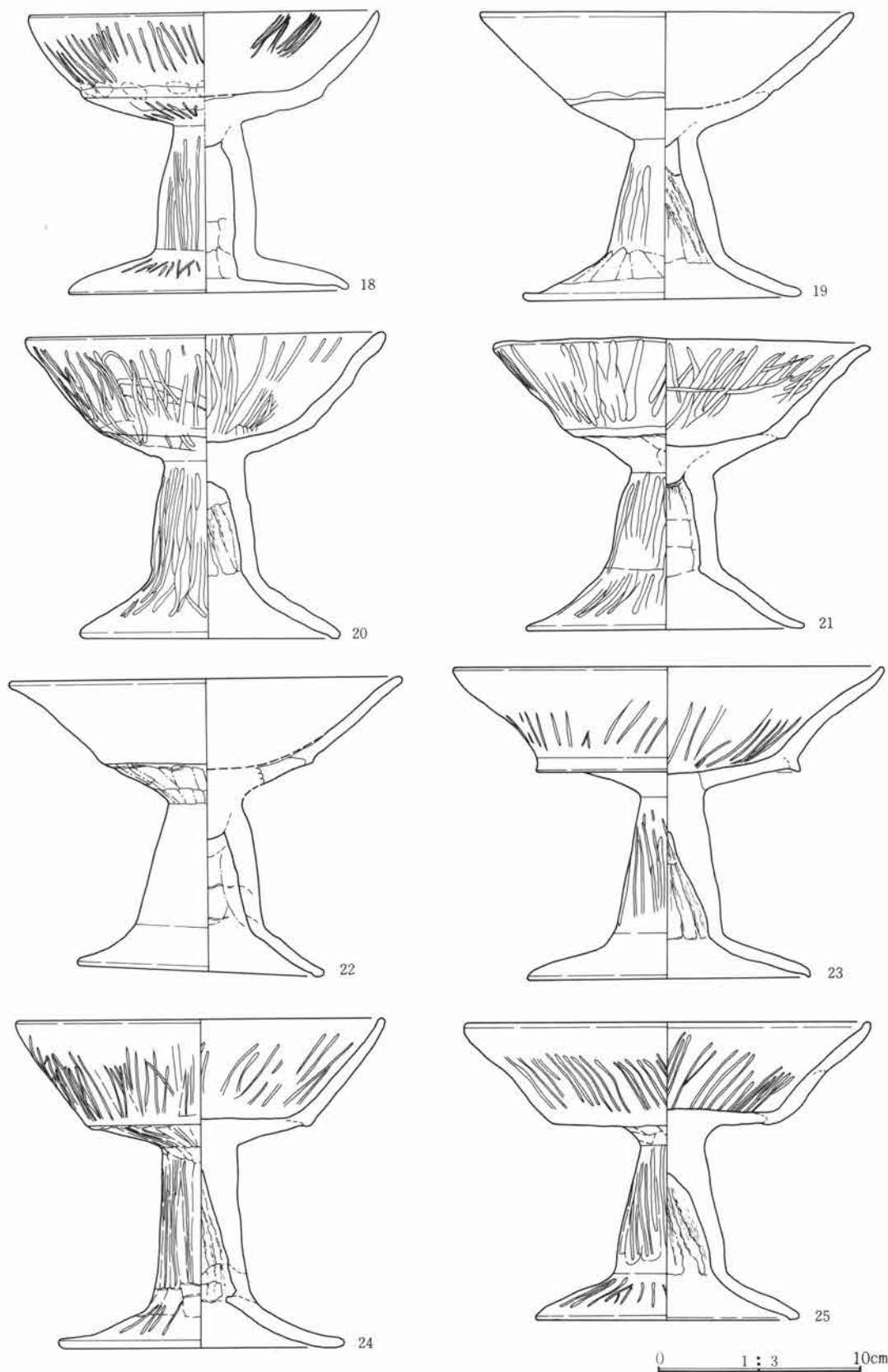


0 1:3 10cm

第144図 4区1号方形周溝墓出土遺物

第3章 出土した遺物

器 種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備 考 (出土位置)
高 杯 土 師 器	口縁の一部、脚裾の一部欠損	20	17.2 14.5 12.3	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。橙色。	杯部は下端に稜を持ち、外側に開く。脚は下側が太くなり裾部が開く。杯部は横位のナデ整形の後放射状のヘラミガキ。脚部は整形後のヘラミガキ。脚内面はナデと指頭による整形、輪積痕を残す。	P42・48・53 フク土 写図25
高 杯 土 師 器	体部の一部欠損	21	18.2 13.8 13.4	砂粒、φ1～3mmの小石を多く含む。胎土やや緻密。焼成良。赤褐色。	杯部は下端に稜を持ち、外側に開く。脚は下側が太くなり裾部が開く。杯部は横位のナデ整形後放射状のヘラミガキ。脚部整形後ヘラミガキ。脚内面はナデとヘラによる整形。	1溝52・61・63・65・ 56・58・59・60・54・ 55・90・71・73・16・ 14・17・13・80・81・ 15・79・64・201 写図26
高 杯 土 師 器	体部の一部欠損	22	19.0 14.0 11.9	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。杯内底面一部剝落。杯内外面にスス附着。明赤褐色。	杯部は下端に稜を持ち、外側に開く。脚は下側が太くなり裾部が開く。杯部は横位のナデ整形、杯と脚の接合部付近はヘラによる整形。脚内面は輪積痕と、指頭圧痕。	P34・60・北東 フク土 写図26
高 杯 土 師 器	体部の一部欠損	23	(20.8) 14.8 13.7	砂粒、雲母を含む。胎土やや粗密。焼成普通。杯外面にスス附着。赤褐色。	杯部下端は水平に近い角度で開き、稜を持ち外側に開く。脚は下側が太く裾部が開く。杯部は横位のナデ整形後放射状のヘラミガキ。脚はナデ整形後ヘラミガキ。脚内面に粘土のしぼり痕を残す。	P58・フク土
高 杯 土 師 器	杯部欠損	24	(17.7) 15.7 13.4	砂粒、雲母、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成普通。杯外面にスス附着。明赤褐色。	杯部は下端に稜を持ち、外側に開く。脚は下側が太くなり裾部が開く。杯部は横位のナデ整形後放射状のヘラミガキ。脚はヘラケズリ整形。裾はナデ整形後ヘラミガキ。脚内面粘土のしぼり痕。	P32・34・40・フク土
高 杯 土 師 器	欠損	25	(19.8) 14.2 (12.8)	砂粒、雲母、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや粗密。焼成普通。橙色。	杯部は下端に稜を持ち、外側に開く。脚は下側が太くなり裾部が開く。杯部は横位のナデ整形後放射状のヘラミガキ。脚は整形後ヘラミガキ。脚内面粘土のしぼり痕。	P31・60・北東 写図26
高 杯 土 師 器	杯の一部脚裾部欠損	26	(20.2) 14.4 —	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。明赤褐色。	杯部は下端に稜を持ち、外側に開く。脚は下側が太くなる。杯部は横位のナデ整形後放射状のヘラミガキ。脚は整形後ヘラミガキ。脚内面粘土のしぼり痕。	1溝黒色土層・P4・ 1溝205・1溝238・1 溝330・1溝244・1溝 243



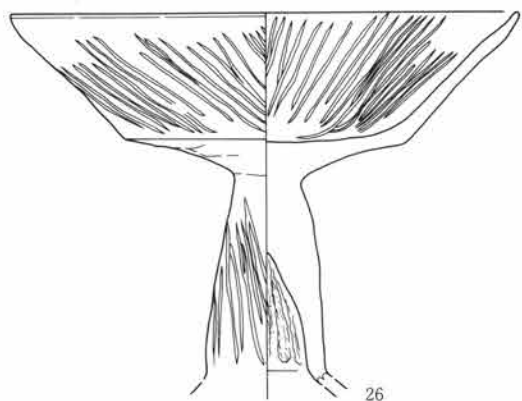
第145圖 4区1号方形周溝墓出土遺物

第3章 出土した遺物

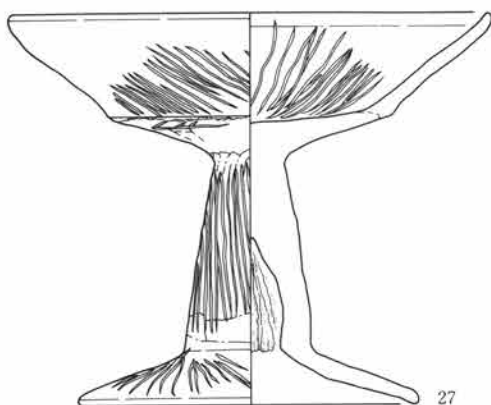
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
高杯土師器	㊦欠損	27	(19.0) 15.3 (13.5)	砂粒、雲母、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成普通。明赤褐色。	杯部は下端に稜を持ち、外側に開く。脚は下側が太く裾部が開く。杯部は横位のナデ後放射状のヘラミガキ。脚は整形後ヘラミガキ。脚内面粘土のしぼり痕。	P1
高杯土師器	脚部、杯部残存	28	— (8.1) —	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。杯部内面剝落。明赤褐色。	杯部は下端に稜を持ち、外側に開く。脚は下側が太く裾部が開く。杯部は横位のナデ整形後ヘラミガキ。脚部整形後ヘラミガキ。脚内面粘土のしぼり痕と輪積痕、ヘラ整形。	フク土
高杯土師器	脚部、杯部欠損	29	— (11.8) 13.9	砂粒、φ1～5mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成やや悪い。橙色。	杯部は下端に稜を持ち、外側に開く。脚は下側が太く裾部が開く。杯部は横位のナデ後ヘラミガキ。脚部整形後ヘラミガキ。脚内面ヘラケズリ。	P47・52・フク土
高杯土師器	杯部、脚部欠損	30	(20.2) (12.0) —	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。杯外面スス付着。明赤褐色。	杯部は下端に稜を持ち、外側に開く。脚は下側が太く裾部が開く。杯部は横位のナデ整形後放射状のヘラミガキ。脚部ヘラミガキ。脚内面ヘラによる整形。	1溝216・1溝329 1溝360・黒色土層
壺手づくね	完形	31	4.2 6.5 2.7	砂粒、φ1～3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。外面スス付着。灰色。	胴部は張り出し、口縁は外反する。口縁から頸部は横位のナデ。胴下半はヘラ整形。	溝P391 写図46
甕手づくね	㊦残存	32	5.4 6.55 3.9	細かい砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。口縁内外面にスス付着。にぶい黄褐色。	胴部はなだらかに張り出し、口縁はわずかに外反する。口縁は横位のナデ。胴部は縦位のハケ整形。	P1 写図46

4区1号方形周溝墓遺物観察表

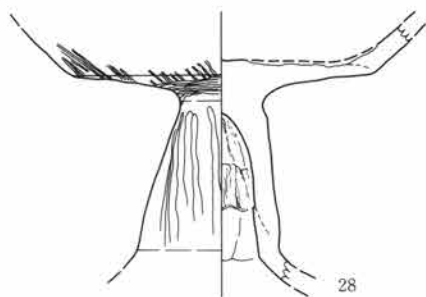
器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
勾玉	33	4.65	2.2	0.5	5.5	蛇紋岩	全面研磨。表面に稜を持つ。両方から穿孔。	1溝 写図40
勾玉	34	2.1	0.8	2.7	2.7	土製	頭部の孔は片側からの穿孔。	1溝 写図34
勾玉	35	2.4	0.8	3.3	3.3	土製	頭部の孔は片側からの穿孔。若干偏平。	1溝No178写図34



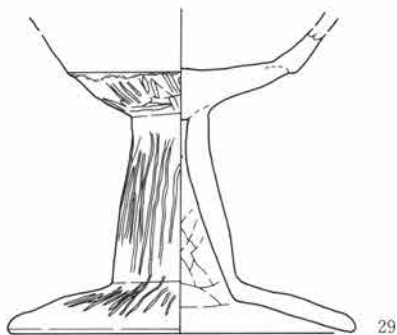
26



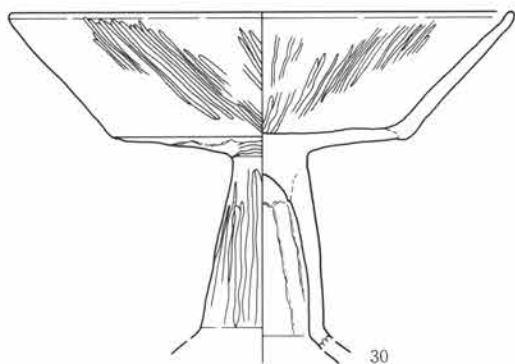
27



28

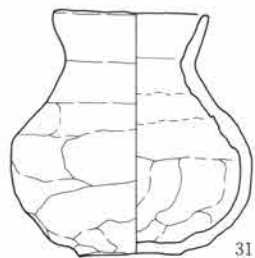


29

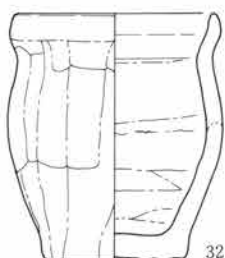


30

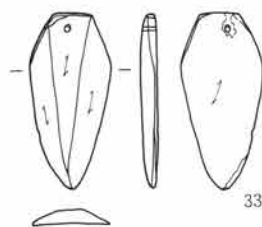
0 1 : 3 10cm



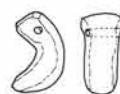
31



32



33



34



35

0 1 : 2 5cm

第146図 4区1号方形周溝墓出土遺物

第7節 水田出土遺物

C 水田遺物観察表

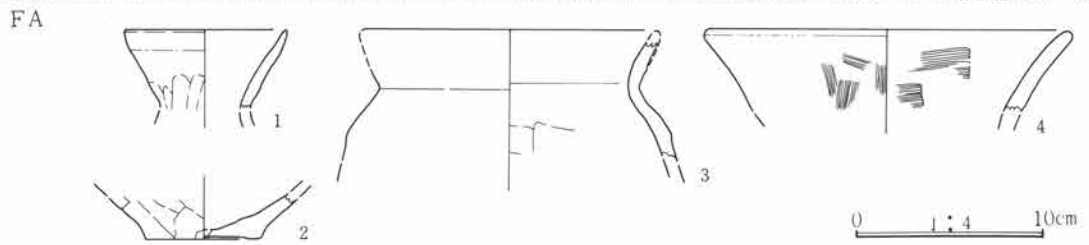
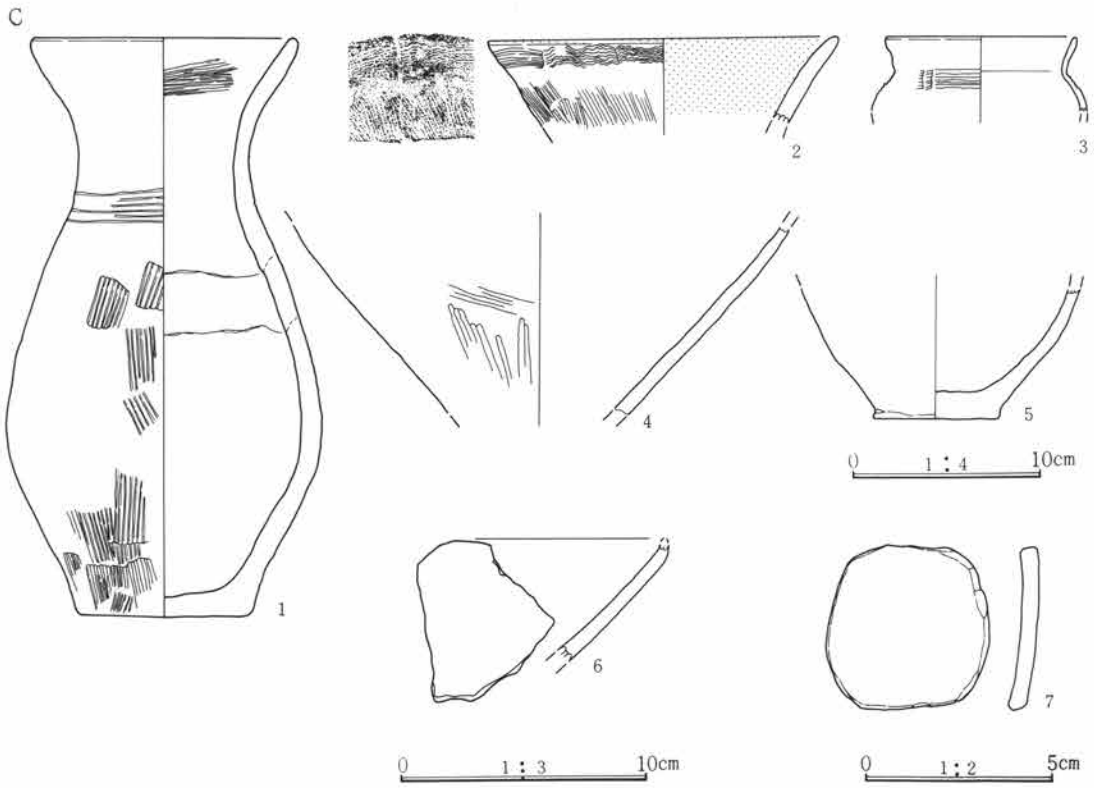
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺 (弥生)	1/2残	1	(13.7) (30.7) 9.1	砂粒、 ϕ 1~2mmを多く含む胎土は粗密。焼成良。にぶい赤褐色。	胴下部に最大径を持ち、頸部で細くなり、口縁で外反する全体に磨滅が多い。口唇部と頸部に横位の沈線、胴部はハケ目調整、口縁部縦位のミガキが施される。内面輪積痕。	CP下・P15-1 写図26
甕 (弥生)	口縁部破片	2	18.8 (4.5) —	砂粒、黒色粒子、 ϕ 1~4mmの乳白色の小石を含む。胎土粗密。焼成不良。にぶい黄橙色。	口唇部に波状の沈線。口縁部ハケ整形の後横位のナデ。	P95-1
甕 (弥生)	口縁部破片	3	10.2 3.9	砂粒、雲母を含む。胎土粗密。焼成良。灰褐色。	頸部に右から左方向への簾状文。内外面ナデ整形。	フク土
壺 (弥生)	胴下部破片	4	(9.8) ●	黒色砂粒を多く含む。胎土粗密。焼成良。黄橙色。	全体にミガキが施される。	フク土
甕 (弥生)	胴下部~ 底部破片	5	(6.9) 6.6	砂粒を多量に含む。胎土は緻密。焼成良。明赤褐色。	器表面全体に縦方向のミガキが施される。	フク土
高杯 (弥生)	杯部破片	6	— — —	黒色粒子、砂粒を多く含む。胎土粗密。焼成良。内外面に赤色塗彩。赤褐色。	器面全体に横方向のミガキが施される。	P6-3

C 水田遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
円盤	7	4.2	4.3	0.5	15.0	土製	周縁を打ち欠いた後磨く。	フク土

F A 水田遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
壺	口縁部破片	1	8.8 (4.1) —	砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい黄橙色。	内面ハケ整形の後横位のナデ 外面上部は横位のナデ、下部は縦位のヘラケズリ。	P2
甕	底部破片	2	— (6.2)	ϕ 1~3mmの小石多く含む。胎土粗密。焼成良。明褐灰色	外面はヘラケズリによる整形 内面はナデを施す。	P2
甕	頸部破片	3	— (6.5) —	砂粒、 ϕ 1~3mmの小石を多く含む。胎土粗密。焼成良くない。にぶい橙色。	外面は縦位のハケ目整形の後ナデ、口縁内面は横位のナデ 胴部内面に横位のヘラケズリが施される。	上面
甕	口縁部破片	4	(19.2) (4.3) —	砂粒、雲母、 ϕ 1~3mmの小石を含む。胎土粗密。焼成良くない。にぶい橙色。	内外面ともハケによる整形の後、横位のナデを施す。	上面



第147図 C水田、FA水田出土遺物



第8節 竪穴状遺構出土遺物

2号竪穴遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯	㍻残存	1	(13.3) 3.6 ●	細粒、 ϕ 1~4 mmの小石を少量含む。胎土緻密。焼成やや良。橙色。	体部は湾曲し、口縁で屈曲して立ち上る。内面はナデ、口縁は横位のナデ。底部はヘラケズリ整形。	P10・14・9・11

3号竪穴遺物観察表

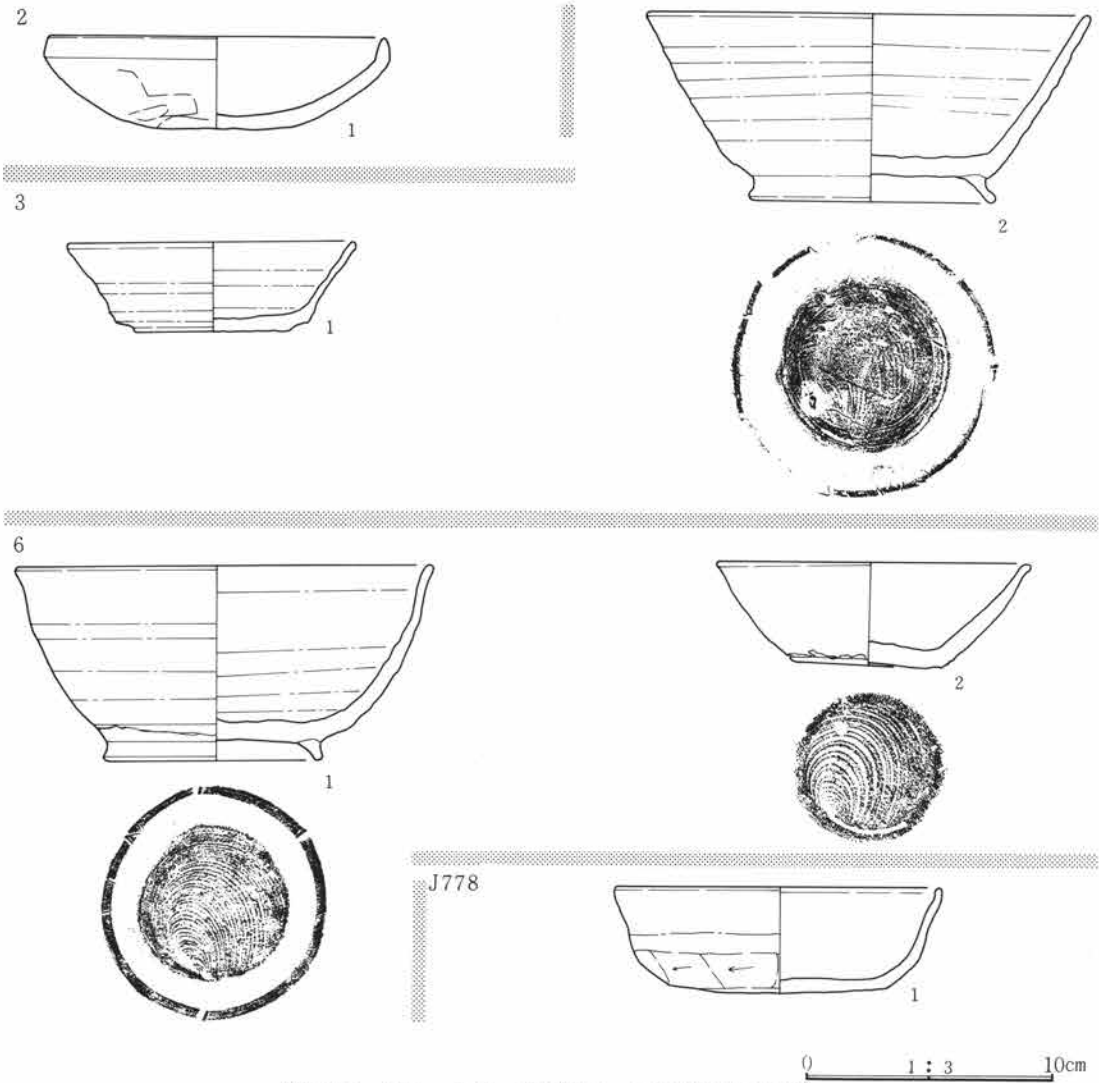
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯 須恵器	㍻残存	1	(11.5) 3.5 (6.2)	砂粒、 ϕ 1~3 mmの乳白色の小石を含む。胎土緻密。焼成良。外面にススが付着。内面鉄分付着。灰色。	体部から直線的に開く。ロクロ目が強い。底部は右回転糸切り離し、未調整。	P1
椀 須恵器	㍻残存	2	(17.6) 7.3 9.9	砂粒、 ϕ 1 mm以下の小石を含む。胎土やや粗密。表面に気泡多い。焼成良くない。淡黄色。	体部から直線的に開く。ロクロ整形。ロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り、高台貼り付け後ナデを施す。高台は外側に開く。	P51・54・53・56

6号竪穴遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
椀 須恵器	㍻残存	1	(16.7) 7.6 8.8	砂粒、 ϕ 1~3 mmの小石を含む。胎土粗密。焼成やや良。灰白色。	体部は内湾ぎみに立ち上る。ロクロ整形。ロクロ目強い。底部は右回転糸切り、高台貼り付け後ナデている。高台は外側に開く。	写図25
杯 須恵器	ほぼ完形	2	(12.5) 4.1 5.7	砂粒、 ϕ 1~3 mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。灰色	体部から直線的に開き、口縁で若干外反する。ロクロ整形ロクロ目は弱い。底部は右回転糸切り。	P8 写図25

J778周辺遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
杯	口縁一部 欠損	1	(12.9) 4.2 8.8	黒色の極細かい砂粒を少量含む。胎土やや粗密。焼成良。底にスス付着。橙色。	体部は内湾ぎみに立ち上る。口縁部と内面は横位のナデ。外面は、ヘラケズリ。底部はヘラケズリ調整。体部に指頭による圧痕がわずかに残る。	写図25



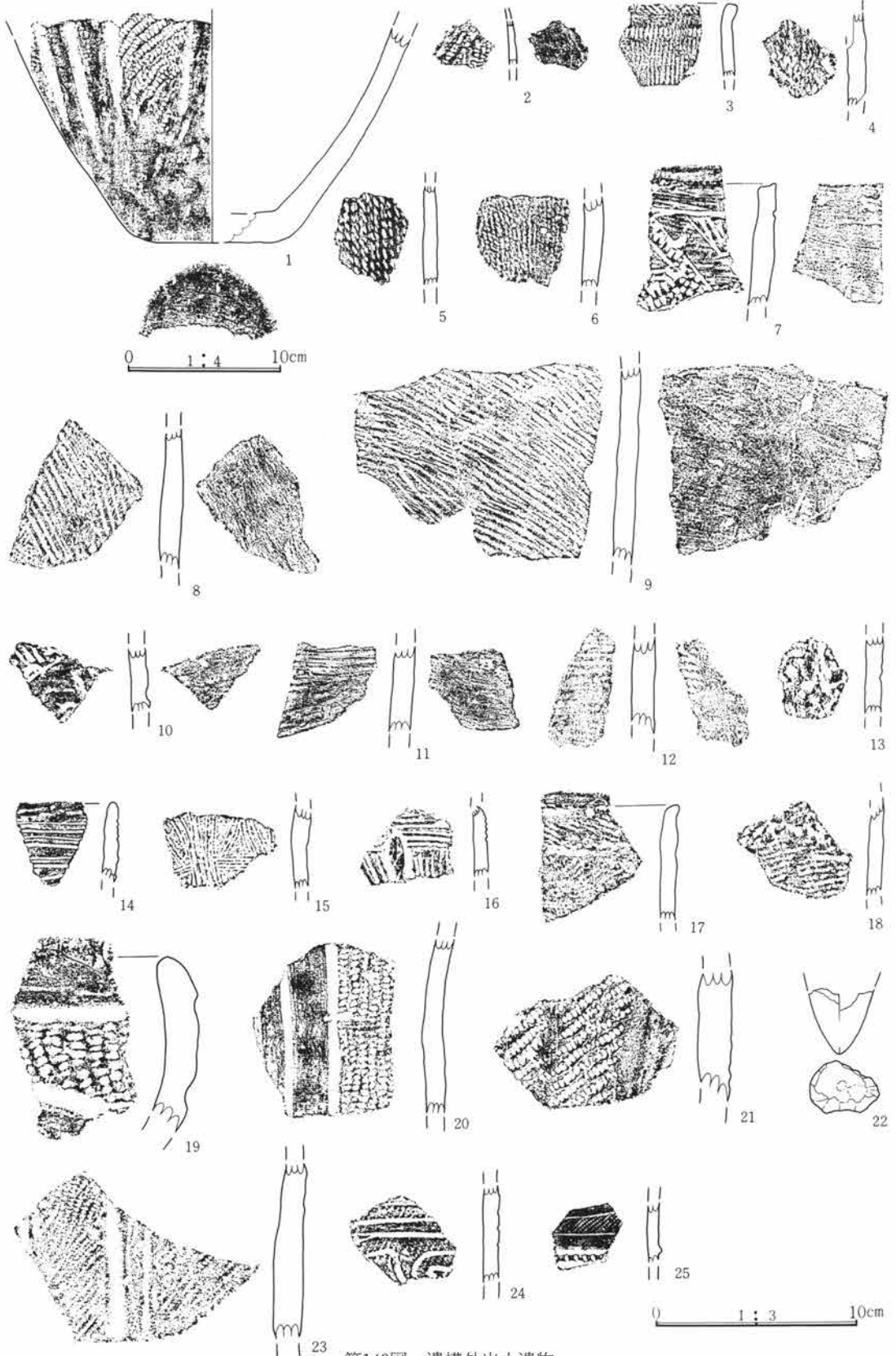
第148図 2号、3号、6号堅穴、J778周辺出土遺物



第9節 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物観察表

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
深鉢	胴下半～底部	1	— (13.0) 10.2	砂粒、 $\phi 1 \sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。橙色。	輪積成形。内面、胴部下端上下方向のミガキ。外面は単節LRの斜行縄文施文後、沈線を垂下させる。	加層利EⅢ式 4-82、K、00—東80m
深鉢	胴部破片	2	— — —	砂粒、 $\phi 1 \sim 2$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。にぶい橙色。	R捻りの縄文を施文。	多縄文系 3-117住・P37 写図49
深鉢	口縁部破片	3	— — —	$\phi 1 \sim 2$ mmの小石と、極細かい片岩を含み、キラキラ光る。焼成良。にぶい赤褐色。	捺糸文Rの右巻き。	捺糸文系 3区表土 写図49
深鉢	胴部破片	4	— — —	$\phi 1 \sim 2$ mmの小石と、極細かい片岩を含み、キラキラ光る。焼成良。にぶい赤褐色。	捺糸文Rの右巻き。	捺糸文系 3-134住・P39 写図49
深鉢	胴部破片	5	— — —	$\phi 1 \sim 2$ mmの小石と、極細かい片岩を含み、キラキラ光る。焼成良。暗赤褐色。	捺糸文Rの右巻き。	捺糸文系 3-163住・P19 写図49
深鉢	胴部破片	6	— — —	$\phi 1 \sim 2$ mmの小石と雲母、極細かい片岩を含みキラキラ光る。焼成良。にぶい黄褐色。	捺糸文Rの右巻き。	捺糸文系 3—表土 写図49
深鉢	口縁部破片	7	— — —	砂粒と極細かい片岩、雲母を少量含む。焼成良。含繊維。にぶい黄褐色。	横位の条痕による整形。沈線により幾何学的文様を施し、その中を爪形文を充填する。	鶺鴒島台 3-120住・P1 写図49
深鉢	胴部破片	8	— — —	砂粒、 $\phi 1 \sim 2$ mmの小石、繊維を含む。焼成良。にぶい橙色。	外面は条痕による整形。内面は擦痕が認められる。	条痕文系 3—表土 写図49
深鉢	胴部破片	9	— — —	砂粒、 $\phi 1 \sim 2$ mmの小石、繊維を含む。焼成良。にぶい橙色。	外面は斜位方向に条痕による整形。内面は擦痕が認められる。	条痕文系 3-1井戸 写図49
深鉢	胴部破片	10	— — —	砂粒、 $\phi 1 \sim 2$ mmの小石、雲母を含む。焼成良。含繊維。にぶい黄褐色。	横位の条痕による整形。沈線により幾何学的文様を施し、その中を爪形文を充填する。	鶺鴒島台 3-120住・P70 写図49
深鉢	胴部破片	11	— — —	砂粒、極細かい片岩、 $\phi 1 \sim 2$ mmの小石、繊維を含む。焼成良。にぶい黄褐色。	外面は斜位方向に条痕による整形。内面は擦痕が認められる。	条痕文系 3-153住・P46 写図49
深鉢	胴部破片	12	— — —	砂粒、極細かい片岩、雲母、 $\phi 1 \sim 2$ mmの小石、繊維を含む焼成良。にぶい黄褐色。	外面は横位方向に条痕による整形。内面は擦痕が認められる。	条痕文系 4-219住・フク土 写図49
深鉢	胴部破片	13	— — —	繊維と極少量の $\phi 1 \sim 2$ mmの小石。焼成良。にぶい赤褐色	0段多条の単節RLのループとRL、LRの羽状縄文。	関山 2—表土 写図49
深鉢	口縁部破片	14	— — —	砂粒、極細い雲母、片岩を含む。焼成良。にぶい赤褐色。	巾5mm程の半截竹管による平行沈線を横位に施文。	諸磯b 170住・フク土 写図49



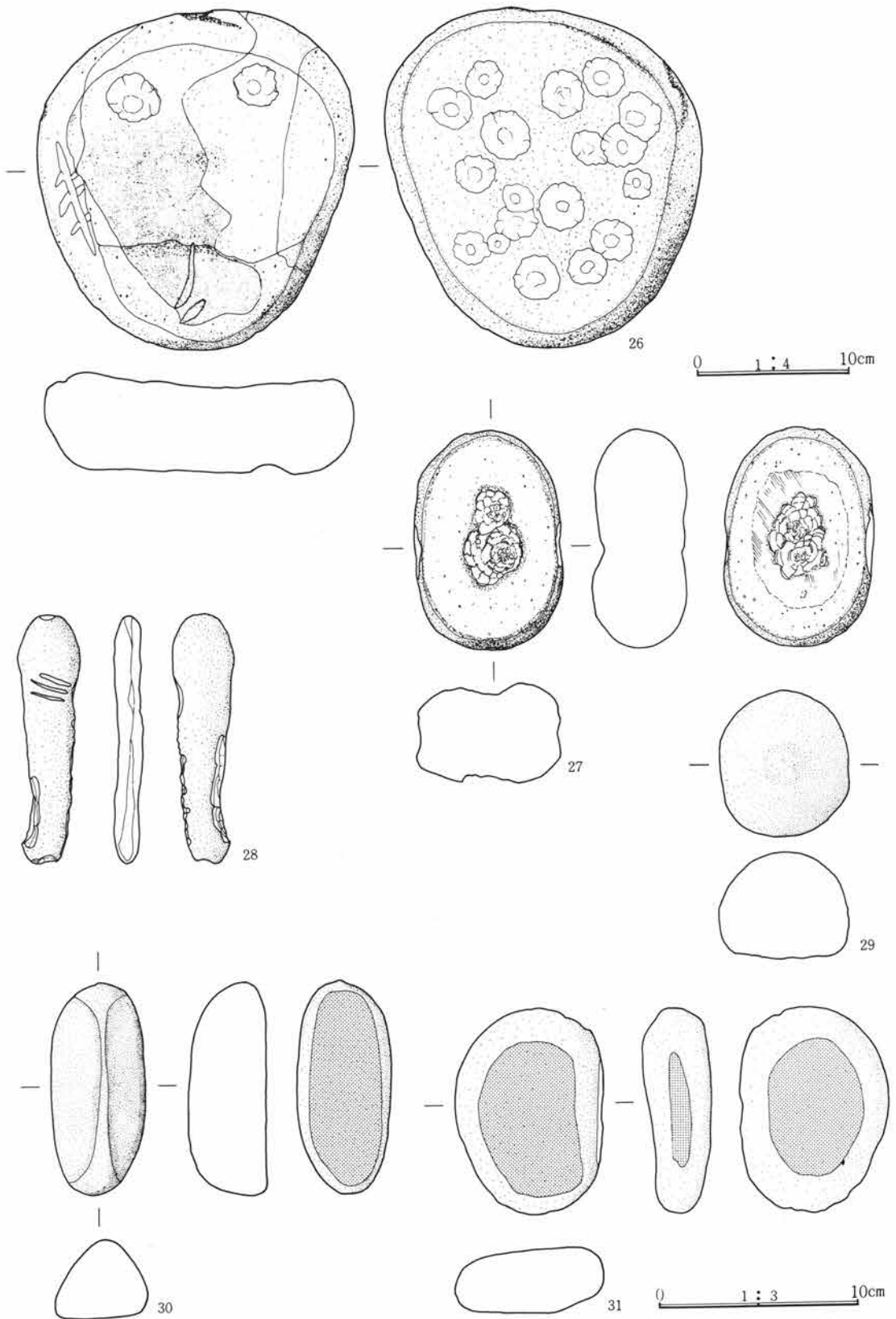
第149圖 遺構外出土遺物

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
深鉢	胴部破片	15	— — —	砂粒、 ϕ 1mm前後の小石、雲母を含む。焼成良。にぶい褐色。	集合沈線により、弧状、横位縦位の施文。	諸磯c 3—表土 写図49
深鉢	口縁部破片	16	— — —	砂粒、 ϕ 1~2mmの小石を含む。焼成良。にぶい黄橙色。	巾2~3mmの集合沈線により横位、斜位に施文。粘土留が貼付される。	諸磯c 3—87住・P86 写図49
深鉢	口縁部破片	17	— —	砂粒、 ϕ 1~5mmの小石を含む。焼成良。にぶい黄橙色。	全体に磨減多い。単節 RL、LRの羽状縄文。	前期終末 4区3住 カマド 写図49
深鉢	胴部破片	18	— —	砂粒、雲母、 ϕ 1~2mmの小石を含む。にぶい黄橙色。	全体に磨減多い。単節 LRの縄文。	前期 4区表土 写図49
深鉢	口縁部破片	19	— — —	砂粒、雲母、 ϕ 1~3mmの小石を含む。にぶい黄橙色。	太い沈線により口縁部文様帯を作る。単節 RLを縦に施文している。	加層利EIII 4区表土西 写図49
深鉢	胴部破片	20	— — —	砂粒、雲母、 ϕ 1~5mmの小石を含む。にぶい黄橙色。	太い沈線が垂下し無文部と、単節 RLの縄文を斜めに施文する部分を作る。	加層利EIII 4—82、K、0 0—東 80m 写図49
深鉢	胴部破片	21	— —	砂粒、雲母、 ϕ 1~5mmの小石を含む。橙色。	単節 LRの斜行縄文を施文する。	加層利EIII 4—82 K、写図49
深鉢	底部	22	— —	極細かい砂粒、片岩を含みキラキラ光る。にぶい橙色。	無文。尖底になる。外面みがいている。	早期前半 6、3—230 住 写図49
深鉢	胴部破片	23	— — —	砂粒、雲母、 ϕ 1~5mmの小石を含む。焼成悪くザラつく。にぶい黄橙色。	太い沈線が2本単位で懸垂文となり、その間を単節 LRの斜行縄文が充填される。	加層利EIII 4—82、K—0 0—東 80m 写図49
深鉢	胴部破片	24	— — —	細かい砂粒、黒色粒子、雲母を含む。淡黄色。	沈線により横位、弧状に施文しその間を単節 LRの斜行縄文が充填する。	加層利B 4—25住・床下 写図49
深鉢	胴部破片	25	— — —	細かい砂粒、雲母、片岩を含みキラキラ光る。灰黄色。	細かい横位の沈線間に単節 LRの縄文を施文。粘土紐による刻みのある凸帯を持つ。	4—7住 写図49

遺構外遺物観察表

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
多孔石	26	22.4	20.8	6.9	3500	粗粒安山岩	表裏面に円錐状の凹み。トーン部スス付着。	表土 写図50 1方C 写図48 表土 写図48 4—1溝 写図48 181住P15写図50 3区28住 写図50 145住P428写図39 表土 写図39 4—11土坑
凹石	27	10.7	7.4	4.0	590.9	石英閃緑岩	表面円錐状の凹み。裏面側面浅い凹み。	
スクレイパー	28	12.1	3.1	1.4	78	変玄武岩	側面に使用痕。表面に細長い擦痕。	
敲石	29	7.2	6.3	5.2	319	粗粒安山岩	表面側面に敲打痕。	
磨石	30	10.4	4.7	3.8	262	粗粒安山岩	トーン部磨り面。	
磨石	31	10.1	7.3	3.1	342	流紋岩	トーン部磨り面。両端敲打痕。	
石斧	32	5.9	4.6	1.9	60	黒色頁岩	上端欠損。先端刃部細かい調整。	
石斧	33	4.6	7.1	1.4	56	粗粒安山岩	片面に自然面を残す。刃部に細かい剝離。	
磨製石斧	34	8.8	6.9	4.3	512	蛇紋岩	上部欠損。刃部欠損するが再生使用する。	
磨製石斧	35	7.1	欠損	4.0	119	変輝緑岩	刃部付近を残す。ていねいに磨かれる。	
スクレイパー	36	4.8	8.3	1.1	56.6	珪質頁岩	下縁を刃部にする。使用痕残る。	

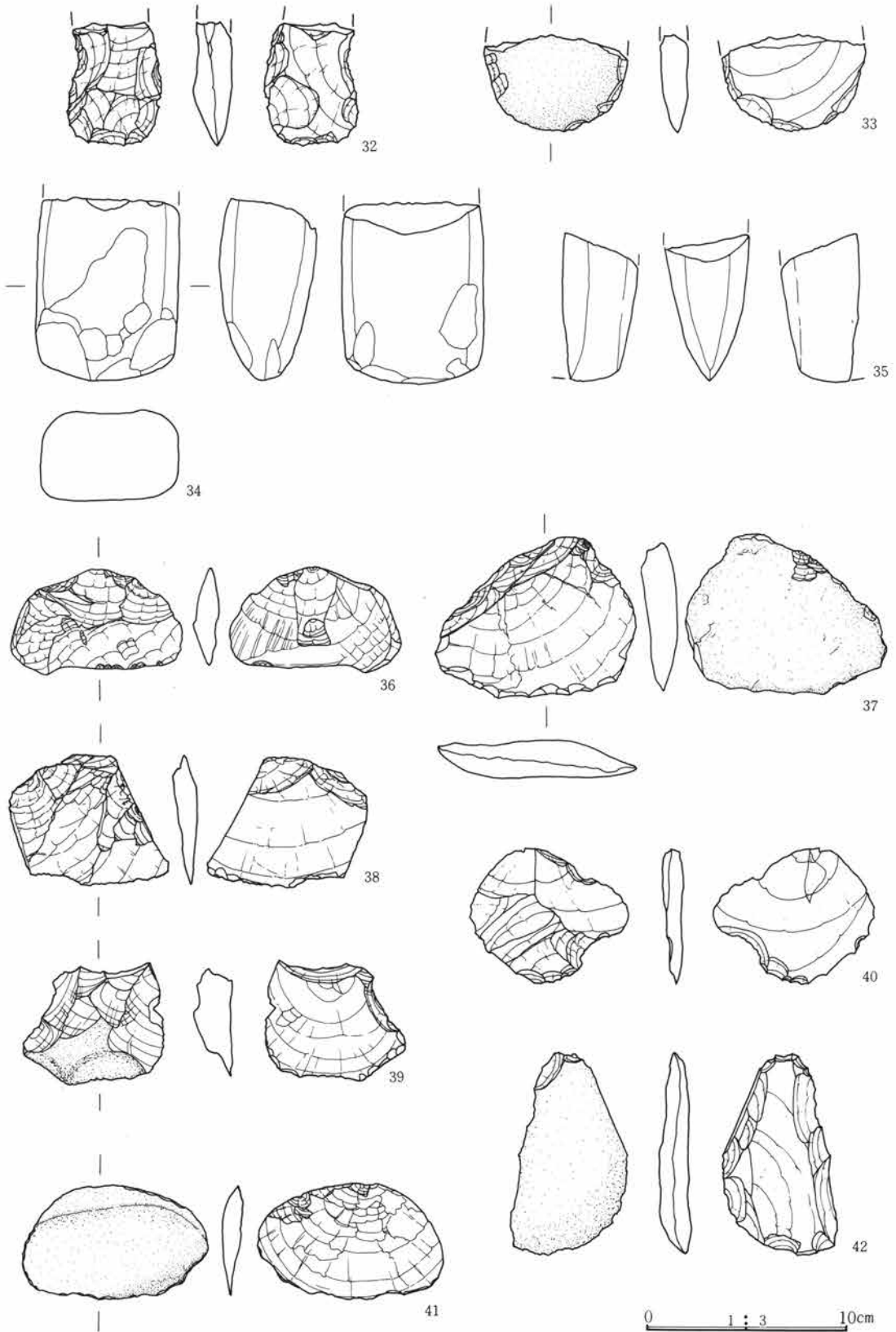


第150圖 遺構外出土遺物

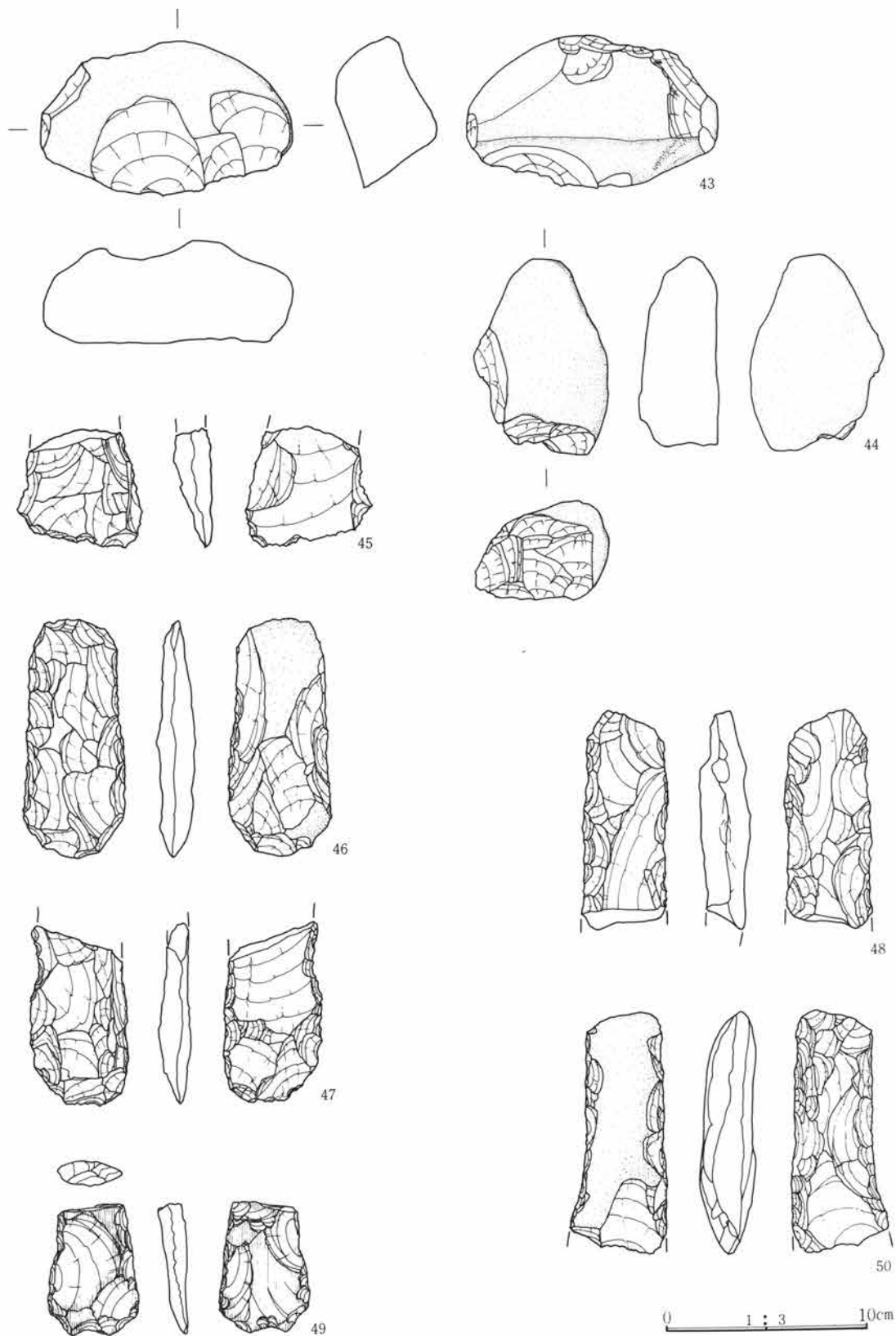
第3章 出土した遺物

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
スクレイパー	37	7.7	9.9	1.8	130.6	黒色頁岩	下縁を刃部にする。使用痕残る。	表土
スクレイパー	38	6.3	7.8	1.3	58.2	黒色頁岩	下縁を刃部にする。使用痕残る。	1方周C軽石上
スクレイパー	39	5.2	6.8	1.8	73.4	黒色頁岩	下縁を刃部にする。使用痕残る。	
スクレイパー	40	6.4	7.7	1.0	43	黒色頁岩	下縁を刃部にする。使用痕残る。	表土 写図50
スクレイパー	41	5.6	8.8	0.9	55.8	灰色安山岩	片面自然面を残す。下縁刃部。使用痕残る。	209住北側残土隅
スクレイパー	42	9.7	5.6	1.6	88	黒色頁岩	片面自然面を残す。側縁下から下縁刃部。	表土 写図50
石核	43	7.3	12.2	4.4	557	黒色頁岩	自然面を多く残す。横長の剥片を取る。	4-19住 写図48
石核	44	8.9	6.5	3.9	332	黒色頁岩	自然面を残す。下半剥離する。	89住S1 写図48
打製石斧	45	5.7	6.1	1.9	63	黒色頁岩	上端欠損。先端部細かい調整。	230住掘方 写図50
打製石斧	46	11.5	5.0	1.9	127	黒色頁岩	一部自然面を残す。先端刃部磨滅する。	1方上11 写図50
打製石斧	47	8.6	4.8	1.6	81	黒色頁岩	上部欠損。先端刃部磨滅する。	4-82K 写図50
打製石斧	48	10.5	4.3	2.5	120	黒色頁岩	先端部欠損。	2溝 写図50
打製石斧	49	6.3	4.5	1.4	39.0	頁岩	上部欠損。先端部磨られる。	表土
打製石斧	50	11.6	4.7	2.7	169	黒色頁岩	先端部欠損。一部自然面を残す。	表土No107写図50
スクレイパー	51	5.4	7.1	1.8	68.6	黒色頁岩	側縁に使用痕を残す。	184住フク土
スクレイパー	52	7.7	6.4	2.3	96.7	黒色頁岩	下縁を刃部にする。使用痕残る。	表土
スクレイパー	53	2.8	7.7	2.5	13.5	黒色頁岩	下縁を刃部にし、細かい調整をする。	表土
スクレイパー	54	4.1	5.0	0.8	20.5	黒色頁岩	下縁を刃部にする。使用痕残る。	4-11坑ピットNo1
スクレイパー	55	3.9	6.2	1.1	20	黒色頁岩	下縁を刃部にする。使用痕残る。	表土 写図50
スクレイパー	56	4.8	2.6	1.4	12.9	黒曜石	側縁に細かい刃部調整を施す。	215住S2 写図50
石錐?	57	5.5	3.3	1.6	23.5	黒色頁岩	先端欠損。錐部側縁に細かい調整。	4区6土坑写図50
石錐	58	3.1	1.5	0.5	2.1	黒色頁岩	先端欠損。錐部側縁に細かい調整。	149土坑 写図50
石匙	59	6.4	5.9	1.0	20.4	硬質泥岩	細かい刃部調整を施す。使用痕残る。	136住 写図50
石匙	60	7.6	5.0	0.8	32	黒色頁岩	細かい刃部調整を施す。使用痕残る。	2号溝 写図50
石鏃	61	3.1	2.3	0.4	2.2	黒色安山岩	先端、基部欠損。全体に若干磨耗している。	表土 写図50
石鏃	62	2.1	1.4	0.4	0.8	黒曜石	先端、基部欠損。	表土 写図50
石鏃	63	2.2	1.4	0.4	0.8	チャート	完形。	表土 写図50
石鏃	64	2.4	1.5	0.4	0.7	チャート	基部欠損。	表探 写図50
石鏃	65	2.9	1.7	0.5	1.3	黒曜石	完形。側縁は鋸状にするどい。	19住S16 写図50
石鏃	66	1.4	1.0	0.3	0.4	チャート	完形。若干磨耗している。	136住 写図50
石鏃	67	1.9	1.3	0.3	0.4	黒曜石	完形。	145住 写図50
石鏃	68	1.3	1.2	0.3	0.3	黒曜石	完形。	158住 写図50
石鏃	69	1.7	1.3	0.5	0.7	黒曜石	先端部欠損。	171住S1 写図50
石鏃	70	1.6	1.2	0.3	0.3	黒曜石	基部欠損。	173住 写図50
石鏃	71	2.0	1.5	0.4	0.7	チャート	完形。	185住 写図50
石鏃	72	2.5	1.9	0.5	1.8	黒色頁岩	基部欠損。若干磨耗している。	193住 写図50
石鏃	73	1.7	1.1	0.3	0.5	黒曜石	基部欠損。	193住 写図50
石鏃	74	1.3	1.0	0.4	0.3	黒曜石	基部欠損。	215住 写図50
石鏃未製品	75	2.1	1.6	0.3	0.6	黒曜石	細かい調整を施す。石鏃未製品。	233住掘方写図50
石鏃	76	2.0	1.7	0.4	0.8	黒曜石	側面欠損。	235住 写図50
玉	104	1.2	0.9	0.85	1.3	土製	紐穴は貫通する。長楕円形を呈する。	表土 写図34
剣形品	105	2.1	1.7	0.4	1.77	緑色片岩	全面研磨。偏平。片側から穿孔。	耕作土 写図40
砥石	106	14.6	8.4	2.8	762.3	粗粒安山岩	平板状。両面研ぎ面。トーン部スス付着。	表土

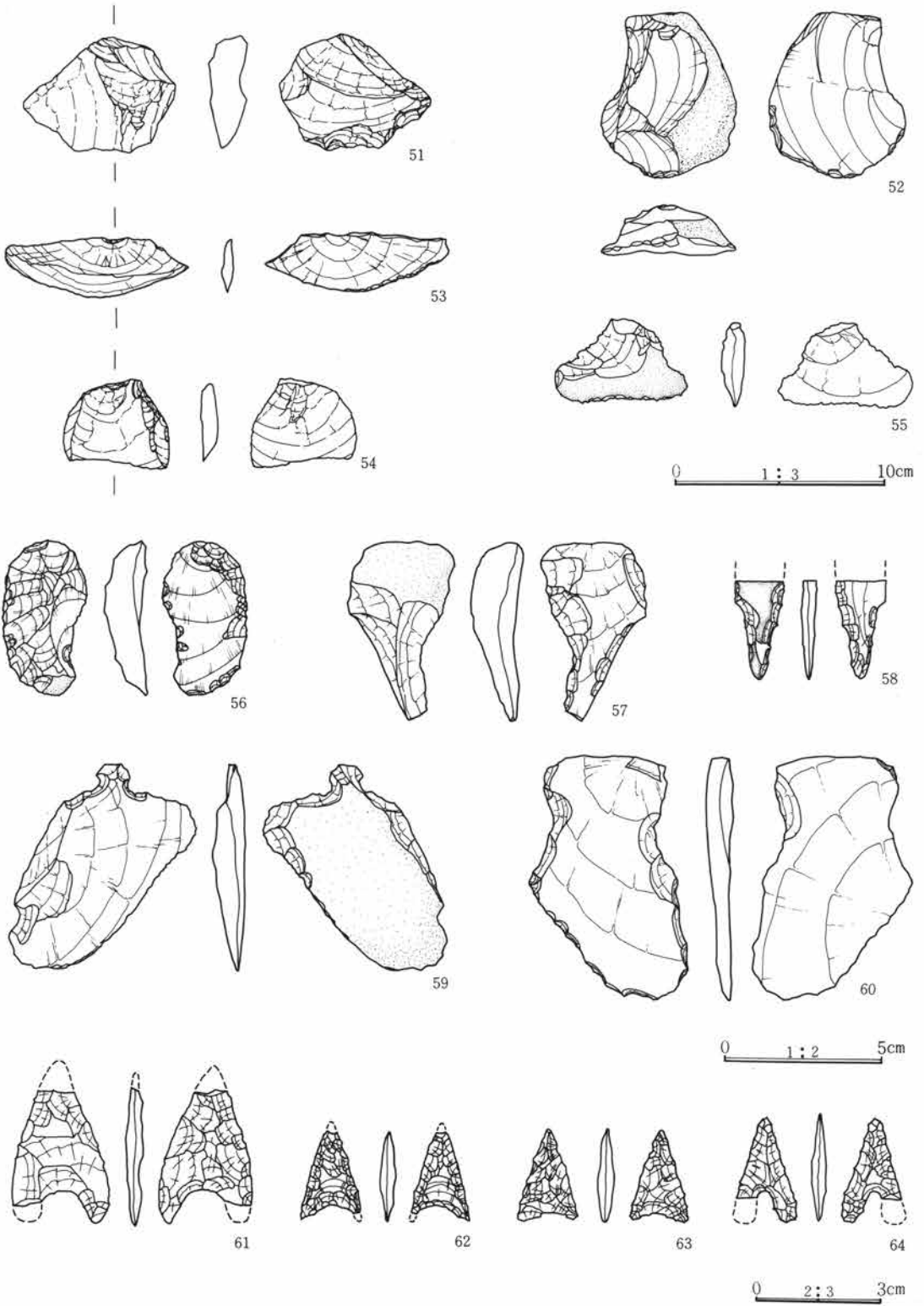
器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 (弥生)	口縁部破片	77	—	砂粒、φ1~3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。淡黄色。	口縁外面に太い沈線が鋸歯状に施され、円形の粘土が貼付される。内面は横位のミガキ。	黒褐色土 3Mグリットローム上面攪乱層
甕 (弥生)	口縁破片	78	—	砂粒、φ1~3mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。内外面スス付着。黒褐色。	口縁外面に太い沈線が鋸歯状に施され、円形の粘土が貼付される。内面は横位のミガキ。縄文は単節LRの斜行縄文。	3L24黒褐色土



第151図 遺構外出土遺物



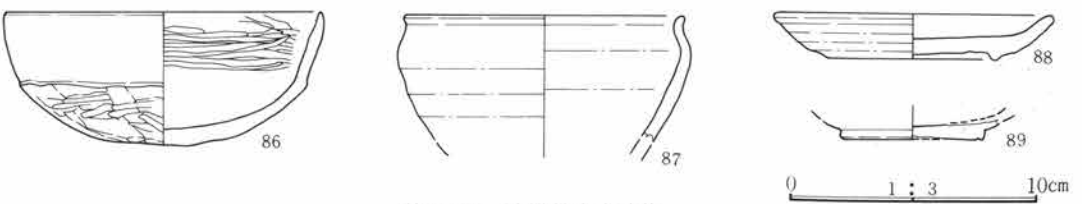
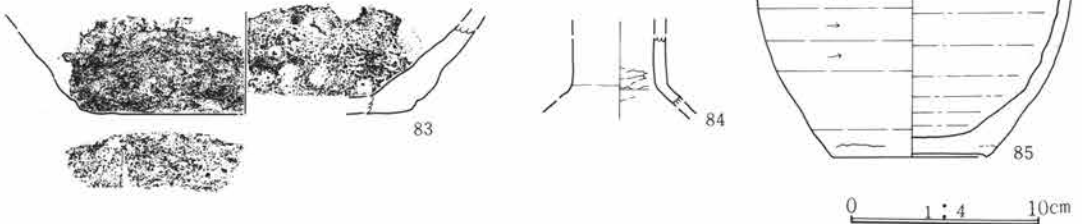
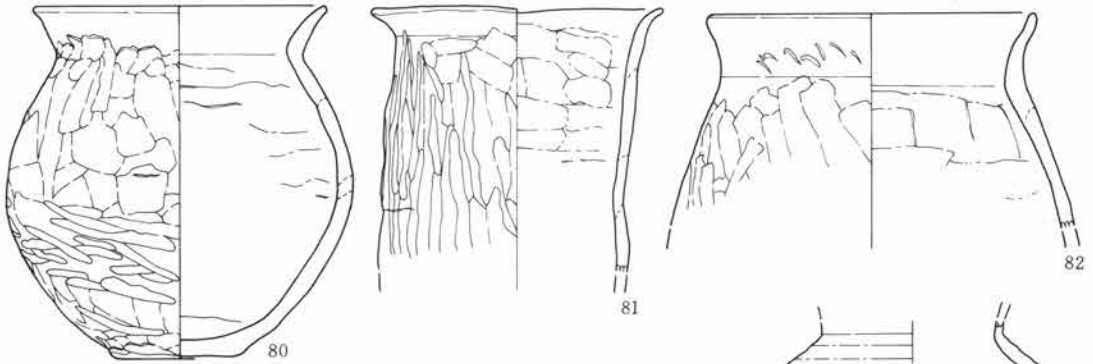
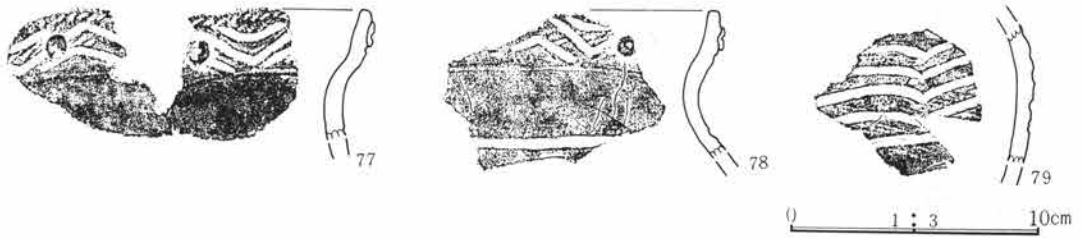
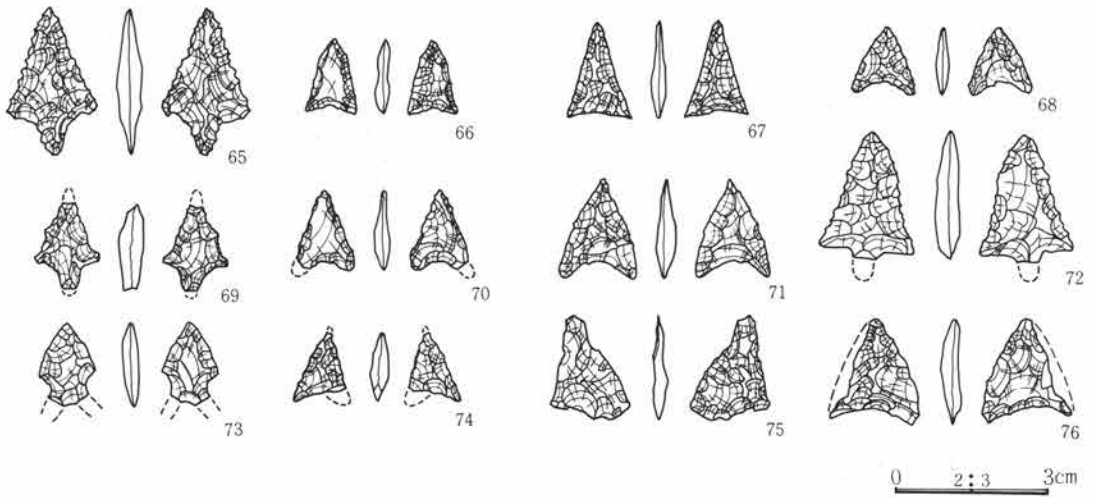
第152図 遺構外出土遺物



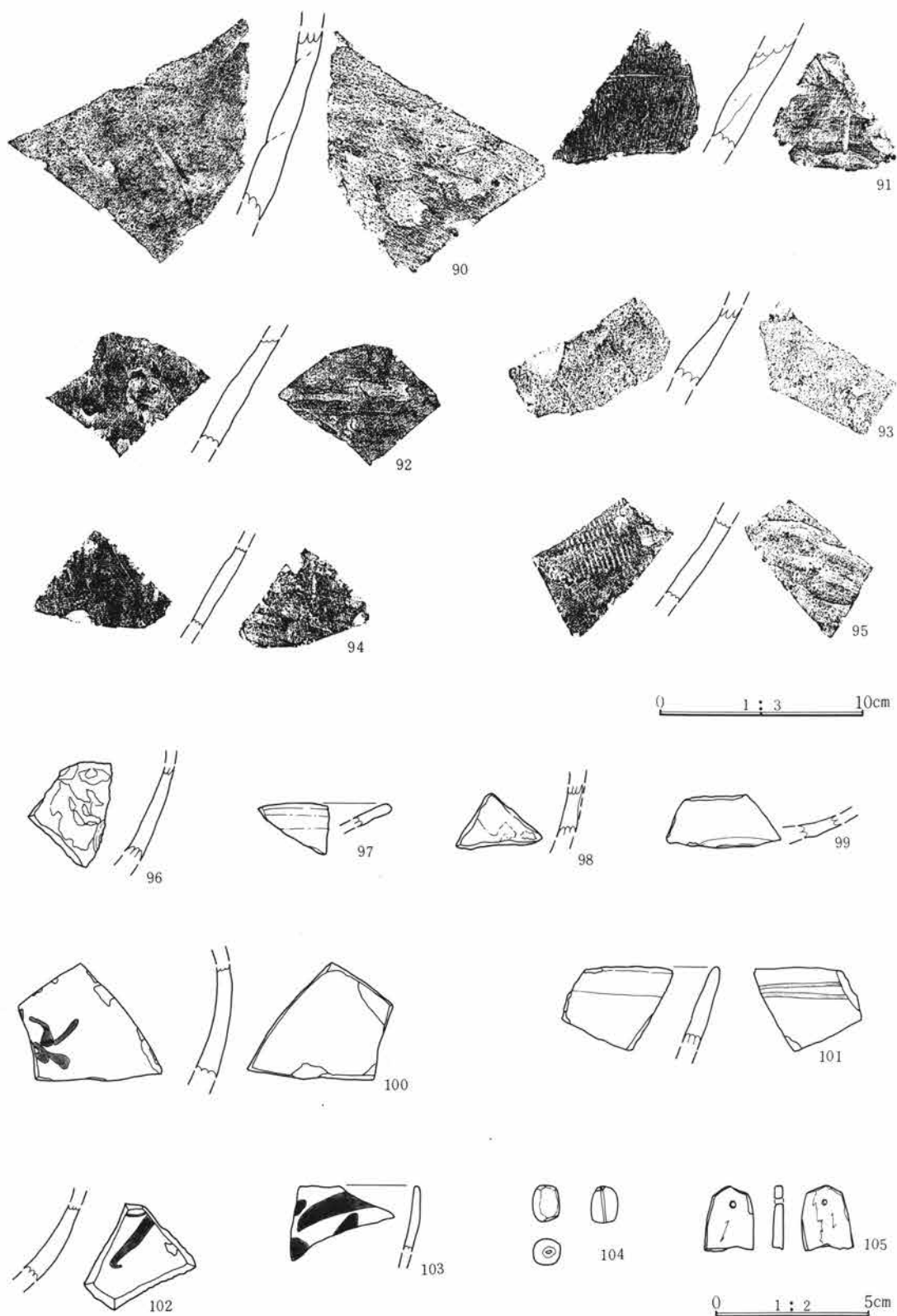
第153圖 遺構外出土遺物

第3章 出土した遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 (弥生)	胴部破片	79	— — —	砂粒、 $\phi 1 \sim 5$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。スス付着。黄橙色。	胴部に太い沈線により、ゆるい弧状の沈線が施される。	3 L 24黒褐色土
甕 土師器	口縁部一部欠損	80	(15.4) 18.5 6.2	砂粒、 $\phi 1 \sim 5$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成普通。外面スス付着。内面一部剥落。灰褐色。	胴部は球形を呈し、口縁部は外反する。口縁横位のナデ。胴部はヘラによるナデ。内面に輪積痕。	写図26
甕 土師器	口縁一部 胴下半欠損	81	15.4 (13.7) —	砂粒、 $\phi 1 \sim 5$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。外面スス付着。浅黄色。	胴部は直線的に立ち上り、口縁で外反する。口縁横位のナデ。外面縦位のヘラケズリ。内面横位のヘラケズリ。輪積痕を残す。	写図26
甕 土師器	口縁～胴部欠	82	(17.2) (10.9) —	砂粒、 $\phi 1 \sim 5$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。外面スス付着。橙色。	胴部はゆるく内湾し、口縁が外反する。口縁横位のナデ、胴部外面斜位のヘラケズリ、内面ヘラ整形。	表採
浅鉢 陶器	底部付近の破片	83	高底 4.8 17.8	砂粒多く含む。胎土緻密。焼成良。内面に自然釉。灰赤色	常滑系の焼きしめによる陶器	4-Na 1 表土 No173
片口 陶器	注口部付近の破片	84	— (3.8) —	胎土緻密。焼成良。内面釉は灰釉、外面銅緑釉流し。釉には貫入が見られる。淡黄色。	瀬戸・美濃。ロクロ整形。	4区表採 No26
壺 須恵器	口縁、胴部一部欠損	85	— (13.85) 8.2	細かい砂粒を含む。胎土緻密。焼成良。褐灰色。	胴部内湾し、肩が張る。底部は、低い高台状になる。ロクロ整形、ロクロ目は弱い。	3 M-23G 表土中 写図26
杯 土師器	1/2	86	(12.6) 5.2 ●	砂粒、 $\phi 1 \sim 3$ mmの小石を含む。胎土やや緻密。焼成良。底面スス付着。明赤褐色。	口縁下端に稜を持つ。丸底。口縁内外面横位のナデ後内面ヘラミガキ。内底面ナデ。外底面ヘラケズリ。	表採
天目茶碗 陶器	破片	87	11.1 (5.5)	胎土緻密。焼成良。天目釉。	ロクロ整形。	3-K31-表土
皿 陶器	口縁～底部欠残	88	10.9 1.75 6.7	$\phi 1 \sim 3$ mmの小石を含む。胎土緻密。焼成良。長石釉がかかる。	ロクロ整形。底部は高台状になる。底面に円錐ピン痕が認められる。	4-L 19表土No144
皿 緑釉	破片	89	(0.7) 5.6	細かい砂粒を含む。胎土やや緻密。焼成良。	ロクロ整形。	3区表土
甕 陶器	胴部破片	90	— —	砂粒、 $\phi 1 \sim 3$ mmの小石を含む。胎土緻密。	常滑系の陶器。	4-MN22表土No68
甕 陶器	胴部破片	91	— —	細かい砂粒を少量含む。胎土緻密。	焼きしめ陶器。製作地不明。	4-L 06表土No163
甕 陶器	胴部破片	92	— —	砂粒を多く含む。胎土緻密。	常滑系の焼きしめ陶器。	4-08表土No128



第154図 遺構外出土遺物

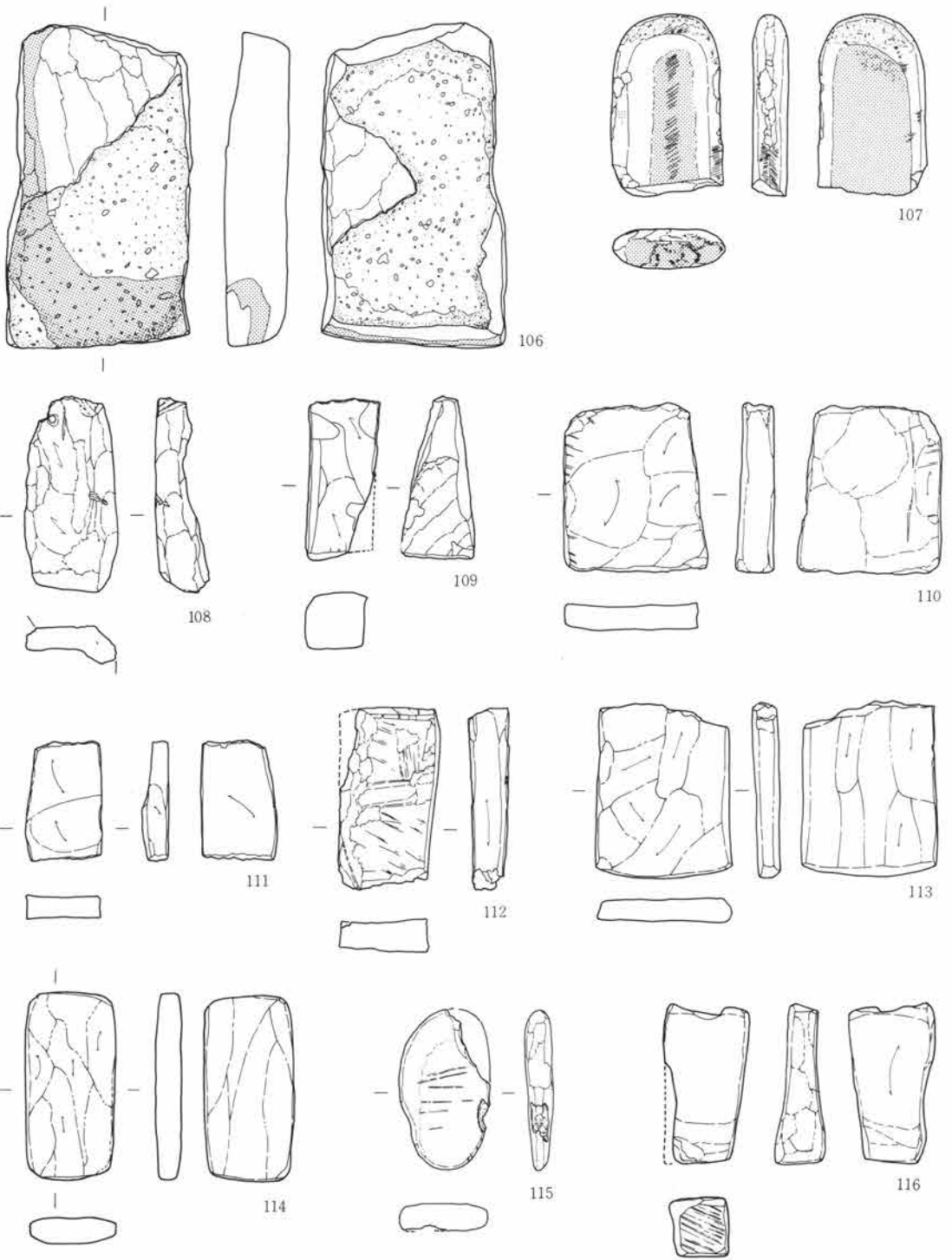


第155図 遺構外出土遺物

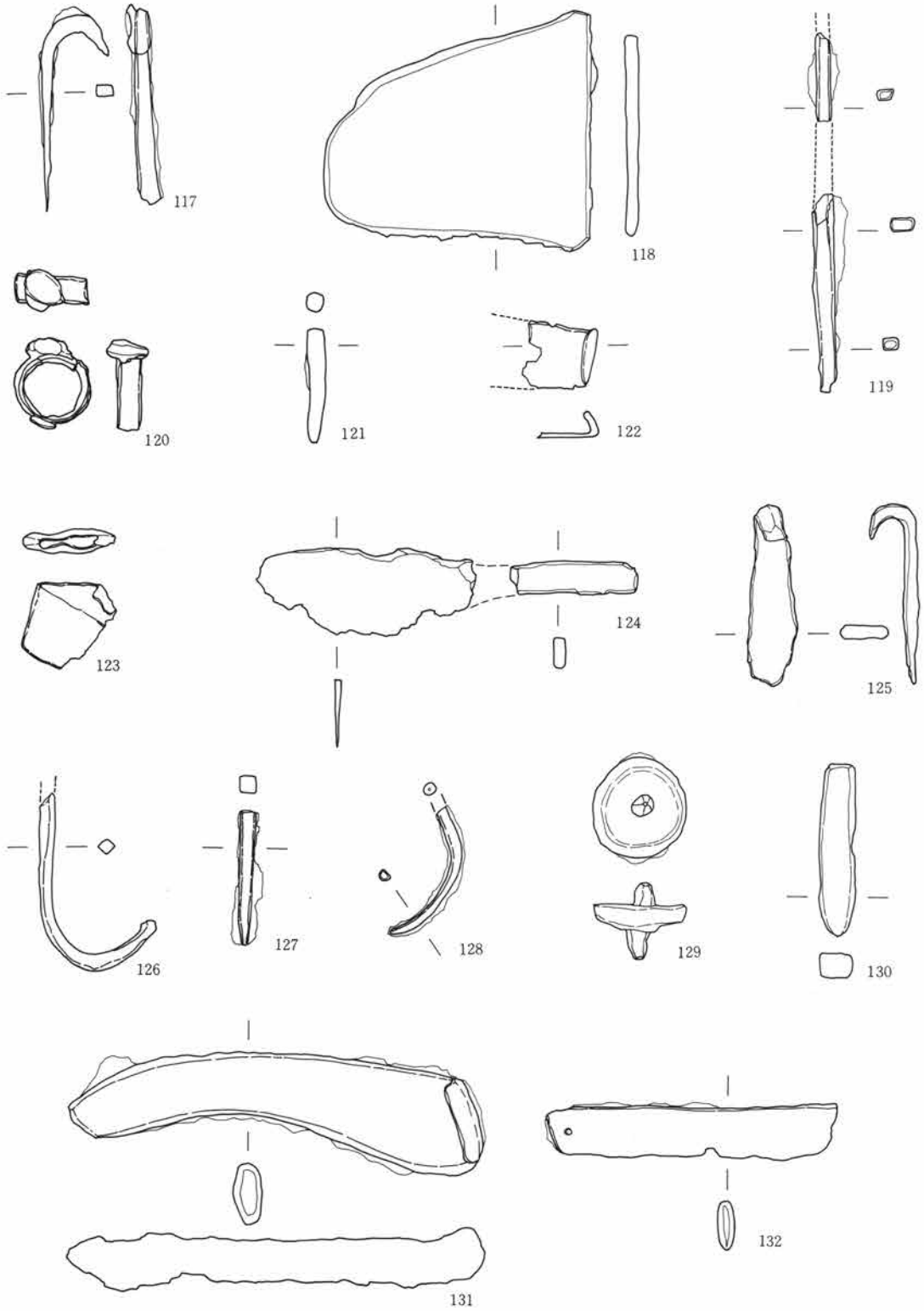
第9節 遺構外出土遺物

器種	遺存状態	番号	法量 (cm)	胎土・色調・焼成	成形・調整手法・文様の特徴	備考 (出土位置)
甕 陶器	胴部破片	93	— —	砂粒を多く含む。胎土緻密。	常滑系の焼きしめ陶器。	4—M17・18・N17・18表土No83
甕 陶器	胴部破片	94	— —	砂粒を含む。胎土緻密。	常滑系の焼きしめ陶器。	6、4区表土
甕 陶器	胴部破片	95	— —	砂粒を含む。胎土緻密。	常滑系の焼きしめ陶器。	4—MN22表土No68
緑 釉	細破片	96	— —	胎土緻密。焼成良。釉は淡緑色。	細破片で整形等不明。焼き上りは軟質。	
皿 緑 釉	細破片	97	— —	胎土緻密。焼成良。釉は緑色。	ロクロ整形。焼き上りは軟質。	4区東側道表土
緑 釉	細破片	98	— —	胎土緻密。焼成良。釉は緑色。	焼き上りは軟質。	
緑 釉	細破片	99	— —	胎土緻密。焼成良。釉は濃緑色。	焼き上りは軟質。	1区1P—25グリットII層
土 鍋? 陶器	破片	100	— —	胎土緻密。灰釉。	白土による筒描きの後、灰釉を施す。益子系。	5、4区表土 幕末～明治
椀 青 磁	口縁破片	101	— — —	胎土緻密。	口縁内面に圈線が認められ、太宰府分類のI—4類と推定される。龍泉窯系青磁。	1—I層 BC
椀 青 磁	体部下位 破片	102	— — —	胎土緻密。	内面に片切彫による文様が認められ、太宰府分類のI—2、4類と推定される。龍泉窯系	2区表土 BC
椀 陶器	口縁破片	103	— — —	胎土緻密。	陶器上絵付椀。内面は無文、外面に簡略化された花卉と葉と思われる文様を描く。	3—K—18表土中 18C後～19C前半

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
礫 器	107	8.3	5.2	1.7	135	砂岩	トーン部磨り面。側縁に敲打痕。	表土 写図47
砥 石	108	8.9	4.3	1.8	86	砥沢石	欠損品。紐穴貫通する。	表土 写図47
砥 石	109	7.4	2.8	2.6	77	砥沢石	側面欠損。四面を研ぎ面としている。	表土 写図47
砥 石	110	7.7	6.2	1.6	155	粗粒安山岩	欠損品。表裏側面欠損。	表土 写図47
砥 石	111	5.5	3.5	1.3	38	砥沢石	両端欠損。四面を研ぎ面としている。	表土 写図47
砥 石	112	8.3	4.3	1.7	95	砥沢石	欠損品。四面を研ぎ面としている。	表土 写図47
砥 石	113	8.0	6.1	1.1	88	砂岩	上端欠損。表裏側面を研ぎ面としている。	表土No184写図47
砥 石	114	8.5	4.1	1.2	67	砂岩	全面研ぎ面。	カベ中 写図47
礫 器	115	7.3	4.2	1.2	32	泥岩	細長い擦痕を持つ。	表土 写図47
砥 石	116	7.3	3.9	2.6	90	頁岩	側縁、下端欠損。表裏面研ぎ面としている。	表土No128写図47
釘	117	6.3	0.4	0.4	7.0	鉄	上端が湾曲する。断面長方形。	フク土
不明	118	8.4	6.2	0.4	74.2	鉄	板状、錆化が激しくヒビが入る。	耕作土
紡錘車	119	(9.0)	0.6	0.1	3.3	鉄	断面四角形。錆化激しい。紡錘車の軸部分。	
丸金具	120	2.8	2.5	0.6	4.3	鉄	断面は偏平で指輪状の形をする。	4区19溝



第156図 遺構外出土遺物



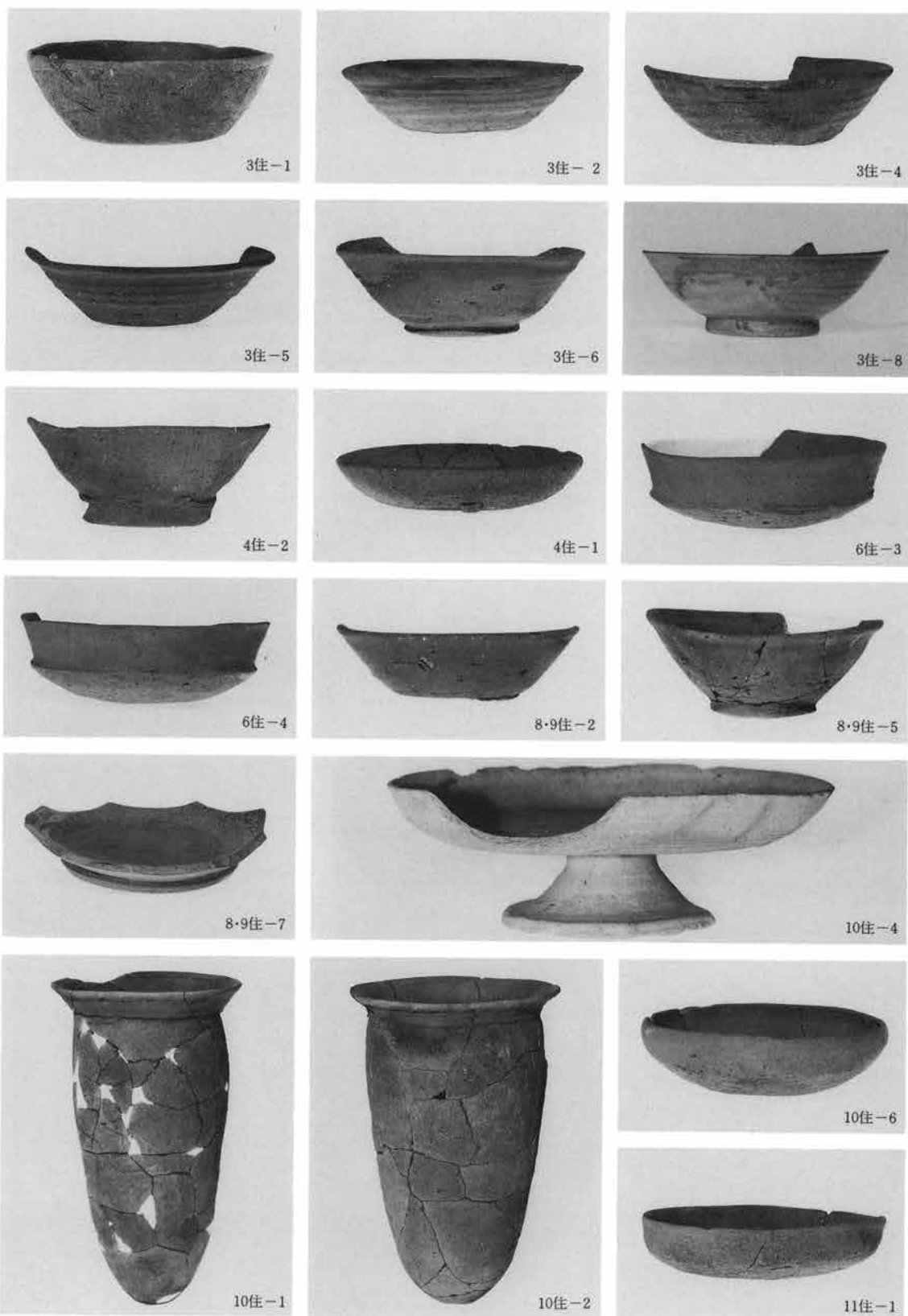
第157図 遺構外出土遺物

第3章 出土した遺物

器種	番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	特徴	出土位置・写真図
釘	121	3.5	0.6	0.6	1.8	鉄	上端欠損。断面四角形。	4溝フク土 表土 表土 表土 表土 表土 表土 表土 表土 表土 表土 表土
鎌	122	2.2	2.1	0.2	2.1	鉄	基部の折り返し部分と思われる。錆化激しい。	
不明	123	2.6	2.7	0.8	2.7	鉄	板状のものが折り曲がったもの。	
刀子	124	10.9	2.7	1.0	12.4	鉄	錆化激しい。刃部の消耗多い。	
釘	125	5.7	1.5	0.5	35.3	鉄	頭部が湾曲する。断面は偏平。	
釘	126	7.9	0.5	0.5	5.4	鉄	上端欠損。下端湾曲する。断面四角形。	
釘	127	4.2	0.5	0.5	2.6	鉄	両端欠損。断面四角形。	
釘	128	5.0	0.3	0.1	1.4	鉄	錆化激しい。断面四角形。湾曲する。	
紡錘車	129	2.4	3.0	0.6	15.9	鉄	円盤部上方に反る。軸部欠損。	
釘	130	5.4	0.8	0.8	11.7	鉄	錆化激しい。上端欠損。断面四角形。	
鎌	131	2.0	0.2	0.2	55.2	鉄	刃部湾曲する。錆化激しい。基部折り返す。	
不明	132	9.2	1.6	0.2	8.2	鉄	長方形の板状。孔があく。用途不明。	

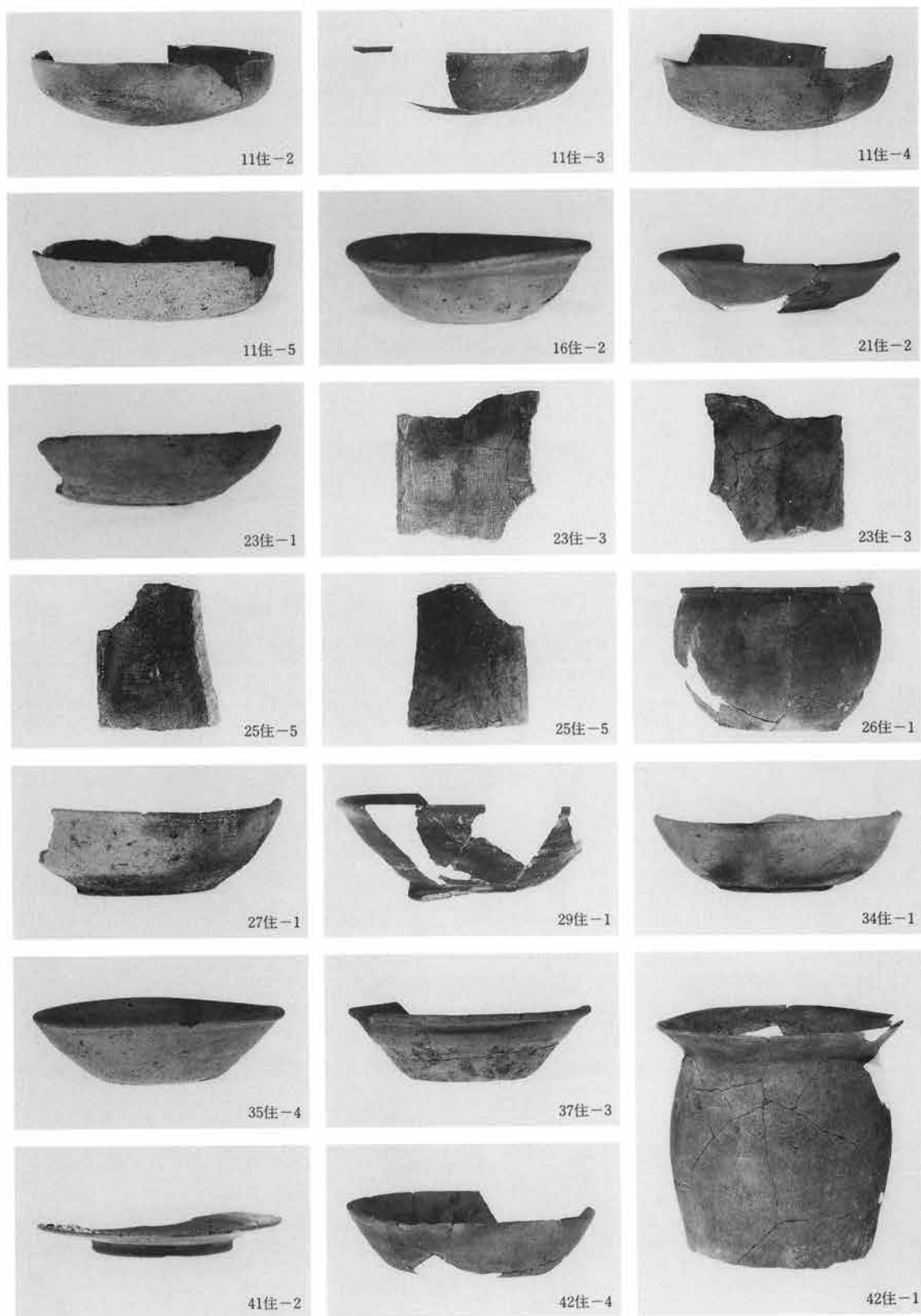


写 真 图 版

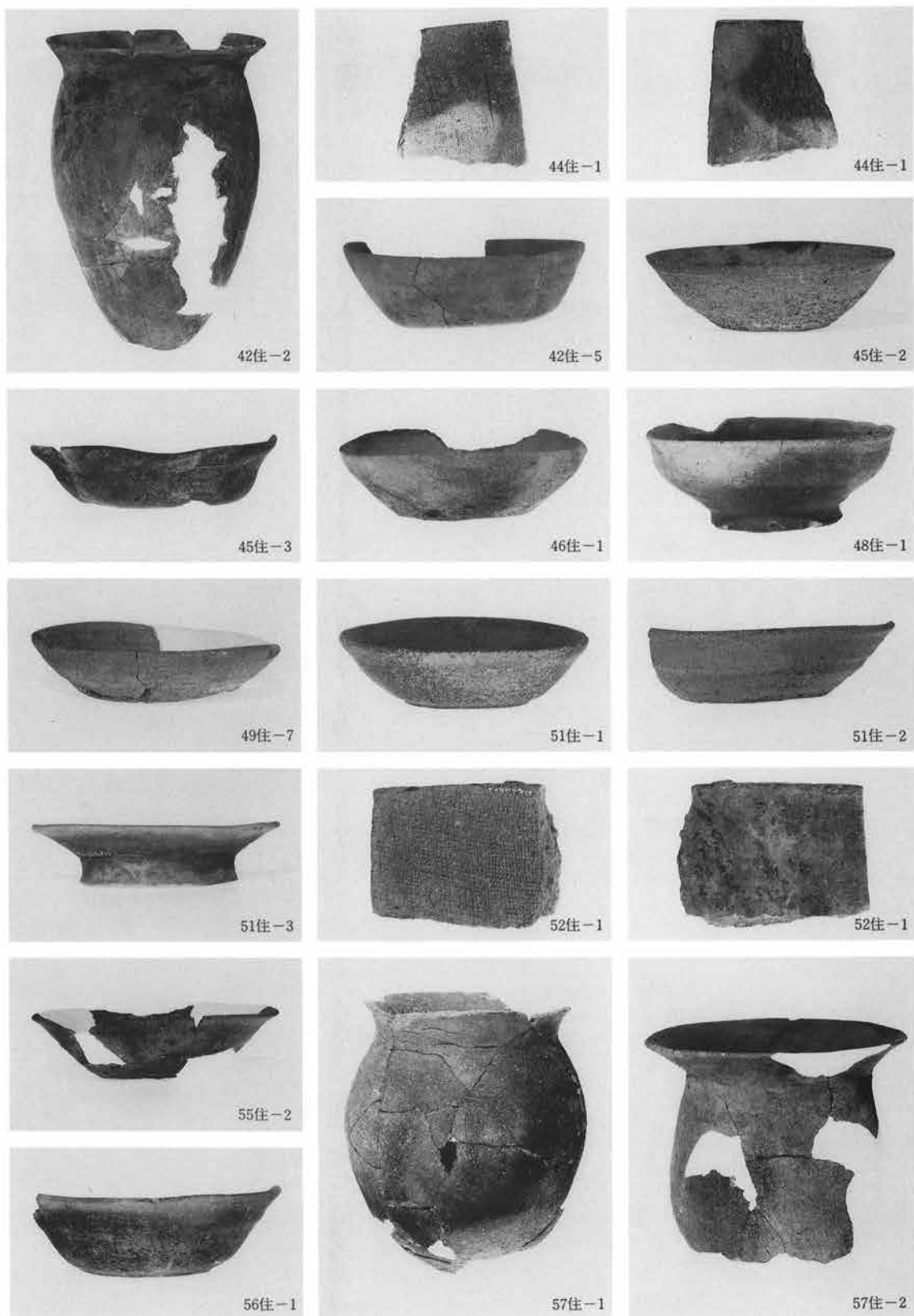


3、4、6、8、9、10、11号住居址出土遺物

図版 2



11、16、21、23、25、26、27、29、34、35、37、41、42号住居址出土遺物



42、44、45、46、48、49、51、52、55、56、57号住居址出土遺物

図版 4



57、58、64、66、67、69号住居址出土遺物



69住-6



69住-7



70住-4



70住-5



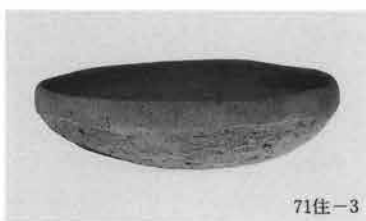
70住-6



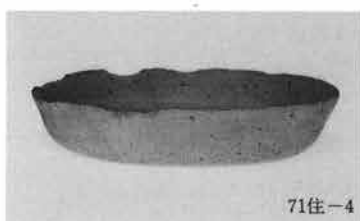
70住-7



71住-2



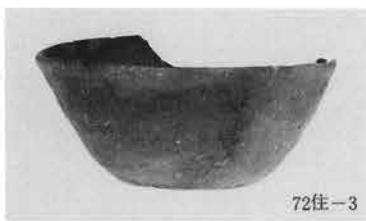
71住-3



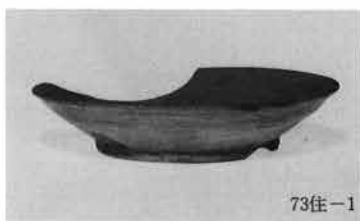
71住-4



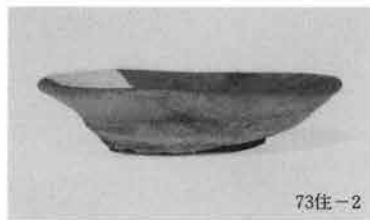
71住-5



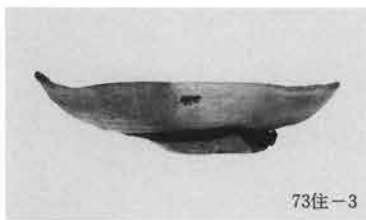
72住-3



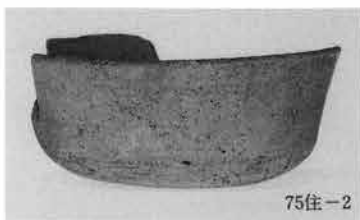
73住-1



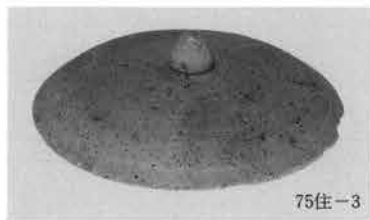
73住-2



73住-3



75住-2



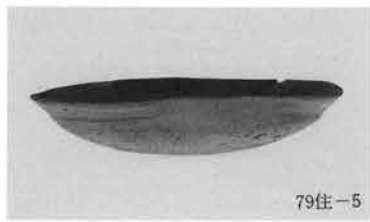
75住-3



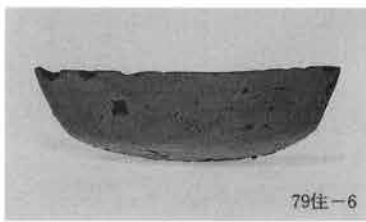
76住-3



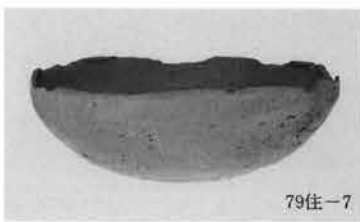
78住-1



79住-5

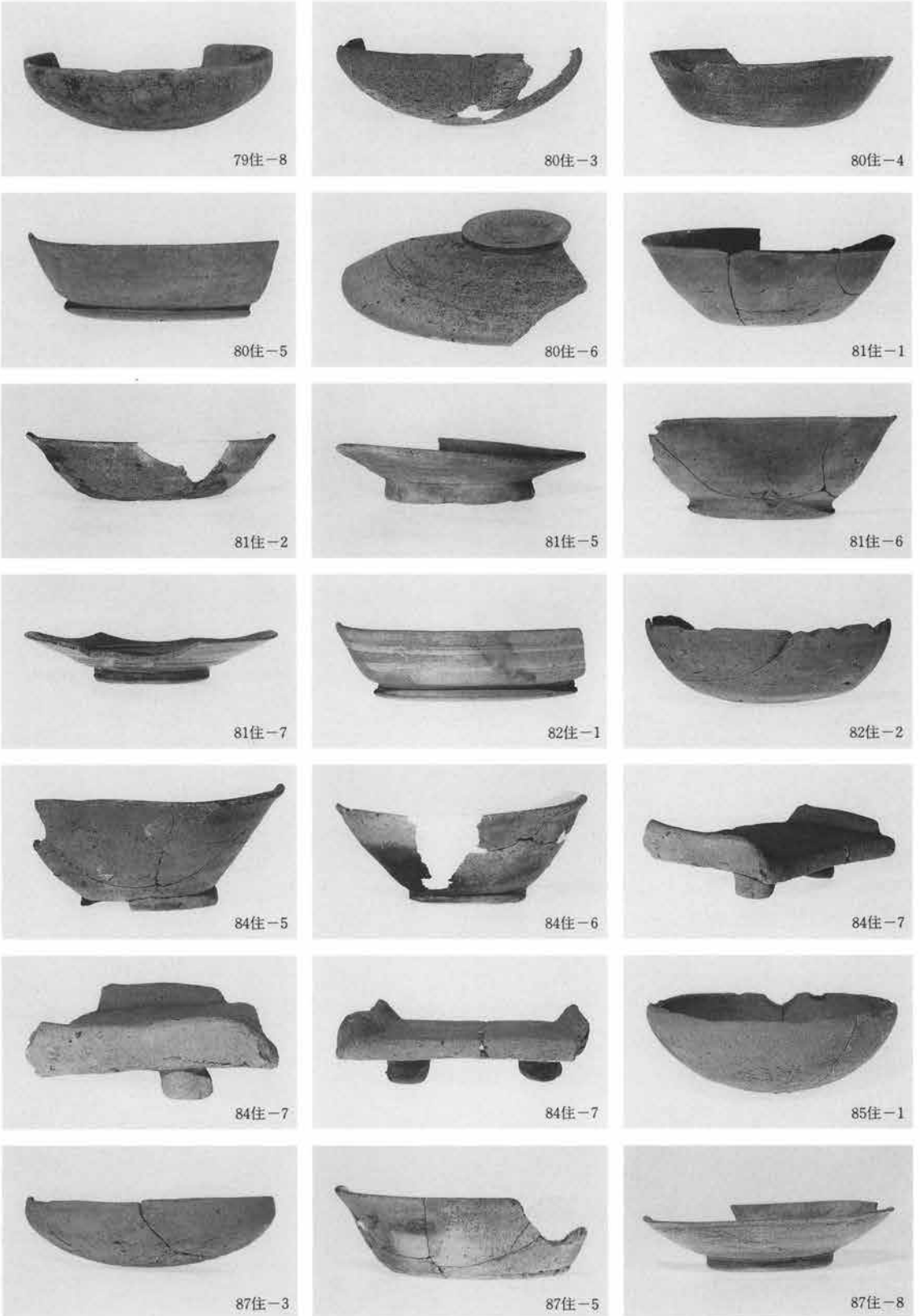


79住-6

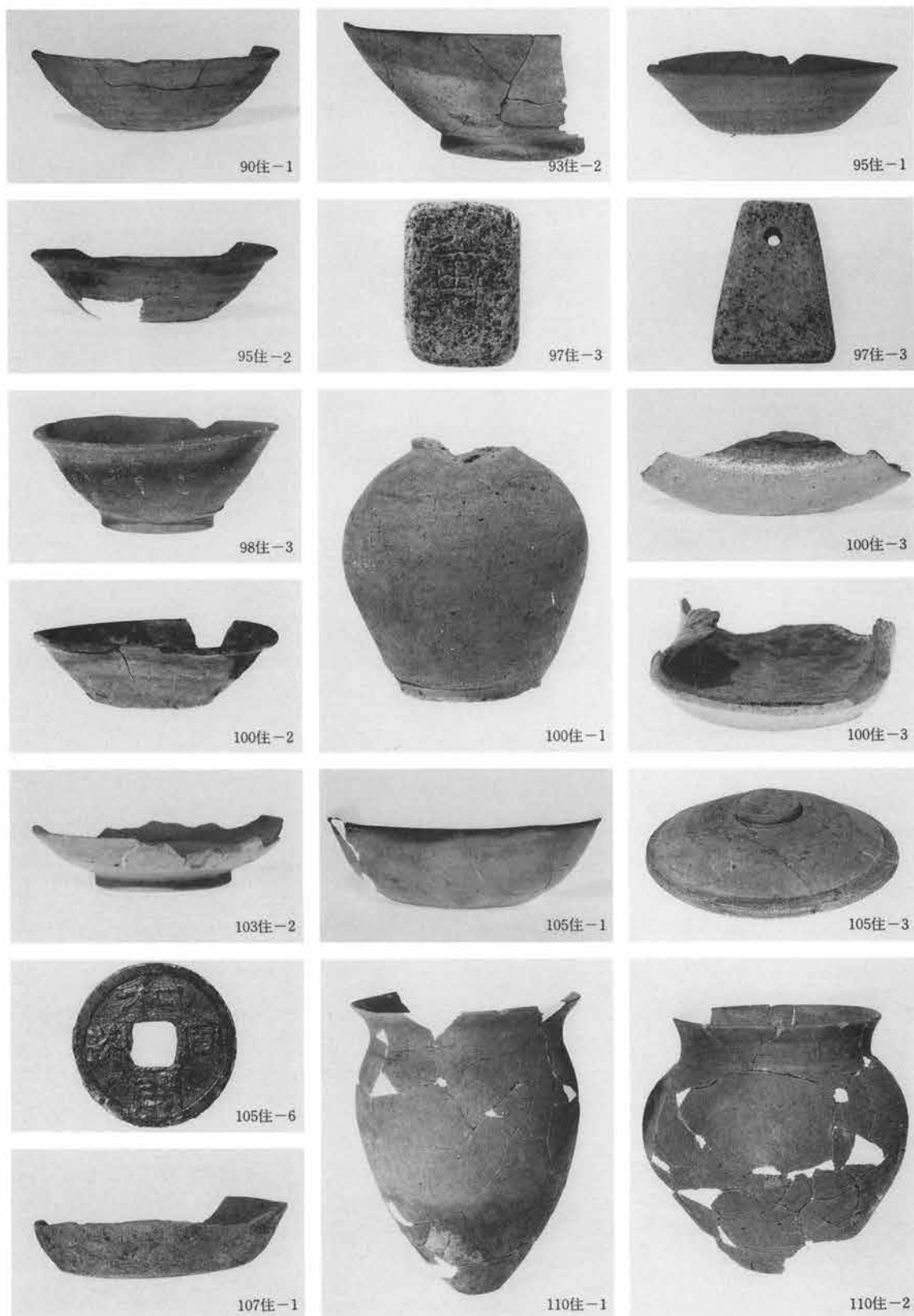


79住-7

図版 6

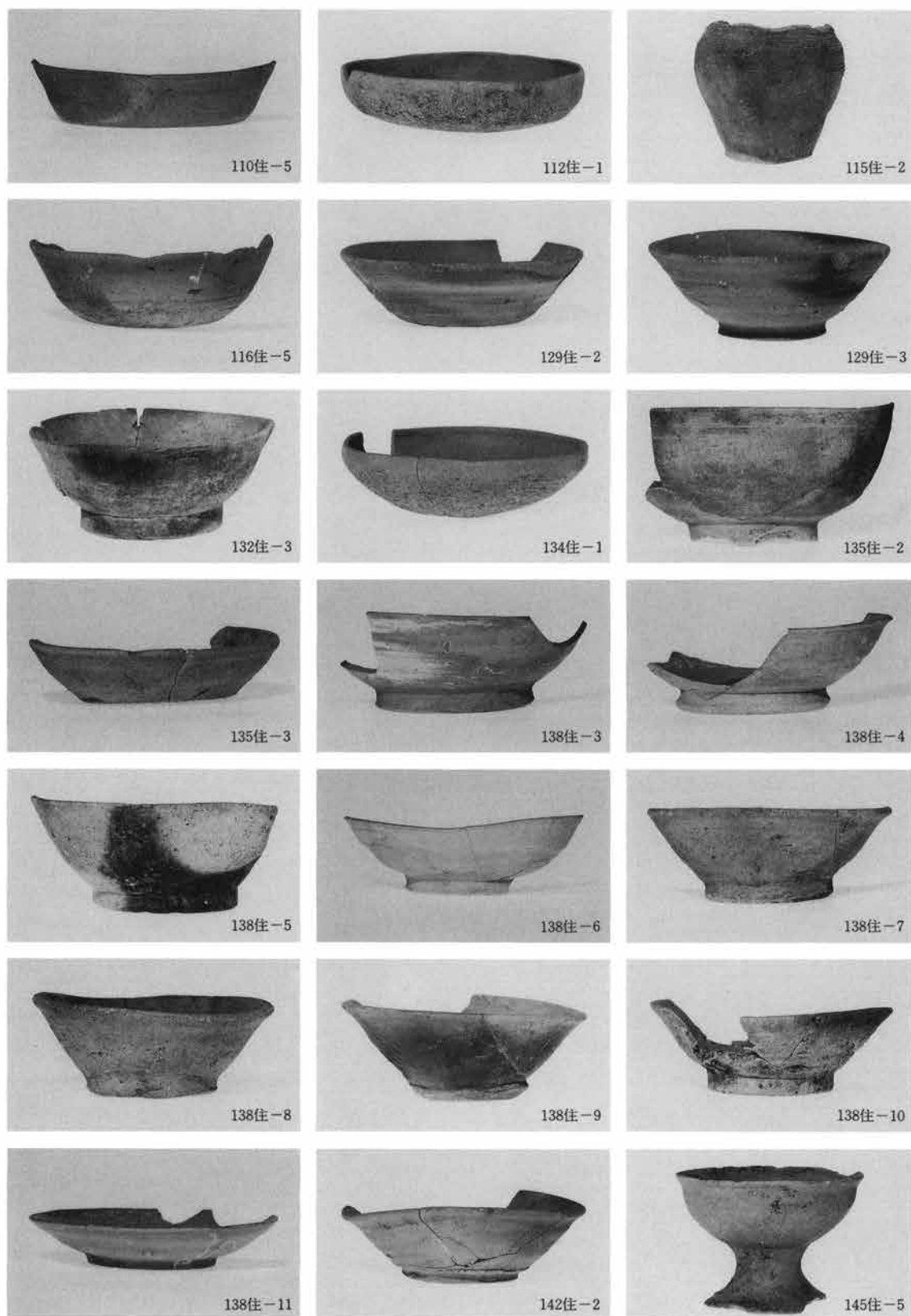


79、80、81、82、84、85、87号住居址出土遺物

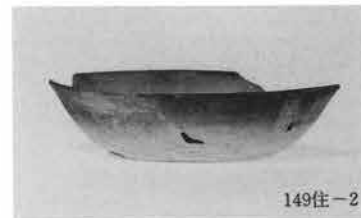
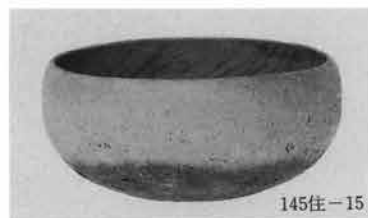
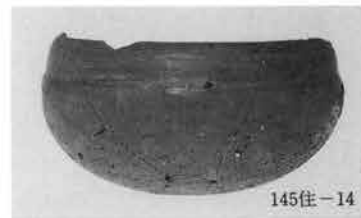
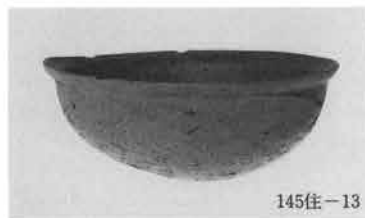
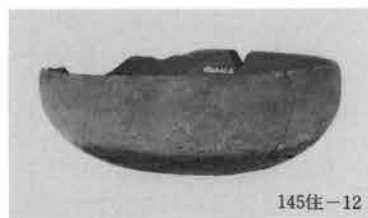
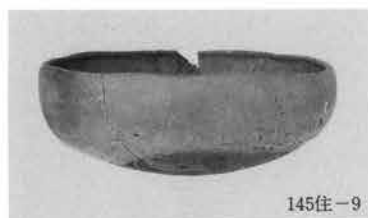
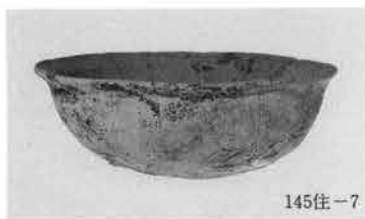
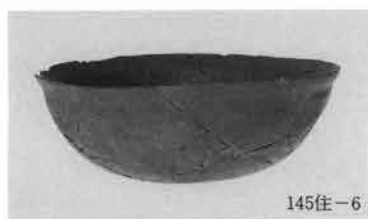


90、93、95、97、98、100、103、105、107、110号住居址出土遺物

図版 8

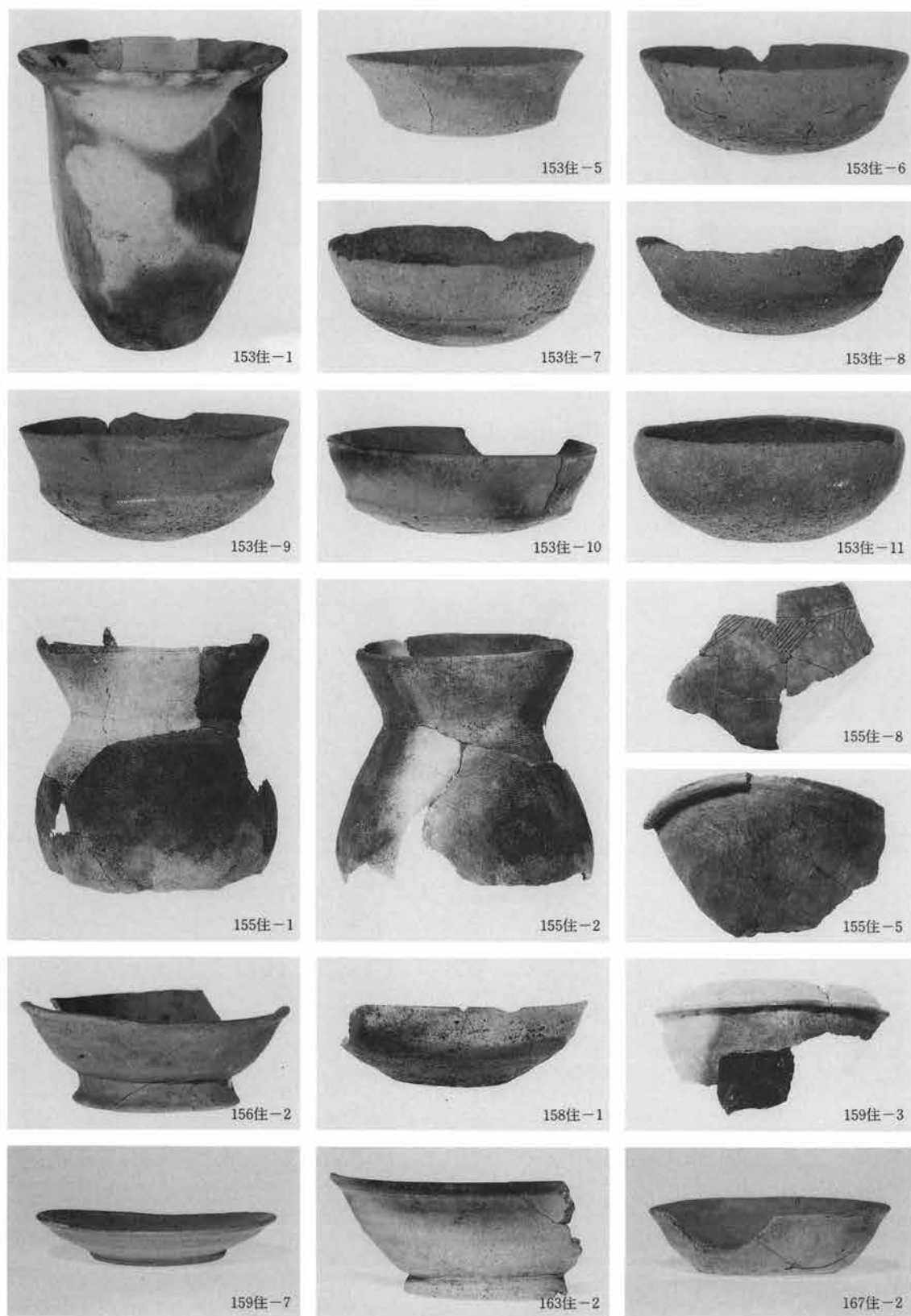


110、112、115、116、129、132、134、135、138、142、145号住居址出土遺物

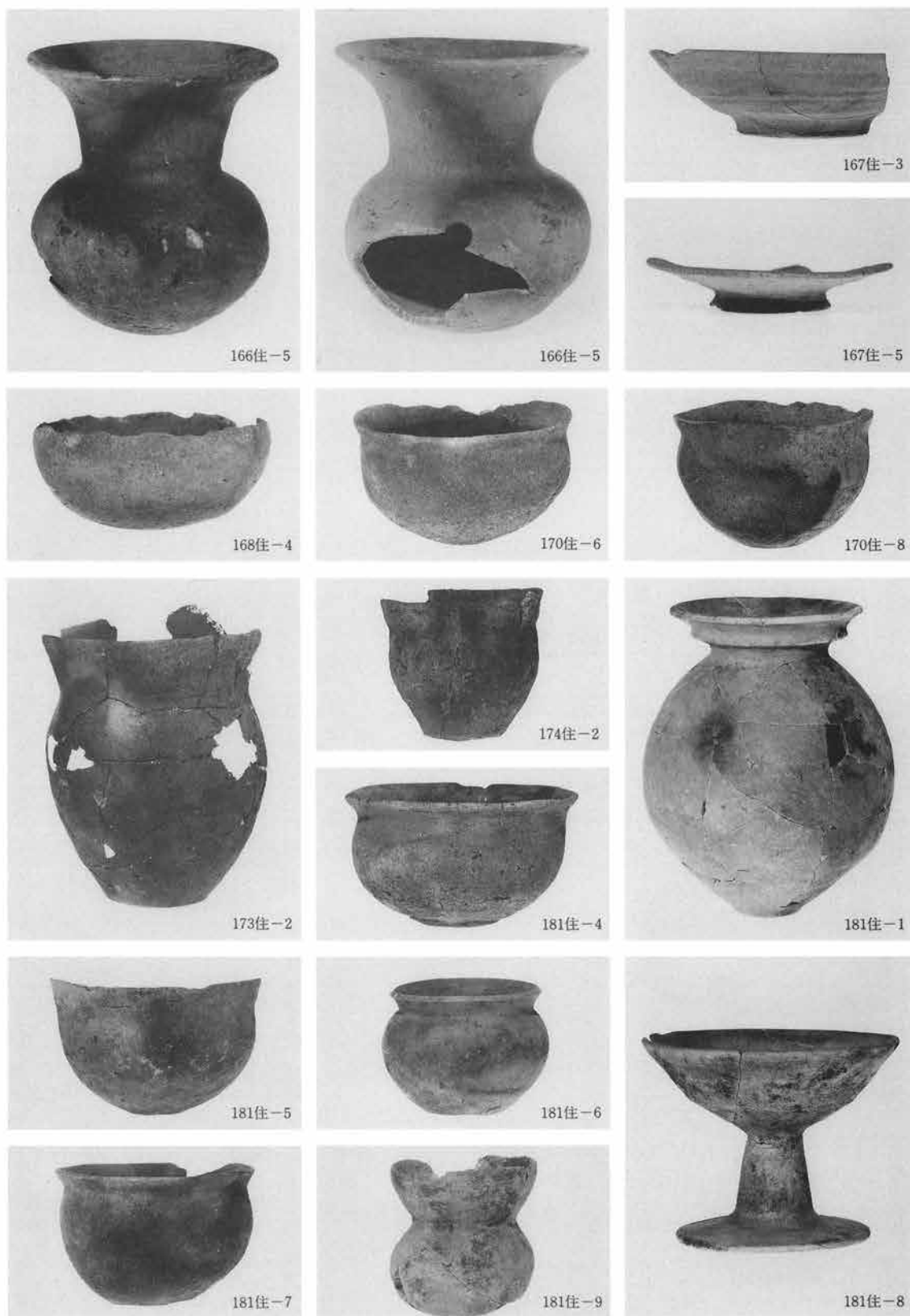


145、149、153号住居址出土遺物

図版10



153、155、156、158、159、163、167号住居址出土遺物

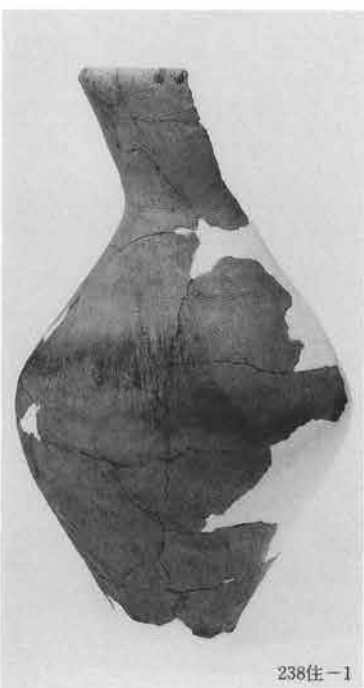


166、167、168、170、173、174、181号住居址出土遺物

図版12



181、182、185、186、194、218、219号住居址出土遺物

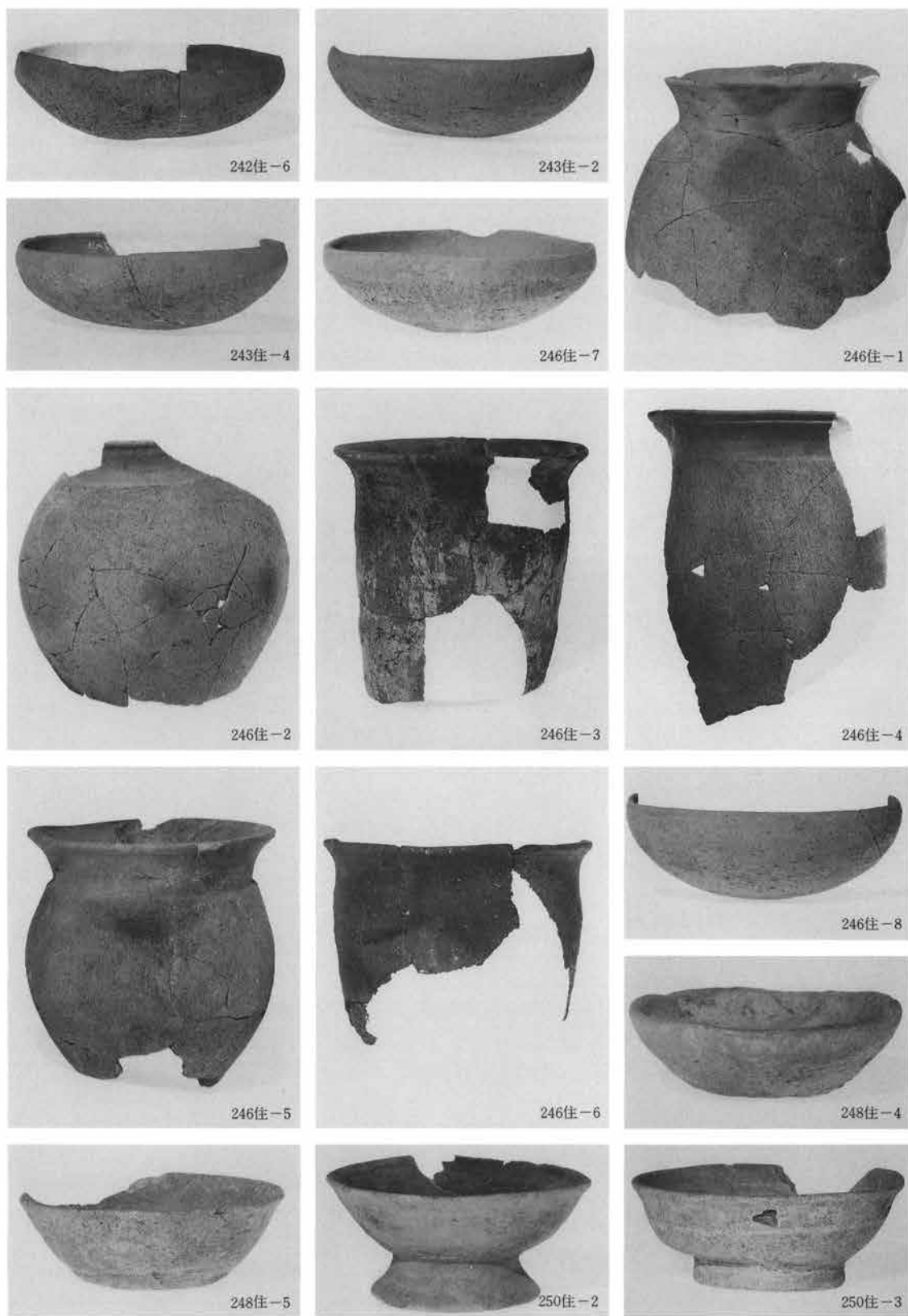


219、222、225、229、230、238号住居址出土遺物

図版14



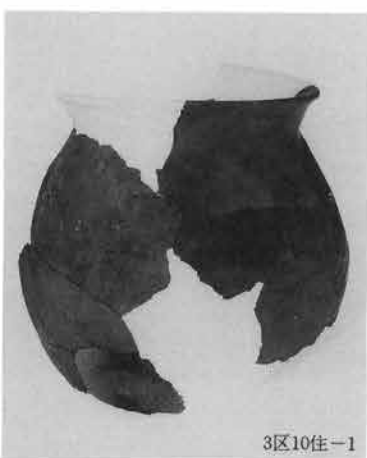
238、239、240、241、242号住居址出土遺物



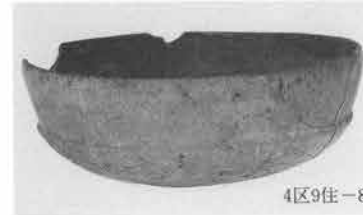
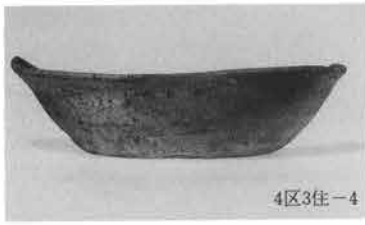
242、243、246、248、250号住居址出土遺物



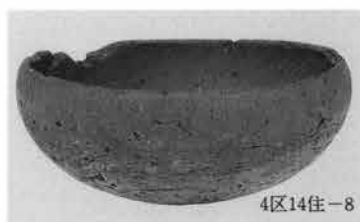
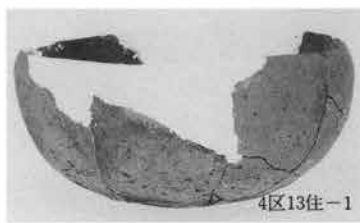
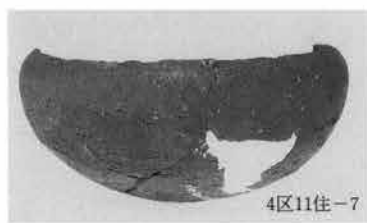
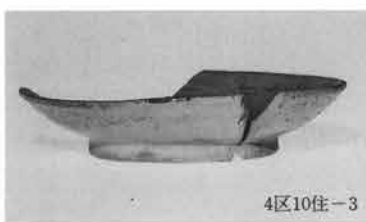
250、253、256、257、3区1、2、4区3号住居址出土遺物



3区5、6、10、4区2号住居址出土遺物



4区3、4、9号住居址出土遺物



4区、10、11、13、14号住居址出土遺物



4区14住-10



4区14住-11



4区14住-12



4区14住-13



4区14住-14



4区14住-15



4区14住-16



4区14住-17



4区14住-18



4区14住-19



4区14住-20



4区14住-21



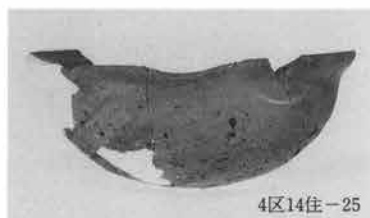
4区14住-22



4区14住-23



4区14住-24



4区14住-25



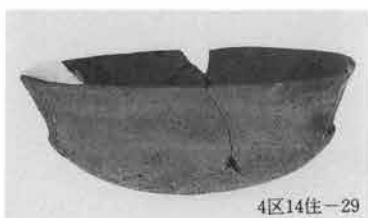
4区14住-26



4区14住-27



4区14住-28



4区14住-29



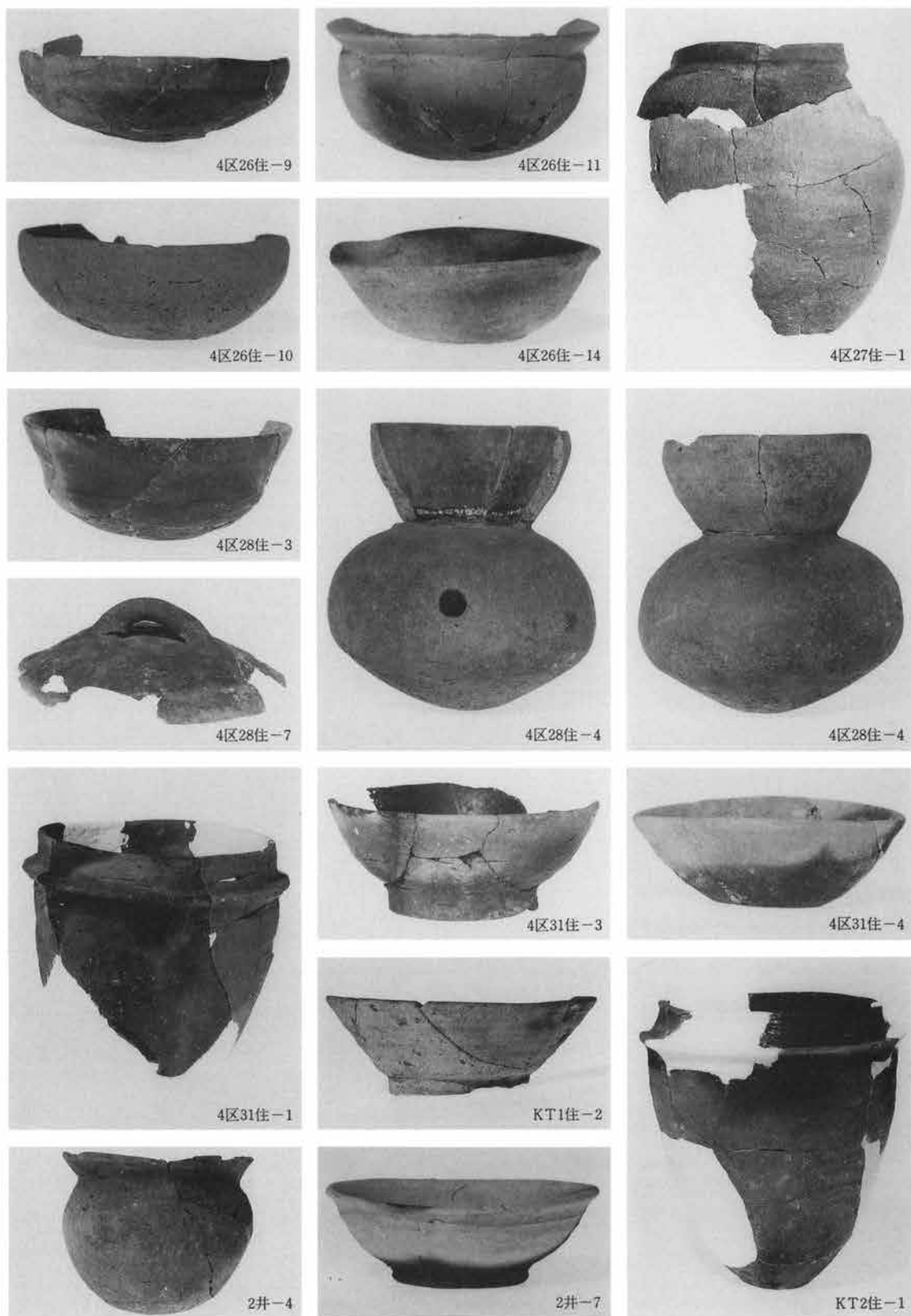
4区14住-31



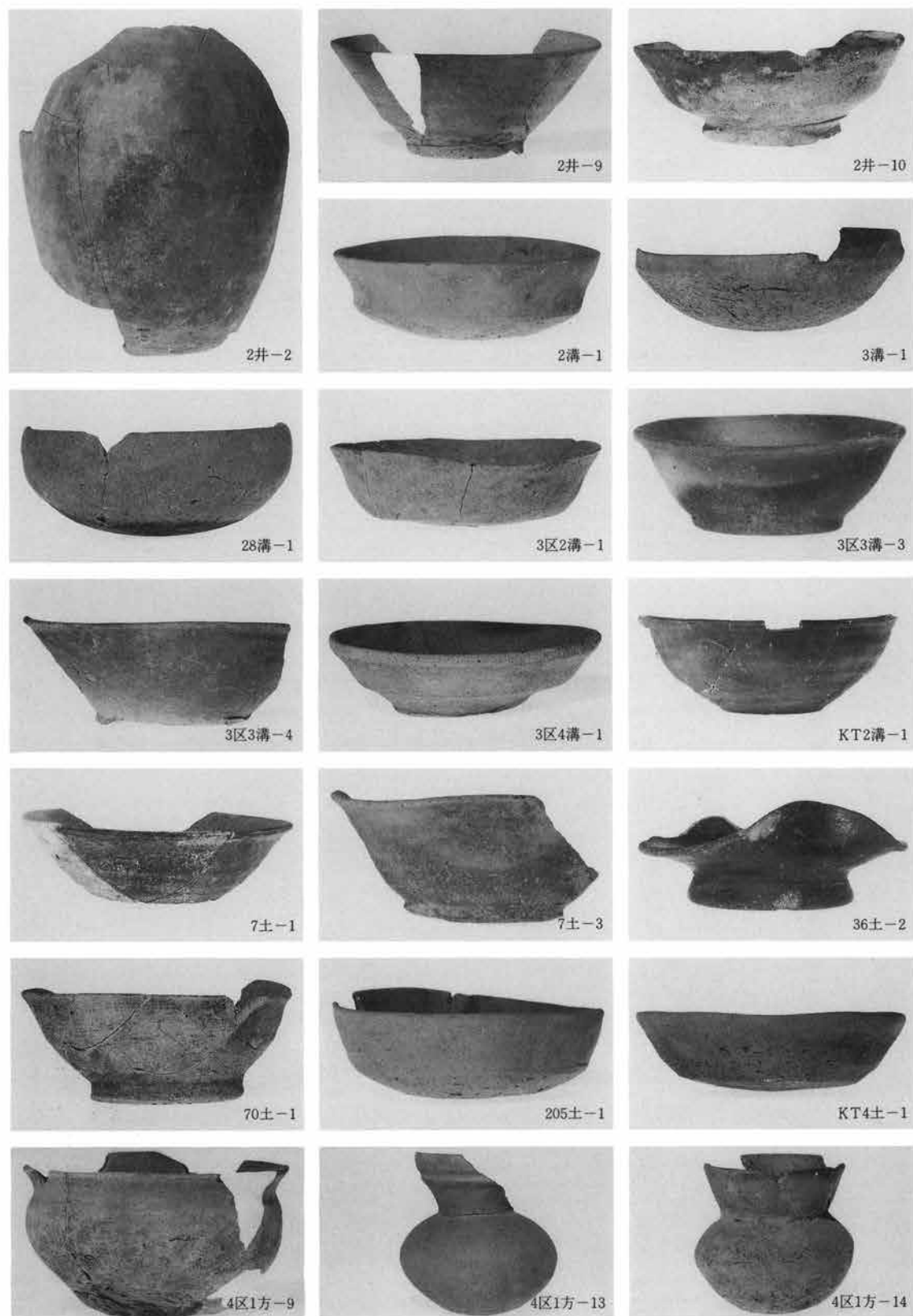
4区14、15、16、18、19号住居址出土遺物



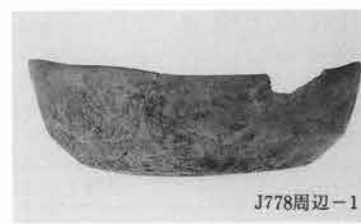
4区18、19、22、24、25、26号住居址出土遺物



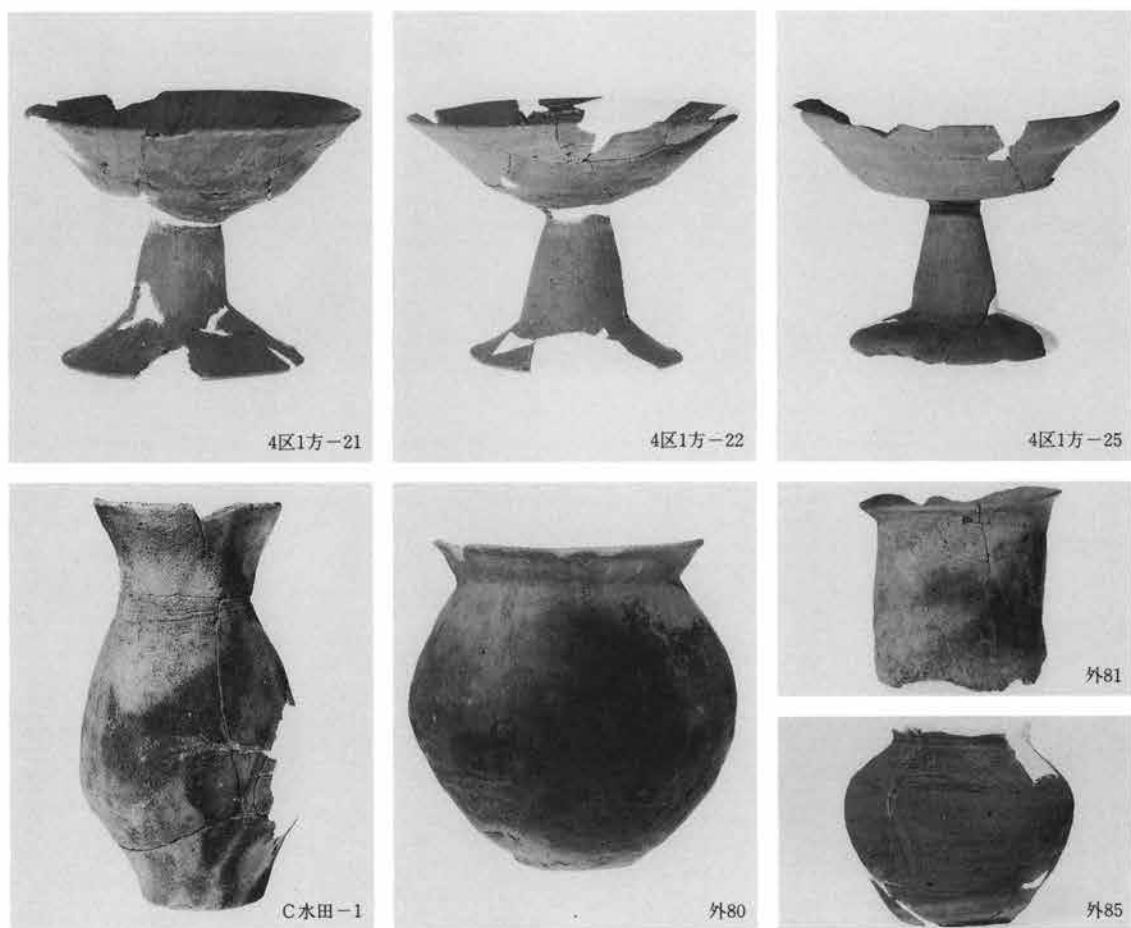
4区26、27、28、31、KT-1、KT-2号住居址・2井戸出土遺物



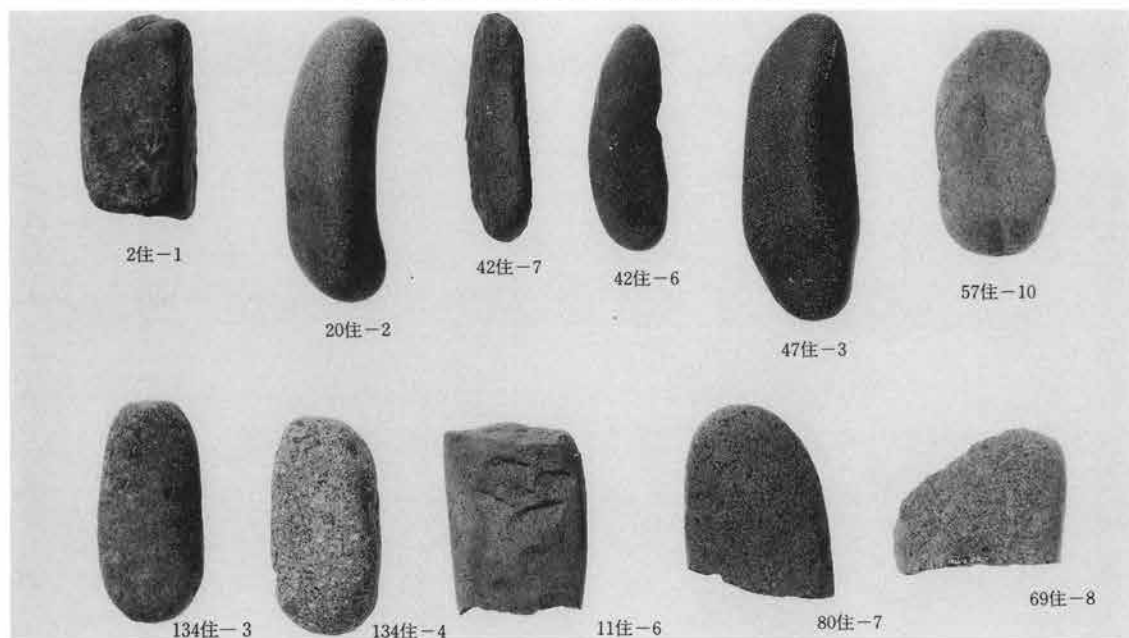
2井戸、2溝、3溝、28溝、3区2、3、4溝、KT-2溝、7土坑、36土坑、70土坑、205土坑
KT-4土坑、4区1号方形周溝墓出土遺物



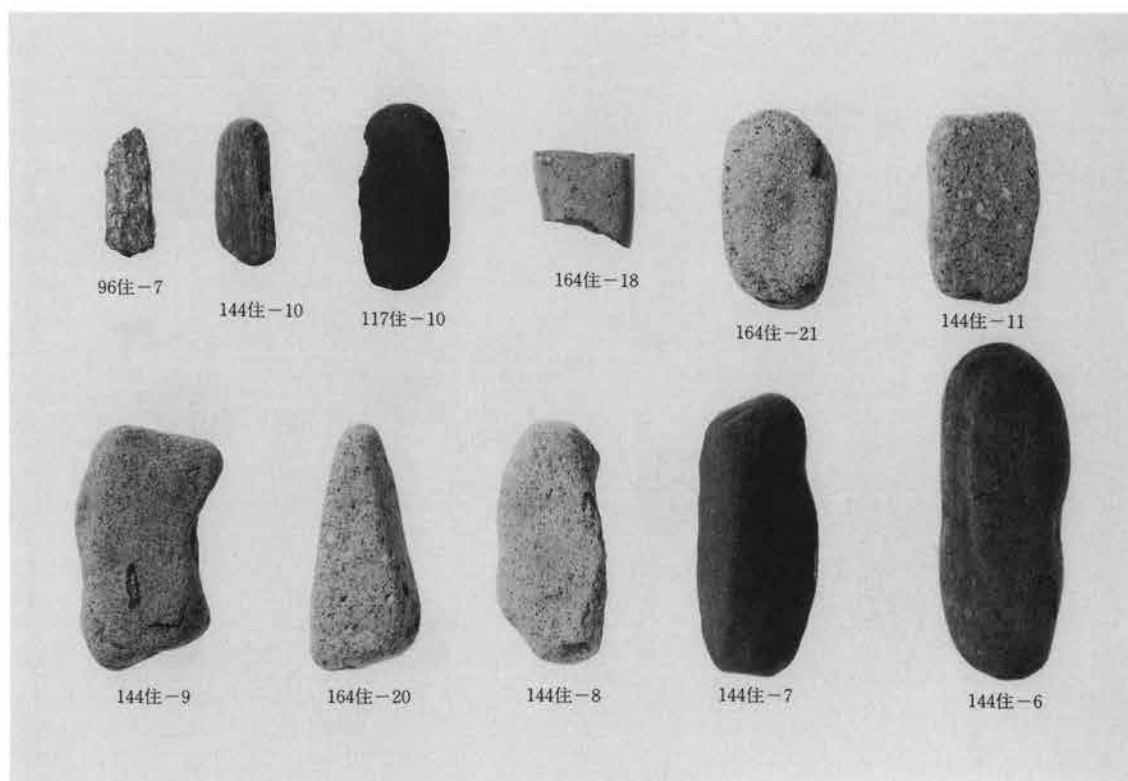
4区1号方形周沟墓、6号竖穴、J778周边出土遗物



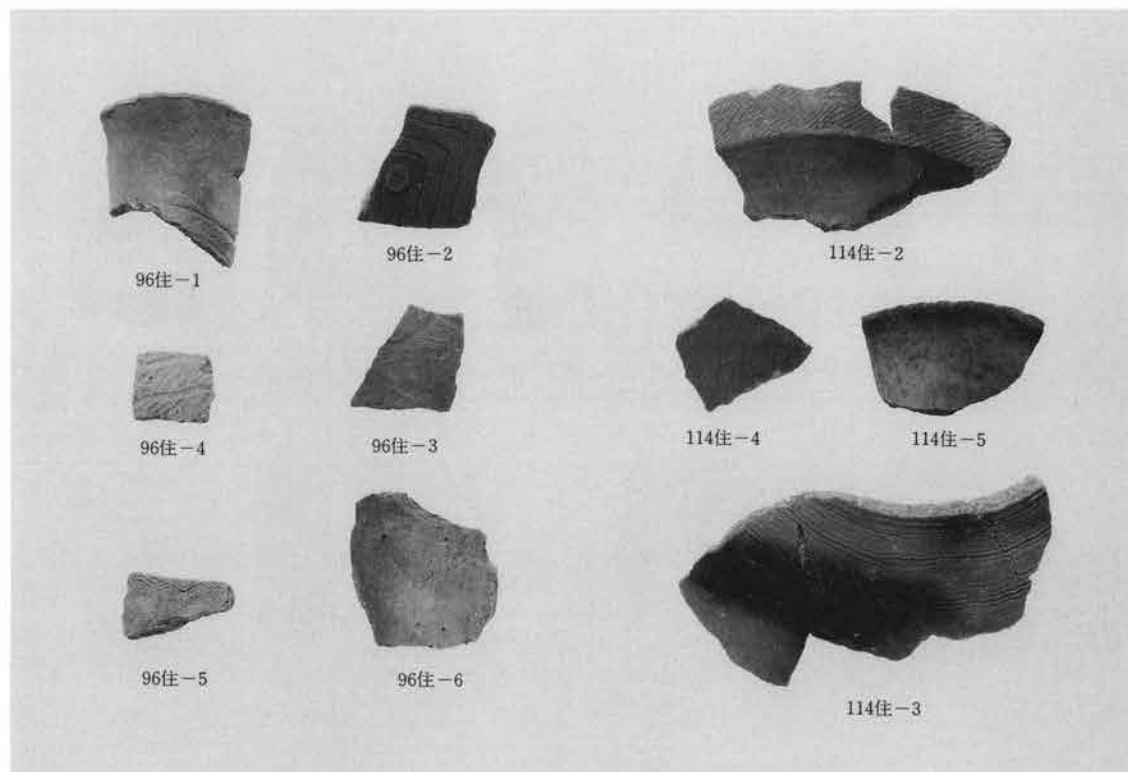
4区1号方形周溝墓、C水田、遺構外出土遺物



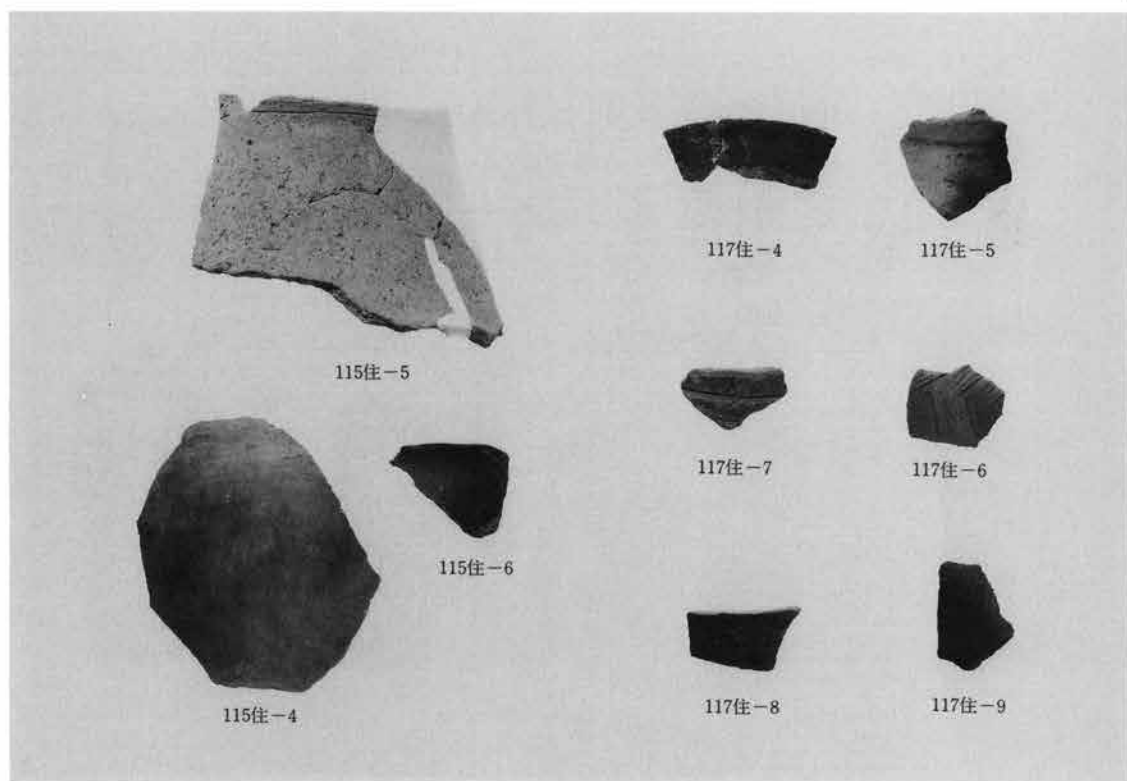
2、11、20、42、47、57、69、80、134号住居址出土石器



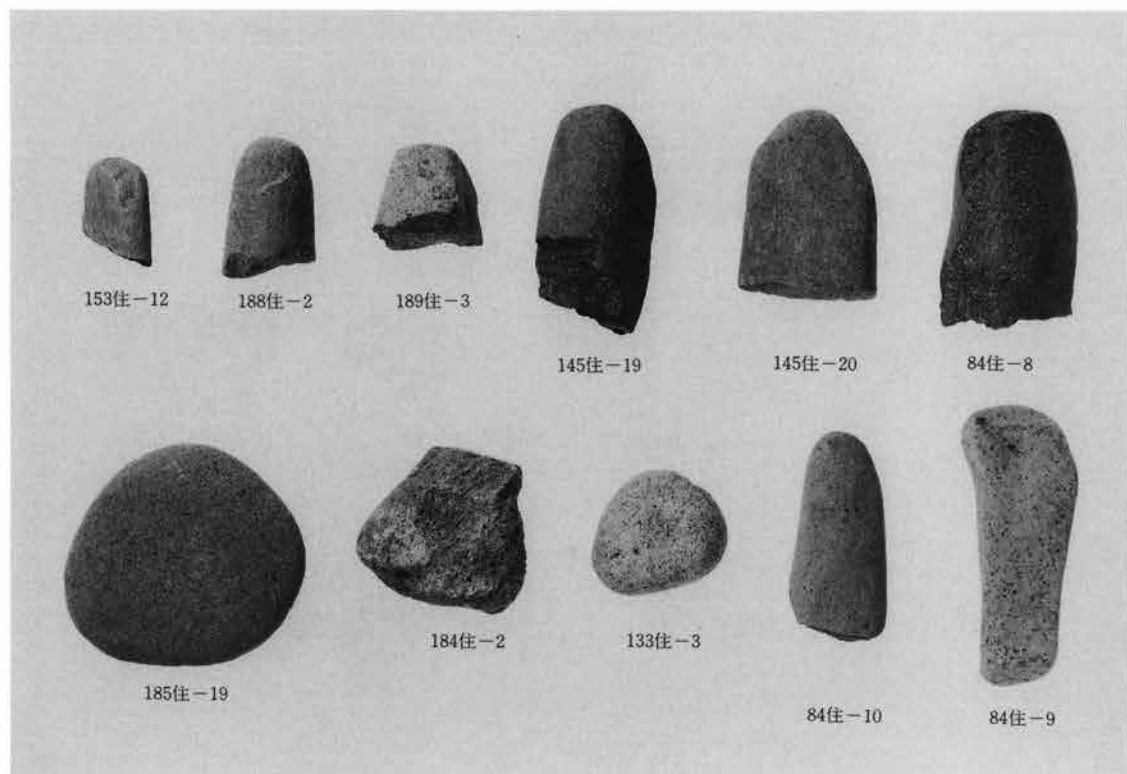
96、117、144、164号住居址出土石器



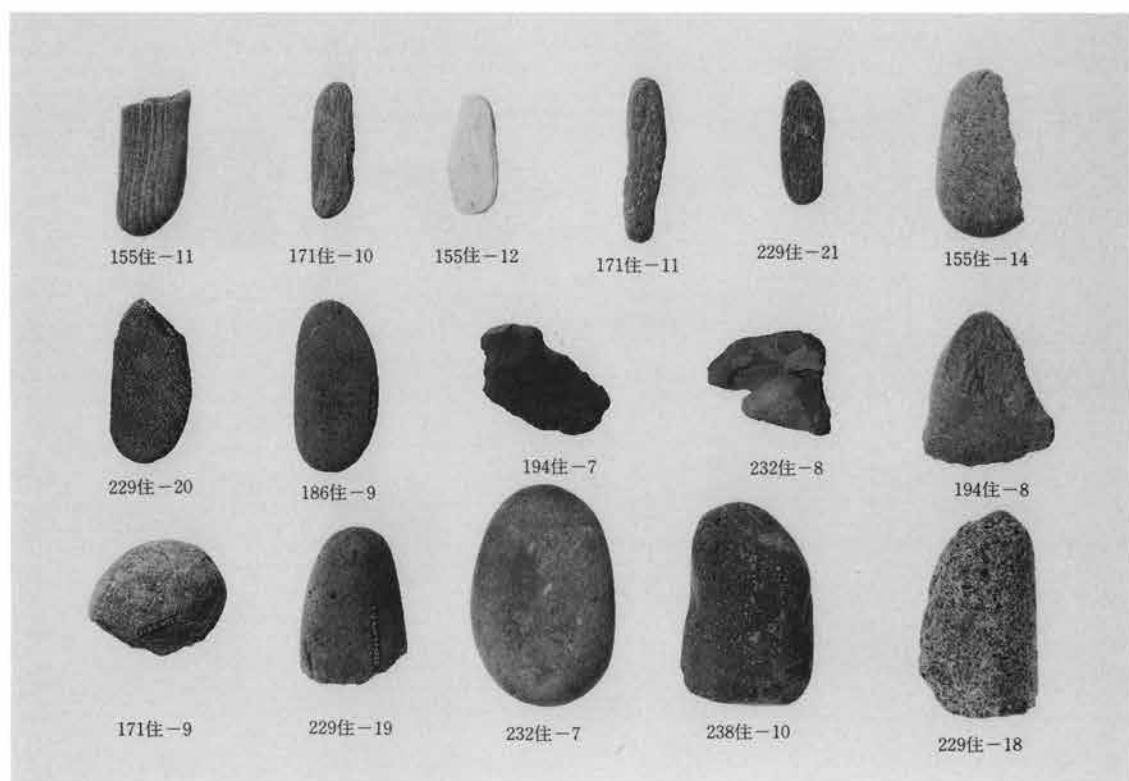
96、114号住居址出土土器



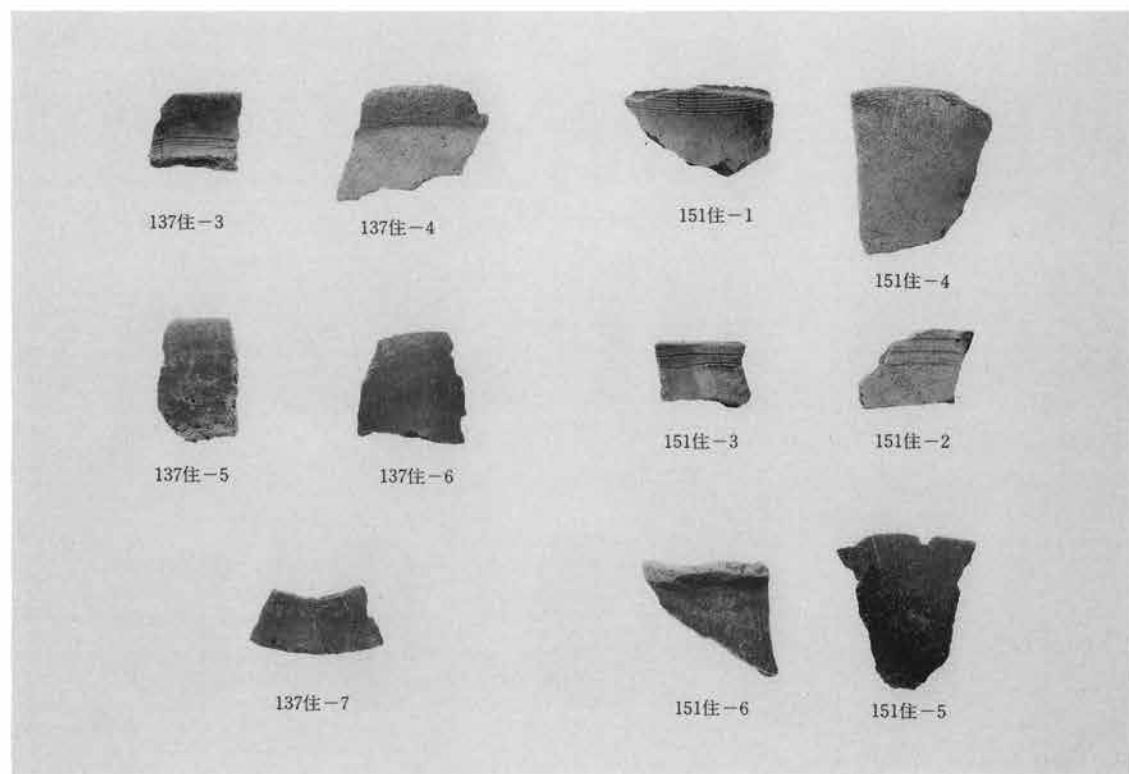
115、117号住居址出土土器



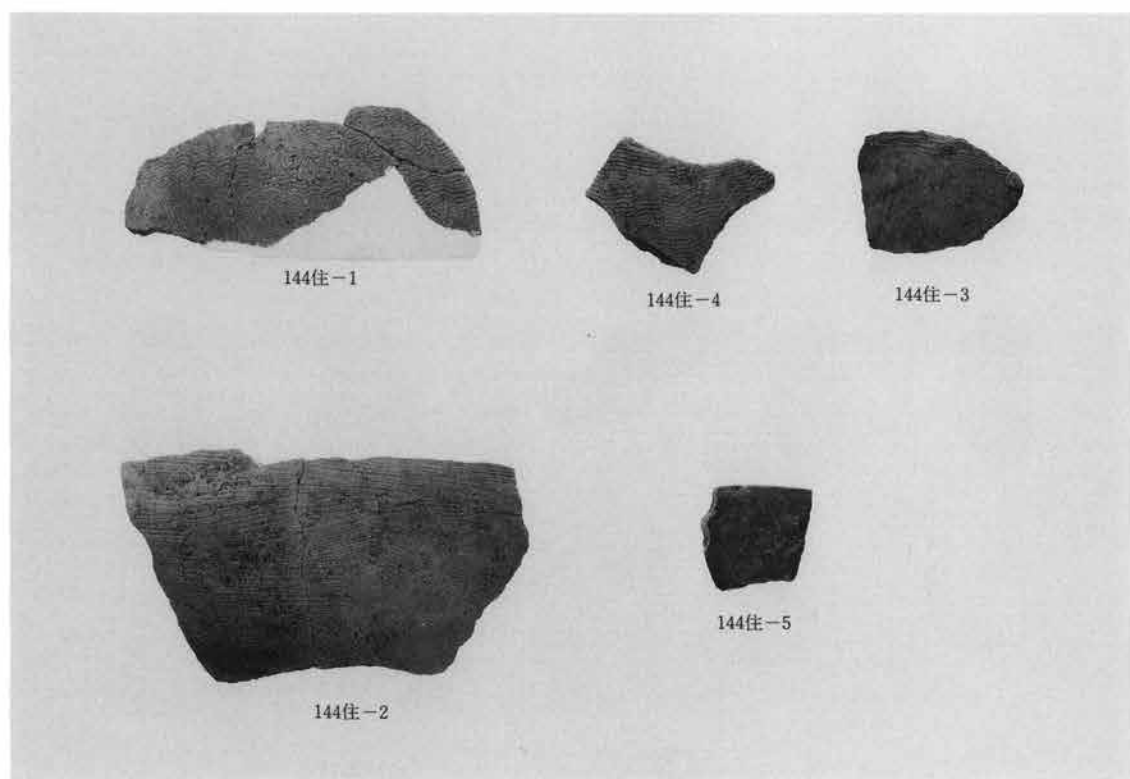
84、133、145、153、184、185、188、189号住居址出土石器



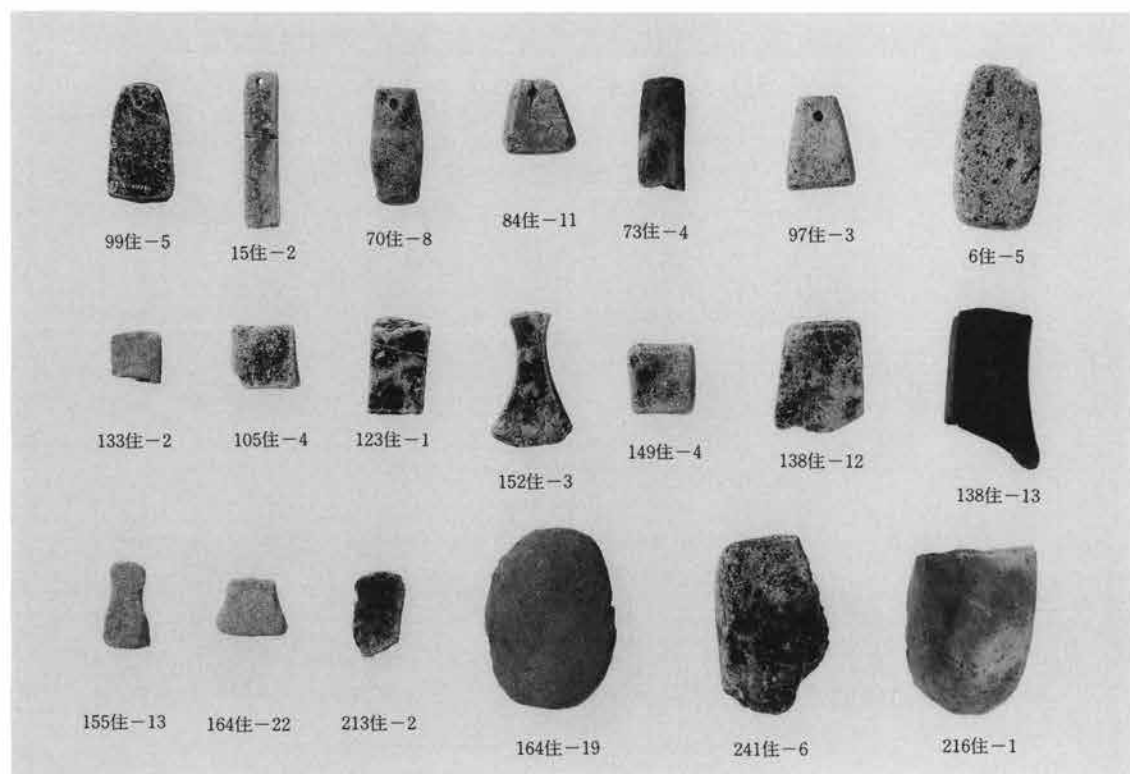
155、171、186、194、229、232、238号住居址出土石器



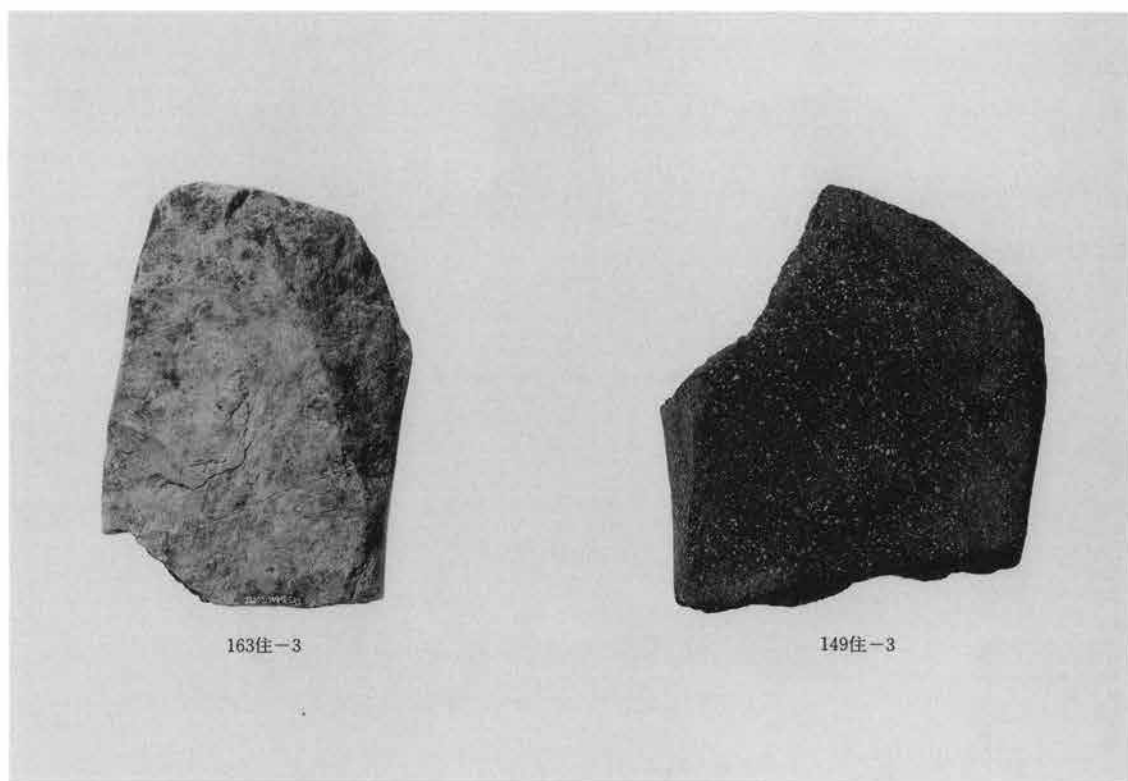
137、151号住居址出土土器



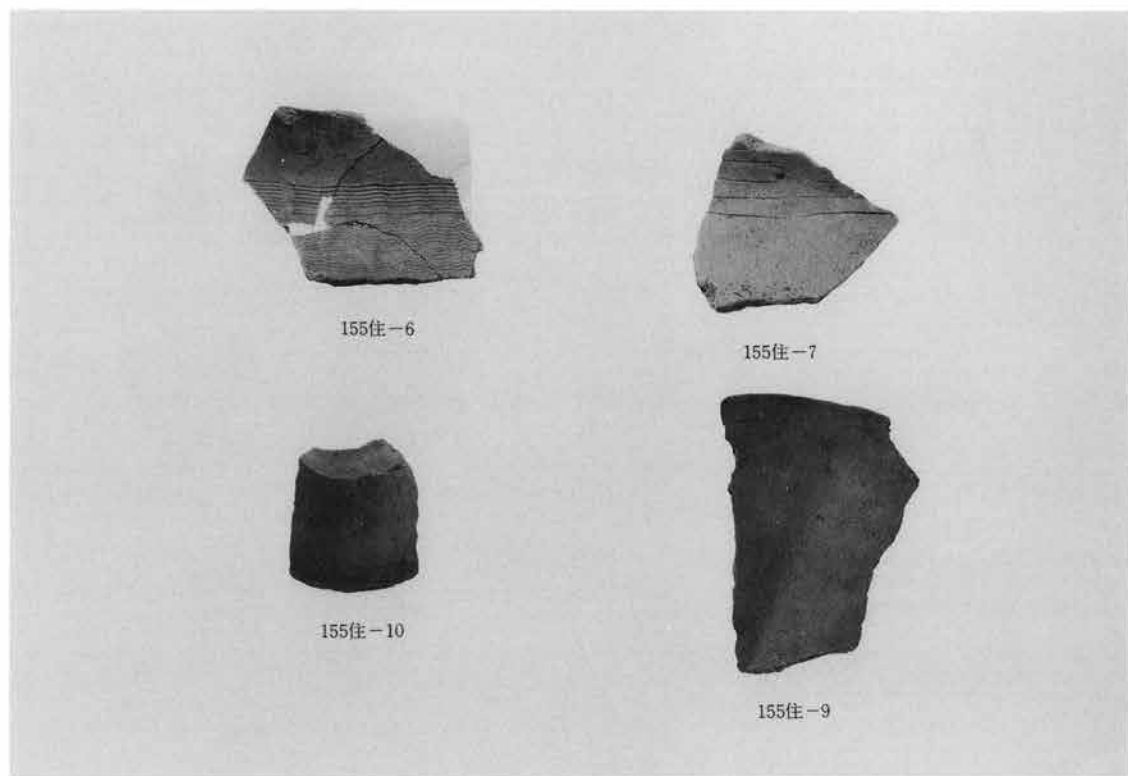
144号住居址出土土器



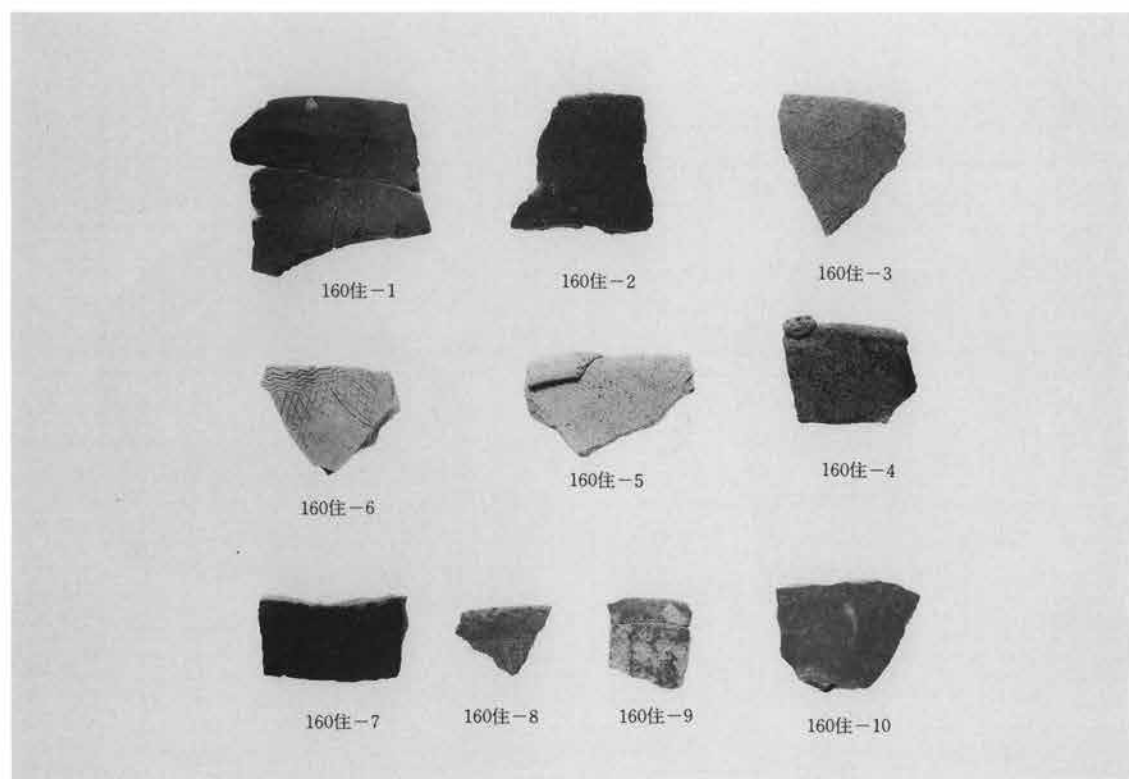
6、15、70、73、84、97、99、105、123、133、138、149、152、155、164、213、241、216号住居址出土石器



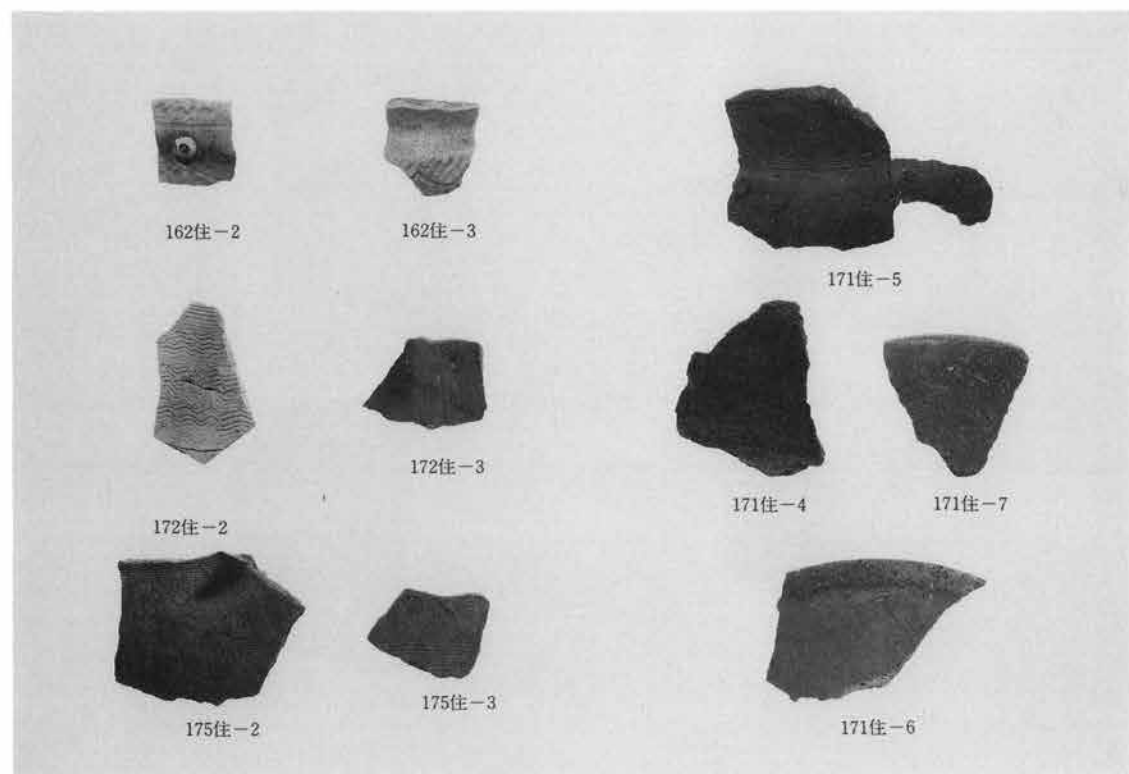
149、163号住居址出土石器



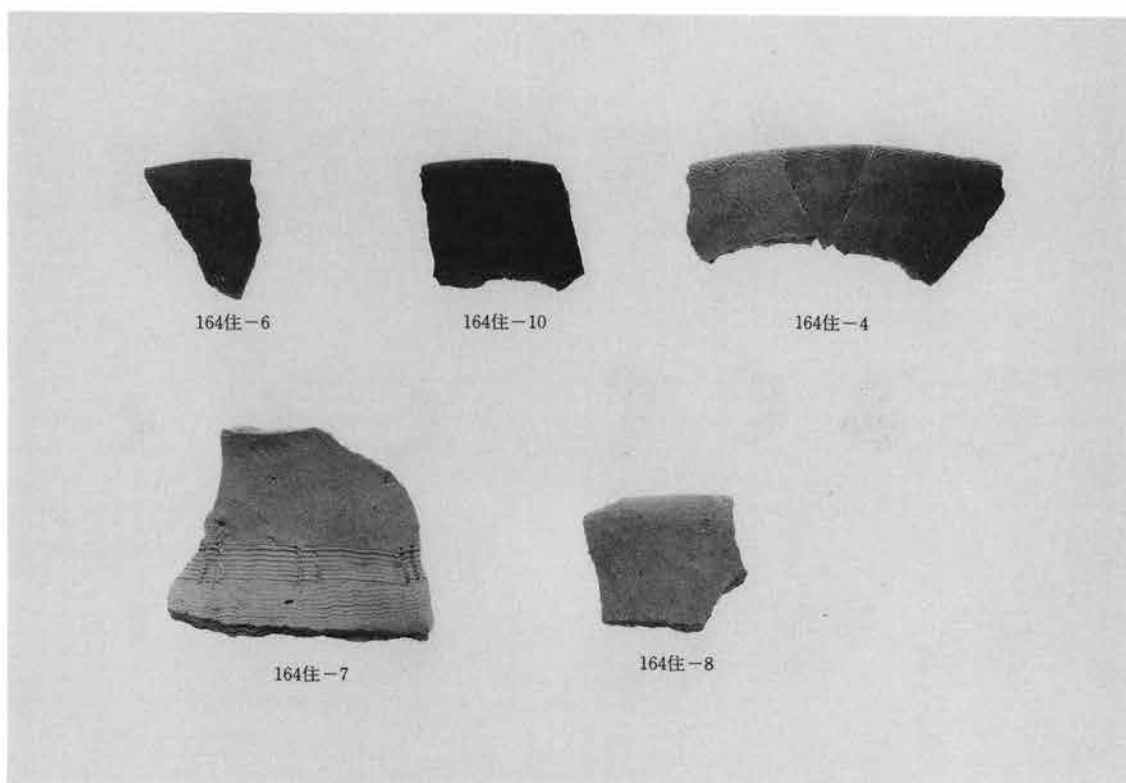
155号住居址出土土器



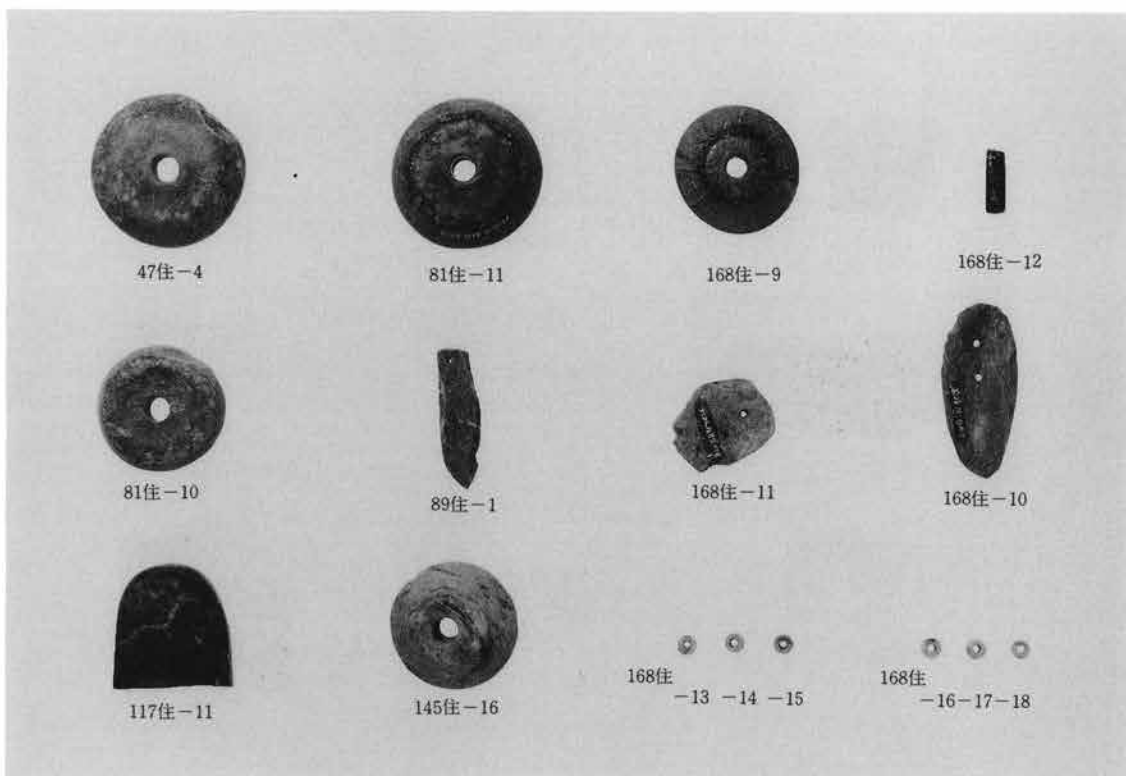
160号住居址出土土器



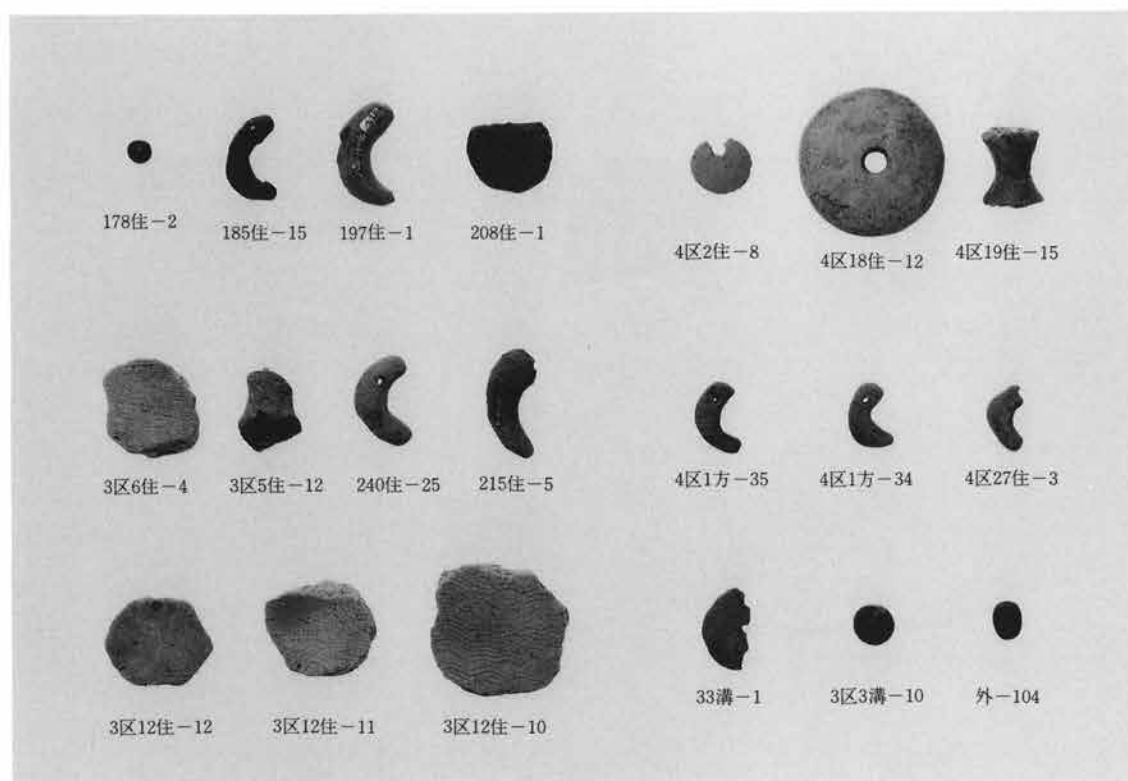
162、171、172、175号住居址出土土器



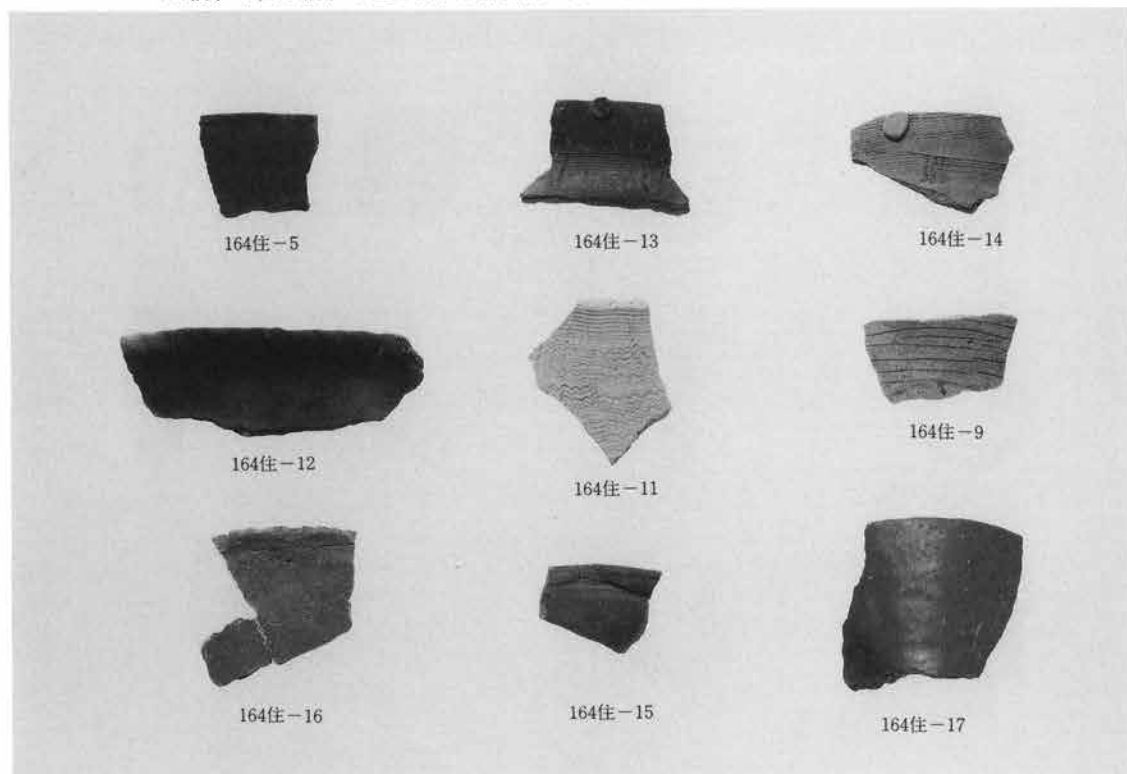
164号住居址出土土器



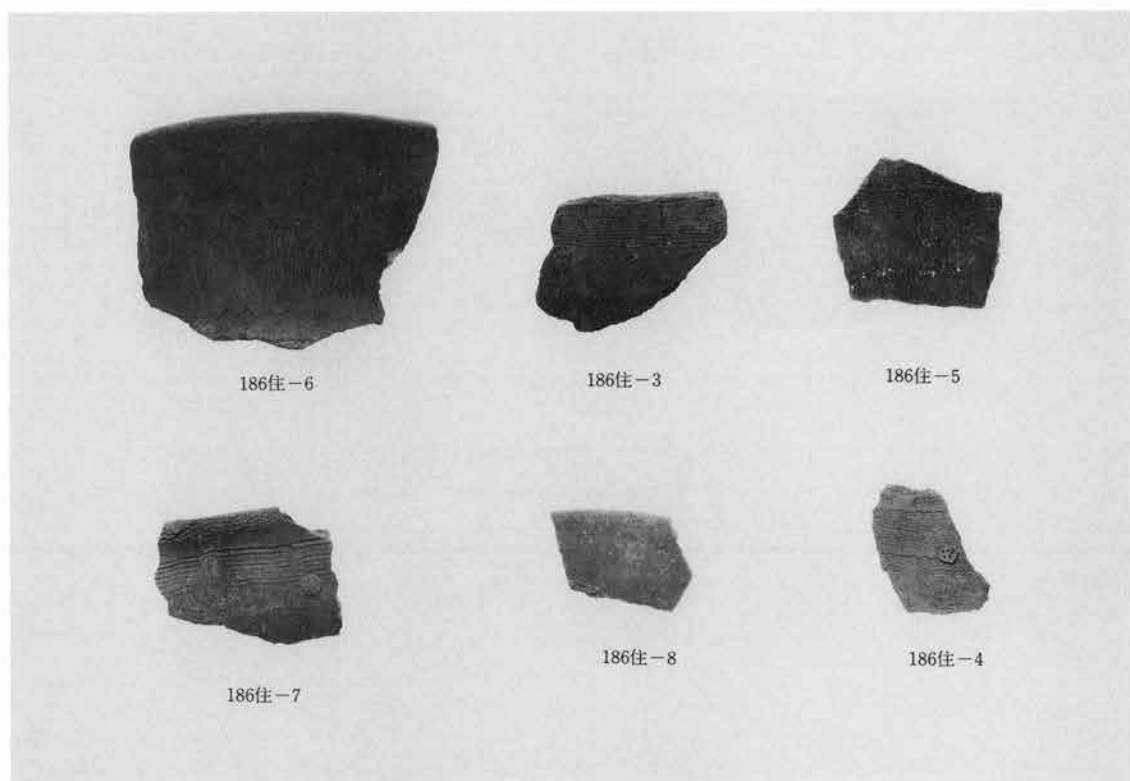
47、81、89、117、145、168号住居址出土紡錘車、玉類



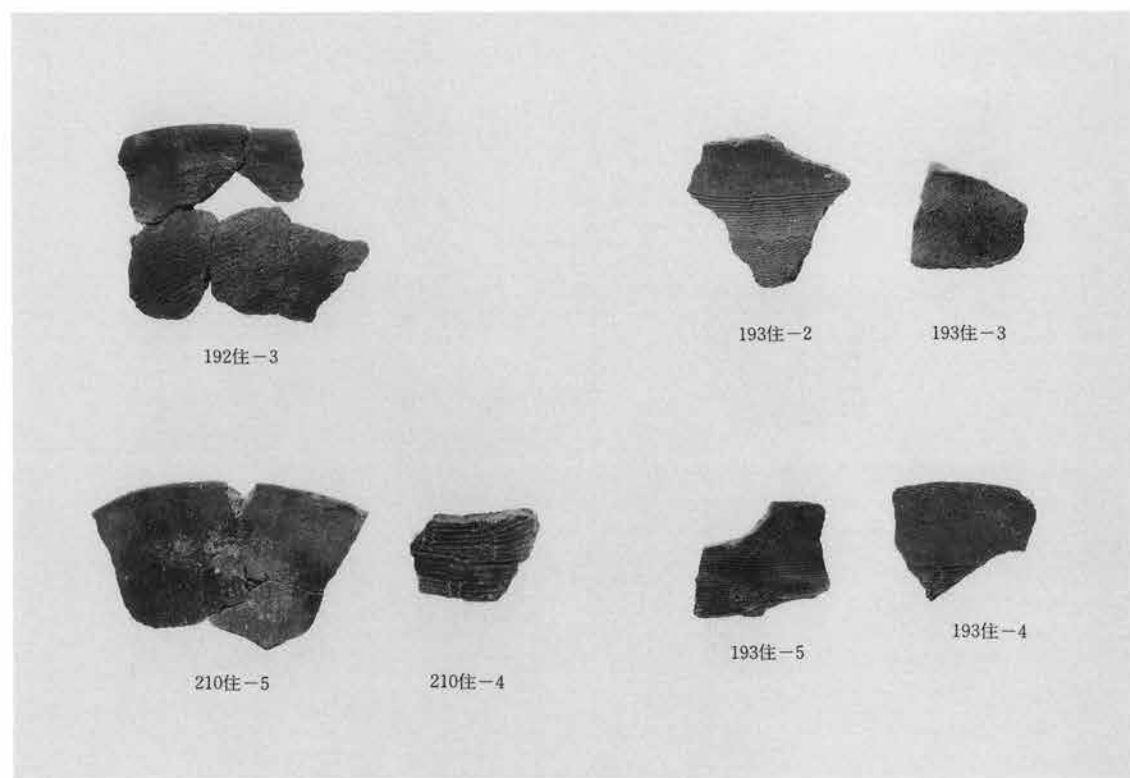
178、185、197、208、215、240、3区5、6、12、4区2、18、19、27号住居址
33溝、3区3溝、4区1方、遺構外出土紡錘車、玉類



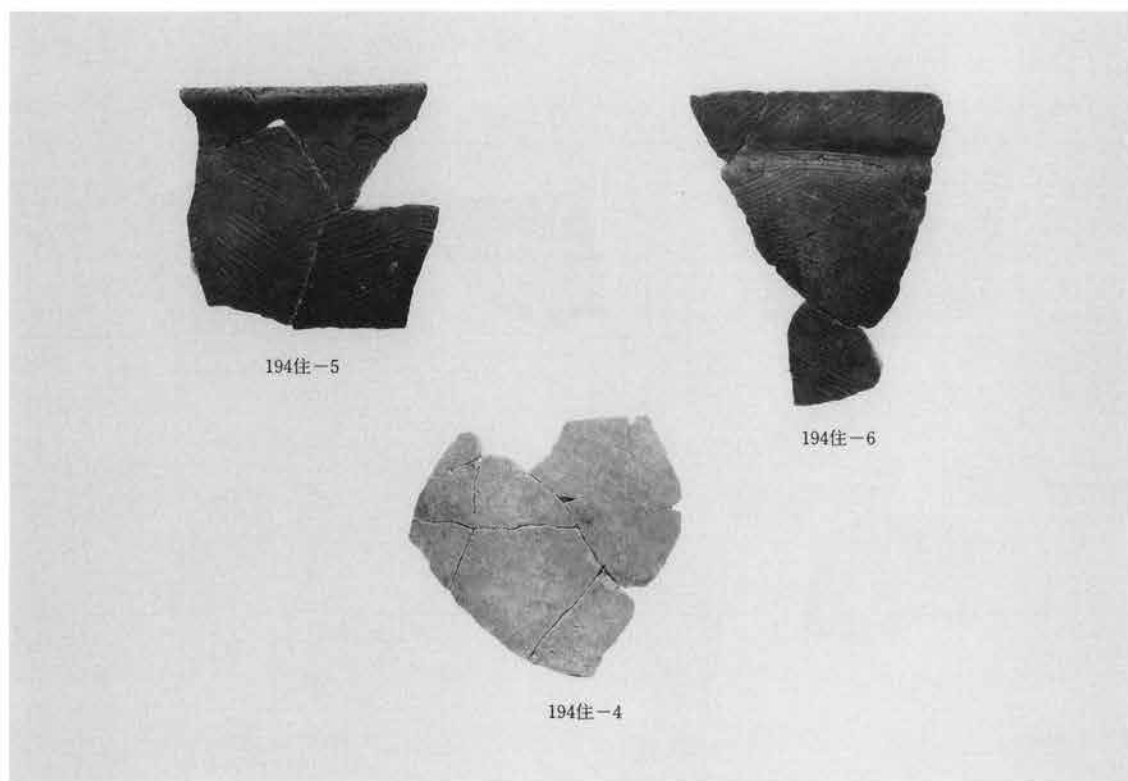
164号住居址出土土器



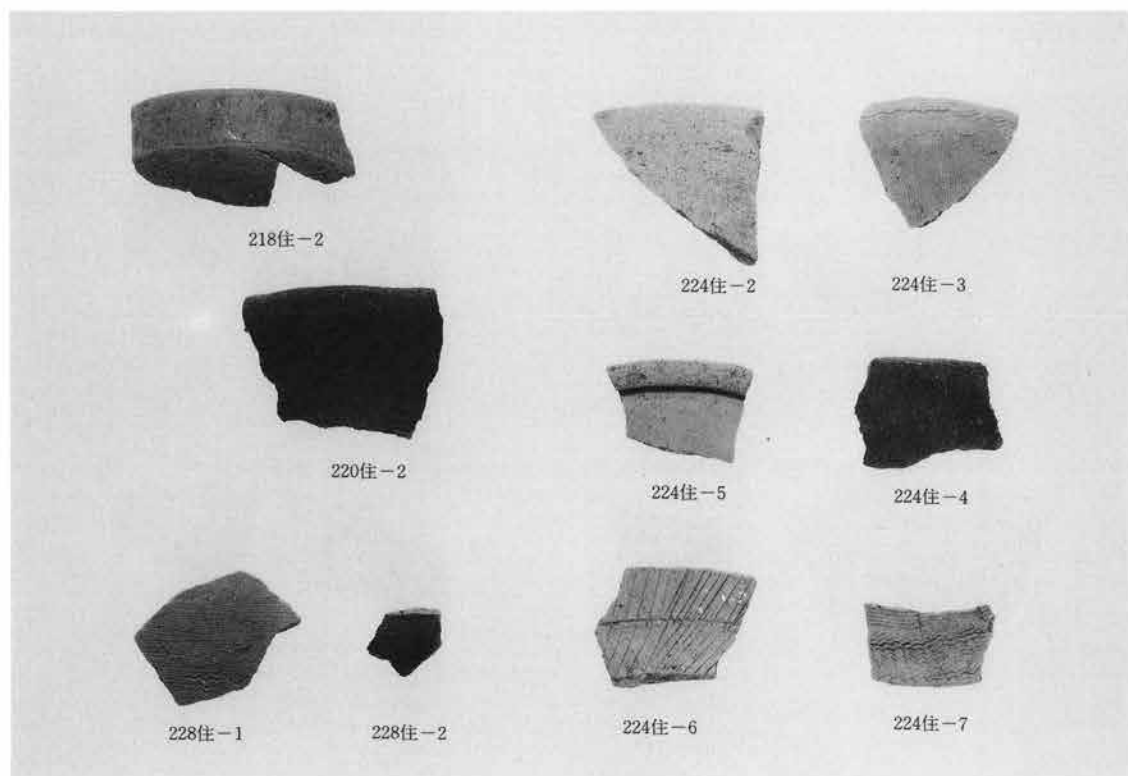
186号住居址出土土器



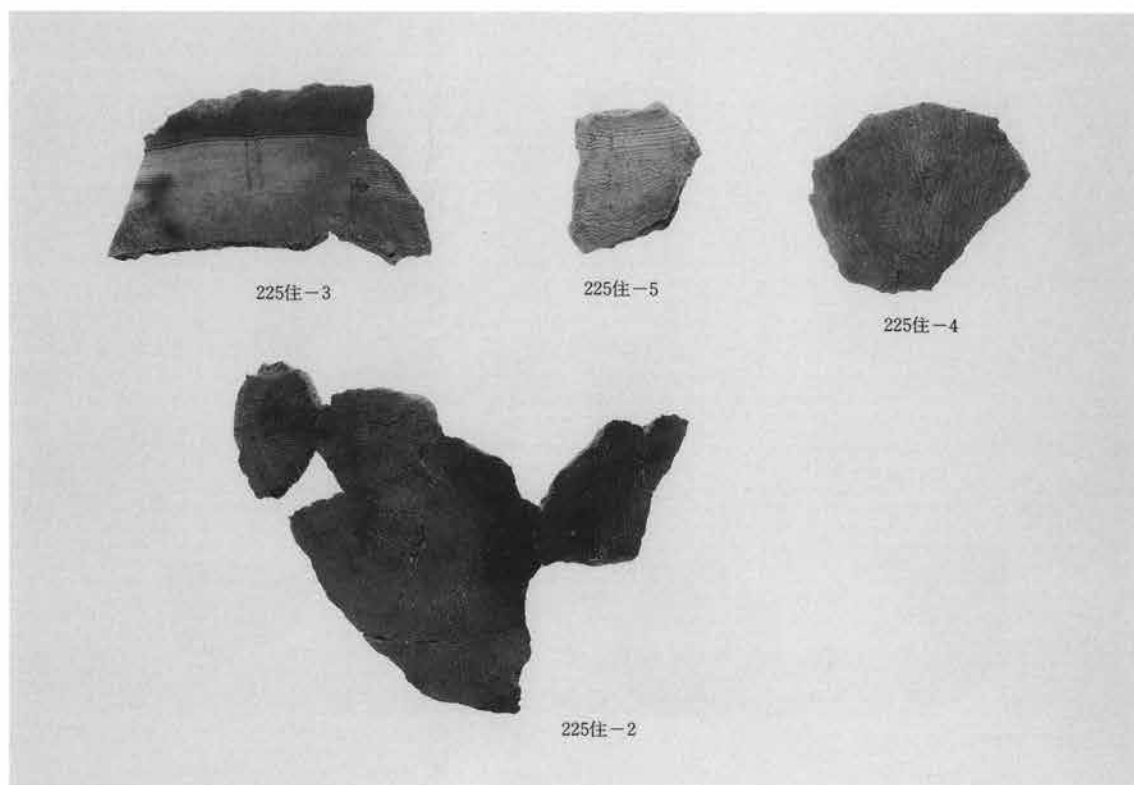
192、193、210号住居址出土土器



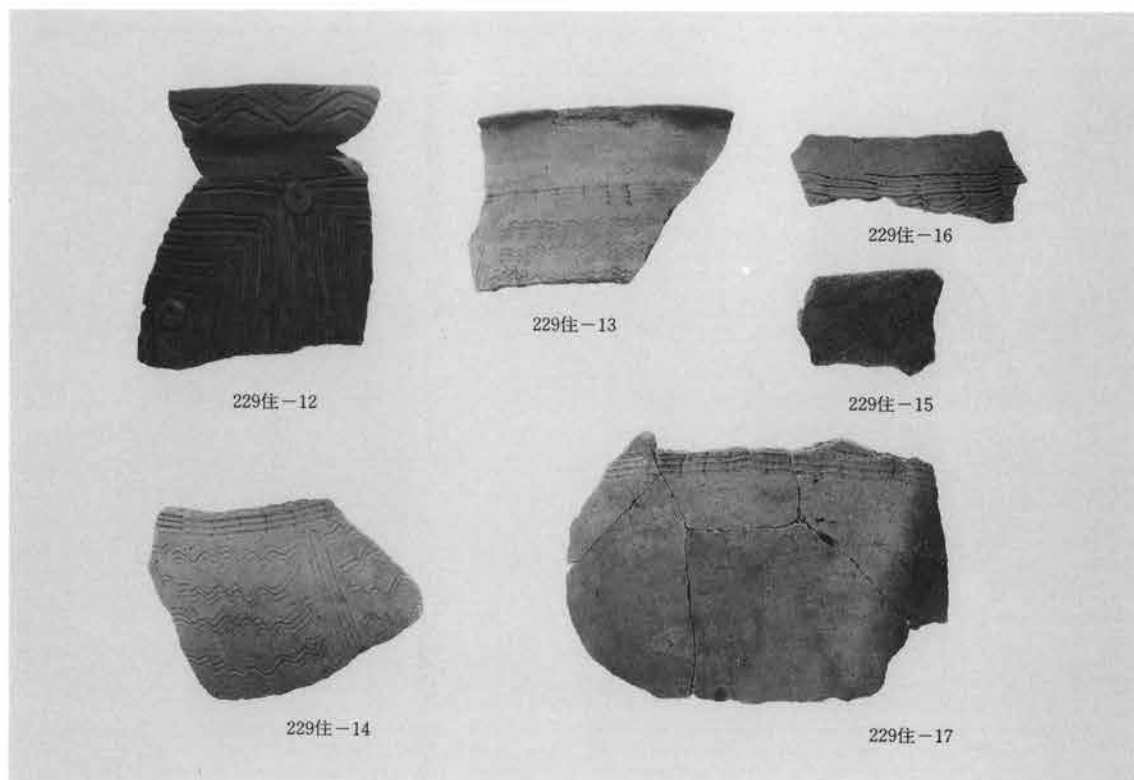
194号住居址出土土器



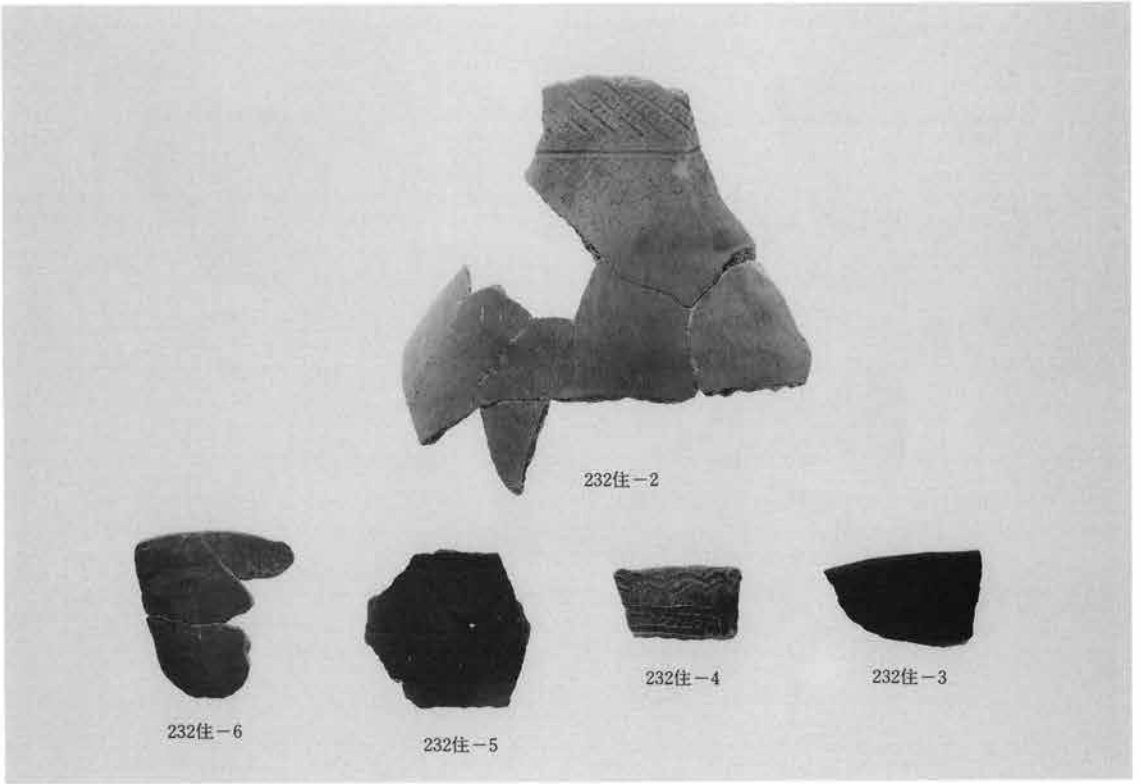
218、220、224、228号住居址出土土器



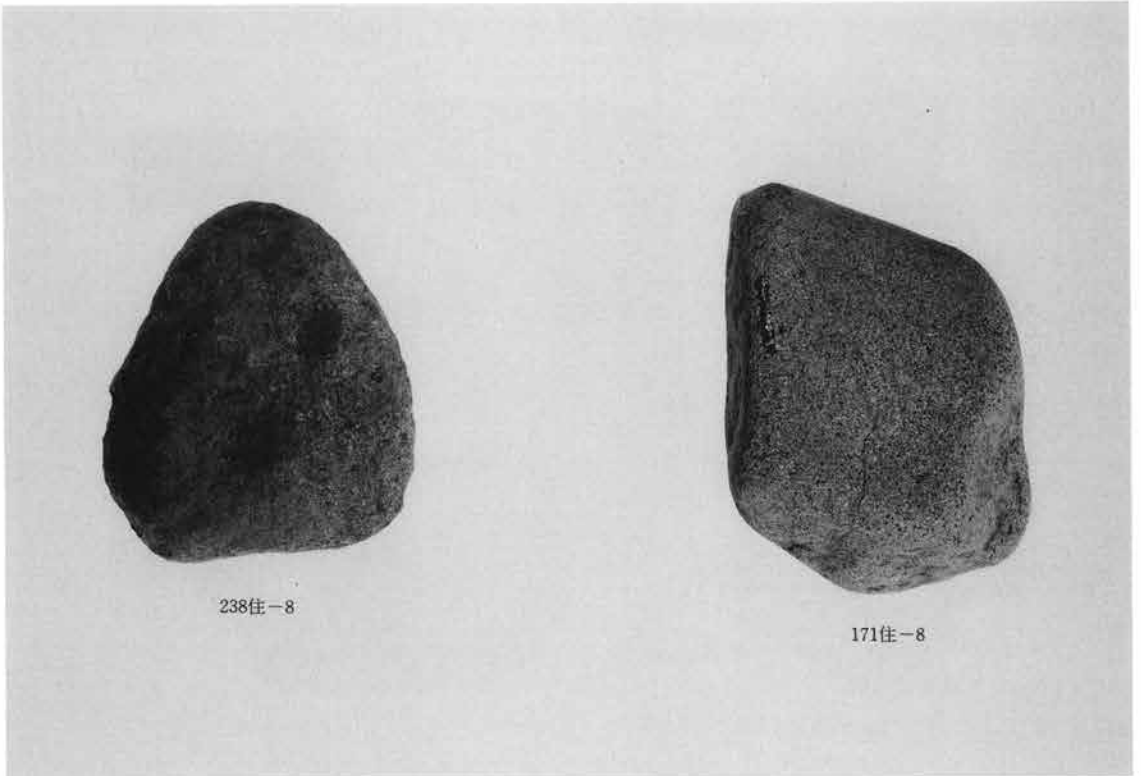
225号住居址出土土器



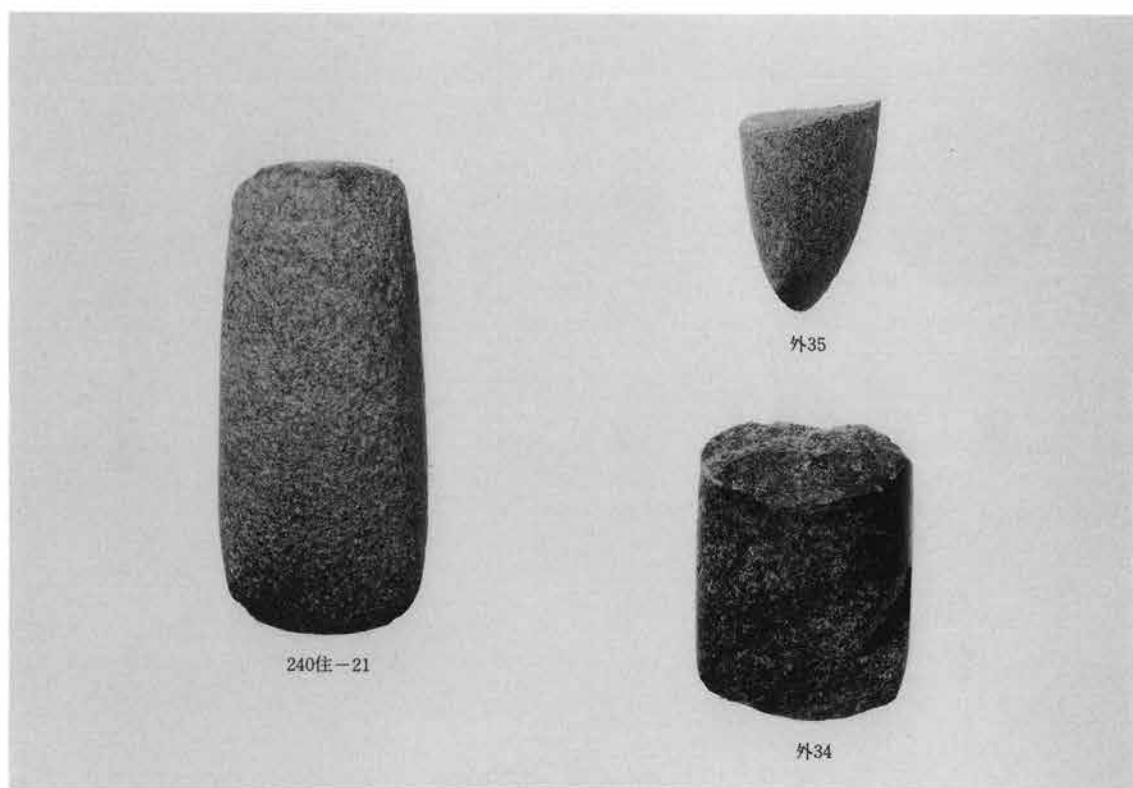
229号住居址出土土器



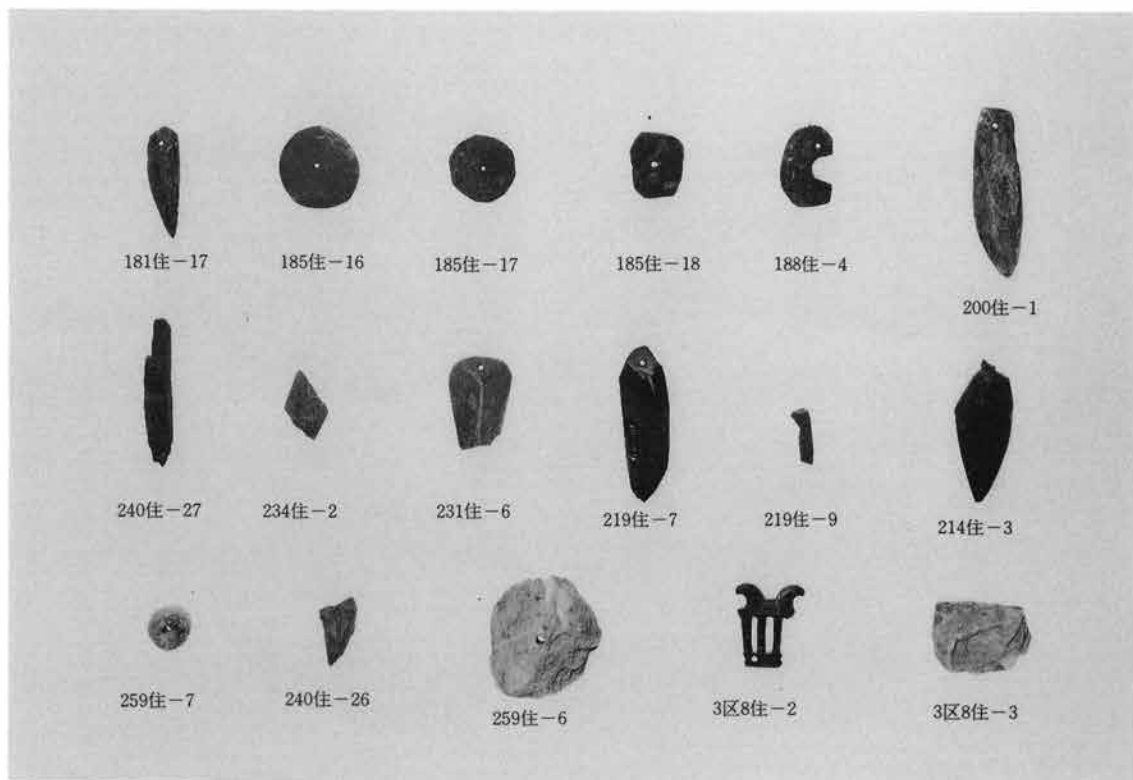
232号住居址出土土器



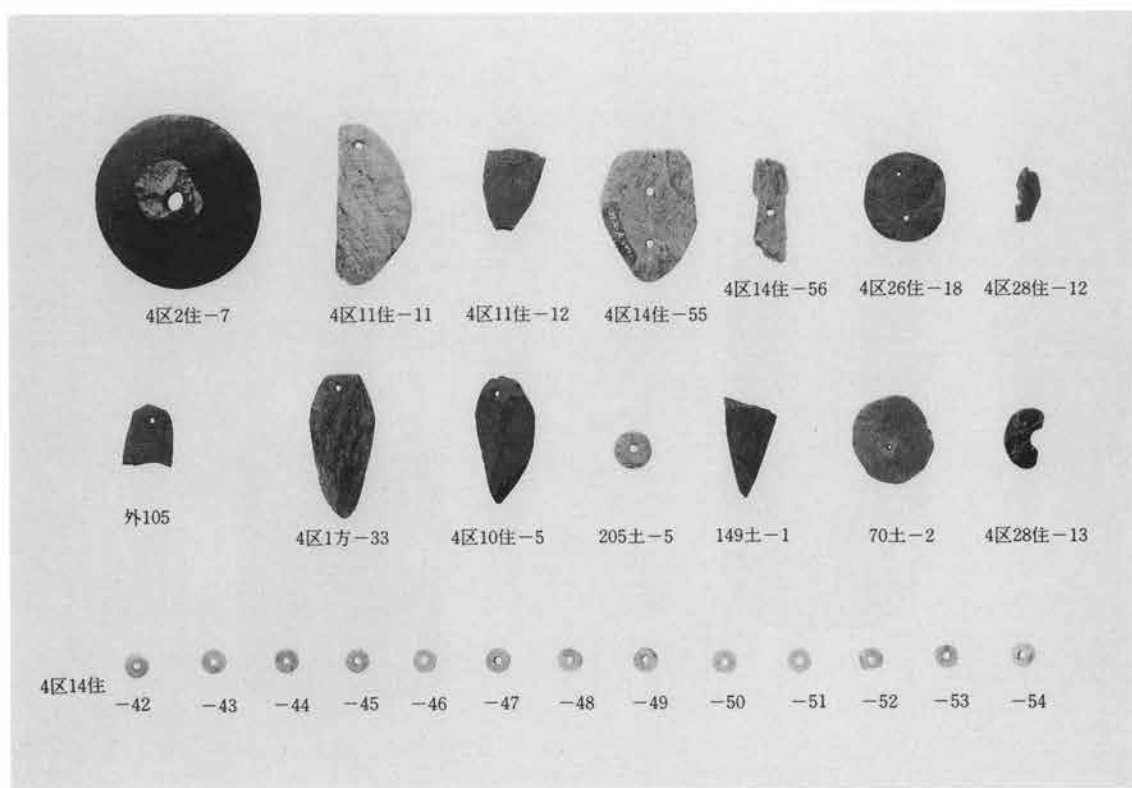
171、238号住居址出土石器



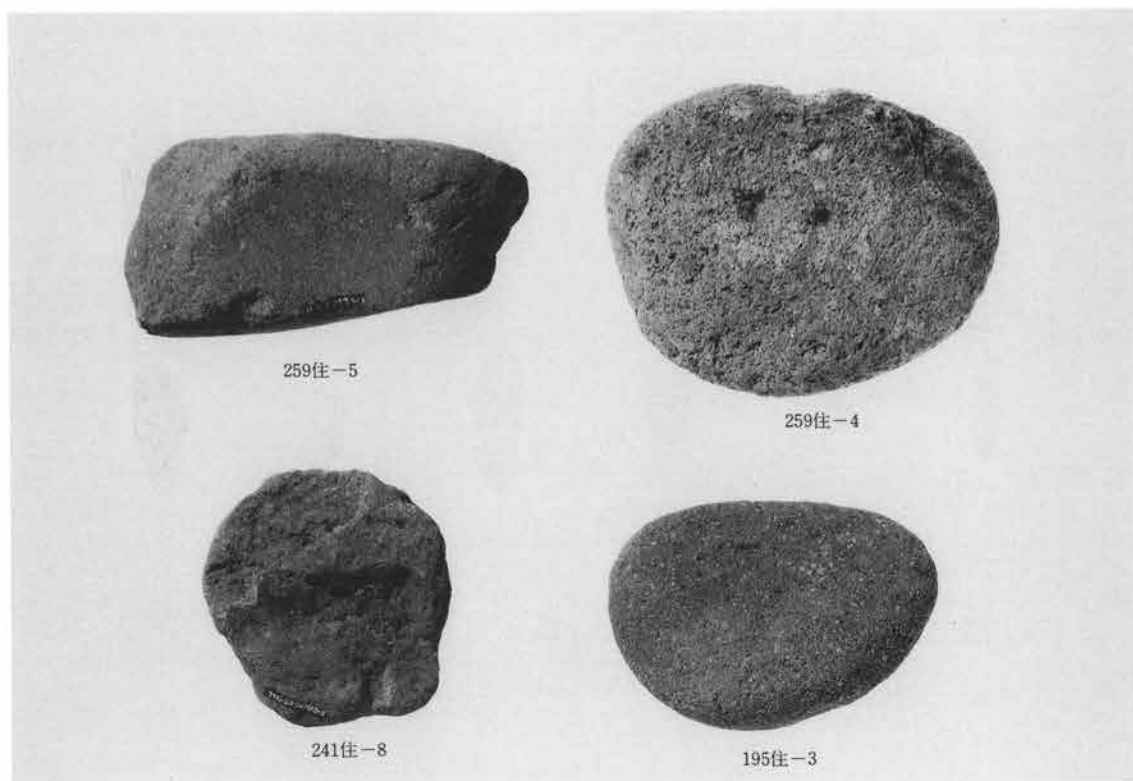
240号住居址、遺構外出土石器



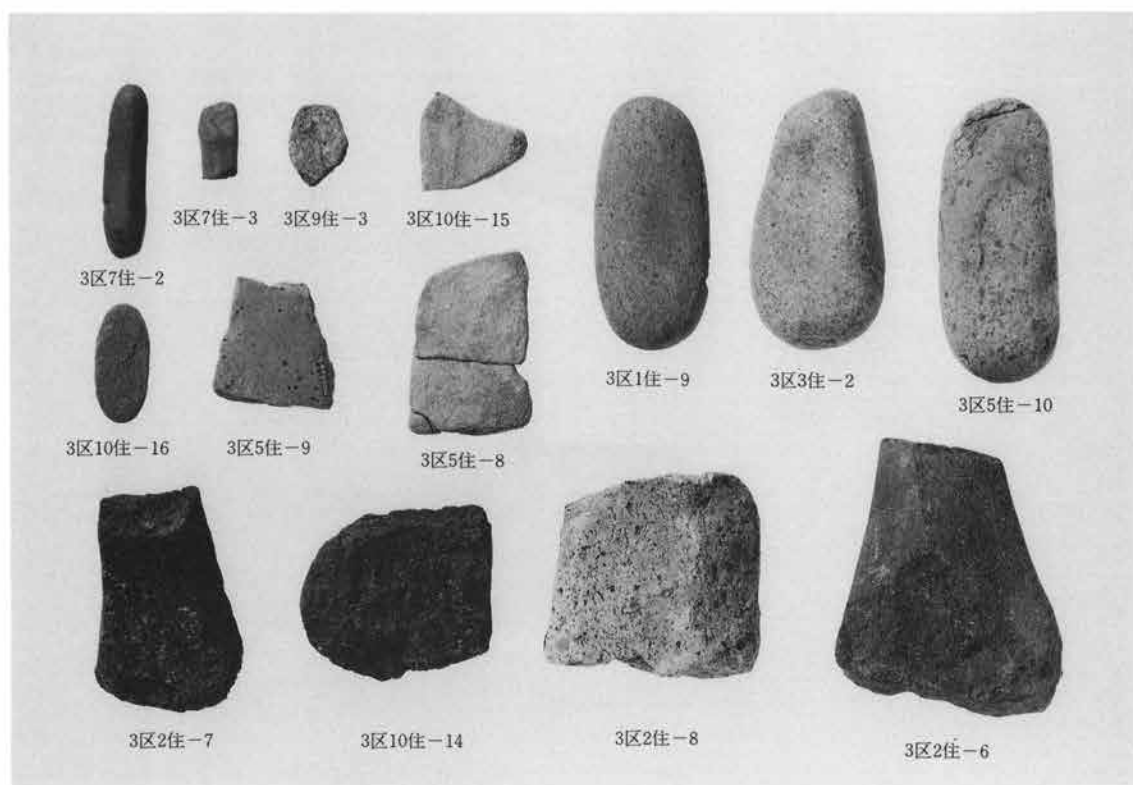
181、185、188、200、214、219、231、234、240、259、3区8号住居址出土石製模造品



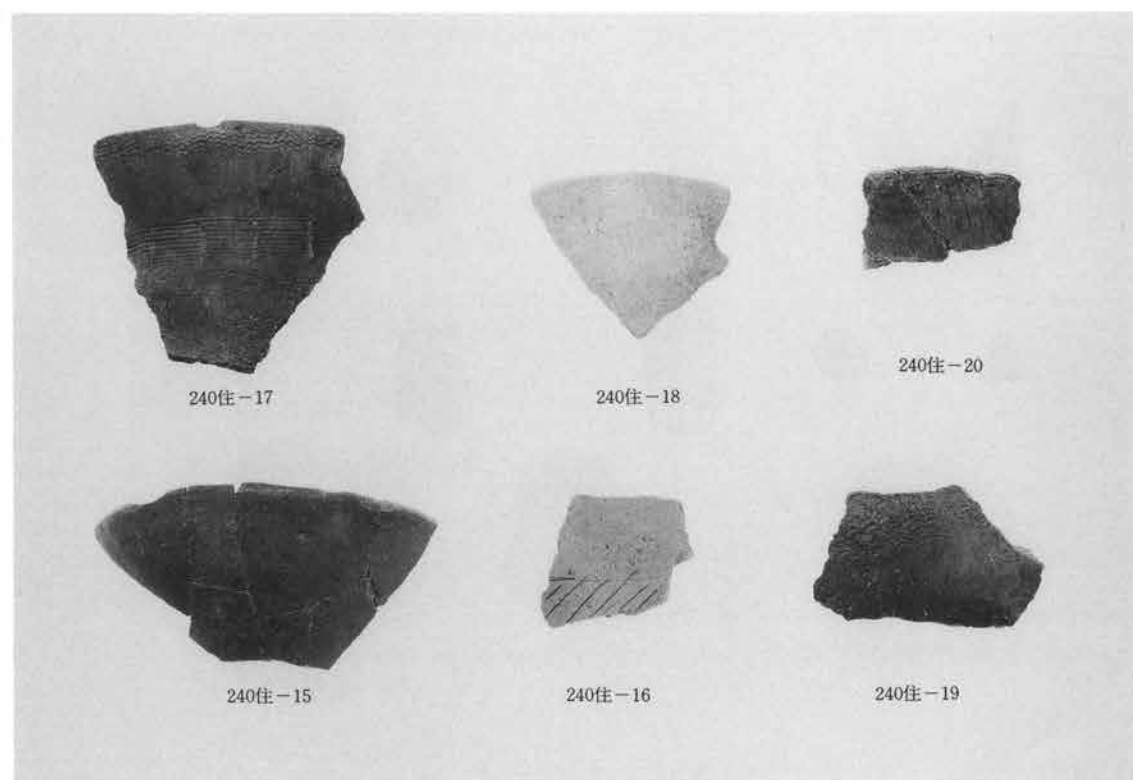
4区2、10、11、14、26、28号住居址、4区1方、70、149、205土坑、遺構外出土石製模造品



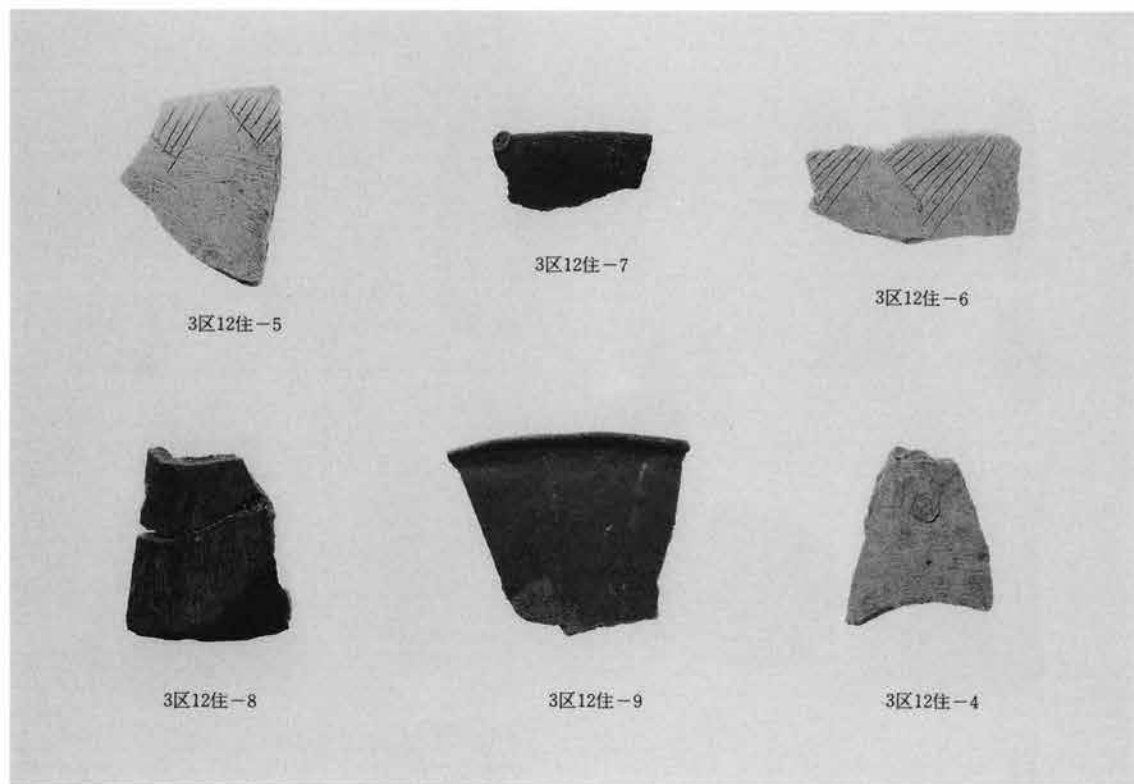
195、241、259号住居址出土石器



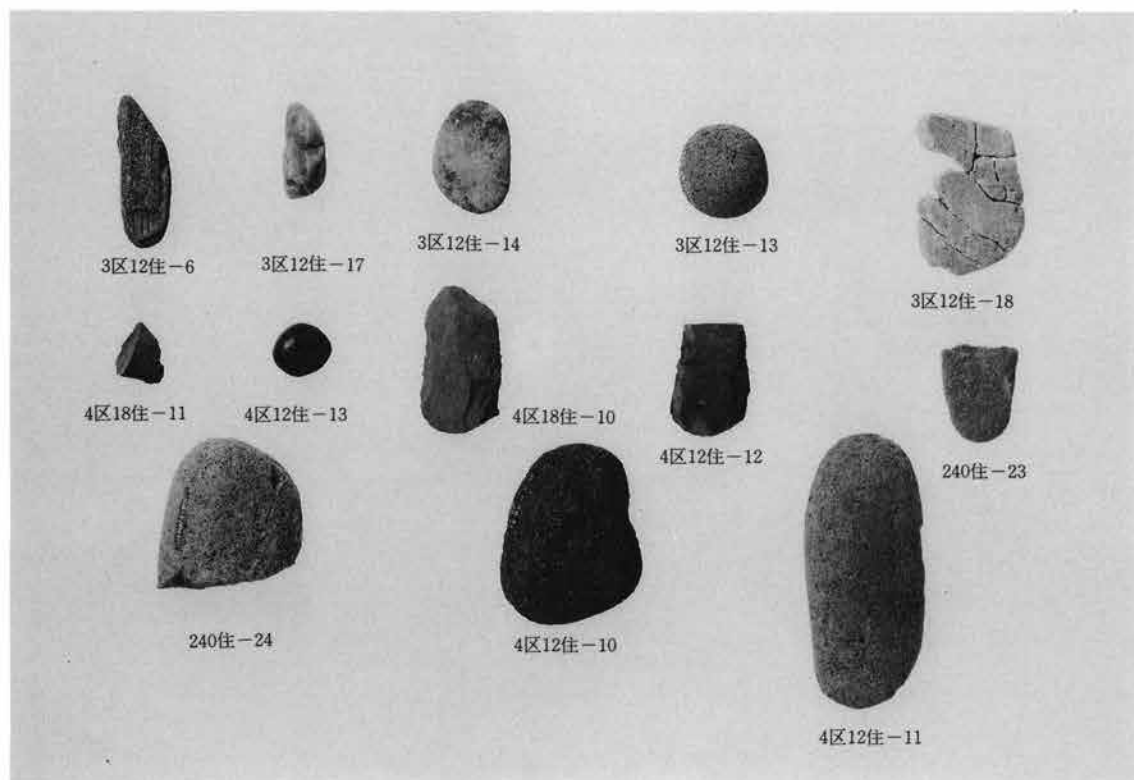
3区1、2、3、5、7、9、10号住居址出土石器



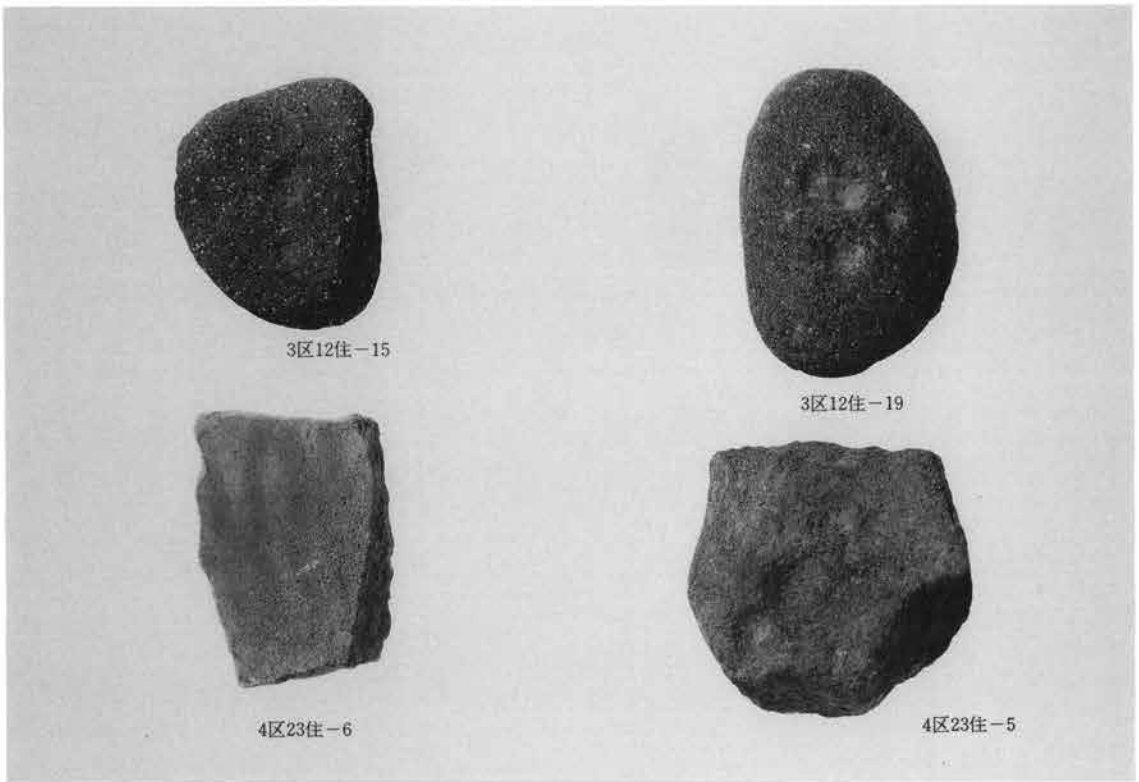
240号住居址出土土器



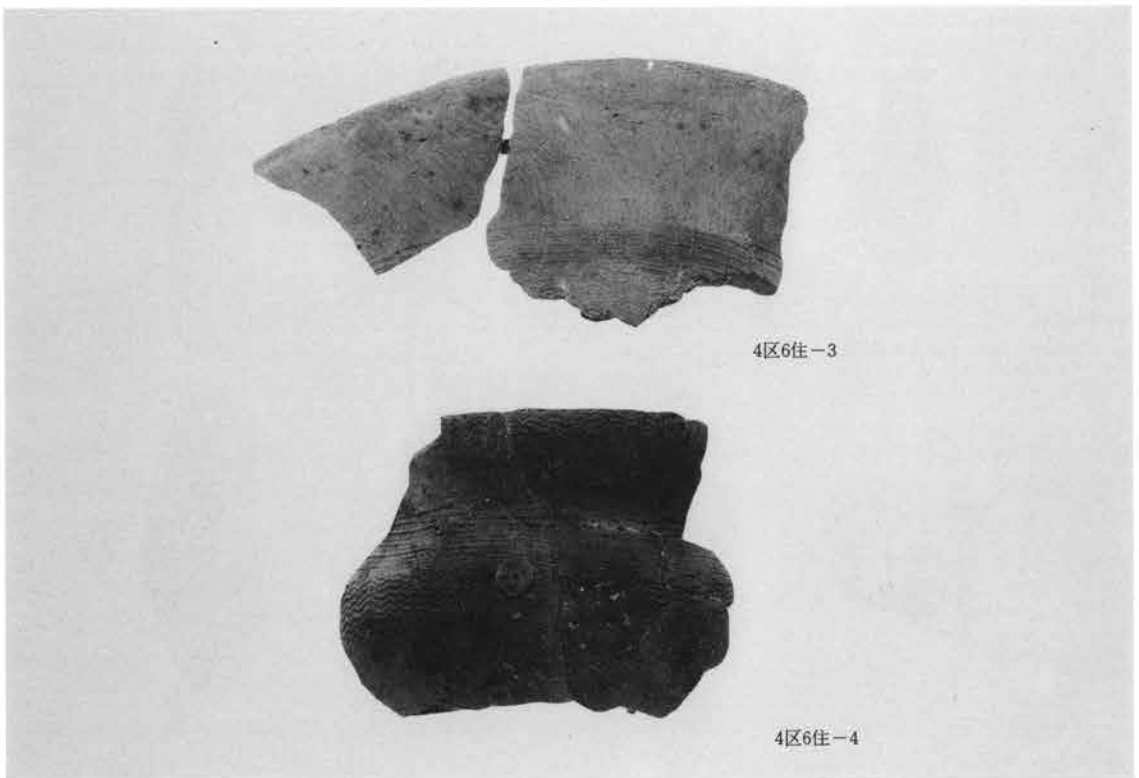
3区12号住居址出土土器



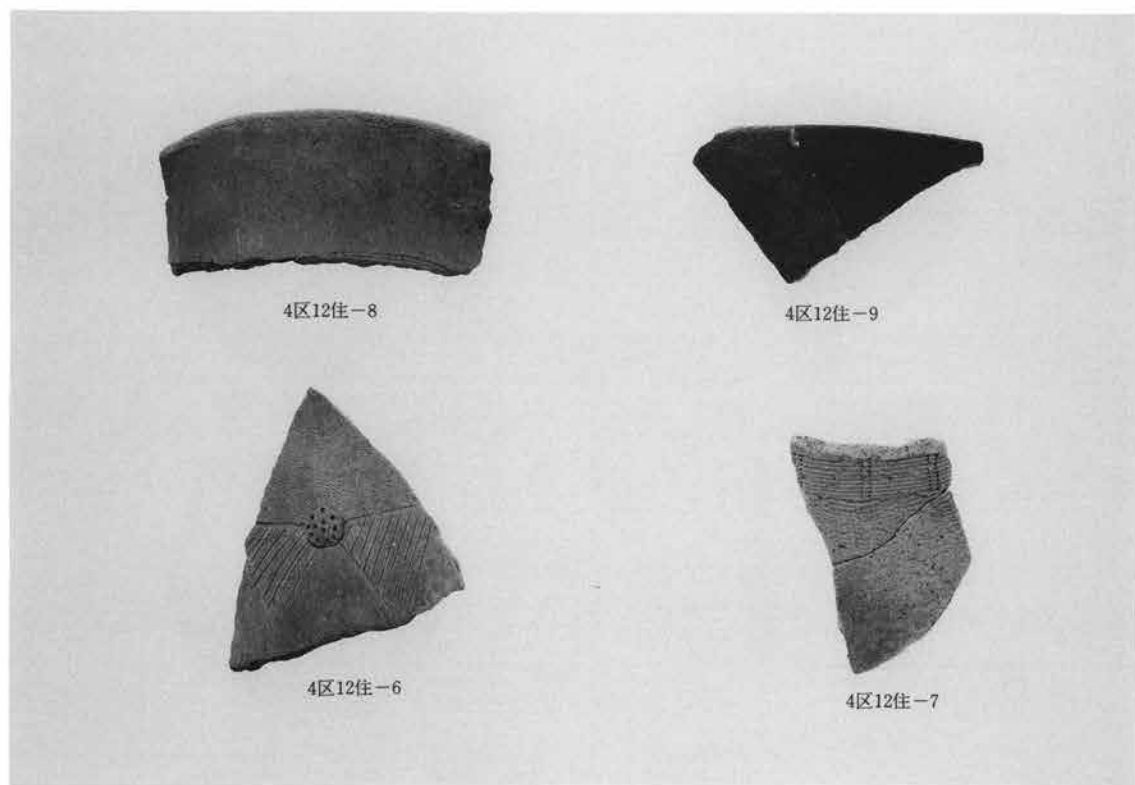
240、3区12、4区12、18号住居址出土石器



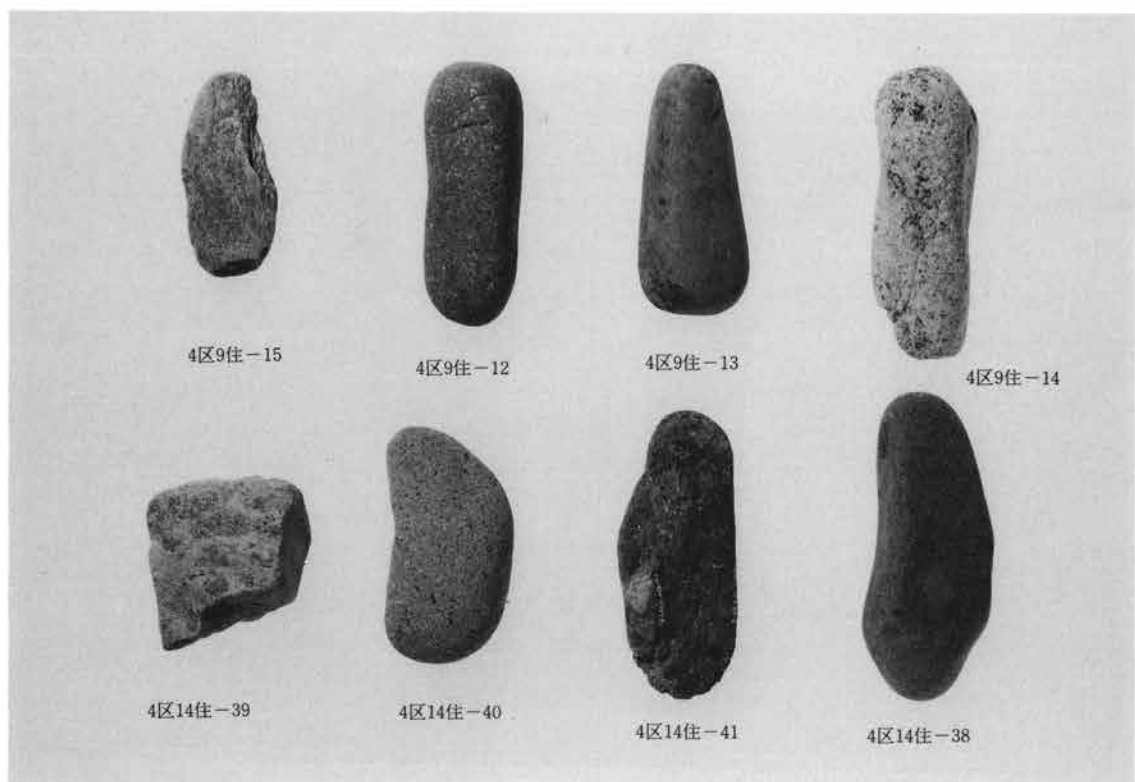
3区12、4区23号住居址出土石器



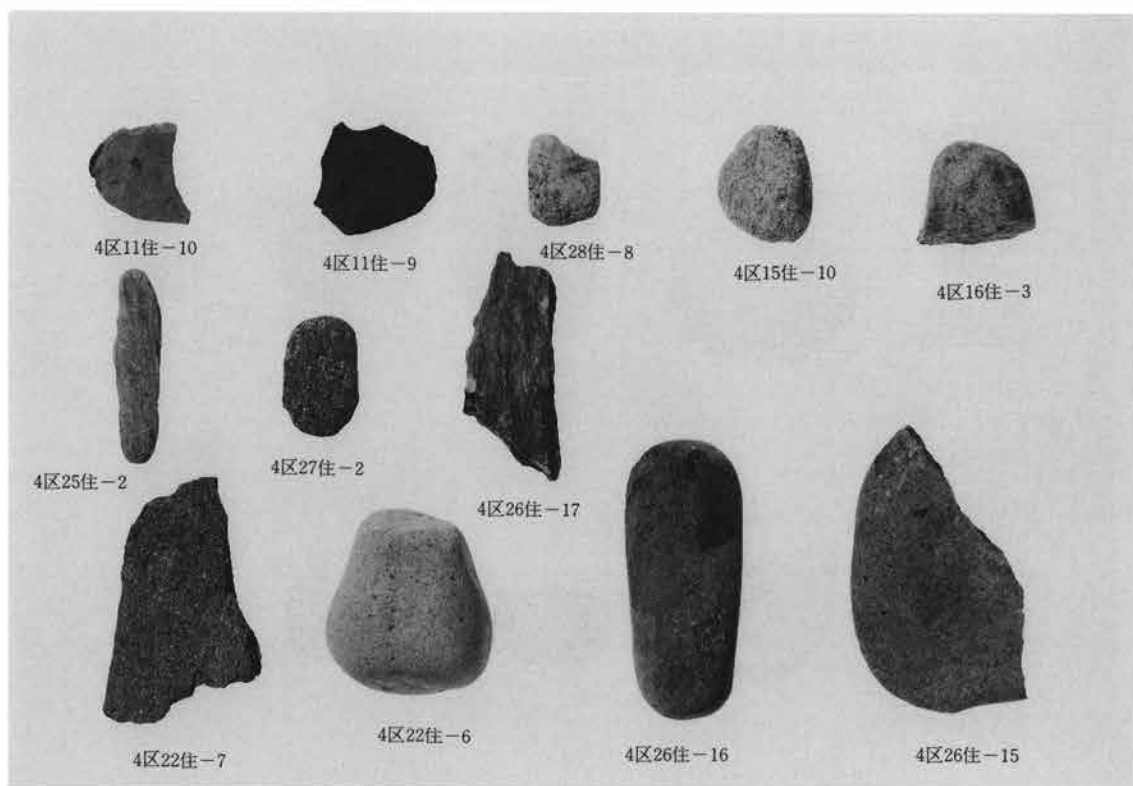
4区6号住居址出土土器



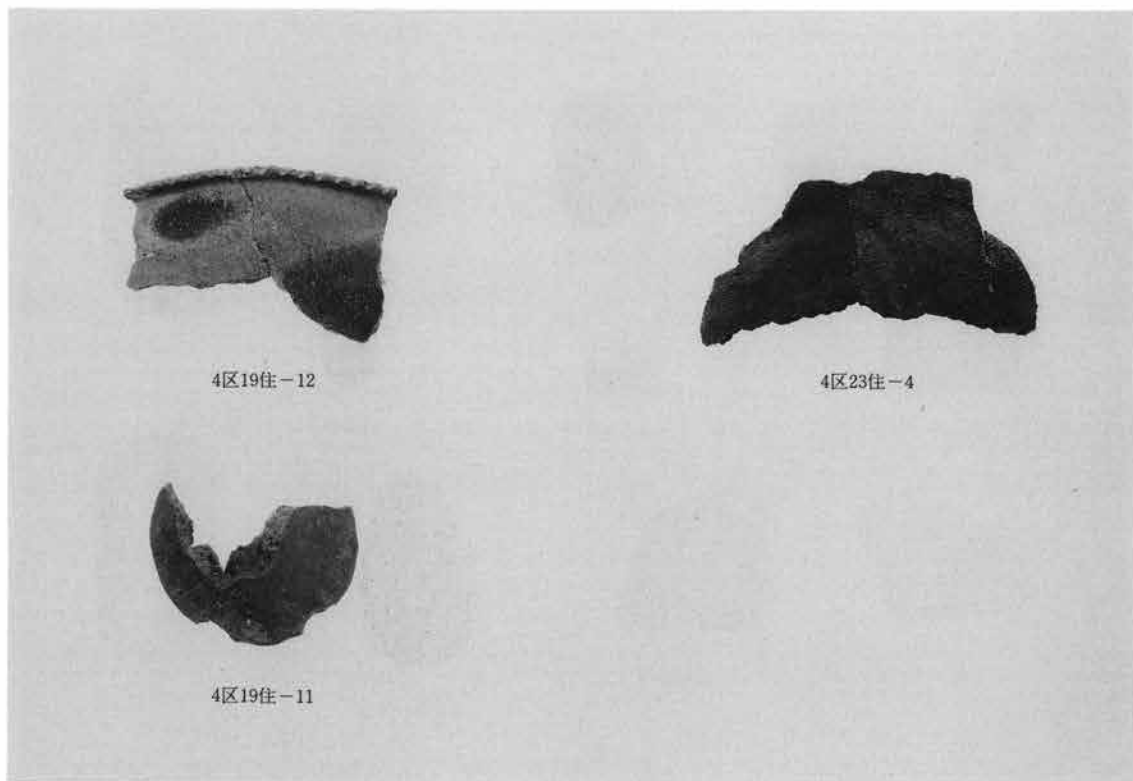
4区12号住居址出土土器



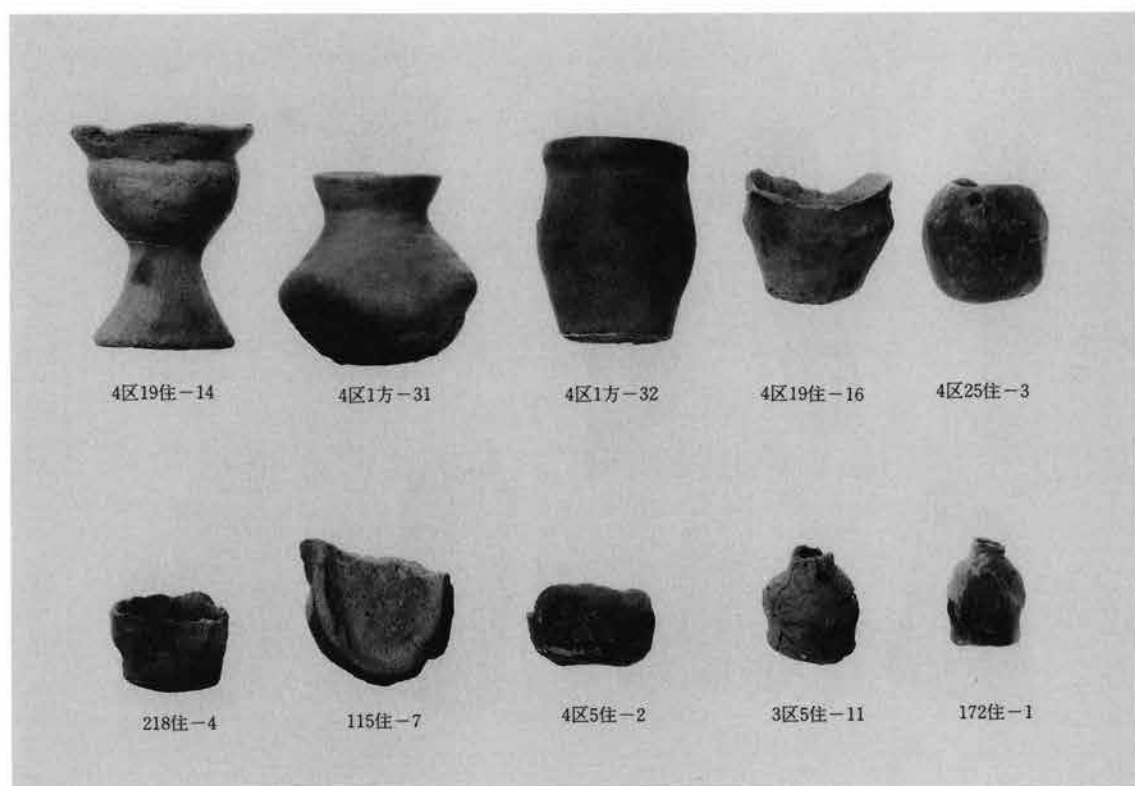
4区9、14号住居址出土石器



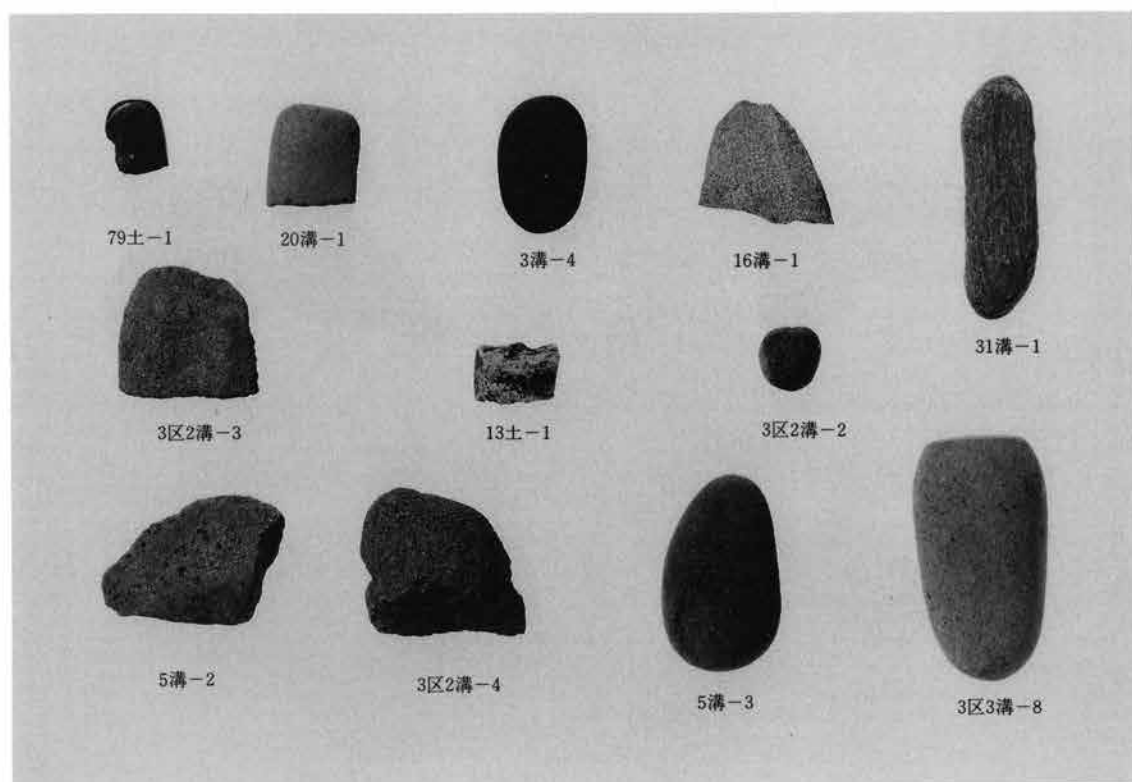
4区11、15、16、22、25、26、27、28号住居址出土石器



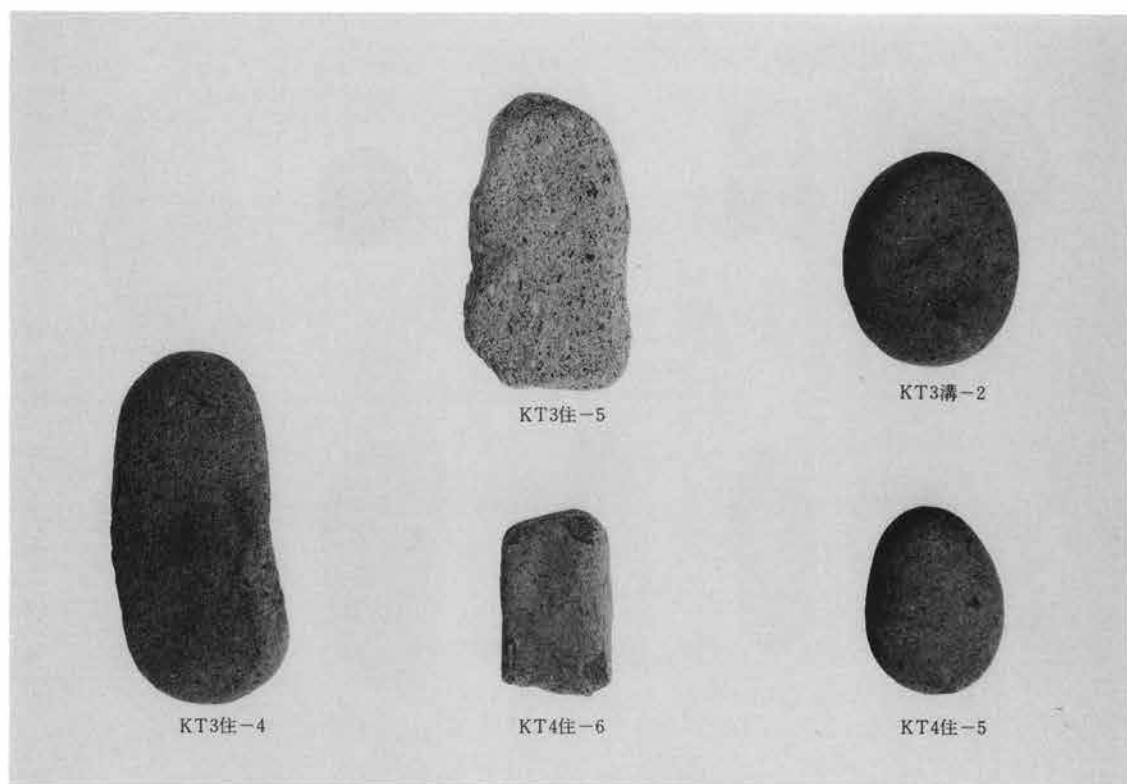
4区19、23号住居址出土土器



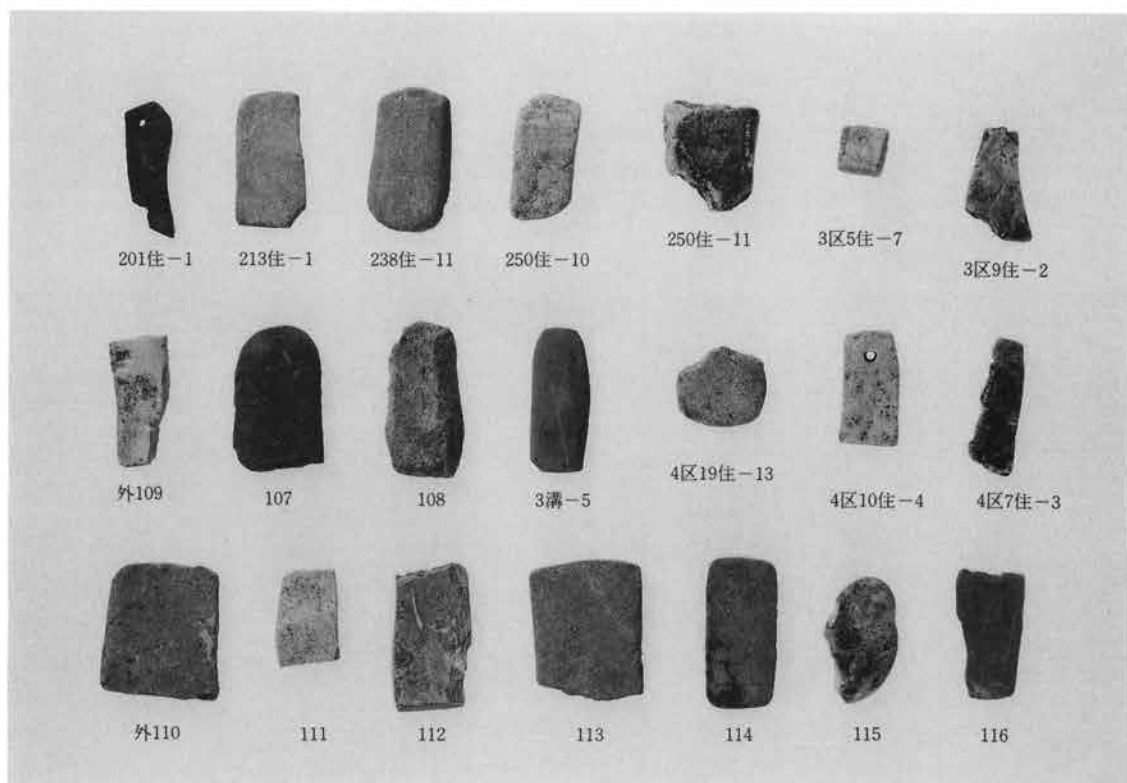
115、172、218、3区5、4区5、19、25号住、4区1方出土土器



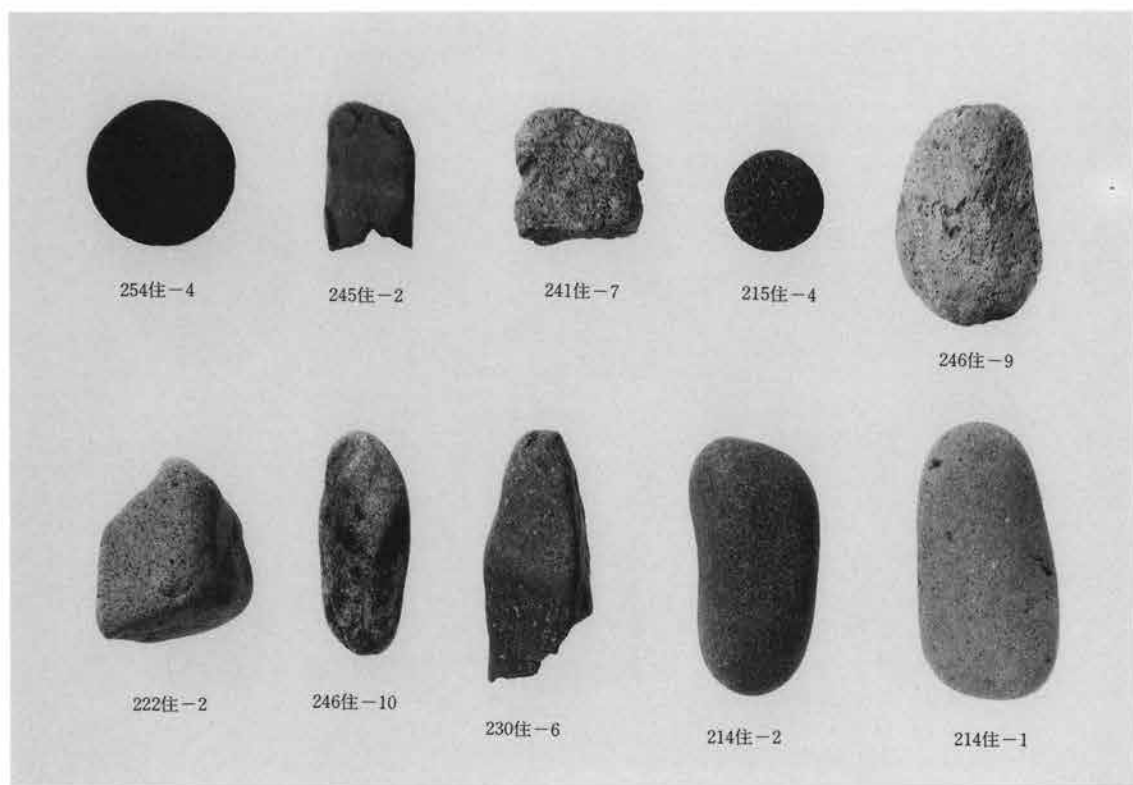
13、79土坑、3、5、16、20、31、3区2、3溝出土石器



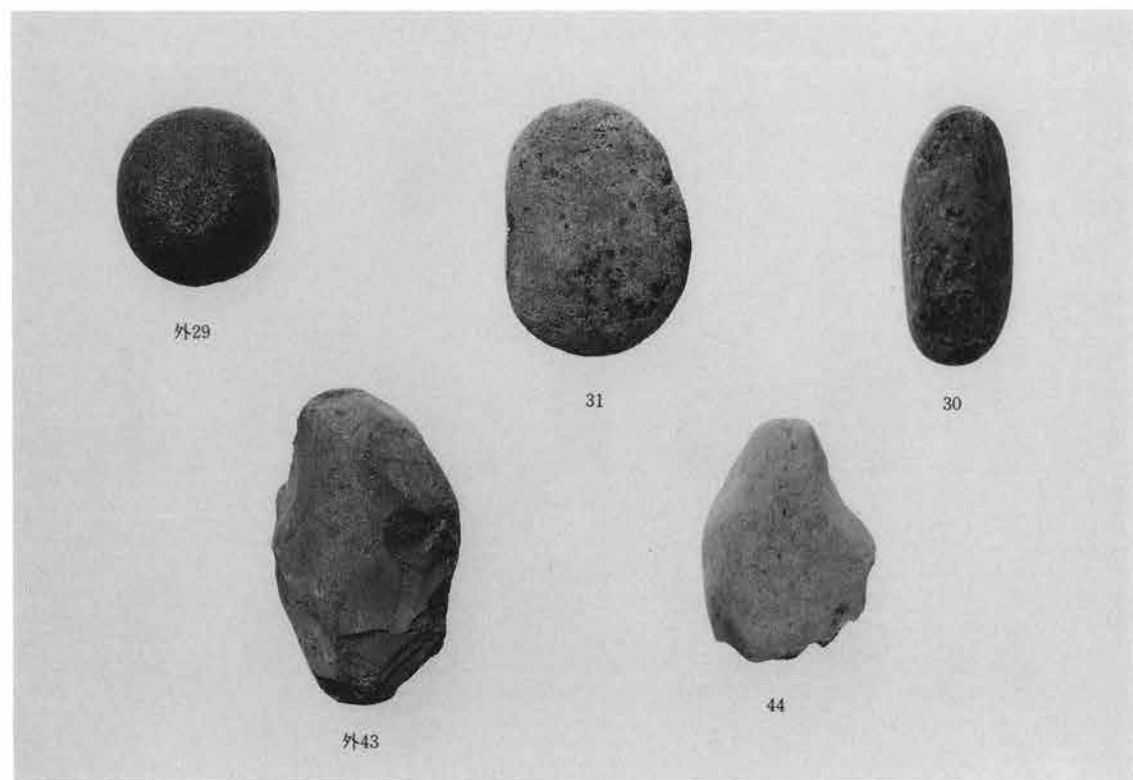
KT-3、4号住居址、KT-3溝出土石器



201、213、238、250、3区5、9、4区7、10、19号住居址、3溝、遺構外出土石器

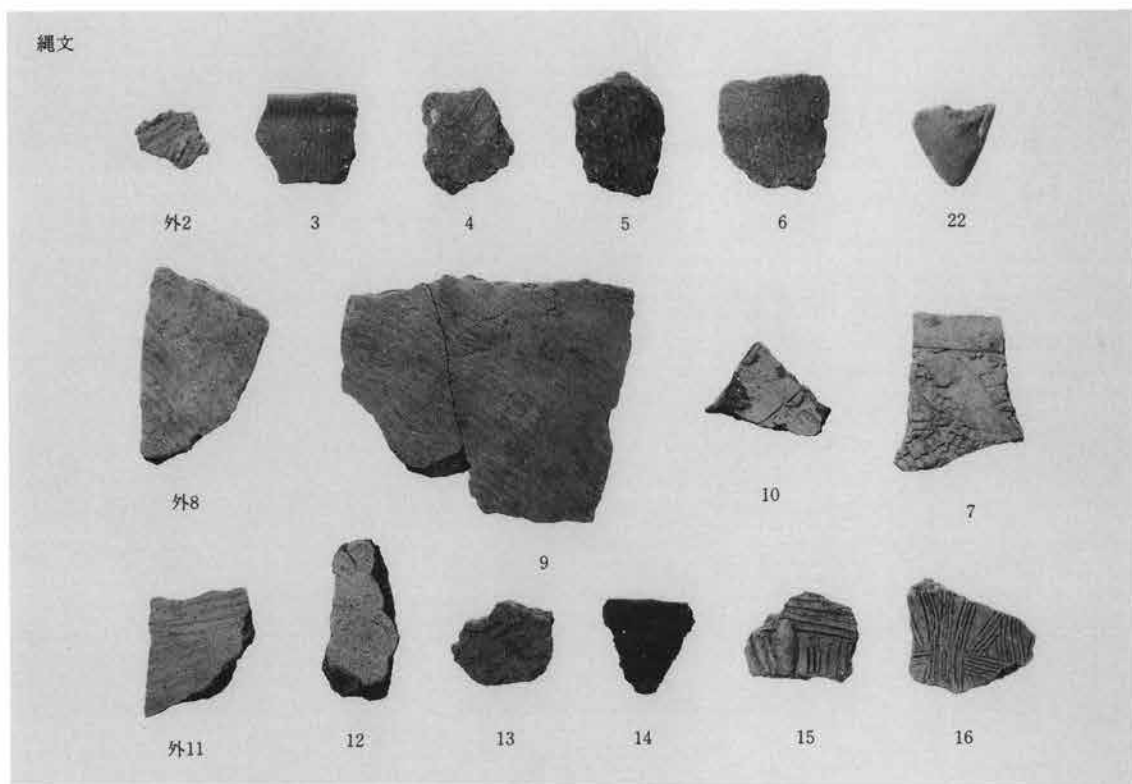


214、215、222、230、241、245、246、254号住居址出土石器



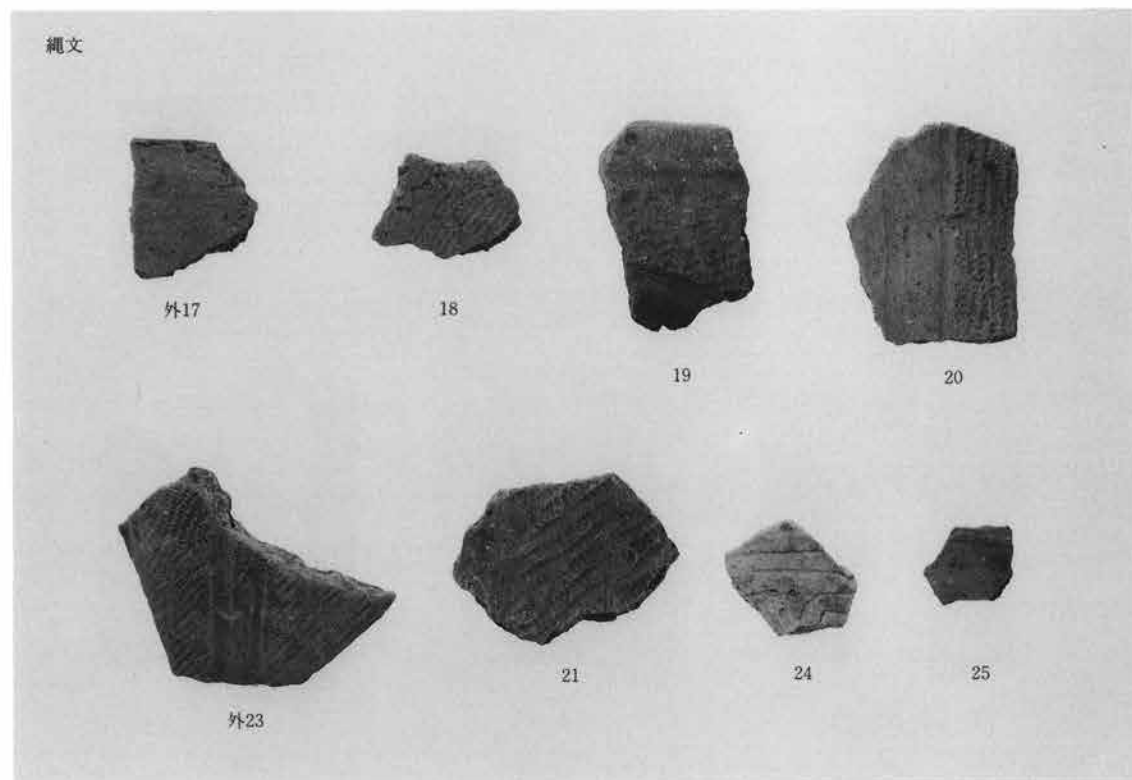
遺構外出土石器

縄文

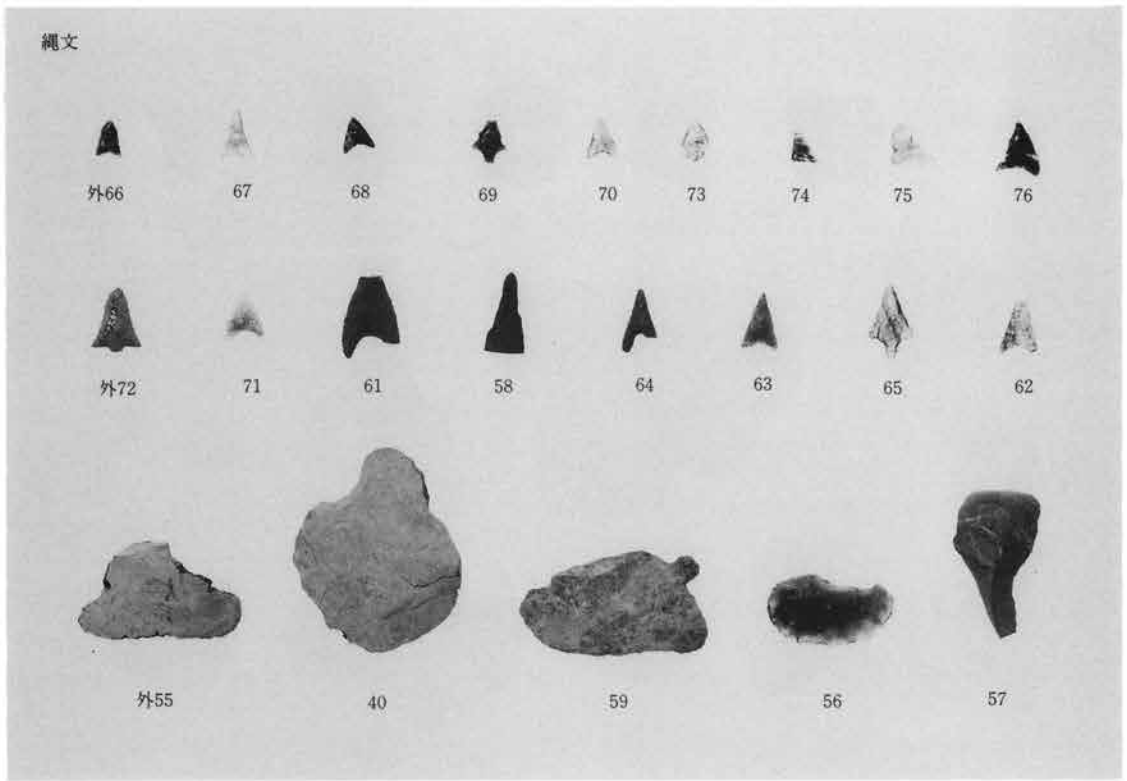


遺構外出土器

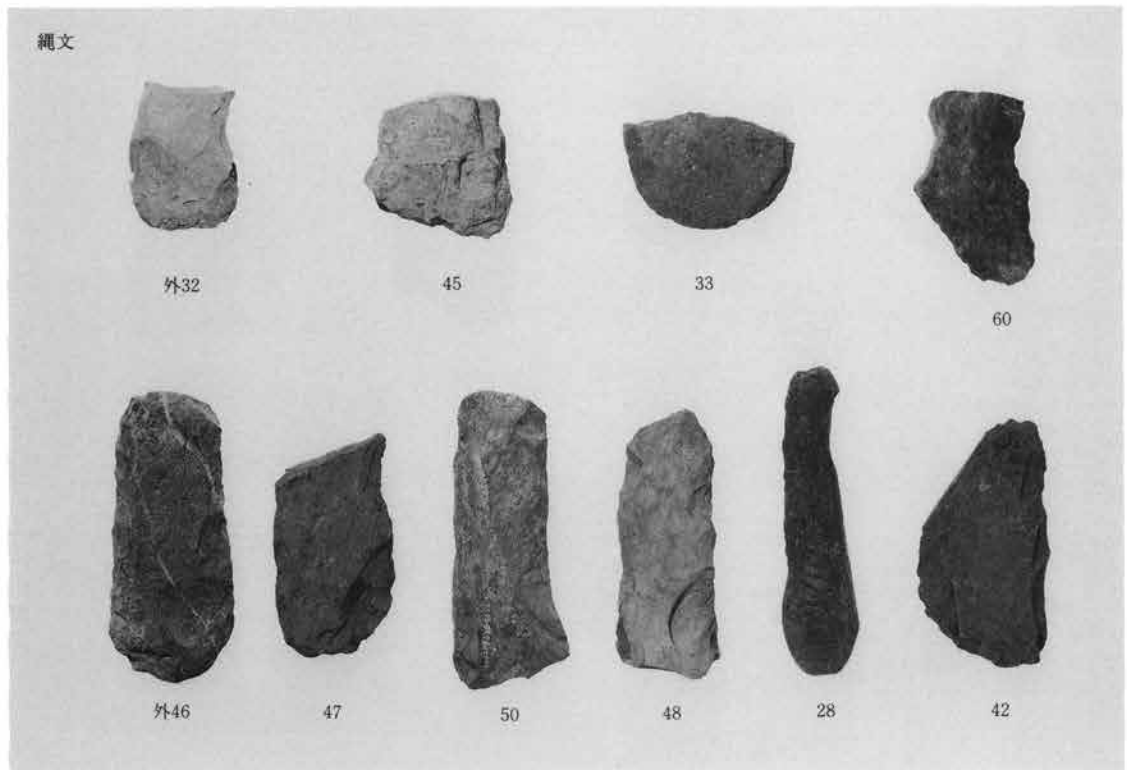
縄文



遺構外出土器



遺構外出土石器



遺構外出土石器

群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告第100集

熊野堂遺跡(2) 遺物編 1 —上越新幹線関係埋蔵文化財
発掘調査報告 第14集—

平成2年10月25日 印刷

平成2年10月31日 発行

編集／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社
